

2025年度

シ ラ バ ス

宇都宮共和国

シティライフ学部シティライフ学科

総合英語	阿部 巧 非常勤講師	1年-1	情報社会とAI/情報基礎論	高丸 圭一 教 授	1年-24
	石崎 達也 非常勤講師	1年-2	情報システム論	高丸 圭一 教 授	1年-25
オーラルイングリッシュ/オーラル I	阿部 巧 非常勤講師	1年-3	体育 I	霜触 智紀 非常勤講師	1年-26
	石崎 達也 非常勤講師	1年-4	体育 II	霜触 智紀 非常勤講師	1年-27
日本語基礎 I	松田 勇一 教 授	1年-5	経済の基礎	漆戸 宏宣 准 教 授	1年-29
日本語基礎 II	松田 勇一 教 授	1年-6	経済学入門	田部井信芳 教 授	1年-30
生き物の社会	飯郷 雅之 非常勤講師	1年-7	シティライフ学入門	オムニバス	1年-31
地理学概論	橋爪 孝介 非常勤講師	1年-8	シティライフとまちづくり	○陣内 雄次 教 授	1年-32
都市と自然	大久保達弘 非常勤講師	1年-9	都市問題入門	三浦 魁斗 専任講師	1年-33
経済数学入門	○田上 富男 教 授	1年-10	都市づくり入門	三浦 魁斗 専任講師	1年-34
統計学入門	北浦さおり 准 教 授	1年-11	経営学総論	○内藤 英二 非常勤講師	1年-35
社会学入門	小浜 駿 准 教 授	1年-12	憲法	渡辺 靖明 専任講師	1年-36
法学入門	渡辺 靖明 専任講師	1年-13	簿記初級/簿記論 I	薄井 浩信 准 教 授	1年-37
地誌学概論	坂口 豪 専任講師	1年-14	簿記上級/簿記論 II	薄井 浩信 准 教 授	1年-38
日本史概論/現代日本史	寺内 由佳 非常勤講師	1年-15	観光学総論	○坂口 豪 専任講師	1年-39
栃木の歴史と文化/日本社会の基礎	○江田 郁夫 非常勤講師	1年-16	コミュニケーションスキル	松田 勇一 教 授	1年-40
哲学・倫理学概論	渡邊 昇 非常勤講師	1年-17	基礎ゼミ		1年-41
宗教学概説	渡邊 昇 非常勤講師	1年-18	経営の歴史	○内藤 英二 非常勤講師	1年-42
心理学入門	小浜 駿 准 教 授	1年-19	現代社会論	小浜 駿 准 教 授	1年-43
教育原理	○田上 富男 教 授	1年-20	生活経済論	北浦さおり 准 教 授	1年-44
教育制度論	○梅澤 圭子 非常勤講師	1年-21	キャリアデザイン I	○野崎 千晶 非常勤講師	1年-45
情報リテラシ/情報リテラシ I	三原 義樹 非常勤講師	1年-22			
データサイエンス入門/情報リテラシ II	三原 義樹 非常勤講師	1年-23			

実用英語/実用英語 I	石崎 達也 非常勤講師	2年-1	経済統計論	漆戸 宏宣 准教授	2年-23
フランス語	守永 直幹 非常勤講師	2年-2	都市計画論	三浦 魁斗 専任講師	2年-24
ドイツ語	本年度不開講	2年-3	都市の歴史	寺内 由佳 非常勤講師	2年-25
中国語	本年度不開講	2年-4	住宅論	○陣内 雄次 教授	2年-26
韓国語	○ 鄭仁淑 非常勤講師	2年-5	都市と交通 I	古池 弘隆 非常勤講師	2年-27
日本語応用/日本語応用 I	松田 勇一 教授	2年-6	都市と交通 II	古池 弘隆 非常勤講師	2年-28
日本語上級/日本語上級 I	松田 勇一 教授	2年-7	マーケティング論	○内藤 英二 非常勤講師	2年-29
地球環境論	○吉田 肇 非常勤講師	2年-8	財務会計論/現代会計論 I	薄井 浩信 准教授	2年-30
政治学入門	新谷 卓 非常勤講師	2年-9	原価計算	薄井 浩信 准教授	2年-31
教育心理学	小浜 駿 准教授	2年-10	都市社会学	小浜 駿 准教授	2年-32
特別支援教育	○松岡 展世 非常勤講師	2年-11	消費者行動論	北浦さおり 准教授	2年-33
データベース概論	高丸 圭一 教授	2年-12	社会保障論/社会保障論 I	和田佐英子 教授	2年-34
データ分析技術/情報処理応用	高丸 圭一 教授	2年-13	民法入門	渡辺 靖明 専任講師	2年-35
ミクロ経済学 I	大石 和博 教授	2年-14	行政法	本年度不開講	2年-36
マクロ経済学 I	大石 和博 教授	2年-15	地方自治論	○吉野 清史 非常勤講師	2年-37
ミクロ経済学 II	大石 和博 教授	2年-16	租税論	和田佐英子 教授	2年-38
マクロ経済学 II	大石 和博 教授	2年-17	財政論	和田佐英子 教授	2年-39
簿記演習 I	薄井 浩信 准教授	2年-18	ホスピタリティ産業論	本年度不開講	2年-40
経済史 I	○江田 郁夫 非常勤講師	2年-19	地域資源論	○坂口 豪 専任講師	2年-41
経済史 II	○江田 郁夫 非常勤講師	2年-20	旅行ビジネス論/旅行ビジネス論 I	○小澤 俊雄 非常勤講師	2年-42
日本経済論	漆戸 宏宣 准教授	2年-21	特論①(都市景観デザイン論)	三浦 魁斗 専任講師	2年-43
世界経済論	田部井信芳 教授	2年-22	特論②(情報通信ネットワーク論)	○永井 明 非常勤講師	2年-44

キャリアデザインⅡ	○ 太田 敏幸 非常勤講師	2年-45	商品企画論	北浦さおり 准 教 授	3年-22
言語の科学	高丸 圭一 教 授	3年-1	労働法	渡辺 靖明 専 任 講 師	3年-23
日本語表現技術	山口 宏 非常勤講師	3年-2	国際政治学	新谷 卓 非常勤講師	3年-24
都市経済学/都市経済学Ⅰ	吉田 肇 非常勤講師	3年-3	応用経済学	大石 和博 教 授	3年-25
経済政策論/経済政策論Ⅰ	漆戸 宏宣 准 教 授	3年-4	地方財政論Ⅰ	和田佐英子 教 授	3年-26
地域経済学	○ 太田 敏幸 非常勤講師	3年-5	地方財政論Ⅱ	和田佐英子 教 授	3年-27
公共経済学	漆戸 宏宣 准 教 授	3年-6	観光マーケティング論	○ 坂口 豪 専 任 講 師	3年-28
簿記演習Ⅱ	薄井 浩信 准 教 授	3年-7	ホテルマネジメント論	○ 山田 祐子 非常勤講師	3年-29
インターンシップ		3年-8	日本文化論	坂口 豪 専 任 講 師	3年-30
企業研究		3年-9	観光地活性化論	○ 坂口 豪 専 任 講 師	3年-31
経済データ分析入門	田部井信芳 教 授	3年-10	特論③(宇宙と私たちの生活)	○ 永井 明 非常勤講師	3年-32
欧米経済論	田部井信芳 教 授	3年-11	ゼミナールⅠ		
環境経済学/環境経済学Ⅰ	大石 和博 教 授	3年-12		田部井信芳 教 授	ゼミⅠ-1
労働経済学	本年度不開講	3年-13		大石 和博 教 授	ゼミⅠ-2
金融論	田部井信芳 教 授	3年-14		高丸 圭一 教 授	ゼミⅠ-3
都市政策論	○ 陣内 雄次 教 授	3年-15		北浦さおり 准 教 授	ゼミⅠ-4
まちづくりの統計学	三浦 魁斗 専 任 講 師	3年-16		小浜 駿 准 教 授	ゼミⅠ-5
不動産ビジネス論	吉田 肇 非常勤講師	3年-17		坂口 豪 専 任 講 師	ゼミⅠ-6
経営戦略論	○ 内藤 英二 非常勤講師	3年-18		三浦 魁斗 専 任 講 師	ゼミⅠ-7
流通産業論	○ 長田 哲平 非常勤講師	3年-19	ゼミナールⅡ		
管理会計論	薄井 浩信 准 教 授	3年-20		田部井信芳 教 授	ゼミⅡ-1
都市コミュニティ論	和田佐英子 教 授	3年-21		陣内 雄次 教 授	ゼミⅡ-2
				和田佐英子 教 授	ゼミⅡ-3
				大石 和博 教 授	ゼミⅡ-4
				高丸 圭一 教 授	ゼミⅡ-5
				北浦さおり 准 教 授	ゼミⅡ-6
				小浜 駿 准 教 授	ゼミⅡ-7
				三浦 魁斗 専 任 講 師	ゼミⅡ-8

卒業研究

田部井信芳	教	授	卒業研究-1
陣内 雄次	教	授	卒業研究-2
和田佐英子	教	授	卒業研究-3
高丸 圭一	教	授	卒業研究-4
薄井 浩信	准	教授	卒業研究-5
北浦さおり	准	教授	卒業研究-6
渡辺 靖明	専	任講師	卒業研究-7
内藤 英二	非	常勤講師	卒業研究-8

教職概論

○ 寺内 孝夫 教 授 教職-1

教育課程論

○ 田上 富男 教 授 教職-2

社会科教育法 I

○ 寺内 孝夫 教 授 教職-3

社会科・公民科教育法 I

○ 寺内 孝夫 教 授 教職-4

社会科教育法 II

本年度不開講 教職-5

社会科・公民科教育法 II

本年度不開講 教職-6

道徳教育の指導法

○ 田上 富男 教 授 教職-7

総合的な学習の時間の指導法

○ 山口 宏 非 常勤講師 教職-8

教育とICT活用

溜池 善裕 非 常勤講師 教職-9

特別活動の指導法

○ 田上 富男 教 授 教職-10

教育方法学

遠藤 忠 非 常勤講師 教職-11

生徒・進路指導論

○ 田上 富男 教 授 教職-12

教育相談

○ 梅澤 圭子 非 常勤講師 教職-13

事前・事後指導

○ 寺内 孝夫 教 授 教職-14

教職実践演習(中・高)

○ 寺内 孝夫 教 授 教職-15

2022年度以前の入学者用

都市経済学 II

吉田 肇 非 常勤講師 旧カリ-1

環境経済学 II

大石 和博 教 授 旧カリ-2

* 担当教員名の前に○印のある科目は、
実務経験のある教員による授業科目です。

科目の分類について

本学で開講しているカリキュラム 2023 の科目は、下記のとおり分類されており、各科目のシラバス左上欄に記載されていますので、履修する授業を選ぶ際の参考にしてください。

1. 分類

A	語学	B	人文学	C	情報学
D	ゼミ・卒業研究	E	キャリア研究	F	体育
G	基礎経済学	H	応用経済学	J	社会学・生活学
K	法学・政治学	L	都市学	M	経営学・産業論
N	簿記・会計学	P	環境学	Q	観光学
R	教職				

2. 番号のつけ方

2桁の数字 + アルファベット + 3桁の数字

- ・ 2桁の数字はカリキュラム開始時の西暦下2桁を表しています。
- ・ アルファベットは分類記号を表しています。
- ・ 3桁の数字は最初の1桁が配当年次、続く2桁が並び順です。

2 3 A 1 0 1
/ / / / /
西暦下2桁 分類記号 配当年次 並び順

*科目の分類について不明な点がある場合は、担当教員または事務局窓口へ問い合わせてください。

科目分類一覧表

分類	番号	カリキュラム2023	番号	カリキュラム2019
語学	23A101	総合英語	19A101	総合英語
	23A102	オーラルイングリッシュ	19A102	オーラル I
	23A103	日本語基礎 I	19A103	日本語基礎 I
	23A104	日本語基礎 II	19A104	日本語基礎 II
			19A201	オーラル II
	23A201	実用英語	19A202	実用英語 I
	23A202	フランス語	19A203	フランス語
	23A203	ドイツ語	19A204	ドイツ語
	23A204	中国語	19A205	中国語
	23A205	韓国語	19A206	韓国語
	23A206	日本語応用	19A207	日本語応用 I
		19A208	日本語応用 II	
	23A207	日本語上級	19A209	日本語上級 I
			19A210	日本語上級 II
			19A301	実用英語 II
人文学	23B101	地理学概論	19B101	地理学概論
	23B102	地誌学概論	19B102	地誌学概論
	23B103	日本史概論	19B103	現代日本史
	23B104	栃木の歴史と文化	19J103	日本社会の基礎
	23B105	哲学・倫理学概論	19B104	哲学・倫理学概論
	23B106	宗教学概説	19B105	宗教学概説
	23B107	コミュニケーションスキル	19B106	コミュニケーションスキル
	23B301	言語の科学	19B301	言語の科学
	23B302	日本語表現技術	19B302	日本語表現技術
情報学	23C101	情報リテラシ	19C101	情報リテラシ I
	23C102	データサイエンス入門	19C102	情報リテラシ II
	23C103	情報社会とAI	19C103	情報基礎論
	23C104	情報システム論	19C104	情報システム論
	23C201	データベース概論	19C201	データベース概論
	23C202	データ分析技術	19C202	情報処理応用
	23C203	情報通信ネットワーク論	19C203	情報通信ネットワーク論
ゼミ 卒業研究	23D101	基礎ゼミ	19D101	基礎ゼミ
	23D201	ゼミナール I	19D201	ゼミナール I
	23D301	ゼミナール II	19D301	ゼミナール II
	23D401	卒業研究	19D401	卒業研究
キャリア研究			19E101	地域社会実習 I
	23E101	キャリアデザイン I	19E102	キャリアデザイン I
			19E201	地域社会実習 II
	23E201	キャリアデザイン II	19E202	キャリアデザイン II
	23E301	インターンシップ	19E301	インターンシップ
	23E302	企業研究	19E302	企業研究
体育	23F101	体育 I	19F101	体育 I
	23F102	体育 II	19F102	体育 II

分類	番号	カリキュラム2023	番号	カリキュラム2019	
経済学基礎	23G101	経済の基礎	19G101	経済の基礎	
	23G102	経済学入門	19G102	経済学入門	
	23G103	経済数学入門	19G103	経済数学入門	
	23G104	統計学入門	19G104	統計学入門	
	23G201	ミクロ経済学Ⅰ	19G201	ミクロ経済学Ⅰ	
	23G202	マクロ経済学Ⅰ	19G202	マクロ経済学Ⅰ	
	23G203	ミクロ経済学Ⅱ	19G203	ミクロ経済学Ⅱ	
	23G204	マクロ経済学Ⅱ	19G204	マクロ経済学Ⅱ	
	23G301	都市経済学	19G301	都市経済学Ⅰ	
				19G302	都市経済学Ⅱ
	23G302	経済政策論	19G303	経済政策論Ⅰ	
			19G304	経済政策論Ⅱ	
	23G303	地域経済学	19H309	地域経済学	
	23G304	公共経済学	19G305	公共経済学	
経済学応用	23H101	生活経済論	19H101	生活経済論	
	23H201	経済史Ⅰ	19H201	経済史Ⅰ	
	23H202	経済史Ⅱ	19H202	経済史Ⅱ	
	23H203	日本経済論	19H203	日本経済論	
	23H204	世界経済論	19H204	世界経済論	
	23H205	租税論	19H205	租税論	
	23H206	財政論	19H206	財政論	
	23H207	経済統計論	19H207	経済統計論	
	23H208	消費者行動論	19H208	消費者行動論	
	23H209	社会保障論	19H209	社会保障論Ⅰ	
				19H210	社会保障論Ⅱ
				19H301	アジア経済論
		23H301	経済データ分析入門		
		23H302	欧米経済論	19H302	欧米経済論
		23H303	環境経済学	19H303	環境経済学Ⅰ
				19H304	環境経済学Ⅱ
		23H304	まちづくりの統計学		
	23H305	地方財政論Ⅰ	19H305	地方財政論Ⅰ	
	23H306	地方財政論Ⅱ	19H306	地方財政論Ⅱ	
	23H307	労働経済学	19H307	労働経済学	
	23H308	金融論	19H308	金融論	
	23H309	応用経済学			
社会学 生活学	23J101	社会学入門	19J101	社会学入門	
	23J102	心理学入門	19J102	心理学入門	
	23J103	現代社会論	19J104	現代社会論	
	23J201	都市社会学	19J201	都市社会学	
			19J202	高齢社会論	
	23J202	子ども生活学概論	19J203	子ども生活学概論	
		19J301	老人福祉論		
		19J302	現代ビジネス時代の幸福論		
法学 政治学	23K101	法学入門	19K101	法学入門	
	23K102	憲法	19K102	憲法	
	23K201	政治学入門	19K201	政治学入門	
	23K202	民法入門	19K202	民法入門	
	23K203	行政法	19K203	行政法	
	23K204	地方自治論	19K204	地方自治論	
	23K301	労働法	19K301	労働法	
			19K302	経済法	
			19K303	国際政治学	
	23K302	国際政治学			

分類	番号	カリキュラム2023	番号	カリキュラム2019
都市学	23L101	シティライフ学入門	19L101	シティライフ学入門
	23L102	シティライフとまちづくり		
	23L103	都市問題入門	19L102	都市問題入門
	23L104	都市づくり入門	19L103	都市づくり入門
	23L201	都市計画論	19L201	都市計画論
	23L202	都市の歴史	19L202	都市の歴史
	23L203	住宅論	19L203	住宅論
	23L204	都市と交通Ⅰ	19L204	都市と交通Ⅰ
	23L205	都市と交通Ⅱ	19L205	都市と交通Ⅱ
	23L206	都市景観デザイン論	19L206	都市景観デザイン論
	23L301	都市政策論	19L301	都市政策論
	23L302	都市コミュニティ論	19L302	都市・農村交流論
		19L303	都市・不動産法規	
		19L304	都市コミュニティ論	
経営学 産業論	23M101	経営学総論	19M101	経営学総論
	23M102	経営の歴史	19M102	経営の歴史
	23M201	マーケティング論	19M201	マーケティング論
	23M301	不動産ビジネス論	19M301	不動産ビジネス論
	23M302	経営戦略論	19M302	経営戦略論
	23M303	流通産業論	19M303	流通産業論
	23M304	商品企画論	19M304	福祉と産業
		19M305	商品企画論	
簿記 会計学	23N101	簿記初級	19N101	簿記論Ⅰ
	23N102	簿記上級	19N102	簿記論Ⅱ
	23N201	簿記演習Ⅰ		
	23N202	財務会計論	19N201	現代会計論Ⅰ
	23N203	原価計算	19N202	現代会計論Ⅱ
	23N301	簿記演習Ⅱ	19N203	原価計算
	23N302	管理会計論	19N301	管理会計論
環境学	23P101	生き物の社会	19P101	生き物の社会
	23P102	都市と自然	19P102	都市と自然
	23P201	地球環境論	19P201	地球環境論
	23P301	宇宙と私たちの生活	19P301	宇宙と私たちの生活
観光学	23Q101	観光学総論	19Q101	観光学総論
	23Q201	ホスピタリティ産業論	19Q201	異文化理解
	23Q202	地域資源論	19Q202	ホスピタリティ産業論
	23Q203	旅行ビジネス論	19Q203	地域資源論
	23Q301	観光マーケティング論	19Q204	旅行ビジネス論Ⅰ
	23Q302	ホテルマネジメント論	19Q205	旅行ビジネス論Ⅱ
	23Q303	日本文化論	19Q301	観光マーケティング論
	23Q304	観光地活性化論	19Q302	ホテル会計論
			19Q303	ホテルマネジメント論
			19Q304	日本文化論
		19Q305	スポーツツーリズム論	

分類	番号	カリキュラム2023	番号	カリキュラム2019
教職	23R101	教育原理	19R101	教育原理
	23R102	教職概論	19R102	教職概論
	23R103	教育制度論	19R103	教育制度論
	23R104	教育課程論	19R104	教育課程論
	23R201	教育心理学	19R201	教育心理学
	23R202	特別支援教育	19R202	特別支援教育
	23R203	社会科教育法Ⅰ	19R203	社会科教育法Ⅰ
	23R204	社会科・公民科教育法Ⅰ	19R204	社会科・公民科教育法Ⅰ
	23R205	道徳教育の指導法	19R205	道徳教育の指導法
	23R206	総合的な学習の時間の指導法	19R206	総合的な学習の時間の指導法
	23R207	教育とICT活用		
	23R208	特別活動の指導法	19R207	特別活動の指導法
	23R209	教育方法学	19R208	教育方法学
	23R210	生徒・進路指導論	19R209	生徒・進路指導論
	23R211	教育相談	19R210	教育相談
	23R301	社会科教育法Ⅱ	19R301	社会科教育法Ⅱ
	23R302	社会科・公民科教育法Ⅱ	19R302	社会科・公民科教育法Ⅱ
	23R401	事前・事後指導	19R401	事前・事後指導
	23R402	教育実習(中・高)	19R402	教育実習(中・高)
	23R403	教育実習(中)	19R403	教育実習(中)
23R404	教職実践演習(中・高)	19R404	教職実践演習(中・高)	

2025年度 カリキュラムマップ

DP1 多様な人間とコミュニケーションをとりうる能力と社会人として活躍するために必要な基礎的・普遍的な知識を備えていること

DP2 様々な情報を収集し、適切に整理し、さらに新たな情報として創造しうる能力を備えていること

DP3 都市生活の現状に対応できる学際的・実践的な知識を有し、都市に生起する諸課題を分析・比較検討し、対応策を考える能力を備えていること

DP4 多面的な社会的ネットワークづくりに貢献しうる能力を備えていること

◎ DPと特に関連のある科目

○ DPとある程度関連のある科目

科目区分	科目名	DP1		DP2			DP3		DP4
		幅広い教養知識を身につけている	コミュニケーションの実践的方法を身につけている	情報収集の手段として語学を活用する	情報収集能力と情報分析能力を身につけている	新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけている	現状を理解し課題を見出す力が養われている	課題に対する問題解決力が養われている	社会とのつながりを強化する方法を身につけている
外国語科目	総合英語		◎	○					
	オーラルイングリッシュ		◎	○					
	実用英語		◎	○					
	フランス語		◎	○					
	ドイツ語		◎	○					
	中国語		◎	○					
	韓国語		◎	○					
	日本語基礎Ⅰ		◎	○					○
	日本語基礎Ⅱ		◎	○					○
	日本語応用		○	◎					○
日本語上級		○	◎					○	
基礎教育科目	生き物の社会	◎							
	地理学概論	◎			○	○			
	都市と自然	◎							
	経済数学入門					◎			
	統計学入門				◎		○		
	地球環境論	◎					○	○	
	社会学入門	◎					○		
	法学入門	◎					○	○	
	政治学入門	◎				○	○		
	地誌学概論	◎				○			
	日本史概論	◎							
	栃木の歴史と文化	◎							
	言語の科学	◎							
	哲学・倫理学概論	◎							
	宗教学概説	◎							
	心理学入門	◎	○						
	教育原理	◎							
教育制度論	◎								
教育心理学	◎								
特別支援教育	◎								

2025年度 カリキュラムマップ

科目区分	科目名	DP1		DP2			DP3		DP4
		幅広い教養知識を身につけている	コミュニケーションの実践的方法を身につけている	情報収集の手段として語学を活用する	情報収集能力と情報分析能力を身につけている	新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけている	現状を理解し課題を見出す力が養われている	課題に対する問題解決力が養われている	社会とのつながりを強化する方法を身につけている
基礎教育科目	情報リテラシ				◎				
	データサイエンス入門				◎				
	情報社会とAI				◎				
	情報システム論				◎				
	データベース概論				◎				
	データ分析技術				◎				
	保健体育	体育Ⅰ	◎						
	体育Ⅱ	◎							
専門教育科目	経済の基礎					◎	○		
	経済学入門					◎	○		
	シティライフ学入門					◎	○		
	シティライフとまちづくり						○		◎
	都市問題入門				○	◎			
	都市づくり入門					◎	○		
	経営学総論		○			◎			
	憲法	◎					○	○	
	簿記初級				○	◎			
	簿記上級				○	◎			
	観光学総論					◎			
	コミュニケーションスキル		◎						
	日本語表現技術	○	◎						
	ミクロ経済学Ⅰ						◎		
	マクロ経済学Ⅰ						◎		
	ミクロ経済学Ⅱ						◎		
	マクロ経済学Ⅱ						◎		
	都市経済学					◎	○		
	経済政策論						◎		
	地域経済学						◎	○	
	公共経済学						◎		○
	基礎ゼミ	○	◎						
ゼミナールⅠ		○			○			◎	
ゼミナールⅡ		○				○		◎	
卒業研究		○				○	◎		
簿記演習Ⅰ				○	◎				
簿記演習Ⅱ				○	◎				

2025年度 カリキュラムマップ

科目区分	科目名	DP1		DP2			DP3		DP4
		幅広い教養知識を身につけている	コミュニケーションの実践的方法を身につけている	情報収集の手段として語学を活用する	情報収集能力と情報分析能力を身につけている	新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけている	現状を理解し課題を見出す力が養われている	課題に対する問題解決力が養われている	社会とのつながりを強化する方法を身につけている
専 門 展 教 育 科 目	経営の歴史				○		◎	○	
	現代社会論						◎		
	生活経済論					◎	○		
	経済史Ⅰ					◎	○		
	経済史Ⅱ					◎	○		
	日本経済論						◎		
	世界経済論						○	◎	
	経済統計論						◎		
	都市計画論					◎	○		
	都市の歴史					◎	○		
	住宅論						◎	○	
	都市と交通Ⅰ						◎	○	
	都市と交通Ⅱ						◎	○	
	マーケティング論		○			○	◎	○	
	財務会計論				○	◎			
	原価計算				○	◎			
	都市社会学						◎		
	消費者行動論					◎	○		
	社会保障論	○					◎		
	民法入門						◎	○	
	行政法						◎	○	
	地方自治論						◎	○	
	租税論						◎		
財政論						◎			
ホスピタリティ産業論						◎	○		
地域資源論					○	◎			
旅行ビジネス論					◎	○			
都市景観デザイン論						◎	○		
情報通信ネットワーク論					◎	○			

2025年度 カリキュラムマップ

科目区分	科目名	DP1		DP2			DP3		DP4
		幅広い教養知識を身につけている	コミュニケーションの実践的方法を身につけている	情報収集の手段として語学を活用する	情報収集能力と情報分析能力を身につけている	新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけている	現状を理解し課題を見出す力が養われている	課題に対する問題解決力が養われている	社会とのつながりを強化する方法を身につけている
専 門 展 教 育 科 目	キャリアデザインⅠ					◎			
	キャリアデザインⅡ					◎			
	インターンシップ						○		◎
	企業研究				◎		○		
	経済データ分析入門					◎	○		
	欧米経済論						◎	○	
	環境経済学						◎		
	労働経済学						◎		
	金融論						◎	○	
	都市政策論						◎		
	まちづくりの統計学				○		◎		
	不動産ビジネス論					○	◎		
	経営戦略論		○				◎	○	
	流通産業論					○	◎		
	管理会計論				○	◎			
	都市コミュニティ論						◎		○
	商品企画論					◎	○		
	労働法						◎	○	
	国際政治学						○	◎	
	応用経済学						○	◎	
	地方財政論Ⅰ						◎		
	地方財政論Ⅱ						◎		
	観光マーケティング論		○			○	◎	○	
	ホテルマネジメント論						◎	○	
日本文化論					○	◎			
観光地活性化論					◎	○	○		
宇宙と私たちの生活		○			◎				

カリキュラム・ツリー

Curriculum

一人ひとりの興味や関心によって自在に選べるカリキュラム

シティライフ学部が目指す人材(ディプロマ・ポリシー：卒業したら、こんな人になってほしい) 『豊かな都市生活の実現に貢献する人材の育成』

多様な人間とコミュニケーションをとりうる能力と社会人として活躍するために必要な基礎的・普遍的な知識を備えている。

様々な情報を収集し、適切に整理し、さらに新たな情報として創造しうる能力を備えている。

都市生活の現状に対応できる学際的・実践的な知識を有し、都市に生起する諸課題を分析・比較検討し、対応策を考える能力を備えている。

多面的な社会的ネットワークづくりに貢献しうる能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー 4年間の学びを通して身につける4つの力

- ① 幅広い教養とコミュニケーション能力の育成のために、専門分野に限らない幅広い教養と普遍的な知識を身に付けるとともにコミュニケーション能力向上のための機会を充実させる。
- ② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・処理能力を身に付けさせる。
- ③ 都市生活の現状に対応できる学際的・実践的な専門知識を修得させる。
- ④ 社会と多様なネットワークを形成し、学んだ知識を実際場で活かす実践的な能力を育成する。

コミュニケーション力 (+教養力)

情報力 (+基礎力)

問題解決力

ネットワーク構築力

4・3年次

2年次

1年次

日本語表現技術※

地球環境論
政治学入門
教育心理学
特別支援教育

生き物の社会
地理学概論
都市と自然
経済学入門
社会学入門
地誌学概論
日本史概論
哲学・倫理学概論
宗教学概説
心理学入門
教育原理
教育制度論
体育

実用英語
フランス語
ドイツ語
中国語
韓国語
日本語応用
日本語上級

総合英語
オーラル
イングリッシュ
日本語基礎I
日本語基礎II
コミュニケーション
スキル※
基礎ゼミ

IT・データサイエンス分野
経済・経営会計分野
まちづくり・公共分野
都市生活・ビジネス分野
ホテル・観光分野

情報リテラシ
情報システム論
経済の基礎
経済学入門
シティライフ学入門
都市問題入門
都市づくり入門
憲法
簿記初級
簿記上級
経営の歴史

経済データ分析入門
まちづくりの統計学
言語の科学

簿記演習II

経済統計論
データ分析技術
データベース概論

簿記演習I

統計学入門
データサイエンス入門
情報社会とAI

経営戦略論
金融論
管理会計論
都市経済学

経済政策論
地域経済学
公共経済学

日本経済論
世界経済論
財務会計論
原価計算

経済学入門
都市社会学
行政法

＝資格取得支援＝
日商簿記検定
建設業簿記検定
電卓計算能力検定
ファイナンシャル・プランニング技能検定

地方財政論
都市政策論

欧米経済論
環境経済学
労働経済学

都市計画論
財政論
都市と交通
地方自治論
都市景観デザイン論

マーケティング論
都市社会学
行政法

シティアイフとまちづくり
法学入門

流通産業論
都市コミュニティ論
商品企画論
不動産ビジネス論

労働法
国際政治学
応用経済学

消費者行動論
民法入門
社会保障論

生活経済論
現代社会論

＝教職課程＝
3・4年次：社会科・公民科教育法II 事前事後指導 教育実習 教職実践演習
2年次：社会科・公民科教育法I 道徳教育の指導法 教育とICT活用
特別活動の指導法 教育方法学 生徒・進路相談論 教育相談
1年次：教職概論 教育課程論
※印は就職支援科目

観光マーケティング論
ホテルマネジメント論
日本文化論
観光地活性化論

ホスピタリティ産業論
地域資源論
旅行ビジネス論

観光学総論
栃木の歴史と文化

租税論

キャリアデザインI※

卒業研究
ゼミナールII
インターンシップ※
企業研究※

ゼミナールI
キャリアデザインII※

キャリアデザインI※

実務経験のある教員による授業科目一覧

シティライフ学部

実務経験のある教員	授業科目名	配当年次	単位数
寺内 孝夫	教職概論	1年次	2単位
	社会科教育法 I	2年次	2単位
	社会科・公民科教育法 I	2年次	2単位
	事前・事後指導	4年次	1単位
	教職実践演習（中・高）	4年次	2単位
陣内 雄次	シティライフとまちづくり	1年次	2単位
	住宅論	2年次	2単位
	都市政策論	3年次	2単位
田上 富男	経済数学入門	1年次	2単位
	教育原理	1年次	2単位
	教育課程論	1年次	2単位
	道德教育の指導法	2年次	2単位
	特別活動の指導法	2年次	2単位
	生徒・進路指導論	2年次	2単位
坂口 豪	観光学総論	1年次	2単位
	地域資源論	2年次	2単位
	観光マーケティング論	3年次	2単位
	観光地活性化論	3年次	2単位
小澤 俊雄	旅行ビジネス論	2年次	2単位
梅澤 圭子	教育制度論	1年次	2単位
	教育相談	2年次	2単位
吉田 肇	地球環境論	2年次	2単位
内藤 英二	経営学総論	1年次	2単位
	経営の歴史	1年次	2単位
	マーケティング論	2年次	2単位
	経営戦略論	3年次	2単位
永井 明	情報通信ネットワーク論	2年次	2単位
	宇宙と私たちの生活	3年次	2単位
江田 郁夫	栃木の歴史と文化	1年次	2単位
	経済史 I	2年次	2単位
	経済史 II	2年次	2単位
太田 敏幸	キャリアデザイン II	2年次	2単位
	地域経済学	3年次	2単位
山口 宏	総合的な学習の時間の指導法	2年次	2単位
松岡 展世	特別支援教育	2年次	2単位
野崎 千晶	キャリアデザイン I	1年次	2単位
吉野 清史	地方自治論	2年次	2単位
鄭 仁 淑	韓国語	2年次	2単位
山田 祐子	ホテルマネジメント論	3年次	2単位
長田 哲平	流通産業論	3年次	2単位

計 79単位

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A101 19A101	総合英語	1年	春	講義	2	阿部 巧
授業概要 日常に関連した様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要なとされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の4技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる。(DP1) ・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。(DP1) ・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。(DP1) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	受講の仕方、授業の内容や目標について確認 レディネステスト	事前	高校で習った文法事項の復習(1時間)			
		事後	Task1:動画を視聴し内容をまとめる。(1時間)			
2	Unit1: Occupations Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task1:トピックを考える。(1時間)			
3	Unit1: Occupations Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task1:トピックを考える。(1時間)			
4	Unit1: Occupations Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)			
		事後	Task1:原稿を準備する。(1時間)			
5	Unit1: Occupations Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)			
		事後	Task1:原稿を準備する。(1時間)			
6	Unit2: At the dinner table Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task1:原稿を準備する。(1時間)			
7	Unit2: At the dinner table Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task1:資料を準備する。(1時間)			
8	Unit2: At the dinner table Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)			
		事後	Task1:資料を準備する。(1時間)			
9	Unit2: At the dinner table Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)			
		事後	Task1:動画を撮影する。(1時間)			
10	Unit3: Sports Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task1:動画を編集する(1時間)			
11	Unit3: Sports Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task2:動画を視聴し内容をまとめる。(1時間)			
12	Unit3: Sports Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)			
		事後	Task2:トピックを考える。(1時間)			
13	Unit3: Sports Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)			
		事後	Task2:トピックを考える。(1時間)			
14	Unit1~Unit3 の復習	事前	Listening Section の音声を聞き、Exercise に取り組む。(1時間)			
		事後	Task2:原稿を準備する。(1時間)			
15	Unit4: Health Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task2:原稿を準備する。(1時間)			
16	Unit4: Health Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task2:原稿を準備する。(1時間)			

17	Unit4: Health Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)
		事後	Task2:資料を準備する。(1時間)
18	Unit4: Health Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)
		事後	Task2:資料を準備する。(1時間)
19	Unit5: What's on Your Playlist? Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)
		事後	Task2:動画を撮影する。(1時間)
20	Unit5: What's on Your Playlist? Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)
		事後	Task2:動画を編集する(1時間)
21	Unit5: What's on Your Playlist? Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)
		事後	Task3:動画を視聴し内容をまとめる。(1時間)
22	Unit5: What's on Your Playlist? Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)
		事後	Task3:トピックを考える。(1時間)
23	Unit6: At the Movies? Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)
		事後	Task3:トピックを考える。(1時間)
24	Unit6: At the Movies? Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)
		事後	Task3:原稿を準備する。(1時間)
25	Unit6: At the Movies? Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)
		事後	Task3:原稿を準備する。(1時間)
26	Unit6: At the Movies? Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)
		事後	Task3:原稿を準備する。(1時間)
27	Review 1 & speaking task	事前	配付された課題に取り組む。(リーディング)(1時間)
		事後	Task3:資料を準備する。(1時間)
28	Review 1 & speaking task	事前	Writing の構想(1時間)
		事後	Task3:資料を準備する。(1時間)
29	Review 1 & speaking task	事前	パフォーマンステストに向けて練習(1時間)
		事後	Task3:動画を撮影する。(1時間)
30	Review 1 & speaking task	事前	これまでの学習の復習をする。(1時間)
		事後	Task3:動画を編集する(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ペアワーク、プレゼンテーション、ディスカッション ※英語で行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験 50% 課題及びスピーキングテスト (実技) 30% 授業への取組 20%

観点	S	A	B	C
コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる (DP2)	ほとんど誤りなく実際の場面で活用することができる。	コミュニケーションに支障がない程度の誤りはあるものの、実際の場面で活用することができる。	誤りは多いものの、実際の場面で活用することができる。	サポートがなければ活用が難しいものの、努力している。
場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。	多様な場面や状況に応じた適切な表現を的確に選択し、自然にコミュニケーションを図ることができる。	場面や状況に応じた表現を選択でき、意図が正確に伝わる。	場面や状況に適した表現選択に一定の誤りがあるが、全体として意味が伝わる。	サポートがなければ意図を伝えることが難しい場合があるものの、努力している。
積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。 (DP2)	主体的にコミュニケーションを図り、他者と協働して課題解決に貢献できる。	積極的にコミュニケーションを図り、他者との協働がほぼ円滑に行える。	全体として課題に取り組むことができる。サポートがあればより効果的に参加できる。	コミュニケーションや協働に消極的である。サポートがなければ課題に十分取り組めない場合があるものの、努力している。

・課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

Live Escalate Book 2: Trekking 成美堂 2021年 2500円

参考書等

必要な資料やプリントは事前もしくは授業時に配布する。

履修上の注意・学修支援

- ・授業の内容は英検準2級程度（高1レベル相当）を基本とし、英検2級（高2レベル相当）の取得を目標とするため、必要に応じて自習を行うこと。
- ・授業は英語で行うことを基本とする。
- ・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。
- ・間違いを恐れず、積極的に参加すること。
- ・どのような質問でも積極的に聞くこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A101 19A101	総合英語	1年	春	講義	2	石崎達也
授業概要 大学生生活で使用する英語表現を学習しながら、英語の基礎的な文法、語彙、音声、意味について理解を深めることにより、英語の4つの技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を総合的に育成する。 母音と子音、強勢、アクセント、リズムに関する基礎的な知識を習得することにより、英語によるコミュニケーション能力を養う。 「シティライフ学と英語」というテーマで、自分の興味のある社会問題と英語の関連性について考察し、その解決手法を主張出来る能力を身につけることを目指す。						
到達目標(学習の成果) 英語の文法、語彙、音声、意味に関する基礎的な知識を習得することが出来る。(DP1) 複数の英単語を使用して、他者とコミュニケーションすることが出来る。(DP1) シティライフ学の分野で英語をどのように実践するか、英語の基礎的な知識をもとにして自らの考えを構築出来る。(DP2, DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	英語で話しかける／自己紹介する際の表現(語彙、意味)	事前	ユニット 01 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 01 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)			
2	be 動詞と疑問詞 (文法、音声)	事前	ユニット 01 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 01 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)			
3	英語で人を誘う／別れ際の挨拶をする際の表現(語彙、意味)	事前	ユニット 02 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 02 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)			
4	一般動詞(現在形) (文法、音声)	事前	ユニット 02 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 02 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)			
5	REVIEW ① be 動詞と疑問詞、一般動詞(現在形)を用いた英語表現	事前	ユニット 01, 02 で学んだ文法を復習すること。(1 時間)			
6	英語で予定を述べる／説明する際の表現(語彙、意味)	事後	ユニット 01, 02 の WARM-UP と LET'S CHECK & READ ALOUD を復習すること。(1 時間)			
		事前	ユニット 03 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)			
7	未来形 (文法、音声)	事後	ユニット 03 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)			
		事前	ユニット 03 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)			
8	英語で人を紹介する／驚きを示す際の表現(語彙、意味)	事後	ユニット 03 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)			
		事前	ユニット 04 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)			
9	一般動詞(過去形) (文法、音声)	事後	ユニット 04 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)			
		事前	ユニット 04 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)			
10	REVIEW ② be 動詞と疑問詞、一般動詞(現在形)、未来形、一般動詞(過去形)を用いた英語表現	事後	ユニット 04 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)			
		事前	ユニット 03, 04 で学んだ文法を復習すること。(1 時間)			
11	英語で詳細を尋ねる／理由を述べる際の表現 (語彙、意味)	事後	ユニット 03, 04 の WARM-UP と LET'S CHECK & READ ALOUD を復習すること。(1 時間)			
		事前	ユニット 05 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)			
12	進行形 (文法、音声)	事後	ユニット 05 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)			
		事前	ユニット 05 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 05 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)			

13	英語で意向を尋ねる／好みを述べる際の表現(語彙、意味)	事前	ユニット 06 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 06 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)
14	受動態 (文法、音声)	事前	ユニット 06 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 06 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
15	REVIEW ③ be 動詞と疑問詞、一般動詞(現在形)、未来形、一般動詞(過去形)、進行形、受動態を用いた英語表現	事前	ユニット 05, 06 で学んだ文法を復習すること。(1 時間)
		事後	ユニット 05, 06 の WARM-UP と LET'S CHECK & READ ALOUD を復習すること。(1 時間)
16	英語で経験を尋ねる／提案する際の表現(語彙、意味)	事前	ユニット 07 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 07 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)
17	現在完了形 (文法、音声)	事前	ユニット 07 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 07 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
18	英語で道順を尋ねる／感謝する際の表現(語彙、意味)	事前	ユニット 08 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 08 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)
19	助動詞 (文法、音声)	事前	ユニット 08 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 08 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
20	REVIEW ④ 現在完了形と助動詞を用いた英語表現	事前	ユニット 07, 08 で学んだ文法を復習すること。(1 時間)
		事後	ユニット 07, 08 の WARM-UP と LET'S CHECK & READ ALOUD を復習すること。(1 時間)
21	英語で問題点を述べる／依頼する際の表現(語彙、意味)	事前	ユニット 09 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 09 WARM-UP の音声データを聴くこと。(1 時間)
22	不定詞 (文法、音声)	事前	ユニット 09 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 09 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
23	英語で理由を述べる／理解を示す際の表現(語彙、意味) 関係詞(文法、音声)	事前	ユニット 10 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。 ユニット 10 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 10 WARM-UP の音声データを聴くこと。 ユニット 10 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
24	英語で意見を尋ねる／励ます際の表現(語彙、意味) 形容詞と副詞(文法、音声)	事前	ユニット 11 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。 ユニット 11 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 11 WARM-UP の音声データを聴くこと。 ユニット 11 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
25	REVIEW ⑤ 現在完了形と助動詞、不定詞、関係詞、形容詞、副詞を用いた英語表現	事前	ユニット 09, 10, 11 で学んだ文法を復習すること。(1 時間)
		事後	ユニット 09, 10, 11 の WARM-UP と LET'S CHECK & READ ALOUD を復習すること。(1 時間)
26	英語で近況を尋ねる／確信を示す際の表現(語彙、意味) 接続詞と前置詞(文法、音声)	事前	ユニット 12 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。 ユニット 12 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 12 WARM-UP の音声データを聴くこと。 ユニット 12 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
27	英語で賛同する／不安を示す際の表現(語彙、意味) 動名詞(文法、音声)	事前	ユニット 13 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。 ユニット 13 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 13 WARM-UP の音声データを聴くこと。 ユニット 13 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
28	英語で相槌を打つ／予定を尋ねる際の表現(語彙、意味)	事前	ユニット 14 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。 ユニット 14 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 14 WARM-UP の音声データを聴くこと。 ユニット 14 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)

	分詞(文法、音声)	事後	ユニット 14 WARM-UP の音声データを聴くこと。 ユニット 14 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
29	英語で希望を尋ねる／注文する際の表現(語彙、意味) 比較(文法、音声)	事前	ユニット 15 WARM-UP を読み、英単語の意味を調べておくこと。 ユニット 15 LET'S CHECK & READ ALOUD を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 15 WARM-UP の音声データを聴くこと。 ユニット 15 Let's Practice the Roleplay! の動画を使い、ロールプレイの練習をすること。(1 時間)
30	REVIEW ⑥ 文法、語彙、音声、意味に関する総合的なレビュー	事前	全てのユニットの WARM-UP をレビューすること。(1 時間)
		事後	全てのユニットの LET'S CHECK & READ ALOUD をレビューすること。(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 50% 小テスト 30% レポート 20%

観点	S	A	B	C
基礎的な英語の語彙、意味	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
基礎的な英語の文法、音声	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
平易な英語表現	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

小テストの正答については、テスト終了後に提示する。

教科書

角山照彦・Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』 成美堂 2019 年 2,530 円

参考書等

服部義弘編 『音声学』 朝倉書店 2012 年 3,080 円

履修上の注意・学修支援

この授業では、個人またはグループでの学習・調査・考察を行う時間を取るため、積極的に参加すること。

英語の辞書(電子辞書も可)を持参すること。

私語を慎み、他の学生に迷惑となる行為をしないこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A102 19A102	オーラルイングリッシュ / オーラル I	1年	秋	講義	2	阿部 巧
授業概要 日常に関連した様々な場を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要なとされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の4技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。特に、スピーキング力の向上に重点を置くことから、失敗を恐れずに話す態度を高く評価する。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる。(DP1) ・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。(DP1) ・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。(DP1) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	受講の仕方、授業の内容や目標について確認 レディネステスト	事前	春学期に学習したことの復習(1時間)			
		事後	Task4:動画を視聴し内容をまとめる。(1時間)			
2	Unit7: Technology in Daily Life Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task4:トピックを考える。(1時間)			
3	Unit7: Technology in Daily Life Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task4:トピックを考える。(1時間)			
4	Unit7: Technology in Daily Life Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)			
		事後	Task4:原稿を準備する。(1時間)			
5	Unit7: Technology in Daily Life Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)			
		事後	Task4:原稿を準備する。(1時間)			
6	Unit8: Technology in Daily Life Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task4:原稿を準備する。(1時間)			
7	Unit8: Technology in Daily Life Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task4:資料を準備する。(1時間)			
8	Unit8: Technology in Daily Life Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)			
		事後	Task4:資料を準備する。(1時間)			
9	Unit8: Technology in Daily Life Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)			
		事後	Task4:動画を撮影する。(1時間)			
10	Unit3: Sports Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task4:動画を編集する(1時間)			
11	Unit9: Looking on the Bright Side Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task5:動画を視聴し内容をまとめる。(1時間)			
12	Unit9: Looking on the Bright Side Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)			
		事後	Task5:トピックを考える。(1時間)			
13	Unit9: Looking on the Bright Side Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)			
		事後	Task5:トピックを考える。(1時間)			
14	Unit7~Unit9 の復習	事前	Listening Section の音声を聞き、Exercise に取り組む。(1時間)			
		事後	Task5:原稿を準備する。(1時間)			
15	Unit10: Love Affairs Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)			
		事後	Task5:原稿を準備する。(1時間)			
16	Unit10: Love Affairs Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)			
		事後	Task5:原稿を準備する。(1時間)			

17	Unit10: Love Affairs Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)
		事後	Task5:資料を準備する。(1時間)
18	Unit10: Love Affairs Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)
		事後	Task5:資料を準備する。(1時間)
19	Unit11: Storytelling? Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)
		事後	Task5:動画を撮影する。(1時間)
20	Unit11: Storytelling? Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)
		事後	Task5:動画を編集する(1時間)
21	Unit11: Storytelling? Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)
		事後	Task6:動画を視聴し内容をまとめる。(1時間)
22	Unit11: Storytelling? Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)
		事後	Task6:トピックを考える。(1時間)
23	Unit12: The Power of Words? Conversation & Grammar	事前	Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。(1時間)
		事後	Task6:トピックを考える。(1時間)
24	Unit12: The Power of Words? Reading	事前	Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。(1時間)
		事後	Task6:原稿を準備する。(1時間)
25	Unit12: The Power of Words? Reading & Writing	事前	Writing Section に目を通し、トピックを考える。(1時間)
		事後	Task6:原稿を準備する。(1時間)
26	Unit12: The Power of Words? Writing	事前	Writing の構成を考える。(1時間)
		事後	Task6:原稿を準備する。(1時間)
27	Review 2 & speaking task	事前	配付された課題に取り組む。(リーディング)(1時間)
		事後	Task6:資料を準備する。(1時間)
28	Review 2 & speaking task	事前	Writing の構想(1時間)
		事後	Task6:資料を準備する。(1時間)
29	Review 2 & speaking task	事前	パフォーマンステストに向けて練習(1時間)
		事後	Task6:動画を撮影する。(1時間)
30	Review 2 & speaking task	事前	これまでの学習の復習をする。(1時間)
		事後	Task6:動画を編集する(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)

・定期試験 30% 課題及びスピーキングテスト (実技) 40% 授業への取組 30%

観点	S	A	B	C
コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる (DP2)	ほとんど誤りなく実際の場面で活用することができる。	コミュニケーションに支障がない程度の誤りはあるものの、実際の場面で活用することができる。	誤りは多いものの、実際の場面で活用することができる。	サポートがなければ活用が難しいものの、努力している。
場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。	多様な場面や状況に応じた適切な表現を的確に選択し、自然にコミュニケーションを図ることができる。	場面や状況に応じた表現を選択でき、意図が正確に伝わる。	場面や状況に適した表現選択に一定の誤りがあるが、全体として意味が伝わる。	サポートがなければ意図を伝えることが難しい場合があるものの、努力している。
積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。 (DP2)	主体的にコミュニケーションを図り、他者と協働して課題解決に貢献できる。	積極的にコミュニケーションを図り、他者との協働がほぼ円滑に行える。	全体として課題に取り組むことができる。サポートがあればより効果的に参加できる。	コミュニケーションや協働に消極的である。サポートがなければ課題に十分取り組めない場合があるものの、努力している。

・課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

Live Escalate Book 2: Trekking 成美堂 2021年 2500円(総合英語の教科書を継続して使用する。)

参考書等

必要な資料やプリントは事前もしくは授業時に配布する。

履修上の注意・学修支援

- ・授業の内容は英検準2級程度(高1レベル相当)を基本とし、英検2級(高2レベル相当)の取得を目標とするため、必要に応じて自習を行うこと。
- ・授業は英語で行うことを基本とし、ペアやグループでの英語によるコミュニケーションを高く評価する。
- ・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。
- ・間違いを恐れず、積極的に参加すること。
- ・どのような質問でも積極的に聞くこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A102 19A102	オーラルイングリッシュ / オーラル I	1年	秋	講義	2	石崎達也

授業概要

日常生活で使用する英語表現を学習しながら、英語の基礎的な文法、語彙、音声、意味について理解を深めることにより、英語のオーラルコミュニケーションの能力を養う。

英単語や英文を聞き取る練習、話す練習、読む練習、書く練習を行い、英語の4つの技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を総合的に育成する。

英語の母音と子音、強勢、アクセント、リズムに関する理解を深める。

「英語と日本語の違い」について、学習により得た知識をもとに自分の考えを主張できることを目指す。

到達目標(学習の成果)

様々な英語表現を習得することができる。(DP1)

日常生活において英語を使いコミュニケーションすることが出来る。(DP1)

英語と日本語の文法、語彙、音声、意味に関する相違点と類似点を理解し、自分の考えを主張出来る。(DP2, DP3)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	Unit 1: Nice to meet you. 個人情報に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット01 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1時間)
		事後	ユニット01 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1時間)
2	Unit 1: Ourselves. 文強勢について学ぶ。	事前	ユニット01 III Conversation を聴いておくこと。(1時間)
		事後	ユニット01 IV Pronunciation Check を読むこと。(1時間)
3	Unit 2: What do you like to do? 趣味や娯楽に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット02 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1時間)
		事後	ユニット02 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1時間)
4	Unit 2: Hobbies and Pastimes. 短縮について学ぶ。	事前	ユニット02 III Conversation を聴いておくこと。(1時間)
		事後	ユニット02 IV Pronunciation Check を読むこと。(1時間)
5	REVIEW ①	事前	ユニット01, 02 で学んだ英単語を復習すること。(1時間)
		事後	ユニット01, 02 の I, II, III, IV を復習すること。(1時間)
6	Unit 3: Where are you from? 居場所に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット03 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1時間)
		事後	ユニット03 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1時間)
7	Unit 3: Hometowns. 音素 /jɪ:/, /si:/ について学ぶ。	事前	ユニット03 III Conversation を聴いておくこと。(1時間)
		事後	ユニット03 IV Pronunciation Check を読むこと。(1時間)
8	Unit 4: Who's that? 家族に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット04 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1時間)
		事後	ユニット04 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1時間)
9	Unit 4: Family. linking /t/ について学ぶ。	事前	ユニット04 III Conversation を聴いておくこと。(1時間)
		事後	ユニット04 IV Pronunciation Check を読むこと。(1時間)
10	REVIEW ②	事前	ユニット03, 04 で学んだ英単語を復習すること。(1時間)
		事後	ユニット03, 04 の I, II, III, IV を復習すること。(1時間)
11	Unit 5: Where's that? 場所に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット05 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1時間)
		事後	ユニット05 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1時間)
12	Unit 5: Places and Sights. 文強勢について学ぶ。	事前	ユニット05 III Conversation を聴いておくこと。(1時間)
		事後	ユニット05 IV Pronunciation Check を読むこと。(1時間)
13	Unit 6: How do we get there? 交通に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット06 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1時間)
		事後	ユニット06 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1時間)

14	Unit 6: Transportation and Directions. 音素 /l/、/r/ について学ぶ。	事前	ユニット 06 III Conversation を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 06 IV Pronunciation Check を読むこと。(1 時間)
15	REVIEW ③	事前	ユニット 05, 06 で学んだ英単語を復習すること。(1 時間)
		事後	ユニット 05, 06 の I, II, III, IV を復習すること。(1 時間)
16	Unit 7: Are you hungry? 飲食に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 07 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 07 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
17	Unit 7: Food. イントネーションについて学ぶ。	事前	ユニット 07 III Conversation を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 07 IV Pronunciation Check を読むこと。(1 時間)
18	Unit 8: Let's eat! 食事に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 08 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 08 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
19	Unit 8: Restaurants and Meals. 語強勢について学ぶ。	事前	ユニット 08 III Conversation を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 08 IV Pronunciation Check を読むこと。(1 時間)
20	REVIEW ④	事前	ユニット 07, 08 で学んだ英単語を復習すること。(1 時間)
		事後	ユニット 07, 08 の I, II, III, IV を復習すること。(1 時間)
21	Unit 9: What are you watching? 映画やテレビ番組に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 09 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 09 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
22	Unit 9: Movies and TV. reduction /t/ について学ぶ。	事前	ユニット 09 III Conversation を聴いておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 09 IV Pronunciation Check を読むこと。(1 時間)
23	Unit 10: What music do you like? 音楽に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 10 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 10 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
24	Unit 11: How much is it? 買い物に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 11 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 11 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
25	REVIEW ⑤	事前	ユニット 09, 10, 11 で学んだ英単語を復習すること。(1 時間)
		事後	ユニット 09, 10, 11 の I, II, III, IV を復習すること。(1 時間)
26	Unit 12: Let's play! スポーツに関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 12 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 12 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
27	Unit 13: Where are you going? 旅行に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 13 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 13 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
28	Unit 14: Do you work? 仕事に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 14 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 14 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
29	Unit 15: What do you want to do? 未来に関する英語表現について学ぶ。	事前	ユニット 15 I Vocabulary を読み、英単語の意味を調べておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 15 II Warm-up の音声データを聴くこと。(1 時間)
30	REVIEW ⑥	事前	全てのユニットの I Vocabulary をレビューすること。(1 時間)
		事後	全てのユニットの II Warm-up をレビューすること。(1 時間)
授業形式(アクティブラーニングの内容) グループワーク			

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 50% 小テスト 30% レポート 20%

観点	S	A	B	C
日常生活で使われる英語の語彙、意味	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
日常生活で使われる英語の文法、音声	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
様々な英語表現	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

小テストの正答については、テスト終了後に提示する。

教科書

James Bury / Anthony Sellick / 堀内香織 共著 『コミュニケーションのための実践演習 Book 1〈初級編〉 Complete Communication Book 1 -Basic-』 成美堂 2022年 2,640円

参考書等

服部義弘編『音声学』朝倉書店 2012年 3,080円

履修上の注意・学修支援

この授業では、個人またはグループでの学習・調査・考察を行う時間を取るため、積極的に参加すること。

英語の辞書(電子辞書も可)を持参すること。

私語を慎み、他の学生に迷惑となる行為をしないこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A103 19A103	日本語基礎 I	1 年	春	講義	2	松田勇一

授業概要

1 週間に 2 回の授業を行い、教科書の内容に沿って、日本語で作文をするための基本的な知識を教授する。また、論文やレポート、日常の文章などの書式を教授する。作文は、宿題として課し、教師による添削後、クロームブックを用いた書き直しも行う。授業では、毎回、基本漢字の小テストを行い、語彙力の向上を目指す。

到達目標(学習の成果)

- ・日本語の助詞、自動詞、他動詞、書体などの基本的な知識を身に付け、アカデミックなレベルで正確な文章を書くことができる。(DP1 「コミュニケーション力」)
- ・アカデミックな文章を読んでいくための基礎的読解力を身につける。(DP2 「情報力」)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	今後の授業計画を説明する。また、学生の日本語能力を測るためのテストを実施する。	事前	シラバスを読む(1 時間)
		事後	テストの復習(1 時間)
2	格助詞、係助詞、終助詞などの使い方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
3	形容詞、形容動詞の使い分けを学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
4	自動詞の特徴を学び、その使い方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
5	他動詞の特徴を学び、その使い方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
6	受身文と能動文の違いについて学び、受身文の機能について学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
7	副詞と文末の呼応について学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
8	「と思う」、「だろう」等の文末表現を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
9	ひらがな表記、漢字表記の基礎知識を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
10	正確な漢字表記を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
11	外来語の表記について学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
12	句読点の使い方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
13	話し言葉の特徴について学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
14	書き言葉の特徴について学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
15	「しかし」、「それから」等の基本的な接続詞の使い方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
16	「において」、「によって」等の基本的な助詞相当語の使い方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
17	同音異義語の使い分けについて学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)
18	擬態語、擬音語について学ぶ。	事前	テキストの予習(1 時間)
		事後	テキストの復習(1 時間)

19	専門用語の使い方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
20	読みやすい文の長さとは、どのくらいかを学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
21	書き出しと文末で文がねじれる現象について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
22	こそあど言葉について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
23	中心文と支持文について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
24	起承転結の文章構成について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
25	序論、本論、結論の文章構成について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
26	読みやすさ、分かりやすさを意識した文章を作成する。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
27	意見文と事実文について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
28	複雑な内容を分かりやすく書く方法について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
29	「依頼をする」Eメールの書き方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
30	「謝罪」「感謝」のEメールの書き方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)

漢字の小テスト 30%、課題作文 20%、授業での発言・発表 20%、期末試験 30%などを総合評価する。

観点	S	A	B	C
教科書にある表記(漢字を含め)を正確に理解し、自身でも再生産する。	ほとんど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	ときどき間違えることがある
アカデミックな文章表現を理解し、自身でも再生産する。	ほとんど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	ときどき間違えることがある

教科書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アルク ¥1,760

佐藤尚子・佐々木仁子著『留学生のための漢字の教科書 中級 700 改訂版』国書刊行会 ¥1,760

参考書等

講義において指示する。

履修上の注意・学修支援

出席が3分の2以上に満たない者については、成績認定を行わない。

本科目は、留学生が対象である。そのため、日本人学生は受講することができない。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A104 19A104	日本語基礎Ⅱ	1年	秋	講義	2	松田勇一
授業概要 教科書の内容に沿って、論文やレポート、日常の文章などの書き方を教授する。作文は、宿題として課し、教師による添削後、クロームブックを用いた書き直しも行う。授業では、毎回、基本漢字の小テストを行い、語彙力の向上を目指す。 大学祭時に行われる留学生スピーチ大会の原稿を作成し、発表の練習を行う。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> 日本語の助詞、自動詞、他動詞、書体などの基本的な知識を身に付け、アカデミックなレベルで正確な文章を書くことができる。(DP1 「コミュニケーション力」) 日本語能力試験1級レベルの文章読解力を身につける。(DP2 「情報力」) スピーチ大会において5分程度の日本語の文章を暗誦して発表することができる。(DP1 「コミュニケーション力」) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	今後の授業計画と日本語レベルを測る試験を行う。	事前	シラバスを読む(1時間)			
		事後	テストの復習(1時間)			
2	常体と敬体の使い分けを確認する。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
3	自動詞文の書き方を確認する。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
4	他動詞文の書き方を確認する。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
5	「は」と「が」の使い分けを確認する。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
6	単語や文の名詞化について確認する。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
7	「」、『』などの記号について使い方を確認する。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
8	スピーチのテーマを考える。	事前	スピーチのテーマを考える(1時間)			
		事後	スピーチのテーマを決定する(1時間)			
9	スピーチの構成について考える。	事前	スピーチの構成を考える(1時間)			
		事後	スピーチの構成を決定する(1時間)			
10	構成メモ、具体的なトピックメモを作成する。	事前	具体的なトピックを思い出す(1時間)			
		事後	原稿にトピックを取り込む(1時間)			
11	作成した原稿を推敲する。	事前	原稿を作成する(1時間)			
		事後	原稿を修正する(1時間)			
12	作成した原稿を学生間で推敲しあう。	事前	原稿を作成する(1時間)			
		事後	原稿を修正する(1時間)			
13	単音の発音に注意してスピーチする。	事前	原稿を読む練習をする(1時間)			
		事後	発音を修正する(1時間)			
14	アクセント、イントネーション、プロミネンス、間に注意してスピーチする。	事前	原稿を読む練習をする(1時間)			
		事後	発音を修正する(1時間)			
15	原稿を暗記し、聴衆への視線、表情に注意してスピーチする。	事前	原稿を暗記する(1時間)			
		事後	発表態度を修正する(1時間)			
16	スピーチ大会の映像を見て、自己評価を行う。	事前	発表の練習をする(1時間)			
		事後	発表について自己評価する(1時間)			
17	段落構成について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
18	仕組みの説明の仕方を学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			

19	データの説明の仕方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
20	手順の説明の仕方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
21	歴史的な経過の説明について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
22	分類の仕方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
23	定義の仕方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
24	要約の仕方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
25	比較の仕方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
26	因果関係の書き方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
27	論説文の書き方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
28	引用の仕方について学ぶ。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
29	レポートの書式について確認する。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
30	実際に自分で書いたレポートを推敲する。	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)

漢字の小テスト 30%、課題作文 20%、授業での発言・発表 20%、期末試験 30%などを総合評価する。

観点	S	A	B	C
教科書にある表記(漢字を含め)を正確に理解し、自身でも再生産する。	ほとんど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	ときどき間違えることがある
アカデミックな文章表現を理解し、自身でも再生産する。	ほとんど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	ときどき間違えることがある

教科書

石黒圭・筒井千絵著『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク ¥1,760
 佐藤尚子・佐々木仁子著『留学生のための漢字の教科書 上級 1000 改訂版』国書刊行会 ¥1,980

参考書等

講義において指示する。

履修上の注意・学修支援

出席が3分の2以上に満たない者については、成績認定を行わない。
 本科目は、留学生が対象である。そのため、日本人学生は受講することができない。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23P101 19P101	生き物の社会	1年	秋	講義	2	飯郷雅之
授業概要 生態学とは何だろうか？広辞苑には「生物の生活状態、特にその外圍の状況に対する関係を論ずる生物学の一部門」と定義されている。私たち人間はヒト <i>Homo sapiens</i> という生物であり、さまざまな生物と環境のネットワーク(生態系)の中に生きる存在である。一方、社会学は、「人間の社会的共同生活を研究する学問」(広辞苑)である。よって、生態学は生物の社会学であり、社会学は人間の生態学であるともいえる。本授業では、実例を交えながら、生態系の構成要素である動植物などの生き物と環境との相互関係についてわかりやすく解説する。						
到達目標(学習の成果) 1. 生き物とは？生態系とは？その概念の成り立ちを理解し、説明することができる。(DP1) 2. 身近な自然に目を向け、人間と生物と環境の関係を説明することができる。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	この授業の目的、内容について紹介する。生き物ってなんだろう？	事前	生き物とは何かを考えて授業に臨む。(2時間)			
		事後	すべての生き物の共通点をまとめる。(2時間)			
2	生き物の社会と人間の社会はどのようなところが共通で、どのようなところが異なっているのか。両者の対比により議論し、それぞれの特徴を捉える。	事前	生き物の社会と人間の社会を対比して考える。(2時間)			
		事後	生き物の社会と人間の社会の共通点と相違点をまとめる。(2時間)			
3	宇宙は137億年前に生まれた。太陽系は46億年前に生まれ、38億年前に地球上に生命が誕生した。現在に至る生物の進化と適応について解説し、理解を深める。	事前	自分が興味を持っているに生き物を1種選んで調べる。(2時間)			
		事後	生き物の進化と適応についてまとめる。(2時間)			
4	陸上や海洋のどのようなところに生き物は住んでいるのか。陸上、海洋の生態系について理解を深める。	事前	自分が興味を持っているに生き物を1種の棲んでいる場所について調べる。(2時間)			
		事後	生態系についてまとめる。(2時間)			
5	生物群集の構成、食物網、生態的地位等、生態系の構造と機能の基礎について理解する。	事前	自分が食物として食べた生き物を列記する。(2時間)			
		事後	生き物の「食う食われる」の関係のネットワークを図示する。(2時間)			
6	生き物の構造と、環境に対する生物の適応と進化について学ぶ。形には意味がある。	事前	面白い形をしている生き物を1種選び、その特徴を調べる。(2時間)			
		事後	生き物を1種選んで絵を描き、特徴を捉える。(2時間)			
7	アユ、サケ等、海と川を回遊する回遊魚の生理・生態について研究の実例を紹介し、理解を深める。なぜ東京湾にサケは帰ってこないのだろうか？	事前	東京湾にサケが帰ってこない理由をあらかじめ考える。(2時間)			
		事後	アユやサケなど回遊魚の生理生態についてまとめる。(2時間)			
8	深海という極限環境に生きる深海魚の生理・生態について研究の実例を紹介し、理解を深める。	事前	深海に棲む生き物を1種選び、その特徴を調べる。(2時間)			
		事後	深海魚の生理生態についてまとめる。(2時間)			
9	ハシブトガラス、フクロウ等、身近なトリの生態について考える。カラスによる生ゴミ荒らしを防ぐ方策を考えてみる。	事前	カラスによる生ゴミ荒らしを防ぐ方策を考える。(2時間)			
		事後	身近なトリの生理生態についてまとめる。(2時間)			
10	生物多様性について学び、考える。生物多様性の研究はどのようにして行われているのか。栃木県の生物多様性戦略から考える。	事前	生物多様性について調べる。(2時間)			
		事後	生物多様性の重要性についてまとめる。(2時間)			
11	地球温暖化について学び、考える。身近なところから考える地球温暖化対策とは？	事前	地球温暖化対策を調べる。(2時間)			
		事後	地球温暖化対策として自分でできることをまとめる。(2時間)			

12	地域の生態系の恵み(生態系サービス)を生かして地域貢献をするにはどうすれば良いのか。身近な栃木県を例に考えてみる。	事前	生態系サービスについて調べる。(2時間)
		事後	自分自身で生態系サービスを生かして地域貢献する方策をまとめる。(2時間)
13	栃木県で進めている大学地域連携事業の実例を紹介する。	事前	SDGs の目標のうち、生き物に関わる目標について調べる。(2時間)
		事後	授業で聞いた実例に関する感想をまとめる。(2時間)
14	これまでの授業を受講者それぞれが振り返り、何を学んだのかをグループ討論することにより理解を深め、課題を明確にするため試験問題を作ってみる。	事前	自分自身で試験問題を作ってみる。(2時間)
		事後	作成した試験問題を解いて模範解答を作成する。(2時間)
15	受講生に生き物についての発表を行ってもらい、本授業のまとめとする。	事前	生き物についてプレゼンテーションを作成する。(2時間)
		事後	他の受講生の発表についてコメントを作成する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

授業中は受講生を全員指名し、受講生と対話しながら授業を進めます。グループディスカッション、プレゼンテーションも行います。

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み50%, 期末試験50%

観点	S	A	B	C
生き物, 生態系についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
人間と生物と環境の関係についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書
特になし

参考書等

生態学入門(第2版)(日本生態学会 編), 東京化学同人(3, 080 円), ISBN 9784807907830

履修上の注意・学修支援

受講態度を重視するので、活発に意見を述べて下さい。

遅刻2回で欠席1回とみなします

オフィスアワー以外の時間帯に質問希望の際は、メールして下さい(アドレスは授業の際に)。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B101 19B101	地理学概論	1年	秋	講義	2	橋爪孝介
授業概要 私たちが暮らす地表面には、人々がその土地をどう読み解き、土地にどう働きかけてきたかが刻み込まれている。地理学は、こうしたまちの姿を、自然現象と人間活動の二方向から解き明かし、地図という形で表現してきた学問である。本講義では、よりよいシティライフの創造を目指し、宇都宮市・栃木県・日本といった身近な地域の事例を手掛かりとして、地理学特有の見方・考え方を学習していく。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理学的な見方・考え方ができる。(DP1) ・ 地図や資料を判読し、地域の特徴を把握することができる。(DP2) ・ 地理学的思考を生かし、地域の課題をとらえ、分析することができるようになる。(DP2) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「シティライフと地理学」 シティライフ学と地理学の関係、人文地理学と自然地理学の基礎を学ぶ。	事前	都市とは何か考える。(2時間)			
		事後	宇都宮市の中心市街地を人文要素と自然要素に分解して都市の構成を考える。(2時間)			
2	人間活動の地理学①「都市の内部」 都市の内部構造と諸機能を学ぶ。	事前	東京にある街とその機能を調べる。(2時間)			
		事後	都心・周辺・郊外の役割を整理する。(2時間)			
3	人間活動の地理学②「都市間関係」 都市配置の規則性について学ぶ。	事前	都市システムについて調べる。(2時間)			
		事後	都市地理学の理論を整理する。(2時間)			
4	人間活動の地理学③「商業と工業」 商工業に注目し、都市活動を支える産業を学ぶ。	事前	栃木県の工業の特徴を調べる。(2時間)			
		事後	業態と商圏の関係を整理する。(2時間)			
5	人間活動の地理学④「文化」 都市に魅力をもたらす文化について学ぶ。	事前	宇都宮市歴史文化基本構想を読む。(2時間)			
		事後	文化伝播の種類とその実例を整理する。(2時間)			
6	人間活動の地理学⑤「交通と観光」 人々が移動する現象である、交通と観光について学ぶ。	事前	栃木県の交通網を調べる。(2時間)			
		事後	交通と観光の相互作用を整理する。(2時間)			
7	地図と地球①「地球と地図」 地球の自転・公転が生み出す現象と地図による表現方法の特徴について学ぶ。	事前	時差の発生要因とその計算方法を調べる。(2時間)			
		事後	正確な地図と不正確な地図の種類およびそれぞれの役割を整理する。(2時間)			
8	地球と地図②「主題図とGIS」 地図を使った地域の分析について学ぶ。	事前	主題図の意味と実例を調べる。(2時間)			
		事後	GISの役割と活用事例を整理する。(2時間)			
9	自然現象と生活①「地形」 形成要因に着目して地形を学ぶ。	事前	栃木県の地形の特徴を調べる。(2時間)			
		事後	山と川の地形と成因を整理する。(2時間)			
10	自然現象と生活②「気候と気象」 寒暖・降水など、大気科学の基礎を学ぶ。	事前	気候と気象の違いを調べる。(2時間)			
		事後	気候の地域差が生じる仕組みを整理する。(2時間)			
11	自然現象と生活③「気候区分と気候変動」 日常の現象から気候を読み解き、地球温暖化問題についても学ぶ。	事前	気候区分とその特徴について調べる。(2時間)			
		事後	地球温暖化が実生活に与える影響について整理する。(2時間)			
12	自然現象と生活④「農業」 周辺環境を反映した農業生産について学ぶ。	事前	栃木県の農産物を調べる。(2時間)			
		事後	農業地理学のモデルを整理する。(2時間)			
13	自然現象と生活⑤「水と災害」 水が関係する災害について学ぶ。	事前	ハザードマップを調べる。(2時間)			
		事後	災害の種類と避難方法を整理する。(2時間)			
14	自然現象と生活⑥「水辺空間」 生命を育む水循環と人間による海の利用について学ぶ。	事前	都市の親水活動を調べる。(2時間)			
		事後	水循環の仕組みを整理する。(2時間)			
15	地理学の心「地理学史と地理思想」 環境決定論と環境可能論について学ぶ。	事前	地理学の環境論について調べる。(2時間)			
		事後	これまでの学修内容を整理する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 必要に応じて、グループワーク・グループディスカッションを取り入れることがある。						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(60%)、毎授業のワークシート(30%)、授業への取り組み(10%)から評価する。

観点	S	A	B	C
地理学的な見方・考え方の習得	完全に習得している	ほぼ完全に習得している	十分に習得している	一定程度習得している
地図や資料の判読	完全に判読できる	ほぼ完全に判読できる	十分に判読できる	一定程度判読できる
地理学的視点からの課題分析	完全に分析できる	ほぼ完全に分析できる	十分に分析できる	一定程度分析できる

ワークシートの集計結果は適宜、授業の中で公開するとともに、次回以降の学修内容に反映する。

教科書

特になし

参考書等

- ・ 松村啓子ほか編『大学的栃木ガイド』昭和堂、2023年、2,640円
- ・ 野間晴雄ほか編『ジオ・パル NEO 第2版』海青社、2019年、2,750円
- ・ 帝国書院編集部編『新詳資料 地理の研究』帝国書院、2021年、1,026円
- ・ 協同教育研究会編『2026年度版 栃木県の社会科参考書』協同出版、2024年、1,760円

履修上の注意・学修支援

- ・ 高等学校での地理の履修有無は問わない。
- ・ 日常の風景をよく観察し、授業での学修内容と結びつける習慣づけをしてほしい。
- ・ 授業で扱った地名は、地図帳やインターネットの地図で位置を確認するように心がけてほしい。
- ・ 20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23P102 19P102	都市と自然	1年	集中	講義	2	大久保達弘

授業概要

この科目は基礎教育科目の教養科目(自然)に位置づけられ、座学を主体にフィールドワークとワークショップを組み合わせ講義を進めます。これらを通して「都市のエコロジカル・ネットワークとは何か」を理解し、課題レポートを作成し理解を深めます。この科目では都市の自然に対する幅広い関心と知識を得るために、都市生活(シティライフ)にはどのような自然が必要か?という問いについて考えます。この講義ではまず都市と自然の歴史的関係に基づいて、都市の身近な自然空間に目を向けます。都市林、伝統的様式の庭園、街路樹や公園、水辺などの都市の自然空間的要素を例に、それらを「様々な生物が共生する都市生態系の一部」としてとらえ、その総体がエコロジカル・ネットワークであることを学んでいきます。

到達目標(学習の成果)

- ・都市を人工物と捉えて自然と対比させて考えることにより、受講生自身にとっての都市の自然の意味、生態系としての都市の自然のあるべき姿を理解することができる。(DP1)
- ・都市の自然空間における生物多様性を、生態系(マクロ景観)から集団・個体(ミクロ)の視点まで様々なレベルで捉えられることを学び、さらに生物、特に植物、の「種」の概念を知り、生物種の多様性保全、管理の大切さを理解することができる。(DP1)
- ・都市林、庭園・公園、街路樹、水辺などの都市の緑地空間はいわゆる生態回廊の一環をなしており、その総体としてエコロジカル・ネットワークを形成していることを理解することができる。(DP1)
- ・フィールドワークとマグネットミーティング形式(参加者指向重視形式)のグループディスカッションを通した課題レポートを作成することで、サイエンスコミュニケーション能力を高め、科学レポートの技法を修得することができる。

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	都市生活(シティライフ)と自然(自然とはなにか、都市とはなにか、都市と自然の拮抗の歴史、都市の自然の生態学的見方について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市生活と自然について用語を確認しておく(2時間)
2	都市の身近な自然とは(都市の自然空間(緑地空間と水辺空間)の種類と役割、エコロジカル・ネットワークの視点、維持管理への農林水産造園業の役割について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市の自然空間について用語を確認しておく(2時間)
3	都市の森林(都市林)とは(都市林の種類、役割と生態的管理、社叢林の歴史、意義と生態的管理について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市林について用語を確認しておく(2時間)
4	都市の庭園とは(庭園の成り立ちと生態的管理、日本と西洋の庭園の違いについて学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市の庭園について用語を確認しておく(2時間)
5	都市の公園とは(公園(都市公園と自然公園)の成り立ちと生態的管理について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市公園について用語を確認しておく(2時間)
6	都市の街路樹とは(街路樹の成り立ちと生態管理について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市の街路樹について用語を確認しておく(2時間)
7	都市の水辺空間とは(河川、池沼の生き物と人とのかかわりと生態的管理、フィールドワーク、ワークショップ及び課題レポートの進め方を学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市の水辺空間について用語を確認し、フィールドワーク、ワークショップ及び課題レポートの進め方を確認しておく(2時間)
8	都市の自然を観る(フィールドワーク①:宇都宮共和大学と周辺の自然について考える)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	フィールドワークの写真をワークショップに向けて整理し、まとめておく(2時間)
9	都市の自然を観る(フィールドワーク②:二荒山神社の社叢林と周辺の自然について考える)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)

		事後	フィールドワークの写真をワークショップに向けて整理し、まとめておく(2時間)
10	都市の自然を語る(ワークショップ:大学周辺のエコロジカル・ネットワークについて考える)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	授業終了時に示す課題に取り組み、レポートを作成する(2時間)
11	都市と生物多様性(エコロジカルネットワーク、生態回廊、希少種、外来種について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市の生物多様性について用語を確認しておく(2時間)
12	都市の植物の生活とは(樹木の生活、樹木の生活史と環境について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	植物、特に樹木の生活史について用語を確認しておく(2時間)
13	都市の植物の生活とは(森林の中の樹木集団の生活について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	植物や樹木集団の生活について用語を確認しておく(2時間)
14	都市生態系のしくみ(生態学とは、生態学が扱う生物の階層的まとめについて学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市生態系のしくみについて用語を確認しておく(2時間)
15	都市生態系の機能(生態系とは、生態系の構造、都市林生態系の特徴について学ぶ)	事前	GoogleClassroom から次回のレジュメを入手し、授業内容を読んで、専門用語を事前に調べておく(2時間)
		事後	都市生態系の機能について用語を確認しておく(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ・高校学校生物の「生物基礎」「生物」のうちの「生態」、高等学校用教科書「造園計画」に関わる基礎知識の理解があるとよい。
- ・エコロジカル・ネットワーク (Ecological Network)、緑道・緑の回廊とも呼ばれる「生態回廊」および生物種多様性保全との関連性について、日頃から新聞、雑誌などの記事、テレビ報道などに注意し、情報を収集しておくこと。
- ・フィールドワークとワークショップでは、学内や二荒山神社においてスマートフォンなどによる写真撮影やその後マグネットミーティング形式のグループディスカッションを行うので、事前にその方法について準備を行っておくこと。
- ・学修内容に示された「学術用語」について、受講生自身の言葉で説明できるようにしておくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(リアクションペーパーへの回答)(20%)、課題レポート(30%)、期末試験(50%)

観点	S	A	B	C
生態系としての都市の自然に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市の緑地空間が生態回廊の一環であることの理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
現地見学(フィールドワーク)、ワークショップ手法による都市の自然の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

教科書:特になし、配付資料(毎回講義時にプリント配布、同じ資料は Google Classroom に保管されています)

参考書:高等学校用教科書「造園計画」文部科学省、海文堂(図書館で収蔵)

辞典:生態学辞典(共立出版)、生物学辞典(岩波書店)、フィールドワーク用具:スマートフォン等、ルーペ(授業時に貸与)など

履修上の注意・学修支援

- ・講義は4日間の集中講義(8:50-16:10)で行います。
- ・講義ごとに配布したプリントを予習、復習し、かつ順序良くファイルしておく
- ・配布プリントに書かれていても、教員が板書したことは、必ずノート、プリントに書き取ることが、大切である
- ・この科目は、個々の知識を記憶してもらうことを目的としていない。都市における自然の見方、捉え方や、文化との係わりを理解してもらうためなので、授業での話や現地観察、ディスカッションに集中力を保つようしてほしい
- ・質問があれば、授業直後や授業日の昼休み時間のオフィスアワーを利用すること
- ・授業資料の共有やレポート提出に Google Classroom を使用するので使い方に慣れておく

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G103 19G103	経済数学入門	1年	春	講義	2	田上富男
授業概要 経済学を理解していく上で欠かせない、必要最小限の数学の知識・技能を習得できるよう高校時の数学にさかのぼって学習する。基本的な数式の計算や方程式の解法、1次・2次関数、指数・対数関数、数列、微分など、できるだけ分かりやすく噛み砕いて説明し、演習を中心として履修者自らが問題を解いて理解できるようにする。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> 基本的な数学概念を理解し、数式計算等の処理能力を身に付ける。 経済学を学ぶために必要な簡単な数式や関数のグラフを理解できる。(DP2) 経済学概念を容易に理解できるようになるために、簡単な経済の問題に数学を活用することができる。(DP2) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法(時間)				
1	経済数学を学ぶ意味を理解すると共に、数学の小テストを実施し自己採点することによって、数学の力を自己診断する。	事前	高校数学の基本事項を確認しておく。(1.5)			
		事後	復習プリントで基本的事項を整理する。(2.5)			
2	数の概念、演算・記号のルール、数式計算のルール、展開公式、方程式の解法等、数学の基盤となる事項を学ぶ。	事前	高校数学Ⅰの教科書で数の概念等、左の内容を確認しておく。(1.5)			
		事後	復習プリントで授業内容を整理する。(2.5)			
3	1次関数の考え方、グラフの見方、連立方程式と1次関数の関係、図形と1次関数、1次関数の利用について学ぶ。	事前	1次関数の基本的性質を確認しておく。(2)			
		事後	配布プリント1次関数の演習問題を解く。(2)			
4	1次関数の経済学への応用、逆関数の考えと経済学への応用、線形関数と消費関数について学ぶ。	事前	教科書用テキスト1～10頁を確認しておく。(1)			
		事後	配布プリント1次関数、逆関数演習問題を解く。(3)			
5	2次関数の考え方、放物線のグラフの見方、2次関数と2次方程式との関係、平方完成の仕方について学ぶ。	事前	2次関数の基本的性質を確認しておく。(2)			
		事後	配布プリント2次関数の演習問題を解く。(2)			
6	平方完成とグラフの移動、2次関数と2次不等式の関係、2次関数の考え方と経済学への応用について学ぶ。	事前	平方完成、2次不等式を確認しておく。(1)			
		事後	教科書用テキスト33～41頁を復習する。(3)			
7	指数の意味を理解し、指数の計算、指数方程式の解き方、指数関数の考え方とその応用について学ぶ。	事前	高校数学Ⅱの教科書で指数について確認しておく。(1.5)			
		事後	配布プリント指数関係の演習問題を解く。(2.5)			
8	対数の意味を理解し、対数の計算、対数方程式の解き方、対数関数の考え方とその応用について学ぶ。	事前	高校数学Ⅱの教科書で指数について確認しておく。(1.5)			
		事後	配布プリント対数関係の演習問題を解く。(2.5)			
9	指数・対数関数を復習し、複利計算等、指数・対数関数の経済学への応用について学ぶ。	事前	指数及び対数について復習しておく。(1)			
		事後	教科書用テキスト55～70頁を復習する。(3)			
10	等差数列と等比数列の意味を理解し、等差数列と等比数列の一般項の求め方を学ぶ。	事前	高校数学Bの教科書で指数について確認しておく。(1.5)			
		事後	配布プリント数列の演習問題を解く。(2.5)			
11	等差数列と等比数列の和の求め方、和の記号 Σ を使った計算の仕方について学ぶ。	事前	等差数列と等比数列について復習しておく。(1)			
		事後	配布プリント Σ を使った演習問題を解く。(3)			
12	等比数列を復習し、複利計算と等比数列の関係等、数列の経済学への応用について学ぶ。	事前	等差数列と等比数列について復習しておく。(2)			
		事後	教科書用テキスト82～84頁を復習する。(2)			
13	極限值(\lim を使った式)の求め方、微分の考え方、平均変化率と微分係数について学ぶ。	事前	変化の割合、グラフの傾きを確認しておく。(1)			
		事後	配布プリント極限値を求める演習問題を解く。(3)			
14	導関数の考え方、導関数と関数を微分することとの関係、関数の微分の仕方について学ぶ。	事前	微分の考え方、微分係数について復習しておく。(1)			
		事後	配布プリント微分についての演習問題を解く。(3)			
15	導関数と関数の増減、極大・極小、微分と関数のグラフ、微分の経済学への応用について学ぶ。	事前	これまでの微分の授業内容を復習しておく。(1)			
		事後	期末試験に向けて授業内容を復習する。(3)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% 授業中に課す課題 30% 授業への取組 10%

観点	S	A	B	C
基本的な数学概念の理解及び数式計算等の処理能力の習得	完全に習得できている	ほぼ完全に習得できている	十分に習得できている	一定程度習得できている
経済学を学ぶために必要な簡単な数式や関数のグラフの理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
簡単な経済問題への数学の活用	完全に活用できている	ほぼ完全に活用できている	十分に活用できている	一定程度活用できている

教科書

尾山大輔＋安田洋祐編著『改訂版 経済学で出る数学』日本評論社

参考書等

毎回授業用問題プリント配布

履修上の注意・学修支援

授業中の問題演習では粘り強く問題を解いて、指名されたら臆せず解答するなど、前向きな態度で受講してください。理解が不十分なところ、解き方がわからないところなどがあつたら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1981年～2021年 小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

[実務経験と授業科目との関連性]

専門は数学教育。数学教師として実際に授業を行った経験や様々な数学教育関係の調査研究、学力調査問題の作成等に携わった経験を生かし、数学の概念や考え方、問題の解き方等を分かりやすく提供することができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G104 19G104	統計学入門	1年	春	講義	2	北浦さおり
授業概要 世の中で起こっているさまざまな出来事について理解する方法の1つとして、データを活用することが挙げられる。興味があることや知りたいことを明らかにするための証拠ほどのような方法で集めたり、分析したりすれば得られるのかを実践的に学ぶ。基本的なことをゆっくり学ぶことから始め、徐々にデータからわかる特徴を理解する方法や、読み取り方を学ぶ。後半では、手元のデータからより広い範囲を推測するための統計の考え方とその手法の基礎を学ぶ。						
到達目標(学習の成果) ・データをわかりやすく加工し、表現することができる(DP2) ・基本的な推測統計の検定方法を身に着けることができる(DP2) ・クロス集計表やグラフから情報を読み取ることができる(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	統計学とはどんな学問か? 統計学を学ぶとどんなことができるのか?	事前	統計学とは何かについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
2	データの構造、変数の種類と性質を学ぶ	事前	変数の性質について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
3	度数分布表、階級、グラフの種類を学ぶ	事前	度数分布表とグラフについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
4	代表値と分布を学ぶ	事前	代表値と分布について調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
5	変数のばらつきを学ぶ	事前	ばらつきについて調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
6	クロス集計表を学ぶ	事前	クロス集計について調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
7	散布図と相関係数を学ぶ	事前	相関係数について調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
8	因果関係について知る	事前	因果関係について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
9	標本と母集団について学ぶ	事前	母集団について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
10	帰無仮説と対抗仮説、統計的検定について知る	事前	仮説について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
11	集計表の分析の種類と方法を知る	事前	集計表の分析について調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
12	集計表分析結果の解釈の仕方と結果の記述方法を学ぶ	事前	集計表分析結果の事例を調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
13	t検定の種類と方法を知る	事前	t検定について調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
14	t検定の結果の解釈の仕方と結果の記述方法を学ぶ	事前	t検定の事例を調べる(2時間)			
		事後	練習問題を復習する(2時間)			
15	レポート課題を理解し、作成準備を行う	事前	これまでの内容を復習しておく(2時間)			
		事後	レポート課題を作成する(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内課題40%、期末課題60%

観点	S	A	B	C
集計表やグラフの理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
データの加工の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
推測統計の基礎の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特になし

参考書等

『はじめての統計学 レジの行列が早く進むのは、どっち！？』サトウマイ 総合法令出版株式会社 2021年

履修上の注意・学修支援

講義内で課される課題にしっかりと取り組むこと。

他の受講生に迷惑がかかるため、説明中の私語は厳禁だが、積極的な発言は歓迎する。

学習効果が高められるよう、疑問点はどんどん質問すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23J101 19J101	社会学入門	1年	春	講義	2	小浜駿
授業概要 2年次以降で社会学に関する専門科目を学ぶうえで必須となる視点を養う。そのために、ミクロ(個人レベルの)現象とマクロ(社会レベルの)現象とを区別して思考できるようになるためのトレーニングを行う。また、社会学の基礎となる理論や歴史背景について概説する。						
到達目標(学習の成果) 到達目標 集合現象や社会問題について広く知識を身につける(DP1) 高度な到達目標 日常の幅広い現象を社会学的なマクロな視点で観察できるようになる(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本講義の概要を述べ、評価方法や注意事項などについて説明する。その後、日常的な具体例を用いながら社会的な考え方について紹介する。	事前	シラバスを読んでおく(1時間)			
		事後	アップロード済みの資料のうち、興味が持てそうなところに目を通しておく。(3時間)			
2	社会学を学ぶうえで非常に重要な2つの道具として、調査と理論がある。調査的(実証的)検討と理論的検討について具体的な研究知見をもとに説明する。	事前	第2回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第9章を読んでおく(3時間)			
3	何人から集団と呼べるようになり、集団としての機能を持つのか。集団の最小単位について考えることをきっかけとして、集団とは何かを考察する。	事前	第3回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第1章を読んでおく(3時間)			
4	どのくらいの規模の集団を社会と呼ぶのか。社会が成立するのに必要な条件は何か。そもそも社会は存在するのか。古典的理論をもとに説明する。	事前	第4回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第1章を読んでおく(3時間)			
5	かつての家族に「子ども」がいなかった、と言われて信じられるだろうか。家族の機能という考え方を中心に家族と結婚について論じる。	事前	第5回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第2章を読んでおく(3時間)			
6	生物学的性(sex)と社会・文化的性(gender)の違いについて簡単に説明したうえで、「男らしさ」「女らしさ」が日常のあらゆる場所に影響していることについて説明する。	事前	第6回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第2章を読んでおく(3時間)			
7	より社会的な観点でジェンダーを捉えることを目的とし、フェミニズム運動の意義と危険性について解説する。	事前	第7回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://web.sekaishisoshu.jp/posts/5358 を読んでおく(3時間)			
8	社会的弱者であった女性に関する視点であるジェンダー論を基に、他のマイノリティを理解するために有用な視点について考察する。	事前	第8回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「ジェンダー 男性」でgoogle検索をし、記事をいくつか読む(3時間)			
9	我々は何のために教育を受けるのか。勉強が楽しいから？学校に友だちがいるから？将来出世できるから？社会システムにおける教育の必要性について論じる。	事前	第9回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第2章を読んでおく(3時間)			
10	人はなぜ働かなければならないのか。お金が必要だから？楽しいから？人間として生きることと働くこととの関係について論じる。	事前	第10回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第3章を読んでおく(3時間)			
11	近親婚はなぜ禁じられているのか。遺伝的に問題があるから？なんか気持ち悪いから？タブーを起点に社会構造を見つめる視点について論じる。	事前	第11回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第6章を読んでおく(3時間)			
12	我々が「美しい」と感じるものの歴史的変遷について述べたのち、美が相対的であることと、相対的な美を社会が規定していることについて考察する。	事前	第12回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書(a)第6章を読んでおく(3時間)			

13	自由を求める気持ちとは裏腹に、我々は安心するために支配されたがっている。個人が社会に存在するための複雑な関係について説明する。	事前	第13回資料を読んでおく(1時間)
		事後	参考書(a)第7章を読んでおく(3時間)
14	家族社会学や教育社会学、犯罪社会学など、より専門的な社会学領域についてオムニバス形式で簡単に紹介する。	事前	第14回資料を読んでおく(1時間)
		事後	様々な学問領域名でインターネット検索を行い、軽く目を通しておく(3時間)
15	詳しく学ぶほど、何でも社会学の研究テーマになってしまうように感じる。いったいどこまでが社会学なのか。文化人類学や経済学、心理などと対比させながら論じる。	事前	第15回資料を読んでおく(1時間)
		事後	自分なりの価値観で、社会のマクロな側面について考えてみる(3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

第3回から第12回までに、毎回500字程度のミニレポートを課す。10点×10回の得点を計上し、100点満点として評価する。

観点	S	A	B	C
集合現象や社会問題に関する知識		十分に習得できている	一定程度習得できている	最低限習得できている
マクロな観点の習得	十分に習得できている	一定程度習得できている	最低限習得できている	

教科書

使用しない。毎回授業資料を配布する。第2回から第15回は google classroom にアップロードしておく。

参考書等

- a)『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる社会学』（現代位相研究所編 日本実業出版社 平成22年 1,512円）
- b)『教えてデュベ先生、社会学はいったい何の役に立つのですか?』（フランソワ・デュベ著 濱西栄司・渡邊拓也翻訳 新泉社 平成26年 2,160円）

履修上の注意・学修支援

本講義は、講義70分とミニレポート記入時間20分の構成で行う。毎回のミニレポートは、成績評価のために行われるが、受講生各位の考えを深めるために貴重なワークとなる。他人に聞かされる知識より、自分の知識を大切にする態度を醸成してほしい。ただ講義を聞いているだけでは単位を取得できないので気をつけること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K101 19K101	法学入門	1年	春秋	講義	2	渡辺靖明
授業概要 私たちの現実の身近な暮らしと生活に、具体的にいかなる法がどのように関わっているのか、その基礎を学びます。また、私たちの人生や都市生活にも深く関わる重要な法的問題も学びます。 そうして、本講義では、具体的事例で法が適用できるか否か、また適用すべきか否かについて、法の規定及び判例(裁判所の判断)・学説(研究者の見解)の問題意識・考え方・価値観、現在の法の限界・問題点などを理解し、物ごとを広い視野で深く考える力を身に付けることを目的とします。						
到達目標(学習の成果) ・具体的事例での妥当な問題解決をはかるために、どのような法(ルール)があるのか、またその法の用語の意味や考え方(原則)を理解できる。(DP1) ・都市生活に関わるものも含め、具体的事例で法が適用できるか否か(または適用すべきか否か)について、法の規定及び判例・学説などを理解し、自分と異なる見解にもきちんと耳をかたむけて、広い視野で深く考え、それを文章で説明できるようになる。(DP2、DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス/法がなぜ必要なのかー授業の進め方、成績評価方法などを理解し、私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメ(授業資料)に目を通しつつ、法についての自分のイメージや知っている法、関心のある法などを整理しておく。(2時間)			
		事後	法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。(2時間)			
2	人間の尊厳と法ー憲法をはじめとする法の基本的考え方(原則)「人間の尊厳」と「法」の意義の基礎を学ぶ。	事前	前回の授業を踏まえつつ、事前配布のレジュメに目を通して、「憲法」や「人間の尊厳」、「法則」や「規範」などの意味を調べておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
3	裁判制度と判例ー裁判の仕組みや「判例」の意味、役割などの基礎を学ぶ	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、裁判所の役割を調べる。「民法」や「刑法」にどのようなイメージを持っているかを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、裁判・判例に関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
4	日本国憲法の概要(1) 基本的人権ー日本国憲法の基本的人権の意義などの基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、日本国憲法が私たちの暮らしや生活にどのように関わっているか、自分のイメージを整理し、憲法が保障する「人権」の種類について調べておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、基本的人権に関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
5	日本国憲法の概要(2) 統治ー日本国憲法の統治機構(国会、内閣、裁判所)の役割、考え方の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「国会」(立法)、「内閣」(行政)、「裁判所」(司法)の三権分立の意味や、それぞれの役割を調べておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、統治に関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
6	民法の概要(1) 基本的な考え方(原則)と財産ー民法の役割、基本的な考え方(原則)、民法における「財産」をめぐる権利の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「損害賠償」と「罰金」との違いや、民法が関係するニュースなどを調べておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、民法の基本的な原則と財産			

			に関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
7	民法の概要(2)家族①—家族に関する憲法の規定、民法における婚姻(夫婦)、離婚の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、家族に関する憲法の規定や、民法における「婚姻」と「離婚」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、民法の婚姻・離婚に関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
8	民法の概要(3)家族②—民法における親子、相続の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法における「親子」と「相続」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、民法の親子・相続に関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
9	刑法の概要—刑法の役割、基本的な考え方(原則)、犯罪の成立要件と刑罰の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「罪刑法定主義」や「刑法の最終手段性(謙抑主義)」の意味を調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、刑法の犯罪と刑罰に関する用語の意味・基本的な考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
10	行政法の概要—行政法の役割、基本的な考え方(原則)の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「行政」や「行政法」の意味を調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、行政法の用語の意味・基本的な考え方などを整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
11	商法・会社法の概要—商法・会社法の役割、基本的な考え方(原則)、法人(会社)の法的な意義と社会での役割、責任の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「商法・会社法」の意味や「法人」の意味を調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、商法・会社法や法人に関する用語の意味・基本的な原則を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
12	労働法の概要—労働法の役割、基本的な考え方(原則)と労働基準法の規制の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「労働法」の意味や憲法との関係を調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、労働法(労働基準法)に関する用語の意味・基本的な原則を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
13	環境法の概要—環境と法との関係、公害防止と環境保護との関係や、環境を法的に保護することの意味を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「環境基本法」とはどのような法かを調べておく。身近な環境問題にどのようなものがあるかを考えておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、環境法に関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
14	生命と法—民法と刑法とではいつから「人」になるか、法的な人の「死」とはいつか、などの基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法と刑法とでの人の始まりや、人の終わり(死)をめぐる「心臓死説」と「脳死説」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、人の始まり・終わりに関する用語の意味・考え方を整理し、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
15	これまでの総括とこれからの展望—これまで授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。 ※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性はある。	事前	これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、後日その意見を一覧にまとめて、他の人はどのような意見を持っているかなどを確認し、自分の意見についてさらに考えを深めてもらう予定です。

成績評価の方法・基準(%表記) 期末試験 70%、小テスト・ディスカッションなど 30%
 期末試験については、試験終了後、解説をクラスルームでアップします。小テストについては、授業中に解説をします。

観点	S	A	B	C
様々な基本的な法の役割、用語の意味や考え方を理解できているか。	完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度の理解ができている。	最低限度の理解はできている。
基本的な法の役割、用語の意味や考え方を理解し、具体的事例の問題解決について法的に考えることができるか。	完全に理解し、考えることができている。	十分に理解し、考えることができている。	一定程度理解し、考えることができている。	最低限度の理解はできている。
具体的事例について、様々な基本的な法の役割、用語の意味や考え方及び関連する判例、学説を理解し、その問題解決方法や議論の状況をきちんと文章で説明することができるか。	完全に理解し、説明することができ、自分の考えも正確に文章で述べるできている。	十分に理解し、説明することができ、さらに自分の考えも文章で述べるできている。	一定程度理解し、説明することができている。	最低限度の理解と、説明はできている。

教科書
 特になし

参考書等
 西田真之『「法のカタチ」から考える法学の基礎』(ミネルヴァ書房、2020年)
 村中洋介ほか『嫌いにならない法学入門』(2版、信山社、2023年)

履修上の注意・学修支援

- ・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけています。
- ・授業の内容を充分理解できなかった場合には、気軽に質問してください。オフィスアワー、授業の前後などで対応します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B102 19B102	地誌学概論	1年	秋	講義	2	坂口豪
授業概要 地理学は地域の特性「地域性」を探求する学問であり、その帰結となり中心となる分野が地誌学である。人文地理学は人文事象、自然地理学は自然事象を考察対象とするが、地誌学はその両系統地理学を総合して自然環境・歴史や文化・社会活動や経済のしくみをもとに、それぞれの地域が持つ性格を総合的に理解する。また、身近な地域から世界全体を視野に入れ、地域ごとの比較をおこない、差異と共通性を学びながら、人びとが直面している課題について考える。どの「地域」にも「地域性」はあり、その魅力を発信する事が出来るのも地誌学である。本講座は知識習得に加え、「地域」を的確に分析する地域観察・地誌作成力を養うことを目的とする。						
到達目標(学習の成果) ・世界および日本の各地域について、基礎的な特徴を知識として定着させられる。(DP1) ・地誌学的な視点から、各地域が持つ性格を説明できる。(DP1) ・地図や図表資料を正確に読み取り、必要な情報を取得できるようになる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	【地誌学の視点と方法】地理学の中での地誌学の位置づけと目的、地理学的視点と地誌	事前	中学高校の地図帳の内容をもう一度よく見ておく(2時間)			
		事後	授業で扱った地名や場所を地図帳で確認しておく(2時間)。			
2	【日本地誌①】日本各地の都道府県とその特産品や名所・産業を学ぶ	事前	地図帳で47都道府県の位置を確認してくる(2時間)。			
		事後	各都道府県の特徴を自分の言葉で説明できる(2時間)。			
3	【身近な地域の地誌①】大学周辺や宇都宮市の市街地の地誌を記述する	事前	宇都宮市の地形図や土地利用図をみておく(2時間)。			
		事後	宇都宮市史や地域史を手にとって読んでみる(2時間)。			
4	【身近な地域の地誌②】栃木県の地誌を考えてみよう 栃木の自然環境、歴史、産業、人口、地域性の理解	事前	栃木県の自然や歴史、産業、観光などを調べておく(2時間)。			
		事後	自分の言葉で栃木県の地域性をまとめておく(2時間)。			
5	【日本地誌②】東京都の地誌を考えてみよう 東京都の歴史、自然環境、地域区分、人口、観光、都市問題の理解	事前	東京都の位置や地名、観光地などを調べておく(2時間)。			
		事後	東京の地域性を記述し、大都市以外の東京の魅力を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
6	【日本地誌③】北海道の地誌を考えてみよう 北海道の自然環境、札幌の地域性、産業や観光の理解	事前	北海道の位置や地名、観光地などを調べておく(2時間)。			
		事後	北海道の地域性を記述し、北海道ならではの特徴を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
7	【日本地誌④】東北地方の地誌を考えてみよう 東北地方の自然環境と産業から地域性を記述する	事前	東北地方の各県の位置と特徴を調べておく(2時間)。			
		事後	東北地方の気候や産業の特徴から地域性を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
8	【日本地誌⑤】中部地方の地誌を考えてみよう 中部地方の自然環境や産業から地域性を記述する	事前	中部地方の各県の位置と特徴を調べておく(2時間)。			
		事後	中部地方の気候や産業の特徴から地域性を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
9	【日本地誌⑥】近畿地方の地誌を考えてみよう 近畿地方の自然と歴史的景観・商業都市大阪の文化から地域性を記述する	事前	近畿地方の各県の位置と特徴を調べておく(2時間)。			
		事後	近畿地方の自然や歴史、大阪の商業文化の特徴から地域性を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
10	【日本地誌⑦】九州地方の地誌を考えてみよう 九州地方の自然環境や災害史から地域性を記述する	事前	九州地方の各県の位置と特徴を調べておく(2時間)。			
		事後	九州地方の火山とその災害、火山の恵み「温泉」から地域性を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
11	【世界地誌①】東アジアの地誌を考えてみよう 東アジアの中の中国、その国家体制と経済発展の光と影	事前	中国を中心とした東アジアの国々の位置や特徴を地図帳やインターネットで調べておく(2時間)。			
		事後	東アジアの国々、中国の国家体制と経済発展の歴史を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			

12	【世界地誌②】東南アジアの地誌を考えてみよう 東南アジアの自然、民族、工業化とASEAN	事前	ASEANを中心に東南アジアの国々の位置や特徴を地図帳やインターネットで調べておく(2時間)。
		事後	東南アジアの民族多様性やASEANの意味から地域性を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
13	【世界地誌③】ヨーロッパの地誌を考えてみよう ヨーロッパの自然、地域統合の歴史とEU	事前	ヨーロッパの国々の位置や特徴を地図帳やインターネットで調べておく(2時間)。
		事後	ヨーロッパの自然環境、地域統合に至った背景を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
14	【世界地誌④】アメリカの地誌を考えてみよう 農業と民族からみたアメリカ社会	事前	アメリカの位置や特徴を地図帳やインターネットで調べておく(2時間)。
		事後	アメリカの農業や民族の特徴からアメリカ社会を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
15	【世界のなかの日本】世界との結びつきから日本の特性を把握し、グローバル化による日本への影響を通じてみえてくる「世界のなかの日本」への意識を考える	事前	これまでの講義内容や資料をふりかえっておく(2時間)。
		事後	世界からみた日本の地域性や国民性を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

地名や特産品を効率的に覚えるためゲームを取り入れることもあり、全員参加で協力し合い、積極性が必要な場面が想定される。

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への参加姿勢 30%

期末試験(持ち込み可)70%

観点	S	A	B	C
各地域の特徴への基礎的な理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
地誌学の基礎的な研究視点への理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特になし(レジュメ資料を配布)

参考書等

菊地俊夫編『世界地誌シリーズ① 日本』(朝倉書店、2011)

矢ヶ崎典隆ほか編『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論(第2版)』(朝倉書店、2007)

『帝国書院地理シリーズ 新・日本のすがた』(帝国書院、2021)

『帝国書院地理シリーズ 世界の国々』(帝国書院、2012)

履修上の注意・学修支援

毎回、地図帳を持参のこと(中学・高校のものでよい)

色鉛筆を持参すること(色塗り作業をする場面有)

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B103 19B103	日本史概論 / 現代日本史	1年	秋	講義	2	寺内由佳
授業概要 一般的・基本的な知識・教養として日本史を学習する。各時代の政治・経済・社会・文化・外交の様相を総合的にとらえながら、その変化や発展を追う。また、各時代を象徴する事象や人物、キーワードについて取り上げ、詳しくみていく。歴史を為政者の立場から概観するのではなく、一般市民の生活にも視点をおくことで、現代を生きる私たちの社会生活に先人の歩みが引き継がれていることを意識的に学ぶ。(毎回、レジュメ・資料を配布)						
到達目標(学習の成果) ・日本史上の主なる事象や人物を基礎知識として定着することができる。(DP1) ・時代ごとの政治・社会・文化の変遷を概略的に捉えることができる。(DP1) ・古代から現代に至る歴史を、身近な生活につながる人々の歩みとして捉えることができる。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	【歴史の流れ】 時代や年代の表し方、年号、暦や干支。	事前	基本的な時代区分について把握しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
2	【縄文・弥生時代～古墳時代】 日本列島の誕生、縄文時代・弥生時代、小国の分立と大和政権、古墳文化。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
3	【飛鳥～奈良時代】 聖徳太子の政治、大化改新と大宝律令、飛鳥文化、奈良時代、天平文化。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
4	【平安時代】 平安京と摂関政治、国風文化、武士の登場と成長、院政と平氏政権。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
5	【鎌倉時代】 鎌倉幕府の成立、民衆の生活、鎌倉仏教と文化、元寇と幕府の衰え。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
6	【室町時代～戦国大名の登場】 南北朝の動乱と室町幕府の成立、東アジアとの交流、産業の発達と民衆の成長、室町時代の文化、応仁の乱と戦国大名の登場。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
7	【戦国大名の城下町と文化】 戦国大名の城下統治、分国法と経済政策。ヨーロッパの動き、織豊政権、桃山文化。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
8	【江戸時代(前期)】 江戸幕府の成立、身分制度、鎖国政策、産業の発達と社会の変化、元禄文化。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
9	【江戸時代(後期)】 幕政改革と経済政策、化政文化、開国、尊皇攘夷の高まり、倒幕への動き。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
10	【明治時代】 江戸幕府の滅亡と明治維新、富国強兵・殖産興業と文明開化。初期外交と自由民権運動。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
11	【憲法制定と条約改正、日清・日露戦争】 大日本帝国憲法と帝国議会、条約改正。日清戦争、日露戦争。韓国併合、中華民国の成立。産業革命と近代文化、社会問題の発生。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
12	【第一次世界大戦と大正デモクラシー】 第一次世界大戦と日本、国際協調と民族運動、大正デモクラシー、政党内閣と普通選挙制、社会運動の高まりと文化の大衆化。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
13	【日本の侵略と太平洋戦争】 世界恐慌、日本の中国侵略と日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
14	【日本の民主化と国際社会】 日本の民主化と国際社会への復帰、日本国憲法、高度経済成長、冷戦と国際社会。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			

15	【宇都宮の歴史(昭和)】 これまでに学んだ日本史の流れをふまえ、宇都宮の昭和時代を概観する。「軍都」としての成長、宇都宮空襲、戦後復興と高度経済成長、商業施設の成長と衰退。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)																						
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)																						
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし。																									
成績評価の方法・基準(%表記) 授業への取り組み 30% 期末試験 70% (持ち込み可)																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本史上の事象・人物への基礎的な理解</td> <td>完全に理解できている</td> <td>ほぼ完全に理解できている</td> <td>十分に理解できている</td> <td>一定程度理解できている</td> </tr> <tr> <td>各時代の政治・社会・文化への理解</td> <td>完全に理解できている</td> <td>ほぼ完全に理解できている</td> <td>十分に理解できている</td> <td>一定程度理解できている</td> </tr> <tr> <td>先人の歩みと自身の生活のつながりへの理解</td> <td>完全に理解できている</td> <td>ほぼ完全に理解できている</td> <td>十分に理解できている</td> <td>一定程度理解できている</td> </tr> </tbody> </table>						観点	S	A	B	C	日本史上の事象・人物への基礎的な理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている	各時代の政治・社会・文化への理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている	先人の歩みと自身の生活のつながりへの理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
観点	S	A	B	C																					
日本史上の事象・人物への基礎的な理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている																					
各時代の政治・社会・文化への理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている																					
先人の歩みと自身の生活のつながりへの理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている																					
教科書 特になし。																									
参考書等 『詳説日本史研究』(山川出版社、2017)																									
履修上の注意・学修支援 2/3以上の出席に満たない場合は期末試験の受験を不可とする。																									

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B104 19J103	栃木の歴史と文化 日本社会の基礎	1年	秋	講義	2	江田郁夫
授業概要 栃木県が誕生して150年あまり。栃木県がどのようにして誕生し、以後現在までいかなる歩みを経てきたのか？一般的には地味な印象をもたれがちな栃木県ですが、その歴史と文化を学ぶことによって栃木県を再評価したいと思います。今から150年前までさかのぼって現代までの栃木県と日本の歩みをたどり、あらためて栃木の地勢的・歴史的な特徴を再認識するとともに、それらをもとに栃木の未来についても考えます。						
到達目標(学習の成果) ・国際化が進む現代において、自分が生まれ育った栃木県や日本に関する幅広い教養と知識を身につける。(DP1) ・国際社会における日本社会・現代社会の特徴について、幅広い視点・分野から理解を深め、相互理解をさらに促進する。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	栃木県が誕生する以前には、下野国と呼ばれていた栃木。その風土と歴史はどのような特徴をもっていたのか？	事前	シラバスを事前によく確認する(1時間)。			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
2	1853年ペリー(米)が来日し、日本に開国を求めた。そのときの江戸幕府の対応と下野情勢について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
3	1867年幕府は政権を朝廷に返上し、明治新政府が成立した。旧幕府軍と新政府軍との戦場となった下野の状況は。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
4	1871年廃藩置県がおこなわれ、まもなく栃木県が成立。当時の栃木県の状況を理解する。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
5	1874年以降、国会の開設と国民の政治参加を求める運動が栃木県に及ぼした影響を考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
6	1887年古河市兵衛が足尾銅山を入手し、足尾銅山は日本最大の銅山に成長。足尾の光と影について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
7	日清・日露戦争を経て、1907年陸軍第14師団の宇都宮駐屯が決定するまでの経緯を理解する。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
8	1914年第一次世界大戦がはじまり、1918年に第14師団がシベリアに出兵するまでの経緯を学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
9	1920年に真岡線が開通し、以後、烏山線、東武日光線、同宇都宮線の整備が進んだ背景を考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
10	1929年の世界的な不況の影響で日本は深刻な不況にみまわれ、それが栃木県に及ぼした影響を考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
11	1937年に日中戦争、1941年には太平洋戦争がはじまり、戦禍が栃木県にも及んだ状況を理解する。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
12	1946年に日本国憲法が公布され、日本の民主化・非軍事化がすすめられた状況を学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
13	1951年にサンフランシスコ平和条約が結ばれ、その後の日本の再独立・経済復興について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
14	1958年以降の好景気(岩戸・いざなぎ景気)が、1973年の石油危機を契機にマイナス成長に転換するまでを理解する。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
15	21世紀を迎えて、日本社会はどのように変化したのだろうか。これからの日本と栃木県の課題について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% 課題提出 20% 授業への取り組み 20%

観点	S	A	B	C
学ぶ姿勢ができています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています
栃木県の歴史・文化が理解できています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています
近代日本に関する幅広い知識・教養が身についています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています

教科書

『図説日本史通覧』(帝国書院、2025 年度、1,020 円)

参考書等

『栃木県の歴史散歩』(山川出版社、2007 年、1,320 円)

『明治維新 150 年 栃木県誕生の系譜』(下野新聞社、2019 年、1,980 円)

『栃木のトリセツ』(昭文社、2021 年、1,980 円)

履修上の注意・学修支援

授業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

また、毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

20 分以上の遅刻は欠席とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

県立高等学校地歴科教諭として 17 年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として 6 年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として 12 年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学的前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館等での経験をいかして、栃木の歴史と文化に関し、より具体的でわかりやすい講義を行うことができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B105 19B104	哲学・倫理学概論	1年	春	講義	2	渡邊昇
授業概要 学生が身につけるべき基本的かつ普遍的な知識を踏まえて、心の豊かさや命の大切さを哲学・倫理学概論で取り上げて考察する。幅広いものの考え方や常識を疑ってみる中に、新しい自己の存在を確認させることで、生きる意欲や社会集団の一員として律することの大切さを学ぶ。また、現代に求められている思考能力を授業や家庭でもしっかりと養うことを期待する。						
到達目標(学習の成果) ・先人達の考え方を学び理解を深める。 ・現代の社会を多面的に見つめながら、課題に対して考える能力や解決する判断力を養うことができる。 ・自分の日常生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につけることができる。 (DP1・DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	生きることの意味を考えよう。「知」にこだわり学んでみる。集団として社会生活を営むなかで、真理を探究する姿勢が学問を発展させたことを学び、本講座での学ぶ意欲と関心を高める。	事前	<ul style="list-style-type: none"> 「哲学・倫理学概論」を学ぶことの意義と展望を考察する。 テキストP1～P5をしっかりと読んでおく。(2時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> 多くのベターな考え方を導き出すことの大切さを理解する。 学問や自然科学の発達ともの考え方の基本例を理解し纏める。(2時間) 			
2	古代ギリシア哲学は、万物の根源の探究から考えられた。ソクラテス以前とソクラテスの考え方の違いを学び理解を深める。「不知の自覚」「より善く生きる」とは何かなどを考察する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> テキストP6～P9をしっかりと読んでおくこと。 人間探求の出発点ソクラテスの善く生きるを考察する。(2時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> 不知の自覚を出発点により良く生きるための工夫を見つけ出す。 自己を知る大切さをソクラテスから理解することができたか。(2時間) 			
3	ソクラテスの考えを発展させたプラトンやアリストテレスの考え方に触れ、哲学の世界の広がりや面白さを通して多面的考え方を学ぶ。アリストテレスの知性的徳と私たちが身に付けたい倫理的徳の違いを考察する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> テキストP10～P16をしっかりと読んでおくこと。 イデア論と想起を理解し、知性的徳と倫理的徳を考察する。(2時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> 先人の哲学の広がりや理解し、考え方の多様性を纏める。 アリストテレスの倫理的徳(人柄の善さ)はどうか身に付くかを纏める。(2時間) 			
4	キリストの誕生からやがてキリスト教はローマに伝わり、国教になった背景とキリスト教団の組織を支え、「教父哲学」の基礎を築いたアウグスティヌスにみる布教活動の原点を考察する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> テキストP17～P22をしっかりと読んでおくこと。 イエス2つの戒めである神への愛・隣人愛を理解しておく。(2時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> パウロの思想である贖罪の考え方を理解できたか。 普遍論争から近代哲学の基本が誕生する過程をしっかりと纏めておく。(2時間) 			
5	中世キリスト教思想は、「スコラ哲学」といい、普遍論争といわれた神の存在をめぐり展開する。また、同時代に壮大な世界観を構築したトマス・アクィナスの論理を考察する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> テキストP23～P24をしっかりと読んでおくこと。 目的論的世界観を理解し、信仰と理性を考察する。(2時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> 神学と哲学の区別、信仰の神学、理性の哲学を理解できたか。 信仰は神学に、理性は哲学が担うことを全体を通し纏める。(2時間) 			
6	ルネサンスと宗教改革は、「神から人間へ」と大きく世界観を変えた。イギリス経験論と大陸合理論を軸に、考え方の相違を考察する。また、社会契約論を学び、社会のあり方として西欧合理主義的生き方で成り立っていることを学び理解を深める。	事前	<ul style="list-style-type: none"> テキストP25～P32をしっかりと読んでおくこと。 近代以降の人間の生き方を多面的に考察する。(2時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> 社会契約論が世の中の人々と社会全体を結びつけている規則等の原点をしっかりと理解できたか。 西欧合理主義的生き方を理解し授業資料からしっかりと纏める。(2時間) 			
7	イギリス経験論と大陸合理論を総合的に統合したカントの問題意識とは何か。コペルニクス的転回や認識論・道徳論を学び、カントの生	事前	<ul style="list-style-type: none"> テキストP33～P40をしっかりと読んでおくこと。 多様な視点や考え方をどう身につけるかを考察する。(2時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> 批判とは物事を根本的に吟味することであり、より生き方を深化さ 			

	き方や人間的魅力にもふれる。ヘーゲルに いたって大成したドイツ観念論の考え方をカ ント中心に学び理解を深める。		せることを理解できたか。 ・カントによるドイツ観念論の考え方をしっかり纏める。(2 時間)
8	実存主義とは何かについて、キルケゴール の考え方を学びながら、実存の三契機を理解 し、単独者としての生き方を考察する。人間 のかけがえのないあり方を学び、自己を見つ めることの大切さの意義を学ぶ。	事前	・テキスト P41～P47 をしっかり読んでおくこと。 ・本来の自己を取り戻し、主体的真理を見つける考え方をみつめ る。(2 時間)
		事後	・新しい自分の価値をどう見つけるかを考察する。 ・実存主義を理解し、かけがえのない自分の存在意義を理解する。 (2 時間)
9	インド・イスラム・中国・日本に展開された考え 方を東洋哲学として扱う。特色としては、それ ぞれの地域で宗教と密接な関係があり、解釈 をめぐって哲学が展開されたことを考察す る。	事前	・テキスト P48～P50 をしっかり読んでおくこと。 ・東洋哲学は宗教との関連が強い関係を考察する。(2 時間)
		事後	・東洋の多面的考え方や多神教による精神的 展開を理解する。 ・東洋思想と密接関係にある宗教を哲学的に理解し纏める。(2 時 間)
10	世界最古のインド思想成立の背景と内容を学 ぶと共に、厳しい自然環境を生き抜き知恵とし て生まれたこと。カースト制度とはどのような のか。輪廻転生の思想、梵我一如とは何か。 現世の苦しみからの脱却は宗教とともに発達 した。仏教成立の背景とその意味を理解す る。	事前	・テキスト P51～P54 をしっかり読んでおくこと。 ・来世思想の背景に誕生したインド哲学を考える。(2 時間)
		事後	・仏教・ジャイナ教の成立背景とこれらを飲み込むことになるヒンドウ ー教を多面的に理解する。 ・仏教哲学を通して正しく生きることの尊さをしっかり纏める。(2 時 間)
11	儒家の思想からみる道徳と法則の根源を学 び、老荘思想にもふれる。朱子学の理気二元 論や陽明学の理一元論を考察する。また、 「論語」を読むことにより、人としてのあり方 にも理解を深化させる。	事前	・テキスト P55～P64 をしっかり読んでおくこと。「論語」を事前に学習 する。 ・宋学の朱子学と陽明学成立の背景を比較して考察してみる。(2 時 間)
		事後	・漢民族の現実主義と儒教と道教の考えの基本を纏める。 ・時代のニーズに思想は大きく動き出すことを学び理解する。(2 時 間)
12	古代日本の思想として、今日まで受け継 れてきた考え方を時代別に考察する。神 の時 代に仏教が伝来し、発展するなかで 豊かな 哲学が生まれたことを学び理解を 深める。	事前	・テキスト P65～P79 をしっかり読んでおくこと。 ・古代日本人のものの考え方の背景を考察する。(2 時間)
		事後	・日本神道と仏教に融合(神仏習合)による哲学の確立を探る。 ・神仏習合の必然性と仏教哲学による人々の生き方を理解する。(2 時間)
13	日本啓蒙思想の担い手たちとして、明六社メ ンバーより福沢諭吉を中心に考察する。ま た、西田幾多郎や和辻哲郎による日本の現 代哲学はどうか構築されたかを学び理解を深 化させる。	事前	・テキスト P80～P90 をしっかり読んでおくこと。 ・多面的考え方が現れた明治時代を背景に考察を深める。(2 時間)
		事後	・明治以降の近代日本に見られる日本哲学の原点を理解し纏めて おくこと。(2 時間)
14	現代社会の特質と諸課題をテーマに、大衆 社会としてリースマンの「孤独の群衆」から特 色を学ぶ。管理社会や情報社会といわれる 現代社会を多面的に考察する。	事前	・テキスト P91～P93 をしっかり読んでおくこと。 ・現代社会の中の多くの哲学的課題と今後の展望を考察する。(2 時間)
		事後	・社会の多面性をどう捉え適切なベターな考えを導き出すかを学 ぶ。 ・現代社会の特質を多面的考えにより分析し、自己の考えを纏め る。(2 時間)
15	科学の発達、現代では生命をも操作してい る。その判断と決定権を握るのも私たちであ る。生命倫理(バイオエシックス)の問題を考 察する。	事前	・テキスト P94～P96 をしっかり読んでおくこと。 ・生命倫理の考え方と未来への展望を考える。(2 時間)
		事後	・環境哲学の課題や生命倫理の問題をどう考えるかを纏める。 ・現代の倫理観を確立することの大切さを理解する。(2 時間)
授業形式(アクティブラーニングの内容) ・特になし			

成績評価の方法・基準(%表記)

単位認定には全講義回数の3分の2以上の出席が必要。

成績に関しては、期末テスト70%・レポート20%・授業への取り組みを10%として評価する。

観点	S	A	B	C
先人達の考え方を学び理解を深め、心の豊かさや命の大切さを哲学・倫理学概論で取り上げて考察する。	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
現代の社会を多面的に見つめながら、今日の課題に対して考える能力や解決する判断力を養う。	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
自分の日常生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につける。	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

使用しない 私製のプリント使用

参考書等

「哲学入門」ちくま学芸文庫 パートランド・ラッセル(高村夏輝=訳) 2012年

「概説西洋哲学史」ミルヴァ書房 峰島旭雄著 2002年

「手にとるように哲学がわかる本」かんき出版 甲田 烈著 2009年

「哲学と宗教」全史 ダイヤモンド社 出口治明著 2019年

「これならわかる 倫理」(新課程用)山川出版社 2006年

履修上の注意・学修支援

- ・授業に取り組む態度を重視する。
- ・何かわからないことがあったら、授業終了後に相談すること。
- ・授業の終わりに次回への課題が出ます。事前に準備し、スムーズに学習ができるための準備をすること。
- ・授業に遅刻や早退しないこと。また、中抜けもしないこと。20分以上の遅刻は欠席と見なします。
- ・授業中の飲食は認めない。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B106 19B105	宗教学概説	1年	秋	講義	2	渡邊昇
授業概要 学生が身につけるべき基本的な資質を踏まえて、心の豊かさや命の大切さを宗教学から取り上げて考察する。先祖を意識させ自己の存在を確認させることで、生きる意欲や集団での行動を律することの大切さを学ぶ。また、科学万能といわれる現代社会において宗教は、どのような意味があるのだろうか。科学の発達が進めば進むほど、人間の心の問題は複雑になる。人間特有の不安や自意識によるものである。世界の優れた宗教を通して、宗教の持つ意味を考察する。						
到達目標(学習の成果) ・日本人は宗教に無関心といわれているが、世界の三大宗教を中心に、インドおよび中国の宗教などに対しても理解を深めながら、自分の生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につけることができる。 ・古代より日本人に流れる習俗としての社会常識も理解することができる。 (DP1・DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	人生の生き方や心の豊かさの一要因を形成する宗教意義を学び、集団の一員としての社会平和の貢献に宗教がいかに関わっているかを、テキストの分析から理解する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P1～P6 をしっかり読んでおく。 ・宗教と日々の日常生活の結びつきを考察する。(2 時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活でどんな時に、宗教との結びつきがあったかを考える。 ・授業を振り返って、「人間らしい生き方」を自分なりに纏める。(2 時間) 			
2	古代宗教としてユダヤ教。死に対する恐怖や不安などの疑問や人としての根本的・普遍的な問題点を解決するために、ユダヤ教の考え方とキリスト教の違いを理解する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P14～P18 をしっかり読んでおく。 ・ユダヤ神(一神教)の考え方を考察する。(2 時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> ・一神教と日本の神々(多神教)の考え方の違いを纏める。(2 時間) 			
3	イエスの生涯とその教えを取り上げ、根本に流れる平等主義とキリスト教の「神への愛」・「隣人愛」を考察する。人類愛の精神を共感的に学ぶことで視野を広げる。	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P14～P18 をしっかり読んでおく。 ・民俗宗教と世界宗教の相違を考える。(2 時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教が世界宗教として君臨してきた背景を考える。 ・キリスト教発展の理由と矛盾点とは何かをしっかりと纏める。(2 時間) 			
4	ヨーロッパ世界の精神的支柱としてのキリスト教が果たした役割や三大教派(カトリック・東方正教・プロテスタント)成立の背景と発展を考察する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P19～P26 をしっかり読んでおく。 ・キリスト教三大教派の考え方を考察する。(2 時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> ・プロテスタント派成立と内容を歴史的背景の理解は出来たか。 ・世界宗教としての分布と現実の内紛や戦争の勃発を考察する。(2 時間) 			
5	イスラム教の原点に触れ、人種、国籍、身分にかかわらず、神の前での絶対的平等とその教えとしての六信五行並びにコーランの教えを学び、具体的に考察する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P27～P38 をしっかり読んでおく。 ・日常生活と宗教が一体化していることを理解する。(2 時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて明快なイスラム教成立過程と発展の歴史をしっかりと考察する。 ・現代におけるイスラム教の問題点をしっかりと纏めてみよう。(2 時間) 			
6	古代インド社会形成とバラモン教の変遷を歴史的に学び、ヒンドゥー教成立の背景を理解する。ヒンドゥー教の基礎的知識と問題点を考察する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P39～P48 をしっかり読んでおく。 ・東洋における宗教成立の背景を多面的に考える。(2 時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒンドゥー教と日本宗教の共通点を考える。 ・ヒンドゥー教(多神教)の多様性を理解し、しっかりと纏める。(2 時間) 			
7	釈迦の生涯と仏教成立の背景を学び、苦からの脱却、我執と煩惱、慈悲の世界を通して、生きることの意義を考察する。四諦・十二縁起・八正道など具体的な内容も理解する。	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト P49～P56 をしっかり読んでおく。 ・原始仏教と呼ばれる釈迦(仏陀)の教えを考察する。(2 時間) 			
		事後	<ul style="list-style-type: none"> ・原始仏教の発展(仏陀の伝道)とは何かを授業より確認し纏める。 			

			・今日の日本宗派の相違を考えなぜ変質したかを学ぶ。(2時間)
8	東アジア二派に別れて広がった小乗(上座部)・大乘(大衆部)仏教の成立背景を理解し、二派の発展も歴史的に学ぶ。日本に西域から中国・朝鮮・日本へ大乘仏教が伝わってくる背景と漢字文化圏の役割を理解する。	事前	・テキスト P57～P60 をしっかり読んでおく。 ・上座部と大衆部の成立背景を考察する。空とは何かを考える。(2時間)
		事後	・二派(上座部と大衆部)の発展と定着の歴史を考える。 ・大乘仏教発展の背景と「空」の意味する世界を理解し纏める。(2時間)
9	朝鮮半島から日本への仏教伝来と聖徳太子の仏法精神を理解し、国家仏教として奈良仏教を考察する。最澄と空海を中心に平安仏教と末法思想が、人心を強くとらえた阿弥陀浄土信仰を学ぶ。	事前	・テキスト P61～P64 をしっかり読んでおく。 ・仏教と神道の相違点を考察し発展背景を探る。(2時間)
		事後	・仏教信仰の時代背景の変化を理解できたか。 ・時代ごとに仏教を支えた階層に注視し、変化の背景を纏める。(2時間)
10	鎌倉仏教(浄土系仏教、禅系仏教、法華系仏教)は、民衆への仏教の流布という点で画期的発展をする。その後、江戸時代により本寺(本山)末寺関係の確立や檀家制度成立について考察する。	事前	・テキスト P65～P66 と補助テキストをしっかり読んでおく。 ・武士の世と心の支えとしての各宗派確立を考察する。(2時間)
		事後	・政治と宗教の一体化による後期封建制成立を理解する。 ・武士階級の心の平安としての仏教、封建社会下での役割を纏める。(2時間)
11	日本における神道を取り上げ仏教との違い(習俗・生き方)を理解し、神仏習合や明治の神仏分離令を通して、日本人の考え方の原点と欧米の考え方の違いを考察する。	事前	・テキスト P67～P73 をしっかり読んでおく。 ・生活の節目の時に神社や寺院をなぜ参拝するか纏める。(2時間)
		事後	・日本人の生き方の原点に神道と仏教が融合していることを纏める。 ・民衆の生活の中に浸透した神教の考え方を理解し纏める。(2時間)
12	中国思想の原点である孔子中心の儒教、老荘思想より寇謙之により仏教的要素を加味した道教の大成が漢民族に理解され、現実主義と結びついてくる社会構造を考察する。	事前	・テキスト P74～P77 をしっかり読んでおく。 ・現世的宗教観の成熟を儒教と道教より考察する。(2時間)
		事後	・民衆生活の中に浸透した道教の風習と考えを理解する。 ・現実主義と云われる考えを今日の中国社会から考察し纏める。(2時間)
13	中国仏教の成立は、原点であるインド仏教(サンスクリット語)を顧みない高度な漢字文化と融合した教典・経文の成立を理解し、儒教と道教と仏教の三位一体に現実主義により誕生した世界観であることを考察する。	事前	・テキスト P78～P81 をしっかり読んでおく。 ・中国仏教はなぜ、インド仏教を顧みることがなかったかを考察する。(2時間)
		事後	・高度な漢字を作り出した民族の自負を理解する。 ・漢民族の三教融合(儒教・仏教・道教)背景をしっかり纏める。(2時間)
14	仏像の見分け方とその心を、映像を取り入れてより具体的に理解しながら、仏像世界(如来・菩薩・明王・天部)を考察する。また、栃木県の代表的仏像についても学ぶ。	事前	・テキスト「如来像と菩薩像における仏像の一考察」を読んでおく。 ・日本仏教の発展と仏像の持つ魅力を学ぶ。(2時間)
		事後	・仏像の階級が理解できたかを復習しながら理解する。 ・如来・菩薩・明王・天部の世界成立と仏達を理解し、県内寺院の学習の手引きとし、より多面的に現地調査の機会を持つこと。(2時間)
15	グローバルな視野に立ち、国際平和維持に関わっている宗教は、別な面から見ると対立の原因でもある。現代という複雑な社会の中で、宗教の持つ意味を考える。 ・新興宗教の実体を学び、多極化の中で自己をどう律するかを考察する。	事前	・テキスト P82～P88 をしっかり読んでおく。 ・新興宗教といわれる宗派の実体を考察する。(2時間)
		事後	・現代における宗教の意義をどう考えるか。 ・多極化する現代社会の中で、宗教の果たす役割を考察し纏める。(2時間)
授業形式(アクティブラーニングの内容) ・特になし			

成績評価の方法・基準(%表記)

単位認定には全講義回数の3分の2以上の出席が必要。

成績に関しては、期末テスト 70%・レポート 20%・授業への取り組みを 10%として評価する。

観点	S	A	B	C
心の豊かさや命の大切さを宗教学から取り上げ、先祖を意識させ自己の存在を確認し、生きる意欲や集団での行動を律することの大切さを学ぶ。	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
世界の優れた宗教を通して、宗教の持つ意味を考察する。	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
宗教学を通して、自己生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につけ、古代より日本人に流れる習俗としての社会常識も理解する。	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

使用しない 私製のプリント使用

参考書等

「宗教学入門」ミネルヴァ書房 棚次正和・山中 弘編著 2010年

「世界の宗教」大明堂 岸本英夫編著 1980年

「世界の宗教／宗教の世界」春秋社 ひろさちや著 2012年

「これならわかる 倫理」(新課程用)山川出版社 2006年

履修上の注意・学修支援

- ・授業に取り組む態度を重視する。
- ・何かわからないことがあったら、授業終了後に相談すること。
- ・授業の終わりに次回への課題が出ます。事前に準備し、スムーズに学習できるための準備をすること。
- ・授業に遅刻や早退をしないこと。また、中抜けもしないこと。20分以上の遅刻は欠席と見なします。
- ・授業中に飲食等は認めない。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23J102 19J102	心理学入門	1年	春	講義	2	小浜駿
授業概要 入門講義として心理学の基礎的な知見を紹介する。社会現象を扱うという点で、心理学は社会学と同じ側面を有する。そこで、心理学と社会学との違いについても随所で取り上げて説明する。第4回までは心理学の基盤となる知見や思考の枠組みについて概説し、第5回以降で領域別の解説を行う。						
到達目標(学習の成果) 到達目標 心理学の基礎知見について広く理解し、自らの教養として身につける(DP1) 高度な到達目標 講義内容を十分に把握し、コミュニケーションや日常の問題解決に応用できるようになる(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本講義の概要を述べ、評価方法や注意事項などについて説明する。その後、社会学と心理学の違いについて概説する。	事前	シラバスを読んでおく(1時間)			
		事後	アップロード済みの資料のうち、興味が持てそうなところに目を通しておく。(3時間)			
2	心理学の基盤となっている反証主義哲学について概説する。その後、実験法や観察法など、心理学で用いられる測定法について紹介する。	事前	第2回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1章を読んでおく(3時間)			
3	古典的条件づけと道具的条件づけについて概説し、その違いについて述べる。その後、ワトソンの行動主義について述べる	事前	第3回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書4.1を読んでおく(3時間)			
4	ワトソンの行動主義に対する批判と新行動主義(SOR 心理学)およびゲシュタルト心理学について述べる。	事前	第4回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書4.1-4.3を読んでおく(3時間)			
5	記憶のメカニズムについて概説した後、潜在記憶やプライミングなど、記憶に関する様々なトピックについて紹介する。	事前	第5回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書4.4-4.5を読んでおく(3時間)			
6	情動という用語について説明した後、情動形成におけるキャノン-バード説とジェームズ-ランゲ説について解説する。	事前	第6回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書7.2を読んでおく(3時間)			
7	恥ずかしい、誇らしいなど、近年着目されるようになった高次感情の機能について説明する。	事前	第7回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書7.3-7.4を読んでおく(3時間)			
8	視覚や聴覚、皮膚感覚などの諸感覚の特徴について概説したのち、錯視や仮現運動など、代表的なトピックを紹介する。	事前	第8回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書5章を読んでおく(3時間)			
9	認知発達や道徳性の発達を中心に、様々な発達現象について概説する。	事前	第9回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書3章を読んでおく(3時間)			
10	類型論と特性論について述べた後、ミネソタ多面人格テストや5因子性格検査について解説する。	事前	第10回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書8章を読んでおく(3時間)			
11	「他者を意識する自分」をキーワードに対人関係に関する心理学的トピックを多数紹介する。	事前	第11回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書9章を読んでおく(3時間)			
12	対人ストレスの観点を加えながら、対人関係の否定的な側面について考察を深める。	事前	第12回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書9章を読んでおく(3時間)			
13	身体、性格、性差など、対人魅力に影響を与える様々な要因について解説する。	事前	第13回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書9章を読んでおく(3時間)			
14	Lee の色彩理論や恋愛幻想など、恋愛に特化した現象について解説する。	事前	第14回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	興味があれば、巷の恋愛相性テストをやってみて、授業内容と対比する(3時間)			
15	進化心理学や犯罪心理学など、近年着目され始めた心理学領域についてオムニバス形式で紹介する。	事前	聞きたい授業内容を整理し、要望する(1時間)			
		事後	気になったキーワードで google 検索などをしてみるとためになることもある(3時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

小テスト 60%、期末テスト 40%で評価する。小テストは第6回終了時と第 15 回終了時に行い、それぞれ 30%を配分する。小テストも期末テストも多肢選択問題を主とする(持ち込み不可)。

観点	S	A	B	C
幅広い心理学的知識の習得		十分に習得できている	一定程度習得できている	最低限習得できている
コミュニケーションや問題解決への応用	十分に習得できている	一定程度習得できている	最低限習得できている	

教科書

使用しない。毎回授業資料を配布する。第 2 回から第 14 回は google classroom にアップロードしておく。第 15 回授業は受講生からのリクエストをもとに授業内容を決定する。

参考書等

『心理学 第 5 版補訂版』(鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編 東京大学出版会 2020 年 2,400 円) 本講義の内容と完全には合致しないが、どの章も簡潔で興味深い。是非読むことをお勧めする。

履修上の注意・学修支援

受講前にインターネットで「心理テスト」をたくさんやってほしい。専門的に研究されている心理学と世間でイメージされている心理学との違いが新鮮な驚きを生み、学習意欲につながるはずである。また、参考書の記載内容のうち次回講義と関連しそうな部分や興味のある部分を読んでおくとう理解が深まるであろう。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R101 19R101	教育原理	1年	秋	講義	2	田上富男
授業概要 教育とは何か、学校とは何か、そしてそれらを支える理念とは何かを考え、そうした理念が生じた歴史的・思想的・社会的背景を学ぶ。また、教育を支えている制度や学校の営みについて学ぶと共に、社会において教育に求められてきた社会的機能がどのように変遷してきたかを理解しながら、現代社会において生じている様々な教育問題について理解を深める。						
到達目標(学習の成果) ・教育に関しての原理・原則及び基本的な考えや概念を理解することができる。(DP1) ・教育の歴史と思想、制度及びその背景を知ると共に、近年の我が国の教育改革と教育の現代的課題について理解することができる。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	教育とは何か 教育の本質や目的、学校教育の必要性や目的・目標を理解し、変わりつつある学校について学ぶ。	事前	なぜ教育が必要か、考えをまとめておく。(1)			
		事後	教育の目的、学校教育の目的・目標をまとめる。(3)			
2	教育思想の変遷について、古代ギリシャ・ローマや中世及び近代までの代表的な教育家や教育思想について学ぶ。	事前	ソクラテス、プラトン、アリストテレスを調べる。(1.5)			
		事後	中世の代表的な教育家についてまとめる。(2.5)			
3	18・19世紀の教育思想、新教育運動と教育論及び現代の代表的な教育学者及び教育哲学者の考えについて学ぶ。	事前	新教育運動について調べておく。(2)			
		事後	ヘルバルトとデューイについてまとめる。(2)			
4	教育の社会的機能を踏まえ、その変遷と現代社会と学校の関係及び学校教育、家庭教育、社会教育の関係を学ぶ。	事前	家庭教育と社会教育について調べておく。(1.5)			
		事後	学校と社会の関係について整理する。(2.5)			
5	ドイツ、アメリカ、イギリス、フランスにおいて、近代学校教育制度が始まり、確立していった背景と歴史的経緯を学ぶ。	事前	近代学校教育制度について調べておく。(2)			
		事後	左4カ国の教育制度の経緯を整理する。(2)			
6	学制発布以降の日本の教育の歴史を学ぶと共に、戦後教育の根幹を成す学習指導要領の変遷について学ぶ。	事前	現行学習指導要領の改訂の要点を調べておく。(2)			
		事後	学習指導要領の変遷について整理する。(2)			
7	教育を支える法制度、約60年ぶりに改正された教育基本法、法定研修や教員免許制度及びその創設の背景を学ぶ。	事前	教育基本法改正について調べておく。(1.5)			
		事後	教育関連法制度について整理する。中間課題レポートの作成。(2.5)			
8	教育という営みを支える学校と子供、家庭、社会、家族と家庭教育など、現代に至るまでの歴史について学ぶ。	事前	子供、家庭、社会の関係性をまとめておく。(1.5)			
		事後	家庭教育の重要性について整理する。中間課題レポートの作成。(2.5)			
9	教育における学校・家庭・地域の連携として、PTA、開かれた学校と学校評議員制度、学校運営協議会について学ぶ。	事前	PTA活動について調べておく。(1.5)			
		事後	学校協議員制、学校運営協議会について整理する。(2.5)			
10	学力問題の変遷と戦後実施された全国学力テスト及び現在実施されている全国学力・学習状況調査について学ぶ。	事前	学力とは何かについて考えをまとめておく。(1)			
		事後	全国学テとPISAの関係性について整理する。(3)			
11	いじめ問題の現状と課題、いじめの深刻化といじめ定義の変遷及びいじめ防止対策推進法について学ぶ。	事前	過去のいじめ問題について考えをまとめておく。(2)			
		事後	いじめ防止対策推進法創設の背景を整理する。(2)			
12	不登校の現状、不登校の歴史的経緯(学校恐怖症、登校拒否、不登校)及び学校の取組と課題について学ぶ。	事前	不登校数の推移を調べ考えをまとめておく。(2)			
		事後	不登校の歴史的経緯を整理する。(2)			
13	学校週5日制のためのスリム化問題、教師の子供と向き合う時間の確保、現在の教師の働き方改革について学ぶ。	事前	現在の働き方改革についてまとめておく。(1.5)			
		事後	教師の多忙化の歴史的経緯を整理する。期末課題レポートの作成。(2.5)			
14	学校事故や不審者侵入、教職員の不祥事、毎年発生する自然災害への対策など、学校の危機管理について学ぶ。	事前	学校事故について調べておく。(1.5)			
		事後	学校の危機管理について整理する。期末課題レポートの作成。(2.5)			
15	変化の激しい先行き不透明な21世紀に生きる子供たちに必要な教育と学び続ける教師の重要性について学ぶ。	事前	学習指導要領が求める生きる力を調べておく(1.5)			
		事後	これからの教育と教師について整理する。(2.5)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

期末に課す最終レポート60%、中間課題レポート 30% 授業への取組 10%

観点	S	A	B	C
教育に関する原理・原則及び基本的な考えや概念の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
教育の歴史と思想、制度及びその背景の理解と、近年の我が国の教育改革と教育の現代的課題についての理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

特になし

参考書等

毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付

深谷潤・広岡義之編著『教育の原理』ミネルヴァ書房

履修上の注意・学修支援

授業中の課題には積極的に取り組み、指名されたらしっかり発言するなど、前向きな態度で受講してください。

話したいこと、何かわからないことがあったら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1981年～2021年 小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

[実務経験と授業科目との関連性]

教員・校長としての学校現場での体験や教育行政機関での経験から身に付けた、教育の本質的な意味や考え方は、本科目の授業内容と関連性が非常に高い。それらを生かし、現在の教育の実情を踏まえた講義が実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R103 19R103	教育制度論	1年	秋	講義	2	梅澤圭子
授業概要 この授業は教員免許状取得希望者(教職課程履修者)のための授業であるが、それ以外の学生も履修することができる。学校教育制度、教職員制度、教育行政制度、学校と地域との連携等、公教育についての基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。						
到達目標(学習の成果) (全項目とも DP1) ① 公教育及び教育基本法の理念等について理解することができる。 ② 学校教育制度の特徴や課題等について理解することができる。 ③ 教職員制度や教育行政の仕組みや課題について理解することができる。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	教育制度の意義	事前	このシラバスを熟読しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
2	教育制度の基本原則	事前	教育に関する憲法条項を確認しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
3	教育基本法の理念	事前	教育基本法を確認しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
4	乳幼児期の保育・教育制度	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
5	初等教育制度	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
6	中等教育制度	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
7	高等教育制度	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
8	特別支援教育	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
9	私学教育	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
10	教職員制度	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
11	中央教育行政	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
12	地方教育行政	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
13	生涯学習社会と社会教育行政	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
14	学校と地域との連携	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
15	教育制度改革の意義と課題	事前	授業レジュメで確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 70%、授業への取り組み 30%で評価する。

観点	S	A	B	C
公教育及び教育基本法の理念等の理解	完全に理解している	ほぼ完全に理解している	十分に理解している	一定程度理解している
学校教育制度の特徴や課題等の理解	完全に理解している	ほぼ完全に理解している	十分に理解している	一定程度理解している
教職員制度や教育行政の仕組みや課題の理解	完全に理解している	ほぼ完全に理解している	十分に理解している	一定程度理解している

教科書

特になし。授業レジュメ(プリント)や資料を配付する。

参考書等

『新・教育制度論[第2版]』(高妻紳二郎著) ミネルヴァ書房 2023年3月 ¥2640

『新・教育の制度と経営[四訂版]』(本図愛実、末富芳著) 学事出版 2023年3月 ¥2530

履修上の注意・学修支援

積極的・主体的な態度で受講すること。

20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

20分以内の遅刻・早退は3回で欠席1回とみなす。

授業の方針等、大切なことを話すので、必ず第1回目の授業から出席すること。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐・部長、教頭、校長を38年間にわたって務め、学級経営、生徒指導、教育相談、教職員対象研修の企画・運営、管理職としての学校経営・教職員指導等を経験した。

[実務経験と授業科目との関連性]

学校現場や行政組織での経験を、教育制度の基本的なしくみや様々な課題などについての授業内容の実施にあたって、具体的な事例を示すなどして生かしている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23C101 19C101	情報リテラシ / 情報リテラシ I	1年	春	講義	2	三原義樹

授業概要

本学の情報システムに接続されたパソコンの使い方を理解した上で、大学生活でのレポート等の作成や社会に出てからのビジネス文書の作成に必要なワープロソフトの操作方法を中心にパソコンの基本操作を実習形式で学ぶ。さらに、インターネット(WWW)を利用した情報検索技術や電子メールの活用方法、パソコンを用いた情報活用についても学習する。この科目はシティアイフ学部の教育目標(カリキュラムポリシー)のうち、「② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・情報処理能力を身につけさせる。」の修得を目的とする。

到達目標(学習の成果)

- ①学内情報システムが利用できるようになる。(DP2)
- ②学生生活や社会に出てから必要となるコンピュータ操作を「自分の力で」行えるようになる。(DP2)
 - (a)インターネットを利用した情報検索や電子メールの送受信などができるようになる。(DP2)
 - (b)基本的な文書作成だけでなく、論文作成に必要な文書支援やチラシの作成に必要なデザイン技術を修得する。(DP2)
- ③コンピュータの操作について体系的な知識を有し、組織の中で主導的な立場でコンピュータの活用に関与できるようになる。(DP2)
- ④情報技術の利便性の陰に潜む脅威から身を守るようになる。(DP2)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	本学情報システムの基本操作:ユーザ ID の発行, マウス, キーボードの操作, ファイルの保存と持ち運び	事前	学生便覧の第 8 章を読む。(2時間)
		事後	教科書 pp.S-1~50 を読み, p.S-51 の練習問題を解く。(2時間)
2	日本語入力:半角と全角, かな漢字変換, 日本語長文の入力	事前	ローマ・かな対応表(教科書 p.6)を覚える。(2時間)
		事後	プレイグラムタイピング(https://typing.playgram.jp/)等でタイピングを繰り返し練習する。(2時間)
3	電子メールの基本操作とマナー:電子メールの仕組みと基本操作, 電子メールにおけるマナー	事前	大学の Gmail にアクセスできるように準備する。(2時間)
		事後	教科書 pp.M-43~48 を読み, メールによるコミュニケーションについて理解する。(2時間)
4	インターネット利用の基礎:WWW の仕組み, 通信の安全性	事前	自分の日常のインターネット利用の仕方について確認する。(2時間)
		事後	教科書 pp.M-49~64 を読み, ウェブによるコミュニケーションについて理解する。(2時間)
5	インターネット活用演習:情報検索技術, インターネット上のサービスの利活用	事前	自分が使用しているインターネット上のサービスについて確認する。(2時間)
		事後	第 4~5 回の学修を踏まえて, 自分のインターネットの利用方法を見直す。(2時間)
6	インターネットリテラシ:違法・有害情報, SNS 利用のリスク, プライバシーやセキュリティのリスク	事前	教科書 pp.M-1~72 に知らない用語があれば調べる。(2時間)
		事後	教科書 pp.M-1~72 の「ためしてみよう」1~32 を解答し, 正解を確認する。(2時間)
7	文書作成の基礎:ページ, フォント, 段落の設定, 図表の挿入, 印刷	事前	文書作成の基礎について, 教科書を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
8	表現力の高い文書:ページ罫線, ワードアート, 段組み, PDF 形式で保存	事前	表現力の高い文書の作成について, 教科書を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
9	長文の編集:ページ番号, 改ページ, 脚注, 自動文章校正	事前	長文を編集するための機能について, 教科書を予習する。(2時間)

		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
10	図形や図表を使った文書:ページ背景, スマートグラフィック, テキストボックス	事前	図形や図表を使った文書作成について, 教科書を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
11	画像ファイルを含む文書:図の調整, トリミング, 図として貼り付け, 図形の活用	事前	画像ファイルを含む文書作成について, 教科書を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
12	差し込み印刷・宛名印刷:定型書簡へのデータの差し込み, 宛名ラベル等の印刷	事前	差し込み印刷・宛名印刷の機能について, 教科書を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
13	スタイルとアウトライン:スタイルの適用, 図表番号, 表紙の作成, 目次の作成	事前	スタイルとアウトラインの機能について, 教科書を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
14	ビジネス文書作成実習:ビジネス文書のフォーマット, 文書作成演習	事前	ビジネス文書の作成について, 教科書を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
15	文書作成総合演習	事前	第 14 回までに学んだ操作方法を使いこなせるように準備する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
アクティブラーニング室における実習

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内提出課題(10%), 文書作成総合演習(40%), 期末筆記試験(50%)

観点	S	A	B	C
① 学内情報システムが利用できるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
②(a) インターネットを利用した情報検索や電子メールの送受信などができるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
②(b) 文書作成技術を修得した上で, 論文作成に必要な文書支援やチラシの作成に必要なデザイン技術を修得しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
③ コンピュータの操作について体系的な知識を有し, 組織の中で主導的な立場でコンピュータの活用に関与できるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
④ 情報技術の利便性の陰に潜む脅威から身を守れるか	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

教科書

- 富士通エフ・オー・エム(2022)『情報リテラシー』(FPT2116) FOM 出版 (ISBN: 978-4-938927-53-0)

参考書等

【資格取得に関する参考書】

- 富士通エフ・オー・エム(2021)『よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト&問題集』FOM 出版 ISBN: 978-4-865104301
- 富士通エフ・オー・エム(2021)『よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Word 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集』FOM 出版 ISBN: 978-4-865104486

履修上の注意・学修支援

①文書作成ソフトを用いたレポート等の作成を課する講義科目が多数あります。また, ゼミナールや卒業研究においてワープロソフトによる文書作成は必須となります。これらの科目を履修する前に本科目を受講することをお勧めします。

- ②遅刻をすると、その回の課題に参加できない場合がありますので、十分注意してください。
- ③MOSの資格取得を希望する学生は参考書を活用して勉強してください。
- ④できるだけ講義時間中およびその前後に質問や相談をしてください。それ以外の時間に質問や相談がある場合は、電子メールにて mihar@cc.utsunomiya-u.ac.jp (三原)宛に用件を具体的に書いて送信してください。必要に応じて、時間や場所を設定して面談を行います。なお、情報処理科目全般(例えば履修の仕方)に関する質問は高丸に問い合わせてください。
- ⑤教科書に付属した教材を使用して講義を進めますので、必ず教科書を購入してください。
- ⑥講義は windows11 & office2019 で実施します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23C102 19C102	データサイエンス入門 / 情報リテラシⅡ	1年	秋	講義	2	三原義樹
授業概要 近年ビッグデータや AI を利活用し、新たな価値を創造できる人材の育成が求められている。Excel を用いた実習により、「データを手入力し取り扱う」、「データを可視化して読み解く」技術を身につけ、データサイエンスの基本的な意味を理解する。さらに、PowerPoint を用いた実習により「データを説明する」能力を身につけ、プレゼンテーション能力の向上を図る。この科目はシティライフ学部の教育目標(カリキュラムポリシー)のうち、「② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・情報処理能力を身につけさせる。」の修得を目的とする。						
到達目標(学習の成果) ① データを手入力し、機械処理に適した方法で取り扱うことができる(DP2) ② 表計算ソフトを用いて、データを可視化し、読み解くことができる(DP2) ③ プレゼンテーションソフトを用いて、データを説明することができる(DP2) ④ データサイエンスの基礎的な考え方を身につける(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	社会で活用されているデータ データの種類、構造、入手方法について学ぶ。	事前	ビッグデータや人工知能を活用した社会的事例について調べる。(2時間)			
		事後	講義で学んだサイト(e-Stat 等)にアクセスして、どのような調査データがあるのかを確認する。(2時間)			
2	Excel の基本的な操作 セル操作、表やグラフの作成の基本的な操作方法を学ぶ。	事前	テキストの 1-1 の前半部分と 2-1 を読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
3	時系列データの可視化 一定の時間ごとに記録されたデータを可視化する手順を学ぶ。	事前	テキストの 1-1 の後半部分と 2-2 を読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
4	平均と標準偏差の算出とその可視化 平均や標準偏差を求めてグラフに表す方法を学ぶ。	事前	テキストの 1-3, 2-3, 2-4 を読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
5	大量のデータを扱う方法 データ量が多い場合の可視化方法について学ぶ。	事前	テキストの 1-4 の前半部分と 2-5 を読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
6	基本統計量の算出と箱ひげ図 Excel の機能の 1 つである基本統計量の算出方法と、箱ひげ図による可視化方法を学ぶ。	事前	テキストの 1-4 の後半部分と、2-6 をあらかじめ読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
7	度数分布表とヒストグラムの作成 数値データの分布を可視化するための度数分布表とヒストグラムの作成方法を学ぶ。	事前	テキストの 1-5 の前半部分と 2-7 をあらかじめ読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
8	散布図の作成と相関係数の算出 2次元データの分布や関係を可視化するための散布図の作成方法と相関係数の導出方法を学ぶ。	事前	テキストの 1-5 の後半部分と 2-8 を読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
9	総合演習 これまでに学んだ可視化手法が身につけていることを確認する。	事前	テキストの 1-6 を読み、1 章の内容をまとめておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
10	PowerPoint の基本的な操作 プレゼンテーションのためのスライドの作成方法を学ぶ。	事前	参考書を用いて、PowerPoint の操作方法について予習しておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			

11	プレゼンテーションの流れ プレゼンテーションの準備方法と資料の適切な作成方法について学ぶ。	事前	参考書を用いて、プレゼンテーションの作成手順について予習しておく。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
12	表・グラフの読み取りと考察の示し方 表やグラフの読み取り方と提示の仕方について学ぶ。	事前	テキスト3-1, 3-2を読んでおく。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
13	データ分析・可視化演習 与えられたテーマの中から1つ選び、自分でデータを入手し、分析する。	事前	自分が分析するデータについて考えをまとめ、データ収集・前処理の準備を行っておく。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
14	プレゼンテーション作成演習 前回作成したグラフやグラフの考察をスライドにまとめて、プレゼンテーションの準備をする。	事前	分析したデータを可視化す下準備をしておく。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
15	プレゼンテーション発表 実際にプレゼンテーションを行い、相互評価する。	事前	自分のプレゼンテーションのリハーサルを徹底的に行っておく。(2時間)
		事後	他の発表者の発表を参考に、自分の発表を振り返る。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

アクティブラーニング室においてPCを用いた実習形式で実施する。

成績評価の方法・基準(%表記)

各回の演習課題の状況(15%), 総合演習(15%), プレゼンテーション演習(30%), 期末筆記試験(40%)

観点	S	A	B	C
データを入手し、機械処理に適した方法で取り扱うことができるか。	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている
表計算ソフトを用いて、データを可視化し、読み解くことができるか。	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている
プレゼンテーションソフトを用いて、データを説明することができるか。	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている
データサイエンスの基礎的な考え方が身についているか。	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている

教科書

吉岡剛志編(2024)『改訂新版 AI データサイエンスリテラシ入門』技術評論社 (ISBN: 978-4297144098)

参考書等

富士通エフ・オー・エム(2022)『情報リテラシー(FPT2116)』FOM出版 (ISBN: 978-4938927530)

履修上の注意・学修支援

- ①「情報リテラシ(情報リテラシ I)」で学習する範囲について十分な知識を持っていることが受講の前提となります。
- ②専門科目やゼミナール、卒業研究等においてデータ分析を行う可能性がありますので、それらの科目を受講する前に本科目を受講することをお勧めします。
- ③遅刻をすると、その回の実習に参加できない場合がありますので、十分注意してください。
- ④できるだけ講義時間中およびその前後に質問や相談をしてください。それ以外の時間に質問や相談がある場合は、まず電子メールにて三原<mihar@cc.utsunomiya-u.ac.jp>宛てに用件を具体的に送信してください。必要に応じて、時間や場所を設定して面談を行います。情報処理科目・IT データサイエンス分野全般(例えば履修の仕方)に関する質問は高丸に問い合わせてください。
- ⑤教科書に付属した教材を使用して講義を進めますので、必ず教科書を購入してください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23C103 19C103	情報社会とAI / 情報基礎論	1年	春	講義	2	高丸圭一
授業概要 私たちが生きる情報社会とはどのようなものかを最初に学び、コンピュータリテラシ・ネットワークリテラシを身につける。その上で、データサイエンスの基礎となるデジタルデータの取り扱い方、データ分析のためのAI技術、データに基づく課題解決の事例などについて学ぶ。この科目はシティライフ学部の教育目標(カリキュラムポリシー)のうち、「② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・情報処理能力を身につけさせる。」の修得を目的とする。						
到達目標(学習の成果) ① 情報社会の現状について基本的な知識や考え方を身につける。(DP2) ② コンピュータリテラシ、ネットワークリテラシに関する基本的な知識や考え方を身につける。(DP2) ③ コンピュータ上で扱われるデジタルデータに関する基本的な知識や取り扱い方を身につける。(DP2) ④ AI技術を含むデータサイエンスの基礎的な知識や考え方を身につける(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	大学生生活とコンピュータ／情報とは何か	事前	情報とは何かについて、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
2	情報社会①:情報社会とは／個人情報端末の普及	事前	情報社会および個人情報端末について、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
3	情報社会②:メディアのソーシャル化	事前	ソーシャルメディアについて、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
4	情報社会③:通信と放送の融合／ユビキタス社会	事前	ユビキタス社会について、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
5	情報社会④:情報社会が抱える問題(情報システムに生じる問題、情報格差)	事前	情報格差について、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
6	データサイエンス①:AIとは何か	事前	人工知能について、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
7	データサイエンス②:AIによる課題解決／仕事とAI	事前	仕事とAIについて、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
8	データサイエンス③:AI研究の最新動向	事前	人工知能学会のウェブサイト、全国大会の発表題目を見ておく。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
9	データサイエンス④:デジタルの情報表現	事前	情報表現について、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			
10	データサイエンス⑤:音声情報・画像情報におけるデジタルの情報表現	事前	音声と画像のデジタル化について、参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)			
		事後	講義中にとったノートを整理し、本講義の内容をA4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)			

11	コンピュータリテラシ①:コンピュータの基本的な動作原理, および, 内部の構造を概観し, ハードウェアのしくみと働きを学ぶ。	事前	コンピュータの動作原理について, 参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートを整理し, 本講義の内容を A4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)
12	コンピュータリテラシ②:コンピュータの基本動作を司るプログラムであるオペレーティングシステム(OS)の役割について学ぶ。	事前	プログラムとオペレーティングシステムについて, 参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートを整理し, 本講義の内容を A4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)
13	コンピュータリテラシ③:コンピュータの利用目的によって選択的に使用されるアプリケーションソフトウェアとファイルの形式について学ぶ。	事前	アプリケーションとファイル形式について, 参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートを整理し, 本講義の内容を A4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)
14	ネットワークリテラシ①:現代のコンピュータにおいて重要な役割を担っているネットワークの基本的な役割, コンピュータをネットワークに接続するための手順を学ぶ。	事前	ネットワークの基礎について, 参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートを整理し, 本講義の内容を A4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)
15	ネットワークリテラシ②:インターネットを介してやりとりされる情報とセキュリティ技術について学ぶ。	事前	情報セキュリティの基礎について, 参考書やウェブサイトを用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートを整理し, 本講義の内容を A4判1枚に分かりやすくまとめる。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- オンラインツール(Google Classroom や Line オープンチャット)を用いた発言や投票による参加型授業
- 受講者による模擬試験問題作成に基づく学修成果の相互共有

成績評価の方法・基準(%表記)

講義内の提出課題(10%), 期末筆記試験(90%)

観点	S	A	B	C
① 情報社会の現状について基本的な知識や考え方が身についているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
② コンピュータリテラシ, ネットワークリテラシに関する基本的な知識や考え方が身についているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
③ コンピュータ上で扱われるデジタルデータに関する基本的な知識や取り扱い方が, 身についているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
④ AI 技術を含むデータサイエンスの基礎的な知識や考え方が身についているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

フィードバックについて:

- Classroom 等を介して講義の理解度を随時問い, 必要に応じて追加の解説を行う。
- 講義内で行う課題については, 全体の傾向を総評の形でフィードバックする。
- Classroom を介して期末筆記試験の総評をフィードバックする。

教科書

なし

参考書等

- 奥村晴彦他監(2025)『キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2025』日経 BP 社 ISBN: 978-4296071128
- 岡嶋裕史・吉田雅裕(2024)『改訂新版 はじめての AI リテラシー』技術評論社 ISBN: 978-4297144074
- 野口竜司(2019)『文系 AI 人材になる』東洋経済新報社 ISBN: 978-4492762516
- 野口竜司(2023)『ChatGPT 時代の文系 AI 人材になる』東洋経済新報社 ISBN: 978-4492047392
- 徳野淳子・山川修・田中武之(2022)『情報リテラシー(第4版)』森北出版 ISBN: 978-4627827349

履修上の注意・学修支援

- ①事前・事後学修として, 参考書に挙げた書籍を中心に AI に関連する本を積極的に読むようにしてください。
- ②分からないことがあれば, 電子メールやオフィスアワーを利用して質問してください。
- ③本講義は, 経産省国家資格「ITパスポート試験」の出題範囲のうち, テクノロジ系の一部に該当します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23C104 19C104	情報システム論	1年	秋	講義	2	高丸圭一

授業概要

現代社会において、情報技術は社会基盤の重要な一翼を担っており、業種・職種を問わず IT 知識は必要不可欠である。本講義では、様々な企業活動の現場で利用される情報システムの導入計画、構築、運用に利用者の立場で参画するために必要な様々な知識を習得する。具体的には、情報システムの構造、性能や安全性、IT ソリューション、システム構築のプロセス、システムトラブルが社会に与える影響などを学ぶ。経済産業省の国家資格である IT パスポート試験の合格を視野に入れ、過去問題などに触れながら講義を進める。この科目はシティライフ学部の教育目標(カリキュラムポリシー)のうち、「② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・情報処理能力を身につけさせる。」の修得を目的とする。

到達目標(学習の成果)

- ①情報システムの技術要素の基礎を理解する。(DP2)
- ②システムの信頼性に関わる技術の基礎を理解する。(DP2)
- ③情報システムの開発におけるプロジェクトマネジメントについて理解する。(DP2)
- ④情報システムの運用におけるサービスマネジメントについて理解する。(DP2)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	コンピュータの基礎:コンピュータの基本機能, コンピュータが扱うデータ, コンピュータを動かす仕組み, コンピュータによるデータ処理について学ぶ。	事前	コンピュータの基礎について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)
2	コンピュータの記憶装置:コンピュータの動作速度に影響を及ぼす装置, 主記憶装置と補助記憶装置の種類と仕組みについて学ぶ。	事前	コンピュータの記憶装置について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)
3	コンピュータの動作速度:装置の動作速度を吸収する仕組み(キャッシュ, スプール, 仮想記憶)について学ぶ。	事前	コンピュータの動作速度について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)
4	情報システムとは:情報システムとは何かについて理解した上で, 情報システムの基本構成やクライアントサーバシステムについて学ぶ。	事前	情報システムの基礎について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)
5	情報システムの利用形態:情報システムに関わる技術要素である 3 層アーキテクチャ, NAS, シンククライアント等について理解した上で, 情報システムの利用形態を学ぶ。	事前	情報システムの利用形態について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)
6	情報システムの多重化:情報システムの多重化の構成方法であるシンプレックスシステム, デュアルシステム, デュプレックスシステムについて学ぶ。	事前	情報システムの多重化について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)
7	情報システムの処理能力, 信頼性:情報システムの処理能力の指標となるスループット, ターンアラウンドタイム, レスポンスタイムについて学ぶ。	事前	情報システムの処理能力について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)
8	情報システムの信頼性/高信頼性の設計:情報システムの信頼性の指標となる稼働率, 平均故障間隔, 平均修復時間について学ぶ。	事前	情報システムの信頼性について, 講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き, 理解を深める。(2時間)

9	システム戦略とITの有効活用:システム化による業務の効率化について学ぶ。業務パッケージの導入などの効果について学ぶ。	事前	システム戦略について、講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き、理解を深める。(2時間)
10	システムソリューション:業務プロセス(ニーズ)を解決する情報技術の利用(ASP, SaaS, アウトソーシング, ホスティング, クラウド)について学ぶ。	事前	システムソリューションについて、講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き、理解を深める。(2時間)
11	システム化計画:システム化の計画・立案の手順と手法(アロウダイアグラム, ガントチャート)について学ぶ。また、システム化のリスク分析について学ぶ。	事前	システム化計画について、講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き、理解を深める。(2時間)
12	システム開発技術①:システム開発の基本的な流れについて学んだ上で、要件定義とシステム設計の概要を理解する。	事前	システム開発技術について、講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き、理解を深める。(2時間)
13	システム開発技術②:システム開発の流れのうちテストと受入・運用の概要を理解する。	事前	システム開発技術について、講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き、理解を深める。(2時間)
14	システム調達の流れ/ファンリティマネジメント:システムの調達の流れについて学ぶ。また、施設・設備の面からの情報システムの維持管理について学ぶ。	事前	システム調達について、講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き、理解を深める。(2時間)
15	ITサービスマネジメント:情報システムを安定的かつ効率的に運用し、利用者に対するサービスの維持・向上を図るITサービスマネジメントの概要について学ぶ。	事前	ITサービスマネジメントについて、講義資料や参考書を予習する。(2時間)
		事後	解答と解説を参照しながら復習問題を解き、理解を深める。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

なし

成績評価の方法・基準(%表記) 期末筆記試験(100%)

観点	S	A	B	C
① 情報システムの技術要素の基礎を理解しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
② システムの信頼性に関わる技術の基礎を理解しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
③ 情報システムの開発におけるプロジェクトマネジメントについて理解しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
④ 情報システムの運用におけるサービスマネジメントについて理解しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

フィードバックについて:

- 毎回、復習課題を Google フォームで提出してもらうので、正答率を見ながら追加の解説をする。
- Classroom を介して期末筆記試験の総評をフィードバックする。

教科書

なし(Google Classroom で、講義資料と確認問題(復習課題)を配付する)

参考書等

- TAC 出版情報処理試験研究会(2024)『IT パスポート みんなが欲しかった! IT パスポートの教科書&問題集 2025 年度』TAC 出版 (ISBN:978-4300114612)
- IT パスポート試験 <https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/openinfo/questions.html>
- IT パスポート試験ドットコム <https://www.itpassportsiken.com/>

履修上の注意・学修支援

- ①本講義は「情報社会とAI(情報基礎論)」を修得しているか、同程度の基礎知識があることを前提に進めます。
- ②疑問点があれば、まず自分で書籍や情報検索を用いてよく調べて下さい。それでも分からないことがあれば、オフィスアワーを利用して質問してください。
- ③本講義は、経産省国家資格「ITパスポート試験」の出題範囲のうち、テクノロジー系とマネジメント系の一部に該当します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23F101 19F101	体育 I	1年	通年	実技	1	霜触智紀
授業概要 私たちひとり一人が日常生活の中で、生涯にわたり積極的にスポーツに親しむことは、健康の保持増進と体力の向上に役に立つだけでなく、明るく豊かで生きがいのある生活を営む上で極めて重要である。本授業は、対人スポーツであるテニスを通して、①知的価値、②情緒的価値、③身体的価値、④社会的価値の教育的価値が高まる効果を体験するとともに、スポーツの生活化(生涯スポーツ)の重要性について学習する。						
到達目標(学習の成果) ・テニスの基本的技術としてラケットのストローク(フォアハンドストローク・バックハンドストローク・ボレー・スマッシュ・サーブ)をできるようにになるとともに、ルールやマナーを理解し、他者と楽しくゲームができるようになる。(DP1) ・生涯スポーツの重要性を理解し、将来はスポーツを生活の中に取り入れて、継続できるようになる。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「生涯スポーツとは」 生涯スポーツの意義や効果について健康の定義である身体的、精神的、社会的の3点から理解する。	事前	生涯スポーツについて調べておく。(0.5時間)			
		事後	生涯にわたり豊かなスポーツライフを育むために特に自分にとって重要なことをまとめる。(0.5時間)			
2	「テニスとは」 スポーツについて理解し、テニスの起源や特徴について学習する。	事前	テニスの歴史、特性、日本での普及等を調べるとともに、プレー映像を視聴しておく。(0.5時間)			
		事後	授業を踏まえ、テニスについて知ったことを振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
3	「テニスのルール、マナー、道具」 テニスのルール・マナーについて学習する。また道具としてテニスラケット、その他の用具の役割を学習する。	事前	テニスのルール、マナー、道具について調べておく。(0.5時間)			
		事後	テニスのルール、マナー、道具について振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
4	「グリップと基本構え」 グリップについて学習する。またラケットを持ちながら基本的な構えを学習する。	事前	グリップと基本構えについて調べておく。(0.5時間)			
		事後	グリップの役割、基本構えの意味等について振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
5	「フォアハンドストローク①」 フォアハンドストローク軌道の確認をしながら、ストロークの技術を学習する。	事前	フォアハンドストロークの特徴について調べておく。(0.5時間)			
		事後	実践を踏まえ、フォアハンドストロークの特徴について振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
6	「フォアハンドストローク②」 フォアハンドストロークの軌道を確認しながら、ボール打ちストロークの技術学習をする。	事前	前時を踏まえ、フォアハンドストロークのポイントについて振り返り、理解を深めておく。(0.5時間)			
		事後	ボール壁打ち実践を踏まえ、改めてフォアハンドストロークの特徴について振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
7	「バックハンドストローク①」 バックハンドストローク軌道の確認をしながら、ストロークの技術学習をする。	事前	バックハンドストロークの特徴について調べておく。(0.5時間)			
		事後	実践を踏まえ、バックハンドストロークの特徴について振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
8	「バックハンドストローク②」 バックハンドストロークの軌道を確認しながら、ボール打ちストロークの技術学習をする。	事前	前時を踏まえ、バックハンドストロークのポイントについて振り返り、理解を深めておく。(0.5時間)			
		事後	ボール壁打ち実践を踏まえ、改めてバックハンドストロークの特徴について振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
9	「対人ボール打ちストローク①」 対人になりネットを挟んで乱打をする。その際互いに継続するように行う。	事前	ラリーについて調べておく。(0.5時間)			
		事後	これまでの実践を踏まえ、ラリーを継続させるために必要なポイントを振り返り、理解を深める。(0.5時間)			
10	「対人ボール打ちストローク②」 対人になりネットを挟んで乱打をする。その際互いに継続するように行う。継続回数目標を増やす。	事前	前時を踏まえ、ラリーを継続させるためのポイントを調べておく。(0.5時間)			
		事後	これまでの実践を踏まえ、ラリーを継続させるために必要なポイントを振り返り、理解を深める。(0.5時間)			

11	「対人ボレー」 対人になり 5 メートルぐらいの幅でボレーの連続をする。	事前	ボレーについて調べておく。(0.5 時間)
		事後	ボレーを成功させるためのポイントを振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
12	「ボレー返し」 ネットを挟んでストレート・クロスが強打をボレーで返す。	事前	実践を踏まえ、ボレーを成功させるためのポイントを調べておく。(0.5 時間)
		事後	ストレート・クロスが強打に対するボレーを成功させるためのポイントを振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
13	「スマッシュ」 ネットを挟んでロブショットのボールをスマッシュする。	事前	スマッシュについて調べておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、スマッシュを成功させるためのポイントを調べておく。(0.5 時間)
14	「サーブ」 ファーストサーブ(オーバーハンドサーブ)・セカンドサーブ(アンダーハンドサーブ)をする(サーブコートに正確に入れる)。	事前	サーブについて調べておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、サーブを成功させるためのポイントを調べておく。(0.5 時間)
15	「サーブとレシーブ」 対人になりサーブとレシーブの役割をして、サーブ、レシーブをする。	事前	レシーブについて調べておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、レシーブを成功させるためのポイントを調べておく。(0.5 時間)
16	「ダブルスゲーム①」 ゲーム中のパートナーの役割確認をしながらルールを理解を深める(ライト・レフトの役割と位置を理解する)。	事前	ダブルスゲーム(主にライト・レフト)について調べておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、ダブルスゲームにおいて得点するためのポイントを調べておく。(0.5 時間)
17	「ダブルスゲーム②」 ゲーム中のパートナーの役割確認をしながらルールを理解を深める(前衛・後衛の役割と位置を理解する)。	事前	ダブルスゲーム(主に前衛・後衛)について調べておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、ダブルスゲームにおいて得点するためのポイントを調べておく。(0.5 時間)
18	「ダブルスゲーム(4 ゲーム先取)①」 チェンジコートを入れて4ゲーム先取のゲームをする。	事前	これまでの実践を振り返るとともに、ダブルスゲームの楽しみ方について調べておく。ゲームの進め方についても理解しておく。(0.5 時間)
		事後	ゲームの進め方、得点するためのポイントについて振り返る。(0.5 時間)
19	「ダブルスゲーム(4 ゲーム先取)②」 チェンジコートを入れて4 ゲーム先取のゲームをする。	事前	これまでの実践を振り返るとともに、ダブルスゲームの楽しみ方について調べておく。(0.5 時間)
		事後	得点するために自分自身が考えるコツ・ポイントを振り返り、まとめておく。(0.5 時間)
20	「ダブルスゲーム(6 ゲーム先取)」 チェンジコートを入れて6 ゲーム先取のゲームをする。	事前	これまでの実践を振り返るとともに、ダブルスゲームの楽しみ方についてさらに調べておく。ゲームの進め方についても理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	試合が長くなった際に得点するための自分自身が考えるコツ・ポイント・試合時の心理状態を振り返り、まとめておく。(0.5 時間)
21	「競技会企画」 競技会の企画・運営準備を実際に行い、競技会マネジメントを学習する。	事前	競技会の企画・運営準備をどのように行うか、競技会運営のマネジメント方法について学んでおく。(0.5 時間)
		事後	競技会運営のマネジメント方法について学んだことを振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
22	「競技会 1」 競技会を行う。	事前	これまでの総まとめとして、学んだことを振り返り、理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、自身のプレーについて振り返り、反省点をまとめておく。(0.5 時間)
23	「競技会 2」 競技会を行う。	事前	これまでの総まとめとして、学んだことを振り返り、理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	実技実習の全行程を振り返り、成果及び課題を考える。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)

- ①授業課題に対する積極的なスキルアップのための態度(30%)と課題克服度(30%)
②レポート:テーマに対する知識・技術の整理と自らの考察の表明(40%)

観点	S	A	B	C
授業に対する積極的な態度 と技術の習得度	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
ルール・マナーに関する理解	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
生涯スポーツに関する現状 と重要性の理解	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

フィードバックについて

授業中のコメント及び質疑については都度または次回に回答する。

教科書
特になし

参考書等

梅林薫、宮地弘太郎、松原慶子、高橋仁大、北村哲、畑山雅史「教師をめざす学生のためのテニスの初心者指導」、大修館書店、2018年、1,870円(税込み)

履修上の注意・学修支援

運動着、運動靴を着用すること。

遅刻3回で欠席1回とみなす。

疑問があれば必ず授業担当に相談すること。

メールアドレス:shimofure@kyowa-u.ac.jp

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23F102 19F102	体育Ⅱ	1年	集中	実技	1	霜触智紀
授業概要 実習前に冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学習する。2泊3日の学外施設でのスキー実習では、現地インストラクターによるスキー・スノーボードのレベル別グループ技術指導を受け基礎技術を学習する。また、宿泊施設においてはスキー・スノーボードに関する講義を受け、基礎技術に関しての理論を深く理解する。実習後は自己評価レポートを提出することにより実習振り返りを行う。2泊3日の集中宿泊実習で、技術理論を学修だけではなく、集団生活体験の中からコミュニケーションスキルや社会的規範を学習する。						
到達目標(学習の成果) ・冬季の自然環境について理解する。(DP1) ・冬季野外活動に関する基礎理論を理解する。(DP1) ・基礎技術を身につけることにより、安全で楽しく冬季野外活動が実践できるようになる。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「事前学習①」 冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学ぶ。	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5時間)			
		事後	事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。(0.5時間)			
2	「事前学習②」 スキー・スノーボード実習の概要に関して学ぶ。	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5時間)			
		事後	事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、実習意義の理解を深める。(0.5時間)			
3	「講義(基礎技術の理論)①」 スキー・スノーボードの基礎技術を映像教材にて学習する。	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5時間)			
		事後	事前学習で得た知識について振り返り、基本用語の理解及び技術の理解を深める。(0.5時間)			
4	「実技レッスン①」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。			
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)			
5	「実技レッスン②」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。			
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)			
6	「講義(基礎技術の理論)②」 現地インストラクターによる基礎技術について学ぶ。	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5時間)			
		事後	前時までの学習で得た基礎技術について振り返り、基本用語の理解及び技術の理解を深める。(0.5時間)			
7	「実技レッスン③」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。			
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)			
8	「実技レッスン④」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。			
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)			

9	「実技レッスン⑤」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)
10	「実技レッスン⑥」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)
11	「講義③」 現地インストラクターによる実習成果の評価を受ける。	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5時間)
		事後	評価を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について自身のスキルを把握するとともに課題を明確にしておく。(0.5時間)
12	「実技レッスン⑦」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)
13	「実技レッスン⑧」 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1時間)
14	「講義④」 車中にて実習の記録ビデオの鑑賞を行い、自分の実習での技術向上の成果を振り返る。	事前	実技レッスンを振り返り、成果及び課題を考えておく。(0.5時間)
		事後	自分の技術を客観的に把握し、実習での技術向上の成果及び課題を明確にする。(0.5時間)
15	「事後学習」 スキー・スノーボード実習の振り返りをし、実習に対する自己評価をまとめる。	事前	実習の全行程を振り返り、成果及び課題を考えておく。(0.5時間)
		事後	スキー・スノーボード実習の振り返りから、自己評価をまとめ、成果及び課題を明確にする。(0.5時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、課題解決型学習、実習

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① レポート 60% (安全で楽しくスキー・スノーボードができるようになるための基本知識を理解しているかを評価する。レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる)
- ② 課題克服度 40% (スキー・スノーボードに関する基礎理論を深く理解している、スキー・スノーボードの基礎技術を身につけているかを評価する)

観点	S	A	B	C
冬季の自然環境について理解している (DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
冬季野外活動に関する基礎理論を理解している (DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
基礎技術を身につけることにより、安全で楽しく冬季野外活動に参加できている (DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

授業中のコメント及び質疑については都度回答する。

教科書

第1回：事前学習、第6回：講義、第15回：事後学習にて、資料を配布する。

参考書等

渡辺一樹監修『DVD 上達レッスン スキー』成美堂出版、2010年、1,500円（税別）

松沢聖佳『スキー初中級レッスン』株式会社実業之日本社、2011年、1,700円（税込み）

平敷慶彦監修『ゼロからはじめるスノーボード入門』コスミック出版、2014年、1,204円（税別）

履修上の注意・学修支援

集中講義のため、2泊3日のスキー・スノーボード実習は全日参加すること

実習費として47,000円程度(44名参加、昨年度実績)を、徴収する。用具をレンタルする場合は、以下を追加で徴収する。

フルセット(スキー板 or スノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、ウェア、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 13,500円

ウェアなしセット(スキー板 or スノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 10,500円

疑問があれば担当教員(shimofure@kyowa-u.ac.jp)に質問すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G101 19G101	経済の基礎	1年	春秋	講義	2	漆戸宏宣
授業概要 大学における経済学関連の授業には、理論(具体的な科目名:ミクロ経済学、マクロ経済学など)、政策(政策は応用と言う場合もある)(同:経済政策、財政政策など)、歴史(同:経済史、経済学史など)に関わる授業がある。これらは、経済学の学修に当たって必要不可欠であり、これらの基礎を理解し修得しなければ、以後大学の経済学関連の授業全般について行くことが不可能となる。そこで、この授業では、経済学に関連する基礎的な理論、政策、歴史について授業を行う。具体的には、経済や経済活動とは何か、経済学を学ぶ目的、需要と供給ならびに価格を媒介した市場の意義と役割、市場の限界と政府の意義と役割、国民経済計算と景気ならびに経済成長が主なテーマである。						
到達目標(学習の成果) 大学の経済学の学修に必要な、経済学に関連する基礎的な理論、政策、歴史について理解し、説明することができる。(DP2) 現在の経済の問題点を見出し、その解決に関して自分なりの見解を持つことができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経済とは何か、経済活動(生産、分配、支出)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
2	生産(資源、生産要素、(資源の)希(稀)少性、財・サービス、経済体制)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
3	分配(所得、所得の分配)、支出(消費、投資、政府支出、納税、貯蓄)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
4	経済主体(家計、企業、政府)、経済循環(経済活動の循環)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
5	市場(1)(財・サービス市場(商品市場)、生産要素市場(要素市場))	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
6	消費(1)(消費行動の原理、効用、支払意思額、価格)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
7	消費(2)(限界効用、限界効用逓減の法則)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
8	生産(生産行動の原理、利潤、総収入、総費用)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
9	需要と供給(1)(需要、供給、価格の関係、需要曲線、供給曲線)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
10	市場(2)(完全競争市場、価格の自動調整機能、資源の最適配分、独占・寡占市場(不完全競争市場))	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
11	需要と供給(2)(需要曲線、供給曲線とそのシフト)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
12	市場の失敗(政府の役割)(1公共財(例:道路)の供給と私的財、2外部性(例:地域における環境問題)、3独占・寡占(例:規制))	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
13	景気(好況、不況、景気循環)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
14	GDP(国民経済計算、国民所得、国際貿易、三面等価の原則)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
15	物価(インフレーション、デフレーション)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験(70%)、課題レポート(15%)、授業への取り組み(15%) (授業内小レポート、小テスト、授業内における積極的な発言等)

観点	S	A	B	C
経済学に関連する基礎的な理論、政策、歴史についての理解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済における問題点とその解決に関する見解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特に指定しない。授業用に私自身が作成したレジュメを用いる。

参考書等

根岸毅宏・中泉真樹編著『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』東洋経済新報社、2021年

履修上の注意・学修支援

レジュメの該当箇所を事前に熟読して予習をし、疑問点を明らかにしておく。授業後はレジュメ等を用いて復習をする。その際、特に重要な点として、レジュメの穴埋め欄の理解を深め知識を定着させる。また、随時提出を求められる、課題レポートの提出のための準備を必ずする。

出席状況(含遅刻)や授業中の態度の著しく悪い者、課題等の提出物を全て提出しない者は減点、もしくは、不合格となる場合がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G102 19G102	経済学入門	1年	秋	講義	2	田部井信芳
授業概要 需要と供給、GDP、物価、貿易や経済成長など経済学の基礎について説明する。特に、GDPや物価は経済全体の動向に関する研究なので、私たちの生活にも密接に関係している。経済学入門では、これから専門科目を学ぶ際に必要となる経済学の基礎知識について学ぶ。						
到達目標(学習の成果) ・需要曲線と供給曲線の意味、市場の機能と効率性等のミクロ経済学の基礎について理解できる。(DP3「問題解決力」) ・GDP、金融、物価、経済成長等のマクロ経済学の基礎について理解できる。(DP2「情報力」)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経済学はどのような学問かについて考える	事前	経済学的な考え方について理解する。(2時間)			
		事後	経済の基本原則を理解する。(2時間)			
2	需要・供給分析と市場の均衡について	事前	需要と供給について調べる。(2時間)			
		事後	市場均衡について理解する。(2時間)			
3	需要・供給分析の経済問題への応用	事前	需要・供給分析について理解する。(2時間)			
		事後	市場均衡の変化について理解する。(2時間)			
4	弾力性の定義と経済問題への応用	事前	弾力性の定義について調べる。(2時間)			
		事後	需要の価格弾力性について理解する。(2時間)			
5	資源配分の効率性について	事前	市場の均衡について確認する。(2時間)			
		事後	市場の効率性について理解する。(2時間)			
6	市場が効率的ではないケースについて考える	事前	市場の失敗について調べる。(2時間)			
		事後	市場の失敗が生じる要因について調べる。(2時間)			
7	GDPの定義と概要および考え方について理解する	事前	GDPの定義について調べる。(2時間)			
		事後	GDPの構成要素について考える。(2時間)			
8	マクロ経済への適用と統計の見方について理解する	事前	名目GDPと実質GDPについて調べる。(2時間)			
		事後	章末の問題によりGDPに関する理解を深める。(2時間)			
9	経済において貯蓄と投資がどのような関係にあるかについて理解する	事前	GDPの定義について確認する。(2時間)			
		事後	貯蓄と投資の関係及び金融市場のしくみについて理解する。(2時間)			
10	マネーストックと金融政策について考える	事前	マネーストックについて調べる。(2時間)			
		事後	金融政策の手段について考える。(2時間)			
11	物価の決定要因と消費者物価指数	事前	物価の変動要因について考える。(2時間)			
		事後	消費者物価指数の定義について確認する。(2時間)			
12	比較優位の考え方について理解する	事前	貿易の利益について考える。(2時間)			
		事後	比較優位について確認する。(2時間)			
13	経済成長の決定要因と公的政策	事前	私たちが豊かになるには何が必要か考える。(2時間)			
		事後	生産性の決定要因について理解する。(2時間)			
14	総需要・総供給モデルによる産出量の決定	事前	GDPの定義及び生産関数について確認する。(2時間)			
		事後	産出量の決定について理解する。(2時間)			
15	財政政策と金融政策の産出量への効果	事前	産出量の決定について確認する。(2時間)			
		事後	財政政策と金融政策の産出量への効果について理解する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(30%)

学期末試験(70%)

観点	S	A	B	C
市場の機能に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
マクロ経済学の基礎に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

『マンキュー 入門経済学』第4版 東京化学同人 片桐満他訳、2025年

参考書等

『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』第4版 足立英之他訳、東洋経済新報社、2019年

『マンキュー経済学Ⅱマクロ編』第4版 足立英之他訳、東洋経済新報社、2019年

履修上の注意・学修支援

質問等がある場合、オフィス・アワーを利用すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L101 19L101	シティライフ学入門	1年	春	講義	2	オムニバス
授業概要 私たちの生活は経済をはじめ、法律、経営、交通、住宅、環境、福祉、教育、文化などさまざまな要素が複合的に絡み合っており成り立っている。シティライフ学部では、構成要素となる分野について学際的に学んで行くことになる。本講義では、シティライフ学を学ぶ第一歩として、シティライフ学を構成する各専門分野とシティライフとの関わりについて、オムニバス形式で講義する。						
到達目標(学習の成果) ① シティライフ学の構成要素を網羅的に理解する。(DP1) ② シティライフ学部の学修内容に対する理解を深め、自分の言葉で説明できるようになる。(DP2) ③ 社会で活躍するための準備として、都市生活を専門的に考えるための基礎を身につける。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経済・経営・会計 シティライフと都市の経済【田部井】 現代はモノ、カネ、ヒトが国境を越えて移動するグローバルな経済である。私たちの都市生活とグローバル経済の関係について考える。	事前	自分の生活の中で、外国と関係する事項について考える。(2時間)			
		事後	世界の経済が相互依存関係にあることを確認する。(2時間)			
2	経済・経営・会計 シティライフと環境経済【大石】 私たちの生活に密接に関係した身近な環境問題であるごみ問題をとりあげ、循環型社会について学ぶ。	事前	自分のまちのごみ問題を調べる。(2時間)			
		事後	配布資料を自分の言葉でまとめる。(2時間)			
3	経済・経営・会計 シティライフと会計【薄井】 まず、簿記会計関係の資格にはどのようなものがあるかについて学習する。次に、古典的な例題を通して会計の常識、非常識について学習する。	事前	簿記会計関係の資格にはどのようなものがあるのかを考える。(2時間)			
		事後	会計の常識、非常識について整理する。(2時間)			
4	経済・経営・会計 シティライフと政治経済【漆戸】 地方自治体における住民の代表者たる、政治家(首長・議員)を選ぶためのいくつかの代表的な選挙・投票の方法について学んだ上で、その望ましい方法について考える。	事前	選挙・投票の方法にはどのようなものがあるかについて事前に調べる。(2時間)			
		事後	地方自治体における政治家を選ぶに当たり、望ましい選挙・投票の方法について考える。(2時間)			
5	まちづくり・公共 シティライフとまちづくり【陣内】 シティライフとまちづくりとの関係、持続可能なまちづくりについて学ぶとともに、まちづくりの事例を紹介する。	事前	「まちづくりとは何か」について、各自考えてくる。(2時間)			
		事後	持続可能なまちづくりを実現していくために、自らができることについて考える。(2時間)			
6	まちづくり・公共 シティライフと景観【三浦】 快適な都市生活を営むための望ましい景観(街並み)づくりについて紹介する。	事前	「景観まちづくり」に関する事例をいくつか調べてくる。(2時間)			
		事後	自分の住むまちで出来たらいいと思う景観まちづくりについて考える。(2時間)			
7	まちづくり・公共 シティライフと法【渡辺】 なぜ「法」(法律)が必要なのか、私たちの暮らしと生活にかかわる法律にはどのようなものがあるか、また法を学ぶとはどのようなことなのか、これらのことを学ぶ。	事前	法(法律)についての自分のイメージや知っている法(法律)などを整理しておく。(2時間)			
		事後	法の役割、分類、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどをまとめておく。(2時間)			
8	まちづくり・公共 シティライフと学校教育【田上】 現在の学校は、地域の学校としての存在が大きく、学校評議員制度や学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入により、地域と密接に結びついている。その一端を紹介する。	事前	あなたが卒業した学校で行われていた地域人材を活用した行事等の内容を簡単にまとめておく。(2時間)			
		事後	学校運営協議会の導入がなぜ進まなかったのか、学校評議員制度と対比してまとめる。(2時間)			
9	まちづくり・公共 シティライフと全人教育【須賀・寺内】 須賀学園の創設者須賀栄子の生涯から建学の精神「全人教育(人間形成の教育)」について学んだ上で、社会における高等教育の役割について考える。	事前	『光り輝く全人教育―須賀学園の100年―』を読んで内容を理解しておく。(2時間)			
		事後	配付した参考書を読み、社会人として身につけるべき資質についてまとめる。(2時間)			
10	まちづくり・公共 シティライフと都市交通【古池】 2023年の8月に開通した宇都宮のLRTとその始発駅となるJR宇都宮駅東口の再開発について、これまでの経緯と意義を紹介する。	事前	JR宇都宮駅の東口に行って、まちがどのように変わったかを観察してくる。(2時間)			
		事後	公共交通や自転車がまちづくりに果たす役割について考える。(2時間)			

11	都市生活・ビジネス シティライフと消費者行動【北浦】 消費者行動とはなにかを学び、私たちの生活とどのように関わっているのかを具体的な事例とともに理解する。	事前	あなたが普段の生活で消費しているもの(対象)にはどんなものがあるか、できるだけたくさん挙げる。(2時間)
		事後	私たちが消費しているもの(対象)は以前と比べてどのように変化しているのか、自分の言葉でまとめる。(2時間)
12	都市生活・ビジネス シティライフとことば【松田】 街の中にある看板、掲示物、ポスターなどに、どのような文字や言葉が書かれているのか探り、そこから日本における「言語景観」について考える。	事前	自分の住んでいる地域にある看板や掲示物などをできるだけ多くスマートフォンで撮影しておく。(2時間)
		事後	自分が撮影した写真や身の回りの言葉は、どのような機能を持っているのかを考察する。(2時間)
13	都市生活・ビジネス シティライフと心理統計【小浜】 心理学の研究事例をもとに、年齢や性別以外に回答者をグループ分けする基準や方法、そのメリットを紹介する。	事前	これまで学んだグラフや表について思い出しておく。高校時代の教科書などを眺めるとなおい。(2時間)
		事後	栃木県や宇都宮市の統計を見て、授業で習った内容と対比させる。(2時間)
14	ホテル・観光 シティライフと観光【坂口】 栃木県や宇都宮市の地域観光を学ぶ。市や県の観光協会などのモデルルートから大学周辺や県内の観光資源や地域資源の位置や特徴を理解する。	事前	とちぎ旅ネットや栃木県観光物産協会、宇都宮観光コンベンション協会のWEBサイトをみておく。(2時間)
		事後	授業で扱った栃木県や宇都宮市の観光資源に実際に行って地域観光を体験する。(2時間)
15	IT・データサイエンス シティライフとデータ駆動型社会【高丸】 日常生活や仕事の現場、まちづくりにおける情報通信技術や人工知能技術の活用事例から、データ駆動型の社会について学ぶ。	事前	参考書を読んでデータサイエンスや人工知能技術について自分なりに理解しておく。(2時間)
		事後	AIとビッグデータを活用したデータ駆動型社会のあり方について考える。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

オムニバス(毎回異なる教員による講義)形式で実施する。

成績評価の方法・基準(%表記)

毎回、講義内容の理解を問う小レポート(200~300字程度)を課す(5%×15回=75%)。

期末に総合的な理解を問うレポート課題を課す(25%)。

観点	S	A	B	C
シティライフ学の構成要素を網羅的に理解できている。	90%以上身につけている。	80%~90%身につけている。	70~80%身につけている。	60~70%身につけている。
シティライフ学部での学修内容を理解し、自分の言葉で説明できる。	90%以上身につけている。	80%~90%身につけている。	70~80%身につけている。	60~70%身につけている。
都市生活を専門的に考えるための基礎が身につけている。	90%以上身につけている。	80%~90%身につけている。	70~80%身につけている。	60~70%身につけている。

教科書

なし

参考書等 ※行頭の括弧付数字は講義回数(第xx回)を表す。

【経済・経営・会計分野】

- (01) 吉野薫(2021)『経済の基本と常識』フォレスト出版
- (02) 栗山浩一・馬奈木俊介(2020)『環境経済学をつかむ第4版』有斐閣
- (03) 田中靖浩(2018)『会計の世界史』日本経済新聞社
中元文徳(2011)『豆大福分析』中央経済社
- (04) 井堀利宏(2015)『基礎コース公共経済学(第2版)』新世社

【まちづくり・公共分野】

- (05) 田中治彦・枝廣淳子・久保田崇(2019)『SDGsとまちづくり 持続可能な地域と学びづくり』学文社
- (06) 田村明(2005),『まちづくりと景観』, 岩波書店
- (07) 村中洋介ほか(2023)『嫌いなならない法学入門 第2版』信山社
- (08) 木村直人・相田康弘(2019)『未来の学校づくり コミュニティ・スクール導入で「地域とともにある学校」へ』学事出版
- (09) 須賀淳『人間教育に生涯を捧げた須賀学園創立者須賀栄子先生』(※講義当日配布)
須賀淳『光り輝く全人教育—須賀学園の100年—』(※オリエンテーション時に配布)
- (10) 芳賀・宇都宮 LRT 公式ホームページ MOVENEXT UTSUNOMIYA (<https://u-movenext.net>)

【都市生活・ビジネス分野】

- (11) 田中洋(2015)『消費者行動論』中央経済社
- (12) 磯野英治(2020)『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店
- (13) 吉田寿夫(1998)『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房

【ホテル・観光分野】

- (14) 菊地俊夫(2008)『観光を学ぶ—楽しむことからはじまる観光学 (めぐろシティカレッジ叢書)』二宮書店

【IT・データサイエンス分野】

- (15) 滋賀大学データサイエンス学部編(2024)『データサイエンスの基礎』日本実業出版社

履修上の注意・学修支援

- ・担当する教員が毎回異なるので、各回の内容についての質問はそれぞれの先生にしてください。
- ・学事や担当する先生の都合によって、学修の順序が変わる可能性があります、全体通しての内容に変更はありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L102	シティライフとまちづくり	1年	秋	講義	2	陣内雄次

授業概要

本講義は、「シティライフとは何か」「まちづくりとは何か」「シティライフとまちづくりの関係は何か」について各自で検討することで、各自のシティライフやシティライフ学に関する思考の基礎を形作ることを目的とする。そのため、都市と都市生活ならびに都市生活者に関して多面的に学ぶ。例えば、都市や都市生活とは何なのか、都市の形態や仕組み、都市経済とは、都市に関する法律や制度、今日的課題である都市の持続可能性などについて、学び考える。ワークと発表の機会を多く設け、受講生が能動的に授業に参画できるようにする。

到達目標(学習の成果)

都市市民として生活していくうえで最低限身に付けておくべき知識や認識を習得する。また、シティライフ学部において4年間学ぶための基礎的素養を身に付ける(DP2)。さまざまな資料を使い、ある都市的事象が複数の要因によって成り立っていることを考察する力、すなわち複眼的思考能力を身に付け、課題の本質やその解決方法を見出せる力を養う(DP3)。

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	【シティライフとは何か】「シティライフ」とは何か、シティライフの前提である「都市」の特徴は何かを学ぶ。	事前	シティライフについて考える。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、シティライフに関連する文献を読む。(2時間)
2	【Future Design①】「どのような都市・都市生活を私達はデザインしたいのか、そしてどのようにすれば実現できるのか」をグループで検討する Future Design (FD) のガイダンスである。グループ分けなどを行う。(★受講者数によっては個人単位でのワークとなります。)	事前	住みたい都市について考える。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、住みたい都市について考えを深める。(2時間)
3	【シティライフの構成要素】シティライフの構成要素とその主体者について考える。	事前	シティライフにとって何が重要かを考える。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、よりよいシティライフにいくことについて考える。(2時間)
4	【シティライフの生成と形態(1)】世界の都市の生成過程と形態について学ぶ。	事前	世界の都市の歴史に関して情報を集める。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、現在の世界の都市について考える。(2時間)
5	【シティライフの生成と形態(2)】日本の都市の生成過程と形態について学ぶ。	事前	日本の都市の歴史に関して情報を集める。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、現在の日本の都市について考える。(2時間)
6	【シティライフと経済】都市及び都市生活の経済に関して学ぶ。	事前	都市における経済活動について情報を集める。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、よりよい都市経済活動について考える。(2時間)
7	【シティライフと法律】都市に関連した法律と仕組み、役割について学ぶ。	事前	都市に関連する法律について情報を集める。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、都市に関連する法律の役割について振り返る。(2時間)
8	【Future Design② 中間報告】Future Design の中間報告を行い、途中経過を確認する。	事前	中間報告の準備をする。(2時間)
		事後	指摘事項についてグループメンバーと検討する。(★受講者数によっては個人単位でのワーク) (2時間)
9	【都市と環境(1)】都市と、身近な生活環境(ローカル)と地球環境(グローバル)との関係について学ぶ。	事前	都市と生活環境について情報を集める。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、身近な生活環境について振り返る。(2時間)
10	【都市と環境(2)】都市の持続可能性について、SDGs(持続可能な開発目標)も含めて検討する。	事前	都市の持続可能性について考える。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、SDGsと自らの関わりについて考える。(2時間)

11	【都市と住宅】都市における住まい、住まい方について検証する。	事前	理想とする住まいについて考える。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、宇都宮中心街の住宅について考える。(2時間)
12	【都市と自治】都市の自治について、コミュニティという観点から学ぶ。	事前	都市の自治について情報を集める。(2時間)
		事後	本時の授業を振り返りつつ、自治会、NPOの役割について考える。(2時間)
13	【Future Design③ プレゼンテーションの準備】 Future Designのプレゼンテーションの準備を行う。	事前	プレゼンテーションの準備をする。(2時間)
		事後	グループメンバーと意見交換しながら、プレゼンテーションの準備を進める。(★受講者数によっては個人単位でのワーク) (2時間)
14	【Future Design④プレゼンテーション】 Future Designのプレゼンテーションを行い、より良いシティライフに関する知見や考えを共有する。	事前	プレゼンテーションの準備を完了する。(2時間)
		事後	プレゼンテーションでの指摘事項などを振り返る。(2時間)
15	【より良い都市に向けて】より住みやすい都市とはどのようなものか、都市を発展させるためにはどうしたらよいか考える。	事前	住みやすい都市とは何かを考える。(2時間)
		事後	よりよい都市、よりよい都市生活のために自らができることを考える。(2時間)

授業形式 (アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準 (%表記)

毎回のミニテスト (30%)、Future Design (グループワーク★受講者数によっては個人単位でのワークとなります) の取り組み (30%)、期末試験の成績 (40%)

観点	S	A	B	C
シティライフについての基礎的事項に関する理解 (DP2)	完全に理解している	十分に理解している	理解している	ある程度理解している
シティライフの現状や課題についての複眼的考察 (DP3)	完全に考察できている	十分に考察できている	考察できている	ある程度考察できている
好ましいシティライフについて自分なりの考察や意見を持つ (DP3)	斬新なアイデアを持っている	独自性のあるアイデアを持っている	自分なりのアイデアを持っている	一般的なアイデアを持っている

教科書 特になし。原則としてデータ(グーグルクラスルーム)で提供する。

参考書等

川上光彦『都市計画 第4版』(森北出版、2021年11月、2800円+税)

田中治彦・枝廣淳子・久保田崇『SDGsとまちづくり 持続可能な地域と学びづくり』(学文社、2019年3月、3300円+税)

履修上の注意・学修支援

1. 本授業は出席を重視する。2/3以上出席しない場合は、試験の受験資格をなくします。また、2/3以上出席したとしても、欠席や遅刻は減点となる場合があります。
2. 本授業では教員と受講生、受講生と受講生の双方向のコミュニケーションにより、一人ひとりが「能動的に考える」ことを重視します。このため、グループワークに積極的に参画し、一人ひとりが思考を深めることを期待します。
3. 授業中の、スマホなどの使用は厳禁です。授業で使用する際は、教員が指示します。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

都市計画系研究機関での研究員としての職務。

[実務経験と授業科目との関連性]

地方自治体のまちづくり計画に関する調査研究および立案業務など。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L103 19L102	都市問題入門	1年	春	講義	2	三浦魁斗
授業概要 多様な人々が集まり多様な暮らしが営まれる都市では、時代的・空間的な背景から、環境・社会・経済に関する問題がこれまで生じてきました。 この講義では、「人口増加時代」と「人口減少時代」において、時代的背景をふまえ、「環境」「社会」「経済」からなる問題を「都心」「郊外」「地方都市」ごとに把握することで、都市問題についての専門知識を身に付けます。また、宇都宮市の具体的な都市問題や社会・空間データについての演習を通じて、都市問題に関する情報収集・分析能力を備えることを目指します。						
到達目標(学習の成果) ☆ 都市に生じたこれまでの問題についての専門知識を、その背景もふまえて理解できる(DP2)。 ☆ 宇都宮市の都市問題やこれからの都市問題についての情報を集め分析する能力を習得できるようになる(DP2)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	都市問題の「見方」と「移り変わり」について理解しましょう。	事前	「都市問題」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
2	人口「増加」時代における都市の「環境」問題について理解しましょう。	事前	「人口増加 環境問題」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
3	人口「増加」時代における都市の「社会」問題について理解しましょう。	事前	「人口増加 社会問題」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
4	人口「増加」時代における都市の「経済」問題について理解しましょう。	事前	「人口増加 経済問題」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
5	〈演習〉これまで学んできた都市問題に関する情報を収集しましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
6	人口「減少」時代における都市の「環境」問題について理解しましょう。	事前	「人口減少 環境問題」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
7	人口「減少」時代における都市の「社会」問題について理解しましょう。	事前	「人口減少 社会問題」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
8	人口「減少」時代における都市の「経済」問題について理解しましょう。	事前	「人口減少 経済問題」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
9	〈演習〉これまで学んできた都市問題に関する情報をさらに収集し、分析しましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
10	「宇都宮市」における都市問題とその課題について理解しましょう。	事前	「宇都宮市」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
11	宇都宮市を対象に、「文化」の切り口から具体的な都市問題について理解しましょう。	事前	「宇都宮市 文化」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
12	宇都宮市を対象に、「観光」の切り口から具体的な都市問題について理解しましょう。	事前	「宇都宮市 観光」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
13	〈演習〉栃木県や宇都宮市の都市問題について情報をさらに収集し分析しましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
14	〈演習〉最近の都市問題の現状やその解決策について情報をさらに収集し分析しましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
15	これまでの講義を振り返り、都市問題のこれまでとこれからについて理解しましょう。	事前	今までの講義資料を見返しましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・課題解決型学習・反転授業・フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(50%)・授業への取り組み(30%)・演習中の成果物(20%)

観点	S	A	B	C
都市問題の専門知識を理解しているか	完全に理解している	ほぼ完全に理解している	十分に理解している	一定程度理解している
都市問題の情報収集・分析能力を備えているか	完全に備えている	ほぼ完全に備えている	十分に備えている	一定程度備えている

教科書

・ 特にありません。

参考書等

・ 藤塚吉浩・高柳長直編(2016)、『図説 日本の都市問題』、古今書院、2,750円

履修上の注意・学修支援

・ 特にありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L104 19L103	都市づくり入門	1年	春	講義	2	三浦魁斗
授業概要 かつて「行政による全市的な都市整備」のみを指していた「都市づくり」は、現在では「市民による地区ごとの都市整備」を指す「まちづくり」も含めた概念へと広がっていきました。 この講義では、広い意味での都市づくりがどのような「主体」「規模」「視点」「手法」によりこれまで展開されてきたかを学び、都市づくりについての専門知識を身に付けます。また、宇都宮市をはじめとした県庁所在地での都市づくりの現状を理解し、これからの都市づくりにおける課題を見出す力を養うことを目指します。						
到達目標(学習の成果) ☆ 都市づくりについての専門知識を、「主体」「規模」「視点」「手法」の視点から身に付けることができる(DP2)。 ☆ 都市づくりの現状を理解し、都市づくりにおける課題を見出すことができる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	都市づくりの「見方」を理解しましょう。	事前	「都市づくり」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
2	都市づくりの「主体」について理解しましょう。	事前	「都市づくり 主体」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
3	都市づくりの「規模」について理解しましょう。	事前	「都市づくり 規模」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
4	都市づくりの「視点」について理解しましょう。	事前	「都市づくり 視点」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
5	都市づくりの「手法」について理解しましょう。	事前	「都市づくり 手法」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
6	まちづくりへの都市づくりの「広がり」について理解しましょう。	事前	「まちづくり」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
7	〈演習〉都市づくりの現状を理解し、課題を見出す方法を学びましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
8	初回講義で最もリクエストの多かった県庁所在地における都市づくりについて理解しましょう。	事前	対象の県庁所在地について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
9	初回講義で2番目にリクエストの多かった県庁所在地における都市づくりについて理解しましょう。	事前	対象の県庁所在地について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
10	宇都宮市における都市づくりについて理解しましょう。	事前	「宇都宮市 都市づくり」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
11	宇都宮市を対象に、「歴史」の切り口から具体的な都市づくりについて理解しましょう。	事前	「宇都宮市 歴史まちづくり」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
12	宇都宮市を対象に、「景観」の切り口から具体的な都市づくりについて理解しましょう。	事前	「宇都宮市 景観まちづくり」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
13	〈演習〉宇都宮市の都市づくりの現状を分析し、宇都宮市の都市づくりの課題について考えてみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
14	〈演習〉最近の都市づくりの現状を分析し、都市づくりの課題について考えてみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
15	これまでの講義を振り返り、都市づくりのこれまでとこれからについて理解しましょう。	事前	今までの講義資料を見返しましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・課題解決型学習・反転授業・フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(50%)・授業への取り組み(30%)・演習中の成果物(20%)

観点	S	A	B	C
都市づくりの専門知識を身に付けているか	完全に身に付けている	ほぼ完全に身に付けている	十分に身に付けている	一定程度身に付けている
現状の都市づくりから課題を見出せるか	完全に見出すことができる	ほぼ完全に見出すことができる	十分に見出すことができる	一定程度見出すことができる

教科書

・ 特にありません。

参考書等

・ 伊藤雅春 他 編 (2017)、『都市計画とまちづくりがわかる本』、彰国社、2,640 円

履修上の注意・学修支援

・ 特にありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23M101 19M101	経営学総論	1年	秋	講義	2	内藤英二
授業概要 経営学は、経済活動の中心である企業を対象とする領域学のひとつであり、組織論と戦略論という二つの分野から構成されます。組織論には、企業を「二人以上のメンバーによって、特定の目的のために、意識的に調整された協働体系」である組織の一種と考え、このような組織のメンバーの行動に研究の焦点をおいた「マイクロ組織論(組織行動論)」と組織そのものの構造やデザインを研究の対象とする「マクロ組織論(組織理論)」という二つの領域があります。組織としての企業の存続と成長には有効性と効率という二つの概念が重要であり、これらを維持し、高めていくために企業が行う基本的意思決定を戦略といいます。こうした企業の経営戦略を研究対象とする戦略論の代表的なものとしては、資源戦略、競争戦略、ドメイン戦略の3つがあります。経営学入門では、経営学の概念、組織論、戦略論という基本的な知識の修得から始めて、これからの企業経営に必要と考えられる新しい組織のあり方や経営戦略、を皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標(学習の成果) 1. 経営学に関する基本的な知識の習得を目指します。(DP1) 2. これら基本的な知識を活用して、企業やその他の組織体を経営、管理・運営していくうえで重要となる、経営上の今日的な知識や情報を収集し、整理し、合理的な意思決定を行える能力の養成を目指します。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経営学とは何か①:企業を対象とする領域学としての経営学。経営学と経済学の比較を通じて考える経営学の役割。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	F.W.テイラーの『科学的管理法』について(2時間)			
2	経営学とは何か②:組織としての企業とその戦略。経営学とマーケティングの組織体の内部での関係と役割分担。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	H.ファヨールの『産業並びに一般の管理』について(2時間)			
3	経営学とは何か③:有効性と効率・戦略の定義。組織存続条件としての有効性と効率。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	C.I.バーナードの『経営者の役割』について(2時間)			
4	組織論:組織を構成する人間を扱うマイクロ理論(組織行動論)と組織の構造やデザインを扱うマクロ理論(組織理論)。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	人間が営む組織の種類について(2時間)			
5	マイクロ組織論①:個人行動論。働くことの動機付け、人間が「がんばろう」という気持ちになる要因「動機づけ要因」	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	E ハーズバーグの衛生理論について(2時間)			
6	マイクロ組織論②:集団行動論。集団としての企業やその他の組織体の意思決定とコミュニケーションの方法	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	コミュニケーションプロセスについて(2時間)			
7	マイクロ組織論③:リーダーシップと管理者・コンフリクト・組織文化。リーダー管理者(マネージャー)。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	管理者の機能について(2時間)			
8	マクロ組織論①:組織構造の特色。複雑性、公式性、集権性。管理の幅。組織の構造に影響を与える要因とは何か。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	組織構造に影響を与える要因について(2時間)			
9	マクロ組織論②:組織構造の機能。組織内での分業による職能の分化、ラインとスタッフの発生。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	ラインとスタッフについて(2時間)			
10	マクロ組織論③:組織のデザイン。組織の構成要素、組織の形態、組織を維持、管理するために必要な費用。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	職能性組織と事業部制組織について(2時間)			
11	経営戦略論①:戦略とは何か?組織が進むべき方向性とその方法についての意思決定としての戦略。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	戦略とゲームの共通点について(2時間)			
12	経営戦略論②:資源戦略。どのような経営資源を選択して戦うのか。経験曲線効果とポートフォリオ・マトリックス。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	経営資源について(2時間)			
13	経営戦略論③:競争戦略。どのような方法でライバルと競争するのか。コストリーダーシップ戦略・差別化戦略・集中戦略。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	競争優位構築のための3つの基本戦略について(2時間)			
14	経営戦略論④:ドメイン戦略。どのような相手とどのようなフィールド、ステージで戦うのか。企業の戦略領域としてのドメインの決定。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	ドメイン決定要因について(2時間)			

15	経営学の今日的課題:伝統的な分析型の経営戦略や長期経営計画の限界を明らかにし、これに代わるプロセス型の経営戦略について考えます。	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)
		事後	分析型経営戦略とプロセス型経営戦略について(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

振り返りシート:毎回の授業終了時に振り返りシートのテーマを発表します。字数は800字程度(600字~1000字)。
 グーグルクラスルームのワークシートの最終ページに振り返りシートを設定しておきますので、ダウンロードして手書きで作成し、次回授業終了時に提出してください。

成績評価の方法・基準(%表記)

- ①振り返りシートを中心とする授業への取り組みの評価
- ②期末試験

以上2点をもとに成績評価をします。基準は①45%、②55%を目安とします。

観点	S	A	B	C
組織存続の要件としての有効性と効率に関する理解の程度	身の回りの事例を活用して内容の説明ができる。	有効性と効率の意義を理解している。	有効性と効率の概念を説明できる。	有効性と効率の概念のどちらかしか説明できない。
組織を構成する人間の心理と行動に関する理解の程度	身の回りの事例を活用して内容の説明ができる。	マクロ・ミクロ双方の組織論について理解ができています。	マクロ・ミクロ双方の組織論について説明ができる。	どちらかの説明が十分にできない。
日常的業務や戦術と戦略の違い、経営理念、経営ビジョンに関する理解の程度	身の回りの事例を活用して内容の説明ができる。	経営者・管理者の役割について理解ができています。	経営者・管理者の役割について説明ができる。	どちらかの説明が十分にできない

教科書: 特になし

参考書等:

- 土屋守章『現代企業入門』日経文庫
- 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社
- 野中郁次郎『経営管理』日経文庫
- 金井壽広『経営組織』日経文庫
- 榎原清則『経営学入門』日経文庫

履修上の注意・学修支援

毎回の授業終了御、次回授業のワークシートをクラスルームに掲載しますので精読の上、プリントアウトして保管してください。第1回のワークシートのみは授業当日の配布となります。

『ワークシート』と『振り返りシート』は、毎回の授業終了時にグーグルクラスルームにPDFファイルで保存します。授業を欠席した人はグーグルクラスルームから『ワークシート』と『振り返りシート』をダウンロードして活用してください。欠席した回の『振り返りシート』も毎回の授業終了時に提出することができます。

質問や連絡がある場合は、教育厚生棟7階の研究室まで、メールの場合は、naito@kyowa-u.ac.jpまで問い合わせてください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

全国農業協同組合連合会のシンクタンクである社団法人農協流通研究所調査研究部研究員として7年間勤務し、農林畜産水産物の流通、マーケティング関連の調査、商品企画等に従事。文教大学、日本大学、東京学芸大学、相模女子大学、東海大学等においてマーケティング論を中心に非常勤講師を務め、神奈川県卸売市場審議会委員等も務めました。

[実務経験と授業科目との関連性]

食品を中心とした幅広い製品の流通構造を実際に実証分析した経験から、より具体的な流通の実態を解説可能です。農産品を原料とする各種加工食品の新製品開発に参画した経験を持っています。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K102 19K102	憲法	1年	秋	講義	2	渡辺靖明
授業概要 「日本国憲法」の基礎を学びます。憲法は、私たち国民(市民)が他者との共存の中でそれぞれ幸せに生きていくために、国が法に基づいてなすべきことの基本を定める重要なルールです。例えば都市生活に関わる法もたくさんありますが、憲法の規定や理念に反して、その法を作ったり適用したりはできません。憲法の基礎を理解することは、都市生活も含めた様々な社会の問題を法の観点も含めて深く考えることにもつながります。 本講義では、このことを踏まえて、憲法の2大テーマ「人権」と「統治」の基礎と関連する個別の重要な論点を学び、憲法の基礎的知識を身に着けることを目的とします。						
到達目標(学習の成果) ・日本国憲法の全体像と基本的な役割、用語の意味や考え方(原則)を理解することができる。(DP1) ・現代的な社会問題について、憲法及び関係する法令の観点から踏まえて、深く考え、それを文章で説明できるようになる。(DP2、DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス/法がなぜ必要なのかー授業の進め方、成績評価方法などを理解し、私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメ(授業資料)に目を通しつつ、法についての自分のイメージや、関心のある法などを整理しておく。(2時間)			
		事後	法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。(2時間)			
2	法令の体系及び法の分類ー法令の種類・体系(システム)の概要、憲法の最高法規性、憲法と条約との関係などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「憲法」、「法令」、「法律」、「条例」などの言葉の意味を調べて整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、さらに考えを深める。(2時間)			
3	日本国憲法の概要ー市民の「あたりまえ」を守る法としての憲法の意義、基本構造、憲法の定める人権とその制約などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習ったことを思い出しながら、「日本国憲法」について整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、さらに考えを深める。(2時間)			
4	基本的人権ー憲法の定める平等権、自由権、社会権、参政権、幸福追求権及び国民の義務を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習った「日本国憲法」の知識を思い出しながら、憲法の「人権」の種類や内容について調べて整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
5	「平等」とは？ー具体的な事例から、平等とは何かをさらに考えてみる。	事前	前回の授業での「平等」の項目を踏まえつつ、事前配布のレジュメに目を通して、「事例」について自分はどう考えるか整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、「平等」の様々な考え方を整理し、さらに考えを深める。(2時間)			
6	子どもの貧困ー子どもの貧困の現状と対策や社会権、生存権との関係などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの授業を踏まえながら、子どもの貧困に関するニュースなどを調べて整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
7	家族ー憲法と家族との関係、民法における家族制度の基礎、夫婦別姓及び相続と憲法との関係を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、憲法と家族との関係や、「夫婦別姓」をめぐるニュースなどを調べて整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
8	表現の自由(1)ー表現の自由はなぜ保障されるのか、検閲の禁止、集団行動の自由、報道の自由・知る権利などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえつつ、「検閲」や「報道の自由」と「知る権利」の言葉の意味を調べて整理しておく。(2時間)			

		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
9	表現の自由(2)－刑法によるビラの貼り付け・配布の規制、名誉毀損罪の成否との関係を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえつつ、「住居侵入罪」や「名誉毀損罪」がどのような犯罪かを調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
10	自己決定権－自己決定権の意義、幸福追求権との関係や、生命をめぐる自己決定権の尊重の限界などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえつつ、「輸血拒否事件」について調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
11	統治(1)－統治の意味と役割、統治機構の三権分立と「国会」の役割、考え方(原則)について学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習った「日本国憲法」の知識を思い出しながら、憲法の「統治」や「国会」の役割について調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
12	統治(2)－「内閣」と「裁判所」の役割、考え方(原則)について学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回の授業や高校等で習った「日本国憲法」のことを思い出しながら、憲法の「統治」や「内閣」及び「裁判所」の役割について調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
13	統治行為論－「統治行為論」をめぐるドキュメンタリー番組を視聴して、その意味と問題点を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業や高校等で習った「日本国憲法」のことを思い出しながら、憲法の「統治行為論」について調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業(番組)の内容を振り返り、さらに考えを深める。(2時間)
14	地方自治－国と地方公共団体との関係、地方公共団体の種類、地方分権の意味、必要性、課題などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「地方公共団体」、「地方分権」の言葉の意味や、憲法と地方自治との関係などを調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
15	これまでの総括とこれからの展望－これまで授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。 ※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性はある。	事前	これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。(2時間)
<p>授業形式(アクティブラーニングの内容)</p> <p>適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、後日その意見を一覧にまとめて、他の人はどのような意見を持っているかなどを確認し、自分の意見についてさらに考えを深めてもらう予定です。</p>			

成績評価の方法・基準(%表記) 期末試験 70%、小テスト・ディスカッションなど 30%

期末試験については、試験終了後、解説をクラスルームでアップします。小テストについては、授業中に解説をします。

観点	S	A	B	C
憲法及び関連する法の用語の意味・考え方を理解できているか。	完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度の理解ができている。	最低限度の理解はできている。
憲法等の用語の意味・考え方を理解し、具体的事例の問題解決について法的に考えることができるか。	完全に理解し、考えることができている。	十分に理解し、考えることができている。	一定程度理解し、考えることができている。	最低限度の理解はできている。
具体的事例について、憲法等の用語の意味・考え方及び関連する判例(裁判所の判断)・学説(研究者の見解)を理解し、その問題解決方法や議論の状況をきちんと文章で説明することができるか。	完全に理解し、説明することができ、自分の考えも正確に文章で述べるができている。	十分に理解し、説明することができ、さらに自分の考えも文章で述べるができている。	一定程度理解し、説明することができている。	最低限度の理解と、説明はできている。

教科書
特になし

参考書等

斎藤一久・城野一憲編著『教職のための憲法』(ミネルヴァ書房、2020年)

履修上の注意・学修支援

- ・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけています。
- ・授業の内容を充分理解できなかった場合には、気軽に質問してください。オフィスアワー、授業の前後などで対応します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23N101 19N101	簿記初級 / 簿記論 I	1 年	春	講義	2	薄井浩信
授業概要 簿記会計は、英語と共に企業のビジネス言語であるといわれます。勘定科目や貨幣額によって、企業等が行う経済活動を継続的に記録・計算・整理し、報告するための会計言語であり、また、技法です。企業の経営者や利害関係者が要求する会計情報の作成には、一定の原理・原則に従って、収益や費用の発生、資産・負債・資本の変動を組織的に関連づけて記録・計算する複式簿記の技法が必要不可欠です。本講義では、複式簿記の原理と商業活動を行う企業の取引の仕訳・記帳・決算・決算書類の作成について学習し、複式簿記の自己検証機能によって経営者のアカウントビリティ(説明責任)が保たれていることを学びます。						
到達目標(学習の成果) 複式簿記の基本原則、資産・負債・純資産・収益・費用の勘定科目を理解することができる。さらに、商業活動を行う企業の取引を仕訳し、正確な会計帳簿を作成、総勘定元帳への記帳法をマスターできる。また、日本商工会議所主催の簿記検定初級の資格に合格することができる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス、簿記の基礎—簿記の目的、簿記の 5 要素、仕訳の基本	事前	企業の経営活動はどのように記録されるか考える。(2 時間)			
		事後	5 つ記録場所について復習する。(2 時間)			
2	商品売買(三分法)	事前	仕入、売上、繰越商品の違いを予習する。(2 時間)			
		事後	売上原価の算出方法と 3 勘定について復習する。(2 時間)			
3	預金・現金—現金、当座預金、普通預金、定期預金	事前	現金出納帳と小切手について予習する。(2 時間)			
		事後	小切手の振り出しと当座預金について復習する。(2 時間)			
4	手形と電子記録債権・債務	事前	手形の意義について復習する。(2 時間)			
		事後	電子記録債権・債務の意味について復習する。(2 時間)			
5	貸付金・借入金	事前	お金の貸し借りにはどのようなものがあるか考える。(2 時間)			
		事後	貸付金、借入金の処理について復習する。(2 時間)			
6	その他の取引①—未払金、未収入金、前払金、前受金、仮払金、仮受金	事前	その他債権の未収××、前払××を予習する。(2 時間)			
		事後	その他債務の未払〇〇、前受〇〇を復習する。(2 時間)			
7	その他の取引②—立替金、預り金、消耗品、消耗品費	事前	立替金、預り金について予習する。(2 時間)			
		事後	消耗品、消耗品費の処理について復習する。(2 時間)			
8	固定資産—購入、売却、減価償却	事前	固定資産にはどのようなものがあるか考える。(2 時間)			
		事後	固定資産の購入、売却の処理について復習する。(2 時間)			
9	租税公課と消費税・資本金	事前	株式会社の資本金について予習する。(2 時間)			
		事後	税金の仕訳の処理について復習する。(2 時間)			
10	仕訳総復習問題練習	事前	今まで学習した仕訳について整理する。(2 時間)			
		事後	出来なかった仕訳の問題について復習する。(2 時間)			
11	帳簿への記入—仕訳帳と総勘定元帳	事前	仕訳を記入する仕訳帳について予習する。(2 時間)			
		事後	総勘定への転記について復習する。(2 時間)			
12	試算表①—合計試算表、残高試算表、合計残高試算表の作成	事前	試算表を作成する意味について予習する。(2 時間)			
		事後	試算表の種類と作成方法について復習する。(2 時間)			
13	試算表②—検定試験問題練習	事前	前の時間の精算表の種類について整理する。(2 時間)			
		事後	検定試験の問題について復習する。(2 時間)			
14	伝票(三伝票)と仕訳日計表	事前	入金伝票、出金伝票、振替伝票について予習する。(2 時間)			
		事後	3伝票制の意味と方法について復習する。(2 時間)			
15	取引—巡、帳簿、決算に関する総復習問題練習	事前	今まで学習した内容について整理をする。(2 時間)			
		事後	解けなかった問題について復習する。(2 時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末試験 70%、 授業への取組み(検定試験の受験、課題等の提出等) 30%

観点	S	A	B	C
簿記の基本的な仕組み・原理を理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
簿記の基本的な仕訳を理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
主要簿と補助簿の記入方法を理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

スッキリわかる 日商簿記初級(TAC)¥1,000(税別)

参考書

土日で合格する日商簿記初級(中央経済社)¥1,200(税別)

日商簿記3級テキスト(TAC)¥2,000(税別)

日商簿記3級トレーニング(TAC)¥1,500(税別)

最新段階式 日商簿記検定問題集 3級(実教出版)¥1,100

履修上の注意・学修支援

この授業は日商簿記検定初級の資格取得を目的とした授業です。そのため、検定試験を取得する気持ちのない人は選択をおすすめしません。また、この授業は自主的な学習を基本にします。自主的な学習は自身の学習能力を向上させるだけでなく問題解決能力も向上させてくれます。社会に出る前に自らの力でいろいろな問題を解決していける態度を身につけることが大切です。なお、すでに、日商簿記3級を取得している学生は、申請により単位認定をすることができます。自主学習を進められない分野・内容がある場合は、事前に相談に来てください。毎日1時間以上の自主学習を必ず定着させてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23N102 19N102	簿記上級 / 簿記論Ⅱ	1年	秋	講義	2	薄井浩信
授業概要 簿記会計は、英語と共に企業のビジネス言語であると言われます。企業等の日々の経済活動を勘定科目と貨幣額によって継続的に記録・計算・整理分類・報告するための言語であり、また技法です。企業の経営者や利害関係者が要求する会計情報の作成には、一定の原理・原則に従って、収益や費用の発生、資産・負債・資本の変動を組織的に関連づけて記録・計算する複式簿記の技法が必要不可欠です。本講義では、「簿記初級」で学んだ内容を基礎に、複式簿記の原理と商業活動を行う企業の取引の仕訳・記帳・決算・決算書類の作成について学習し、複式簿記の自己検証機能によって経営者のアカウントビリティ(説明責任)が保たれていることを学びます。						
到達目標(学習の成果) 複式簿記の基本原則を理解し、企業活動の一巡取引と決算処理をマスターすることができる。 日本商工会議所主催の簿記能力検定試験の3級以上の資格に合格することができる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	オリエンテーション、簿記の基礎、日常の手続き	事前	企業の経営活動がどのように記録されるか考える。(2時間)			
		事後	日常の帳簿記入について復習する。(2時間)			
2	商品売買	事前	仕入、売上、繰越商品について予習する。(2時間)			
		事後	商品売買の仕訳について復習する。(2時間)			
3	現金・預金および手形	事前	簿記では何が現金として処理されるのか予習する。(2時間)			
		事後	手形の処理について復習する。(2時間)			
4	その他の資産および負債	事前	収支計算と期間損益計算の関係を予習する。(2時間)			
		事後	未収・未払・前払・前受の処理を復習する。(2時間)			
5	株式会社の基本	事前	株式会社会計の資本金とは何か予習する。(2時間)			
		事後	資本金に関する会計処理について復習する。(2時間)			
6	その他の取引および訂正仕訳	事前	費用、収益となる勘定科目について整理する。(2時間)			
		事後	訂正仕訳の方法について復習する。(2時間)			
7	さまざまな帳簿の関係	事前	今まで学習した帳簿について整理する。(2時間)			
		事後	主要簿と補助簿の記入について復習する。(2時間)			
8	試算表の作成	事前	試算表の役割と意義について予習する。(2時間)			
		事後	合計、残高、合計残高試算表について復習する。(2時間)			
9	決算(Ⅰ)	事前	決算整理事項について予習する。(2時間)			
		事後	学習した決算整理条項の仕訳について復習する。(2時間)			
10	決算(Ⅱ)	事前	決算整理事項について予習する。(2時間)			
		事後	学習した決算整理事項の仕訳について復習する。(2時間)			
11	精算表の作成	事前	精算表の構造と役割について予習する。(2時間)			
		事後	精算表の作成方法について復習する。(2時間)			
12	帳簿の締切り	事前	総勘定元帳について整理する。(2時間)			
		事後	総勘定元帳のそれぞれの勘定の締切を復習する。(2時間)			
13	財務諸表の作成	事前	経営成績と財政状態とは何かについて予習する。(2時間)			
		事後	B/S、P/Lの作成方法について復習する。(2時間)			
14	株式の発行、税金	事前	株式会社について予習をする。(2時間)			
		事後	税金の会計処理について復習する。(2時間)			
15	伝票および証ひょう	事前	仕訳帳に代わる3伝票制について予習する。(2時間)			
		事後	3伝票制の意味と仕訳日計表について復習する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末試験 70%, 課題等の提出 30%

観点	S	A	B	C
費用と収益の見越し・繰り延べの仕訳を理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
精算表を理解し、その作成方法をマスターしている	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
取引一巡の記帳から決算までの会計処理を理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

『日商簿記3級トレーニング』(TAC)、2024年、¥1,500(税別)

参考書等

『日商簿記3級テキスト』(TAC)、2024年、¥2,000(税別)

『大原で合格する日商簿記3級』(中央経済社)、2024年、¥1,100(税別)

『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級』(実教出版)、2024年、¥1,100(税込)

履修上の注意・学修支援

本講義を履修する学生は、「簿記初級」の単位を修得していることが条件となります。授業では日商簿記3級の内容の学習をします。なお、すでに、日商簿記3級を取得している学生も、日商簿記3級の内容を確実に理解してもらうために学習をしてもらいます。

この授業は自主的な学習を基本にします。自主的な学習は自身の学習能力を向上させるだけでなく問題解決能力も向上させてくれます。社会に出る前に自らの力でいろいろな問題を解決していける態度を身につけることが大切です。自主学習を進められない分野・内容がある場合は、事前に相談に来てください。毎日1時間以上の自主学習を必ず定着させてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q101 19Q101	観光学総論	1年	春	講義	2	坂口豪
授業概要 人々が観光をすることは生活に豊かさをもたらすとともに、それによって地域経済や産業が成立している場合がある。このような考え方から、2000年代以降、日本の社会・経済において観光の役割が重要視されている。そのため、観光に関する基礎的な内容を学習することは、現在の社会や経済の状況を的確にとらえるうえで有効である。本講義では、観光に関する基礎的な知識を幅広い観点から講義し、観光に対する学生の興味や関心を喚起するとともに、とくに観光関連産業の成立、まちづくりや地域経済における観光の役割を学習する。						
到達目標(学習の成果) ・観光の定義・概念・関連用語・構造について理解し、説明することができる。(DP2) ・観光関連産業の主な特徴について理解し、説明することができる。(DP2) ・まちづくりにおける観光の役割について理解し、説明することができる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイドランスー観光とは何かー 観光の定義や役割を理解する	事前	観光やツーリズムの言葉の意味を調べてくる(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、観光について自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
2	観光の歴史①紀元前から近世にかけてー巡礼から娯楽や教養がつくる観光ー	事前	高校までの歴史の学習内容を復習する(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、観光歴史を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
3	観光の歴史②観光の大衆化ーハードツーリズムとマスツーリズムの時代ー	事前	高校までの歴史の学習内容を復習する(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、マスツーリズムの時代の観光を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
4	新しい観光のスタイルーソフトツーリズムと癒しや学びを求める時代ー(ハードツーリズムとの比較)	事前	第3回の授業資料からマスツーリズムとハードツーリズムの言葉の意味を復習する(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、ソフトツーリズムの観光を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
5	温泉観光地の形成と発展ー交通網の発達や外部資本による観光開発に着目してー	事前	日本の温泉地について調べてくる(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、日本の温泉観光地の発達と展開を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
6	高原観光地の形成と発展ー避暑地としての軽井沢や別荘地開発の過程に着目してー	事前	日本の避暑地について調べてくる(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、避暑地や軽井沢の観光について自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
7	自然観光地の形成と発展ー国立公園からエコツーリズム・ジオパークまでー	事前	国立公園やジオパークについて調べてくる(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、国立公園やジオパーク、エコツーリズムを自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
8	都市観光地の形成と発展ー東京の観光の歴史とその発展 浅草・銀座・お台場の観光資源の特徴と展開	事前	東京の観光地について調べてくる(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、浅草や銀座、お台場の観光地としての発展を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
9	外国の都市観光地の形成と発展ー欧州の都市観光の展開 パリやウィーンの街の歴史とその重層性(東京との比較)	事前	パリやウィーンがどんな街なのか調べてくる(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、パリやウィーンなど欧州の都市観光地の特徴を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			
10	テーマパーク型観光地の形成と発展ー世界一のテーマパーク:東京ディズニーリゾートの戦略とその背景	事前	日本のテーマパークについて調べてくる(2時間)。			
		事後	授業資料を復習し、ハードツーリズムの特徴を理解し、東京ディズニーリゾートの成功要因を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。			

11	農村観光地の形成と発展—群馬県川場村における地域資源の見直しと道の駅かわば田園プラザの成功の秘密	事前	道の駅かわば田園プラザについて調べてくる(2時間)。
		事後	授業資料を復習し、中山間地の地域的課題を理解し、川場村と道の駅かわば田園プラザの成功要因を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
12	世界遺産と観光—ヘリテージツーリズムの展開を探る 日本の世界文化遺産と世界自然遺産を探究する	事前	日本の世界遺産を調べてくる(2時間)。
		事後	授業資料を復習し、日本の世界遺産の位置やその特徴を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
13	観光の諸問題—観光が引き起こすさまざまな現代的諸問題について理解する	事前	観光にはどんな問題が潜んでいるか調べてくる(2時間)。
		事後	授業資料を復習し、観光公害やオーバーツーリズムなどを自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
14	栃木県の観光—栃木県内の観光の歴史・特徴、また最近の県内観光の動向・課題を理解する。	事前	栃木県内の観光地を調べてくる(2時間)。
		事後	授業資料を復習し、栃木県の観光資源や観光の動向・課題を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
15	今後の観光の方向性 これまでの講義を振り返り、今後の観光の方向性を考える。	事前	第14回までの授業資料を復習してくる(2時間)。
		事後	日本や世界のさまざまな観光地に実際にいき、理論と実践を結びつけられるようになる(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ・反転授業・・・毎回ではないが、次の回の講義で重要となる点について調べる事前課題がある。
- ・講義中にクロームブックを利用し、その場でオンライン上にあるワークに対する各自の回答を入力、送信する。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60%, 講義中のワーク 20%, 事前・事後学習 15%, 授業への取り組み 5%

観点	S	A	B	C
観光の基礎的な知識に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	一定程度理解できている	やや理解できている
さまざまな観光地や観光形態の主な特徴に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	一定程度理解できている	やや理解できている
地域経済・社会における観光の役割に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	一定程度理解できている	やや理解できている

教科書

特になし

参考書等

- 菊地俊夫編(2008):『観光を学ぶ』二宮書店。(1,650円)
 菊地俊夫編(2018):『ツーリズムの地理学—観光から考える地域の魅力』二宮書店。(3,520円)
 JTB総合研究所編(2017):『観光概論(第10版)』株式会社JTB総合研究所。(2,720円)
 JTB総合研究所編(2019):『観光学基礎—観光に関する14章』株式会社JTB総合研究所。(2,300円)
 竹内正人・竹内利江・山田浩之編(2018):『入門 観光学』ミネルヴァ書房。(3,080円)
 国土交通省観光庁『観光白書』(各年) <https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>
 これらのほか、授業ごとに理解を深めるためのオリジナルのプリントを配布します。

履修上の注意・学修支援

- ・クロームブックを利用し講義中に課題に回答するため、毎回必ず持参すること。
- ・やむを得ない事情を除き、遅刻も評価に含めます。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

浅間山ジオパーク推進協議会専門員としてジオツアー、エコツアーの企画運営

[実務経験と授業科目との関連性]

ジオパークという地域に根差した観光地における着地型観光のツアーづくりを行い、その集客や運営を行っていた。地域観光の運営とその実践していた観点から本科目と関連がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B107 19B106	コミュニケーションスキル	1年	春	講義	2	松田勇一
授業概要 大学生活において必要なコミュニケーション能力を身に付けるために、各種の教室活動を行う。授業では、5人～6人程度のグループを編成し、グループ単位での活動を行う。また随時、ペアワークを行う。授業の最後に「授業振り返りシート」を作成し、ペアワークやグループワークの意味について考える。						
到達目標(学習の成果) ・適切な口頭コミュニケーション能力を身に付ける。(DP1) ・グループ内での話し合いに積極的に参加し、明確に自分の意見を言うことができる。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	授業説明	事前	シラバスを読む(2時間)			
		事後	授業内容を確認する(2時間)			
2	グループ編成・自己紹介	事前	自己紹介の内容を考える(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
3	50の質問	事前	50の質問を考える(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
4	20の質問と1つの質問	事前	20の質問を考える(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
5	情報交換の仕方	事前	複雑な情報を準備する(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
6	アサーティブ・チェック	事前	アサーティブについて予習する(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
7	グループ再編	事前	自己紹介の内容を考える(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
8	自分のアサーティブ度	事前	自身のアサーティブ度について考える(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
9	言葉を聞き取る	事前	聞くと聴くについて考える(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
10	言葉を形にする	事前	動作を表現する言葉を調べる(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
11	相互理解と協力	事前	情報を伝達するための言葉を調べる(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
12	情報を整理する	事前	情報を整理するための言葉を調べる(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
13	情報をまとめる	事前	情報をわかりやすく伝える言葉を調べる(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
14	SNSのコミュニケーション	事前	自身のSNSについて整理する(2時間)			
		事後	授業振り返りシートを作成する(2時間)			
15	レポート発表	事前	発表内容をまとめる(2時間)			
		事後	自己フィードバックを行う(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業参加度(発言・態度等を含む)30%・授業振り返りシート 40%・期末レポート 30%

観点	S	A	B	C
適切な口頭コミュニケーション	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
グループ内での話し合いに積極的に参加	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

教科書

特に指定しない

参考書等

中澤務・森貴史・本村康哲編 『知のナビゲーター』 くらしお出版 2007年 ¥1,980

学習技術研究会編 『知へのステップ』 くらしお出版 2019年 ¥1,980

履修上の注意・学修支援

ペアやグループでの口頭コミュニケーションに積極的に参加すること。
出席が3分の2以上に満たない者については、成績認定を行わない。
期末レポートの提出は必須とする。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D101 19D101	基礎ゼミ	1年	通年	講義	2	松田勇一、他
授業概要 少人数のゼミ(学生が所属するゼミは大学が指定する)において、テキストに沿った課題演習、グループワーク等を行う。各ゼミで行う授業内容は、基本的に同一の内容である。課題として、ワークシートや週間日誌(クロームブックでの作業)の作成を課す。大学際においては、各自の課題を展示する。授業の最後には、各自2年生からの研究内容についてパワーポイントを使用して発表を行う。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・大学での基本的な学び方、学生生活の送り方を修得する。(DP1) ・レポートの書き方を修得する。(DP1) ・生活プランと卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考えられる。(DP1) ・調査研究の基礎を修得する。(DP1) ・課題の準備を行い、口頭で適切に発表できる。(DP1) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	・自己紹介、時間割の作成、ポートフォリオの作成について	事前	自己紹介の内容を考える(2時間)			
		事後	効果的な自己紹介を考える(2時間)			
2	・スケジュール表の作成、時間割についての意見交換、ノートテイキング	事前	1週間のスケジュールについて考える(2時間)			
		事後	スケジュールを見直す(2時間)			
3	・「ユネスコ学習権宣言」についての意見交換、学ぶということを考える	事前	学習権宣言について考える(2時間)			
		事後	生涯学習について考えをまとめる(2時間)			
4	・学生のトラブルの事例について学び、被害を防ぐための方策を考える	事前	生活上のトラブルについて考える(2時間)			
		事後	トラブルにあった時の対処法を整理する(2時間)			
5	・日常生活におけるモラルと法律について考える	事前	生活上のトラブルについて考える(2時間)			
		事後	トラブルにあった時の対処法を整理する(2時間)			
6	・レポートの書式、手順等について学ぶ	事前	自分のレポートを見直す(2時間)			
		事後	講義で習ったことを踏まえてレポートを書く(2時間)			
7	・キャンパス及び近隣を歩き、新しいことを発見する観察力を鍛える	事前	キャンパス近隣の地図を読む(2時間)			
		事後	キャンパス周辺の情報を整理する(2時間)			
8	・コンセプトマップを作成し、問題点と解決策を考える	事前	コンセプトマップについて考える(2時間)			
		事後	コンセプトマップを作成する(2時間)			
9	・様々な職業や「働く」ということについて考える	事前	身近な人に働くことについてインタビューする(2時間)			
		事後	仕事について考えをまとめる(2時間)			
10	・未来予想図を作成し、逆算思考して行動計画を立てる	事前	自分の未来を想像してみる(2時間)			
		事後	自分の未来設計を立てる(2時間)			
11	・考え、研究するための問題を発見する	事前	身近な問題を見つける(2時間)			
		事後	問題を解決するための方法考える(2時間)			
12	・収集した情報を整理し、問題解決過程を描き、レジюмеを作成する	事前	自分でレジюмеを作成してみる(2時間)			
		事後	講義で習ったことを踏まえてレジюмеを作成する(2時間)			
13	・ゼミ中でレジюмеを配布して発表する	事前	レジюмеを完成させる(2時間)			
		事後	発表を振り返る(2時間)			
14	・レジюмеの内容を修正し、パワーポイントを作成する	事前	パワーポイントを作成する(2時間)			
		事後	パワーポイントを修正する(2時間)			
15	・序論、本論、結論という展開方法で、報告をパワーポイントにまとめる	事前	発表の原稿を作成する(2時間)			
		事後	自分の発表を振り返る(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク						

成績評価の方法・基準(%表記)

ワークシート30%+ポートフォリオ(日誌・作文)40%+課題発表(夏休み課題・大学祭・期末課題)30%

観点	S	A	B	C
レポートの書き方の修得	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
調査研究の基礎の修得	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
課題の準備と口頭発表	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

教科書

・川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編 『プレステップ基礎ゼミ』 弘文堂 ¥1,980

参考書等

・学習技術研究会編著『知へのステップ 第5版』 くろしお出版 ¥1,980

履修上の注意・学修支援

出席が3分の2以上に満たない者は「欠格」となり、単位を修得できない。

教科書は必ず購入すること。

課題発表は必須とする。発表を行わなかった者は、単位認定を行わない。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23M102 19M102	経営の歴史	1年	春	講義	2	内藤英二

授業概要

実在する特定の企業による経営活動の変遷、企業経営者の行動、あるいはこれらの二つの動きが産業の発展に与えた影響等を歴史的に考察することは「経営史」と呼ばれ、経営学の重要や研究分野の一つとなっています。少数の先進的な企業の行動が、やがて産業や社会のあり方までに影響を及ぼすことは、自動車産業や電子通信産業の発達とそれに伴う私たちの生活の変化を見ても明らかでしょう。経営者から見た経営の歴史は、産業の発展やそれに伴う社会の変化にまで影響を与えた国内外の代表的な経営者や、経営学の基礎を築いた研究者等の評伝を参考に、経営学の誕生、発展の軌跡をたどります。対象となる評伝の主人公のうち、フェヨールとテイラーは経営学の創生期にその基礎を築いた実務家です。メイヨーからハーズバーグまでの4人は主に組織論の分野で重要な活躍をした研究者であり、フォードからジョブスに至る5人は産業や経済、社会のあり方までに多大な影響を与えた企業の創設者です。シェイナードは企業の規模という意味では他の経営者と比較して異質の存在ですが、利益の追求という企業目標に地球環境の保全というさらに次元の高い目標を掲げ、事業の拡大を自ら自粛するという戦略を採用した点を考慮して、考察の対象としました。松永、本田、松下の3人は、戦後日本の経済成長を牽引した代表的な企業の経営者です。

到達目標(学習の成果)

15人の評伝を通じて、経営学に関する実践的知識の習得と、その知識を今日の経営課題の解決に活かすための、柔軟な発想について検討します。(DP3)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	アンリ・フェヨール:経営学の誕生・ラインとスタッフ・企画部の設置	事前	授業シラバスをプリントアウトして精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
2	フレデリック・W・テイラー:能率の追求・課業の概念・怠業・時間研究と動作研究	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
3	エルトン・メイヨー:産業における解決困難な3つの問題への挑戦、組織の生産性と人間的要因・非公式組織の発見	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
4	チェスター・I・バーナード:組織理論の先駆者・組織存立の要件としての有効性と能率	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
5	ロバート・ブラウナー:労働における疎外の研究・疎外の四類型と対策	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
6	フレデリック・ハーズバーグ:衛生理論・働く者のやる気を長続きさせるための動機付け要因の研究	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
7	ヘンリー・フォード:フォード社、大量生産体制の確立・垂直統合企業への道	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
8	アルフレッド・スローン:GM社の事業部制導入と多品種生産体制・マーケティング実務者の顔を持つ経営者	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
9	ジャック・ウェルチ:GE社の大改革・破壊(リストラチャリング)と創造(ワークアウト)と品質(シックス・シグマ・プログラム)	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
10	ビル・ゲイツ:お坊ちゃん天才プログラマーが開拓したパーソナルコンピュータの世界	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
11	スティーブ・ジョブス:ガレージから世界へ、その次の未来へ革新的技術の実用化によって描く完全な未来のイメージ	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
12	イヴォン・シェイナード:パタゴニヤ社・地球環境を視野に置いた百年企業の構想と地球税の導入	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
13	松永安佐衛門:今日の電力供給システムを築いた電力の鬼は今日の状況をどうみるか	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
14	本田宗一郎:町工場のカミナリ親父、世界に吠える・世界標準の追求・三現主義	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)
15	松下幸之助:日本型経営の創始者・水道哲学・新たな企業目標を設定し次々と実現していった経営の神様	事前	前回配布のワークシートを精読(2時間)
		事後	振り返りシートの作成(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

教育目標の中の問題解決力とネットワーク力の育成に重点を置いて授業を進めていきます。

◎毎回の授業では『ワークシート』と『振り返りシート』を配布します。

第1回にかぎり、これらの資料は授業当日に教室で配布します。第2回以降はクラスルームにPDFファイルとして掲示します。

◎毎回の授業の終了後に、『振り返りシート』をクラスルームからダウンロードし、毎回取り上げる経営学者や経営者の略歴、業績、今日の経営に活かすべき点等を記入してもらいます。その内容によって、問題可決能力や意思決定の方法、組織内外でのネットワーク構築の特色等に関する理解の程度を判断します。『振り返りシート』は次週の授業終了時に提出とします。

◎『期末試験課題レポート』は、「授業の中で検討した15人の研究者や経営者のうち、もっとも印象に残った人物について説明下さい」というテーマで実施します。印象に残った理由、これからの企業・組織経営のために参考になると思われる点などを、自分自身の言葉で説明して下さい。レポートの書式はA4版用紙1ページにワープロ文書で1600字から2000字程度、期末試験期間中の提出とします。

成績評価の方法・基準(%表記)

課題への取組の態度40%、課題レポート60%

観点	S	A	B	C
対象となる研究者・経営者の略歴・業績	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来る。	ある程度の理解ができています。	部分的に理解が不十分な点がある。
対象となる犬種者・経営者が社会に与えた影響	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来る。	ある程度の理解ができています。	部分的に理解が不十分な点がある。
対象となる研究者・経営者の業績の中で今日の経営に活かすべき点	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来る。	ある程度の理解ができています。	部分的に理解が不十分な点がある。

教科書

毎回、授業時間中にワークシートを配布し、考察の参考とします。

参考書等

スチュアート・クレイナー「マネジメントの世紀 1901-2000」 嶋口充輝監訳 2000年 東洋経済新報社

履修上の注意・学修支援

『ワークシート』と『振り返りシート』は、毎回の授業終了時にグーグルクラスルームにPDFファイルで保存します。授業を欠席した人はグーグルクラスルームから『ワークシート』と『振り返りシート』をダウンロードして活用してください。欠席した回の『振り返りシート』も毎回の授業終了時に提出することができます。

質問や連絡がある場合は、教育厚生棟7階の研究室まで、メールの場合は、naito@kyowa-u.ac.jpまで問い合わせてください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

全国農業協同組合連合会のシンクタンクである社団法人農協流通研究所調査研究部研究員として7年間勤務し、農林畜産水産物の流通、マーケティング関連の調査、商品企画等に従事。文教大学、日本大学、東京学芸大学、相模女子大学、東海大学等においてマーケティング論を中心に非常勤講師を務め、神奈川県卸売市場審議会委員等も務めました。

[実務経験と授業科目との関連性]

食品を中心とした幅広い製品の流通構造を実際に実証分析した経験から、より具体的な流通の実態を解説可能です。農産品を原料とする各種加工食品の新製品開発に参画した経験を持っています。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23J103 19J104	現代社会論	1年	秋	講義	2	小浜駿
授業概要 現代社会において多くの人が関心を持っていると考えられるトピックを取り上げ、それらのトピックが社会学においてどのように、どの程度研究されているか述べる。また、今後の日本社会をよりよいものにしていくために何が必要か、問題提起する。古典的な理論を随所に取り入れながら、定説化されていない最先端の論文知見をかみくだいて紹介する予定である。						
到達目標(学習の成果) 到達目標 現代における日本の現状について知ることができる(DP3) 高度な到達目標 現代社会における諸現象を社会的観点から考察したうえで、社会をよりよいものにするための提言を自分なりに述べられる(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本講義の概要を述べ、評価方法や注意事項などについて説明する。その後、現代社会について考察し、論ずるうえで必要な視点について概説する。	事前	シラバスを読んでおく(1時間)			
		事後	アップロード済みの資料のうち、興味を持てそうなところに目を通しておく。(3時間)			
2	ただ本を読むだけでは、複雑な現代社会を読み解くことはできない。web 検索や政府統計など、様々な情報取得手段について紹介する。	事前	第2回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	CiNii で興味のあるキーワードを検索する(3時間)			
3	19世紀と20世紀における家族の構造と役割について紹介した後、21世紀における家族のあり方について、特に母親に着目して説明する。	事前	第3回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「家族」についてインターネット記事を読んでおく(3時間)			
4	家族における父親の役割について述べる。また、父親が家族の役割を担うこと自体が現代的な現象であることを解説する。	事前	第4回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「メディア」についてインターネット記事を読んでおく(3時間)			
5	まず、マスメディアの技術的進歩について述べる。その後、そうした技術的な進歩によってマスメディアが我々に強い影響を持つようになったことを解説する。	事前	第5回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「SNS 社会学」で検索し、インターネット記事を読んでおく(3時間)			
6	ミニメディアに焦点を当て、2000年代からマスメディアの影響力が弱まり、より個人的なメディアコミュニケーションが発達したことについて解説する。	事前	第6回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「貧困 国際」で検索し、インターネット記事を読んでおく(3時間)			
7	まずブースとラウンダリーの貧困調査について取り上げ、絶対的貧困について解説する。その後、国際比較を通して日本の豊かさについて考察していく。	事前	第7回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「貧困 日本」で検索し、インターネット記事を読んでおく(3時間)			
8	相対的貧困をキーワードとし、国内における相対的な剥奪の様相について考察していく。	事前	第8回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「ダイエット」についてインターネット記事を読んでおく(3時間)			
9	過剰なダイエットや食料問題などから、日本における豊かさについて考察する。	事前	第9回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「整形」についてインターネット記事を読んでおく(3時間)			
10	摂食障害美容整形など、美を過剰に求める青年について着目し、現代における社会規定的な美の在り方について再考する。	事前	第10回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「幸せ 現代」で検索し、インターネット記事を読んでおく(3時間)			
11	メディア・貧困・食・美を総括し、現代において我々が希求すべき幸せのあり方について提言する。	事前	第11回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「イデオロギー」についてインターネット記事を読んでおく(3時間)			
12	古典的なイデオロギーについて解説した後、我々が今後選ぶべき国家のあり方について考察する。	事前	第12回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	「北欧 税金」で検索し、インターネット記事を読んでおく(3時間)			

13	消費税増税はなぜ必要なのか。政府のあり方という観点から解説する。その後、福祉を中心に現代日本と諸外国とを対比する。	事前	第13回資料を読んでおく(1時間)
		事後	「バッシング」についてインターネット記事を読んでおく(3時間)
14	日本はなぜすぐに政治のトップが入れ替わるのか。バッシングの背景に潜む様々なメカニズムについて考察する。	事前	第14回資料を読んでおく(1時間)
		事後	「現代社会」についてインターネット記事を読んでおく(3時間)
15	情報化社会やリスク社会など、現代の社会を捉えた用語はいくつもある。それらの用語に対する解説を通して、現代の社会の性質について考察する。	事前	第15回資料を読んでおく(1時間)
		事後	現代社会論について、自分なりの価値観をもって振り返る(3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし。

成績評価の方法・基準(%表記)

第3回から第12回までに、毎回500字程度のミニレポートを課す。10点×10回の得点を計上し、100点満点として評価する。

観点	S	A	B	C
日本の現状に対する理解		十分に習得できている	一定程度習得できている	最低限習得できている
社会をよりよくするための提言	一定程度述べられる	最低限述べられる		

教科書

使用しない。毎回授業資料を配布する。第2回から第15回は google classroom にアップロードしておく。

参考書等

『現代社会論 社会的課題の分析と解決の方策』松野弘著 ミネルヴァ書房 2017年 3850円

履修上の注意・学修支援

インターネット上でキーワードを調べる。例えば第2回は SNS、第3回は家族など。そのうえで、是非30件ほど簡単に眺めてほしい(精読は不要)。複数のページを見ることによって、現代社会を論じるうえで定説が存在せず、多様な意見にあふれていることを実感してほしい。また、毎回のミニレポートでは、自分の意見が良いものであるという前提に、是非堂々と主張を述べてほしい。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H101 19H101	生活経済論	1年	秋	講義	2	北浦さおり
授業概要 社会と個人という2つの視点から、普段の生活におけるお金について学び、現在や将来の生活に活かせる知識を身につけたり、自分自身の人生とお金について考えたりするきっかけが得られる。講義の前半は、消費生活について家計を中心に、労働や経済格差、幸福などについて考える。後半は、個人の人生や生活という視点からライフプランとお金について学ぶ。それぞれのテーマについて、グループワークやグループディスカッションを行い、議論を深める。						
到達目標(学習の成果) ・ライフプランとお金についての知識を身につけることができる(DP2) ・家計を構成する要因と関連する概念を理解することができる(DP2) ・消費生活や消費者を取り巻く問題と対応策について、自分なりに考えることができる(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	消費生活と消費者について学ぶ	事前	消費生活に関するトピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
2	物価、消費者物価指数について学ぶ	事前	物価について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
3	家計とは何か、家計調査を始めとする公的な統計調査について学ぶ	事前	家計について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
4	収入と資産、経済格差について学ぶ	事前	経済格差について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
5	貯蓄と負債について学ぶ	事前	貯蓄と負債に関するトピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
6	支出について学ぶ	事前	支出について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
7	ワーク・ライフ・バランスについて学ぶ	事前	ワーク・ライフ・バランスについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
8	賃金労働について、ジェンダーの観点から考える	事前	賃金労働に関するトピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
9	消費者問題と持続可能な消費について学ぶ	事前	消費者問題について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
10	幸福についての考え方や貧困との関係を学ぶ	事前	貧困問題について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
11	ライフプランとは何か、ライフプランに基づいてお金を考える	事前	ライフプランについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
12	資産形成について学ぶ	事前	資産形成について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
13	家計バランスやローンについて学ぶ	事前	家計バランスについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
14	自分自身のライフプランとお金について考える	事前	関連書籍を読む(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
15	生活経済にかかわる社会の変化を踏まえて個人の生き方を考える	事前	これまで扱ったトピックについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) グループディスカッション、グループワーク						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内小レポート・課題 20%、試験 80%

観点	S	A	B	C
家計とその関連する概念についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
消費生活・消費者問題とその対応策への考察	完全に考察できる	ほぼ完全に考察できる	十分に考察できる	一定程度考察できる
ライフプランとお金に関する知識の修得	完全に修得できている	ほぼ完全に修得できている	十分に修得できている	一定程度修得できている

教科書

特になし

参考書等

『概説 生活経済論』角田修一著 文理閣 2014年 ¥2,300

履修上の注意・学修支援

毎回の講義内で課される課題やグループワークをしっかりとこなすこと。

他の受講生に迷惑がかかるため、説明中の私語は厳禁だが、積極的な発言は歓迎する。

学習効果が高められるよう、疑問点はどんどん質問すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23E101 19E102	キャリアデザイン I	1年	秋	講義	2	野崎千晶

授業概要

VUCA 時代や人生百年時代において、主体的にキャリアを描くには、「自己理解」の重要性を認識し、時代に適応するための「ポータブルスキル」(持ち運びできるスキル)を身につけることが大切です。具体的には、「思考力」「行動力」「チームワーク力」から構成される「社会人基礎力」が重要で、これらをベースに、多様な人々と協働するスキルを学びます。本科目では、これらの力を学生生活で具体的に活かせる場面を想定し、また社会人として実践的なシーンでどのように応用できるかを考える機会を提供します。

到達目標(学習の成果)

- ①社会人として必要な基礎力を理解し、それらを身につけるための行動計画をたてる。(DP1 DP2 DP4)
- ②自分の強みや価値観の把握など、自身のキャリアを主体的に描くために必要な自己理解を深める。(DP1 DP2 DP4)
- ③本科目で得た知識や気づきを生かして、将来の職業選択について仮説をたてる。(DP3)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	【イントロダクション】 ・授業の進め方と目的について ・VUCA 時代のキャリアの描き方と社会人基礎力	事前	シラバスを読み理解する。(1 時間)
		事後	授業内容を振り返り、不明な点を明らかにし、自分で調べるか質問をする。(3 時間)
2	【自己理解】 ・自分自身の価値観の把握ワーク ・自分自身の強みの整理	事前	自分の興味のあることや強みについて考える。(1 時間)
		事後	授業内で提供されたワークシートを完成させる。(3 時間)
3	【社会に必要な力と社会人基礎力】 ・社会人(企業の人事担当者等)の講話から必要な力を知る ・必要な力「質問力」を磨く	事前	登壇企業について事前に調べておく。(1 時間)
		事後	ゲストの話を聞いた感想や気づきをまとめる。(3 時間)
4	【社会人基礎力～チームで働く力】 ・規律性について理解する ・会社の一般的なルールやチームの形	事前	学生と社会人の違いについて考えておく。(1 時間)
		事後	授業内容を振り返り、不明な点を明らかにし、自分で調べるか質問をする。(3 時間)
5	【社会人基礎力～チームで働く力】 ・発信力や傾聴力などのコミュニケーション ・ビジネスコミュニケーション	事前	講義2でまとめた自己理解の内容を確認する。(1 時間)
		事後	授業内で提供されたワークシートを完成させる。(3 時間)
6	【社会人基礎力～チームで働く力】 ・発信力や傾聴力などのコミュニケーション応用 ・プレゼンテーションのコツ	事前	前回授業で完成させたワークシートを見直す。(1 時間)
		事後	授業内で得たことを日常生活で実践する。(3 時間)
7	【社会人基礎力～チームで働く力】 ・柔軟性とストレスコントロール ・物事の捉え方のクセを知る	事前	自分がストレスに感じることを整理しておく。(1 時間)
		事後	授業内で得たことを日常生活で実践する。(3 時間)
8	【社会人基礎力～前に踏み出す力】 ・主体性がすべての出発点 ・主体性とアントレプレナーシップの考え方	事前	興味のある経営者について調べておく。(1 時間)
		事後	授業内で得たことを日常生活で実践する。(3 時間)
9	【社会人基礎力～考え抜く力】 ・課題発見力と解決力の論理を知る ・身近な課題の発見と解決方法を知る	事前	今の自分の困りごとを整理しておく。(1 時間)
		事後	授業内で提供されたワークシートを完成させる。(3 時間)
10	【社会人基礎力の実際】 ・企業で働く従業員の体験談 ・ワークライフバランスと自身のライフデザインを考える	事前	前回授業で完成させたワークシートを見直す。(1 時間)
		事後	授業内で得たことを日常生活で実践する。(3 時間)
11	【社会人基礎力の実際】 ・企業で働く若手社員の体験談 ・働くうえで大切なこと、学生時代にやることを聞く	事前	ゲストが働く企業について調べておく。(1 時間)
		事後	ゲストの話を聞いた感想や気づきをまとめる。(3 時間)
12	【社会人基礎力～考え抜く力】 ・創造力を引き出す ・デザイン思考を体感する	事前	イノベーションの事例について調べておく。(1 時間)
		事後	授業内で提供されたワークシートを完成させる。(3 時間)

13	【社会人基礎力～前に踏み出す力】 ・リーダーシップとは ・自身の実行力と行動力を振り返る	事前	理想のリーダー像を考えておく。(1時間)
		事後	授業内で得たことを日常生活で実践する。(3時間)
14	【社会人基礎力集大成】 ・目標設定と行動計画の立て方 ・大学生活の目標と行動計画を設定する～「学チカ」づくり	事前	講義2でまとめた自己理解についてこれまでの実践を踏まえてブラッシュアップしておく。(1時間)
		事後	授業内で提供されたワークシートを完成させる。(3時間)
15	【キャリアデザインまとめ】 ・成長のポイント「経験学習サイクル」を知る ・各自の気づきのまとめと共有	事前	これまで作成したワークシートや実践の内容を整理しておく。(1時間)
		事後	目標達成のために最初にやることを実践する。(3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

各回テーマに沿って、講義とワーク(グループワーク、またはワークシートを活用した個人ワーク)で構成する。グループワークについては、テーマを定めたディスカッションやゲームを実施する。正解がないテーマであることから、各々が考えることを重視してワークをすすめる。また外部講師をお招きするなど、多様性を意識して授業を展開する。また各回共通して事前学習1時間、事後学習3時間程度を想定するが、実践中心の構成としている。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末レポート(40%) 平常レポート(30%) 授業意欲(30%)

観点	S	A	B	C
自分の強みと弱みを理解し、社会でどのように活かせるかを考え実践するための自己理解力	完全にできている	ほぼ完全にできている	概ねできている	一定程度できている
社会に関心を持ち、必要なスキルを理解し、それらを積極的に身につけようとする自己成長意欲	完全にできている	ほぼ完全にできている	概ねできている	一定程度できている
学んだことや自身の気づきを言語化し表現することができる力	完全にできている	ほぼ完全にできている	概ねできている	一定程度できている

教科書

特になし(授業内でスライド投影及び印刷物を配布)

参考書等

経済産業省「人生百年時代の社会人基礎力」パンフレットに目を通しておく。

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/Ecforthe100-yearlife.pdf>

履修上の注意・学修支援

- ・異なる意見や他者の価値観を否定することなく、自他ともに尊重する。
- ・時間や締切りを守る、報告連絡相談等、基本的な社会人マナーを守る。
- ・遅刻、欠席は学内ルールに従って所定の手続きを行う。
- ・定期試験結果の全体的な傾向はクラスルームで提示する

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

金融機関での営業およびマネジメント職の経験を積んだ後、人材業界において、人材のキャリア支援、企業の採用・定着支援、組織開発支援に従事してきた。現在の職務では、人材および企業支援の事業企画・運営、及び組織のマネジメントに携わっており、自ら社内起業をするなど多様なキャリアの実現をテーマに事業に向き合っている。

[実務経験と授業科目との関連性]

キャリアコンサルタントおよびワーク・ライフバランスコンサルタントとして、学校や就職支援機関で多様な人材に対する就職支援業務を担当する。同時に、企業には、経営者や人事担当者向けに講演会の開催や従業員研修を実施している。実践的な経験から得た多くの事例を通じて、学生の皆さんが社会に出た際に主体的で楽しく仕事に取り組むための考え方やスキルを育むため、学生時代から少しずつ取り組めることを伝える。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A201 19A202	実用英語 / 実用英語 I	2年	通年	講義	2	石崎達也
授業概要 日常生活で使用する実用的な英語表現を学習しながら、英語の文法、語彙、音声、意味について理解を深める。 TOEIC Listening and Reading Test の問題形式に対応したテキストを使用し、英語の技能(リスニング、リーディング)を総合的に育成するとともに、問題文を使用してスピーキング能力の向上を図る。 SDGs #11(住み続けられるまちづくりを)に関する英語の文書を読み、自分の興味のある社会問題に関する意見や解決手法を英語で主張するライティング能力を身につけることを目指す。						
到達目標(学習の成果) 英語の文法、語彙、音声、意味に関する知識を習得することが出来る。(DP1) 実用的な英語表現を使用して、他者とコミュニケーションすることが出来る。(DP1) シティライフ学の分野における社会問題について、英語で自らの考えを主張出来る。(DP2, DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	Restaurants (Listening)	事前	ユニット 01 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 01 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
2	Restaurants (Reading)	事前	ユニット 01 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 01 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
3	Offices (Listening)	事前	ユニット 02 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 02 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
4	Offices (Reading)	事前	ユニット 02 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 02 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
5	Daily Life (Listening)	事前	ユニット 03 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 03 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
6	Daily Life (Reading)	事前	ユニット 03 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 03 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
7	Personnel (Listening)	事前	ユニット 04 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 04 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
8	Personnel (Reading)	事前	ユニット 04 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 04 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
9	Shopping (Listening)	事前	ユニット 05 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 05 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
10	Shopping (Reading)	事前	ユニット 05 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 05 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
11	Finances (Listening)	事前	ユニット 06 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 06 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
12	Finances (Reading)	事前	ユニット 06 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 06 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
13	Transportation (Listening)	事前	ユニット 07 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 07 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
14	Transportation (Reading)	事前	ユニット 07 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 07 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
15	Review I	事前	ユニット 01～ユニット 07 の音声データを聴くこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 01～ユニット 07 の問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			
16	Technology (Listening)	事前	ユニット 08 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 08 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)			
17	Technology (Reading)	事前	ユニット 08 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)			
		事後	ユニット 08 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)			

18	Health (Listening)	事前	ユニット 09 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 09 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)
19	Health (Reading)	事前	ユニット 09 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 09 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)
20	Travel (Listening)	事前	ユニット 10 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 10 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)
21	Travel (Reading)	事前	ユニット 10 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 10 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)
22	Business (Listening)	事前	ユニット 11 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 11 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)
23	Business (Reading)	事前	ユニット 11 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 11 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)
24	Entertainment (Listening)	事前	ユニット 12 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 12 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)
25	Entertainment (Reading)	事前	ユニット 12 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 12 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)
26	Education (Listening)	事前	ユニット 13 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 13 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)
27	Education (Reading)	事前	ユニット 13 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 13 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)
28	Housing (Listening)	事前	ユニット 14 Part1～Part4 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 14 音声データを聴き、復習すること。(1 時間)
29	Housing (Reading)	事前	ユニット 14 Part5～Part7 の例題を予習しておくこと。(1 時間)
		事後	ユニット 14 問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)
30	Review II	事前	ユニット 08～ユニット 14 の音声データを聴くこと。(1 時間)
		事後	ユニット 08～ユニット 14 の問題文を使用し、スピーキングの練習をすること。(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 50% 小テスト 30% レポート 20%

観点	S	A	B	C
英語の文法、語彙、音声、意味に関する知識	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
実用的な英語表現	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
英語で自分の考えを主張する能力	完全に習得できている	ほぼ完全に習得できている	十分に習得できている	一定程度習得できている

小テストの正答については、テスト終了後に提示する。

教科書

角山照彦・Simon Capper 著 『コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC® L&R TEST〈中級編〉 A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate』成美堂 2023 年 2,530 円

参考書等

服部義弘編『音声学』朝倉書店 2012 年 3,080 円

履修上の注意・学修支援

「総合英語」[オーラルイングリッシュ]の授業を受講し、さらに英語を学習したい学生が受講できる。
この授業では、個人またはグループでの学習・調査・考察を行う時間を取るの、積極的に参加すること。
英語の辞書(電子辞書も可)を持参すること。
私語を慎み、他の学生に迷惑となる行為をしないこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A202 19A203	フランス語	2年	通年	講義	2	守永直幹
授業概要 フランス語初習者を対象に、フランス語の基礎を学びます。フランス語の基本的な発音や文法や表現に慣れてもらうことを目的とします。たんに文法学習にとどまらず、フランスの文化や社会への関心を持ってもらうために、ビデオやシャンソンを視聴する機会を積極的に設けたいと思います。						
到達目標(学習の成果) 1. フランス語のつづりと発音の仕組みを理解すること。(DP1) 2. フランス語の平易な文章を発音できるようになること。(DP1) 3. 基本的な文章を読解し、理解できるようになること。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	教科書の説明。フランスおよびフランス語の特徴の紹介。アルファベットの読み方。「オ・シャンゼリゼ」を聴く。	事前	教科書を入手し、眺めておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
2	【フランス語であいさつをする。自分を紹介する】フランス語の発音の規則を学ぶ／「オ・シャンゼリゼ」を聴く。	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
3	【情報を得る1】第一群規則動詞 parler と動詞 avoir の活用／疑問文／「オ・シャンゼリゼ」を聴く。	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
4	【情報を得る2】第一群規則動詞 parler と動詞 avoir の活用／疑問文／「オ・シャンゼリゼ」を聴く。	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
5	【持ち物をいう1】名詞の性と数／不定冠詞と定冠詞／指示形容詞／人称代名詞	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
6	【持ち物をいう2】名詞の性と数／不定冠詞と定冠詞／指示形容詞／人称代名詞	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
7	【家族を紹介する1】形容詞／所有形容詞	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
8	【家族を紹介する2】形容詞／所有形容詞	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
9	【予定をいう1】動詞 aller, venir の活用／近接未来・近接過去／前置詞と定冠詞の縮約／命令法／中性代名詞	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
10	【予定をいう1】動詞 aller, venir の活用／近接未来・近接過去／前置詞と定冠詞の縮約／命令法／中性代名詞(1)	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
11	【食事をする1】部分冠詞／疑問代名詞／中性代名詞(2)	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
12	【食事をする2】部分冠詞／疑問代名詞／中性代名詞(2)	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
13	【日課をいう1】代名動詞／疑問形容詞／非人称構文	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			
14	【日課をいう2】代名動詞／疑問形容詞／非人称構文	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)			
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)			

15	【前期のまとめ】さまざまな動詞活用	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
16	【人や物を言いかえる1】目的語人称代名詞／所有代名詞／指示代名詞	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
17	【人や物を言いかえる2】目的語人称代名詞／所有代名詞／指示代名詞	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
18	【過去を語る1】直説法複合過去／代名動詞の複合過去	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
19	【過去を語る2】直説法複合過去／代名動詞の複合過去	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
20	【人や物を比べ説明する1】比較／関係代名詞／強調構文	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
21	【人や物を比べ説明する2】比較／関係代名詞／強調構文	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
22	【将来や未来を語る1】直説法単純未来／現在分詞とジェロンディフ	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
23	【将来や未来を語る2】直説法単純未来／現在分詞とジェロンディフ	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
24	【思い出を語る1】直説法半過去／受動態	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
25	【思い出を語る2】直説法半過去／受動態	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
26	【仮定や願望を語る1】条件法現在／直接話法と間接話法	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
27	【仮定や願望を語る2】条件法現在／直接話法と間接話法	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
28	【感情や希望を表現する1】接続法	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
29	【感情や希望を表現する2】接続法	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)
30	【後期のまとめ】さまざまな動詞活用	事前	教科書を眺め、今回の内容について見ておくこと。(1時間)
		事後	授業中に学んだ重要表現をノートに書き、音読すること。(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ペアワーク、グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

1. 毎回、授業中に簡単な【小課題(=小テスト)】をやってもらいます。(30%)
2. 月に2~3回ワークブックを【大課題】として提出してもらいます。(30%)
3. 後期末31回目に【後期試験】を行ないます。(40%)

観点	S	A	B	C
フランス語の文字を読めて、基本的な表現を理解できるようになる	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
フランス語での挨拶や自己紹介ができるようにする	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
フランス語を用い、日常生活に必要な表現ができる力を養う	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

書籍名 オ・パ・カマラッド——足並みそろえて、フランス語(改訂二版)

著者名 藤本武司 他著

出版社 駿河台出版社

価格 2600円+税

参考書等 (辞書)

*参考までに下に辞書を挙げておきますが、自分の好みの辞書を使ってかまいません。

書籍名 プチ・ロワイヤル仏和辞典 第5版 小型版

著者名 倉方 秀憲 他著

出版社 旺文社

価格 4180円

履修上の注意・学修支援

1. 語学を学ぶ上で、声に出して読むこと、自分の手で書くことがとても重要です。授業に積極的に参加するのはもちろん、家での学習の際もできるだけ声に出し、ノートに書くことを心がけて下さい。
2. 英語とは異なり、フランス語はつづりと発音が密接に結びついています。明確なルールがありますから、それをなるべく早いうちに身につけることが重要です。
3. フランス語は文法や語彙が英語と非常によく似ています。フランス語を学ぶことで知らぬうちに英語力も向上します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A203 19A204	ドイツ語	2年	春	講義	2	本年度不開講
授業概要 ドイツ語学習を通じて、ドイツ語文化圏への理解を深め、EUの中心的な存在であり環境対策先進国でもあるドイツ連邦共和国の現状等を知ることを目的とする。ドイツ語を学習するにあたり語学の基本である文法の学習、発音の仕方、ヒアリングのトレーニングなどを順序立てて学習していく。						
到達目標(学習の成果) ドイツ人とのコミュニケーション(簡単なドイツ語会話)やドイツの新聞記事、コラム等を理解できるようになることを前提に、実際のドイツ語習得を出来るようにする。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	文字と発音について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
2	発音練習をする	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
3	規則変化動詞の使い方	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
4	動詞の位置について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
5	sein と haben についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
6	名詞の性と数について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
7	冠詞と名詞格変化の使い方	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
8	不規則変化動詞について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
9	命令形について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
10	定冠詞類/不定冠詞類についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
11	指示代名詞/疑問代名詞についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
12	人称代名詞の格変化についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
13	前置詞の格支配について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
14	話法の助動詞/未来形の使い方	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
15	従属接続詞と定動詞の位置についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
16	分離動詞/再帰動詞について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
17	es の用法についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			
18	形容詞の格変化について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)			
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)			

19	形容詞の名詞化について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
20	動詞の3基本形についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
21	過去人称変化の使い方	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
22	完了形の使い方	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
23	関係代名詞について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
24	比較級と最上級の表現方法	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
25	zu 不定詞についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
26	受動形の使い方	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
27	接続法について学習する	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
28	文法の総復習をする	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
29	長文読解についての解説	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)
30	長文読解の応用練習	事前	指定された範囲の予習(1時間)
		事後	各課の練習問題の実施および復習(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ・ドイツ語による簡単な質疑応答。
- ・ドイツの文化やドイツにおける環境問題について調べ、発表する。
- ・教科書の各課のコラムについて簡単なドイツ語を用いてディスカッションをする。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験…60% 授業への取り組み…40%

観点	S	A	B	C
ドイツ語の基本的なルール の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
ドイツ語文章の概要や要点 の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
身近な事柄についてのドイツ語での表現	完全に表現できている	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

わかるぞドイツ語！ みえるぞドイツ！(WEB改訂版) 春日 正男/松澤 淳 著 朝日出版社

参考書等

なし

履修上の注意・学修支援

教科書の予習復習をしっかり行う。

音声再生アプリ「リスニング・トレーナー」を使用して発音とヒアリングの練習をする。

遅刻3回で欠席1回とみなします。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A204 19A205	中国語	2年	通年	講義	2	本年度不開講

授業概要

本科目は、在日外国人住民の中で最も割合の高い中国人とのコミュニケーション場面を念頭に、現代中国語の文の基本的な構成を理解し、日常会話や簡単なコミュニケーションができること、今後継続的に中国語を勉強するための基礎を築くことを目標とする。中国語を学ぶ第一歩として、中国語の正確な発音を身につけ、簡単な挨拶・日常会話、初歩的な基礎文法を理解し、応用することを学ぶ。中国語発音表記ピンインを覚え、正確に発音練習をするとともに中国の簡体字を認識する工夫をする。漢字を多く読めれば、認識できる語彙が増えるので基本句型を増やしながらか日常や身近な話題について会話練習をし、同時に中国の文化・社会に対する理解を深め、異文化リテラシーを養う。

到達目標(学習の成果)

1. 正しい発音ができる。(DP1、DP2)
2. 基本文法を理解し、応用できる。(DP1、DP2)
3. 簡単な挨拶、日常会話ができる。(DP1、DP2)
4. 簡単な中国語の文章を理解し、書ける。(DP1、DP2)
5. 中国語検定試験(HSK2 級)にチャレンジできる。(DP1、DP2)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	みんなと仲良く学ぼう！ 初対面の挨拶、中国語で名前を言う、自己紹介	事前	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
2	声調・単母音の発音練習、数詞	事前	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
3	子音・軽声の発音練習、リスニング	事前	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
4	複母音の発音練習、声調記号、リスニング	事前	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
5	鼻母音の発音練習、リスニング	事前	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
6	声調変化のルール、「第三声」・「一」・「不」の変調、声調の組合せ練習、確認テスト	事前	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	テキスト CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
7	第一課 挨拶、人称代名詞、苗字・名前の言い方トレーニング	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
8	第一課 名詞述語文、職業、疑問文「是～吗？」	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
9	第二課 指示代名詞、疑問詞・疑問文、助詞「的」	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
10	第二課 基本動詞・動詞述語文、形容詞述語文	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
11	総合練習・確認テスト	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
12	第三課 頤和園はどこ？ 場所代名詞、所有を表す動詞「有」、所在を表す「在」	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
13	第三課 どこにいる？ 方位詞、場所の説明	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
14	第三課 レストランで 数詞、メニューの注文	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)

15	まとめ、文の組み立て、作文の練習、質疑応答	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
16	第四課 時間の表現 カレンダー・時計を読むトレーニング	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
17	時間詞の応用練習、総合会話トレーニング	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
18	第五課 完了表現 動作の完了「了」、文末の「了」、会話トレーニング	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
19	第五課 経験の表現 経験を表す「过」、動詞量の表現、「好吗？」	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
20	第六課 買い物表現 値段の尋ね方、助動詞「想」、手段・方法の尋ね方「用」	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
21	第六課 ～ができる・～していい？ 助動詞「会」「能」「可以」、様態補語、趣味の表現	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
22	文法のまとめ、確認テスト、総合会話トレーニング	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
23	第七課 選択疑問表現 選択疑問文、反復疑問文、前置詞「在」	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
24	第七課 比較表現 比較文、場面会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
25	第八課 存現文 自然現象、「～着」・「～还」	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
26	第九課 方向補語、結果補語、可能補語	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
27	第十課 近未来表現、使役表現、仮定表現	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
28	第十一課 趣味の表現、二重主語、動詞の重ね式	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
29	第十二課 受身表現、「是…的」構文、応用練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	新出語句を書きながら覚え、応用練習をする。(1 時間)
30	まとめ復習、文書の組み立て、質疑応答	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。(1 時間)
		事後	総復習をする(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ペアワーク、グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

学期定期試験の成績をもとに評価するが、レポート、出席状況や学習意欲も適宜加味する。

学期期末試験(60%) 確認テスト(20%)、レポート(10%)、作文(10%)

観点	S	A	B	C
読む(ピンイン・声調)	正確に読める。	ほぼ読める。	十分に読める。	一定程度読める。
書く (ピンイン・簡体字・作文)	正確に書ける。	ほぼ書ける。	十分に書ける。	一定程度かける。
聞く	正確に聞き取れる。	ほぼ聞き取れる。	十分に聞き取れる。	一定程度聞き取れる

教科書

「楽しい中国語 第一歩」 ISBN978-4-255-45271-5 朝日出版 山下輝彦 著 (2300+税)

参考書等

HSK 基本語彙 1級—4級 978-4-86398-070-9 白帝社 郭春貴 郭久美子 編著 (2000+税)

中国語基本単語帳 ISBN978-4-255-45374-7 朝日出版 早稲田大学商学部中国語教室 編著 (1600+税)

履修上の注意・学修支援

- ・辞書を用意すること。好奇心と発想力を持参して授業に取り組むこと。
- ・一つの言葉を獲得することはもう一つの文化・価値観を手に入れることになる。日本文化と違う視点からその違いを楽しもう！

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A205 19A206	韓国語	2年	通年	講義	2	鄭仁淑

授業概要

日本の中で、ここ数年韓国の映画、ドラマ、K-POPなどが好きな人々が次第に増えている。それに伴い韓国語学習熱は高まる傾向である。韓国の文化と韓国語が分かれば、もっと楽しむ事が出来ると思われる。特に韓国語は日本語と文法構造が非常に似ていて、覚えやすい外国語の一つでもある。

前期では、韓国語の文字の読み書き、発音を中心に学ぶ。挨拶、簡単な基礎会話が言えるようになる。

後期では、韓国語の文字の読み書き、発音を復習しながら、基礎会話の運用能力を高める。さらに言語の背景にある韓国文化や韓国社会の事情など、多面的に韓国を理解することが出来る。

到達目標(学習の成果)

韓国の文化と生活について知り、韓国について理解を深めることができる。

日本語と韓国語との関連性を理解し、日本語をハングルで表記できるようになる。

ハングルの母音と子音、パッチムについて学び、ハングルの文字が読めるようになる。

色々な表現を学び、韓国語で自分の自己紹介ができるようになる。(DP1)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	P16 母音 아 이 어 우 오 으 子音 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㄴㅇ	事前	韓国のドラマ、映画などを見て韓国語に触れる。(1時間)
		事後	学習した母音と子音を覚える(1時間)
2	P16 母音 야 여 요 유 子音 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㄴㅇ	事前	前回学んだ事を復習し、今回学ぶところを予習。(1時間)
		事後	学習した母音と子音を覚える(1時間)
3	P18 母音 의 パッチム ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㄴㅇ パッチムのプリント配布	事前	テキスト、パソコンを使って、パッチムが何かを調べ理解しておく(1時間)
		事後	学習したパッチムの発音を練習する。(1時間)
4	P20 母音 에 애 외 왜 웨 子音 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㄴㅇ	事前	2重母音について予習する(1時間)
		事後	新しく学習した子音を覚える(1時間)
5	P20 パッチム ㄱ ㄴ ㄷ 発音のルールプリント配布	事前	3回目の時に配布したパッチムのプリントを復習(1時間)
		事後	新しく学習したパッチムの発音を練習する(1時間)
6	P22 母音 애 예 위 와 위 子音 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㄴㅇ	事前	5回目の時に配布した発音のルールのプリントを読む(1時間)
		事後	学習した濃音の練習をする(1時間)
7	2重パッチム プリント配布	事前	ハングルの基本音節表を覚える(1時間)
		事後	2重パッチムを理解し読めるようにする(1時間)
8	韓国の伝統遊び及びゲームを体験し、韓国の文化について理解を深めることができる。	事前	ハングルの基本音節表を覚える(1時間)
		事後	友達と韓国のゲームをやってみる(1時間)
9	P24~29 表現 예요/이에요 「名+です/ですか。」の表現を学び、国と職業が言えるようになり、簡単な自己紹介が出来るようになる。	事前	翻訳・文法解説 P17~18 を読んで来る(1時間)
		事後	授業中に練習した自己紹介を練習する(1時間)
10	P30~37 表現 이게/그게/저게/뭐예요? 「これが/それが/あれが/何ですかの」表現を学び、韓国語で何というかが確認できる。	事前	翻訳・文法解説 P18~19 を読んで来る(1時間)
		事後	学習した単語を覚える(1時間)
11	P38~45 表現 있어요/없어요 고유숫자 「あります/ありません」の表現を学び物のあるかないかが言えるようになる。 固有数詞を学び、数字が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P19~20 を読んで来る(1時間)
		事後	固有数詞を覚える(1時間)

12	固有数詞を使ったゲーム	事前	前回学習した固有数詞を復習する (1 時間)
		事後	数詞を使うゲームを韓国語でやってみる (1 時間)
13	P 38～45 表現 개(個) 명(名) 장(枚) 권(冊) 잔(杯) 마리(匹、頭) 固有数詞を使う助数詞を学び、数が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P20～21 を読んで来る (1 時間)
		事後	日常生活で使えそうな助数詞を覚える (1 時間)
14	P 46～53 表現 가/이 장소 助詞「～が」と場所の表現を学び、ここがどこか確認できるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P21 を読んで来る (1 時間)
		事後	テキスト P48 の場所の単語を使って会話の練習をする (1 時間)
15	P 46～53 表現 ～에 있어요/없어요 助詞「～に」と「います/いません」の表現を学び、人がどこにいるかが分かるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P22 を読んで来る (1 時間)
		事後	韓国のドラマや映画を見て、知っている表現を確認してみる (1 時間)
16	P 54～69 表現 漢数詞、 電話番号が言えるようになる 小テスト	事前	前期に学習した内容を復習しておく (1 時間)
		事後	漢数詞を覚える (1 時間)
17	P 54～69 表現 韓国のお金 物の値段を聞くことが出来る。 小テスト	事前	漢数詞を復習する (1 時間)
		事後	品物の値段が韓国語で言えるように練習する (1 時間)
18	P 54～69 表現 何月何日 誕生日が言えるようになる。 小テスト	事前	翻訳・文法解説 P24 を読んで来る (1 時間)
		事後	家族の誕生日の言い方を練習する (1 時間)
19	P 70～87 表現 時間 (場所)에 가요 時間の表現を学び、「何時にどこに行くか」が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P25 を読んで来る (1 時間)
		事後	時計を見ながら時間の練習をする (1 時間)
20	P 70～87 表現 아요/어요/여요 (時間)에 会話形式の「です/ます」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P25～26 を読んで来る (1 時間)
		事後	動詞、形容詞の原型を ㄹ形に変える練習をする (1 時間)
21	P 88～105 表現 를/을 目的を表す「～を」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P27～28 を読んで来る (1 時間)
		事後	テキスト P92 を ㄹ形に変える (1 時間)
22	P 88～105 表現 ～에서 「(場所)～で」の表現を学び、どこで何をすることが言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P29 を読んで来る (1 時間)
		事後	学習した内容を復習する (1 時間)
23	P 88～105 表現 요일 曜日の表現を学び、「何曜日にどこで何をするか」が言えるようになる。	事前	曜日の単語を調べる (1 時間)
		事後	一週間何をするか韓国語で文章を書いてみる (1 時間)
24	P 106～123 表現 왔/왔/였어요 「ました/でした」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P29～30 を読んで来る (1 時間)
		事後	テキスト P113 の単語を過去形に変える。 (1 時間)
25	P 106～123 表現 안～, ～도 否定形と「～も」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P30 を読んで来る (1 時間)
		事後	テキスト P113 の単語を否定形に変える (1 時間)
26	P 106～123 表現 시간, 으불규칙 時間を表す表現と ㄹ不規則の単語を使った表現が出来る。	事前	翻訳・文法解説 P30 の ㄹ不規則を読んで来る (1 時間)
		事後	ㄹ不規則を理解し、変換を覚える (1 時間)
27	P 124～139 表現 위, 아래, 앞, 뒤 으러 가요/와요 位置方向を表す表現を学び、「どこに何をしに行くのか」が言えるようになる。	事前	位置を表す単語に何があるか考えて来る (1 時間)
		事後	学習した位置を表す単語をジェスチャーと共に覚える (1 時間)
28	P 124～139 表現 ～하고 ㅂ니다/습니다. 았습니다/었습니다. 丁寧な「ます/です」「ました/でした」の表現を学び、「誰と何をします(しました)」が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P32～33 を読んで来る (1 時間)
		事後	翻訳・文法解説 P33 の単語を現在と過去形に直してみる (1 時間)
29	P 140～157 表現 (으)로, (으)세요, ～지 마세요 道具、手段、方法を表す表現と 「～下さい ～しないでください」の表現を学び、 命令形、禁止命令形が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P34 を読んで来る (1 時間)
		事後	よく使う動詞を命令形と禁止命令形に直してみる (1 時間)

30	P 140～157 表現 ～에서 까지/ ～고 싶어요 ～(場所)から～(場所)まで/～したいです。の表現を学び、 自分がやりたい事が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P35 を読んで来る (1 時間)
		事後	韓国語を学んでやってみたいことを書く (1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ゲーム、グループ活動

成績評価の方法・基準(%表記)

授業中のゲーム、グループ活動(20%)、授業への取り組み(小テスト)(30%)、期末テスト(50%)(持ち込み可)

観点	S	A	B	C
主語や術後の関係など、文法的確さ	完全に的確に達成できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
誤字、脱字がない文章	完全に誤字、脱字がない	ほぼ完全に誤字、脱字がない	少し誤字、脱字がある	誤字、脱字がやや多くある
韓国語で文章が作れる	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

教科書

서강 한국어 1A (西江韓国語1A) 西江大学韓国語教育院 2,600 円+税

参考書等

特になし

履修上の注意・学修支援

日本語と文法が似ているため日本人に学びやすい言語ですので、外国語の興味がある方は是非チャレンジしてみてください。
通年の授業ですので、1年間履修が必要です。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

NHK文化センターでの韓国語会話

リビングとちぎでの韓国語会話

県内小中高校での韓国文化紹介

[実務経験と授業科目との関連性]

韓国語講師で培った経験を基に、文法や基礎会話を分かりやすく教える。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A206 19A207	日本語応用 / 日本語応用 I	2年	秋	講義	2	松田勇一
授業概要						
1週間に2回の授業を行い、指定のテキストに沿って授業を進める。論説文の読解練習を中心におくが、討論、発表なども行い、学生たちが積極的に授業に参加することを期待する。テキスト本文に関連する最新の新聞、雑誌記事なども必要に応じて配布するので、それらもあわせて読む練習をする。						
到達目標(学習の成果)						
<ul style="list-style-type: none"> 日本語のレポートや学術論文などを読むのに必要な日本語文法および論説文を読み解くために役立つ論文構造に関する基礎的知識を身につける。(DP1「コミュニケーション力」) 専門分野の論文を独力で読んでいくための基礎的読解力を身につける。(DP2「情報力」) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	段落内の構造理解 導入	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
2	段落内の構造理解 読解と討論	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
3	段落内の構造理解 文法理解	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
4	中心主題読み取り 導入	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
5	中心主題読み取り 本文読解	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
6	中心主題読み取り 文法理解	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
7	中心主題読み取り 補助教材読解	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
8	文章概要読み取り 導入	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
9	文章概要読み取り 本文読解	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
10	文章概要読み取り 語彙確認	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
11	文章構成読み取り 導入	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
12	文章構成読み取り 本文読解	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
13	文章構成読み取り 語彙文法整理	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
14	図表説明読み取り 導入	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
15	図表説明読み取り 本文読解	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
16	図表説明読み取り 語彙文法整理	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
17	定着度確認テスト	事前	これまでのテキストの復習(1時間)			
		事後	確認テストの復習(1時間)			
18	事実と意見の読み取り 導入	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			

19	事実と意見の読み取り 本文読解	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
20	事実と意見の読み取り 関連雑誌記事読解	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
21	論の展開法 導入	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
22	論の展開法 本文読解	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
23	論の展開法 語彙文法整理	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
24	引用表現読み取り 導入	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
25	引用表現読み取り 本文読解	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
26	引用表現読み取り 語彙文法整理	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
27	要約文の作成 導入と本文読解	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
28	要約文の作成 語彙読解練習	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
29	要約文の作成 関連記事読解	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
30	研究論文読解実践練習	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ペアワーク、グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

中間試験(30%)、期末試験(50%)、クラスでの口頭発表と小テスト(20%)などを総合評価する。

観点	S	A	B	C
教科書にある表記(漢字を含め)を正確に理解し、自身でも再生産する。	ほとんど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	ときどき間違えることがある
論説文の内容を理解し、概要をまとめる。	正確に理解できる	ほぼ問題なく理解できる	おおむね理解できる	不十分な部分もあるがほぼ可能
読み取った内容をもとに自身の意見を表明する。	自由に意見表明できる	おおむね伝えられる	不十分なところもあるがほぼ可能	多少わかりにくい部分がある

教科書

講義において指示する

参考書等

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク ¥1,980

履修上の注意・学修支援

1週間に2回の授業を行い、両方受講して2単位取得となる。授業の中でさまざまな活動を行うので出席を特に重視する。遅刻もしないよう努力すること。全授業回数の2/3以上出席しないと期末試験の受験資格を失う。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23A207 19A209	日本語上級 / 日本語上級 I	2年	春	講義	2	松田勇一
授業概要 日本語能力試験 N2～N1 レベルの「文法」「文字」「語彙」の能力を高めるため、練習問題に取り組む。具体的には、教科書に沿って練習問題を解き、解答及び解説を行う。解説では、関連する文法事項などの確認を適宜行い、着実な基礎の構築を目指す。						
到達目標(学習の成果) 日本語能力試験 N2～N1 レベルの「文法」「文字」「語彙」知識を理解し、その知識を適切に運用できる。(DP1・DP2・DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	時の表現(1)同時進行	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
2	時の表現(2)物事の直後を表す	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
3	時の表現(3)始まりや終わりを表す	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
4	接続表現(1)順接:条件を表す	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
5	接続表現(2)順接:理由目的等を表す	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
6	接続表現(3)逆接の表現	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
7	動作・作用の表現(1)後に来る状況を表す	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
8	動作・作用の表現(2)比較対象の表現	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
9	動作・作用の表現(3)組にして用いる表現	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
10	状況や様子の表現(1)「ごとく」「ずくめ」「っぱなし」「ばかりに」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
11	状況や様子の表現(2)「ともなしに」「ながらに」「なりに」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
12	状況や様子の表現(3)「にあって」「にいたる」「にたえない」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
13	状況や様子の表現(4)「にたる」「まみれ」「めく」「をもって」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
14	強調する表現(1)「あつての」「からある」「ごとき」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
15	強調する表現(2)「すら」「ただ」「のみ」「たりとも」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
16	強調する表現(3)「ときたら」「でなくてなんであろう」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
17	強調する表現(4)「とは」「にして」「ばかり」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			
18	強調する表現(5)「まじき」「をにおいて」「んがため」	事前	テキストの予習(1時間)			
		事後	テキストの復習(1時間)			

19	否定の表現(1)「てやまない」「といたらありはしない」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
20	否定の表現(2)「にはあたらない」「にかたくない」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
21	否定の表現(3)「べからず」「までもなく」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
22	否定の表現(4)「きんじえない」「ずにはおかない」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
23	否定の表現(5)「ずにはいられない」「ずにはすまない」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
24	否定の表現(6)「ないものでもない」「ないではすまない」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
25	文末表現(1)「きらいがある」「しまった」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
26	文末表現(2)「というところだ」「といったところだ」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
27	文末表現(3)「ばそれまでだ」「までのことだ」「をよぎなくされる」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
28	機能的表現(1)「なんてよくいえる」「ないともかぎらない」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
29	機能的表現(2)「にこしたことはない」「もさしつかえない」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)
30	機能的表現(3)「てはかなわない」「てみせる」	事前	テキストの予習(1時間)
		事後	テキストの復習(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ペアワーク、グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

漢字の小テスト 40%+授業での発言・発表 10%+期末試験 50%

観点	S	A	B	C
日本語能力試験 N2~N1 レベルの「文法」知識に関して理解し、自分でも再生産する	殆ど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	ときどき間違えることがある
日本語能力試験 N2~N1 レベルの「文字」「語彙」知識に関して理解し、自分でも再生産する	殆ど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	ときどき間違えることがある

教科書

講義において指示する

参考書等

インターカトル日本語学校 著『一発合格 日本語能力試験 N1 完全攻略テキスト&実践問題集』ナツメ社 ¥1,980

履修上の注意・学修支援

出席が3分の2以上に満たない者については、成績認定を行わない。

本科目は、留学生が対象である。そのため、日本人学生は受講することができない。

欠席の場合、やむを得ない理由以外は、小テストは0点となる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23P201 19P201	地球環境論	2年	春	講義	2	吉田肇
授業概要 水をたたえ命をはぐむ星・地球は、「奇跡の星」とも言われる。一方、拡大を続ける人類の活動は地球的境界を招き、今から約30年前の1992年、第1回「国連・環境と開発に関する国際会議」(地球サミット)において、人類共通の課題である地球環境の保全と持続可能な開発の実現のための具体的な方策を得ることを目的として、ようやく国際協力による解決のための条約が締結された。本授業では、惑星・地球が持つしくみと人類の活動のもたらした影響を理解したうえで、人類が直面する地球規模の環境問題を比較検討、分析するとともに、地球環境の現状と展望を知り、SDGs(持続可能な開発目標)に基づく解決方向について学ぶ。						
到達目標(学習の成果) ① 地球という惑星と地球環境に係る幅広い基礎知識を理解し、説明できること。(DP1) ② 様々な地球環境問題の発生のメカニズムなど科学的な知識を有し、健康や社会経済に及ぼす影響を考慮して、実践的な対応策を考えることができること。(DP3) ③ 共通の理念である「持続可能な開発」の考え方を理解し、自分の思いを述べるができること。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「地球環境とは」 (「地球環境論」のアウトラインについてのガイダンスとともに、人類が共有する地球環境の構成要素などの位置づけについて学ぶ。)	事前	本シラバスを通読して、本科目のアウトラインを予習。(1時間)			
		事後	授業で配付した第1回の講義資料を復習。(3時間)			
2	「地球はどんな星か」 (宇宙のなりたち、地球と月の誕生、地球の内部などについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第1回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第2回の講義資料を復習。(3時間)			
3	「地球の自然環境の進化と物質循環」 (生命の誕生、地球の自然環境が形成されてきた経緯とともに、地球上の様々な物質循環について学ぶ。)	事前	授業で配付した第2回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第3回の講義資料を復習。(3時間)			
4	「世界の人口と貧困」 (死亡率や出生率の推移など世界の人口動態、貧困の悪循環などについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第3回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第4回の講義資料を復習。(3時間)			
5	「世界の食料と農業」 (世界の食料需給と食料問題などについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第4回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第5回の講義資料を復習。(3時間)			
6	「水循環・エネルギーの危機」 (水資源、バーチャルウォーターやエネルギー消費量と確認可採埋蔵量など、地球上の様々な物質の存在状態について学ぶ。)	事前	授業で配付した第5回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第6回の講義資料を復習。(3時間)			
7	「直面する地球環境問題」 (拡大を続ける人類の活動が地球をも変えてしまい、地球環境問題に直面していること、持続可能な開発目標(SDGs)に基づく対応が求められていることなどについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第6回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第7回の講義資料を復習。併せて、ウェブサイトなどで地球環境問題について情報収集。(3時間)			
8	「未来危機を招く地球温暖化・気候変動」 (中間試験(範囲:講義第1～7回)を実施し、その解説を行う。また、気候変動のメカニズムと地球温暖化の進行、温暖化が社会経済に及ぼす影響について学ぶ。)	事前	授業で配付した第1～7回の講義資料を通読、振り返り。(2時間)			
		事後	授業で配付した第8回の講義資料を復習。(2時間)			
9	「オゾン層破壊と紫外線増加」 (地球のオゾン層の構成とオゾン層破壊問題の起源と人類や生態系への影響について学ぶ。)	事前	授業で配付した第8回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第9回の講義資料を復習。(3時間)			

10	「越境大気汚染と酸性雨, 環境の酸性化」 (地球規模の大気汚染, 酸性雨の広がりや環境の酸性化と防止対策の方向性について学ぶ。)	事前	授業で配付した第9回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 10 回の講義資料を復習。(3 時間)
11	「海洋汚染, 有害廃棄物の越境移動」 (人間が排出した下水や化学物質が海洋に流入したり, 発生国以外に有害廃棄物が持ち込まれたりする, 地球規模の広域汚染について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 10 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 11 回の講義資料を復習。(3 時間)
12	「破壊される世界の森林」 (森林の様々な機能を損なう森林破壊のメカニズムと対策の方向性について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 11 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 12 回の講義資料を復習。(3 時間)
13	「世界中で拡大する砂漠化」 (人口増加, 人類の活動によって引き起こされる砂漠化のメカニズムと対策の方向性について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 12 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 13 回の講義資料を復習。(3 時間)
14	「進行する生物多様性の損失」 (生物多様性保全の重要性と損失の動向, 「生物の多様性に関する条約」に基づく対策の方向性について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 13 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 14 回の講義資料を復習。(3 時間)
15	「持続可能な地球をめざして」 (地球環境問題の本質と特徴を踏まえて, 持続可能な生産・消費体系, エネルギー体系などの方向性について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 14 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 1~15 回の講義資料を通読, 体系的に整理する。(3 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%), 中間試験・小テスト(10%)及び授業への取組(30%)に基づいて, 絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
地球という惑星と地球環境に係る基礎知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
健康や社会経済に及ぼす影響を考慮して, 実践的な対応策を思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
「持続可能な開発」の考え方を理解し, 自分の思いを表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回, 授業内でプリント資料を配付する。

参考書等

- ・『地球環境保全論—持続可能な社会をめざして』, 和田 武・小堀洋美(著), 創元社, 2021 年, 3,080 円(税込), ISBN:978-4422400631
- ・『みんなが知りたい! 「地球のしくみ」と「環境問題」 地球で起きていることがわかる本』, 北原義昭(監修), 菅澤紀生(監修), メイツ出版, 2022 年, 1,848 円(税込), ISBN:978-4780427035
- ・『よくわかる宇宙と地球のすがた (理科年表シリーズ マイ ファースト サイエンス)』, 国立天文台(編集), 丸善, 2010 年, 1,430 円(税込), ISBN:978-4621081471

履修上の注意・学修支援

- ・これから人類が生存するためには、「地球環境問題」は避けて通れないテーマの一つであり、意欲を持って取組んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、途中退室、私語やスマホ操作が多い場合には意欲がないものと解釈される。
- ・それぞれの地球環境問題には、国際条約や協定の裏づけがあるため、その目的を理解すること。
- ・環境・エネルギーなどをテーマとするWebサイト(例：環境省「環境経済情報ポータルサイト」http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html, 環境イノベーション情報機構「EIC ネット」<https://www.eic.or.jp/>, 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>, 朝日新聞「環境・エネルギー」のサイト http://www.asahi.com/eco/?iref=com_gnavi など)をチェックし、世界や日本などの最新動向に興味を持つこと。また、栃木県、宇都宮市、栃木県地球温暖化防止活動推進センター(<http://homepage3.nifty.com/tochiondan/>), NPO・市民団体などが主催する各種普及啓発イベント(講演会・セミナー, 展示会や施設見学会など)に、積極的に参加すること。
- ・科学の話題が多いテレビ番組、『サイエンスZERO:NHK Eテレ②』(放送時間:土曜 11:00~11:30)などを視聴して、宇宙や地球環境, 科学技術などについて関心を高めること。
- ・学修内容に関する質問や意見など, 毎回配付する「聴講シート」に具体的に記入すること。シートへの記入内容を授業参加態度の判断材料の一つとするとともに, 寄せられた質問や意見は, 実際に講義の中でも取り上げ, 受講者全体にフィードバックします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ・2005～2007 年度, 全国地球温暖化防止活動推進センターにおいて, 地球温暖化対策の普及啓発事業に取り組むとともに, 省エネ住宅・省エネ家電の地域への普及を図るモデル事業の推進を図った。
- ・2008～2012 年度, 横浜市地球温暖化対策事業本部において, 市民・市民団体・事業者・行政が連携した地球温暖化対策の普及啓発事業に取り組むとともに, 環境創造局環境・エネルギー課において, 太陽光発電の普及支援補助事業, 風力発電所・ハマウイングの運営管理事業等に取り組んだ。

[実務経験と授業科目との関連性]

地球環境問題のうち, 喫緊の課題である地球温暖化対策や環境・エネルギー政策全般に関して, 地域の取組について具体的に例示することができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K201 19K201	政治学入門	2年	春	講義	2	新谷卓
授業概要 政治にあまり詳しくない人でも、関心を持ち、理解できるような授業です。 授業は、三つの段階から構成されています。 1. 政治学を学習する上において基礎となる概念、民主主義、権力、国家、リベラリズム、立憲主義といった言葉の意味を理解し、これらがなぜ重要なのかを学びます。 2. 日本の戦前・戦後の政治史について外交も含めて概観し、歴史の中の具体的な出来事から政治(制度、法律、条約など)を理解していきます。 3. 上記1・2を踏まえて、現在日本で起きている具体的な政治問題をいくつか取り上げ、検討していきます。						
到達目標(学習の成果) 1) 民主主義について、社会人の常識といえる基本的な考え方を理解することができる。(DP1) 2) 現在の政治状況を理解し、その問題点を浮かび上がらせ、自分なりに判断、あるいは処方箋を出すことができるようになる。(DP2、DP3) 3) 一つの考えに拘泥せず、多角的・複眼的な視点から、政治を理解することができる。(DP2、DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	政治学を学ぶにあたって 日本の現状、各種データから	事前	政治学とはどのような学問か、ネットで調べておく(2時間)。			
		事後	授業で実施した「政治学の常識問題」を復習しておく(2時間)。			
2	デジタル・テクノロジーと選挙 SNSが選挙に及ぼす影響	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
3	古代ギリシアの民主主義と近代の民主主義 デモクラシー、衆愚政治、代議制、社会契約論、政教分離、立憲主義	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
4	政治と権力の関係 権力の正統性、議院内閣制・大統領制、政治過程	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
5	政治を見る座標軸 保守と革新、右翼と左翼、父権主義と民主主義	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
6	国家とは何か 日本における国民国家の誕生	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く。レポート提出の準備(2時間)			
7	なぜ日本は戦争への道を選んだのか(Ⅰ) 統帥権の独立、シビリアンコントロール	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く。レポート提出の準備(2時間)			
8	なぜ日本は戦争への道を選んだのか(Ⅱ) 軍事予算、メディアの戦争報道	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く。レポート提出の準備(2時間)			
9	戦後改革と日本の再出発 日本国憲法の誕生	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
10	岸内閣・安保条約改定から池田内閣・高度成長時代へ	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
11	佐藤内閣・田中内閣時代	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語			

	日韓基本条約締結、日本列島改造論、ロッキード事件	事後	の意味を調べておく(2時間)。 配布した資料の問題を解く(2時間)。
12	冷戦終了・55年体制の終わり リクルート事件、政治改革、細川護熙非自民連立内閣成立	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。
13	政権交代 民主党政権誕生、安倍政権の時代	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。
14	地方自治 人口減少下における地方政治の問題	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。
15	日本の安全保障問題 自衛権、基地問題、核兵器の現状	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	今まで学習した専門用語の意味をまとめておく(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

毎回授業の後に提出するリアクションペーパーと授業への取り組み(30%)、中間レポート(20%)、試験期間中に実施する期末試験(50%)の成績を総合して評価を行う。

観点	S	A	B	C
基本的な政治の用語を理解できているか。	完全に理解できている。	ほぼ理解できている。	理解できている。	一定程度理解できている。
問題や課題を歴史的に整理し、理解することができているか。	完全に理解できている。	ほぼ理解できている。	理解できている。	一定程度理解できている。
政治に興味・関心を持って意欲的に取り組むことができたか。	たいへん意欲的に取り組んでいる。	ほぼ意欲的に取り組んでいる。	概ね意欲的に取り組んでいる。	一定程度意欲的に取り組んでいる。

教科書

テキスト 特に指定しません。必要な資料は授業の前に Google クラスルームで送ります。

参考書等

<全般的には>

宇野重規『民主主義とは何か』講談社(現代新書)、2020年(定価940円+税)

田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望著『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年(定価1,900円+税)

<日本の政治史については>

御厨貴・牧原出『日本政治史講義』有斐閣、2021年(定価3,200円+税)

清水唯一郎・瀧井一博・村井良太『日本政治史』有斐閣、2020年(定価2,100円+税)

池田知加恵・新谷卓『池田純久と日中戦争』彩流社、2024年(定価4,000円+税)

新谷卓『終戦と近衛上奏文(新版)』彩流社、2025年(定価4,500円+税)

<各論については>

安倍内閣については、新谷卓『憲法改正』『第二次安倍政権と光と影』志學社、2021年(定価2,700円+税)

議院内閣制については、新谷卓『議院内閣制』『政治学の基礎』志學社、2014年(定価3,400円+税)

民主党政権については、新谷卓『マニフェストと民主党』『民主党政権論』学文社、2012年(定価2,900円+税)

沖縄返還・日韓基本条約については、新谷卓『日韓基本条約・沖縄返還への布石』『高度成長の政治』つなん出版、2006年(定価2,800円+税)

戦後政治については、新谷卓『民主改革と新憲法制定』『占領と戦後政治』つなん出版、2005年(定価2,800円+税)

55年体制については、新谷卓『60年安保闘争・岸から池田へ』『55年体制の政治』つなん出版、2005年(定価2,800円+税)

履修上の注意・学修支援

- 毎回の出席と授業への参加を重視します。
- 遅刻をしないように心がけてください。
- 初回の授業の際に、授業の方法や内容について解説しますので、履修者は初回から出席してください。
- リアクションペーパーを毎回提出。次回の授業までに Google クラスルームを通じてフィードバックを行います。
- 質問も上記同様の形で回答します。
- 補習を希望する者がいれば別途対応します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R201 19R201	教育心理学	2年	秋	講義	2	小浜駿
授業概要 毎回の講義は、授業感想の返答10分、講義60分、関連トピック紹介10分、感想記入10分の計90分で行う。講義の60分では昔から重要視されてきた教育心理学の基礎理論を紹介する。関連トピックでは、講義内容を応用した身近な知見を紹介する。教員や親として、児童・生徒(子ども)に接するうえで役に立つ知見を紹介することに重点を置く予定である。						
到達目標(学習の成果) 全体目標 a) 幼児、児童および生徒の心身の発達の過程に関する基礎的な知識を身に着ける。b) 彼らの学習の過程に関する基礎的な知識を身に着ける。そのうえで、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 (a) 幼児、児童および生徒の心身の発達の過程における到達目標 (DP1) 1) 幼児、児童および生徒の心身の発達に関する代表的な理論を理解している 2) 幼児、児童および生徒の発達を多数の側面(運動、言語、認知、社会性)から複合的に理解している (b) 幼児、児童および生徒の学習の過程における到達目標 (DP1) 1) 幼児、児童および生徒の発達の特性を踏まえたうえで、学習支援および学習評価に関する基礎事項を理解している。 2) 幼児、児童および生徒の発達の特性を踏まえたうえで、主体的な学習を支援するための要因について広く理解している。 3) 幼児、児童および生徒による主体的な学習を支援するために必要な実践的な指導知識を得ている						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本講義と教育心理学の概要を述べる。また、評価方法や注意事項などについて説明する	事前	シラバスを読んでおく(1時間)			
		事後	アップロード済みの資料のうち、興味が持てそうなところに目を通しておく。(3時間)			
2	発達と成長の違いについてまず説明し、発達に必要な要因に関する諸理論を紹介する。また、発達曲線について解説する	事前	第2回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120007160809 (3時間)			
3	学習の定義についてまず説明し、その後に条件付けをとりあげながら学習の諸理論について説明する	事前	第3回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130007954403 (3時間)			
4	ピアジェの認知発達理論における4つの発達段階について説明する	事前	第4回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120006479147 (3時間)			
5	子どもの感情と愛着の発達について述べる。また、エリクソンを中心に人格発達に関する諸理論を紹介する	事前	第5回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://jascg.info/wp-content/uploads/2015/03/875f4ff6c32c1012085a516f05e610a0.pdf (3時間)			
6	代表的な知能テストを紹介するとともに、知能観と学業成績との関連についても説明する	事前	第6回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/110006429015 (3時間)			
7	児童・生徒の習熟度を適切に測るために、テスト作成ではどのように工夫すべきか説明する	事前	第7回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130003376533 (3時間)			
8	教師のリーダーシップや児童・生徒への言葉かけについて概説する	事前	第8回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120006819232 (3時間)			
9	知識を定着させやすい学習方略や授業方法について紹介する	事前	第9回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130006391553 (3時間)			
10	動機づけの自己決定理論を中心に、児童・生徒の動機づけを左右する要因について紹介する	事前	第10回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120007037266 (3時間)			
11	学業場面でつまづいた児童・生徒への援助方法を具体的に説明する	事前	第11回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/110004570824 (3時間)			
12	セルフ・ハンディキャッピングや先延ばしの原理について説明を行う	事前	第12回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130005062916 (3時間)			

13	学校適応の測定方法および学校適応が精神的健康に与える影響について概説する。	事前	第13回資料を読んでおく(1時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130007378893 (3時間)
14	学校適応の規定因として考えられている対人特性について紹介する	事前	第14回資料を読んでおく(1時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120007100235 (3時間)
15	挫折は、単なる失敗とどのように異なるのか。また、挫折を経て成長するために必要なマインドセットは何か、解説していく	事前	第15回資料を読んでおく(1時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130008116965 (3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

テストとレポートによって50%ずつ評価する。

前半6回は暗記を要する基礎的な事項であるため、第7回開始時に30分の小テストを行う。第8回以降は教育実践に役立つ知識を提供するため、内容理解と応用的な発想をレポートによって評価する。このレポートを期末課題とする。

観点	S	A	B	C
諸理論や用語の理解	十分に暗記し、応用的な理解もある	十分に暗記している	ある程度暗記している	最低限暗記している
実践的な理解	実践理解が十分であり、的確に文章化されている	十分な実践理解がある	ある程度の実践理解がある	最低限の実践理解がある

教科書

使用しない。毎回授業資料を配布する。

なお、同内容の資料は、google classroom にアップロードする。授業開始時点で第15回資料までアップロードを完了しておくので、事前学習に用いることを望む。

事後学習欄にあるURLは、いずれも論文記事が載っている。適宜読み、理解を深めておくこと。

参考書等

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』有斐閣アルマ 2015年 2052円

履修上の注意・学修支援

事後学習欄に添付したURLは、授業内容に関わる文献の書誌情報である。興味があれば是非読んでほしい。

毎回授業感想を記入する時間を設ける。考えついたことは何でも書いてほしい。自分の着想を否定しないことが勉学上達の一番の近道である。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R202 19R202	特別支援教育	2年	春	講義	2	松岡展世
授業概要 通常のクラスにも在籍する発達障害をはじめとする様々な障害や特別な教育的ニーズのある子どもたちについて把握し、子どもの困り感を理解し、個別の教育的ニーズと適切な援助について考える力が養われるようにする。講義を聞くだけでなく、演習や模擬体験等を通じて、特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達過程を理解し、支援の方法について学ぶ。更に、保護者への支援や家庭との連携、他機関との連携の大切さについて理解できるようにする。						
到達目標(学習の成果) ①特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達について述べるができる。(知識・理解) [DP1] ②特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程、必要な支援・援助の方法を記述できる。(知識・技能) [DP1] ③障害の有無にかかわらず特別な教育的ニーズのある生徒に関心を持って学びに積極的に参加し、支援の必要性やその内容について口頭や文章で表現できる。(意欲・表現) [DP1]						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	自身の障害観を再確認し、特別なニーズと援助障害について、周囲と意見を交換し、新たな気づきを得る。	事前	障害や特別なニーズと聞いて思い浮かぶ場面を書き出す(1時間)。			
		事後	障害の社会モデルの考え方を整理し、まとめる(3時間)。			
2	障害児教育の歴史、思想や理念、障害の捉え方について学ぶ。	事前	自らの体験、小説・ドラマ・漫画などでの障害児のイメージを書き出す(1時間)。			
		事後	障害児教育の歴史と理念について自分の言葉で説明できるようにしておく(3時間)。			
3	障害児のための教育・保育・福祉の制度について学び、障害児を支える地域の資源を知る。	事前	特別支援教育に関連する自らの経験を振り返りまとめておく(1時間)。			
		事後	障害児者の制度や用語内容をまとめる(3時間)。			
4	障害の有無にかかわらず、集団の中で気になる生徒、障害はないが家庭の事情、ことばや文化の違いなど特別な教育的ニーズのある生徒についての理解を深める。	事前	これまでの学校生活で出会った特別なニーズをもつ児童生徒について思い返し、書き出す(1時間)。			
		事後	授業終了時に示す課題に取り組み成果をまとめる(3時間)。			
5	肢体不自由・慢性疾患・医療的ケア児などについて理解し、かかわりの視点を具体的に学ぶ。	事前	子どもの体の不自由さで気になることを書き出す(1時間)。			
		事後	身体面での障害の問題と対応についてまとめる(3時間)。			
6	視覚障害児の困難さや発達上の課題について理解し、かかわりの視点を具体的に学ぶ。	事前	子どもの視覚障害での気になることを書き出す(1時間)。			
		事後	視覚的な問題の表れ方と対応をまとめる(3時間)。			
7	聴覚障害児の困難さや発達上の課題について理解し、かかわりの視点を具体的に学ぶ。	事前	子どもの聴覚の問題で気になることを書き出す(1時間)。			
		事後	聴覚障害にまつわる特徴と対応についてまとめる(3時間)。			
8	知的な遅れのある子どもの教育について、発達上の課題について理解し、かかわりに必要な視点を具体的に学ぶ。	事前	子どもの知的な遅れで気になることを書き出す(1時間)。			
		事後	子どもの知的な遅れの表れ方と対応をまとめる(3時間)。			
9	発達障害をもつ子どもについて理解し、かかわりの視点を具体的に学ぶ。	事前	発達障害について気になることを書き出す(1時間)。			
		事後	発達障害の子どもの特徴についてまとめる(3時間)。			
10	通常学級において特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態と支援について学ぶ	事前	通常学級で支援が必要な子どもの特徴を書き出す(1時間)。			
		事後	通常学級における特別支援教育についてまとめる(3時間)。			
11	通級指導学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態と支援について学ぶ	事前	通級学級について調べ、わかったことを書き出す(1時間)。			
		事後	通級による指導についてまとめる(3時間)。			
12	個別の教育支援計画・個別の指導計画について学び、その意義や大切さについて学び、作成のポイントについて理解する。	事前	個別の支援計画について調べる(1時間)。			
		事後	個別の保育教育支援計画・個別の指導計画のポイントについてまとめる(3時間)。			
13	障害のある子どもの家族(保護者・きょうだい児等)の直面しやすい課題と支援について学ぶ。	事前	親サポートやきょうだい児支援で気になることを書き出す(1時間)。			
		事後	家族支援・きょうだい児支援についてまとめる(3時間)。			

14	学校におけるチーム援助、保護者との連携や関係機関との連携協働等について学ぶ。	事前	連携・協働について気になることを書き出す(1時間)。
		事後	保育者同士、保護者、小学校、関係機関との連携協働についてまとめる(3時間)。
15	障害の有無にかかわらず、全ての子どもが必要な支援を受けながら共に育ち合う教育についてまとめ、発表し、自身の学びを振り返る。	事前	これまでの学びを振り返り、要点を再確認し、質問事項があれば、授業内に質問して解決できるようにまとめておく(1時間)。
		事後	学び全体を振り返り、学習したことをふまえ自分なりの視点と見解をまとめる(3時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

体験型個人ワーク、グループワーク、グループディスカッションなど

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① 授業内レポート(30%):毎回コメントシートにて授業での学びについて振り返り、気づきや考察を分かりやすく述べる
- ② 授業への取組と発表(20%):主体的に活動に参加し、ディスカッションや体験からの学びを自らの言葉で表現できる
- ③ 最終レポート課題(50%):授業で学んだ障害特性や支援の方法の知識を踏まえ、設定したテーマに基づき、自分の見解を論拠をもとに述べるができる。

フィードバック:コメントシートについて、次の授業の冒頭で全体に口頭で伝える。

観点	S	A	B	C
支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達について述べるができる	十分に達成できている	ほぼ十分にできている	一定程度できている	努力し理解が認められる
特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程、必要な支援・援助の方法を記述できる	十分に達成できている	ほぼ十分にできている	一定程度できている	努力し理解が認められる
障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある生徒に関心を持って学びに積極的に参加し、支援の必要性やその内容について口頭や文章で表現できる	十分に達成できている	ほぼ十分にできている	一定程度できている	努力し理解が認められる

教科書

使用しない

毎回、内容に合わせて理解を深めるための資料を配布する。その他、映像資料・スライド資料を視聴する。

参考書等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育の基礎・基本 2020」ジエース教育新社

相澤雅文・榎原久直・鈴木英太監修・執筆「新訂版 教員になりたい学生のためのテキスト特別支援学校」クリエイツかもがわ

文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)」開隆堂出版

文部科学省特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)」開隆堂出版

文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)」開隆堂出版

文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) (特別支援学校学習指導要領解説(高等部))」開隆堂出版

履修上の注意・学修支援

履修にあたって個別に配慮が必要な場合には、事前に相談してください。

アクティブラーニングを多用し、受け身で受講するだけではなく、皆さんご自身の体験や知恵も活用して、理解を深めていきます。出席確認時に間に合わなかった場合は遅刻となり、30分以上の遅刻や早退は欠席とみなします。また、遅刻または早退3回で欠席1回とみなします。

授業内には、質問を随時受け付けます。積極的に質問し、できる限りその場で解決しましょう。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ・東京都公立教育相談室(10年)、公立中学校SC(5年)、栃木県の大学院附属臨床センター心理相談員(12年)
幼児期から中学生までの子どものプレイセラピーやカウンセリング、発達検査、保護者の心理相談、園の巡回相談
- ・東京都及び栃木県の自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、健診での相談、園の巡回相談(14年)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ・臨床心理士として心理臨床の現場で、乳幼児から中学生まで幅広い子どもに対しての発達援助に関わり、親への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。保護者および保育者・教育者への支援等の経験を踏まえ、乳幼児期からの子どもの発達上の諸問題とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行う。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23C201 19C201	データベース概論	2年	春	講義	2	高丸圭一

授業概要

社会や組織の中でコンピュータを使い、情報を収集・処理・伝達・活用するためには、大量のデータを効率的に蓄積・検索・抽出できるデータベースの活用は欠かすことができない。本講義で座学と実習を併用して、現在広く用いられているリレーショナルデータベース(RDB)について学ぶ。前半はリレーショナルデータベースの構造と、データベース言語(SQL)について主に座学形式で学ぶ。後半は、RDB 管理システムの操作方法について主にPC教室における実習形式で学ぶ。この科目はシティライフ学部 of 教育目標(カリキュラムポリシー)のうち、「② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・情報処理能力を身につけさせる。」の修得を目的とする。

到達目標(学習の成果)

- ① 大量のデータを効率的に扱うリレーショナルデータベースの基本的な知識を理解する。(DP2)
- ② データベース操作言語 SQL の記述方法の基礎を修得する。(DP2)
- ③ Microsoft Access を用いたデータベースの作成や基本的な操作ができるようになる。(DP2)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	データベース管理システム:データベースとは何かという概要を理解する。データベースの目的やデータベース管理システムの種類と役割について学ぶ。	事前	データベース管理システムについて、教科書の第2章と参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
2	リレーショナルデータベース:リレーショナルデータベースの機能の概要を学ぶ。データベース内のテーブルを関連づける主キーと外部キーなどについて理解する。	事前	リレーショナルデータベースについて教科書の第2章と参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
3	データベースの設計と正規化:データベース設計のためのモデル化手法である DFD や E-R 図を学ぶ。また、データベースの正規化について理解する。	事前	データの正規化の目的について教科書の第2章と参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
4	設計・正規化の演習:具体的な事例に基づいた例題を解き、データベースの設計および正規化について理解を深める	事前	データ正規化の方法について教科書の第2章と参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
5	データ操作の基本:データベースに格納されたデータを取り出して利用するための基本的な操作手法である集合演算(和、積、差)と関係演算(射影、選択、結合)について学ぶ。	事前	データ操作の基本について教科書の第2章と参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
6	SQLの基本:データベースを操作するための標準言語であるSQLの基本的な構造を理解する。	事前	SQLの基本について参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
7	SQLによるデータの検索:データベースからデータの抽出(検索)する命令であるSELECT文の基礎について学ぶ。また検索結果の重複の削除や条件付き検索の方法を学ぶ。	事前	SQLの検索構文について参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
8	SQLによるデータの集計:複数のテーブルからデータを抽出するための結合の命令や、副問い合わせ、集合関数の使用方法を学ぶ。	事前	SQLによるデータ操作について参考書等を用いて予習する。(2時間)
		事後	講義中にとったノートや配付資料、参考書に基づいて、本講義の内容をA4判1枚程度でまとめる。(2時間)
9	Accessの概要:リレーショナルデータベース Microsoft Access 2016の基本的な機能と操作方法を学ぶ。	事前	教科書の第1章、第2章を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)

10	テーブルの作成:Access 2016 におけるテーブルの作成方法を学ぶ。フィールドの設定, 主キーの設定, テーブルの保存ができるようになる。	事前	教科書の第3章を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
11	リレーションシップの作成:Access 2016 において複数のテーブルの主キーと外部キーの関係を結びつけるリレーションシップの操作について学ぶ。	事前	教科書の第4章を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
12	検索クエリの作成の基礎:Access 2016 におけるデータの検索(クエリ)の作成方法について学ぶ。デザインビュー, フィールドの登録, ビュー表などについて理解する。	事前	教科書の第5章を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
13	フォームの作成:Access 2016 においてデータベースにデータを登録する入力フォームの作成方法について学ぶ。フォームのコントロールの配置, プロパティについて理解する。	事前	教科書の第6章を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
14	条件に合うデータの抽出:Access 2016 においてデータベースからレコードの抽出するためのパラメータクエリ, 比較演算子, 集計の方法について理解する。	事前	教科書の第7章を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
15	データベース操作総合演習:これまでに学んだ操作技術を確認するために, Access 2010 も用いたデータベース操作の総合演習を行う。	事前	教科書の第8章を予習する。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば, 終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
PC 教室における実習

成績評価の方法・基準(%表記)

各回の提出課題(10%), データベース操作総合演習(40%), 期末筆記試験(50%)

観点	S	A	B	C
① リレーショナルデータベースの基本的な知識を理解しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
② データベース操作言語 SQL の記述方法の基礎を修得しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
③ Microsoft Access を用いたデータベースの作成や基本的な操作を修得しているか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

フィードバックについて:

- 実習パートでは毎回課題の進捗状況を提出してもらい、必要に応じて追加の解説を行います。

教科書

- 富士通エフ・オー・エム(2023)『よくわかる Access 2021 基礎 Office 2021/365 対応』FOM 出版(ISBN: 978-4867750285)

参考書等

- TAC 出版情報処理試験研究会(2024)『IT パスポート みんなが欲しかった! IT パスポートの教科書&問題集 2025 年度』TAC 出版 (ISBN:978-4300114612)
- 栢木厚(2024)『令和 07 年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室』技術評論社 (ISBN: 978-4297145347)
- ミック(2024)『おうちで学べるデータベースのきほん 第2版』翔泳社 ISBN: 978-4798185330

履修上の注意・学修支援

- ①「情報リテラシ(情報リテラシ I)・データサイエンス入門(情報リテラシ II)」で学習するコンピュータの基本的な操作について十分な知識を持っていることが受講の前提となります
- ②遅刻をすると, その回の課題に参加できない場合がありますので, 十分注意してください。
- ③疑問点があれば, まず自分で書籍や情報検索を用いてよく調べて下さい。それでも分からないことがあれば, オフィスアワーを利用して質問してください。
- ④教科書に付属した教材を使用して講義を進めますので, 必ず教科書を購入してください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23C202 19C202	データ分析技術 / 情報処理応用	2年	秋	講義	2	高丸圭一
授業概要 社会や組織の中でコンピュータを使い、情報を収集・処理・伝達・活用するためには、収集したデータの整理・分析の技術を身につけることが必要となる。本講義では、社会や組織における具体的な事例を題材に、表計算ソフトのワークシート関数や他の応用的機能を活用し、帳票の作成支援の方法、大規模データの読み取り方（分析・可視化の手法）について学ぶ。この科目はシティライフ学部の教育目標（カリキュラムポリシー）のうち、「② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・情報処理能力を身につけさせる。」の修得を目的とする。						
到達目標(学習の成果) ① データ分析のためのデータ収集・前処理ができるようになる。(DP2) ② データ分析に必要な Excel の機能を使いこなせるようになる。(DP2) ③ データの分析手法、可視化手法を理解し、目的に応じて使い分けられるようになる。(DP2) ④ データ分析・可視化を Excel で実現することができるようになる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	データ分析の基礎 データ分析の目的・進め方/PPDAC サイクル	事前	PPDAC サイクルについて調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
2	データの収集と加工① 定性データの扱い方/データクリーニング	事前	データクリーニングについて調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
3	データの収集と加工② ピボットテーブルによる集計/グラフの作成	事前	ピボットテーブルについて調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
4	中長期的な売上推移の分析① Zチャートの作成	事前	Zチャートについて調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
5	中長期的な売上推移の分析② Zチャートによる計画と実績の比較	事前	Zチャートの応用について調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
6	商品管理のための ABC 分析 パレート図の作成	事前	パレート図について調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
7	2つの観点からの商品管理 クロスABC分析の方法	事前	クロスABC分析について調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
8	交差比率と粗利率の可視化 バブルチャートの作成	事前	バブルチャートについて調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
9	販売実績に基づく売上予測 近似曲線の挿入と近似式の利用	事前	近似曲線について調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
10	1パラメータによる売上高の予測 散布図を用いた回帰分析	事前	回帰分析について調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
11	複数のパラメータによる売上高の予測 重回帰分析の使い方	事前	重回帰分析について調べておく。(2時間)			
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)			
12	売り上げを説明する要因の影響力	事前	定性データの定量化について調べておく。(2時間)			

	定性データを定量化した回帰分析	事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
13	顧客の分析 RFM 分析によるランキング	事前	RFM 分析について調べておく。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
14	アンケートの分析 項目間の相関分析	事前	相関分析について調べておく。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
15	データ分析総合演習 Excel によるデータ分析	事前	14 回目までに学んだことを整理しておく。(2時間)
		事後	講義内で終わらなかった課題があれば、終わらせる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
PC を用いた実習形式で実施する。

成績評価の方法・基準(%表記)

各回の演習課題の状況(60%), 期末筆記試験(40%)

観点	S	A	B	C
データ分析のためのデータ収集・前処理ができる	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
データ分析に必要な Excel の機能を使いこなせる	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
データの分析手法, 可視化手法を理解し, 目的に応じて使い分けられる	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
データ分析・可視化を Excel で実現することができる	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

教科書

日花弘子(2019)『Excel で学ぶデータ分析本格入門』SB クリエイティブ (ISBN: 978-4815602857)

参考書等

富士通ラーニングメディア(2023)『よくわかる Excel 関数テクニック Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版(ISBN: 978-4867750339)

富士通ラーニングメディア(2021)『Excel ではじめるデータ分析』FOM 出版 (ISBN: 978-4938927417)

履修上の注意・学修支援

①PC の操作に習熟しており, Excel の基本操作についての知識を持っていることが受講の前提となります。データサイエンス入門(情報リテラシⅡ)を修得しているか, それに相当するスキルを有していなければ受講できません。

②講義に遅刻すると, その回の実習に参加できない場合がありますので, 十分注意してください。

③教科書に付属した教材を使用して講義を進めますので, 必ず教科書を購入してください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G201 19G201	ミクロ経済学 I	2年	春	講義	2	大石和博
授業概要 ミクロ経済学 I はシティライフに関連する様々な要素を理解するために必要な科目です。2年次において最も重要な科目の一つであり、必修科目となっています。受講者がミクロ経済学を各分野に応用することを念頭において、個人や企業の意思決定がどうモデル化されているかを説明します。なぜ信号待ちでもタクシーのメーターは上がるのか、値下げすると売り手の総収入は増えるのだろうかといった日常生活での疑問から経済問題を考えてみたいと思います。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ミクロ経済学の基本的な用語(希少性、トレードオフ、機会費用、効率性など)を説明することができる。(DP3) 経済分析を理解できる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	講義概要、第1章 経済学の原理(希少性、トレードオフ、機会費用、限界原理、インセンティブ)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第1回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
2	第1章 経済学の原理(交換の利益、計画経済、市場経済、政府の役割)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
3	第2章 科学的方法(仮説の役割)、経済モデル(フロー循環図、生産可能性フロンティア、効率性)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
4	第2章 経済モデル(生産可能性フロンティア、技術進歩) 第3章 比較優位の原理(絶対優位、比較優位) 第4章 市場と競争(完全競争、価格受容者)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
5	第4章 関数(1次関数)、価格と需要量との関係(需要表、需要曲線)、需要曲線のシフト(需要の増大・減少)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
6	第4章 需要曲線のシフト(正常財、劣等財)、価格と供給量との関係(供給表、供給曲線)、供給曲線のシフト	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
7	第4章 需要と供給を組み合わせる(安定均衡、不安定均衡)、均衡の変化を分析する3段階アプローチ(比較静学)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
8	第5章 需要の価格弾力性とその決定要因(代替財、ぜいたく品、必需品)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
9	第5章 総収入と需要の価格弾力性、線形需要曲線の弾力性、他の需要の弾力性(需要の所得弾力性、需要の交差価格弾力性)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
10	第5章 供給の価格弾力性、需要・供給・弾力性の3つの応用(比較静学①)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
11	第5章 需要・供給・弾力性の3つの応用(比較静学②) 第6章 価格規制(価格の上限、ガンリンスタンドの行列)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
12	第6章 価格規制(価格の上限と家賃規制、価格の下限と最低賃金)、第6章 税金(売り手に対する課税)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
13	第6章 税金(買い手に対する課税)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
14	第6章 弾力性と税の帰着	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
15	これまでの講義内容を振り返り、特に重要な点を説明する	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第15回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、期末試験(100%)で評価します。

観点	S	A	B	C
ミクロ経済学の基本的な用語を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済分析を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中に復習問題等の解説・講評を行います。

教科書

N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編(第5版)』センゲージ・ラーニング株式会社、2025年、税込4,950円。

参考書等

- ① クルーグマンほか『クルーグマン ミクロ経済学 第2版』東洋経済新報社、2017年。
- ② 八田達夫『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社、2008年。
- ③ 八田達夫『ミクロ経済学 II』東洋経済新報社、2009年。
- ④ 八田達夫『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社、2013年。

履修上の注意・学修支援

- ・ 遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。
- ・ 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
- ・ 無断退出は欠席扱いになる場合があります。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G202 19G202	マクロ経済学 I	2年	春	講義	2	大石和博
授業概要 マクロ経済学 I はシテイライフに関連する様々な要素を理解するために必要な科目です。2年次において最も重要な科目の一つであり、必修科目となっています。受講者がマクロ経済学を各分野に応用することを念頭において、経済全体の生産や所得がどのように集計され、経済全体がモデル化されているかを説明します。特に、雇用、物価、所得など、経済全体にかかわる問題を考察します。マクロ経済が身近に感じられるように、新聞紙面等に出てくる主要なマクロ経済統計の使い方や弱点にも触れたいと思います。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> マクロ経済学の基本的な用語(名目、実質、生産要素、貨幣供給量など)や経済指標(GDP、消費者物価指数、失業率など)について説明することができる。(DP3) 経済分析を理解できる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	講義概要、第1章 経済活動の価値の測定(GDP、国内総生産、国内概念、国民概念)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第1回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
2	第2章 GDP と付加価値(国民総所得、中間財、最終財、帰属計算)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
3	第2章 実質GDPと名目GDP(GDPデフレーター)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
4	第2章 支出の構成要素(消費、投資、政府購入、輸出、輸入)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
5	第2章 民間経済の本当の大きさ(国内純生産、国内所得)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
6	第2章 生計費の測定(消費者物価指数、インフレ率)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
7	第2章 失業の測定(労働力人口、非労働力人口、完全失業率)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
8	第2章 労働市場参加率 第3章 財・サービスの総生産を決めるのは何か(生産要素)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
9	第3章 財・サービスの総生産を決めるのは何か(生産関数、労働分配率、資本分配率、労働生産性)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
10	第3章 国民所得は生産要素にどのように分配されるか(実質賃金)、財・サービスの需要を決めるのは何か(消費関数)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
11	第3章 財・サービスの需要を決めるのは何か(投資関数、均衡利子率、クラウディング・アウト)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
12	第3章 財・サービスの需要と供給を均衡させるものは何か(計算演習、ジニ係数)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
13	第4章 貨幣とは何か(貨幣の機能、欲求の二重の一致、商品貨幣)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
14	第4章 貨幣量はどのようにコントロールされるか(中央銀行、公開市場操作、マネーストック)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
15	これまでの講義内容を振り返り、特に重要な点を説明する	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第15回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、期末試験(100%)で評価します。

観点	S	A	B	C
マクロ経済学の基本的な用語および経済指標を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済分析を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中に復習問題等の解説・講評を行います。

教科書

特になし。各回講義資料を配付する。

参考書等

N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学I 入門篇 第5版』東洋経済新報社、2024年、税込み4,400円。

履修上の注意・学修支援

- ・ 遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。
- ・ 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
- ・ 無断退出は欠席扱いになる場合があります。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G203 19G203	ミクロ経済学Ⅱ	2年	秋	講義	2	大石和博
授業概要 ミクロ経済学Ⅱではミクロ経済学Ⅰでの学習を踏まえて、「市場と厚生」、「企業行動と産業組織」などミクロ経済学Ⅰより発展的な内容について講義を行います。この授業で学ぶ需要供給分析は、都市に生起するさまざまな問題を考えるための有効な分析用具であり、3年次以降の学習や研究でも必要になります。なぜ企業は合併するのだろうか、臓器市場は存在すべきだろうか、最低賃金の引き上げは若者にとって得だろうかといった日常生活での疑問や政府が直面する経済問題をとりあげます。できるだけミクロ経済学Ⅰの直後に履修してください。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> • ミクロ経済学の基本的な用語(消費者余剰、生産者余剰、死荷重など)を説明することができる。(DP3) • 経済分析を理解できる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	講義概要、復習(需要曲線、供給曲線)、第6章 課税は市場の成果にどのような影響を及ぼすか(税金)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第1回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
2	第6章 税の負担はどのように割り振られるか(弾力性と税の帰着)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
3	第7章 消費者余剰と生産者余剰の測定(支払許容額、費用、総余剰)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
4	第7章 市場の効率性	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
5	第8章 課税の死荷重(税があるときの厚生)、死荷重の決定(需要の価格弾力性、供給の価格弾力性)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
6	第9章 国際貿易(輸出国の利益と損失、輸入国の利益と損失)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
7	第9章 国際貿易(関税の影響)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
8	第13章 費用とは何か(総収入、機会費用、利潤)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
9	第13章 生産と費用(生産関数、労働の限界生産物)、費用のさまざまな尺度(固定費用、可変費用、平均総費用)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
10	第13章 短期と長期の費用(長期平均総費用曲線、規模の経済)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
11	第14章 利潤最大化と競争企業の供給曲線(操業停止)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
12	第14章 覆水とサンクコスト(埋没費用)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
13	第14章 長期における企業の市場からの退出および市場への参入の決定、競争市場における供給曲線	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
14	第15章 独占企業はどのように生産と価格を決定するか	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
15	これまでの講義内容を振り返り、特に重要な点を説明する	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第15回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、期末試験(100%)で評価します。

観点	S	A	B	C
ミクロ経済学の基本的な用語を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済分析を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中に復習問題等の解説・講評を行います。

教科書

N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編(第5版)』センゲージ・ラーニング株式会社、2025年、税込4,950円。

参考書等

- ① クルーグマンほか『クルーグマン ミクロ経済学 第2版』東洋経済新報社、2017年。
- ② 八田達夫『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社、2008年。
- ③ 八田達夫『ミクロ経済学 II』東洋経済新報社、2009年。
- ④ 八田達夫『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社、2013年。

履修上の注意・学修支援

- この科目を履修する前に、ミクロ経済学 I を必ず履修して下さい。
- 遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。
- 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
- 無断退出は欠席扱いになる場合があります。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G204 19G204	マクロ経済学Ⅱ	2年	秋	講義	2	大石和博
授業概要 マクロ経済学Ⅱではマクロ経済学Ⅰでの学習を踏まえて、インフレーションや失業などマクロ経済学Ⅰより発展的な内容について講義を行います。マクロ経済が身近に感じられるように、新聞紙面に出てくる主要なマクロ経済統計の使い方や弱点にも触れたいと思います。この授業で学ぶマクロ経済モデルは、都市に生起するさまざまな問題を考えるための有効な分析用具であり、3年次以降の学習や研究でも必要になります。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> マクロ経済学の基本的な用語(インフレーション、実質利子率、摩擦的失業など)を説明することができる。(DP3) 経済分析を理解できる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	講義概要、復習(実質GDP、名目GDP、GDPデフレーター、貨幣の機能)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第1回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
2	第4章 貨幣の種類(欲求の二重の一致、不換紙幣)、貨幣量の測定(M1、M2、M3)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
3	第4章 銀行の役割(信用創造)、マネーサプライへの中央銀行の影響(貨幣乗数)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
4	第4章 問題演習(貨幣乗数、ハイパワードマネー)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
5	第4章 金融政策の手段(公開市場操作、預金準備率操作、公定歩合操作)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
6	第5章 貨幣数量説(数量方程式、貨幣の取引流通速度、貨幣需要関数、マーシャルのk、ケンプリッジ現金残高方程式)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
7	第5章 貨幣、物価とインフレーション(貨幣の中立性)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
8	第5章 貨幣発行収入(インフレ税)、インフレーションと利子率(フィッシャー効果、フィッシャー方程式、実質利子率)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
9	第5章 インフレーションと利子率(期待インフレ率)、名目利子率と貨幣需要(貨幣保有の機会費用)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
10	第5章 インフレーションの社会的コスト(靴底コスト、メニューコスト、インフレーションの1つの利点)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
11	第5章 ハイパーインフレーション(ベネズエラ、ジンバブエ)、古典派の二分法(貨幣ヴェール観、貨幣の中立性)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
12	第7章 離職、就職と自然失業率(日本の就業構、自然失業率、循環的失業率、離職率、就職率、定常状態)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
13	第7章 職探しと摩擦的失業(雇用のミスマッチ、部門間シフト、大卒求人倍率)、公共政策と摩擦的失業(雇用保険)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
14	第7章 職業訓練(教育訓練給付金制度、雇用調整助成金制度)、実質賃金の硬直性と構造的失業(賃金の硬直性)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
15	これまでの講義内容を振り返り、特に重要な点を説明する	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第15回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、期末試験(100%)で評価します。

観点	S	A	B	C
マクロ経済学の基本的な用語を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済分析を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中に復習問題等の解説・講評を行います。

教科書

特になし。各回講義資料を配付する。

参考書等

N. グレゴリー・マンキュー 『マンキュー マクロ経済学I 入門篇 第5版』東洋経済新報社、2024年、税込み4,400円。

履修上の注意・学修支援

- この科目を履修する前に、マクロ経済学 I を必ず履修して下さい。
- 遅刻・早退 3 回で欠席 1 回とみなします。
- 20 分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
- 無断退出は欠席扱いになる場合があります。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23N201	簿記演習 I	2年	通年	演習	2	薄井浩信
授業概要 本演習では、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級に合格するための演習を行います。 日本商工会議所主催簿記検定3級レベルの問題を1時限に模擬試験問題を最低1回分を解いて提出します。						
到達目標(学習の成果) 日本商工会議所主催簿記検定3級レベルの会計処理能力を身に付けることができる。(DP2) 小規模会社における適切な会計処理の方法について身に付けることができる。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス、日商簿記3級の基本問題①	事前	日商簿記3級の内容についての予習をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
2	日商簿記3級の基本問題②	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
3	日商簿記3級の基本問題③	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
4	日商簿記3級の基本問題④	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
5	第1回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
6	第2回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
7	第3回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
8	第4回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
9	第5回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
10	第6回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
11	第7回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
12	第8回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
13	第1回～8回模擬試験問題の総復習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
14	第1回～8回の模擬試験の確認テスト	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
15	完全予想模擬試験問題演習第1回(初級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
16	完全予想模擬試験問題演習第2回(初級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
17	完全予想模擬試験問題演習第3回(初級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
18	完全予想模擬試験問題演習第4回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
19	完全予想模擬試験問題演習第5回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			

		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
20	完全予想模擬試験問題演習第6回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
21	完全予想模擬試験問題演習第7回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
22	完全予想模擬試験問題演習第8回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
23	完全予想模擬試験問題演習第9回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
24	完全予想模擬試験問題演習第10回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
25	第1回～10回完全予想模擬試験問題の総復習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
26	第1回～10回完全予想模擬試験問題の確認テスト	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
27	第1回予想模擬問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
28	第2回予想模擬問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
29	第3回予想模擬問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
30	第4回予想模擬問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末試験 70%、授業への取り組み(検定試験の受験、課題等の提出等)30%

観点	S	A	B	C
小規模企業における会計処理を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日商簿記3級レベルの会計処理を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日商簿記検定試験3級を受験し合格する。	受験をし、高得点の点数で合格した。	受験をし、合格した。	受験をしたが、もう少しであった。	受験をしたが、一定程度の点数だった。

教科書

『日商簿記検定 模擬試験問題集3級』(ネットスクール)、2025年、¥990(税込)

『日商簿記3級 まるっと完全予想問題集』(TAC)、2025年、¥1,650(税込)

参考書等

『合格するための本試験問題集 日商簿記3級』(TAC)、2025年、¥1,870(税込)

履修上の注意・学修支援

本演習を履修する場合は「簿記初級」および「簿記上級」の単位を修得していることが条件となります。授業では日商簿記3級の合格に向けての演習を行いますので、受験をして取得する気持ちのない人は、基本的に選択をおすすめしません。また、日商簿記検定3級を必ず1回以上受験してもらうことが履修の条件となります。(すでに、日商簿記3級を取得している人を除きます。)なお、すでに日商簿記3級を取得している人も日商簿記3級の内容を完全に理解したと判断されるまで3級の学習をしてもらいます。

この授業は、自主的な学習を基本にします。毎時間、最低1回分の模擬試験問題を解いてもらいます。さらに、毎日でも最低1時間以上の自主学習を定着させてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H201 19H201	経済史 I	2年	春	講義	2	江田郁夫
授業概要 経済とは、人間の生活に必要な財・サービスの生産・分配・消費活動やそれらをつうじて形成される社会関係をさします。つまり経済は、私たちの生活に必要な不可欠なものであり、かつ現在も刻々と変化しています。そのような現代経済の特徴を歴史的な視点から読み解きます。本授業では、世界経済の成立から近代資本主義社会へと移行するきっかけとなった産業革命までを学習します。						
到達目標(学習の成果) ・世界経済の歴史的な変遷を学び、現代社会に対する幅広い関心と知識を身につけるとともに、それらから今後の課題についても考える。(DP3) ・世界経済の歴史的な特徴をもとに現代の経済情報を的確に収集・整理し、新たな情報を創造できる専門的な知識を身につける。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	人類の進化と世界経済の成立や文明の発達と国家の誕生について考える。	事前	シラバスを事前によく確認する(1時間)。			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
2	メソポタミア・エジプトの灌漑農業と高度文明や地中海貿易とユダヤ教について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
3	ギリシア世界の発展とオリンピックとの関係について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
4	ローマ世界の発展とキリスト教の成立について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
5	インダス文明と仏教の成立や「海の道」と海外交易の発展について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
6	黄河文明と漢字・儒教・仏教との関係、そして「オアシスの道(絹の道)」と東西交易の発展について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
7	世界帝国唐の成立と長安の繁栄、そして周辺諸国との関係について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
8	メッカの繁栄とイスラーム教の成立、そしてイスラーム帝国の発展と千夜一夜物語について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
9	ゲルマン人の大移動とフランク王国の成立、そして封建社会とローマ・カトリック教会との関係性について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
10	ドイツ・フランス・イギリスの展開と十字軍にともなう西ヨーロッパ世界の変化について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
11	東方貿易の活発化にともなうイタリア諸都市の繁栄とルネサンスの展開、そして宗教改革について学ぶ	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
12	大航海時代の到来と商業革命・価格革命について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
13	イギリス絶対王政の展開と2度の革命による議院内閣制の成立について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
14	フランス・ドイツ・ロシアにおける主権国家の成立について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
15	世界各地域の歴史的な特徴と経済的な発展段階について確認する。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% 課題提出 20% 授業への取り組み 20%

観点	S	A	B	C
学ぶ姿勢ができています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています
世界経済の歴史的な変遷が理解できています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています
世界経済の歴史的な特徴が理解できています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています

教科書

『最新世界史図説タペストリー 二十三訂版』(帝国書院、2025年、990円)

参考書等

金井雄一ほか『世界経済の歴史(第2版) グローバル経済史入門』(名古屋大学出版会、2020年、2,970円)

履修上の注意・学修支援

授業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

20分以上の遅刻は欠席とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

県立高等学校地歴科教諭として17年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として6年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として12年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館等での経験をいかして、経済史に関し、より具体的でわかりやすい講義を行うことができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H202 19H202	経済史Ⅱ	2年	秋	講義	2	江田郁夫
授業概要 経済とは、人間の生活に必要な財・サービスの生産・分配・消費活動やそれらをつうじて形成される社会関係をさします。つまり経済は、私たちの生活に必要な不可欠なものであり、かつ現在も刻々と変化しています。そのような現代経済の特徴を歴史的な視点から読み解きます。本授業では、18世紀に始まった産業革命以降から、現在までの世界経済の歴史を学習します。						
到達目標(学習の成果) ・世界経済の歴史的な変遷を学び、現代社会に対する幅広い関心と知識を身につけるとともに、それらから今後の課題についても考える。(DP3) ・世界経済の歴史的な特徴をもとに現代の経済情報を的確に収集・整理し、新たな情報を創造できる専門的な知識を身につける。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	資本主義体制の確立と社会問題の発生や都市への人口集中と労働・社会問題について考える。	事前	シラバスを事前によく確認する(1時間)。			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
2	財政赤字とアメリカ独立革命やブルジョワジーの誕生とフランス革命について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
3	チャーティスト運動と社会主義思想の成立や労働者と1830年・1848年の革命について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
4	自由貿易とイギリスの繁栄やドイツ帝国と社会保険制度について理解する。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
5	奴隷制と米南北戦争や古典派経済学とマルクス経済学について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
6	ヨーロッパの経済進出と植民地化やアヘン戦争と日本の開国について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
7	第二次産業革命と移民の急増や植民地の獲得と帝国主義について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
8	3C政策と3B政策や三国同盟と三国協商について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
9	第一次世界大戦と総力戦体制やロシア革命とソ連の成立について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
10	国際協調と軍縮や世界恐慌と第二次世界大戦について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
11	米ソの冷戦と東西ヨーロッパやアジア諸国の独立と分断について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
12	朝鮮戦争と核兵器開発や経済復興とアメリカの繁栄について理解する。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
13	平和共存政策とベルリンの壁や第三世界の台頭とキューバ危機について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
14	石油危機と貿易摩擦や冷戦の終結とソ連の解体について学ぶ。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
15	グローバル化と金融危機や保護主義と貿易戦争について考える。	事前	前時の内容をレジュメをもとに確認する。(1時間)			
		事後	授業の内容を授業記録にまとめる(3時間)。			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% 課題提出 20% 授業への取り組み 20%

観点	S	A	B	C
学ぶ姿勢ができています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています
世界経済の歴史的な変遷が理解できています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています
世界経済の歴史的な特徴が理解できています	完全にできています	ほぼできています	十分にできています	一定程度できています

教科書

『最新世界史図説タペストリー 二十三訂版』(帝国書院、2025年、990円)

参考書等

金井雄一ほか『世界経済の歴史(第2版) グローバル経済史入門』(名古屋大学出版会、2020年、2,790円)

履修上の注意・学修支援

授業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

また、毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

20分以上の遅刻は欠席とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

県立高等学校地歴科教諭として17年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として6年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として12年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館等での経験をいかして、経済史に関し、より具体的でわかりやすい講義を行うことができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H203 19H203	日本経済論	2年	春	講義	2	漆戸宏宣
授業概要 大学における経済学関連の授業には、理論(具体的な科目名:ミクロ経済学、マクロ経済学など)、政策(政策は応用と言う場合もある)(同:経済政策、財政政策など)、歴史(同:経済史、経済学史など)に関わる授業がある。この授業では、経済学に関連する基礎的な理論、政策、歴史のうち、特に日本経済にかかわる政策や歴史について授業を行う。具体的には、少子高齢化や年金などの社会保障、戦後日本経済の歴史、環境問題、労働問題、消費者問題、地域社会問題が主なテーマである。						
到達目標(学習の成果) 日本経済に関連する政策、歴史、制度、仕組みを理解し、説明することができる。(DP3) 日本経済における問題点を見出し、その解決に関して自分なりの政策手段を提示し、その内容を説明することができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	社会保障1 少子高齢化	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
2	社会保障2 職業選択と公的年金制度	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
3	社会保障3 年金の受給と負担、財政方式	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
4	社会保障4 年金の財政方式	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
5	社会保障5 医療、介護、その他の社会保障	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
6	戦後の日本経済の歴史1 戦後復興	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
7	戦後の日本経済の歴史2 高度経済成長	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
8	戦後の日本経済の歴史3 バブル経済	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
9	戦後の日本経済の歴史4 平成以降の日本経済	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
10	戦後の日本経済の歴史5 現代の日本経済	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
11	環境保全と公害防止	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
12	労働問題	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
13	消費者問題	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
14	地域社会問題	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
15	まとめ(今後の日本経済の展望)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験(70%)、課題レポート(15%)、授業への取り組み(15%) (授業内小レポート、小テスト、授業内における積極的な発言等)

観点	S	A	B	C
日本経済に関連する政策、歴史、制度、仕組みについての理解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
日本経済における問題点とその解決に関する政策手段の理解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特に指定しない。授業用に私自身が作成したレジユメを用いる。

参考書等

根岸毅宏・中泉真樹編著『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』東洋経済新報社、2021年

履修上の注意・学修支援

レジユメの該当箇所を事前に熟読して予習をし、疑問点を明らかにしておく。授業後はレジユメ等を用いて復習をする。その際、特に重要な点として、レジユメの穴埋め欄の理解を深め知識を定着させる。また、随時提出を求められる、課題レポートの提出のための準備を必ずする。

出席状況(含遅刻)や授業中の態度の著しく悪い者、課題等の提出物を全て提出しない者は減点、もしくは、不合格となる場合がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H204 19H204	世界経済論	2年	秋	講義	2	田部井信芳
授業概要 貿易の利益、比較優位、貿易政策、直接投資、WTO、経済統合など国際貿易、さらに国際収支、為替レート、国際通貨制度など国際金融に関する基礎について説明する。現実の世界経済に関連させて説明を行い、グローバル化する世界経済を理解するための分析手段を提供する。						
到達目標(学習の成果) ・世界経済に関する知識を習得し、世界経済の現状について理解することができる。(DP3「問題解決力」) ・世界経済に生じている課題を理解し、その対応策について考察することができる。(DP3「問題解決力」)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	世界経済の現状と課題を把握する	事前	世界経済の現状について考える。(2時間)			
		事後	世界経済の課題について理解する。(2時間)			
2	国際収支と為替レートの基礎について理解する	事前	貿易収支及び円高・円安等の経済用語について調べる。(2時間)			
		事後	国際収支の概念と為替レートについて理解する。(2時間)			
3	貿易の利益と貿易が生じる要因について	事前	世界貿易の現状について調べる。(2時間)			
		事後	貿易の利益について考える。(2時間)			
4	比較優位の原理により貿易を説明する	事前	貿易が生じる理由について考える。(2時間)			
		事後	比較優位の考え方を理解する。(2時間)			
5	関税などの貿易政策の効果について	事前	貿易政策の手段について確認する。(2時間)			
		事後	輸入関税が自国経済に与える効果を理解する。(2時間)			
6	直接投資が生じる要因とその効果について	事前	直接投資について調べる。(2時間)			
		事後	日本の直接投資の動向を確認する。(2時間)			
7	WTOが貿易自由化に果たした役割について	事前	WTOについて調べる。(2時間)			
		事後	WTOの役割と貿易交渉について確認する。(2時間)			
8	経済統合の形態とその効果について	事前	経済統合の目的と形態について調べる。(2時間)			
		事後	世界の経済統合について確認する。(2時間)			
9	外国為替市場のしくみについて	事前	外国為替について調べる。(2時間)			
		事後	外国為替市場のしくみについて理解する。(2時間)			
10	為替レートの決定要因について説明する	事前	為替レートについて調べる。(2時間)			
		事後	為替レートの変動要因について理解する。(2時間)			
11	IMFと国際通貨制度の安定について	事前	IMFについて調べる。(2時間)			
		事後	国際通貨制度のしくみについて理解する。(2時間)			
12	国際金融市場の機能としくみについて	事前	金融市場のしくみについて確認する。(2時間)			
		事後	国際金融市場の機能としくみについて理解する。(2時間)			
13	アメリカ経済の現状、課題と今後の動向	事前	アメリカ経済の現状について調べる。(2時間)			
		事後	アメリカ経済の課題と今後の動向について理解する。(2時間)			
14	EU経済の現状、課題と今後の動向	事前	EUの成立過程について調べる。(2時間)			
		事後	EU経済の現状と課題について確認する。(2時間)			
15	アジア経済の現状、課題と今後の動向	事前	アジアの経済発展について確認する。(2時間)			
		事後	アジア経済の課題と今後の動向について確認する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(30%)

学期末試験(70%)

観点	S	A	B	C
世界経済の現状に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
世界経済の課題に対する対応策	完全に考察できている	ほぼ完全に考察できている	十分に考察できている	一定程度考察できている

教科書

特になし

参考書等

『はじめて学ぶ国際経済』(新版) 浦田秀次郎 他著 有斐閣 2022年

履修上の注意・学修支援

質問等がある場合、オフィス・アワーを利用すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H207 19H207	経済統計論	2年	秋	講義	2	漆戸宏宣
授業概要 この授業では、担当講師が特に重要と考える計量分析の方法(代表例:回帰分析ないしは相関分析)について、担当講師による講義と履修者自身による課題の提出を適宜組み合わせることで実施することにより、EXCEL を用いて習得することを目指す。その上で、習得した分析方法を用いて学期末までに最終課題を提出してもらうこととし、提出に向けて自身の課題、計量分析の内容について授業中に中間報告をしてもらう。履修者は、最終課題提出に当たり自身の研究テーマを自ら見つける必要があるが、テーマ自体は経済、地域、経営、法律を中心に、社会科学で計量分析を用いていけば何でも良いこととする。						
到達目標(学習の成果) 主要な計量分析の方法を習得し EXCEL を用いて実施することができる。(DP3) 計量分析を用いた卒業論文等の論文や卒業後の職場での報告書の作成、報告の技能を身につけ、問題を発見し解決を図ることができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	記述統計(1)平均、最大値、最小値	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
2	記述統計(2)偏差、分散、標準偏差	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
3	正規分布、標準化、標準正規分布、偏差値	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
4	母集団、標本	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
5	母平均、母分散、標本平均、標本分散、不偏分散	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
6	t 分布、t 検定	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
7	単回帰分析(1)最小自乗法(最小二乗法)、因果関係の検討、仮説	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
8	単回帰分析(2)係数、決定係数、仮説の検定	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
9	単回帰分析(3)EXCEL による分析方法、分析ツールの組み込み	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
10	重回帰分析(1)因果関係、仮説、係数、決定係数、仮説の検定	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
11	重回帰分析(2)ダミー変数、多重共線性、EXCEL による分析方法	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
12	相関係数 因果関係の検討、EXCEL による分析方法	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
13	地域問題を例にした計量分析	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
14	最終課題についての中間報告と質疑応答	事前	事前に報告の準備をする。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
15	中間報告を踏まえ、最終課題の作成・提出のための準備をする	事前	中間報告における問題点を再度整理する。(2時間)			
		事後	最終課題を作成する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) この授業では、課題・中間報告を担当講師の定める日時までに提出・実施することになる。よって、授業後は、レジュメ・パソコン等を用いて、毎回学修した計量分析の方法の復習と、課題・中間報告の提出・実施のための準備を必ずする。中間報告と、担当講師や他の履修者との質疑応答を必ず行わなければならない。						

成績評価の方法・基準(%表記)

課題レポート 100%。受講態度(授業内小レポート、授業内における積極的な発言、学期途中の中間報告等)は成果に応じて別途加点する。

観点	S	A	B	C
主要な計量分析の方法の習得と理解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
計量分析を用いて問題点とその解決に関する見解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特に指定しない。授業用に私自身が作成したレジюмеを用いる。

参考書等

内田学・兼子良久・斉藤嘉一『文系でもわかるビジネス統計入門』東洋経済新報社、2010年

履修上の注意・学修支援

レジюмеの該当箇所を事前に熟読して予習をし疑問点を明らかにしておく。

出席状況(含遅刻)や授業中の態度の著しく悪い者、中間報告の出席・参加・質疑応答や課題等の提出物を全て実施あるいは提出しない者は、そもそも履修を放棄したものと看做し、不合格とする公算が高い。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L201 19L201	都市計画論	2年	秋	講義	2	三浦魁斗
授業概要 都市計画は、規制と事業からなる〈手法〉により現実の都市空間を操作し、土地利用と都市施設からなる〈あるべき都市空間像〉を実現する技術体系です。 この講義ではまず、「様々な時代背景を基に〈あるべき都市空間像〉はどのように設定されてきたか」と「〈あるべき都市空間像〉の実現に向けてどのような〈手法〉がとられてきたか」という視点から、都市計画に関する専門知識を身に付けます。次に、演習を通じて都市空間の現状を理解し、都市計画についての課題を見出す力を養うことを目指します。						
到達目標(学習の成果) ☆ 都市計画が設定する〈あるべき都市像〉とそれを実現するための〈手法〉についての専門知識を習得できる(DP2)。 ☆ 都市空間の現状を理解し、都市計画的な課題を見出す力を養うことができる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	都市計画を学ぶ意義を理解しましょう。	事前	「都市計画」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
2	あるべき都市像を構成する土地利用と都市施設について理解しましょう。	事前	「土地利用 都市施設」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
3	あるべき都市像を実現するための手法について理解しましょう。	事前	「都市計画 手法」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
4	あるべき都市像が古代・中世にどのように設定されどのような手法がとられてきたかについて知りましょう。	事前	「古代・中世 都市」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
5	あるべき都市像が近代にどのように設定されどのような手法がとられてきたかについて知りましょう。	事前	「近代 都市計画」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
6	あるべき都市像が現代にどのように設定されどのような手法がとられてきたかについて知りましょう。	事前	「現代 都市計画」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
7	〈演習〉都市空間の現状を知る手法を学びましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
8	〈演習〉都市空間の現状を知る手法を使ってみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
9	1回目の講義で最もリクエストの多かった県庁所在地における都市計画について理解しましょう。	事前	対象の県庁所在地について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
10	1回目の講義で2番目にリクエストの多かった県庁所在地における都市計画について理解しましょう。	事前	対象の県庁所在地について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
11	宇都宮市で設定されているあるべき都市像について理解しましょう。	事前	「宇都宮市 都市像」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
12	あるべき都市像を実現するためにどのような手法が宇都宮市でとられているかについて理解しましょう。	事前	「宇都宮市 都市計画」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
13	〈演習〉宇都宮市における現状の都市計画から宇都宮市の都市計画上の課題について考えてみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
14	〈演習〉最近の都市計画に関する言説を読み都市計画についてのレポートをまとめてみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
15	これまでの講義を振り返り、都市計画のこれまでとこれからについて理解しましょう。	事前	今までの講義資料を見返しましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・課題解決型学習・反転授業・フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

演習中の成果物(70%)・授業への取り組み(30%)

観点	S	A	B	C
都市計画の専門知識を身に付けているか	完全に身に付けている	ほぼ完全に身に付けている	十分に身に付けている	一定程度身に付けている
現状の都市計画から課題を見出せるか	完全に見出すことができる	ほぼ完全に見出すことができる	十分に見出すことができる	一定程度見出すことができる

教科書

・ 特にありません。

参考書等

・ 伊藤雅春 他 編 (2017)、『都市計画とまちづくりがわかる本』、彰国社、2,640 円

履修上の注意・学修支援

・ 特にありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L202 19L202	都市の歴史	2年	秋	講義	2	寺内由佳
授業概要 都市の成立と発展について西洋と日本における概要を比較したのち、日本の「伝統都市」としての近世城下町、地方都市の一類型である宇都宮の都市史を学習する。主に市内に現存する古文書・絵図の内容を紹介しながら、江戸時代の宇都宮城下で生活した民衆(町人・商人層)を対象に、“ふつうの人々”の有り様をみることで、このまちのリアルな歴史に対する認識を深める。また、江戸時代から続いている商家や祭礼・年間行事などを扱い、現在のまちなみや生活にとけこんでいる都市の歴史を学習する。(毎回、レジュメ・資料を配布)						
到達目標(学習の成果) ・都市や都市社会の歴史を認識するための基礎的な感覚を身につけることができる。(DP2) ・地域の歴史に関する知識を習得し、身近な生活のなかに歴史的意義を見いだすことができる。(DP2) ・地域の歴史的事象・景観に対する活用や保存について考えることができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	【「都市史」への入口】〈「歴史」を学ぶことや〈都市の歴史を学ぶ〉ことへの感覚・意味を考え、「都市史」の視点をとらえる。	事前	「歴史」に対するイメージを具体的に想定しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
2	【都市の成立と機能】西洋都市の成立・発展とその性格を、日本との差異を意識しながら学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
3	【近世の都市】西洋と日本の比較および「伝統都市」と称される日本の城下町の類型・機構について学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
4	【近世城下町・宇都宮】城下絵図などを活用しながら、藩による城下町の整備について学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
5	【近世都市・宇都宮の機能】宇都宮が持った城下町・門前町・宿場町という3つの都市機能を学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
6	【宇都宮の商人】江戸時代の宇都宮にどのような業種の商人がいたのか、どのような商家が現在まで営業しているのかを学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
7	【まちと祭礼① 付祭りの栄華】宇都宮明神(現二荒山神社)の付祭り(現菊水祭、毎年10月最終土日開催)に関する史料から、城下や民衆の活気を学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
8	【まちと祭礼② 祭りと都市社会】①の内容をふまえ、祭りを通してみえる地域の性格や、都市における意義を考える。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
9	【寺町 佐野屋治右衛門・孝兵衛】宇都宮城下を代表する富豪の一である寺町・佐野屋(古着・呉服商)について学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
10	【寺町 沢屋宗右衛門】寺町の古着商人・沢屋宗右衛門について学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
11	【宮嶋町 丸井屋伊兵衛】宮嶋町の古着商人・丸井屋伊兵衛(現丸伊呉服店)について学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
12	【宇都宮の古着商人】上記3家の概要をふまえ、宇都宮古着仲間の動向と古着商売について学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
13	【古着の流通にみる宇都宮】古着が流通する様相から、宇都宮が持つ都市機能を学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			
14	【宇都宮の正月—おせち料理と上河原町初市—】江戸時代の節日・ハレの日における食慣習と、毎年1月11日に上河原通りで行われる初市について学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)			
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)			

15	【幕末の宇都宮】 戊辰戦争の激戦区となった城下の様相と、戦争に民衆がいかに関わったのかという点を、商人の日記や証文などの史料から学ぶ。	事前	レジュメ・資料を一読しておく。(2時間)																						
		事後	授業内容をよく復習し、知識として定着させる。(2時間)																						
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし。																									
成績評価の方法・基準(%表記) 授業への取り組み 30% 期末試験 70% (記述式、持ち込み可。問題は事前の講義で伝える。)																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都市史・都市社会史の基礎的な理解</td> <td>完全に理解できている</td> <td>ほぼ完全に理解できている</td> <td>十分に理解できている</td> <td>一定程度理解できている</td> </tr> <tr> <td>地域の歴史に対する理解</td> <td>完全に理解できている</td> <td>ほぼ完全に理解できている</td> <td>十分に理解できている</td> <td>一定程度理解できている</td> </tr> <tr> <td>地域の歴史の活用・保存に対する課題</td> <td>完全に理解できている</td> <td>ほぼ完全に理解できている</td> <td>十分に理解できている</td> <td>一定程度理解できている</td> </tr> </tbody> </table>						観点	S	A	B	C	都市史・都市社会史の基礎的な理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている	地域の歴史に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている	地域の歴史の活用・保存に対する課題	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
観点	S	A	B	C																					
都市史・都市社会史の基礎的な理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている																					
地域の歴史に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている																					
地域の歴史の活用・保存に対する課題	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている																					
教科書 特になし。																									
参考書等 高橋康夫・吉田伸之ほか編『図集 日本都市史』(東京大学出版会、1993) ジョエル・コトキン『都市から見る世界史』(ランダムハウス講談社、2007) 吉田伸之『伝統都市・江戸』(東京大学出版会、2012) 寺内由佳『近世の衣料品流通と商人―地方都市宇都宮を中心に―』(山川出版社、2022)																									
履修上の注意・学修支援 2/3以上の出席に満たない場合は期末試験の受験を不可とする。																									

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L203 19L203	住宅論	2年	春	講義	2	陣内雄次
授業概要 本講義では、住まいが人々の日常生活の基盤であることに鑑み、住まいに関して多角的な視点を学ぶとともに、住文化の担い手となるための基礎的素養を得ることを目的とする。そのため、住まいの歴史の変遷、住まいの基本的機能、社会基盤としての住まいの重要性、住文化の形成過程、住教育の現状と課題、住宅政策の変遷および現状と課題、海外の住宅政策の変遷、環境と住まいの関係、まちづくりと住まいの関係など、住まいに関する基本的事項を幅広く学ぶ。						
到達目標(学習の成果) 日々の生活の基盤である住まいの歴史の変遷、機能、社会的重要性、政策や制度の現状と課題などに関する基本的知識を習得するとともに、住文化の担い手として能動的に住まいについて考えることができるようになる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	【オリエンテーション、住まいの基礎】住まいとは何か、住まいの機能とは何かなど住まいの基礎について考える。	事前	住まいについて考える。(2時間)			
		事後	自らの住まいの機能について確認する。(2時間)			
2	【日本の住まいと住生活①】わが国の古代、中世における住まいと住生活について学ぶ。	事前	古代、中世の住まいと住生活について情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、古代、中世の住まいと現在の住まいを比較する。(2時間)			
3	【日本の住まいと住生活②】わが国の近世、近代、現代における住まいと住生活について学ぶ。	事前	近世～現代の住まいと住生活の情報を得る。(2時間)			
		事後	近本時の授業内容を振り返りつつ、世、近代の住まいと現在の住まいを比較する。(2時間)			
4	【家族の生活と住生活】家族のあり方と住まいとの関係について理解する。	事前	家族と住まいの関係について情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、家族と住まいのより良い関係について考える。(2時間)			
5	【住まいの現状と課題①】少子高齢化と住まいの関係について考える。	事前	少子高齢化の状況について情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、少子高齢化の住まいについて考える。(2時間)			
6	【住まいの現状と課題②】環境共生の住環境とまちづくりについて考える。	事前	SDGsなどについて情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、環境共生と住まいについて考える。(2時間)			
7	【住教育の現状と課題】住まいに関する学び(学校教育)の現状と課題について学ぶ。	事前	小中高校での住まいの学びを振り返る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、小中高校での住まいの学びのあり方を考える。(2時間)			
8	【住まいの設計デザイン】住まいの設計デザインの基本について理解する。	事前	住まいの設計デザインについて情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、自らの住まいのデザインについて確認する。(2時間)			
9	【日本の住宅政策①】戦後(1945年)～高度経済成長期(1960年代)におけるわが国の住宅政策について学ぶ。	事前	住宅政策について情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、戦後の住宅政策の課題について考える。(2時間)			
10	【日本の住宅政策②】高度経済成長期(1960年代)以降のわが国の住宅政策について学ぶ。	事前	高度経済成長期の住まいづくりについて情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、栃木県の住宅政策について考える。(2時間)			
11	【日本の住宅政策③】わが国の住宅政策の課題について考える。	事前	宇都宮の住宅政策について情報を得る。(2時間)			
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、これからの住宅政策について考える。(2時間)			

12	【諸外国の住宅政策①】アメリカの住宅政策について学ぶ。	事前	アメリカの住宅政策について基礎的情報を得る。(2時間)
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、アメリカの住宅政策の課題について考える。(2時間)
13	【諸外国の住宅政策②】イギリスの住宅政策について学ぶ。	事前	イギリスの住宅政策について基礎的情報を得る。(2時間)
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、イギリスの住宅政策の課題について考える。(2時間)
14	【諸外国の住宅政策③】フランスの住宅政策について学ぶ。	事前	フランスの住宅政策について基礎的情報を得る。(2時間)
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、フランスの住宅政策の課題について考える。(2時間)
15	【振り返りと自分自身の住まい】これまでの講義を振り返るとともに、自分自身の住まいについて考える。	事前	自らの住まいと住生活について振り返る。(2時間)
		事後	本時の授業内容を振り返りつつ、理想とする自らの住まいと住生活について考える。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク(ただし、受講生の人数によっては、実施できない場合があります。)、プレゼンテーション(ただし、受講生の人数によっては、実施できない場合があります。)

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み・グループワークへの貢献度 20%、レポート課題の評価 30%、期末試験の成績 50%

観点	S	A	B	C
住まいの歴史の変遷、機能、社会的重要性に関する理解 DP3	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
住宅政策や制度の現状と課題に関する理解 DP3	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
住まいについて能動的に考える力 DP3	課題を自ら考える能力がある	課題について考えをまとめることができる	課題について理解することができる	課題を一定程度理解することができる

教科書

特になし。原則としてデータで提供(グーグルクラスルーム)するが、プリントを配付する場合もある。

参考書等

平山洋介『マイホームの彼方に』(筑摩書房、2020年3月、2900円+税)

履修上の注意・学修支援

1. 本授業は出席を重視する。2/3以上出席しない場合は、試験の受験資格をなくします。また、2/3以上出席したとしても、欠席や遅刻は減点となる場合があります。
2. 本授業では教員と受講生、受講生と受講生の双方向のコミュニケーションにより、一人ひとりが「能動的に考える」ことを重視します。このため、グループワークに積極的に参画し、一人ひとりが思考を深めることを期待します。
3. 授業中の、スマホなどの使用は厳禁です。使用が発覚した場合は、欠席扱いとします。授業で使用する際は、教員が指示します。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

都市計画系研究機関での研究員としての職務。

[実務経験と授業科目との関連性]

地方自治体の住宅政策や住宅地計画の調査研究および立案業務など。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L204 19L204	都市と交通 I	2年	春	講義	2	古池弘隆
授業概要 2023年8月に宇都宮・芳賀に日本で初めて全線新設の LRT が開業しました。利用者は予測を上回り、全国から注目されています。それに伴って宇都宮の知名度は向上し、日本で最も住みたい都市のひとつになっています。しかしこれまでの宇都宮は、慢性的な交通渋滞、交通事故、都心部の空洞化、地球の温暖化による異常気象など様々な問題を抱えてきました。都市と交通 I では、まず世界と日本の交通の歴史を振り返り、宇都宮を例に現在の都市と交通の問題を詳しく調べて、それらの問題解決に向けた手法を学習します。						
到達目標(学習の成果) ・世界と日本の交通の歴史を学び、現代の都市生活における交通の現状とその課題を理解することができます。(DP3) ・交通問題の解決のためのさまざまな方法について、一般的な問題解決手法としての代替案の列举と評価の手法を身につけることができます。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	問題の発見法、いろいろな解決策とその評価方法について	事前	シラバスに目を通しておくこと (2時間)			
		事後	代替案についての考え方を復習する (2時間)			
2	交通の定義、交通の要素、交通の要件など	事前	交通に関することばのブレイクダウン (2時間)			
		事後	KJ 法を使って交通の用語や概念を整理する (2時間)			
3	古代から近世までの世界の交通の歴史	事前	配布される交通史年表を読んでおく (2時間)			
		事後	授業で学んだ交通の歴史の復習を行う (2時間)			
4	近代から現代までの世界の交通史、自動車の発明	事前	産業革命が交通分野にもたらした影響について調べる (2時間)			
		事後	自動車の発明が世界にどのような影響を与えたかについて考える (2時間)			
5	古代から江戸時代までの日本の交通の歴史	事前	歌川広重の東海道五十三次などをネットで調べる (2時間)			
		事後	日本の交通の特異な点について復習する (2時間)			
6	明治維新から現代までの日本の交通の歴史	事前	江戸時代までと明治以降の交通の違いを調べる (2時間)			
		事後	交通に関して外国から受けた影響を整理する (2時間)			
7	モータリゼーションがもたらした様々な都市と交通の問題とその影響	事前	自分の身の回りの交通問題について考えてみる (2時間)			
		事後	どのような交通問題があるかを復習する (2時間)			
8	世界的な自動車の増加による交通渋滞の現状	事前	身の回りの交通渋滞の実態について調べる (2時間)			
		事後	世界における交通渋滞の実態と原因を整理する (2時間)			
9	自動車による交通事故の推移と現状、原因とその対策	事前	新聞やネットで最近の交通事故について調べる (2時間)			
		事後	交通事故の歴史的な推移、原因等について考える (2時間)			
10	交通公害と地球温暖化の原因	事前	世界的な地球の温暖化の歴史について調べる (2時間)			
		事後	温暖化のメカニズムと予測について復習する (2時間)			
11	公共交通の衰退の原因と交通弱者の増加	事前	公共交通にはどのようなものがあるかを調べる (2時間)			
		事後	公共交通がなぜ衰退したかを考える (2時間)			
12	都市のスプロール化、中心市街地の空洞化	事前	オリオン通りなど都心の商店街を歩いてみる (2時間)			
		事後	都市の人口や商業施設の経年変化について復習する (2時間)			
13	放射・環状などの道路網、高速道路から生活道路までの道路の段階的構成	事前	道路にはどのような役割があるかを考える (2時間)			
		事後	授業で学習した道路のヒエラルキーを復習する (2時間)			
14	安全・円滑化のための交通信号などによる交通制御	事前	自転車や自動車が安全に走行する方法を考える (2時間)			
		事後	さまざまな交通制御の種類を振り返る (2時間)			
15	自動車の社会的費用	事前	自動車を所有するのにかかる費用を考える (2時間)			
		事後	社会全体で考えたときの自動車の費用を復習する (2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(70%), 授業への取り組み(30%)に基づいて評価します。

観点	S	A	B	C
都市交通の現状や課題に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市交通問題の解決策に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

教科書は使用しません。

参考書等

森田哲夫・湯沢昭 図説わかる交通計画 学芸出版社 2020年

森田哲夫・森本章倫 図説わかる都市計画 学芸出版社 2021年

毎回の授業で使用したPPTから配布資料を作成し、Google Classroom で受講生に配布し、復習での活用を促します。

履修上の注意・学修支援

出席状況・受講態度を重視します。出欠は毎回聴講カードで確認します。

全15回の講義の3分の2以上の出席がなければ期末試験を受験することはできません。

また、授業内容に関する質問を歓迎し、積極的に学生の意見や考え方についての発言を促します。具体的には聴講カードの裏を利用して質問や意見を書いてもらい次の授業のはじめにそれらに対する回答をクラス全体で共有します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L205 19L205	都市と交通Ⅱ	2年	秋	講義	2	古池弘隆
授業概要 2023年に開業した日本で最初のLRTは宇都宮のまちづくりに大きな変化をもたらしています。世界的には自動運転やEVなどの自動車技術の進歩や交通需要管理、LRTやBRTなどの公共交通の推進、自転車交通の推進などさまざまな変化が起こっています。また、交通は都市構造のあり方に深く関係していることから、コンパクトシティやTODについても学習します。さらに20世紀の自動車依存社会から21人間中心の都市へと大きなパラダイムシフトが進行しています。海外の最新事例も含めて最新の考え方を紹介し、人口減少・少子高齢化時代における持続可能な交通まちづくりについてビデオなどを用いて詳しく紹介します。						
到達目標(学習の成果) ・都市における交通問題の解決策には、公共交通、自動車、自転車など多様な方法があることを学ぶことができます。(DP3) ・都市と交通に関する問題解決手法として、代替案の列举と評価の手法を身につけることができます。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	EVや自動運転、ライドシェアなど次世代の自動車のあり方	事前	シラバスに目を通しておくこと (2時間)			
		事後	CASEといわれる新しい動きについて復習する (2時間)			
2	交通渋滞の緩和をめざして、道路交通容量の増大など	事前	より多くのクルマを通すにはどうすればよいかを考えてみる (2時間)			
		事後	様々な交通容量増大策について整理する (2時間)			
3	交通需要管理(TDM)の5つの分野における事例	事前	クルマの賢い使い方について考える (2時間)			
		事後	5つのTDMについて復習する (2時間)			
4	さまざまな公共交通機関の分類と特徴について	事前	公共交通にはどんなものがあるかを考える (2時間)			
		事後	公共交通の種類や特徴を整理する (2時間)			
5	BRTやコミュニティ・バスなど新しい方式によるバスの活性化	事前	宇都宮市内のバスについて課題を考える (2時間)			
		事後	バスの活性化について学んだことを整理する (2時間)			
6	世界と日本のLRT(Light Rail Transit)の歴史と現状、課題	事前	参考書やネットで世界の公共交通について学ぶ (2時間)			
		事後	授業で学んだ世界と日本のLRTについて整理する (2時間)			
7	日本で最初に新設された宇都宮LRTの経緯と課題	事前	宇都宮のLRTに乗ってみる (2時間)			
		事後	宇都宮LRTの開業までの歴史と今後の課題を復習する (2時間)			
8	宇都宮市が進めているネットワーク型コンパクトシティ(NCC)について	事前	宇都宮市のHPでNCCについて調べる (2時間)			
		事後	NCCの意義や必要性について整理する (2時間)			
9	公共交通指向型開発(TOD)の海外事例や国内の動向	事前	宇都宮駅東口交流拠点施設を見学する(2時間)			
		事後	宇都宮のLRTとTODの関連性について整理する (2時間)			
10	先進国で起こっている脱自動車の動きについて	事前	パリの15分都市の計画についてネットで検索してみる (2時間)			
		事後	世界における新しい都市と交通の関係を復習する (2時間)			
11	身近な交通手段としての自転車交通の現状と課題	事前	自分が自転車に乗るときにどんな問題があるかを考える (2時間)			
		事後	自転車に関するハード、ソフトの課題を整理する (2時間)			
12	世界中で急増しているシェアサイクルや電動キックボード	事前	シェアサイクルかキックボードに乗ってみる (2時間)			
		事後	シェアサイクルの推移、現状、課題を整理する (2時間)			
13	宇都宮の自転車のまち推進計画	事前	市のHPで自転車の施策について調べる (2時間)			
		事後	宇都宮の自転車計画を整理する (2時間)			
14	健康とまちづくりを目指す歩きたくなるまちづくり	事前	オリオン通りなどまちなかを歩いて課題を探索する (2時間)			
		事後	高齢化時代の健康まちづくりの重要性を認識する (2時間)			
15	人中心のまちづくりに向けたこれからの都市と交通のあり方	事前	これまでの授業を振り返りこれからの施策を考える (2時間)			
		事後	クルマから人へのパラダイムシフトについて復習する (2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(70%), 授業への取り組み(30%)に基づいて評価します。

観点	S	A	B	C
都市における様々な交通手段に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市と交通のあり方に関する考え方	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

教科書は使用しません。

参考書等

森田哲夫・湯沢昭 図説わかる交通計画 学芸出版社 2020年

森田哲夫・森本章倫 図説わかる都市計画 学芸出版社 2021年

毎回の授業で使用したPPTから配布資料を作成し、Google Classroom で受講生に配布し、復習での活用を促します。

履修上の注意・学修支援

出席状況・受講態度を重視します。出欠は毎回聴講カードで確認します。

全15回の講義の3分の2以上の出席がなければ期末試験を受験することはできません。

また、授業内容に関する質問を歓迎し、積極的に学生の意見や考え方についての発言を促します。具体的には聴講カードの裏を利用して質問や意見を書いてもらい次の授業のはじめにそれらに対する回答をクラス全体で共有します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23M201 19M201	マーケティング論	2年	春	講義	2	内藤英二
授業概要 商品やサービスを生産地から消費地まで届けるための様々な活動であるマーケティングは、経営学の中では、機能分野別戦略の一つに位置づけられますが、その目的、主体(担い手)、対象となる分野は企業の枠を超えて、多様化する傾向にあります。私たちの身の回りにある商品やサービスの全てがマーケティングの何らかの活動を経てもたらされたものであるといえるのであって、マーケティングの発想と手法を活用すれば、私たちは年齢や性別、学歴、居住地などの違いに関係なく、自らのアイデアを具体化し、私たちを取り巻く環境に働きかけ、諸々の問題を解決するための方法を導き出すことが可能になります。						
到達目標(学習の成果) 個別経営体としての企業が実践してきたマーケティング活動に関する基礎的知識の修得を通じて、マーケティング的な発想を身に着けます。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	マーケティング発達の歴史:マーケティングとは何をするのか=マーケティングの定義の変遷	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	マーケティングの定義が変化してきた理由について(2時間)			
2	マーケティング戦略①:マーケティング戦略展開プロセス、需要創造・消費者志向・競戦略	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	マーケティング目標と市場標的について(2時間)			
3	マーケティング戦略②:マーケティング目標・市場標的・外部環境と内部資源、マーケティングミックス	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	マッカーシーの4P理論について(2時間)			
4	製品計画①:プロダクト・ライフサイクル、2つの新製品開発と既存製品の改良・新用途開発・廃棄	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	プロダクト・ライフサイクルの役割について(2時間)			
5	製品計画②:製品の多角化と多様化、商標(ブランド)と包装(パッケージ)戦略【共和大パロディロゴ作成方法説明】	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	製品多角化と多様化について(2時間)			
6	価格政策:価格設定と価格管理、価格設定の方法(コストプラス法、マークアップ法、損益分岐点分析)【フィードバック】	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	今までに体験したこのとある価格設定方法について(2時間)			
7	販売促進①:人的販売・広告・パブリシティ・セールスプロモーション・ロコミ、効果的な販売促進策=AIDMAの法則、広告計画【共和大パロディロゴ投票選定】	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	販売促進の二つの意味について(2時間)			
8	販売促進②:広告計画=情報の収集分析・基本計画・媒体戦略・表現戦略・出稿・効果測定、販売管理とセールスプロモーション【LRTラッピングデザインの説明】	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	その他のセールスプロモーションの事例について(2時間)			
9	流通政策:流通経路(チャネル)・流通管理、小売業経営と物的流通システム、「流通経路の形成」と「取引極小化の原理」	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	物流と商流について【LRT作品発表と講評】(2時間)			
10	消費者保護政策:北欧で生まれたオンブズマン・システムを活用した消費者保護政策と我が国の消費者保護政策の比較検討【LRTラッピングデザイン・キャッチコピー投票・選定】	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	オンブズマン・システムの特徴について(2時間)			
11	マーケティングの新潮流①:マーケティングの社会化、企業による社会志向のマーケティング、社会責任と社会貢献	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	マーケティングの社会化の実例について(2時間)			
12	マーケティングの新潮流②:公共・非営利組織のマーケティング、グリーンマーケティング、SDGsとマーケティング活動	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	宇都宮市で実践されているSDGs活動について(2時間)			
13	マーケティングの新潮流③:サービス・マーケティング、真実の瞬間、関係性のマーケティング	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	サービスの特性について(2時間)			
14	マーケティングの新潮流④:協同組合主義とディ・マーケティング、情報技術革新とマーケティング	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	プロシューマーについて(2時間)			

15	マーケティング論とまちづくり活動:シティライフ学部学生による各種のまちづくり関連活動で実践されているマーケティングの知識【期末試験レポート課題の説明を含む】	事前	まちづくり活動関連配布資料の内容の検討(2時間)
		事後	私が参加したまちづくり活動の中のマーケティング(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ① 振り返りシート:毎回の終了時に振り返りシートのテーマをクラスルームにて発表します。字数は800字程度(600字~1000字)。回収は次回授業の終了時とします。
- ② 課題(マーケティングワークアウト):第2回「マーケティング戦略」の授業では、競争戦略をテーマとして、宇都宮共和大学でのキャンパスライフの特色を広く社会にアピールするための「共和大パロディロゴ」を制作します。第8回「販売促進②」では、宇都宮市への関心を高める効果の期待できるLRTのラッピングデザインを考えます。
提出された課題は授業中にフィードバックし、相互にアイデアに関する講評等をしてもらいます。LRT 附ラッピングデザインについては、授業時間中にペーパーモデルを実際に製作し、履修学生の投票により、デザインとキャッチコピーを選定します。
- ③ 期末レポートとして、栃木県の特産品や観光スポット等を活用した新製品・新サービスの企画書を作成します。

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① 振り返りシート
- ② 2種類の課題(ワークアウト):「共和大パロディロゴ」、「LRTラッピングデザイン」
- ③ 期末試験レポート「栃木県の特産品を活用した新製品、あるいは観光スポットや地域資源を活用した新しいサービスを実現するための企画書を作成しなさい」

以上3点への取り組みをもとに成績評価をします。基準は①30%、②30%、③40%を目安とします。

観点	S	A	B	C
経営者の視点に立つ従来のマーケティングに関する基礎的知識の理解	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来ている。	ある程度の理解ができています。	部分的に理解が不十分な点がある。
共和大パロディロゴ	訴求ポイントが明確で独創性がある。	自分以外の受講生の作品についても、多くの意見を出せる。	実現可能性についての検証が十分なされていない。	独創性に欠けている
取引極小化原理ロールプレイングゲーム	自身の役割に積極的に取り組み、内容をよく理解している。	自身の役割に積極的に取り組んでいるが内容の理解がやや不十分	自身の役割への積極的な取組と内容の理解ともにやや不十分	積極的な取組と内容の理解の双方で不十分

教科書:教科書は使用しません。

参考書等

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』有斐閣アルマ
小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞社、高島克義・桑原秀史『現代マーケティング論』、田中洋・清水聡『消費者コミュニケーション戦略—現代のマーケティング戦略』有斐閣アルマ、梅沢昌太郎編著『現代商業学』慶応義塾大学出版会、渡辺好章・梅沢昌太郎監訳『公共・非営利のマーケティング』白桃書房

履修上の注意・学修支援

毎回の授業終了後に、次回授業のワークシートのPDFファイルをクラスルームに資料としてアップアップしますので、精読の上、保管してください。第1回のワークシートのみは授業当日の配布となります。

『ワークシート』と『振り返りシート』は、毎回の授業終了時にGoogleクラスルームにPDFファイルで保存します。授業を欠席した人はGoogleクラスルームから『ワークシート』と『振り返りシート』をダウンロードして活用してください。欠席した回の『振り返りシート』も毎回の授業終了時に提出することができます。

質問や連絡がある場合は、教育厚生棟7階の研究室まで、メールの場合は、naito@kyowa-u.ac.jp まで問い合わせてください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

全国農業協同組合連合会のシンクタンクである社団法人農協流通研究所調査研究部研究員として7年間勤務し、農林畜産水産物の流通、マーケティング関連の調査、商品企画等に従事。文教大学、日本大学、東京学芸大学、相模女子大学、東海大学等においてマーケティング論を中心に非常勤講師を務め、神奈川県卸売市場審議会委員等も務めました。

[実務経験と授業科目との関連性]

食品を中心とした幅広い商品の流通構造を実際に実証分析した経験から、より具体的な流通の実態を解説可能です。農産品を原料とする各種加工食品の新製品開発に参画した経験を持っています。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23N202 19N201	財務会計論 / 現代会計論 I	2年	春	講義	2	薄井浩信
授業概要 企業会計とは、企業が営む経済活動によって発生する財産変動の原因を勘定科目と貨幣額で記録計算し、その原因と記録を照合し記録の脱漏や誤謬を修正して企業の利害関係者に財務情報として報告するシステムです。この報告の対象あるいはその目的の違いによって、財務会計と管理会計に区分されます。本講義では、企業外部の利害関係者に対して、企業の一定期間の経営成績と一定時点の財政状態を報告する財務会計について学習します。そして、経営者が企業の実態を会計情報によって開示することにより、アカンタビリティ(会計責任)がいかにして果たされているかを学習します。						
到達目標(学習の成果) 複式簿記の基本原理を理解し、商業活動を行う株式会社の取引を勘定科目と貨幣金額で認識しそれを仕訳し、総勘定元帳への記帳と決算の一連の処理方法を修得し、株式会社の損益計算書や貸借対照表の作成ができる。 また、日本商工会議所主催の簿記能力検定試験の2級の資格取得のための商業簿記の知識を身につけることができる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	商品売買	事前	商品売買の基本的会計処理について予習する。(2時間)			
		事後	商品売買の会計処理について復習する。(2時間)			
2	現金及び預金	事前	現金及び預金の基本的会計処理を予習する。(2時間)			
		事後	銀行勘定調整表の作成について復習する。(2時間)			
3	債権・債務	事前	クレジット売掛金について予習する。(2時間)			
		事後	債権・債務の会計処理について復習する。(2時間)			
4	有価証券	事前	有価証券の種類について予習する。(2時間)			
		事後	有価証券の会計処理について復習する。(2時間)			
5	有形固定資産(I)(II)	事前	有形固定資産の種類について予習する。(2時間)			
		事後	減価償却の処理の方法を復習する。(2時間)			
6	リース取引、無形固定資産と研究開発費	事前	リース取引の分類について予習する。(2時間)			
		事後	リース取引の会計処理について復習する。(2時間)			
7	引当金	事前	引当金の種類について予習する。(2時間)			
		事後	貸倒引当金、その他の引当金の処理を復習する。(2時間)			
8	外貨換算会計	事前	為替について予習をする。(2時間)			
		事後	外貨換算の会計処理について復習する。(2時間)			
9	税金、課税所得の算定と税効果会計	事前	税金の分類について予習する。(2時間)			
		事後	法人税等、消費税の会計処理について復習する。(2時間)			
10	株式の発行	事前	株式会社の仕組みについて予習する。(2時間)			
		事後	株式の発行の会計処理について復習する。(2時間)			
11	剰余金の配当と処分	事前	利益剰余金の意味について予習する。(2時間)			
		事後	株主資本等変動計算書の作成について復習する。(2時間)			
12	決算手続(I)	事前	決算の意味について予習する。(2時間)			
		事後	精算表の作成について復習する。(2時間)			
13	決算手続(II)	事前	B/SとP/Lの仕組みについて予習する。(2時間)			
		事後	B/SとP/Lの作成について復習する。(2時間)			
14	収益の認識基準	事前	サービス業の収益の計上について予習する。(2時間)			
		事後	収益認識の基本原則について復習する。(2時間)			
15	本支店会計	事前	本支店会計の内容について予習する。(2時間)			
		事後	本支店会計の会計処理を復習する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末試験 80%, 課題等の提出 20%

観点	S	A	B	C
商業活動における会計処理を理解している。	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
税金や税効果会計の処理について理解している。	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
財務諸表を作成するための会計処理を理解している。	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

『日商簿記2級トレーニング』(TAC)、2024年、¥1,800(税別)

参考書等

『ステップアップ問題集 日商簿記2級 商業簿記(7版)』(大原出版)、2023年、¥1,200(税別)

履修上の注意・学修支援

本講義を履修する場合は、「簿記初級」、「簿記上級」の単位を修得していることが条件となります。

この授業は自主的な学習を基本にします。テキストを何度も読み込んで問題を解くなど、必ず予習、復習をしてください。もし自主学習を進められない分野・内容がある場合は、事前に必ず相談してください。毎日1時間以上の自主学習を必ず定着させてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23N203 19N203	原価計算	2年	秋	講義	2	薄井浩信
授業概要 すべての企業経営は、社会が必要としているさまざまな財(製品)またはサービス(用役)を提供することにより、社会に貢献しています。原価計算とは、財の生産に要したこれらの経済的諸資源の消費額(これを原価という)を、認識し、測定し、記録し、報告する計算技術です。本講義では財務諸表作成目的のための実際原価計算、原価管理目的のための標準原価計算、利益管理目的のための直接原価計算について学びます。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・製造業の基本的な経営活動と、工業簿記の勘定体系及び原価の概念と原価の費目別内容が理解できる。 ・個別原価計算(部門別計算を含む)と総合原価計算の計算方法の違いが理解できる。 ・標準原価計算と原価管理の仕組みが理解できる。 ・利益計画における直接原価計算の意義が理解できる。 ・日本商工会議所主催簿記能力検定試験2級の「工業簿記、原価計算」の分野を理解することができる。(DP2) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	工業簿記および原価計算の基礎概念、材料費	事前	シラバスに目を通しておく。(2時間)			
		事後	製造業の経営活動の特徴を復習する。(2時間)			
2	労務費	事前	労務費について予習する。(2時間)			
		事後	労務費の計算方法について復習する。(2時間)			
3	経費	事前	経費について予習する。(2時間)			
		事後	経費の測定方法について復習する。(2時間)			
4	個別原価計算Ⅰ－製造間接費の配賦、差異分析	事前	製造直接費と製造間接費について予習する。(2時間)			
		事後	製造間接費の予定配賦法を復習する。(2時間)			
5	個別原価計算Ⅱ－製品完成時と販売時の処理、仕損と作業屑	事前	工場の製造部門・補助部門について予習する。(2時間)			
		事後	個別原価計算総合問題を復習する。(2時間)			
6	部門別原価計算－直接配賦法、相互配賦法	事前	製造間接費の配賦方法について予習する。(2時間)			
		事後	直接配賦法、相互配賦法について復習する。(2時間)			
7	単純総合原価計算、等級別総合原価計算	事前	大量生産の原価計算について予習する。(2時間)			
		事後	平均法と先入先出法を復習する。(2時間)			
8	組別総合原価計算、工程別総合原価計算	事前	各種の総合原価計算について予習する。(2時間)			
		事後	組別、工程別総合原価計算について復習する。(2時間)			
9	減損・仕損が発生する総合原価計算、総合原価計算の応用	事前	仕損費・減損費の意味を予習する。(2時間)			
		事後	仕損・減損の発生点と負担関係を復習する。(2時間)			
10	直接原価計算	事前	直接原価計算の意味を予習する。(2時間)			
		事後	固定費調整について復習する。(2時間)			
11	全部原価計算と直接原価計算	事前	原価管理の意味を予習する。(2時間)			
		事後	パーシャル・修正パーシャルについて復習する。(2時間)			
12	CVP分析	事前	利益計画の意味について予習する。(2時間)			
		事後	CVP分析と利益計画との関連を復習する。(2時間)			
13	標準原価計算Ⅰ－直接原価計算の意義と記帳、直接材料費と直接労務費の差異分析	事前	原価差異の種類について予習しておく。(2時間)			
		事後	直接材料費、労務費の差異分析を復習する。(2時間)			
14	標準原価計算Ⅱ－製造間接費の差異分析	事前	製造間接費の差異の種類について予習する。(2時間)			
		事後	製造間接費の差異の計算について復習する。(2時間)			
15	製造原価報告書、工場会計の独立	事前	財務諸表の種類について予習する。(2時間)			
		事後	製造原価報告書の作成方法を復習する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末試験 70%、課題等の提出 30%

観点	S	A	B	C
工業簿記の勘定体系と記入方法を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
個別原価計算と総合原価計算を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
標準原価計算と直接原価計算を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

中島洋行、薄井浩信『工業簿記・原価計算の解法』(創成社)、2020年、¥2,500(税別)

参考書等

『合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記』(TAC出版)、2024年、¥2,000(税別)

『合格トレーニング 日商簿記2級 工業簿記』(TAC出版)、2024年、¥1,500(税別)

履修上の注意・学修支援

本講義を履修する学生は、「簿記初級」、「簿記上級」の単位を修得していることが条件となります。また、工業簿記の基礎について一定の理解を有していることが望ましい。講義は「原価計算」についての理論的、計算技術的な説明となりますが、日商簿記2級の工業簿記、原価計算の出題内容と関連させながら進めていきます。また、日商簿記2級の取得を目指している学生は、検定対策として毎日1時間以上の簿記学習を実践してください。学習内容の理解が困難な場合には、個別に相談してください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23J201 19J201	都市社会学	2年	春	講義	2	小浜駿
授業概要 都市の定義は非常に多くあるが、決定版と言える定義を決めることは難しい。簡単そうで難しい「都市というもの」を捉えるうえで必要な理論や視点を学ぶ。また、都市(郊外)と関連の深い諸現象について説明する。目に見えず、言葉でも捉えにくい「都市というもの」に潜む問題や魅力について社会学的に解説する。						
到達目標(学習の成果) 数値の順に簡易な目標である。 1)都市社会学における基礎的な内容を理解できるようになる。(DP1) 2)都市社会学で検討されている諸現象について内容を理解し、概要を説明できるようになる。特に、都市がコミュニケーションに与える影響について理解・説明ができる(DP3) 3)都市社会学の成立背景や基礎理論を理解したうえで、都市における諸現象に対して更なる疑問を抱くことができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本講義の概要を述べ、評価方法や注意事項などについて説明する。その後、都市社会学における主な着眼点や考え方について概説する。	事前	第1回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIの6-10を読んでおく(3時間)			
2	都市とは何か、という問いについて考える材料を講義によって提供し、その後簡単なグループディスカッションを行う。	事前	第2回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIの1-5を読んでおく(3時間)			
3	第2回のディスカッションを総括し、都市の代表的な定義を紹介する。その後、社会調査の結果をもとに都市のイメージについて紹介し、専門家による定義と対比する。	事前	第3回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIIの15-18を読んでおく(3時間)			
4	日本の市制施行基準や国連の都市の基準について紹介し、人口のような客観的な都市の定義が我々の実感とずれることを紹介していく。	事前	第4回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	https://population.un.org/wup/Maps/ を眺めてみる(3時間)			
5	ウェーバーの比較都市類型論や都鄙論など、古典的な都市論について紹介する。	事前	第5回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるのを読んでおく(3時間)			
6	シカゴの発展史について概説した後、人間生態学や同心円地帯理論について説明する。また、これらの理論の問題点について解説する。	事前	第6回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIIIの1を読んでおく(3時間)			
7	ワースのアーバンイズム論と、それに対する批判について解説する。その後、フィッシャーの下位文化理論について解説する。	事前	第7回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIIIの2-4を読んでおく(3時間)			
8	同類結合を中心に、フィッシャーの下位文化理論によって説明される都市の具体的な対人関係の特徴を明らかにする。	事前	第8回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIIを概観しておく(3時間)			
9	日本国内の対人現象に着目し、フィッシャーの限界と貢献について考察する	事前	第9回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIVの8-12を読んでおく(3時間)			
10	労働生産性、ワークライフバランス、ジェンダーなどの観点から都市における労働の特徴を解説し、都市の性質について考察する。	事前	第10回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書1)におけるIIIの10-13を読んでおく(3時間)			
11	原田曜平著『ヤンキー経済』を基に、現代郊外で生じている社会学的現象について紹介していく。	事前	第11回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書2)前半を読んでおく(3時間)			
12	『ヤンキー経済』で述べられた現象に対して、都市社会学の観点から批判的、専門的に再考する。	事前	第12回資料を読んでおく(1時間)			
		事後	参考書2)後半を読んでおく(3時間)			

13	都市の周辺領域（外縁部）である郊外について焦点を当てながら、都市の構造について解説する。	事前	第13回資料を読んでおく(1時間)
		事後	授業内容を想起しながら、郊外を散策する。特にロードサイド店の特徴を見るとよい。(3時間)
14	約50年の人口移動から、都市の衰退と再生の過程について解説した後、今後の都市に求められる対人関係のあり方について説明する。	事前	第14回資料を読んでおく(1時間)
		事後	https://population.un.org/wup/Country-Profiles/ を眺めてみる(3時間)
15	栃木県を中心に、「県民性」「県のブランド」など、ステレオタイプ化された都市のイメージについて具体的に考察する。	事前	第15回資料を読んでおく(1時間)
		事後	https://president.jp/category/c00348 を読む(3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

講義中に5回ほど30分の小課題をやらせよう。期末課題(50%)、課題の参加率(40%)と講義への積極性(10%)をもとに評価する。

観点	S	A	B	C
都市がコミュニケーションに与える影響	複数の理論を比較し、それぞれの違いを十分に理解している	複数の理論を比較できている	単一の理論を用い、述べることができる	農村部との違いの概略を述べられる

教科書

使用しない。毎回授業資料を配布する。

参考書等

1)『よくわかる都市社会学』(中筋直哉・五十嵐泰正編著 ミネルヴァ書房 2013年 2,800円)

2)『ヤンキー経済 消費の主役・新保守層の正体』(原田曜平著 2014年 842円)

履修上の注意・学修支援

都市、田舎(農村)、郊外へバランスよくかけてほしい。都市とは何か、郊外とは何か、正確にわからなくても構わない。実感と講義中の知識がリンクしたとき、重要な気づきが生まれるはずである。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H208 19H208	消費者行動論	2年	春	講義	2	北浦さおり
授業概要 消費者と消費行動について基本的な理論を学び、それらの理論と日常生活や日頃の経験がどのように結びつくのかを学ぶことを目的としている。普段意識せずに目にしている広告などの情報を私たちはどのように処理して、どのように消費生活に役立てているのか、あるいは、どうして特定の何かを欲しいと思うのかなどについてなるべく身近な例を用いて解説する。講義内では、映像や簡単なテストなどを使って、受講者にも体験してもらう機会をできるだけ設ける。						
到達目標(学習の成果) ・消費行動に関する専門知識を身につけることができるようになる(DP2)。 ・消費者行動論の基礎を学習することで、消費生活の現状を理解し、その課題を発見できるようになる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	消費者行動論で取り上げる範囲と学問上の背景を学ぶ	事前	消費行動に関するトピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
2	欲求とニーズ、動機に関する理論を学び、理論を用いて実体験を考える	事前	ニーズに関する理論を複数調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
3	購買行動のステップと各ステップにおけるトピックを学ぶ	事前	購買行動の種類について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
4	購買意思決定に関する理論について学ぶ	事前	購買意思決定理論について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
5	購買意思決定に関する理論を用いて日常の購買行動を考える	事前	プロスペクト理論について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
6	態度に関する理論、関与、説得などについて学ぶ	事前	態度に関するトピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
7	知覚、解釈、記憶、学習についての理論を学ぶ	事前	知覚と感覚に関連するトピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
8	知覚、学習、記憶に関する理論を消費行動へ応用する	事前	感覚と消費行動に関するトピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
9	感情と気分が消費行動に与える影響について学ぶ	事前	感情と気分について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
10	広告の役割と広告の歴史について学ぶ	事前	広告の役割について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
11	広告効果モデル、様々な媒体の広告の影響について学ぶ	事前	さまざまなタイプの広告を調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
12	ブランドの基礎について学ぶ	事前	ブランドについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
13	ブランドの価値とブランドイメージについて考える	事前	すぐれたブランドの条件について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
14	ニューロマーケティングやICTの普及に伴う消費行動の変化について学ぶ	事前	消費行動の最新トピックを調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
15	買い物依存など消費行動が個人へ与える影響について学ぶ	事前	買い物依存について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートを見直す(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内小レポート20%、試験80%

観点	S	A	B	C
消費生活における現状と課題に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
消費行動に関する専門知識の修得	完全に修得できている	ほぼ完全に修得できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特になし

参考書等

『消費者行動論体系』 田中洋 (株)中央経済社 2012年

履修上の注意・学修支援

他の受講生に迷惑がかかるため、説明中の私語は厳禁。

配布資料の穴埋めだけでなく、説明についても必要に応じてノートを取ること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H209 19H209	社会保障論 / 社会保障論 I	2年	秋	講義	2	和田佐英子
授業概要 本講義は、日本の社会保障システムを理解するために、その制度的枠組みおよびその歴史、理念、課題と今後の展望について勉強していく。講義は、毎回アップされる講義資料を中心に講義される。今年度は、橋本俊詔のテキストを中心に講義を進めていくが、社会保障の問題を持続可能な福祉社会の構築を図るという視点だけでなく、その供給主体に着目し、政府としての国・地方公共団体、地域社会、NPO や民間企業、家族等、それぞれの視点から、福祉サービスや地域福祉の現状と課題について、考えていく。						
到達目標(学習の成果) ・日本の社会保障システムについて、理論的側面・制度的側面から理解する。(DP1) ・人口減少・少子高齢化時代を迎えた日本の未来と社会保障システムの現状と課題を考え、その対策を考えることができるようになることを目標とする。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	日本の社会保障システムについて概説する	事前	第1回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義の要点を各自で整理しておくこと。(2時間)			
2	福祉国家の生成と展開 その1福祉国家の歴史的展開について考える。	事前	第2回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)。			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
3	福祉国家の基本的モデルと持続可能性について考える。	事前	第3回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
4	日本の社会保障制度の歴史と国家財政について考える。	事前	第4回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
5	日本の社会保障の特徴と評価について考える。	事前	第5回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
6	日本の医療システムについて考える。	事前	第6回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
7	日本の年金システムについて考える。	事前	第7回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
8	日本の福祉システムについて考える。	事前	第8回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
9	経済学的視点から福祉を考える。 その1 市場と政府	事前	第9回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
10	経済学的視点から福祉を考える。 その2 リスク・情報・規範と社会保障システム	事前	第10回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
11	共同体と福祉について考える。	事前	第11回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
12	国家像の変容と福祉国家について考える。	事前	第12回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
13	人口減少・少子高齢問題と日本の社会保障制度について考える。	事前	第13回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
14	地方創生と社会保障システムについて学ぶ。	事前	第14回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
15	これからの社会保障システムについて考える。理念・選択肢・報告	事前	第15回の配布資料の読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを各自で整理しておくこと。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) ・講義時間中、または、あるいは毎回の授業終了時提出の出席カードの中に、各自の意見や感想を機会がある。その意見や感想等については、授業時間中に全員にフィードバックすることがある。						

成績評価の方法・基準(%表記)

・平常点(レポート等)5% 期末試験 95% (DP3)

観点	S	A	B	C
日本の社会保障制度を理解している。(DP1)	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日本の社会保障システムの課題を理解し、対応策を考える。(DP3)	完全に理解し、対応策を考えることができている。	ほぼ完全に理解し、対応策を考えることができている。	十分に理解し、対応策を考えることができている。	一定程度理解し、対応策を考えることができている。

教科書 なし

毎回講義の時に、参考資料等をアップするので、Classroomを確認すること

参考書等

- ・ 橋木俊詔著『社会保障入門』ミネルヴァ書房 2019年12月 (2200円+税)
- ・ 広井良典著『日本の社会保障』岩波書店 2018年4月

履修上の注意・学修支援

- ・ わからないことは、そのままにせず必ず質問にくること。
- ・ 出席確認は毎回 Google フォームで行う。その際に、講義番号だけでなく、当日の授業のポイントや感想等を求めることがあるので、必ず回答すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K202 19K202	民法入門	2年	春	講義	2	渡辺靖明
授業概要 「民法」の基礎を学びます。民法は、「財産」と「家族」についてのルールを定めます。どちらも私たちの日常の暮らしと生活、そして人生にとって必要不可欠なものです。また、民法は、都市生活にも深く関わる行政法や労働法の他の法分野とも密接に関連しています。そのため、民法の基礎的知識を持つことは、財産や家族のトラブルに直面してしまったときにも、さらに都市生活で活躍する際にも、きっと役立つと思います。 本講義では、このような観点から、具体的事例をもとに、民法の入門的な知識を身に付けることを目的とします。						
到達目標(学習の成果) ・民法の全体像と基本的な役割、用語の意味や考え方(原則)、また日常の暮らしと生活との関係を理解することができる。(DP1) ・民法の視点を踏まえて、具体的事例での問題解決について、深く考え、それを文章で説明できるようになる。(DP2、DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス/法がなぜ必要なのかー授業の進め方、成績評価方法などを理解し、私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、法についての自分のイメージや、関心のある法などを整理しておく。(2時間)			
		事後	法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。(2時間)			
2	民法の全体像ー民法の役割、仕組み、基本的な考え方(原則)などを学ぶ。	事前	教科書の94～101頁(ページ)と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
3	民事責任の基礎①ー交通事故を題材に民事責任の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の2～7頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
4	民事責任の基礎②ー交通事故を題材に民事責任と刑事責任、行政責任との違いなどを学ぶ。	事前	教科書の2～7頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)。			
5	財産権の基礎ー憲法との関係、物権(占有、所有権)、債権の意味、両者の違いなどを学ぶ。	事前	教科書の38～43頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
6	売買(1)ー売買契約、債権債務の意味、考え方、未成年者による契約の効力などを学ぶ。	事前	教科書の14～19頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
7	売買(2)ー売買契約における様々な権利義務の考え方、消費者契約法の民法との関係、役割などを学ぶ。	事前	教科書の20～25頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
8	委任・通信販売ー委任契約の意味、考え方、特定商取引法の民法との関係、役割などを学ぶ。	事前	教科書の26～37頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
9	貸借ー貸借契約の意味、考え方、賃貸借契約における様々な権利義務の考え方、関連する法律の役割などを学ぶ。	事前	教科書の44～49、58～63頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			

10	クレジットカード・カード取引の仕組み、支払方法の種類、カードの不正使用による救済と責任、約款の意味などを学ぶ。	事前	教科書の 50～57 頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2 時間)
11	土地・建物—土地、建物をめぐる登記の意味、考え方、売買契約・権利義務の考え方、様々な法規制などを学ぶ。	事前	教科書の 64～69 頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2 時間)
12	家族(1) 婚姻・離婚・親子関係—憲法との関係、婚姻、離婚、親子の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の 70～81 頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2 時間)
13	家族(2) 相続—相続の意味、考え方などを学ぶ。	事前	教科書の 88～93 頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2 時間)
14	家族(3) 後見制度—家族の不法行為に関する法的責任の考え方、後見人の意味、考え方などを学ぶ。	事前	教科書の 82～87 頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2 時間)
15	これまでの総括とこれからの展望—これまで授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。 ※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性はある。	事前	これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。(2 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、後日その意見を一覧にまとめて、他の人はどのような意見を持っているかなどを確認し、自分の意見についてさらに考えを深めてもらう予定です。

成績評価の方法・基準(%表記) 期末試験 70%、小テスト・ディスカッションなど 30%

期末試験については、試験終了後、解説をクラスルームでアップします。小テストについては、授業中に解説をします。

観点	S	A	B	C
教科書及び補充レジュメでの民法等の基本的な用語の意味・考え方を正確に理解しているか。	完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度の理解ができている。	最低限度の理解はできている。
基本的な民法等の用語の意味・考え方を理解し、具体的事例の問題解決について正確に考えることができるか。	完全に理解し、考えることができている。	十分に理解し、考えることができている。	一定程度理解し、考えることができている。	最低限度の理解はできている。
具体的事例について、民法等の用語の意味・考え方や関連する判例(裁判所の判断)・学説(研究者の見解)を理解し、その問題解決方法や議論の状況をきちんと文章で説明することができるか。	完全に理解し、説明することができ、自分の考えも正確に文章で述べるできている。	十分に理解し、説明することができ、さらに自分の考えも文章で述べるできている。	一定程度理解し、説明することができている。	最低限度の理解と、説明はできている。

教科書

潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法』(5版、法律文化社、2023年)

参考書等

村中洋介ほか『嫌にならない法学入門』(2版、信山社、2023年)

履修上の注意・学修支援

- ・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけていただいています。
- ・「法学入門」や「憲法」を履修していると理解が容易になると思いますが、履修が必須というわけではありません。
- ・授業の内容を充分理解できなかった場合には、気軽に質問してください。オフィスアワー、授業の前後などで対応します

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K203 19K203	行政法	2年	春	講義	2	本年度不開講
授業概要 「行政法」の基礎を学びます。国や都道府県・市長村等の行政組織と私たち国民(市民)との関係を定める法律を総称して「行政法」といいます。日本の法律の約9割が「行政法」に分類される、とされています。実は「行政法」は、私たち国民(市民)の暮らしと生活に深く関わり、欠かすことのできない法分野なのです。 この講義では、この重要な行政法での「行政」の組織・役割・権限はどのようなものか、また国民(市民)が「行政」をどのような場合にどう訴えることができるのかなど、その入門的な知識を身に着けることを目的とします。						
到達目標(学習の成果) ・行政法の全体像と基本的な役割、用語の意味や考え方(原則)、また暮らしと生活との関係を理解することができる。(DP1) ・行政法の視点を踏まえて、具体的事例での問題解決について、深く考え、それを文章で説明できるようになる。(DP2、DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス/法がなぜ必要なのかー授業の進め方、成績評価方法などを理解し、私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、法についての自分のイメージや、関心のある法などを整理しておく。(2時間)			
		事後	法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。(2時間)			
2	行政法とはー行政法の意味や他の法分野との関係、行政行為の意味などを学ぶ。	事前	教科書の3～6頁(ページ)と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
3	行政組織ー行政主体、行政機関、行政庁、補助機関の意味と役割などを学ぶ。	事前	教科書の24～33頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
4	法治主義ー「行政」の内容と法治主義、法律の留保等の意味、考え方などを学ぶ。	事前	教科書の36～42頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方と関連する重要な3つの学説を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
5	行政行為の公定力ー行政行為及び公定力(効力)の意味、考え方などを学ぶ。	事前	教科書の44～52頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
6	行政行為の基礎ー種類、裁量、無効、取消、撤回等の意味と考え方などを学ぶ。	事前	教科書の52～76頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
7	行政契約ー民法との関係(民法の意義、契約の基礎)や行政契約の意味、役割などを学ぶ。	事前	教科書の78～88頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
8	行政指導・行政計画ー行政指導、行政計画の意味と法治主義、違法な行政指導に対する救済方法などを学ぶ。	事前	教科書の90～108頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
9	行政手続・行政強制ー行政手続の意味、行政手続法の概要、行政強制の種類、刑法の刑罰との違いなどを学ぶ。	事前	教科書の110～133頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			

10	行政立法－三権分立の基礎、法規命令、行政規則の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の136～145頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
11	行政訴訟(1)－取消訴訟の意味、民事訴訟との関係、対象となる処分性などを学ぶ。	事前	教科書の148～155頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
12	行政訴訟(2)－取消訴訟の原告・被告の適格性、訴えの利益、出訴期間、審理と判決、執行停止と異議、抗告訴訟の意味などを学ぶ。	事前	前回の授業を振り返りつつ、教科書の156～173頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
13	行政不服審査と国家賠償・損失補償－行政不服審査、国家賠償、損失賠償の意味、考えたかなどを学ぶ。	事前	教科書の176～196頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
14	情報公開制度と個人情報保護－行政の文書への情報公開を求める仕組みと個人情報との関係などを学ぶ。	事前	補充レジュメに目を通しつつ、情報公開や個人情報保護法について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
15	これまでの総括とこれからの展望－これまで授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。 ※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性はある。	事前	これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、後日その意見を一覧にまとめて、他の人はどのような意見を持っているかなどを確認し、自分の意見についてさらに考えを深めてもらう予定です。

成績評価の方法・基準(%表記) 期末試験70%、小テスト・ディスカッションなど30%

期末試験については、試験終了後、解説をクラスルームでアップします。小テストについては、授業中に解説をします。

観点	S	A	B	C
教科書及び補充レジュメでの行政法の基本的な用語の意味や考え方を正確に理解しているか。	完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度の理解ができている。	最低限度の理解はできている。
基本的な行政法の用語の意味・考え方を理解し、具体的事例の問題解決について正確に考えることができるか。	完全に理解し、考えることができている。	十分に理解し、考えることができている。	一定程度理解し、考えることができている。	最低限度の理解はできている。
具体的事例について、行政法の用語の意味・考え方や関連する判例(裁判所の判断)・学説(研究者の見解)を理解し、その問題解決方法や議論の状況をきちんと文章で説明することができるか。	完全に理解し、説明することができ、自分の考えも正確に文章で述べるできている。	十分に理解し、説明することができ、さらに自分の考えも文章で述べるできている。	一定程度理解し、説明することができている。	最低限度の理解と、説明はできている。

教科書

尾関哲夫『はじめての行政法』(6版、自由国民社、2020年)

参考書等

村中洋介ほか『嫌いなにならない法学入門』(2版、信山社、2023年)

履修上の注意・学修支援

- ・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけていただいています。
- ・「法学入門」や「憲法」、「民法入門」を履修していると理解が容易になると思いますが、履修が必須というわけではありません。
- ・授業の内容を充分理解できなかった場合には、気軽に質問してください。オフィスアワー、授業の前後などで対応します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K204 19K204	地方自治論	2年	秋	講義	2	吉野清史
授業概要 <p>我が国では、人口減少・少子高齢化の進展に伴い、様々な社会的課題が顕在化しています。この傾向は、特に地方において顕著であり、「地方自治」が担うべき役割は、ますます大きくなっています。</p> <p>この講義では、都市に生起する諸課題と密接に関わっている「地方自治」について、身近な自治体の実例を中心に、その概要をわかりやすく解説するとともに、地方自治体が今後取り組むべき新たな課題について紹介していきます。担当する講師は、現職の地方公務員であることから、地方自治の現場で「今、何が行われているのか」といった視点を中心に講義を進めていきます。</p> <p>公務員や各種団体、NPO等で活躍したい方はもちろん、地域社会で活躍したいと思う方は、是非受講してください。</p>						
到達目標(学習の成果) <p>講義全体としては、「地方自治の全体像を理解すること」を最大の到達目標とします。(DP3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方自治のしくみ」について、基本的な知識を俯瞰的に理解することを目標とします。 ・「地方自治体の政策」について、内容の理解とともに、自分なりの見解が持てるようになることを目標とします。 ・「これからの地方自治」について、現在の地域社会が抱える課題への対応について理解することを目標とします。 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	地方自治の原則、地方公共団体の概要	事前	「地域社会」を取り巻く課題について考える(2時間)			
		事後	地方自治の基本的なしくみを理解する(2時間)			
2	地方自治体の業務、組織構成	事前	居住地の自治体の「組織図」を確認する(1時間)			
		事後	自治体組織の全体像と業務を理解する(3時間)			
3	地方公務員の種類、自治体職員の給与	事前	「地方公務員」について考えてみる(2時間)			
		事後	職業としての「地方公務員」を理解する(2時間)			
4	地方自治体の採用試験	事前	居住する自治体の「採用案内」を確認する(1時間)			
		事後	採用試験に向けた準備について考える(3時間)			
5	地方自治制度の歴史	事前	明治以降の地方自治制度の略歴を読む(1時間)			
		事後	地方自治制度の変遷を理解する(3時間)			
6	地方議会の仕組み、議会と首長の関係、選挙制度	事前	これまでの「選挙」への対応を振り返る(1時間)			
		事後	議会の役割、選挙の仕組みを理解する(3時間)			
7	総合計画の概要、行政計画	事前	身近な自治体の総合計画の概要を調べる(2時間)			
		事後	行政の各種計画について概要を理解する(2時間)			
8	政策立案、EBPM、行政評価の仕組み	事前	地方自治体の「政策」をイメージする(1時間)			
		事後	政策立案、評価の仕組みを理解する(3時間)			
9	地方分権、地方創生に向けた取り組み	事前	地方創生に向けた特徴的な政策を調べる(2時間)			
		事後	地方分権、地方創生の仕組みを理解する(2時間)			
10	都市計画の概要、まちづくり、防災	事前	居住エリアのハザードマップを確認する(3時間)			
		事後	まちづくり、防災への取り組みを理解する(1時間)			
11	宇都宮市のスマートシティ、ネットワーク型コンパクトシティ	事前	スマートシティ、コンパクトシティを調べる(1時間)			
		事後	宇都宮市の政策について理解する(3時間)			
12	SDG's、地方自治体におけるSDG's	事前	「SDG's」の概要を調べてみる(1時間)			
		事後	SDG's 視点の地方自治を理解する(3時間)			
13	都市ブランド戦略、魅力度ランキング	事前	魅力度ランキングについて調べる(2時間)			
		事後	地方自治体のブランド戦略を理解する(2時間)			
14	地域資源の活用、宇都宮市の大谷地域振興	事前	身近な「地域資源」について調べる(2時間)			
		事後	「地域資源」の活用策について理解する(2時間)			
15	これからの地方自治	事前	地方自治の今後について考えてみる(2時間)			
		事後	地方自治体の「あるべき姿」を考えてみる(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① 授業への取組み姿勢（課題への取組み、質問等への対応など）：60% ② 期末試験：40%

観点	S	A	B	C
「地方自治のしくみ」について、基本的な知識を習得している	基本的な知識が俯瞰的に習得できている	基本的な知識をほぼ完全に習得している	基本的な知識を概ね習得できている	基本的な知識を一定程度習得している
「自治体の政策」について、内容を理解している	内容を理解し、自分なりの見解を持てるようになっている	内容をほぼ完全に理解している	内容を十分に理解している	内容を一定程度理解している
「これからの地方自治」に求められている課題について、内容を理解している	内容を理解し、地方自治の「あるべき姿」がイメージできる	内容をほぼ完全に理解している	内容を十分に理解している	内容を一定程度理解している

※ 成績等のフィードバックについて：定期試験結果の全体的な傾向は、クラスルームで提示します。

教科書

宇都宮市が発行している資料・刊行物を中心に資料を提供します。

参考書等

以下の文献は、地方自治の入門編として全体像を理解するための参考となるものです。

板垣勝彦著(2015)『自治体職員のための よこそ地方自治法[改訂版]』第一法規

稲継裕昭著(2011)『地方自治入門』有斐閣

履修上の注意・学修支援

講義内容は、地方自治全般に及ぶため、基本的な事項をバランスよく習得することを目的とします。3年次が履修年次となっている関連科目（開講科目については各自で確認のこと）につながる基礎的な知識の習得を視野に講義内容を構成していきます。

講義中の質問等により、受講者の関心の高い項目や理解度等に応じて時間の配分を変更するなど、講義の内容を修正しながら対応していきます。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

地方公務員(宇都宮市職員)として勤務（現職）

[実務経験と授業科目との関連性]

「地方自治論」では、講師が現職の公務員であることを最大限に活かし、地方自治体が現在進めている政策や施策の動向等について、具体的な事例を交えて解説することが可能となっています。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H205 19H205	租税論	2年	春	講義	2	和田佐英子
授業概要 本講義は、講義形式で行う。租税論では、日本の財政の現状と課題、その中でも、特に、租税を中心に分析し、学習していく。本講義では、毎回配布される配布資料を基に講義し、財政学の一分野である租税論を、経済学的アプローチ・租税制度論的なアプローチ・法的なアプローチ・財務会計的なアプローチから、租税について勉強していく。						
到達目標(学習の成果) ・歳入論的な視点にたつて、日本の租税システムの現状と課題について、きちんと理解する。(DP1) ・租税論における様々な基本的制度や理論を学習し、その現状と課題について、基本的理解と自分なりの意見をもつことができるようになることを目標とする。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	政府の役割 一財政とは何かを学ぶ。	事前	事前に第1回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「財政とは何か」について、自分なりに整理する。(2時間)			
2	市場機能と政府の経済活動一市場機能と政府の経済活動の違いを理解する。	事前	事前に第2回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「市場機能と政府の経済活動」について、まとめる。(2時間)。			
3	財政の3機能 その1一特に資源配分機能について着目する。	事前	事前に第3回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「資源配分機能」について自分なりにまとめる。(2時間)			
4	財政の3機能 その2一特に所得再分配機能について着目する。	事前	事前に第4回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「所得再分配機能」について、自分の言葉で、講義のポイントを整理すること。(2時間)			
5	財政の3機能 その3一特に経済の安定化機能について着目する。	事前	事前の第5回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「経済の安定化機能」について、整理すること。(2時間)			
6	予算制度一予算の意義と機能、予算原則について学ぶ。	事前	事前に第6回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「予算原則」について、まとめておくこと。(2時間)			
7	財政民主主義と予算一予算の種類と構成、予算過程、財政民主主義とは何かを学ぶ。	事前	事前に第7回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「財政民主主義と予算」について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)			
8	歳入論一日本の政府の収入について学ぶ。	事前	事前に第8回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「日本の歳入予算」について、整理しておくこと。(2時間)			
9	日本の租税収入について学ぶ。	事前	事前に第9回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを確認すること。(2時間)			
10	租税論一租税制度・租税の負担配分基準・租税原則について学ぶ。	事前	事前に第10回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「租税原則」について、自分の言葉で理解しておくこと。(2時間)			
11	所得税一所得税の意義・分類・所得税制度について学ぶ。	事前	事前に第11回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「日本の所得税制度」について、まとめること。(2時間)			
12	法人税一法人税の意義・分類・法人税制度について学ぶ。	事前	事前に第12回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「日本の法人税制度」について、まとめること。(2時間)			
13	消費税一消費税の概要と仕組みについて学ぶ。	事前	事前に第13回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「消費税制度の現状と課題」についてまとめること。(2時間)			
14	相続税と贈与税一相続税と贈与税の概要について学ぶ。	事前	事前に第14回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「相続税・贈与税制度の現状と課題」について、まとめること。(2時間)			
15	日本の租税システムの現状と課題について考える	事前	事前に第15回配布資料(Classroom にアップ)を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	「日本の租税システムの現状と課題」について、まとめること。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 配布資料等について、事前に読んでおくこと。講義時間中は必ずメモをとりながら受講すること。講義終了後の提出する出席カードに、講義のポイントの要約や意見・感想等を求めることがある。それぞれの意見・感想等は、講義時間中に受講者全体にフィードバックしていく。						

成績評価の方法・基準(%表記)

平常点(レポート等)5%と期末試験 95% (DP3)

観点	S	A	B	C
日本の財政（歳入論を中心にして）の現状に関する理解 (DP1)	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日本の財政（歳入論を中心にして）の課題を理解し、対応策を考える (DP3)	完全に理解し、対応策を考えることができる。	ほぼ完全に理解し、対応策を考えることができる。	十分に理解し、対応策を考えるできている。	一定程度理解し、対応策を考えるできている。

教科書

・毎回講義の時に、配布資料を作成し、それを中心に講義を進める(classroom に事前にアップする)

参考書等

・望月正光・篠原正博・栗林隆・半谷俊彦編著『第5版 財政学』創成社 2020年5月 (3300円+税)

・佐藤進 関口浩著『(新版)財政学入門』同文館出版 2019年5月 (3900円+税)

履修上の注意・学修支援

・わからないことはそのままにせず、必ず質問にくること。

・出席確認は毎回 Google フォームで行う。その際に、講義番号だけでなく、当日の授業のポイントや感想等を求めることがあるので、必ず回答すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H206 19H206	財政論	2年	秋	講義	2	和田佐英子
授業概要 本講義は、講義形式で行う。この講義では、特に日本の財政の現状と課題について、歳出論を中心に勉強していく。日本の財政制度と財政理論をしっかり勉強した上で、戦後日本の経済社会の変遷と日本の財政の現状と課題、今後の展望と対策を学んでいく。この講義を受講することによって、日本の経済社会の過去・現在・未来を政府の経済活動(財政)を通じて理解し、社会について考える手立てを持つようになる。						
到達目標(学習の成果) ・財政の現状を理解し、日本の経済社会を理解することができるようになることを目標にする。(DP1) ・歳出論の立場から、日本の財政制度とその現状と課題についての基本的な理解と関心を深め、そこから課題を見出すことができるようになる。また、基礎理論を学ぶことによって、その対応策を考えることができるようになることを目標とする。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	財政とはなにか	事前	事前に第1回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを、自分なりにまとめておく。(2時間)			
2	令和6年度予算と政府の果たすべき役割	事前	事前に第2回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	令和6年度予算のポイントを自分なりにまとめておく。(2時間)			
3	財政の基礎理論—市場機構と市場の失敗	事前	事前に第3回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「財政の3機能」について、まとめる。(2時間)			
4	財政の基礎理論—公共財の理論	事前	事前に第4回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「公共財の理論」をまとめる。(2時間)			
5	財政の基礎理論—外部性の理論	事前	事前に第5回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「外部性の理論」について、まとめる。(2時間)			
6	財政の基礎理論—政府の失敗、住民の失敗	事前	事前に第6回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「政府の失敗・住民の失敗」についてまとめる。(2時間)			
7	歳出論—経費膨張と日本の経費構造	事前	事前に第7回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを自分なりにまとめておく。(2時間)			
8	社会保障財政—日本の社会保障システムと予算	事前	事前に第8回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「日本の社会保障システム」について、まとめる。(2時間)			
9	社会保障財政—生活保障と社会保険	事前	事前に第9回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「公的年金制度」について、自分なりに整理する。(2時間)			
10	教育の財政	事前	事前に第10回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「現行の教育財政」について、意見をまとめる。(2時間)			
11	公共事業関係費—社会資本整備と景気対策	事前	事前に第11回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	公共事業関係費について、整理する。(2時間)			
12	フィスカル・ポリシー	事前	事前に第12回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	フィスカルポリシーについて、を自分なりにまとめておく。(2時間)			
13	公債と公債負担論	事前	事前に第14回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	本日の講義のポイントを自分なりにまとめておく。(2時間)			
14	財政健全化問題と日本の財政	事前	事前に第14回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	「日本の財政健全化努力」について、まとめる。(2時間)			
15	人口減少・少子高齢化時代の日本と財政政策	事前	事前に第15回配布資料(Classroom)で読んでおく。(2時間)			
		事後	本日の講義を聞いて、自分なりの意見をまとめる。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 講義内容をうのみにせず、自分なりの意見がいえるようにいつも準備をしておくこと。講義時間中の出席カードやレポートで、各自の意見を求めることがある。それらの意見等への回答は、講義時間中に、全体にフィードバックすることができる。						

成績評価の方法・基準(%表記)

平常点(レポート等)5% 期末試験95% (DP3)

観点	S	A	B	C
日本の財政(歳出論を中心にして)の現状に関する理解(DP3)	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日本の財政(歳出論を中心にして)の課題に関する理解と、その対応策について考える(DP3)	完全に理解し、対応策を考えることができる。	ほぼ完全に理解し、対応策を考えることができる。	十分に理解し、対応策を考えることができる。	一定程度理解し、対応策を考えることができる。

教科書

事前に配布資料を Classroom にアップするので、それを各自使用すること。

参考書等

望月正光・篠原正博・栗林隆・半谷俊彦編著『第5版 財政学』創成社 2020年5月 (3300円+税)

佐藤進 関口浩著『(新版)財政学入門』同文館出版 2019年5月 (3900円+税)

高橋正幸・佐藤茂著『財政学の扉を開く』有斐閣 2020年12月

履修上の注意・学修支援

・わからないことをそのままにしない。必ず、質問にくること。

・出席確認は毎回 Google フォームで行う。その際に、講義番号だけでなく、当日の授業のポイントや感想等を求めることがあるので、必ず回答すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q201 19Q202	ホスピタリティ産業論	2年	集中	講義	2	本年度不開講
授業概要 本講座は、主にサービス産業を就職先として考えている学生を対象としますが、学修意欲がありサービス産業に興味がある方であれば歓迎します。授業では、サービス産業の概念ともなるホスピタリティの基本を学んだ後、いくつかのケース・スタディを扱います。受講生は、講義期間中に実施する小テストを受験し、ホスピタリティに関するレポートを提出し発表していただきます。表層的なホスピタリティだけではなく、企業の経営戦略も包括的に考察していただきますので経営への関心が求められます。						
到達目標(学習の成果) 1. ケース・スタディを通じて、ホスピタリティの本質とサービス産業の現状や課題が理解できるようになります。(DP2) 2. サービス産業へ就職を希望する者に求められる基礎的な知識を習得することができます。(DP2) 3. 授業の一環で行うレポート作成によって課題を見出す力を養うことができます。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ホスピタリティの概念	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
2	ホスピタリティの実践(1)	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
3	ホスピタリティの実践(2)	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
4	ホスピタリティと産業 ※小テスト実施	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストで誤りだった箇所を理解し復習すること(2時間)			
5	ホスピタリティとマナー —言葉遣い、国際マナー—	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
6	ホスピタリティと感情労働、クレーム対応	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
7	ホスピタリティと顧客満足、顧客関係管理	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
8	ホスピタリティと従業員満足 ※小テスト実施	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストで誤りだった箇所を理解し復習すること(2時間)			
9	ケース・スタディ① ホテル旅館のケースを紹介します。	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
10	ケース・スタディ② ホテル・コンシェルジュのケースを紹介します。	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
11	ケース・スタディ③ 観光列車のケースを紹介します。	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
12	ケース・スタディ④ テーマ・パークのケースを紹介します。 ※小テスト実施	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	小テストで誤りだった箇所を理解し復習すること(2時間)			
13	ケース・スタディ⑤ 医療機関のケースを紹介します。	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
14	ケース・スタディ⑥ 学習支援機関のケースを紹介します。	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
15	総括、学生発表会 ※レポート提出	事前	全体の講座内容を振り返っておく。(2時間)			
		事後	本講座内で関心をもった事柄を整理し、今後の学修の課題を見つける。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

1. 授業参加度:30%
2. 講義期間中に実施する小テストを受ける:30%
3. レポート提出ならびに発表:40%

観点	S	A	B	C
ホスピタリティ産業の理解と課題抽出力	完全に（理解できている等）	ほぼ完全に（理解できている等）	十分に（理解できている等）	一定程度（理解できている等）
ホスピタリティ産業の課題に対する解決力	完全に（理解できている等）	完全に（理解できている等）	十分に（理解できている等）	一定程度（理解できている等）

教科書

指定する教科書は特になし。毎回テーマに応じた講義資料をパワーポイントにて映写します。映写した資料は講義終了後 Googleドライブに投稿します。

参考書等

日本の優れたサービス—選ばれ続ける6つのポイント・松井 拓己/樋口 陽平・生産性出版・2017年・1980円

日本の優れたサービス(2)6つの壁を乗り越える変革力・松井 拓己・生産性出版・2019年・1980円

履修上の注意・学修支援

授業は欠席しないことが前提ですが、欠席(公欠等を含む)の場合は、必ず欠席した回の授業資料を GoogleForms で確認し、次回の授業に臨むようにしてください。また、全ての学生は小テストを受け、レポートの提出と発表をすることが求められます。小テストを受験する際は GoogleClassroom へアクセスできる電子機器を持参してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

宿泊業(ホテル)の業務経験

宿泊業や地域活性化のコンサルティング業務経験

[実務経験と授業科目との関連性]

ホスピタリティの概念や、ホスピタリティ産業の構造について、実務経験に基づき講義の中で具体的な実例を示しながら解説を行います。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q202 19Q203	地域資源論	2年	秋	講義	2	坂口豪

授業概要

「地域資源論」とは、地域にもともと存在するものの価値をとらえ、地域課題の解決やまちづくりのために活用するという考え方で、戦後の日本では、新しいものをつくって地域を発展させるという「開発」を重視してきました。しかし、この弊害や限界が高度経済成長期以降みられるようになり、地域資源論の考え方が生まれました。たとえば、歴史的なまちなみは高度経済成長期には地域の発展を阻害するものととらえられましたが、近年は価値が見直され観光地になった例も多くあります。このような地域資源の観光への活かし方を事例から学んだうえで、受講生がワークショップを行い、地域資源を活かした宇都宮市の観光プランを考えます。

到達目標(学習の成果)

- ・地域資源の概念とこの概念が生まれた歴史的背景を理解することができる。(DP2)
- ・地域資源の発見や活用のための視点や事例を理解することができる。(DP2)
- ・地域資源を自ら発見し、小地域における観光振興や地域活性化を目的とした活用策を考案し、表現することができる。(DP3)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	「地域資源論を学ぶ意義」 地域資源論を学ぶ意義について考える。	事前	シラバスを読み、講義内容と進め方を確認しておく(2時間)。
		事後	本講義のねらいについて再度見返しておく(2時間)。
2	「地域資源とは何か」 地域資源の定義と分類、また観光における地域資源の活用背景について理解する。	事前	宇都宮市の地域資源として何があるか考える(2時間)。
		事後	地域資源シートを充実させる(2時間)。
3	「世界遺産の基礎知識」 世界遺産の概要を理解する	事前	世界遺産とはどういうものか調べておく(2時間)。
		事後	世界遺産の基礎知識に関する問題を解いておく(2時間)。
4	「日本の世界遺産①」 主に日本の世界遺産うち東日本にはどんな遺産があるのか理解する	事前	日本のなかで東日本にある世界遺産を調べておく(2時間)。
		事後	紹介した世界遺産の位置や登録基準、主な構成資産、および見どころを説明できるようにする(2時間)
5	「日本の世界遺産②」 主に日本の世界遺産うち西日本にはどんな遺産があるのか理解する	事前	日本のなかで西日本にある世界遺産を調べておく(2時間)。
		事後	紹介した世界遺産の位置や登録基準、主な構成資産、および見どころを説明できるようにする(2時間)
6	「世界文化遺産」 世界の主要な世界文化遺産の概要を世界史の流れとともに理解する	事前	気になる「世界文化遺産」を調べておく(2時間)。
		事後	紹介した世界遺産の位置や登録基準、主な構成資産、および見どころを説明できるようにする(2時間)
7	「世界自然遺産」 世界の主要な世界自然遺産の概要を自然科学の知見とともに理解する	事前	気になる「世界自然遺産」を調べておく(2時間)。
		事後	紹介した世界遺産の位置や登録基準、主な構成資産、および見どころを説明できるようにする(2時間)
8	「都市域の地域資源」 東京や世界の都市における地域資源の種類とその観光への利活用	事前	大都市東京にはどんな地域資源があるか書籍やインターネットで調べておく(2時間)。
		事後	都市域の地域資源やその事例を整理し自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
9	「農村域の地域資源」 日本や世界の農村における地域資源の種類とその観光への利活用	事前	農村や中山間地域にはどんな地域資源があるか書籍やインターネットで調べておく(2時間)。
		事後	紹介した事例の農村資源の観光資源化のプロセスなどを自分の言葉で説明できるようにする(2時間)
10	「自然地域の地域資源」 日本や世界の自然地域における地域資源の種類とその観光への利活用	事前	国立公園や世界自然遺産にはどんな地域資源があるか書籍やインターネットで調べておく(2時間)。
		事後	紹介した国立公園や世界自然遺産の地域資源の特徴を自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
11	「ジオパーク」 地球科学的な資源(火山や化石、崖)を地域資源として活かす手法を検討する。	事前	「ジオパーク」とはどのような場所なのか調べる(2時間)。
		事後	栃木県内でジオパークの候補地になりそうな場所の具体例を見つける(2時間)。

12	「ダークツーリズム」 「負」の存在とみなされる地域資源の活用策とその可能性を検討する。	事前	「ダークツーリズム」の具体例を調べる(2時間)。
		事後	ダークツーリズムの是非に対する自分の意見をまとめておく(2時間)。
13	「日本遺産」 日本遺産を事例に、ストーリーの活用による地域資源の発見・活用方策を理解する。	事前	日本遺産とはどのような取り組みか調べておく(2時間)。
		事後	栃木県や近隣地域の日本遺産におけるストーリーや観光資源をまとめておく(2時間)。
14	「世界農業遺産」 世界農業遺産による地域活性化の事例について検討する。	事前	「世界農業遺産」とはどのようなことか調べる(2時間)。
		事後	農業景観や農の風景をツーリズム化することについてアイデアを考える(2時間)。
15	「地域資源の発見・活用手法と課題」 地域資源の発見・活用手法またその課題と限界を概念化して理解する。	事前	これまでの講義で示した地域資源の発見方法を整理する(2時間)。
		事後	これまでの講義を整理し、ノートやレジュメにまとめる(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ワークショップでは、状況によりますが、グループワークを行い、栃木県や宇都宮市にどのような地域資源があるか受講生で議論することで発見します。また、それをもとに地域資源シートを作成し、観光への活用策を考えます。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% ワorkshopでの取り組み状況 30% 授業への取り組み 10%

観点	S	A	B	C
地域資源の概念、発見・活用の手法に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
地域資源の発見および活用策の提示	誰もが注目してこなかったような地域資源を発見し、その独自の活用策を提示できている	地域住民でなければ知らないような地域資源を発見し、その活用策を具体的に提示できている	地域住民でなければ知らないような地域資源を発見し、その活用策を提示できている	何らかの地域資源を発見し、活用策を提示できている

教科書

特になし

参考書等

世界遺産検定事務局(2023):『きほんを学ぶ世界遺産 100 世界遺産検定3級公式テキスト第4版』マイナビ出版。(1,760円)
 菊地俊夫編(2018):『ツーリズムの地理学—観光から考える地域の魅力』二宮書店。(3,520円)
 佐々木一成(2011):『地域ブランドと魅力あるまちづくり—産業振興・地域おこしの新しいかたち』学芸出版社。(3,080円)
 十代田朗(2010):『観光まちづくりのマーケティング』学芸出版社。(2,530円)
 西村幸夫編著(2009):『観光まちづくり—まち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社。(3,300円)
 松村啓子・鈴木富之・西山弘泰・丹羽孝仁・渡邊瑛季編(2023):『大学的栃木ガイド—こだわりの歩き方』昭和堂。(2,640円)

履修上の注意・学修支援

・やむを得ない事情を除き、遅刻も評価に含めます。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

浅間山ジオパーク推進協議会専門員として地域資源の活用によるジオツアー、エコツアーの企画・運営

[実務経験と授業科目との関連性]

ジオパーク専門員の立場から地球科学的な資源を活用し着地型観光のツアーづくりを行い、その集客や運営を行っていた。地域観光の運営と地域資源を観光の現場で活用していた観点から本科目と関連がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q203 19Q204	旅行ビジネス論 / 旅行ビジネス論 I	2年	春	講義	2	小澤俊雄
授業概要 旅行者の多くは旅行の手配を旅行者へ依頼して旅行致しますが、旅行者を通じて旅行を実施した場合は個人で直接手配する場合と異なり手配の確実性や保証、事故等の際、一定の補償が旅行者よりなされます。旅行業法で定められ、旅行者等の全ての営業所に1名以上選任しなければならない「旅行業務取扱管理者」の職務を通して旅行業務全般を学習し、更に国家試験「国内旅行業務取扱管理者試験」出題範囲の大半を学習致します。演習問題・過去問題演習等及び具体例を示し、より実践的な講義を行う事によって観光・旅行業界への理解を深めます						
到達目標(学習の成果) 国内旅行業務全般の知識を習得し国内旅行の手配を自らが的確、効果的に行なえる様な能力を養う事を目的とします。更に毎年9月中に実施される国家試験「国内旅行業務取扱管理者試験」に合格出来る様な知識を習得する事を最終目的とする。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	旅行業界の推移及び旅行業務全般の概要	事前	大手旅行者が企画する主要観光地向け旅行パンフレット・裏面(取引条件等)の内容を確認(2時間)			
		事後	旅行業界の歴史及び推移を復習(2時間)			
2	旅行業法の概要及び旅行業務取扱管理者制度の要点	事前	旅行斡旋業法(旧法)→旅行業法(新法)への改正点を確認(2時間)			
		事後	旅行業務取扱管理者試験の範囲や出題傾向等を確認し復習(2時間)			
3	旅行業法の準則(取引条件・各種書面・広告・旅行業協会等)	事前	旅行業務取扱管理者の職務等を確認(2時間)			
		事後	書面の記載事項や旅行業協会の法定業務を復習し説明事項と書面の記載事項の違いを復習(2時間)			
4	旅行業法に関する数字(期間・金額等)を通して要点チェック	事前	取引条件の説明・契約書面事項を確認(2時間)			
		事後	頻度の高い旅行業法上の期間等、起算日及び金額等を確認し復習(2時間)			
5	観光庁長官公示「標準旅行業約款」の概要	事前	標準旅行業約款&関連約款の要点を確認(2時間)			
		事後	企画&手配旅行契約内容の要点を復習(2時間)			
6	募集型企画旅行契約の内容及び要点	事前	契約→変更→解除→責任等に関する要点を確認(2時間)			
		事後	定められた期間等の数字を復習(2時間)			
7	受注型企画旅行契約・手配旅行契約の内容及び要点	事前	企画旅行と手・配旅行との相違点を確認(2時間)			
		事後	定められた期間・金額等の数字を復習(2時間)			
8	旅行者等の責任・免責の要点	事前	旅行者の責任・免責等に対する確認(2時間)			
		事後	損害賠償&特別保証規定の範囲及び数字を確認し復習(2時間)			
9	関連約款(運送・宿泊等)の要点 旅行業法・約款等に関する小テスト実施	事前	各種約款の相違点等を確認(2時間)			
		事後	運送・宿泊約款の期間・金額の数字を復習(2時間)			
10	前回実施の小テストを返却し解答・解説 国内観光資源の概要	事前	地図上で国内の主要な観光資源を確認(3時間)			
		事後	旅行業務取扱管理者試験(観光資源分野)の出題範囲や出題傾向を復習(1時間)			
11	国内運賃・料金規則(JR 営業規則)の要点: 前半	事前	JR 運賃・各種割引・特例等の規則を確認(1時間)			
		事後	JR 各種運賃計算問題の演習を行い復習(3時間)			
12	国内運賃・料金規則(JR 営業規則)の要点: 後半	事前	JR 各種料金の規則を確認(1時間)			
		事後	JR 各種料金計算問題の演習を行い復習(3時間)			
13	国内運賃・料金規則(航空・宿泊等)の要点	事前	資料により運賃・料金規則の要点を確認(1時間)			
		事後	運賃・料金を演習問題にて復習(3時間)			
14	国内旅行実務全般の要点を確認	事前	運賃・料金の主要な規則を確認(1時間)			
		事後	過去問演習等を通して運賃・地理等の復習(3時間)			
15	旅行業法令・標準旅行業約款の要点を確認	事前	法令・約款の要点を確認(1時間)			
		事後	過去問にて出題範囲及び出題傾向を復習(3時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験(60%)+小テスト(20%)+授業への取り組み(20%)を総合して評価

小テストを採点后に返却し、解答後具体例を示して解説

観点	S	A	B	C
国内旅行業務取扱管理者の職務及び役割を理解	完全に理解出来ている	ほぼ完全に理解出来ている	十分に理解出来ている	一定程度理解出来ている
旅行業法令及び旅行業約款の要点を理解	完全に理解出来ている	ほぼ完全に理解出来ている	十分に理解出来ている	一定程度理解出来ている
国内旅行実務の要点を理解	完全に理解出来ている	ほぼ完全に理解出来ている	十分に理解出来ている	一定程度理解出来ている

教科書 特になし(講義時に講師作成レジュメを配布)

参考書等 『一発合格!国内旅行業務取扱管理者試験テキスト&問題集』:ナツメ社発行・著者:児山寛子 2025年版¥1980(税別)

『JR時刻表』:交通新聞社発行 2025年4月号¥1375(税込)

『旅に出たくなる地図:日本』帝国書院発行 第22版¥2860(税込)

『国内旅行業務取扱管理者試験』過去問:最近3年間出題分(日本旅行業協会ホームページからダウンロード)

履修上の注意・学修支援

配布する講師作成レジュメ等は配布日以外の講義日にも使用する事が有りますので必要に応じ、受講時に持参願います。

演習問題の解答・解説後、質問は時間を空けず、その都度質問して下さい。旅行者の募集型企画旅行パンフレットで国内観光資源を把握するだけでなく裏面(契約事項等)の内容も把握して下さい。限られた講義回数で「国内観光資源」に関しては**僅か1回**の講義しか設けられません。地理は範囲が広いですが自習出来ます。日頃より観光資源に関する記事(TV・新聞・インターネット等)に注意を払い必要に応じコピーやファイルする様、心掛けて学習して下さい。更に『国内旅行業務取扱管理者試験』の受験希望者へは受験対策のアドバイス等を行いますので担当講師へ申し出て下さい。

20分以上の遅刻は欠席とみなします。

遅刻は3回で欠席1回とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

旅行業に従事していた際、現在の『総合旅行業務取扱管理者試験』に該当する1972年より実施された『一般旅行業務取扱主任者試験』第1回試験に合格し、所属していた旅行者の営業所にて責任者として多年にわたり旅行業務全般(海外・国内)を経験。

[実務経験と授業科目との関連性]

「国内旅行業務取扱管理者試験」全科目(旅行業法令・旅行業約款及び関連約款・国内旅行実務)に関しての実務経験をベースにし特に旅行手配等において必要な旅行業約款(募集型企画旅行契約)や国内旅行実務(国内観光資源・国内運賃料金計算規則)に関しては実務経験に基づき、講義の中で具体例を示して演習や解説を行います。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L206 19L206	都市景観デザイン論	2年	秋	講義	2	三浦魁斗
授業概要 景観とは「人間を取り巻く環境のながめ」であり、「良好な景観づくりのための設計行為」である景観デザインは、眺める(人間)や眺められる(環境)が農村に比べて多様かつ動的な都市において、より重要性が認識されています。 この講義では、都市の(環境)と都市を眺める(人間)に合わせて「どのように都市景観がデザインされているか」について現状を理解し、課題を見出す力を身に付けます。また、演習を通じて、見出した課題に対する解決策を議論し、問題解決力を養うことを目指します。						
到達目標(学習の成果) ☆ 都市景観の現状を理解し、景観デザインにおける課題を見出すことができる(DP3)。 ☆ 都市の景観デザインについて見出した課題に対し、どのような手法が有効か問題解決力を習得できる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	都市景観の特徴とデザインの意義について理解しましょう。	事前	「景観」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
2	都市景観のデザインに基づく景観法と景観まちづくりについて理解しましょう。	事前	「景観法 景観まちづくり」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
3	都市景観デザインの色彩や形態、技法について理解しましょう。	事前	「都市景観 構成」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
4	〈演習〉写真資料を用いて都市景観デザインの現状を捉え課題を見出す方法を学びましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
5	〈演習〉写真資料を用いて都市景観デザインの現状を捉え課題を見出す方法を使ってみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
6	〈演習〉写真資料を用いた都市景観デザインの分析結果を共有しましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
7	街並みやみどり、水辺空間などの都市における景観デザインについて理解しましょう。	事前	「公共空間 景観デザイン」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
8	〈演習〉アンケート調査を用いて都市景観デザインの現状を捉え課題を見出す方法を学びましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
9	〈演習〉アンケート調査を用いて都市景観デザインの現状を捉え課題を見出す方法を使ってみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
10	〈演習〉アンケート調査を用いた都市景観デザインの分析結果を共有しましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
11	宇都宮市における都市景観に関する施策事業について理解しましょう。	事前	「宇都宮市 景観施策」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
12	〈演習〉宇都宮市の都市景観デザインの現状を捉え課題を見出す方法を学びましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
13	〈演習〉宇都宮市の都市景観デザインの現状を捉え課題を見出す手法を使ってみましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
14	〈演習〉地図や Google ストリートビューを用いた宇都宮市の都市景観デザインの分析結果を共有しましょう。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
15	これまでの講義を振り返り、都市景観デザインのこれまでとこれからについて理解しましょう。	事前	今までの講義資料を見返しましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・課題解決型学習・反転授業・フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

演習中の成果物(70%)・授業への取り組み(30%)

観点	S	A	B	C
現状の都市景観から課題を見出せるか	完全に 見出すことができる	ほぼ完全に 見出すことができる	十分に 見出すことができる	一定程度 見出すことができる
都市景観の課題に対して 解決策を提案できるか	完全に 解決策を提案できる	ほぼ完全に 解決策を提案できる	十分に 解決策を提案できる	一定程度 解決策を提案できる

教科書

・ 特にありません。

参考書等

・ 田村明 (2005)、『まちづくりと景観』、岩波書店、760 円

履修上の注意・学修支援

・ 特にありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23C203 19C203	情報通信ネットワーク論	2年	春	講義	2	永井明

授業概要

インターネットは、現代社会において不可欠な情報通信基盤として発展し、私たちの生活のあらゆる場面へと浸透している。本講義では、インターネットが誕生して地球規模の通信基盤へと発展、さらに宇宙へと展開されるその歴史や背景を学ぶとともに、インターネットの基本的なしくみを理解することを通じ、安全・安心で創造的な生活を続けるための情報通信ネットワーク知識の修得と対応能力を身に着けることを目的とする。

到達目標(学習の成果)

- ① インターネットの歴史を把握し、その発展の背景や経緯の理解を深める (DP2)
- ② 情報通信ネットワークの様々な世界標準及びインターネットの基本的なしくみを理解する (DP2)
- ③ ネットワークセキュリティ基礎知識を修得し、事象への対応力を身に着ける (DP2)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	サイバーセキュリティ事象: 近年発生したサイバーセキュリティ事象を探求し、社会や生活への影響について考察する。	事前	報道や発表等をもとに近年発生したサイバーセキュリティ事象を調べ、それらのうち各自が特徴的と考えるものを1件抽出し概要を説明できるよう予習する。(2時間)
		事後	事象の影響を確認する。なお、この導入節の内容は、講義後半の回において深掘りする。(2時間)
2	インターネット概要: 通信の歴史、コンピュータの歴史、そしてインターネットの歴史を学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
3	インターネット概要: コンピュータネットワークとインターネットの構成や関係を学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
4	インターネット概要: インターネットの基本的なしくみ、パケット交換方式、そしてプロトコルと標準について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
5	ネットワーク基礎: ネットワークを構成する基本要素とネットワークで使われる単位を理解する。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
6	ネットワーク基礎: 経路制御、ルータとファイアウォールの基本的な機能や設定を学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
7	Webのしくみ: Webとブラウザの基本的なしくみを学び、Webページが表示される仕組みを理解する。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
8	Webのしくみ: HTTP, HTML, 及びURLの基礎を理解する。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
9	Webのしくみ: 動的ページの基本的なしくみを学ぶ。Webに関する特徴的な脆弱性について把握し、安全な利用のための対策を理解する。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)
10	暗号と認証: 情報通信ネットワークやネットワークサービスを安全に利用するための基本要素である暗号と認証について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2時間)

11	無線 LAN: 無線 LAN の基本及び関係する規格を理解する。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2 時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。学んだ操作方法を確認する。(2 時間)
12	データ流通社会: 情報通信ネットワークの高度化やデジタルサービスの発達による急増するデータ流通について考察する。	事前	参考資料「情報通信白書」の関連章を通読する。(2 時間)
		事後	新時代のデータ流通社会の実現に向けた課題を把握し、整理する。(2 時間)
13	情報セキュリティ: 基本 3 要素, 脅威の分類について学ぶ。セキュリティの世界標準及び用語の理解を深める。	事前	参考資料「情報セキュリティ 10 大脅威」を通読する。(2 時間)
		事後	用語の理解を定着させる。(2 時間)
14	情報セキュリティ対策: 個人編	事前	参考資料「情報セキュリティ 10 大脅威」を通読する。(2 時間)
		事後	対策を説明できるように理解する。(2 時間)
15	情報セキュリティ対策: 組織編	事前	参考資料「情報セキュリティ 10 大脅威」を通読する。(2 時間)
		事後	対策を説明できるように理解する。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

PC 教室における演習

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内の提出課題及び確認テストの状況 (20%), レポート課題 (20%), 期末試験 (60%)

観点	S	A	B	C
インターネット発展の背景, 経緯を理解しているか	90% 以上身につけている	80~90% 身につけている	70~80% 身につけている	60~70% 身につけている
インターネットに関連する世界標準及びインターネットの基本的しくみを理解しているか	90% 以上身につけている	80~90% 身につけている	70~80% 身につけている	60~70% 身につけている
ネットワークセキュリティ基礎知識と事象への対応の考え方や方法が身につけているか	90% 以上身につけている	80~90% 身につけている	70~80% 身につけている	60~70% 身につけている

教科書 指定なし, クラスルームにて提示する。

参考書等

【情報セキュリティに関する参考情報サイト】

- ・ 独立行政法人情報処理推進機構『情報セキュリティ 10 大脅威』
- ・ 総務省『国民のためのサイバーセキュリティサイト』
- ・ 総務省『情報通信白書』、『情報通信統計』

なお, 各サイトへの URL は授業にて提示する

履修上の注意・学修支援

1. 「情報リテラシ(情報リテラシ I)・データサイエンス入門(情報リテラシ II)」で学習する範囲について十分な知識を持っていることが受講の前提となります。
2. 遅刻をすると, その回に参加できない場合がありますので, 十分注意してください。
3. 原則として 2/3 以上出席しない場合は, 試験を受験できなくなります。
4. 授業中に, 教員の許可なく電子デバイスを使用してはなりません。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

電子デバイス研究開発, ネットワーク設計・構築, ネットワークセキュリティマネジメントシステムに係る実務

[実務経験と授業科目との関連性]

実務で得られた知見を組み入れて理論と実践のバランスを考慮した関係性を持たせ, 社会に出た際に有効となる知識の修得を図る。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23E201 19E202	キャリアデザインⅡ	2年	秋	講義	2	太田敏幸
授業概要 ● 先行き不透明で将来予測が難しい時代に自分の生き方や働き方を主体的に考え、行動する力を身に付けることを目的に、卒業後の進路をどのように選択し、そのために大学生活をいかに過ごすかなど、自分のキャリアを様々な視点から考えデザインするための基礎となる自己理解、職業・仕事理解、金融リテラシーに関する基礎的な知識・情報や、具体的にキャリアプランを描く際の有効なツールなどを学修する。						
到達目標(学習の成果) ● 卒業後の進路をどのように選択し、そのために大学生活をいかに過ごすかなど、自分のキャリアについて主体性をもって様々な視点から考えデザインするための基礎となる自己理解、職業・仕事理解、金融リテラシーに関する基礎的な知識・情報などを身に付けることができる。(DP2) ● 具体的にキャリアプランを描く際の有効なツールとして「ジョブ・カード」(厚生労働省)を理解し、活用することができる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	● オリエンテーション(授業計画の概要、授業の進め方、成績評価の方法・基準など) ● キャリアデザインのための自己理解(1) 現在社会とキャリアデザイン	事前	◆シラバスの内容に目を通し、疑問点・不明点などを明らかにしておく。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)			
		事後	◆授業資料で「現代社会とキャリアデザイン」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。			
2	● キャリアデザインのための自己理解(2) ライフサイクルとキャリアの広がり	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)			
		事後	◆授業資料で「ライフサイクルとキャリアの広がり」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。			
3	● キャリアデザインのための自己理解(3) 働く意味と自分の職業観	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)			
		事後	◆授業資料で「働く意味と自分の職業観」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。			
4	● キャリアデザインのための自己理解(4) 自己理解の基礎	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)			
		事後	◆授業資料で「自己理解の基礎」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。			
5	● キャリアデザインのための自己理解(5) 価値観・こだわり・興味・関心・強み・能力	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)			
		事後	◆授業資料で「価値観・こだわり・興味・関心・強み・能力」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。			
6	● キャリアデザインと職業・仕事理解(1) マクロな外的環境①日本経済・栃木県経済の基礎	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)			

		事後	<p>◆授業資料で「日本経済・栃木県経済の基礎」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
7	● キャリアデザインと職業・仕事理解(2) マクロな外的環境②業種・成長産業	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「業種・成長産業」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
8	● キャリアデザインと職業・仕事理解(3) ミクロな外的環境①栃木県の成長企業	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「栃木県の成長企業」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
9	● キャリアデザインと職業・仕事理解(4) ミクロな外的環境②会社組織・職種・求める能力	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「会社組織・職種・求める能力」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
10	● キャリアデザインと職業・仕事理解(5) ミクロな外的環境③職業選択・企業選択	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「職業選択・企業選択」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
11	● キャリアデザインに向けて(1) 基礎から学べるお金の話①	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「基礎から学べるお金の話①」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
12	● キャリアデザインに向けて(2) 基礎から学べるお金の話②	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「基礎から学べるお金の話②」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
13	● キャリアデザインに向けて(3) ジョブ・カード①	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「ジョブ・カード①」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
14	● キャリアデザインに向けて(4) ジョブ・カード②	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「ジョブ・カード②」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
15	● キャリアデザインに向けて(5) 今後の学生生活におけるキャリアプラ	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p>

ン ● 授業全体の振り返り		◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)
	事後	◆授業資料で「今後の学生生活におけるキャリアプラン」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- 授業ごとにコメントシートに課題対応、授業内容の理解状況などについて記入を求め、次回授業時にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(%表記)

- 期末試験 70% コメントシートを通じた課題対応・授業内容の理解度 20% 授業への取り組み 10%

観点	S	A	B	C
自分のキャリアを様々な視点から考えデザインするために必要な自己理解、職業・仕事理解、金融リテラシーに関する基礎的な知識・情報に関する理解	完全に理解できている(90%以上)	十分に理解できている(80%以上)	概ね十分に理解できている(70%以上)	一定程度理解できている(60%以上)
具体的にキャリアプランを描く際の有効なツールとしての「ジョブ・カード」(厚生労働省)に関する理解	完全に理解できている(90%以上)	十分に理解できている(80%以上)	概ね十分に理解できている(70%以上)	一定程度理解できている(60%以上)

教科書

- 教科書の指定はない。教材は基本的に授業前日までに GoogleClassroom にアップロードするので、各自で適宜準備して授業に出席する。

参考書

- 日経文庫『キャリアデザイン入門[1]基礎力編(第2版)』大久保幸夫 日本経済新聞出版社 2016年

履修上の注意・学修支援

- 毎回の授業冒頭にコメントシートを配布し、前回授業時に指示した課題に対する回答、授業内容の理解状況について記入の上、授業終了時に提出を求める。コメントシートの提出をもって授業の出席を確認する。
- 遅刻、欠席の場合には、学内ルールに従って所定の手続きを行う。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

足利銀行で人事部に 15 年 6 ヶ月在籍し人事運用、人事企画に関する各種業務に従事。株式会社あしぎん総合研究所では 2017 年 4 月から取締役本部長兼産業調査部長を務める中で 2019 年 6 月に国家資格キャリアコンサルタント試験に合格。現在は同社チーフエコノミスト主席研究員として勤務。

[実務経験と授業科目との関連性]

自分のキャリアを様々な視点から考えデザインするための基礎となる自己理解、職業・仕事理解、金融リテラシーに関する基礎的な知識・情報などについて、地元の地域金融機関での人事業務に関する経験や国家資格に合格した知見を活用して、丁寧に分かりやすく提供する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B301 19B301	言語の科学	3年	秋	講義	2	高丸圭一
<p>授業概要 言語の多面的な特性を科学的に探求します。まず、日本語の音声体系や語と句の構造、敬語を含むポライトネスの概念、地域ごとに異なる方言、さらにオノマトペ(擬音語・擬態語)の特徴について学びます。その後、言語データを扱うための自然言語処理(NLP)の基本技術を習得し、具体例を通じてその応用を理解します。最後に、テキストマイニングを用いたデータ分析や、生成 AI を活用した言語生成の仕組みと実践的な応用法を学びます。これにより、言語の構造とその応用技術の双方を理解し、学問と実践を結びつける力を養います。</p>						
<p>到達目標(学習の成果)</p> <p>① 対人コミュニケーションの基礎となる日本語に関する基本知識を理解している。(DP1)</p> <p>② ことばをコンピュータで扱う技術である自然言語処理の基礎を理解している。(DP2)</p> <p>③ 生成 AI やテキストマイニング分析の基礎知識を身につけ、適切に活用できる。(DP3)</p>						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	日本語について考える	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
2	ことばの意味の曖昧性と変化	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
3	日本語の文法	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
4	日本語の発音	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
5	日本語の韻律的特徴	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
6	待遇表現とポライトネス理論	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
7	音象徴とオノマトペ	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
8	自然言語処理とは	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			
9	自然言語処理技術：形態素解析と構文解析	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)			
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)			

10	自然言語処理技術：機械翻訳と対話処理	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)
11	テキストマイニング分析	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)
12	テキストマイニング演習	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)
13	言語モデル	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)
14	生成AIと人間のことば	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)
15	生成AI演習	事前	学修内容について参考書等を用いて予習し、自分なりの疑問点を明らかにしておく(2時間)
		事後	講義で学んだ内容を自分なりに再考し、整理した上で、ノートにまとめる。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、PC操作による実習およびプレゼンテーションを行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

グループワーク、演習の取り組み 20%/講義内の小レポートおよびプレゼンテーション 40%/期末レポート 40%

観点	S	A	B	C
対人コミュニケーションの基礎となる日本語に関する基本知識を理解している。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
ことばをコンピュータで扱う技術である自然言語処理の基礎を理解している。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
生成AIやテキストマイニング分析の基礎知識を身につけ、適切に活用できる。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

フィードバックについて:

- ・ 毎回 Classroom を介して講義の理解状況についてコメントを記入してもらいます。次回の講義で必要に応じて復習や追加の解説を行います。
- ・ 講義内で実施するプレゼンテーションや演習については、総評の形でフィードバックを行います。

教科書

なし

参考書等

- ・ 松丸真大他(2023)『ワークブック 方言で考える日本語学』くろしお出版 ISBN: 978-4874249345
- ・ 野田尚史・野田春美(2017)『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN: 978-4469213621
- ・ 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社 ISBN: 978-4327377236
- ・ 秋田喜美(2022)『オノマトペの認知科学』新曜社 ISBN: 978-4788517820
- ・ 荒木健治(2004)『自然言語処理ことばはじめ』森北出版 ISBN: 978-4627828513
- ・ 小町守監修(2016)『自然言語処理の基本と技術』翔泳社 ISBN: 978-4798128528
- ・ 谷中瞳(2024)『ことばの意味を計算するしくみ』講談社 ISBN: 978-4065369845

履修上の注意・学修支援

- ①PC を用いた実習を伴う講義内容になっているので、「情報リテラシ」「データサイエンス入門」で学習する範囲について十分な知識を持っていることが受講の前提となります。
- ②遅刻をすると、その回の実習に参加できない場合がありますので、十分注意してください。
- ③できるだけ講義時間中およびその前後に質問や相談をしてください。それ以外の時間に質問や相談がある場合は、まず電子メールにて高丸<takamaru@kyowa-u.ac.jp>宛てに用件を具体的に送信してください。必要に応じて、時間や場所を設定して面談を行います。
- ④情報処理科目・IT データサイエンス分野全般(例えば履修の仕方)に関する質問は高丸に問い合わせてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23B302 19B302	日本語表現技術	3年	春	講義	2	山口 宏
授業概要 「日本語表現技術」では、大学生として必要な日本語運用スキルを身に付けることを目的とする。相手の意図を理解し、自分の考えを的確な表現で伝えるためには、どうすればよいのか、演習を通してその基礎力を養う。「話す・聞く・読む・書く」の各言語活動を「話す・書く」を中心にバランスよく学び、場面に即して適切な言葉を選び、表現する力を養っていく。 毎回の演習を通して、日本語表現の基礎や就職試験等で試される語彙・漢字などにも対応していき、全 15 回を通して日本語表現技術の向上に努める。						
到達目標(学習の成果) 1 基礎的基本的な日本語の文章表現技術を身に付け、実生活の中で活用することができる。(DP1) 2 場面や相手に応じて、適切な言葉を選択し、相手に伝えることができる。(DP1) 3 話し言葉や書き言葉の使い方や作法を理解することができる。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	よりよい言語表現 ・自己紹介 大学でのノートの取り方 学修する上で必要なこと	事前	教科書第1・2章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学習内容を整理する。(1時間)			
2	日本語の特質 ・主語 述語 係り受け 日本語の曖昧さ	事前	橋本文法や日本語の構造について調べる。(3時間)			
		事後	配付資料をもとに日本語の構造について整理する。(1時間)			
	話し言葉と書き言葉 ・話し言葉と書き言葉の違い 語句の選択 文体	事前	話し言葉と書き言葉の違いについて整理する。(3時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(1時間)			
4	日本語の表記 ・日本語の文字 表記 仮名遣い 送り仮名 記号	事前	漢字、平仮名、片仮名等の表記について調べる。(3時間)			
		事後	配付資料をもとに日本語の表記について整理する。(1時間)			
5	敬語の使い方 ・尊敬語 謙譲語 丁寧語 美化語 丁寧語 誤用例	事前	教科書第3章を読み、敬語について調べておく。(3時間)			
		事後	生活の中の敬語の使い方を整理する。(1時間)			
6	手紙とEメール・SNS ・手紙の書き方 手紙とEメール・SNSの違い	事前	教科書第5・6章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	手紙、Eメール、SNSの特徴を整理する。(1時間)			
7	事実と意見 ・事実と意見を区別する メディアリテラシー フェイクニュース	事前	メディアリテラシーについて調べておく。(3時間)			
		事後	フェイクニュース等への対応について整理する。(1時間)			
8	わかりやすい文章 ・自分の考えを伝える 題材 5W1H 3段落構成	事前	教科書第4章を読んで内容を理解しておく。(3時間)			
		事後	5W1H や段落構成等について整理する。(1時間)			
9	大学生の調べ方 ・アンケートの3大要素 インターネット・図書館の利用法	事前	教科書第8～10章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	アンケートやインターネット検索の方法について整理する。(1時間)			
10	新聞を読む・NIE ・新聞記事の特徴・要約・構成 NIEについて	事前	新聞等の具体物を準備し、NIEについて調べる。(3時間)			
		事後	新聞やNIEの特徴について整理する。(1時間)			
11	レポートの作成方法 ・レポート・小論文の書き方 資料 テーマ 引用の仕方	事前	教科書題13～15・18章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	レポートや小論文の書き方について整理する。(1時間)			
12	話し方を知る ・情報を相手に正しく伝える話し方 口頭発表 討論方法	事前	教科書第7章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	情報を正しく伝える口頭発表について整理する。(1時間)			
13	効果的なプレゼンテーション ・レジュメ・スライド作成の基本 文字の大きさ レイアウト等	事前	教科書第12章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	スライド作成の基本について整理する。(1時間)			
14	表現力を高める(1) ・自己分析表 履歴書 エントリーシート等の作成	事前	教科書第16章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	履歴書・エントリーシートの書き方について整理する。(1時間)			
15	表現力を高める(2) ・社会で役立つ日本語 言語表現のスキルアップ	事前	教科書第17章を読んで内容を理解する。(3時間)			
		事後	面接の方法やスキルについて整理する。(1時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 必要に応じて、グループワークや課題解決型の話し合い活動を授業の中に取り入れます。						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(筆記試験)(50%) + 確認テスト(20%) + 小論文(20%) + 授業への取り組み(10%)

観点	S	A	B	C
基礎的な文章表現技術を身に付け、実生活の中で活用すること	完全に到達目標を達成している。	ほぼ完全に到達目標を達成している。	十分に到達目標を達成している。	一定程度到達目標を達成している。
場面や相手に応じて、言葉を選択し、相手に伝えること	完全に到達目標を達成している。	ほぼ完全に到達目標を達成している。	十分に到達目標を達成している。	一定程度到達目標を達成している。
話し言葉や書き言葉の使い方や作法を理解すること	完全に到達目標を達成している。	ほぼ完全に到達目標を達成している。	十分に到達目標を達成している。	一定程度到達目標を達成している。

教科書

・『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』 橋本 修/安部朋世/福嶋健伸 編著
三省堂 2021 1,900 円+税

参考書等

・漢検 3 級 漢字学習 ステップ 日本漢字能力検定協会 2024 1,000 円+税
・漢検 準2 級 漢字学習 ステップ 日本漢字能力検定協会 2024 1,200 円+税

履修上の注意・学修支援

- 1 漢字力向上のために確認テストを行います。
- 2 単位時間内に課題(小論文等)を提出してもらいます。
- 3 授業内容についてのパワーポイント配付資料を毎回配付します。
- 4 出席が2/3以上に達しない場合は、成績認定を行いません。
- 5 20分以上の遅刻は欠席1回とみなします。
- 6 日本語に興味のある留学生(日本語能力検定2級程度)も歓迎します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G301 19G301	都市経済学 / 都市経済学 I	3年	春	講義	2	吉田肇
授業概要 本科目では、都市経済分野のうち、都市構造を構成する主要な経済主体の動向について立地論とその応用を中心に学習し、基本的・普遍的な知識を習得するとともに、経済主体ごとに立地展開するメカニズムについて、背景となる理論と日本に限定した都市の事例を参考にしながら、様々な関連情報を収集・整理し、都市の現象にアプローチする。						
到達目標(学習の成果) ① 都市に生起する諸課題を分析・比較検討でき、様々な経済主体で構成される都市活動に係る歴史的経緯と学際的知識を理解し説明できること。(DP2) ② 様々な立地論や事例を参考として、都市の発展について経済学的なアプローチで思考できること。(DP3) ③ 経済環境と調和した地域社会づくりの方策や手法を理解したうえで、様々な情報の収集・整理を行い、新たな情報として創造する能力を備え、自分の思いを述べるができること。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「都市経済学と立地論」 (「都市経済学」のアウトラインについてのガイダンスとともに、都市経済学における立地論の位置づけについて学ぶ。)	事前	本シラバスを通読して、本科目のアウトラインを予習。(1時間)			
		事後	授業で配付した第1回の講義資料を復習。(3時間)			
2	「なぜ、都市ができるのか」 (自給自足経済の農村地域から地域特化に向かい、都市と農村地域へと分化していく形成過程について学ぶ。)	事前	授業で配付した第1回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第2回の講義資料を復習。(3時間)			
3	「農業立地と土地利用」 (都市からの距離に応じて主要生産物が同心円構造に耕作されることを示した、チューネンの農業立地論とその応用について学ぶ。)	事前	授業で配付した第2回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第3回の講義資料を復習。(3時間)			
4	「工業立地と産業集積」 (原材料を加工し、製品を生産する工業がどこに立地するのが経済的かを考えた、ウェーバーの工業立地論とその応用について学ぶ。)	事前	授業で配付した第3回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第4回の講義資料を復習。(3時間)			
5	「小売業の立地戦略」 (商店などを出店する際の立地戦略を指摘した、ホテルングの商業立地モデルとその応用について学ぶ。)	事前	授業で配付した第4回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第5回の講義資料を復習。(3時間)			
6	「都市型産業の立地」 (都市を市場基盤とする多様な産業のうち、代表的な都市型産業である情報サービス業等の立地について学ぶ。)	事前	授業で配付した第5回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第6回の講義資料を復習。(3時間)			
7	「観光と集客戦略」 (観光の特性を踏まえて、観光が地域経済にもたらす効果を考える。観光を構成する要素を整理し、観光地の価値からみたまちづくりや新たな観光戦略について学ぶ。)	事前	授業で配付した第6回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第7回の講義資料を復習。(3時間)			
8	「コンビニの立地戦略」 (中間試験(範囲:講義第1~7回)を実施し、その解説を行う。また、当初は市街地を中心に店舗展開したが、最近ではオフィス街や郊外、ロードサイドにまで展開するコンビニエンスストアの立地と機能について学ぶ。)	事前	授業で配付した第1~7回の講義資料を通読、振り返り。(2時間)			
		事後	授業で配付した第8回の講義資料を復習。(2時間)			
9	「場所のチカラと立地戦略」 (場所が企業に与える費用削減、収入増大、付加価値増大の3つの効果を合わせたものを「場所のチカラ」とし、企業の立地戦略について学ぶ。)	事前	授業で配付した第8回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第9回の講義資料を復習。(3時間)			

10	「公共サービス施設と都市機能の配置」 (公共サービス施設の立地原則と適正配置の考え方, 望ましい都市機能の分担について学ぶ。)	事前	授業で配付した第9回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第10回の講義資料を復習。(3時間)
11	「都市化の進展と経済発展」 (DID(人口集中地区)の定義と都市化の進展が及ぼす社会・経済影響を整理する。そして, 栃木県や宇都宮市など地方における都市化の進展について学ぶ。)	事前	授業で配付した第10回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第11回の講義資料を復習。(3時間)
12	「都市の規模と階層化」 (日本の大都市特例制度, 都市化に伴う都市の階層化, 都市人口の順位と規模の間に一定の関係が見られるとする経験則とその応用について学ぶ。)	事前	授業で配付した第11回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第12回の講義資料を復習。(3時間)
13	「都市サービスと中心地形成」 (財・サービスによって市場圏の大きさが異なることから導かれたクリスタラーの中心地理論と, 実際の都市圏の実態について学ぶ。)	事前	授業で配付した第12回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第13回の講義資料を復習。(3時間)
14	「人口移動と商圈分析」 (地域間の人口移動は, これらの地域の人口の大きさに比例し, その間の距離に反比例するとする重力モデルとその応用について学ぶ。)	事前	授業で配付した第13回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第14回の講義資料を復習。(3時間)
15	「産業構造と脱工業化社会」 (経済発展につれて産業構造が第一次産業から第二次, さらに第三次産業へ移行していく経験則である, ペティ＝クラークの法則と今後の脱工業化社会について学ぶ。)	事前	授業で配付した第14回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第1～15回の講義資料を通読, 体系的に整理する。(3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%), 中間試験・小テスト(10%)及び授業への取組(30%)に基づいて, 絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
都市活動に係る歴史的経緯と学際的知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市の発展について経済学的なアプローチでの思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
様々な情報の収集・整理を行い, 新たな情報として創造し, 自分の思いを表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回, 講義内でプリント資料を配付する。

参考書等

- ・『都市・地域経済学への招待状』, 佐藤康裕(著), 有斐閣ストゥディア, 2014年, 1,944円(税込), ISBN:978-4641151192
- ・『ベーシック+ 地域政策<第2版>』, 山崎 朗(著), 杉浦勝章(著), 山本匡毅(著), 豆本一茂(著), 田村大樹(著), 岡部遊志(著), 中央経済社, 2023年, 2,640円(税込), ISBN:978-4502446719
- ・『図解すごい立地戦略』, 榎本篤史・植井陽大(著), PHP 研究所, 2023年, 1,650円(税込), ISBN:978-4569855585

履修上の注意・学修支援

- ・都市経済学は、日常生活にきわめて関係の深い分野を対象にしている。都市現象に関する様々な疑問を、経済学の観点から考えてみようという内容であり、意欲を持って取り組んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、途中退室、私語やスマホ操作が多い場合には、学習意欲がないものと解釈される。
- ・経済の話題が多いテレビ番組、『[WBS]ワールドビジネスサテライト:テレビ東京⑦』(放送時間:月曜～木曜 22:00～22:58 金曜 23:00～23:58),『有吉のお金発見 突撃!カネオくん:NHK総合①』(放送時間:土曜 20:15～20:50),『がちりマンデー!!:TBS⑥』(放送時間:日曜 7:30～8:00)などを視聴して最新情報をキャッチして、都市・地域の経済の話題について関心を高めること。
- ・学修内容に関する質問や意見など、毎回配付する「聴講シート」に具体的に記入すること。授業参加態度の判断材料の一つとするとともに、寄せられた質問や意見は、実際に講義の中でも取り上げ、受講者全体にフィードバックします。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G302 19G303	経済政策論 / 経済政策論 I	3年	春秋	講義	2	漆戸宏宣

授業概要

大学における経済学関連の授業には、理論、政策(政策は応用と言う場合もある)、歴史に関わる授業がある。これらは、経済学の学修に当たって必要不可欠であり、これらの基礎を理解し修得することは極めて重要となる。この授業では、経済学に関連する基礎的な理論、政策、歴史のうち、政策について授業を行う。政策とは、一般に、社会における諸問題を解決するための方策、対策という意味合いであり、経済政策と言う場合は、経済における諸問題を解決するための方策、対策という意味合いとなる。そこで、この授業では、経済における諸問題を解決するための方策、対策、具体的には、マクロ経済学の理論にも密接に関連し、経済政策の核心をなす金融政策と財政政策について特に授業を行う。

到達目標(学習の成果)

経済政策の核心をなす金融政策と財政政策の具体的な手段を理解し、説明することができる。(DP3)

現在の経済における問題点を見出し、その解決に関して自分なりの政策手段を提示し、その内容を説明することができる。(DP3)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	経済とは何か、政策とは何か	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
2	経済政策の目的、景気、景気循環	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
3	国民経済計算(1)国民所得、GDP	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
4	国民経済計算(2)三面等価の原則	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
5	金融政策(1)金融とは、貨幣、通貨	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
6	金融政策(2)金利、中央銀行(日本銀行)の機能、預金準備(支払準備)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
7	金融政策(3)信用創造、マネーストック	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
8	金融政策(4)中央銀行(日本銀行)の金融政策(1公開市場操作(オープン=マーケット=オペレーション)、2預金準備率操作)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
9	経済政策におけるポリシー・ミックス(1)金融政策+財政政策	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
10	経済政策におけるポリシー・ミックス(2)国債市中消化の原則	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
11	1970年代以降の日本の経済政策(1)(石油危機、バブル経済)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
12	1970年代以降の日本の経済政策(2)(アベノミクス)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
13	財政政策(1)財政とは、財政の三機能(1資源配分の調整(市場の失敗)、2所得の再分配(累進課税制度、所得階層間、地域間など))	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
14	財政政策(2)財政の三機能(3経済の安定化(景気変動の調整)(フィスカル=ポリシー(財政政策)))	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)
15	まとめ(今後の経済政策の展望)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験(70%)、課題レポート(15%)、授業への取り組み(15%)(授業内小レポート、小テスト、授業内における積極的な発言等)

観点	S	A	B	C
経済政策の具体的な手段についての理解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済における問題点とその解決に関する政策手段の理解	完全に理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特に指定しない。授業用に私自身が作成したレジユメを用いる。

参考書等

根岸毅宏・中泉真樹編著『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』東洋経済新報社、2021年

履修上の注意・学修支援

レジユメの該当箇所を事前に熟読して予習をし、疑問点を明らかにしておく。授業後はレジユメ等を用いて復習をする。その際、特に重要な点として、レジユメの穴埋め欄の理解を深め知識を定着させる。また、随時提出を求められる、課題レポートの提出のための準備を必ずする。

出席状況(含遅刻)や授業中の態度の著しく悪い者、課題等の提出物を全て提出しない者は減点、もしくは、不合格となる場合がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G303 19H309	地域経済学	3年	春	講義	2	太田敏幸

授業概要

- 主に地方でのキャリア形成を目指す学生を対象に、地域経済と地域金融に関する基礎的かつ実務上有益な知識や情報などを理解・習得することを通じて、栃木県を中心とした地域経済ならびに地域金融の主体となる地域企業や地域金融機関の現状の実態・特徴、今後の持続的な成長発展に向けた課題とそれを解決していく方向性などを学修する。
- その上で、地域外の世界や国内で起こる様々な社会経済事象が地域経済や地域金融に影響を及ぼすことを理解し、その影響への対応策を考える際の基本的な着眼点や切り口を学修する。

到達目標(学習の成果)

- 栃木県を中心とした地域経済ならびに地域金融の主体となる地域企業や地域金融機関の現状の実態・特徴に関する基礎的な知識・情報を理解し、今後の持続的な成長発展に向けた課題を見出す力を養うことができる。(DP3)
- 地域外の世界や国内で起こる様々な社会経済事象が地域経済や地域金融に影響を及ぼすことを理解し、その影響への対応策を考える際の基本的な着眼点や切り口を養うことができる。(DP3)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	●オリエンテーション(授業計画の概要、授業の進め方、成績評価の方法・基準など) ●経済と金融の基本的な仕組み	事前	◆シラバスの内容に目を通し、疑問点・不明点などを明らかにしておく。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)
		事後	◆授業資料で「経済と金融の基本的な仕組み」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。
2	●日本経済の現状と課題	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)
		事後	◆授業資料で「日本経済の現状と課題」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。
3	●地域金融機関のこれまでと今	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)
		事後	◆授業資料で「地域金融機関のこれまでと今」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。
4	●栃木県経済のこれまでと今	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)
		事後	◆授業資料で「栃木県経済のこれまでと今」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。
5	●中小企業の資金調達手段の多様化	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)
		事後	◆授業資料で「中小企業の資金調達手段の多様化」について振り返り、自分の理解を確認する。(2時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。
6	●人口減少・超高齢社会の到来	事前	◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1時間) ◆GoogleClassroomから授業資料を入手し内容を確認する。(1時間)

		事後	<p>◆授業資料で「人口減少・超高齢社会の到来」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
7	● 地域金融機関による企業支援	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「地域金融機関による企業支援」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
8	● 地域金融機関による家計支援	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「地域金融機関による家計支援」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
9	● 栃木県経済の課題と今後の成長可能性	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「栃木県経済の課題と今後の成長可能性」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
10	● 公共サービスにおける PPP/PFI 活用	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「公共サービスにおける PPP/PFI 活用」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
11	● SDGs の視点から見た地域経済活性化	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「SDGs の視点から見た地域経済活性化」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
12	● 地球温暖化に対する地域脱炭素の取組み	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「地球温暖化に対する地域脱炭素の取組み」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
13	● データドリブン経営による地域企業の成長	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「データドリブン経営による地域企業の成長」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
14	● 人的資本経営の実現に向けた地域企業の変革	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p> <p>◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)</p>
		事後	<p>◆授業資料で「人的資本経営の実現に向けた地域企業の変革」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間)</p> <p>◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。</p>
15	<p>● 2025 年後半以降の経済見通し</p> <p>● 授業全体の振り返り</p>	事前	<p>◆前回授業時に示した課題について考えをまとめる(授業冒頭でコメントシートに記入予定)。(1 時間)</p>

		◆GoogleClassroom から授業資料を入手し内容を確認する。(1 時間)
	事後	◆授業資料で「2025 年後半以降の経済見通し」について振り返り、自分の理解を確認する。(2 時間) ◆興味・疑問を持った部分は自分で深掘りして調べてみる。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- 授業ごとにコメントシートに課題対応、授業内容の理解状況などについて記入を求め、次回授業時にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(%表記)

- 期末試験 70% コメントシートを通じた課題対応・授業内容の理解状況 20% 授業への取り組み 10%

観点	S	A	B	C
地域経済に関して授業で取り上げた主要テーマに関する理解	完全に理解できている(90%以上)	十分に理解できている(80%以上)	概ね十分に理解できている(70%以上)	一定程度理解できている(60%以上)
地域金融に関して授業で取り上げた主要テーマに関する理解	完全に理解できている(90%以上)	十分に理解できている(80%以上)	概ね十分に理解できている(70%以上)	一定程度理解できている(60%以上)

教科書

- 教科書の指定はない。教材は基本的に授業前日までに GoogleClassroom にアップロードするので、各自で適宜準備して授業に出席する。

参考書

- 『令和 6 年度年次経済財政報告(経済財政政策担当大臣報告)』
内閣府公式サイト 2024 年 8 月
- 『2024 年秋号地域課題分析レポート～ポストコロナ禍の若者の地域選択と人口移動～』
内閣府政策統括官(経済財政分析担当) 内閣府公式サイト 2024 年 12 月

履修上の注意・学修支援

- 毎回の授業冒頭にコメントシートを配布し、前回授業終了時に示した課題に対する回答、授業内容の理解状況について記入の上、授業終了時に提出を求める。コメントシートの提出をもって授業の出席を確認する。
- 遅刻、欠席の場合には、学内ルールに従って所定の手続きを行う。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

足利銀行から公益社団法人日本経済研究センターへの研修派遣時、財団法人とちぎ総合研究機構(当時)への出向時に国内や地域のマクロ経済産業に関する調査研究業務に従事。株式会社あしぎん総合研究所では 2017 年 4 月から取締役本部長兼産業調査部長を務め、現在は同社チーフエコノミスト主席研究員として勤務。

[実務経験と授業科目との関連性]

地域の経済と金融に関する現状の実態・課題・特徴などについて、地元の地域金融機関での経験・知見を活用した実務目線を織り交ぜて、丁寧に分かりやすく提供する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23G304 19G305	公共経済学	3年	秋	講義	2	漆戸宏宣
授業概要 近年の公共経済学や財政学の学部生向けの教科書では、旧来から経済学や財政学で扱われてきた理論や仮説などに加え、公共選択論(中心人物の一人:J・M・ブキャナン教授・ノーベル経済学賞受賞)のように、予算の決定の背後にある政治過程に関して経済学の観点から研究、分析した成果(政治の経済分析)を扱うことが通例である。この授業では、旧来からの経済学や財政学、ならびに、政治の経済分析の各種理論や仮説などのうち、特に基礎的な部分について、説明していくこととする。						
到達目標(学習の成果) 旧来からの経済学や財政学、ならびに、政治の経済分析の各種理論や仮説、現実の政策、制度、仕組みを理解することができる。(DP3) このような現実の政策、制度、仕組みの問題点を見出し、その解決に関して自分なりの見解を持つことができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経済とは何か、公共経済とは何か	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
2	資源の希少性、資源の最適配分	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
3	市場、完全競争市場	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
4	需要と供給	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
5	市場の失敗	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
6	公共財	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
7	外部性	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
8	独占・寡占	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
9	財政の三機能と政府の経済活動	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
10	政府の失敗、選択のルール(選挙・投票行動)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
11	コンドルセ投票と投票のパラドックス	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
12	単峰性の仮定と中位投票者理論、アローの不可能性定理	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
13	税制1(直接税と間接税)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
14	税制2(所得税と消費税)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
15	まとめ(今後の経済・財政・政治への展望)	事前	事前にレジュメを通読する。(2時間)			
		事後	授業内容を復習し理解を深める。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験(70%)、課題レポート(15%)、授業への取り組み(15%) (授業内小レポート、小テスト、授業内における積極的な発言等)

観点	S	A	B	C
公共経済学の各種理論や 仮説、現実の政策、制度、仕 組みについての理解	完全に理解できてい る	ほぼ理解できている	十分に理解できてい る	一定程度理解できて いる
公共経済における問題点と その解決に関する見解	完全に理解できてい る	ほぼ理解できている	十分に理解できてい る	一定程度理解できて いる

教科書

特に指定しない。授業用に私自身が作成したレジユメを用いる。

参考書等

井堀利宏『基礎コース公共経済学(第2版)』新世社、2015年

根岸毅宏・中泉真樹編著『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』東洋経済新報社、2021年

履修上の注意・学修支援

レジユメの該当箇所を事前に熟読して予習をし、疑問点を明らかにしておく。授業後はレジユメ等を用いて復習をする。その際、特に重要な点として、レジユメの穴埋め欄の理解を深め知識を定着させる。また、随時提出を求められる、課題レポートの提出のための準備を必ずする。

出席状況(含遅刻)や授業中の態度の著しく悪い者、課題等の提出物を全て提出しない者は減点、もしくは、不合格となる場合がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23N301	簿記演習Ⅱ	3年	通年	演習	2	薄井浩信
授業概要 本演習では、日本商工会議所主催の簿記検定試験2級に合格するための演習を行います。 日本商工会議所主催簿記検定2級レベルの問題を1時限に模擬試験問題を最低1回分を解いて提出します。						
到達目標(学習の成果) 日本商工会議所主催簿記検定2級レベルの会計処理能力を身に付けることができる。(DP2) 中小企業における適切な会計処理の方法について身に付けることができる。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス、日商簿記2級の基本問題①	事前	日商簿記2級の試験内容について予習をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
2	日商簿記2級の基本問題②	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
3	日商簿記2級の基本問題③	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
4	日商簿記2級の基本問題④	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
5	第1回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
6	第2回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
7	第3回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
8	第4回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
9	第5回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
10	第6回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
11	第7回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
12	第8回模擬試験問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
13	第1回～8回模擬試験問題の総復習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
14	第1回～8回の模擬試験の確認テスト	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
15	完全予想模擬試験問題演習第1回(初級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
16	完全予想模擬試験問題演習第2回(初級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
17	完全予想模擬試験問題演習第3回(初級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
18	完全予想模擬試験問題演習第4回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			
19	完全予想模擬試験問題演習第5回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)			
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)			

20	完全予想模擬試験問題演習第6回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
21	完全予想模擬試験問題演習第7回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
22	完全予想模擬試験問題演習第8回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
23	完全予想模擬試験問題演習第9回(標準レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
24	完全予想模擬試験問題演習第10回(上級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
25	完全予想模擬試験問題演習第11回(上級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
26	完全予想模擬試験問題演習第12回(上級レベル)	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
27	第1回～12回完全予想模擬試験問題の総復習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
28	第1回～12回完全予想模擬試験問題の確認テスト	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
29	第1回予想模擬問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)
30	第2回予想模擬問題演習	事前	前回までできなかった問題の確認をする。(2時間)
		事後	理解できなかった問題についての復習をする。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末試験 70%、授業への取り組み(検定試験の受験、課題等の提出等)30%

観点	S	A	B	C
中小企業における会計処理を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日商簿記2級レベルの会計処理を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日商簿記検定試験2級を受験し合格する。	受験をし、高得点の点数で合格した。	受験をし、合格した。	受験をしたが、もう少しであった。	受験をしたが、一定程度の点数だった。

教科書

『日商簿記検定 模擬試験問題集2級』(ネットスクール)、2025年、¥1,210(税込)

『日商簿記2級 まるっと完全予想問題集』(TAC)、2025年、¥2,200(税込)

参考書等

『合格するための本試験問題集 日商簿記2級』(TAC)、2025年、¥2,420(税込)

履修上の注意・学修支援

本演習を履修する場合は「簿記演習Ⅰ」の単位を修得していることが条件となります。また、「財務会計論」、「原価計算」の単位を修得していることが望ましい。「財務会計論」、「原価計算」修得していない人は、事前に相談に来てください。なお、授業では日商簿記2級の合格に向けての演習を行いますので、受験をして取得する気持ちのない人は、基本的に選択をおすすめしません。そして、日商簿記検定2級を必ず1回以上受験してもらうことが履修の条件となります。(すでに、日商簿記2級を取得している人を除きます。)この授業は、自主的な学習を基本にします。毎時間、最低1回分の模擬試験問題を解いてもらいます。さらに、毎日でも最低90分以上の自主学習を定着させてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23E301 19E301	インターンシップ	3年	集中	実習	1	就職委員会
授業概要 インターンシップとは、学生が在学中に企業はじめ官公庁など実際の職場で、本学のシティライフ学の専攻並びに将来のキャリアに関連した就業体験を積むことである。アルバイトとは違い、社員等と同じ責任の下働くなかで、企業・仕事・働くことの意義を理解する。社会に眼向け、社会人としてのモラルをしっかりと学び、将来の職業選択の眼を養う。						
到達目標(学習の成果) ・事業所での仕事を体験することで、社会人としての自覚を強く持てるようにすると共に、企業等の活動やそこで働くことの具体的な意義をつかめるようになる。(DP3) ・大学の専攻であるシティライフ学が社会とどう関わり、役に立っているのかを理解して、大学でも勉強の目的を明確にすること、そして仕事に対する自身の適性や興味を考えるきっかけとして、卒業までの間に何をしておくべきか明確にする。(DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	仕事とは、企業とは何か	事前	働くことの意義、企業の社会的役割等、インターンシップ前の事前学習、心構えについて勉強する。(1時間)			
		事後	事前に自分で考えていたことが講義を受けることによってどう変わったか整理しておくこと。(1時間)			
2	インターンシップ	事前	インターンシップ先の企業について、事前にしっかり調査しておくこと。(1時間)			
		事後	本日の各事業所にて、実地での就業体をふりかえり本日の日誌を書く。(1時間)			
3	インターンシップ	事前	昨日の振り返りを基に、本日特に注意すべきこと、学ぶべきことを各自で整理しておくこと。(1時間)			
		事後	本日のインターンシップの経験について、自分なりに反省し、振り返りの日誌を書く。(1時間)			
4	インターンシップ	事前	昨日の振り返りを基に、本日特に注意すべきこと、学ぶべきことを各自で整理しておくこと。(1時間)			
		事後	本日のインターンシップの経験について、自分なりに反省し、振り返りの日誌を書く。(1時間)			
5	インターンシップ	事前	昨日の振り返りを基に、本日特に注意すべきこと、学ぶべきことを各自で整理しておくこと。(1時間)			
		事後	本日のインターンシップの経験について、自分なりに反省し、振り返りの日誌を書く。(1時間)			
6	インターンシップ	事前	昨日の振り返りを基に、本日特に注意すべきこと、学ぶべきことを各自で整理しておくこと。(1時間)			
		事後	本日のインターンシップの経験について、自分なりに反省し、振り返りの日誌を書く。(1時間)			
7	自分の経験したインターンシップを振り返る	事前	自分なりに、問題点を整理し、発表の準備をする。(1時間)			
		事後	インターンシップの体験を聞いた自分なりに感想をまとめる。(1時間)			
8	事後指導	事前	インターンシップの経験を踏まえて、どのように社会・企業を見る目が変わったか、話してもらうので、各自発表できるようにしておくこと。(1時間)			
		事後	他の人の経験を聞き、自分の経験を踏まえて、仕事とは企業とはについて、自分なりの意見を持つよう努力する。(1時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

インターンシップ先の事業所からの評定書(50%)・インターンシップのための準備学習(50%)を総合的に勘案して評価する。

観点	S	A	B	C
社会人としての自覚・職業意識の醸成(DP3)	非常に意識が高くなった。	かなり高くなった	ある程度高くなった。	社会人としての意識が持てるようになった
仕事に対する自身の適性について(DP4)	明確になった。	かなり明確になった。	ある程度明確になった。	明確になるきっかけになった。

教科書

特になし

参考書等

『絶対内定 2024-2026 インターンシップ』 藤本健司 ダイアモンド社 2022年

履修上の注意・学修支援

当然のことであるが、インターンシップ期間の欠席は厳に慎むべきであり、学生の行動を通じて本学が評価されている自覚を忘れないでほしい。また、何よりも大人としての強い自覚を持って積極的に職務に精励することが大切である。また、毎回提出が求められるレポートや報告書について、毎回しっかり記述し、主体的にインターンシップに参加すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23E302 19E302	企業研究	3年	通年	講義	2	就職委員会
授業概要 就職活動を始めるにあたり、実践的な企業分析について学ぶ。就職活動を行う時の心構えや企業選びのポイントについて説明する。さらに、栃木県内・宇都宮市内の働き甲斐のある優良企業を紹介し、将来を見据えた有望な業種・職種について説明する。また、面接に対する向き合い方やインターンシップへの取り組みについて、どのような学生を企業が必要とするか等、今後の就職活動に役立つ情報とノウハウを説明する。授業日程や内容については、ガイダンスの時に説明する。						
到達目標(学習の成果) 就職活動についての心構えや自分に適した仕事選び、企業選びのポイントを理解できる。(DP2) ・面接やインターンシップ等の就職活動に役立つ情報とノウハウを理解できる。(DP2) ・外部の講師に対して、積極的に自分からアプローチする習慣を身に着ける。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	キャリアデザインと企業研究	事前	キャリアデザイン I II で勉強したことを復習しておくこと。(2時間)			
		事後	この講義を聴講したことによって、自分は特にどんな企業の企業研究を実施したいか、まとめておくこと。(2時間)			
2	就職支援と企業研究	事前	自分が特に関心のある企業研究群等について、ある程度意見をまとめ、質問できるようにしておくこと。(2時間)			
		事後	この講義を聴講したことによって、どんなことが不安になったか、さらにどんなことを知りたいとおもったかまとめておくこと。(2時間)			
3	就職支援講義(1)	事前	外部講師の企業等を事前に調べてくるとこ。事前に質問を考えてくること。(2時間)			
		事後	本日も講義について、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。(2時間)			
4	就職支援講義(2)	事前	外部講師の企業等を事前に調べてくるとこ。事前に質問を考えてくること。(2時間)			
		事後	本日も講義について、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。(2時間)			
5	就職支援講義(3)	事前	外部講師の企業等を事前に調べてくるとこ。事前に質問を考えてくること。(2時間)			
		事後	本日も講義について、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。(2時間)			
6	インターンシップ対策講座	事前	外部講師の企業等を事前に調べてくるとこ。事前に質問を考えてくること。(2時間)			
		事後	本日も講義について、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。(2時間)			
7	県内就職と業種・職種・企業規模等	事前	就職環境情報と文系学生の就職先、主として県内市内企業情報を説明するので、事前に質問を考えてきておくこと。(2時間)			
		事後	本日も講義について、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。(2時間)			
8	就職活動のポイント	事前	自分はどんな就職活動をして生きたいか、事前に意見をまとめておくこと。(2時間)			
		事後	本日も講義について、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内課題(30%)、レポート(70%)

観点	S	A	B	C
企業選びのポイントの理解 (DP2)	大変よく理解できた	かなり理解できた	ある程度理解できた	基本は理解できた
自分の適性を考慮した進路・企業研究の実践 (DP3)	主体的に個別企業研究を実施し、進路選択に対する具体的な行動を取っている。	企業を研究し、進路選択に対する行動をある程度取っている。	自分の関心ある企業や業界について理解することができる。	一般的な企業や業界について理解することができる。

教科書
特になし

参考書等

『「会社四季報」業界地図2025年版』 東洋経済新報社(編集) 東洋経済新報社 2024年など

履修上の注意・学修支援

この講義を生かすか、単に聞き流してしまうかは、一人一人がどのような姿勢で、この講義に臨むかにかかっている。毎回単に出席カードに名前を書くだけでなく、今回の講義から、どのようなことを学び、どのような疑問をもったか、また、講師に対して積極的に質問するなど、毎回の講義を一つのきっかけとして、自分の職業選択や企業選択にいかせるよう、主体的・積極的に取り組んでほしい。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H301	経済データ分析入門	3年	春	講義	2	田部井信芳
授業概要 経済の動きについて、データを用いて考える。経済データの特性と収集方法、統計学の基礎について説明し、経済データの分析方法を学ぶ。データを分析するソフトはいくつかあるが、最も一般的な Excel を使用してデータの入力および分析を行う。パソコンを使用することにより、理論よりも実践的な知識を身につける。						
到達目標(学習の成果) ・経済データを収集・整理することができる(DP2)。 ・経済データを分析し、結果を理解することができる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経済をデータで考える	事前	経済学の基礎を確認する。(2時間)			
		事後	主要な経済変数について理解する。(2時間)			
2	経済データの種類と特性について	事前	経済データの公表元を確認する。(2時間)			
		事後	経済データの特性を理解する。(2時間)			
3	経済データの収集について	事前	データの公表元ホームページを確認する。(2時間)			
		事後	データの収集方法を確認する。(2時間)			
4	統計学の基礎を学ぶ	事前	平均とメディアンについて確認する。(2時間)			
		事後	様々な平均の概念を理解する。(2時間)			
5	分散と標準偏差について	事前	データのちらばりについて考える。(2時間)			
		事後	分散・標準偏差について理解する。(2時間)			
6	相関関係について学ぶ	事前	2変数間のデータについて考える。(2時間)			
		事後	相関関係について理解する。(2時間)			
7	2変数間のデータ分析について学ぶ	事前	2変数間の因果関係について考える。(2時間)			
		事後	2変数間の関係をグラフで分析する。(2時間)			
8	最小二乗法について説明する	事前	回帰分析について調べる。(2時間)			
		事後	最小二乗法について理解する。(2時間)			
9	回帰分析について学ぶ	事前	推定式の適合性について検討する。(2時間)			
		事後	回帰分析の結果を理解する。(2時間)			
10	重回帰分析について学ぶ	事前	説明変数が複数のケースについて考える。(2時間)			
		事後	重回帰分析の結果を理解する。(2時間)			
11	仮説の検定について説明する	事前	仮説検定について考える。(2時間)			
		事後	t 値と F 値について理解する。(2時間)			
12	予測について説明する	事前	予測の意義と可能性について考える。(2時間)			
		事後	予測の手法を理解する。(2時間)			
13	課題について考える	事前	分析したいテーマについて考える。(2時間)			
		事後	経済変数の相互関係について確認する。(2時間)			
14	課題の分析について	事前	推定式が経済学的に適切か検討する。(2時間)			
		事後	分析の結果を確認する。(2時間)			
15	マクロ経済モデルについて説明する	事前	GDP について考える。(2時間)			
		事後	マクロ経済モデルを理解する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(30%)

学期末試験(70%)

観点	S	A	B	C
経済データの収集・整理に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済データの分析と結果に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特になし

参考書等

『初歩からの計量経済学』第2版 白砂堤津耶 日本評論社 2018年

履修上の注意・学修支援

- Excelの基礎について理解していることが望ましい。
- 質問等がある場合、オフィス・アワーを利用すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H302 19H302	欧米経済論	3年	春	講義	2	田部井信芳
授業概要 アメリカおよびヨーロッパ経済の現状と今後について説明する。世界最大の経済規模を有するアメリカ経済が世界経済において果たす役割、さらにEU経済圏の成立から今後の動向等を検討することにより、欧米経済の現状と課題及び世界経済の今後について考える。						
到達目標(学習の成果) ・アメリカ経済の現状及び世界経済におけるアメリカの役割について理解することができる。(DP3「問題解決力」) ・EU各国経済の現状及びEU経済の課題について理解することができる。(DP3「問題解決力」)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	アメリカの政治、社会および地理について	事前	アメリカに関する知識を学ぶ。(2時間)			
		事後	アメリカの政治及び社会について考える。(2時間)			
2	アメリカ経済の歴史	事前	アメリカに関する経済的出来事を確認する。(2時間)			
		事後	歴史的にアメリカ経済を理解する。(2時間)			
3	アメリカの近年の経済動向について説明する	事前	アメリカ経済の現状について確認する。(2時間)			
		事後	GDP統計からアメリカの経済動向を確認する。(2時間)			
4	中央銀行とアメリカの金融について	事前	アメリカの中央銀行について調べる。(2時間)			
		事後	アメリカの金融システムについて理解する。(2時間)			
5	財政および社会保障の現状と課題について	事前	アメリカ財政の現状について調べる。(2時間)			
		事後	アメリカ財政の課題及び福祉政策について考える。(2時間)			
6	アメリカの製造業について説明する	事前	アメリカの企業について調べる。(2時間)			
		事後	世界におけるアメリカの製造業について理解する。(2時間)			
7	アメリカのサービス産業について説明する	事前	アメリカの産業構造について調べる。(2時間)			
		事後	アメリカにおけるサービス産業について理解する。(2時間)			
8	貿易、経済統合および通商政策について	事前	アメリカの貿易について調べる。(2時間)			
		事後	アメリカの通商政策について考える。(2時間)			
9	アメリカ資本主義の特徴と企業経営について	事前	アメリカ企業の経営方法について調べる。(2時間)			
		事後	アメリカの資本主義について考える。(2時間)			
10	ヨーロッパの地理、歴史および社会について	事前	ヨーロッパに関する知識を学ぶ。(2時間)			
		事後	ヨーロッパの地理及び社会について考える。(2時間)			
11	EUの成立および現状について説明する	事前	EUの現状について調べる。(2時間)			
		事後	EUの成立と課題について考える。(2時間)			
12	ドイツ・フランス経済の現状と課題について	事前	ドイツ・フランス経済について調べる。(2時間)			
		事後	ドイツ・フランス経済の特徴と課題について考える。(2時間)			
13	EU諸国の経済について説明する。	事前	EU諸国の経済について調べる。(2時間)			
		事後	EU経済の特徴について考える。(2時間)			
14	EU離脱後のイギリス経済について考える	事前	イギリス経済について調べる。(2時間)			
		事後	イギリス経済の特徴と課題について考える。(2時間)			
15	今後の欧米経済と世界経済	事前	欧米経済の課題について理解する。(2時間)			
		事後	今後の欧米経済について考える。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(30%)

学期末試験(70%)

観点	S	A	B	C
アメリカ経済の現状に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
世界経済におけるアメリカの役割	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
EU経済の現状と課題に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特になし

参考書等

『アメリカ経済論入門』(第3版) 宮田由紀夫 玉井敬人著 晃洋書房 2022年

履修上の注意・学修支援

質問等がある場合、オフィス・アワーを利用すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H303 19H303	環境経済学 / 環境経済学 I	3年	春	講義	2	大石和博
授業概要 この講義では環境問題を扱う経済学を学びます。特に、市場の失敗を中心にミクロ経済学を学ぶことにより、環境政策のあり方を考えるうえで必要な基礎理論を学びます。環境と経済が身近に感じられるように、新聞紙面に出てくる温暖化問題や廃棄物問題などを取り上げながら、環境経済学の基本的な考え方を解説します。2年次のミクロ経済学 I、ミクロ経済学 II より発展的な内容になりますが、できるだけミクロ経済学の初歩から説明したいと思います。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> 環境経済学の基本的な用語(外部不経済、市場の失敗、コモンズ、公共財など)を説明することができる。(DP3) 経済分析を理解できる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	講義概要、序章 なぜ経済学が必要なのか、環境経済学とは(希少性、トレードオフ、機会費用)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第1回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
2	第1章 経済発展と環境問題(エコロジカル・フットプリント、成長の限界)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
3	第1章 持続可能な発展(生産可能性曲線)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
4	第1章 ごみ問題とは(一般廃棄物、産業廃棄物、不法投棄)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
5	第1章 補論 需要(支払意思額、消費者余剰)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
6	第1章 補論 需要曲線の描き方(限界支払意思額、需要関数、需要曲線のシフト)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
7	第1章 補論 集計的支払意思額、供給曲線の描き方(機会費用、供給曲線のシフト)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
8	第1章 補論 市場(均衡価格、均衡取引量)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
9	第1章 補論 社会的余剰(消費者余剰、生産者余剰) 第1章 地球温暖化問題の経済モデル(比較静学)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
10	第2章 外部性と市場の失敗(外部費用)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
11	第2章 共有資源の利用と管理(コモンズの悲劇)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
12	第2章 公共財と環境問題(外部便益、排除不可能性、非競争性)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
13	第2章 公共財の最適供給(フリーライダー問題)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
14	第3章 直接規制と市場メカニズム(最適な生産量)、一律の直接規制と効率的な規制水準	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
15	これまでの講義内容を振り返り、特に重要な点を説明する	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第15回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、期末試験(100%)で評価します。

観点	S	A	B	C
環境経済学の基本的な用語を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済分析を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中に復習問題等の解説・講評を行います。

教科書

特になし。各回講義資料を配付する。

参考書等

栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』第5版』有斐閣、2024年、税込2,640円。

履修上の注意・学修支援

- 遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。
- 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
- 無断退出は欠席扱いになる場合があります。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H307 19H307	労働経済学	3年	秋	講義	2	本年度不開講
授業概要 就職して手にする初任給は、昔と比べてどのくらい上がっているのでしょうか？正社員とそれ以外の雇用形態で、賃金にはどれくらい差があるのでしょうか？同じ会社に長く勤めるのと、転職するのではどちらが長期的に望ましいのでしょうか？さまざまな技術革新によって多くの産業の働き方が変わる中、これからの日本でどのような職業が増えていくのでしょうか？労働経済学では、最新の統計データを見ながらマクロ経済学やミクロ経済学の基本的な概念を使って、これらの疑問にひとつずつ答えていきます。						
到達目標(学習の成果) ①日本の雇用や賃金の動向について理解し、基本的なデータの意味を正しく解釈することができる。(DP3) ②非正規雇用の増加や賃金格差の拡大など日本の労働経済をめぐる現象について知識をもち、何が問題となっているのかを経済学に基づいて説明することができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	日本の就業者数の統計データを概観する	事前	シラバスをよく読む			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
2	大卒の初任給を40年前と比較する	事前	今年、初任給を引き上げた会社を調べてみる			
		事後	家族などに昔の給料について尋ねる			
3	労働需要と労働供給のグラフを使った分析手法を理解する	事前	雇用や賃金に関するニュースに目を通す			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
4	職種による賃金の差をグラフで説明する	事前	賃金の高い業種を調べる			
		事後	自分でグラフを書き、賃金の変化を説明してみる			
5	最低賃金の引き上げの効果をグラフを使って分析する	事前	県内のバイト時給の相場がどれくらいかを調べる			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
6	最低賃金に対する賛否両論を学ぶ	事前	最低賃金に対する自分の考えを整理する			
		事後	県労働局のウェブサイトで最新のデータを調べる			
7	「日本型雇用」の特徴を学ぶ	事前	日本企業に関するニュースに目を通す			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
8	年功賃金というしくみの特徴を理解する	事前	中高年の賃金に関するニュースに目を通す			
		事後	自分の興味のある企業の採用情報を調べる			
9	雇用の流動化は望ましいのかを議論する	事前	若年層の賃金に関するニュースに目を通す			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
10	転職をする人がどれくらいいるのかデータを概観する	事前	転職に対する自分の考えを整理する			
		事後	厚生労働省のウェブサイトで最新のデータを調べる			
11	長時間労働の現状と労働基準法について学ぶ	事前	労働時間に関するニュースに目を通す			
		事後	自分や知人の労働(バイト)時間を見直してみる			
12	失業率を示す統計データについて学ぶ	事前	失業に対する自分の考えを整理する			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
13	U-V 曲線によって失業率の変動を説明する	事前	失業率の動向に関するニュースに目を通す			
		事後	総務省のウェブサイトで最新のデータを調べる			
14	経済のグローバル化と格差拡大の関係を議論する	事前	外国の雇用や賃金に関するニュースに目を通す			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
15	最新の雇用情勢についてデータを概観する	事前	雇用や賃金に関するニュースに目を通す			
		事後	講義の配布資料を読み直す			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 基本的には講義形式ですが、Google フォームを使用した確認クイズを講義時間内に行い、その場で質問や回答内容へのコメントを返すという双方向型の講義を行います。						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末レポート(40%)、講義時間内に行う確認クイズ(60%)

観点	S	A	B	C
賃金の動向や最近の労働政策について、正しく理解しているか(DP3)	非常によく理解している	よく理解している	ある程度は理解している	最低限は理解している
失業率などの基本的なデータの意味する内容を、正確に理解しているか(DP3)	非常によく理解している	よく理解している	ある程度は理解している	最低限は理解している

教科書

特になし。講義で使用するプリントなどの資料は、すべて前日までに Google クラスルームに掲載したうえで、プリントアウトしたものを教室で配布します。

参考書等

清家 篤、風神 佐知子(著)、『労働経済』、東洋経済新報社、2020年、本体2200円。

リチャード・ボールドウィン(著)、『世界経済 大いなる収斂』、遠藤真美(訳)、日本経済新聞出版社、2018年、本体3500円。

履修上の注意・学修支援

雇用や賃金について疑問に思うことがあったら、講義の後やオフィスアワーなどに質問してください。

周囲に迷惑となるような私語を続けるなど、大学の講義を受講する態度としてふさわしくないと判断した学生には教員から注意を与えます。注意を通算で2回受けた学生は、それ以後の受講を認めません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H308 19H308	金融論	3年	秋	講義	2	田部井信芳
授業概要 金融は経済において補完的な存在であるが、不可欠なものである。金融が経済においてどのような役割を果たしているのかについて考える。特に、債券市場や株式市場等に関する金融市場の機能と安定化、金融政策の手段と効果について実践的な方法で説明する。						
到達目標(学習の成果) ・金融市場の機能と安定化について理解できる(DP3)。 ・金融政策の手段と効果について理解できる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経済における金融の役割について	事前	経済の循環について確認する。(2時間)			
		事後	金融が果たす役割について考える。(2時間)			
2	金融市場と金融システムについて	事前	貯蓄の効果について考える。(2時間)			
		事後	貯蓄と投資が等しくなることを理解する。(2時間)			
3	資金移動の形態について	事前	企業の資金調達について考える。(2時間)			
		事後	直接金融と間接金融について理解する。(2時間)			
4	債券市場について説明する	事前	債券について調べる。(2時間)			
		事後	債券価格と利子率の関係を理解する。(2時間)			
5	株式市場について説明する	事前	株式について調べる。(2時間)			
		事後	株価の変動について理解する。(2時間)			
6	金融仲介機関について説明する	事前	間接金融について確認する。(2時間)			
		事後	銀行の役割と投資信託のしくみを理解する。(2時間)			
7	外国為替市場について説明する	事前	外国為替について調べる。(2時間)			
		事後	外貨の需要と供給について考える。(2時間)			
8	為替レートの決定について説明する	事前	資本移動について確認する。(2時間)			
		事後	為替レートの変動について理解する。(2時間)			
9	中央銀行の役割について考える	事前	中央銀行の役割を確認する。(2時間)			
		事後	金融政策の手段について考える。(2時間)			
10	マネーストックと金融政策について考える	事前	マネーストックについて調べる。(2時間)			
		事後	金融政策とマネーストックの関係を理解する。(2時間)			
11	短期金融市場について説明する	事前	金利について調べる。(2時間)			
		事後	政策金利としての短期金利について理解する。(2時間)			
12	金融政策の効果について考える	事前	金融政策の手段について確認する。(2時間)			
		事後	金融政策の経済への効果を理解する。(2時間)			
13	国際金融市場について説明する	事前	金融市場について確認する。(2時間)			
		事後	国際金融市場のしくみについて理解する。(2時間)			
14	金融リスクの評価について	事前	価格変動リスクについて調べる。(2時間)			
		事後	金融リスクの対応策について考える。(2時間)			
15	金融市場の安定化に向けて	事前	金融市場の不確実性について考える。(2時間)			
		事後	金融市場の安定化に向けた取り組みを理解する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(30%)

学期末試験(70%)

観点	S	A	B	C
金融市場の機能と安定化に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている。	一定程度理解できている
金融政策の手段と効果に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特になし

参考書等

家森信善『金融論』第3版 中央経済社 2022年

履修上の注意・学修支援

質問等がある場合、オフィス・アワーを利用すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L301 19L301	都市政策論	3年	秋	講義	2	陣内雄次
授業概要 コロナウイルス感染拡大により、都市部から農村部への移動人口の増加傾向が一部に認められる時期があったが、わが国人口の大半は都市部に居住している。このように、都市の環境を総合的に改善し維持していくことは、重要な課題である。本講義では、都市政策に関して多角的な視点を学ぶとともに、都市づくりの担い手となるための基礎的素養を得ることを目的とする。そのため、政策そのものについて学ぶとともに、都市政策の諸相、都市政策と国土政策の関係、都市政策とまちづくり、自治体の計画行政など、都市政策に関する基本的事項を幅広く学び、理解を深める。						
到達目標(学習の成果) 都市政策の諸相、国土政策との関係、都市政策の今日的意義と役割、自治体の計画行政などに関する基本的知識を習得するとともに、都市と都市政策について能動的に考えることができるようになる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	【オリエンテーション、政策とは何か】政策とは何か、政策の機能とは何かなど政策の基礎について考える。	事前	政策とは何かについて考える。(2時間)			
		事後	政策の具体例について調べる。(2時間)			
2	【都市政策の形成】都市政策に係る国、地方自治体の制度など政策形成の系譜について学ぶ。	事前	国、地方自治体の政策について調べる。(2時間)			
		事後	地元自治体の政策形成の系譜について調べる。(2時間)			
3	【都市の諸相】都市とは何か、都市と地方自治体の役割などについて考える。	事前	地方自治体の役割について考える。(2時間)			
		事後	地方自治体の課題について考える。(2時間)			
4	【都市の時系列的変容】都市人口の変動を概観するとともに、それに応じた都市政策の変容について理解を深める。	事前	地元自治体の人口変動について調べる。(2時間)			
		事後	地元自治体の人口変動の要因について考える。(2時間)			
5	【都市政策と国土計画について①】全国総合開発計画など、国土政策の系譜について学ぶ。	事前	国土計画について調べる。(2時間)			
		事後	国土計画の優れた点について考える。(2時間)			
6	【都市政策と国土計画について②】都市政策と国土計画の関係性について理解を深める。	事前	都市政策と国土計画の関係について考える。(2時間)			
		事後	国土計画の問題点について考える。(2時間)			
7	【都市政策とまちづくり】都市政策とまちづくりの関係について学ぶ。	事前	まちづくりについて情報を収集する。(2時間)			
		事後	今後のまちづくり政策について考える。(2時間)			
8	【都市政策と市民参画】都市政策における市民参画のあり方について理解する。	事前	市民参画について情報を収集する。(2時間)			
		事後	今後の市民参画の政策について考える。(2時間)			
9	【地方自治体の計画行政①】地方自治体の総合計画などの仕組みについて学ぶ。	事前	総合計画について情報を収集する。(2時間)			
		事後	今後の総合計画について考える。(2時間)			
10	【地方自治体の計画行政②】地方創生など新たな都市政策について学ぶ。	事前	地方創生について情報を収集する。(2時間)			
		事後	地元自治体の地方創生について考える。(2時間)			
11	【栃木県の都市政策】栃木県の都市政策について学ぶ。	事前	栃木県の都市政策について情報を収集する。(2時間)			
		事後	今後の栃木県の都市政策について考える。(2時間)			
12	【宇都宮市の都市政策】宇都宮市の都市政策について学ぶ。	事前	宇都宮市の都市政策について情報を収集する。(2時間)			
		事後	今後の宇都宮市の都市政策について考える。(2時間)			
13	【諸外国の都市政策①】アメリカの都市政策について学ぶ。	事前	アメリカの都市政策について情報を収集する。(2時間)			
		事後	アメリカの都市政策の問題点について考える。(2時間)			
14	【諸外国の都市政策②】カナダの都市政策について学ぶ。	事前	カナダの都市政策について情報を収集する。(2時間)			
		事後	カナダの都市政策の問題点について考える。(2時間)			
15	講義を振り返り、都市政策と自分自身との関わりについて考える。	事前	都市政策と自分自身との関わりについて考える。(2時間)			
		事後	本講義全体を通じた学びを総括する。(2時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み及びグループワークへの貢献度 20%、レポート課題の評価 30%、期末試験の成績 50%

観点	S	A	B	C
都市政策の機能、社会的重要性に関する理解 DP3	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市政策や制度の現状と課題に関する理解 DP3	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市政策について能動的に考える力 DP3	課題を自ら考える能力がある	課題について考えをまとめることができる	課題について理解することができる	課題を一定程度理解することができる

教科書

特になし。原則としてデータ(グーグルクラスルーム)で提供します。

参考書等

諸富徹『人口減少時代の都市 成熟型のまちづくりへ』(中公新書、2018年2月、880円+税)

川上光彦『都市計画 第4版』(森北出版、2021年11月、2800円+税)

履修上の注意・学修支援

1. 本授業は出席を重視する。2/3以上出席しない場合は、試験の受験資格をなくします。また、2/3以上出席したとしても、欠席や遅刻は減点となる場合があります。
2. 本授業では教員と受講生、受講生と受講生の双方向のコミュニケーションにより、一人ひとりが「能動的に考える」ことを重視します。このため、グループワークに積極的に参画し、一人ひとりが思考を深めることを期待します。
3. 授業中の、スマホなどの使用は厳禁です。使用が発覚した場合は、欠席扱いとします。授業で使用する際は、教員が指示します。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

都市計画系研究機関での研究員としての職務。

[実務経験と授業科目との関連性]

地方自治体の都市計画、観光計画などに関する調査研究および立案業務など。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H304	まちづくりの統計学	3年	秋	講義	2	三浦魁斗
授業概要 「証拠に基づく政策立案」を指す「EBPM (Evidence-Based Policy Making)」が日本において推進される近年、地方自治体においても統計データの整備・公開やそれらを活用した都市計画決定・公共空間整備等が進んでおり、もはや統計の見方・使い方を知らずにまちづくりを語ることはできない状況にあると言えます。 この講義では、まず、統計データに基づき地域・まちづくりの現状を理解し、政策テーマ別に課題を見出す力を養うことを目指します。これに伴い、まちづくりに重要な社会・空間データを収集・分析する能力を習得します。						
到達目標(学習の成果) ☆ まちづくりの現状を理解し、統計データに基づき課題を見出す力が養うことができる(DP3)。 ☆ まちづくりに重要な社会・空間データを収集・分析する能力を習得できるようになる(DP2)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	まちづくりにおける統計の重要性について理解しましょう。	事前	「EBPM」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
2	まちづくりに関わる統計データについて知りましょう。	事前	「まちづくり 統計」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
3	【演習】社会データを用いて地域の現状を知りましょう(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
4	【演習】社会データを用いて地域の現状を知りましょう(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
5	【演習】空間データを用いて地域の現状を知りましょう(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
6	【演習】空間データを用いて地域の現状を知りましょう(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
7	まちづくりにおける統計データ利活用事例を政策テーマ別に学びましょう(前半)。	事前	「交通まちづくり EBPM」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
8	まちづくりにおける統計データ利活用事例を政策テーマ別に学びましょう(後半)。	事前	「歴史まちづくり EBPM」を調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
9	【演習】統計データを活用してまちづくりの課題を見つけましょう(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
10	【演習】統計データを活用してまちづくりの課題を見つけましょう(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
11	【演習】社会データを用いて宇都宮の現状を知りましょう。	事前	「宇都宮市 人口」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
12	【演習】空間データを用いて宇都宮の現状を知りましょう。	事前	「宇都宮市 空き家」について調べましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			
13	【演習】統計データを活用し、宇都宮のまちづくりの課題について考えてみましょう(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
14	【演習】統計データを活用し、宇都宮のまちづくりの課題について考えてみましょう(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見て課題に取り組みましょう。(2時間)			
15	今までの講義を振り返り、まちづくりにおける統計のこれまでとこれからについて理解しましょう。	事前	今までの講義資料を見返しましょう。(2時間)			
		事後	講義資料を見直しましょう。(2時間)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・課題解決型学習・反転授業・フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

演習中の成果物(70%)・授業への取り組み(30%)

観点	S	A	B	C
まちづくりに係る統計から課題を見出せるか	完全に 見出すことができる	ほぼ完全に 見出すことができる	十分に 見出すことができる	一定程度 見出すことができる
統計データの収集・分析能力を習得できているか	完全に 習得できている	ほぼ完全に 習得できている	十分に 習得できている	一定程度 習得できている

教科書

・ 特にありません。

参考書等

・ 宇都宮浄人 他 編 (2022)、『まちづくりの統計学:政策づくりのためのデータの見方・使い方』、学芸出版社、2,750 円

履修上の注意・学修支援

・ 特にありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23M301 19M301	不動産ビジネス論	3年	秋	講義	2	吉田肇
授業概要 安心して暮らせるシティライフの実現には、私たちを取り巻く住まいや生活環境に目を向けることが必要である。そこで、本授業では、都市・地域に生起する住宅問題・土地問題を比較検討、分析するとともに、具体的な課題に対する解決方向を考える能力を育成するため、日本市場に限定して、「不動産ビジネス」を取り上げ、その背景にある土地、建物、まちや都市生活者のライフスタイルやニーズを学ぶとともに、さまざまなビジネス形態を読み取る視点について学ぶ。						
到達目標(学習の成果) ① 生活者の視点から、不動産学の基礎とビジネスの方向性を習得すること。(DP2) ② 不動産についての学際的・実践的な知識を有し、都市・地域に生起する住宅問題・土地問題を分析・比較検討し、それを解決するための対応策とビジネスの方向性を考えることができること。(DP3) ③ 地域資源や経済環境と調和した都市開発のしくみや取り決めを理解し、自分の思いを述べるができること。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「不動産という財」 (「不動産ビジネス論」のアウトラインとその考え方とともに、経済学的に見た「不動産」という財の特性とそのビジネス展開について学ぶ。)	事前	本シラバスを通読して、本科目のアウトラインを予習。(1時間)			
		事後	授業で配付した第1回の講義資料を復習。(3時間)			
2	「不動産取引のしくみ」 (不動産取引の形態と取引に必要な専門家(宅地建物取引業者)の知識や不動産ビジネスに関わる様々な業種業態について学ぶ。)	事前	授業で配付した第1回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第2回の講義資料を復習。(3時間)			
3	「建築物に関する法規制」 (建物の建築に当たって、面積や容積、高さなど、「民法」、「都市計画法」、「建築基準法」などから受ける規制について学ぶ。)	事前	授業で配付した第2回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第3回の講義資料を復習。(3時間)			
4	「不動産の価格と評価」 (不動産価格がどのように決定されるのかその特徴と動向、また、原価法、取引事例比較法、収益還元法など、基本的な鑑定評価のしくみ、価格データについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第3回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第4回の講義資料を復習。(3時間)			
5	「不動産業界の動向」 (日本の不動産(土地、建物)の種類や数量を把握するとともに、不動産を取り巻く市場動向、価格動向、居住者の動向、住宅政策の動向について学ぶ。)	事前	授業で配付した第4回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第5回の講義資料を復習。(3時間)			
6	「不動産ビジネスのとらえ方」 (住宅・宅地開発、都市再開発、リゾート開発、マンション分譲、戸建分譲、不動産賃貸、不動産流通、不動産管理などの分野ごとに、不動産ビジネスの特徴と手法について学ぶ。)	事前	授業で配付した第5回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第6回の講義資料を復習。(3時間)			
7	「不動産の開発ビジネス」 (開発用地を取得し、不動産を収益物件化する都市開発プロジェクトを例に、企画・プランニングから加工、販売までの手順について学ぶ。)	事前	授業で配付した第6回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第7回の講義資料を復習。(3時間)			
8	「不動産の販売ビジネスと仲介ビジネス」 (中間試験(範囲:講義第1~7回)を実施し、その解説を行う。また、不動産の販売ビジネスと仲介ビジネスの特徴とビジネス手法について学ぶ。)	事前	授業で配付した第1~7回の講義資料を通読、振り返り。(2時間)			
		事後	授業で配付した第8回の講義資料を復習。(2時間)			

9	「不動産の賃貸ビジネスと管理ビジネス」 (不動産の所有と経営の分離により、建物管理と賃貸管理など、不動産経営及び不動産管理に係わる様々なプレーヤーとその役割分担について学ぶ。)	事前	授業で配付した第8回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第9回の講義資料を復習。(3時間)
10	「不動産投資ビジネスと不動産証券化」 (「不動産投資のメリットとデメリットを整理し、証券化などさまざまなビジネス手法について学ぶ。)	事前	授業で配付した第9回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第10回の講義資料を復習。(3時間)
11	「空き家問題と住宅ビジネス」 (空き家が発生する原因と空き家の利活用が困難な理由を整理し、空き家を活用したまちづくり、住宅ビジネスについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第10回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第11回の講義資料を復習。(3時間)
12	「中古住宅とリフォーム」 (新築住宅と比較して利点が少なくない中古住宅の流通が進んでおり、中古住宅購入時のチェックポイントや法規制、価値を高めるリノベーションなどについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第11回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第12回の講義資料を復習。(3時間)
13	「さまざまな住宅ビジネス」 (民泊、コーポラティブハウス、シェアハウス、タイムシェア定期借地権付き住宅、サービス付き高齢者向け住宅などの新しい住宅ビジネスのしくみや事例について学ぶ。)	事前	授業で配付した第12回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第13回の講義資料を復習。(3時間)
14	「環境と不動産ビジネス」 (低炭素社会の構築に向けて不動産の環境性能向上が課題となり、環境リスクとの両面が不動産価格に影響するなど、不動産と環境との関わり合いについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第13回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第14回の講義資料を復習。(3時間)
15	「不動産ビジネスの課題と将来展望」 (不動産ビジネスの市場環境と最新動向を整理し、住宅関連ビジネスのほか、多様な住生活関連サービスへの展開について学ぶ。)	事前	授業で配付した第14回の講義資料を振り返り。(1時間)
		事後	授業で配付した第1～15回の講義資料を通読、体系的に整理する。(3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%)、中間試験・小テスト(10%)及び授業への取組(30%)に基づいて、絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
不動産の基礎と不動産ビジネスの事業形態を習得	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
不動産についての実践的な知識を有し、住宅問題・土地問題への対応策とビジネスの方向性を思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
地域資源や経済環境と調和した都市開発のあり方について、自分の思いを表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回、講義内でプリント資料を配付する。

参考書等

- ・『図解即戦力 不動産業界のしくみとビジネスがこれ 1冊でしっかりわかる教科書[改訂2版]』, 畑中 学 (著), 同文館出版, 2020年, 1,760円(税込), ISBN:978-4297131821
- ・『知りたいことが全部わかる! 不動産の教科書』, 池田浩一 (著), ソーテック社, 2018年, 1,650円(税込), ISBN:978-4800720566
- ・『プロのための住宅・不動産の新常識 2021-2022』, 田村誠邦 (著), 甲田珠子 (著), エクスナレッジ, 2021年, 3,080円(税込), ISBN:978-4767828978

履修上の注意・学修支援

- ・私たちのシティライフへのニーズや価値観は、変化し続けている。なかでも、不動産とは切り離せない「生活空間」や「居住環境」を包括する社会環境について関心を持って取組んでほしい。とくに、不動産業界への就活、「宅地建物取引士(宅建士)」資格試験などに関心のある場合は、意欲を持って学んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、途中退室、私語やスマホ操作が多い場合には、意欲がないものと解釈される。
- ・新聞折込やポスティングなどから不動産チラシを入手し、様々な物件の所在地区、規模、形質、価格、交通条件、環境条件などの表示事項についてチェック、複数の物件を比較検討するなど不動産の有する価値(値づけ)について興味を持つこと。
- ・学修内容に関する質問や意見など、毎回配付する「聴講シート」に具体的に記入すること。シートへの記入内容を授業参加態度の判断材料の一つとするとともに、寄せられた質問や意見は、実際に講義の中でも取り上げ、受講者全体にフィードバックします。
- ・国内市場がほとんどである不動産ビジネスであるため、日本の商習慣や住宅問題・土地問題、都市問題などについての基礎知識を有していることを前提とします。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23M302 19M302	経営戦略論	3年	秋	講義	2	内藤英二
授業概要 企業がその置かれた環境の下でそれぞれの生存領域(ニッチ)に適応するために選択する行動様式のことを経営戦略といいます。企業を取り巻く経済や社会の環境が激しく変化する中、企業は自身の現実の姿を見極め、これからどのような存在になりたいのかというビジョンを創造し、そのビジョンを実現するためにはどうするべきかという意味での戦略を形作っていく必要に迫られています。「経営戦略論」の授業では、経営戦略の概念規定から始めて、経営戦略論の成立と発達の歴史に沿って、分析型の経営戦略論とプロセス型の経営戦略論を解説します。分析型経営戦略論は、問題発見・策定・選択という3段階を合理的、論理的に進めていくという特色があります。これに対し、プロセス型経営戦略論は、分析型の戦略論の限界を克服する為に採用されるようになった、比較的新しい戦略理論で、個人や組織の特性を企業の経営に活用することに注目すると同時に創造性を重要視するという特徴を持ちます。わが国の高度経済成長期には多くの企業の経営にプロセス型の経営戦略が影響を与えていたとされており、どちらの経営戦略論も企業経営を推進するために重要なものです。授業では実際の企業で採用された経営戦略を事例としてとりあげ、経営戦略の内容とその変遷を検討していきます。						
到達目標(学習の成果) 1. 経営戦略に関する基本的な知識の修得を目指します。(DP1) 2. 経営戦略に関する実践的な知識の習得を通じて、企業をはじめとする各種経営体の今日的な課題を分析・比較検討し、その対応策を策定する基本的な能力の育成を目指します。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経営戦略とは何か①:戦略の領域と階層・戦略と戦術、目標・目的の違い	事前	授業シラバスをプリントアウトし精読(2時間)			
		事後	戦略の3つの領域について(2時間)			
2	経営戦略とは何か②:企業を取巻く環境の不透明さと経営戦略の重要性	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	産業外部での環境のサプライズの事例について(2時間)			
3	経営戦略とは何か③:経営戦略論の系譜(分析型とプロセス型の経営戦略)	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	日本企業の経営戦略について(2時間)			
4	分析型経営戦略①:環境と自社の持つ能力の分析・戦略の策定・戦略の選択	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	分析型経営戦略のプロセス型経営戦略について(2時間)			
5	分析型経営戦略②:長期経営計画(アンゾフによる多角化のための段階モデル)	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	多角化のジレンマについて(2時間)			
6	分析型経営戦略③:経験曲線分析・PIMS(市場占有率と投資収益率の関係)	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	規模の経済性(大規模節約の原理)について(2時間)			
7	分析型経営戦略④:GE社の戦略転換(長期経営計画からポートフォリオ・アプローチへ)	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	J.ウェルチによるGE社の改革について(2時間)			
8	分析型経営戦略⑤:分析型経営戦略論の限界	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	分析型経営戦略の効果と問題点について(2時間)			
9	組織と戦略①:組織と戦略の密接な関連性(分析型戦略論で軽視されていた組織や人間的要素の復活)	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	戦略形成プロセスについて(2時間)			
10	組織と戦略②:試行錯誤と戦略の流れを重視したHOYAの戦略	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	ロジカルインクリメンタル戦略について(2時間)			
11	プロセス型経営戦略①:特徴=創造性を重視し、個人と組織の特性を活かしつつ、行動の中から戦略を生み出す	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	コンセプトとコンテンツについて(2時間)			
12	プロセス型経営戦略②:構造=戦略意図・未実現戦略・誘導戦略・戦略計画・創発戦略・実現戦略・戦略学習	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	プロセス型経営戦略の6つの構成要素について(2時間)			
13	プロセス型経営戦略③:有効性=あいまい性と偶発性への対処・戦略の柔軟性・イノベーション創発	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	プロセス型経営戦略有効性の5つの視点について(2時間)			
14	プロセス型経営戦略④:日本企業の戦略課題(リストラクチャリング・グローバル化・技術革新・組織革新)	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)			
		事後	日本企業の戦略的課題について(2時間)			

15	これからの経営戦略論:分析型とプロセス型を止揚した統合型経営戦略論の時代へ	事前	前回配布したワークシート精読(2時間)
		事後	技術経営について(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

振り返りシート:毎回の授業終了時に振り返りシートのテーマを発表します。字数は800字程度(600字~1000字)。
 グーグルクラスルームのワークシートの最終ページに振り返りシートを設定しておきますので、ダウンロードして手書きで作成し、次回授業終了時に提出してください。

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① 振り返りシート
- ② 期末筆記試験

以上2点をもとに成績評価をします。基準は①45%、②55%を目安とします。

観点	S	A	B	C
経営戦略に関する基礎的知識の理解の程度	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来る。	ある程度の理解ができています。	部分的に理解が不十分な点がある。
分析型経営戦略とプロセス型経営戦略に関する理解の程度	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来る。	ある程度の理解ができています。	部分的に理解が不十分な点がある。
これからの経営戦略に関する学生自身の意見	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来る。	ある程度の理解ができています。	部分的に理解が不十分な点がある。

教科書 特になし

参考書等

土屋守章『現代企業入門』日経文庫
 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社
 榊原清則『経営学入門(上・下)』日経文庫
 野中郁次郎『経営管理』日経文庫
 金井壽広『経営組織』日経文庫
 桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣
 大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略』有斐閣
 奥村昭博『経営戦略』日経文庫

履修上の注意・学修支援

毎回の授業終了御、次回授業のワークシートをクラスルームに掲載しますので精読の上、プリントアウトして保管してください。第1回のワークシートのみは授業当日の配布となります。
 『ワークシート』と『振り返りシート』は、毎回の授業終了時にグーグルクラスルームにPDFファイルで保存します。授業を欠席した人はグーグルクラスルームから『ワークシート』と『振り返りシート』をダウンロードして活用してください。欠席した回の『振り返りシート』も毎回の授業終了時に提出することができます。
 質問や連絡がある場合は、教育厚生棟7階の研究室まで、メールの場合は、naito@kyowa-u.ac.jp まで問い合わせてください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

全国農業協同組合連合会のシンクタンクである社団法人農協流通研究所調査研究部研究員として7年間勤務し、農林畜産水産物の流通、マーケティング関連の調査、商品企画等に従事。文教大学、日本大学、東京学芸大学、相模女子大学、東海大学等においてマーケティング論を中心に非常勤講師を務め、神奈川県卸売市場審議会委員等も務めました。

[実務経験と授業科目との関連性]

食品を中心とした幅広い製品の流通構造を実際に実証分析した経験から、より具体的な流通の実態を解説可能です。農産物を原料とする各種加工食品の新製品開発に参画した経験を持っています。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23M303 19M303	流通産業論	3年	秋	講義	2	長田哲平
授業概要 この講義では、皆さんが安全安心な日常生活する上で必要不可欠な流通、ロジスティクス、サプライチェーンについて基礎的な知識を解説します。特に、身近な流通、ロジスティクスおよびサプライチェーンを説明し、平常時および、災害が起きた非常時などを例に解説を行ってきます。そして、都市生活を支える上での、流通、ロジスティクス、サプライチェーンの現状を理解し、産業や都市を支えるために流通として何が出来るか考えていきます。						
到達目標(学習の成果) 本講義を通じて、サプライチェーンに関する基礎知識を習得できるとともに、皆さんの身近な流通について知識を習得できます。 ・荷主や物流事業者など人々の日常生活を支える人、都市づくりに携わる地方公務員などに必要な知識が身につけることができるようになる。[DP2(新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけている)] ・流通、ロジスティクス、サプライチェーンの現状を理解し、現状と今後の課題を見出すことができるようになる。 [DP3(現状を理解し課題を見出す力が養われている)]						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	私たちの生活を支えるサプライチェーンについて、生活の様々な場面での役割を学修する。	事前	身近な流通活動を調べてみる(2時間)			
		事後	配布した資料を基に流通を理解する(2時間)			
2	サプライチェーンの基本的な内容と、ロジスティクスの概念を学修する。	事前	ロジスティクスを調べてみる(2時間)			
		事後	サプライチェーンとロジスティクスの関係を理解する(2時間)			
3	サプライチェーンを構成する流通チャンネルについて学修する。	事前	流通チャンネルを調べてみる(2時間)			
		事後	ある業種をもとに流通チャンネルを理解する(2時間)			
4	サプライチェーンの中で行われる生産ならびに在庫について学修する。	事前	在庫について調べてみる(2時間)			
		事後	生産方式を理解する(2時間)			
5	サプライチェーンを構成する物流ネットワークについて学修する。	事前	商品の運び方を調べてみる(2時間)			
		事後	物流ネットワークを理解する(2時間)			
6	サプライチェーンにおける、調達・生産・販売計画を学修する。	事前	1～5回の内容を復習する(2時間)			
		事後	調達・生産・販売を理解する(2時間)			
7	調達・生産・販売計画を管理する方法について学修する。	事前	調達・生産・販売計画を理解する(2時間)			
		事後	調達・生産・販売管理を理解する(2時間)			
8	サプライチェーンの調達・生産・販売計画を支える在庫・輸配送計画を学修する。	事前	調達・生産・販売管理を復習する(2時間)			
		事後	輸配送計画と輸配送管理を理解する(2時間)			
9	在庫・輸配送計画を管理する方法と総合的品質管理(TQC)について学修する。	事前	品質管理を調べてみる(2時間)			
		事後	品質管理の重要性を理解する(2時間)			
10	調達・生産・販売と在庫・輸配送を支える情報システムについて学修する。	事前	6～9回の内容を復習する(2時間)			
		事後	計画・管理における情報システムを理解する(2時間)			
11	サプライチェーンの中で活躍する物流業について学修する。	事前	物流業を調べてみる(2時間)			
		事後	物流業の理解を深める(2時間)			
12	サプライチェーンと企業経営について学修する。	事前	物流業を復習する(2時間)			
		事後	企業における物流を理解する(2時間)			
13	サプライチェーンの国際化とシームレス化を学修する。	事前	国際物流を調べてみる(2時間)			
		事後	シームレス化の重要性を理解する(2時間)			
14	SCM に関係する環境問題・資源問題と安全安心の確保について学修する。	事前	環境・資源を調べてみる(2時間)			
		事後	安全・安心を理解する(2時間)			
15	サプライチェーンを途切れさせないための防災対策について学修する。	事前	BCP・BCM を調べてみる(2時間)			
		事後	防災対策を理解する(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(60%)、授業への取り組み(20%)、レポート(20%)

観点	S	A	B	C
新たな情報創造の基礎となる専門知識を身につけている	ほぼ問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	最低限は理解できている
現状を理解し課題を見出す力が養われている	ほぼ問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	最低限は理解できている

教科書

苦瀬博仁編著 『サプライチェーン・マネジメント概論』、ISBN978-4-561-75215-8、白桃書房、2017、2800円＋税

※初版5刷を必ず購入してください。

参考書等

苦瀬博仁編著 『ロジスティクス概論 増補改訂版』、ISBN 978-4561752257、白桃書房、2021

苦瀬博仁・高田邦道・高橋洋二 『都市の物流マネジメント (日本交通政策研究会研究双書)』、勁草書房、2006

履修上の注意・学修支援

質問は講義の前後に受け付けます。また、メールによる質問も受け付けます。

全授業日数の2/3以上出席しないと期末試験の受験資格を失います。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

自治体シンクタンクにて政策立案のための基礎的研究、民間企業にて交通計画に関する実務に従事

[実務経験と授業科目との関連性]

流通産業を実施するためには交通インフラが必要であり、どのような考え方で作られているのかを理解することが重要です。そこで、実務経験を踏まえて交通インフラと流通産業の関係を説明します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23N302 19N301	管理会計論	3年	秋	講義	2	薄井浩信
授業概要 管理会計の目的は、企業内部のさまざまなレベルの経営管理者に対して、計画・統制、意思決定のために必要となる会計情報を提供することです。この点において、株主や債権者等の企業外部にいる利害関係者に情報を提供する財務会計と対称をなしています。この講義では、利益計画とCVP分析、業務的意思決定および構造的な意思決定などについて学びます。						
到達目標(学習の成果) 現在価値計算に基づく意思決定のための基本的な考え方がわかる。 利益計画策定に役立つ直接原価計算と原価管理に有効な標準原価計算を結合させた直接標準原価計算について理解できる。 利益計画の策定に必要な概念および予算編成につながる各種分析手法を理解できる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	オリエンテーション、管理会計の基礎	事前	財務会計との違いについて予習する。(2時間)			
		事後	管理会計の意義と目的について復習する。(2時間)			
2	関連原価分析(1)	事前	関連原価、機会原価について予習する。(2時間)			
		事後	関連原価、機会原価について復習する。(2時間)			
3	関連原価分析(2)	事前	総額法、差額法について予習する。(2時間)			
		事後	差額原価・差額収益について復習する。(2時間)			
4	設備投資の経済性分析(1)	事前	設備投資の意思決定の際の考慮事項を予習する。(2時間)			
		事後	キャッシュ・フローとタックス・シールドを復習する。(2時間)			
5	設備投資の経済性分析(2)	事前	現価係数と年金現価係数について予習する。(2時間)			
		事後	正味現在価値の計算について復習する。(2時間)			
6	直接原価計算	事前	直接原価計算の計算方法について予習する。(2時間)			
		事後	直接原価計算の損益計算書について復習する。(2時間)			
7	短期利益と原価予測	事前	高低点法について予習する。(2時間)			
		事後	最小自乗法について復習する。(2時間)			
8	CVP分析と損益分岐点	事前	操業度と変動費・固定費との関係を予習する。(2時間)			
		事後	CVP分析と利益計画の関連を復習する。(2時間)			
9	感度分析	事前	感度分析の構成要素について予習する。(2時間)			
		事後	感度分析の意味と方法について復習する。(2時間)			
10	最適セールス・ミックス	事前	セールス・ミックスの制約条件について予習する。(2時間)			
		事後	線形計画法を用いた解法について復習する。(2時間)			
11	全部原価計算と直接原価計算、固定費調整	事前	全部と直接の違いについて予習する。(2時間)			
		事後	固定費調整の意味と方法について復習する。(2時間)			
12	直接標準原価計算と標準原価差異分析(Ⅰ)	事前	直接標準費の種類について予習する。(2時間)			
		事後	直接標準費の問題を復習する。(2時間)			
13	直接標準原価計算と標準原価差異分析(Ⅱ)	事前	標準原価差異について予習する。(2時間)			
		事後	標準原価差異の問題を復習する。(2時間)			
14	直接標準原価計算と標準原価差異分析(Ⅲ)	事前	材料費、労務費の差異分析の予習をする。(2時間)			
		事後	製造間接費の差異分析の復習をする。(2時間)			
15	活動基準原価計算	事前	製造間接費のコスト・プールについて予習する。(2時間)			
		事後	コスト・ドライバーによる配賦計算を復習する。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末試験 80%、課題等の提出 20%

観点	S	A	B	C
管理会計の基本的な内容を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
意思決定会計の内容を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
利益計画と予算管理の内容を理解している。	完全に理解している。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

『新楽しい管理会計問題集』(ネットスクール出版)、2024年、¥1,200(税別)

参考書等

なし

履修上の注意・学修支援

本講義を履修する学生は、「簿記初級/簿記論Ⅰ」、「簿記上級/簿記論Ⅱ」および「原価計算」の単位を修得していることが条件となります。また、管理会計は経営学、とくに経営計画に密接に関連した内容ですから、企業経営について興味や一定の理解を有していることが望ましいです。講義は「管理会計」についての理論的、計算技術的な説明となります。また、日商簿記1級の原価計算の出題内容と関連する内容がありますが、検定対策は自主的な学習を基本にします。毎日2時間以上の簿記学習を実践してください。学習内容の理解が困難な場合には、個別に相談してください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L302 19L304	都市コミュニティ論	3年	春	講義	2	和田佐英子
授業概要 本講義は、現代社会におけるコミュニティの重要性について考える。特に、コミュニティの形成・発展・衰退・再生の課題、担い手問題等について重点的に学んでいく。コミュニティの基礎理論・日本のコミュニティ問題・コミュニティ政策について学ぶだけでなく、コミュニティの果たすべき役割・コミュニティにおける住民団体の活動・問題解決のための対応策について、個別事例を踏まえながら、一緒に考えていく。						
到達目標(学習の成果) ・コミュニティの現状を理解し、課題を見出す力を得ることを目標とする。(DP3) ・コミュニティの基礎理論・コミュニティ問題・コミュニティ政策等、それぞれの観点から。コミュニティの現状を理解し、コミュニティの課題とその対応策について考えることができるようになる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	コミュニティとは何か コミュニティとは何か、地域社会との違いはどこにあるのかを考えていく。	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
2	コミュニティの担い手 コミュニティ形成の要素とその条件について学ぶ。特に、担い手の問題に着目する。	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
3	絆の再生としてのコミュニティ 地域再生の基盤としてのコミュニティについて考える。人とのつながりの重要性、コミュニケーションネットワークの形成について考える。	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
4	コミュニティの基礎理論 テンニースからマッキーバーへコミュニティの定義とコミュニティ形成の意義について考える。	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
5	国民生活審議会報告からの出発、コミュニティと行政の関係、国のコミュニティ行政の特徴について考える	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
6	県のコミュニティ政策について考える。	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
7	市町村のコミュニティ政策について考える。	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
8	コミュニティの組織論	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			
9	コミュニティと地域住民自治組織との関係	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)			
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)			

10	自治会とコミュニティ	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)
11	高齢者を支える地域福祉活動とコミュニティ	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)
12	防災のまちづくりとコミュニティ	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)
13	地域自治の形成とコミュニティの発展	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)
14	NPO と行政との協働と地域コミュニティ	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)
		事後	講義終了後、本日の講義のポイントを確認し、感想や意見をまとめておくこと。(2時間)
15	自分たちのコミュニティ	事前	事前に配布資料をClassroomに掲載するので、指示された資料を読むこと。(2時間)
		事後	講義の振り返りを各自で実施すること。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

・講義時間中、または、あるいは毎回の授業終了時提出の出席カードの中に、各自の意見や感想を機会がある。その意見や感想等については、授業時間中に全員にフィードバックすることがある。授業時間中、学生の意見を求めることがあるので、事前に準備しておくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 95% 平常点(レポート等) 5% (DP3)

観点	S	A	B	C
都市コミュニティの現状に対する理解 (DP1)	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
都市コミュニティの課題を見つけ、対応策について考える。(DP3)	完全に理解し、課題を見つけ、対応策を考えることができる。	ほぼ完全に理解し、課題を見つけ、対応策を考えることができる。	十分に理解し、課題を見つけ、対応策を考えることができる。	一定程度の理解をし、課題を見つけ、対応策を考えることができる。

教科書 なし

・毎回事前に配布資料を Classroom にアップし、その資料を基に、講義を進める。

参考書等

講義時に、参考文献はその時々指示を出す。

例: 広井良典著 『コミュニティを問い直す一つながら』都市・日本社会の未来』ちくま新書 2011年4月

倉沢進 秋元律郎編著 『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房 1990年9月

倉沢進 小林良二著 『改訂版 自治体・住民・地域社会』放送大学教育振興会 2004年3月

履修上の注意・学修支援

・疑問に思ったことは、そのままにせず、質問に来ること。

・出席確認は毎回 Googic フォームで行う。その際に、講義番号だけでなく、当日の授業のポイントや感想等を求めることがあるので、必ず回答すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23M304 19M305	商品企画論	3年	春秋	講義	2	北浦さおり
授業概要 商品開発のプロセスを商品開発の事例と実践を通して学ぶ。具体的には、商品企画パターンの代表的な商品開発事例を取り上げ、実際の手法を学ぶ。また、商品開発のプロセスについては、ニーズの発見から商品アイデアまでに必要な手法を段階的に学ぶ。商品開発の一連のプロセスを理解できるように、それぞれの段階ごとに学んだ手法を実践する機会を設け、グループでの議論や発表も行う。最終的に商品企画をグループで行い、その結果をプレゼンテーションする。						
到達目標(学習の成果) ・商品開発に関する専門知識を身につけることができるようになる(DP2)。 ・商品開発のプロセスと歴史的背景を理解できるようになる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	商品企画の流れと事例、および企画の4パターンを学ぶ	事前	商品企画の実例を調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
2	既存商品のリニューアルパターンを事例から学ぶ	事前	既存商品リニューアル事例を調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
3	ニーズを発見するための手法(消費者動向調査)を学ぶ	事前	近年のトレンドについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
4	既存商品の新規顧客開拓パターンを事例から学ぶ	事前	既存商品新規顧客開拓事例を調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
5	ターゲットおよびセグメンテーションについて学ぶ	事前	ターゲットについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
6	現顧客に向けた新商品企画パターンを事例から学ぶ	事前	現顧客対象新商品企画事例を調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
7	業界市場分析を学ぶ	事前	市場分析手法について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
8	新顧客に向けた新商品企画パターンを事例から学ぶ	事前	新顧客対象新商品企画事例を調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
9	コンセプトの構造とポジショニングを学ぶ	事前	コンセプトについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
10	コンセプトの作成とネーミングの手法を学ぶ	事前	ネーミングについて調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
11	企画商品の需要見込み(市場規模)について学ぶ	事前	市場規模について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
12	商品アイデアに結び付く発想法について学ぶ	事前	発想法について調べる(2時間)			
		事後	授業ノートや配布資料を見直す(2時間)			
13	発想法を用いて商品アイデアを生み出す	事前	企画する商品のジャンルを考える(2時間)			
		事後	新商品アイデアを練る(2時間)			
14	新商品のコンセプト作成と企画書の作成	事前	新商品企画を進めておく(2時間)			
		事後	企画書を仕上げる(2時間)			
15	新商品企画の発表	事前	発表の準備をしておく(2時間)			
		事後	コメントを踏まえて企画書を完成させる(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) グループワーク、プレゼンテーション						

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内課題40%、期末課題60%

観点	S	A	B	C
商品開発に関する専門知識の修得	完全に修得できている	ほぼ完全に修得できている	十分に修得できている	一定程度修得できている
商品開発のプロセスと歴史的背景の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特になし

参考書等

『コレが欲しかった！と言われる「商品企画」のきほん』 末吉孝生 日経印刷株式会社 2014年

履修上の注意・学修支援

講義内で課される課題やグループワークにしっかりと取り組むこと。

他の受講生に迷惑がかかるため、説明中の私語は厳禁だが、積極的な発言は歓迎する。

学習効果が高められるよう、疑問点はどんどん質問すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K301 19K301	労働法	3年	秋	講義	2	渡辺靖明
授業概要 「労働法」と総称される法分野の基礎を学びます。労働は、生活費を稼ぐ手段というだけでなく、自らの個性・能力・特性を活かして、自分自身も向上させて幸福になるための手段であり、さらに社会に貢献するための手段でもあります。この「労働」について、法はどのようなルールを設けているのか、またそのルールはなぜ必要なのか。これを理解しておくことは、現在や将来で「働く」ことの意味を見つめ直すきっかけになると思います。 本講義では、こうした観点から、労働(被雇用)者と使用(雇用)者の権利・義務や労働環境等に関する法のルールの入門的な知識を身に付けることを目的とします。						
到達目標(学習の成果) ・労働法の全体像と基本的な役割、用語の意味や考え方(原則)、また現在や将来で「働く」こととの関係を理解することができる。(DP1) ・労働法の視点を踏まえて、具体的事例の問題解決について、深く考え、それを文章で説明できるようになる。(DP2、DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス/法がなぜ必要なのかー授業の進め方、成績評価方法などを理解し、私たちの社会・生活での法の分類・意義・役割等を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、法についての自分のイメージや、関心のある法などを整理しておく。(2時間)			
		事後	法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返って置く。(2時間)			
2	労働法の全体像ー労働法とはどのような法分野なのか、憲法との関係、特徴、考え方など学ぶ。	事前	教科書の1～18頁(ページ)と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
3	「労使」関係と労働条件ー労使関係の意味、労働契約の考え方、労働条件の決定方法、就業規則の意味、考え方などを学ぶ。	事前	教科書の19～44頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
4	労働契約の成立ー採用の自由、労働契約の締結と成立、内定、本採用における法の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の45～59頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
5	人事ー使用者の人事をめぐる権利・義務(配転、出向、転籍、昇進等、退職、懲戒処分)の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の46～79頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
6	賃金ー賃金の意味、請求権の発生、内容、退職金、休業手当、法的な規制、制度の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の47～96頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
7	労働時間・休憩・休日・休暇・休業ー労働時間、休憩、休日、休暇、休業の考え方、様々な労働時間制度、育児・介護休暇制度などを学ぶ。	事前	教科書の97～131頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
8	労働における差別禁止・均等・均衡(平等)ー職場での差別禁止、雇用の均等・均衡の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の132～149頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)			
9	安全衛生・労働災害ー労働での災害の防止、法的補償の制度とその考え方などを学ぶ。	事前	教科書の150～166頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)			

		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
10	労働契約の終了・解約・辞職、定年制、解雇の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の167～186頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
11	正規(典型)雇用以外の雇用形態ーパートタイム労働、有期労働契約、三社間の労働力利用、労働者派遣の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の187～209頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
12	労働組合・不当労働行為ー労働組合の特徴、使用者の禁止行為の考え方などを学ぶ。	事前	教科書の210～228頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
13	団体交渉・労働協約ー団体交渉と労働協約の意味、考え方などを学ぶ。	事前	教科書の229～245頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
14	団体行動ー団体行動の必要性、正当性、考え方などを学ぶ。	事前	教科書の246～257頁と事前配布の補充レジュメに目を通して、わからないところなどを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方を整理して、事例についてさらに考えを深める。(2時間)
15	これまでの総括とこれからの展望ーこれまで授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の考え方を整理する。 ※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性はある。	事前	これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、自分の考え方を整理する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、後日その意見を一覧にまとめて、他の人はどのような意見を持っているかなどを確認し、自分の意見についてさらに考えを深めてもらう予定です。

成績評価の方法・基準(%表記) 期末試験70%、小テスト・ディスカッションなど30%

期末試験については、試験終了後、解説をクラスルームでアップします。小テストについては、授業中に解説をします。

観点	S	A	B	C
教科書及び補充レジュメでの労働法の基本的な用語の意味や考え方を正確に理解しているか。	完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度の理解ができている。	最低限度の理解はできている。
基本的な労働法の用語の意味・考え方を理解し、具体的事例の問題解決について正確に考えることができるか。	完全に理解し、考えることができている。	十分に理解し、考えることができている。	一定程度理解し、考えることができている。	最低限度の理解はできている。
具体的事例について、労働法の用語の意味・考え方や関連する判例(裁判所の判断)・学説(研究者の見解)を理解し、その問題解決方法や議論の状況をきちんと文章で説明することができるか。	完全に理解し、説明することができ、自分の考えも正確に文章で述べるできている。	十分に理解し、説明することができ、さらに自分の考えも文章で述べるできている。	一定程度理解し、説明することができている。	最低限度の理解と、説明はできている。

教科書

小畑史子ほか『有斐閣ストゥディア 労働法』(4版、有斐閣、2023 年)

参考書等

道幸哲也・加藤智章編『18 歳から考えるワークルール』(3版、法律文化社、2024 年)

村中洋介ほか『嫌いにならない法学入門』(2版、信山社、2023 年)

履修上の注意・学修支援

- ・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけていただいています。
- ・「法学入門」や「憲法」、「民法入門」を履修していると理解が容易になると思いますが、履修が必須というわけではありません。
- ・授業の内容を充分理解できなかった場合には、気軽に質問してください。オフィスアワー、授業の前後などで対応します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23K302 19K303	国際政治学	3年	春	講義	2	新谷卓
授業概要 国際政治学の基礎となる用語や概念を歴史の中から学びます。その上で、現在、世界で起きている国際政治の問題や出来事、例えば、「グローバリゼーション」「テロリズム」「ポピュリズム」「難民」「右翼政党の台頭」「権威主義国家」「ウクライナ危機」などを歴史のおよび理論的な視点から読み解きます。今日の不安定・不確実な時代に生きる私たちが歴史的にどのような位置に立っているのか、大きな流れや枠組みの中から理解できるような授業にしたいと考えています。						
到達目標(学習の成果) 1) 政治学ならびに国際政治学の基本的な知識を身につけることができる。 2) 現在起きている国際社会の問題を歴史的に整理し、理解することができる。(DP3) 3) 上記1)2)の知識を踏まえた上で、具体的な課題に対して解決策を見出しうる能力を育成することができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	国際政治学の学び方 国際政治学の基礎知識	事前	国際政治学とはどのような学問か、ネットで調べておく(2時間)。			
		事後	講義で実施した「国際政治の常識問題」を復習(2時間)			
2	ポスト真実の世界と国際政治(I) 国際社会を知るためのマスメディアとSNS	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
3	ポスト真実の世界と国際政治(II) デジタルテクノロジーが政治に及ぼす影響	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
4	国民国家とナショナリズム 中世多元主義国家から主権国家、そして国民国家へ	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
5	ヴェルサイユ体制と国際協調の時代 総力戦、国際連盟の誕生、民族自決、パリ不戦条約	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く。レポート提出の準備(2時間)。			
6	ファシズムと共産主義の時代 全体主義、コミンテルン、一国社会主義	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く。レポート提出の準備(2時間)			
7	ナチス・ヒトラー政権下で何が起きたのか ジェノサイド、優生思想、アウシュヴィッツ、ヘイトスピーチ	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く。レポート提出の準備(2時間)			
8	国際連合の誕生 冷戦 ヤルタ・ポツダム体制の始まり、冷戦の特徴、国際連合の誕生、安全保障理事会、拒否権	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
9	冷戦終了とポスト冷戦の時代 ドイツ統一、ソヴィエト連邦解体、解体後の諸問題	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			
10	9・11 米国同時多発テロからアフガニスタン問題へ 文明の衝突、米国の対テロ戦争、米軍のアフガニスタン撤退	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。			
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。			

11	グローバリゼーションと米国 グローバリズムの反動としてのトランプ政権誕生	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。
12	グローバリゼーションと欧州 難民・移民、右翼の台頭、テロ問題	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。
13	権威主義国家の台頭 香港、ウイグル、台湾、南シナ海における中国の対応	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。
14	ウクライナ危機(I) ロシアとウクライナ問題の歴史的経緯、NATOの拡大	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	配布した資料の問題を解く(2時間)。
15	ウクライナ危機(II) 各国の対応、ウクライナ危機がもたらす世界への影響	事前	Google クラスルームから資料を入手し、今回学習する専門用語の意味を調べておく(2時間)。
		事後	今まで学習した専門用語の意味をまとめておく(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

毎回授業の際に提出するリアクションペーパー及び授業への取り組み(30%)、中間レポート(20%)、試験期間中に実施する期末試験(50%)の成績を総合して評価を行う。

観点	S	A	B	C
基本的な政治・国際政治の用語を理解できているか。	完全に理解できている。	ほぼ理解できている。	理解できている。	一定程度理解できている。
国際的な問題や課題を歴史的に整理し、理解することができるか。	完全に理解できている。	ほぼ理解できている。	理解できている。	一定程度理解できている。
国際政治に興味・関心を持って意欲的に取り組むことができたか。	たいへん意欲的に取り組んでいる。	ほぼ意欲的に取り組んでいる。	概ね意欲的に取り組んでいる。	一定程度意欲的に取り組んでいる。

教科書

テキスト 特に指定しません。必要な資料は授業の前に Google クラスルームで送ります。

参考書等

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』第3版、有斐閣、2023年(定価2,420円+税)。

小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史[新版]:主権国家体系のあゆみ』有斐閣、2024年(定価2,530円+税)。

池田知加恵、新谷卓『池田純久と日中戦争』彩流社、2024年(定価4,000円+税)。

新谷卓『終戦と近衛上奏文[新版]』彩流社、2025年(定価4,500円+税)。

その他、関連文献をそのつど紹介します。

履修上の注意・学修支援

・毎回の出席と授業への参加を重視します。

・遅刻をしないように心がけてください。

・初回の授業の際に、授業の方法や内容について解説しますので、履修者は初回から出席してください。

・リアクションペーパーを毎回提出。次回の授業までに Google クラスルームを通じてフィードバックを行います。

・質問も上記同様の形で回答します。

・補習を希望する者がいれば別途対応します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H309	応用経済学	3年	春	講義	2	大石和博
授業概要 応用経済学では、2年次の経済学の学習を踏まえて、問題演習を中心にして経済学の基礎理論とその応用を学びます。問題演習により、経済学的な思考方法や経済問題を考察するための基礎理論を習得し、経済学の実践的な応用力を高めることを目的とします。公務員試験過去問や国家試験過去問などを用いた演習を通じて、経済学の理論を具体的な問題解決に役立てる力を身に付けることを目指します。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> 経済学の用語や概念を理解し説明することができる。(DP3) 経済分析を理解できる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	講義概要、1次関数、価格と需要量との関係、需要曲線のシフト(需要の増大・減少)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第1回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
2	需要曲線のシフト(正常財、劣等財)、価格と供給量との関係、供給曲線のシフト	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
3	需要と供給を組み合わせる(安定均衡、不安定均衡)、均衡の変化を分析する3段階アプローチ(比較静学)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
4	需要の価格弾力性とその決定要因(代替財、ぜいたく品、必需品)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
5	総収入と需要の価格弾力性、供給の価格弾力性	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
6	価格規制、課税	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
7	弾力性と税の帰着	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
8	消費者余剰と生産者余剰の測定	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
9	課税の死荷重(税があるときの厚生)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
10	直接規制と市場メカニズム(最適な生産量)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
11	最適な環境税(外部費用)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
12	環境税による経済厚生の改善(総余剰、死荷重)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
13	環境税か補助金か	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
14	直接交渉による解決(コースの定理)	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
15	これまでの講義内容を振り返り、特に重要な点を説明する	事前	経済ニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第15回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、期末試験(100%)で評価します。

観点	S	A	B	C
経済学の基本的な用語を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済分析を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中に復習問題等の解説・講評を行います。

教科書

特になし。各回講義資料を配付する。

参考書等

- ① N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編(第5版)』センゲージ・ラーニング株式会社、2025年。
- ② クルーグマンほか『クルーグマン ミクロ経済学 第2版』東洋経済新報社、2017年。

履修上の注意・学修支援

- 遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。
- 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
- 無断退出は欠席扱いになる場合があります。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H305 19H305	地方財政論 I	3年	春	講義	2	和田佐英子
授業概要 本講義は、講義形式で行う。地方財政論 I では、日本の地方財政の現状と課題、制度とその理論を学ぶ。特に、この講義では、複雑な日本の地方財政制度を理解するために、その制度的枠組み・理論・現状と課題について、数々の事例を踏まえながら丁寧に説明していく。ここでは、地方行財政システムや地方予算の中でも、特に、歳入予算である地方税・地方交付税制度・国庫支出金制度・地方譲与税、地方債等についても勉強していく。						
到達目標(学習の成果) ・日本の地方財政について、制度的枠組み・理論を学び、その現状について理解できるようになる。 ・現在の地方財政の課題を見つけ、その対応策を考えることができるようになることを目標とする。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	地方財政の現状	事前	事前に第1回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第1回の講義内容や参考文献(1)p1～p26 までを基に、講義のポイントを整理する。(2時間)			
2	地方制度と地方財政	事前	事前に第2回配布資料(Classroom でアップした資料)第3を読んでおく。(2時間)			
		事後	第2回の講義内容や参考文献(1)p27～p37までを基に、講義のポイントを整理する。(2時間)			
3	地方公共財と公共財	事前	事前に第3回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第3回の講義内容や参考文献(1)p37～p48を基に、講義のポイントを整理する。(2時間)			
4	地方財政の運営	事前	事前に第4回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第4回の講義内容や参考文献(1)p48～p52までを基に、講義のポイントを整理する。(2時間)			
5	住民と予算	事前	事前に第5回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第5回の講義内容や参考文献(1)p53～p66までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)			
6	地方財政の経費	事前	事前に第6回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第6回の講義内容や参考文献(1)p67～p73までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)			
7	地方税(1)地方税体系・地方税の実態	事前	事前に第7回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第7回の講義内容や参考文献(1)p87～p96までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)			
8	地方税(2)地方税原則・政策税制と租税競争	事前	事前に第8回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第8回の講義内容や参考文献(1)p96～p102までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)			
9	地方税(3)ふるさと納税	事前	事前に第9回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)			
		事後	第9回の講義内容や参考文献(1)p102～p107までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)			

10	地方交付税(1)地方交付税制度	事前	事前に第10回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)
		事後	第10回の講義内容や参考文献(1)p108～p115までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)
11	地方交付税(2)その効果と課題	事前	事前に第11回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)
		事後	講義第11回の講義内容や参考文献(1)p116～p111までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)
12	補助金・負担金・交付金(1)制度と理論	事前	事前に第12回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)
		事後	第12回の講義内容や参考文献(1)p127～p138までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)
13	補助金・負担金・交付金(2)現状と課題	事前	事前に第13回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)
		事後	第13回の講義内容や参考文献(1)p139～p148までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)
14	地方債	事前	事前に第14回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)
		事後	第14回の講義内容や参考文献(1)p149～p174までを読んで、講義のポイントを整理する。(2時間)
15	地方財政の現状と改革の課題	事前	事前に第15回配布資料(Classroom でアップした資料)を読んでおく。(2時間)
		事後	日本の地方財政の現状と課題について、第15回の資料を基に、論点を整理する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

講義された内容について、講義時間中やレポート提出時等に、自分の意見を求められることがある。受講生から集められた意見や感想等は、講義時に受講生全体にフィードバックされることもある。

成績評価の方法・基準(%表記)

平常点5%(レポート等)+期末試験 95% (DP3)

観点	S	A	B	C
国と地方との財政関係の現状を理解している。 (DP1)	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
日本の地方財政の課題を理解し、対応策を考えることができる。(DP3)	完全に理解し、対応策を考えることができる。	ほぼ完全に理解し、対応策を考えることができる。	十分に理解し、対応策を考えることができる。	一定程度理解し、対応策を考えることができる。

教科書

毎回講義の時に、配布資料を作成し、それを中心に講義を進める(classroom)に事前にアップする)

参考書等 随時指示する。

- (1) 篠原正博・大澤俊一・山下耕治編著『テキストブック 地方財政』(改訂版) 創成社 2021年5月
- (2) 望月正光・篠原正博・栗林隆・半谷俊彦編著『第5版 財政学』創成社 2020年5月
- (3) 佐藤進 関口浩著『(新版)財政学入門』同文館出版 2019年5月

履修上の注意・学修支援

- ・わからないこと等については、そのままにせず、質問にくること。
- ・できれば、地方財政論Ⅱも併せて受講することが、望ましい。
- ・出席確認は毎回 Google フォームで行う。その際に、講義番号だけでなく、当日の授業のポイントや感想等を求めることがあるので、必ず回答すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23H306 19H306	地方財政論Ⅱ	3年	秋	講義	2	和田佐英子
授業概要 地本講義は、講義形式で行う。地方財政論Ⅱでは、地方財政の歴史と今日的課題について学習する。個々の地方公共団体の財政問題や国と地方との財政関係だけでなく、地域の持続可能性の問題、公共投資の問題、福祉サービスの問題といった個々の地方公共団体の個別の政策に関わる財政課題や、地方公営企業や第3セクターといった公経営の問題、個々の地方公共団体の財政健全化問題等を、ここでは取り扱う。						
到達目標(学習の成果) ・日本の地方財政の制度と歴史、その理論を学ぶことによって、日本の地方財政システムが理解できるようになる。(DP1) ・自分の住んでいる地方公共団体の財政問題を理解し、対応策を考えることができるようになることを目標とする。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	地方公共団体の令和6年度予算を概観する。	事前	事前に、Classroom にアップされている第1回配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	居住している自治体の令和6年度予算を概観し、特記すべき点をまとめておくこと。(2時間)			
2	国と地方との財政関係	事前	事前に、Classroom にアップされている第2回講義資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第2回の講義資料と参考資料(1)p29～p45で確認しながら、「国と地方の財政関係」について、整理する。(2時間)			
3	地方財政の歴史的展開(1)明治・大正・昭和初期の地方財政システム	事前	事前に、Classroom にアップされている第3回配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第3回配布資料と参考資料(1)p189～p196を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)			
4	地方財政の歴史的展開(2) 占領期・高度経済成長期の地方財政	事前	事前に、Classroom にアップされている第4回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第4回配布資料と参考資料(1)p196～p202を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)			
5	地方財政の歴史的展開(3)安定成長期から平成不況期・現在の地方財政システム	事前	事前に、Classroom にアップされている第5回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第5回配布資料と参考資料(1)p203～p208を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)			
6	持続可能な地域づくりと地方財政(1)地域政策と地方財政	事前	事前に、Classroom にアップされている第6回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第6回配布資料と参考資料(1)p209～p218を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)			
7	持続可能な地域づくりと地方財政(2)公共投資と地方財政	事前	事前に、Classroom にアップされている第7回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第7回配布資料と参考資料(1)p218～p222を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)			
8	対人社会サービスと地方財政(1)対人社会サービスと家族・地域・地方自治体	事前	事前に、Classroom にアップされている第8回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第3回配布資料と参考資料(1)p227～p234を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)			
9	対人社会サービスと地方財政(2)対人社会サービスの財政と地域社会(医療・介護・子ども・子育て支援)	事前	事前に、Classroom にアップされている第9回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)			
		事後	第9回配布資料と参考資料(1)p235～p242を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)			

10	対人社会サービスと地方財政(3)総合的な生活保障と地域の選択	事前	事前に、Classroom にアップされている第10回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)
		事後	第10回配布資料と参考資料(1)p243～p246を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)
11	地方公営企業	事前	事前に、Classroom にアップされている第11回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)
		事後	第11回配布資料と参考資料(1)p247～p250を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)
12	地方三公社と第3セクター	事前	事前に、Classroom にアップされている第12回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)
		事後	第12回配布資料と参考資料(1)p251～264を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)
13	地方自治体に期待させるサービスと財政	事前	事前に、Classroom にアップされている第13回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)
		事後	第13回配布資料と参考資料(1)p265～p271264を読んで、講義のポイントを整理しておくこと。(2時間)
14	財政健全化と地方行財政	事前	事前に、Classroom にアップされている第14回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)
		事後	第14回配布資料をもとに、「地方公共団体における財政健全化」についてまとめる。(2時間)
15	地方自治と地方財政	事前	事前に、Classroom にアップされている第15回の配布資料を読んでおくこと。(2時間)
		事後	第15回配布資料をもとに、「地方自治と地方財政」についてまとめる。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

授業時間中、または、試験の解答で、各自の意見を求めることがあるので、いつでも意見を述べられるように、準備しておくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 95% 平常点5%(レポート等)(DP3)

観点	S	A	B	C
日本の地方財政制度を理解している。(DP1)	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
各地方公共団体の地方財政の課題を理解し、対応策を考える。(DP3)	完全に理解し、対応策を考えることができている。	ほぼ完全に理解し、対応策を考えることができている。	十分に理解し、対応策を考えることができている。	一定程度理解し、対応策を考えることができている。

教科書 なし

毎回講義の時に、配布資料を Classroom にアップし、それを中心に講義を進める。

参考書等 必要に応じて、指示する。

(1)沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸『地方財政を学ぶ』有斐閣 2017年12月

(2)篠原正博・大澤俊一・山下耕治編著『テキストブック 地方財政』(改訂版) 創成社 2021年5月

履修上の注意・学修支援

・受講生は、地方財政論 I も事前に受講することが望ましい。

・出席確認は毎回 Google フォームで行う。その際に、講義番号だけでなく、当日の授業のポイントや感想等を求めることがあるので、必ず回答すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q301 19Q301	観光マーケティング論	3年	春	講義	2	坂口豪
授業概要 観光客を観光地や宿泊施設などに誘致・集客することは簡単なことではなく、マーケティングをしたうえで適切な戦略をとることが必要である。観光は目の前にある物を販売する商業と異なり、遠くにある目に見えないサービスを販売するという特質がある。また、旅行に行く前に下見をしたり、試食のように試しに行ってみたりすることはふつつ行われぬ。さらに、観光客と観光地はたいいてい離れているため、観光客の嗜好や出発地(マーケット)の変化などを捉えていくことも容易ではない。このように、観光に関するマーケティングは、一般的な商業やサービス業のマーケティングとは異なる性質を有する。本講義では、観光におけるマーケティングの理論と実際について説明する。						
到達目標(学習の成果) ・観光におけるマーケティングの基本的な知識・方法を理解することができる。(DP2) ・観光における課題を発見し、その解決のためにマーケティングの手法を適切にあてはめることができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	観光マーケティングを学ぶ意義 …観光マーケティングを学ぶ意義について理解する。また本講義の概要を理解する。	事前	シラバスを読み、本講義の進め方について理解する(2時間)。			
		事後	この講義を受講することで習得したいことをまとめる(2時間)。			
2	観光マーケティングとは …マーケティングの定義、需要と供給、マーケティングミックス、マーケティング・コンセプトについて理解する。	事前	需要とニーズはどのような違いがあるか考えておく(2時間)。			
		事後	マーケティングミックスに関する問題に回答する(2時間)。			
3	顧客の獲得手法 …セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、ドメインについて理解する。	事前	日本の国内旅行市場における夫婦・カップル旅行の割合を調べる(2時間)。			
		事後	ポジショニング・マップの作り方を再確認する(2時間)。			
4	旅行商品の流通チャネル …旅行商品が顧客に届くまでの過程について理解する。	事前	日本国内での宿泊旅行を予約する方法を多くあげる(2時間)。			
		事後	観光における選択型・排他型チャネルの例を調べる(2時間)。			
5	旅行商品の購入プロセス …旅行商品特有の購買行動プロセスの諸理論を理解する。	事前	遠方に旅行に行く際に事前に考えるべきことを挙げる(2時間)。			
		事後	観光関係におけるインフルエンサーの例を調べる(2時間)。			
6	観光業における競争戦略 …観光関連企業による市場での競争戦略について理解する。	事前	パッケージツアーと個別手配それぞれの札幌旅行の価格を調べる(2時間)。			
		事後	マーケット・ニッチャーに相当する旅行会社を調べる(2時間)。			
7	観光業における価格戦略 …観光関連企業による市場での価格戦略について理解する。	事前	任意のホテルの宿泊料金を1週間分調べる(2時間)。			
		事後	任意のホテルの宿泊料金の価格がどのような要因で決まっているか考える(2時間)。			
8	SWOT分析 …観光地を対象としたSWOT分析の手法について理解し、受講者が実践する。	事前	訪日外国人観光客の視点から、日本の魅力(強み)、(良くない点)弱みを考える(2時間)。			
		事後	任意の観光地についてSWOT分析を行う(2時間)。			
9	プロダクト・ライフサイクル …旅行商品と観光地のライフサイクルについて理解する。	事前	スマートフォンが主流の時代であってもガラケーを使っている人はどのような人か考える(2時間)。			
		事後	任意の観光地の来訪者数を調べ、観光地のライフサイクルについて分析する(2時間)。			
10	ブランドの構築 …ブランド構築の過程、イメージ戦略、ディマーケティングについて理解する。	事前	有名メーカーのブランド戦略を調べる(2時間)。			
		事後	観光業界におけるブランドの例を調べる(2時間)。			
11	事例①:テーマパーク業 …テーマパークにおけるマーケティングについて事例をもとに理解する。	事前	沖縄県にオープンするジャングリアとそれを運営する刀という会社について調べてくる(2時間)。			
		事後	刀の森岡氏のテーマパーク戦略をまとめておく(2時間)。			

12	事例②:宿泊業 …宿泊施設におけるマーケティングについて事例をもとに理解する。	事前	教員が紹介した宿泊施設の概要について調べる(2時間)。
		事後	宿泊施設におけるマーケティングのポイントについて自分なりにまとめる(2時間)。
13	事例③-1:航空業・旅行業・宿泊業 …JALグループによるハワイの観光開発史, 顧客獲得戦略について理解する。	事前	日本人にハワイ観光が人気である理由を予想する(2時間)。
		事後	JALパックのハワイツアーを調べ, 差別化ポイントをさらに調べる(2時間)。
14	事例③-2:航空業・旅行業・宿泊業 …ANAグループによるハワイ旅行の新規顧客獲得のための戦略について理解する。	事前	エアバス A380 型機の特徴について調べる(2時間)。
		事後	JALグループとANAグループの戦略の違いについてまとめる(2時間)。
15	事例④:観光地 …観光地におけるマーケティングの必要性和意義について理解する。	事前	DMO について調べておく(2時間)。
		事後	全国の DMO の事例について調べる(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

・グループワーク(第8回)・・・SWOT分析の手法を習得するため, グループを組んで受講生がそれを実践します。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60%, ワークへの取り組み状況 30%, 授業への取り組み 10%

観点	S	A	B	C
観光マーケティングの基本的な知識・手法に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	一定程度理解できている	やや理解できている
観光マーケティングの手法による課題の解決策の提案	十分具体的・現実的に提案できている	具体的・現実的に提案できている	一定程度具体的・現実的に提案できている	やや具体的・現実的に提案できている

教科書
特になし

参考書等

栗田房穂(2013):『新版ディズニーリゾートの経済学』東洋経済新報社.(1,760円)
株式会社スターフライヤー(2017):『スターフライヤー 漆黒の翼、感動を乗せて』ダイヤモンド社.(1,650円)
十代田朗編(2010):『観光まちづくりのマーケティング』学芸出版社.(2,530円)
森下昌美編(2016):『新版観光マーケティング入門』同友館.(2,200円)
山内孝幸(2010):『すべてはゲストのために—東京ディズニーリゾートに学ぶマーケティング—』晃洋書房.(2,310円)
吉田春生(2016):『観光マーケティングの現場—ブランド創出の理論と実践—』大学教育出版.(2,420円)
このほか, 講義中に随時紹介する。

履修上の注意・学修支援

・やむを得ない事情を除き, 遅刻も評価に含めます。また, 20分以上の遅刻は欠席とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

浅間山ジオパーク推進協議会専門員としてジオツアー、エコツアーの企画運営

[実務経験と授業科目との関連性]

ジオパークという地域に根差した観光地における着地型観光のツアーづくりを行い、その集客や運営を行っていた。第15回のDMOなど地域連携や着地型観光の運営とその観光マーケティングを実践していた観点から本科目と関連がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q302 19Q303	ホテルマネジメント論	3年	集中	講義	2	山田祐子
授業概要 本講座は、主にホテルや旅館をはじめとする宿泊ビジネスを就職先として考えている学生を対象としますが、学修意欲があり観光産業に興味がある方であれば歓迎します。学修目標は、「宿泊ビジネスの構造を理解し、課題を見出す力を養うこと」です。受講生は、講義期間中に実施する小テストを受験し、ホテルに関するレポートを提出し発表していただきます。知識を習得するだけでなく実際の運営や経営への理解や関心が求められます。						
到達目標(学習の成果) 1. 最新の事例を通じて、ホテルをはじめ宿泊ビジネスの現状や課題が理解できるようになります。(DP2) 2. 宿泊ビジネスへ就職を希望するものに求められる基礎的な知識を習得することができます。(DP2) 3. 授業の一環で行うレポート作成によって課題を見出す力を養うことができます。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	宿泊ビジネスの基礎	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
2	ホテルの業法と分類	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
3	ホテルビジネスの特質	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
4	ホテルの経営形態 ※小テスト	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストで誤りだった箇所を理解し復習すること(2時間)			
5	ホテルの収益構造	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
6	ホテルの情報システム	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
7	ホテルの部門別業務(1)営業部門(宿泊、料飲・宴会・婚礼、等)	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストへ向けた復習をすること(2時間)			
8	ホテルの部門別業務(2)営業部門(セールスマーケティング、等) ※小テスト	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストで誤りだった箇所を理解し復習すること(2時間)			
9	ホテルの部門別業務(3)管理部門(人事、経理、総務、施設管理、等)	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
10	ホテルの部門別業務(4)ホテルの人事システム ※小テスト	事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること(2時間)			
		事後	小テストで誤りだった箇所を理解し復習すること(2時間)			
11	ケース・スタディ① 宿泊特化型ホテル	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
12	ゲスト講師 ホテル関係者	事前	ゲスト講師の企業について調べ質問を考えてくること(2時間)			
		事後	ゲスト講師の講話より学生生活にいかせることを整理する(2時間)			
13	ケース・スタディ② 旅館	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
14	ケース・スタディ③ 温泉観光地	事前	次回の授業で紹介する企業について調べておくこと(2時間)			
		事後	レポート作成に向けた復習をすること(2時間)			
15	総括、学生発表会	事前	全体の講座内容を振り返っておく。(2時間)			
		事後	本講座内で関心をもった事柄を整理し、今後の学修の課題を見つける。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

1. 授業参加度:30%
2. 講義期間中に実施する小テストを受ける:30%
3. レポート提出ならびに発表:40%

観点	S	A	B	C
ホテルマネジメントの理解と課題抽出力	完全に(理解できている等)	ほぼ完全に(理解できている等)	十分に(理解できている等)	一定程度(理解できている等)
ホテルマネジメントの課題に対する解決力	完全に(理解できている等)	完全に(理解できている等)	十分に(理解できている等)	一定程度(理解できている等)

教科書

ホテル・ビジネス・ブック 中央経済社 ISBN-13 978-4502181412

※毎回テーマに応じた講義資料をパワーポイントにて映写します。映写した資料は講義終了後 Googleドライブに投稿します。

課題図書

授業内で紹介します。

参考書等

週刊ホテルレストラン、月刊ホテル旅館、ホテル業界就職ガイド、等、最新の業界紙を参照。

履修上の注意・学修支援

授業は欠席しないことが前提ですが、欠席(公欠等を含む)の場合は、必ず欠席した回の授業資料を GoogleForms で確認し、次回の授業に臨むようにしてください。また、全ての学生は小テストを受け、レポートの提出と発表をすることが求められます。小テストを受験する際は GoogleClassroom へアクセスできる電子機器を持参してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

宿泊業(ホテル)の業務経験

宿泊業や地域活性化のコンサルティング業務経験

[実務経験と授業科目との関連性]

ホテルをはじめとした宿泊業の運営や経営について、実務経験に基づき講義の中で具体的な実例を示しながら解説を行います。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q303 19Q304	日本文化論	3年	春	講義	2	坂口豪
授業概要 本講義は日本文化の特徴について、歴史・宗教・料理・芸術・古典芸能などから多角的に理解することを目指している。そのために、座学だけでなく、実際に体験する機会を何度か設けており、これが本講義の特色ともなっている。また、本講義はホテル・観光コースに位置づけられる。国や地域独自の文化は観光において人を引きつける要素になりうる。実際、訪日外国人観光客の中には日本の文化や歴史にひきつけられて日本を訪問する者が少なくない。それゆえ、観光におけるホストの立場としては自国文化に関する基礎知識を有することが求められる。この講義は専門の先生方によるオムニバス形式になります。						
到達目標(学習の成果) ・日本文化の諸特徴を理解し、説明することができる(DP2)。 ・日本文化の活用方策について、観光などの関係から提案することができる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	日本文化とは何か(担当: 坂口豪) 4/10 日本文化について学ぶ意義について考える。また、必要に応じて受講者抽選をする。	事前	シラバスをよく読み、この講義の進め方や授業形式、履修上の注意について十分に理解する(2時間)。			
		事後	この講義に期待することや履修上の疑問点などをまとめる(2時間)。			
2	日本文化の基礎(担当: 坂口豪) 4/24 「変動帯」に位置する日本列島の自然、年中行事や食などの文化の各側面から日本文化の基礎について理解する。	事前	「変動帯」とは何か、また日本の水は軟水か硬水かなどを調べておく(2時間)。			
		事後	変動帯の存在が日本文化にどのように関係しているか実例を挙げながら整理する(2時間)。			
3	日本の風土と自然観(担当: 鈴木健一) 5/1 日本の風土と栃木の自然、観光資源としての自然環境、日光と那須の自然について考える。	事前	ケッペンの気候区分で「Cfa」「Df」について整理しておく(2時間)。			
		事後	日光地域または那須地域について、「自然」に着目したオリジナル観光ルートを作成する(2時間)。			
4	日本人の宗教観(担当: 鈴木健一) 5/8 日本神話、八百万の神、日本人の死生観、二つの二荒山神社、東照宮について考える。	事前	日光二荒山神社と宇都宮二荒山神社の相違点を整理しておく(2時間)。			
		事後	日本人の宗教観について、各自の体験を踏まえながらまとめておく(2時間)。			
5	映画考=映画の持つ文化的意義(担当: 寺内孝夫) 5/15 映画には時代物でありながら、現代性を帯びた作品がたくさんある。担当教員がスタッフとして企画・製作に当たった一本の映画を鑑賞し、映画の持つ文化的意義について考える。	事前	これまでに見た映画の中で思い出に残る、印象深い作品を挙げ、その理由をまとめておく(2時間)。			
		事後	今後、映画を鑑賞する際に、その作品の文化的意義を意識してみる(2時間)。			
6	茶道の作法(担当: 戸倉哲仙) 5/22 御点前とは何か考え、茶道の作法を体験する。	事前	茶道について、自分なりに調べておく(2時間)。			
		事後	事前課題を、講義中に配付する自己評価表に記入し、自己評価する(2時間)。			
7	日本語の地域差(担当: 高丸圭一)5/29 方言圏論をもとに日本語の地域差について考える。	事前	東京女子大学篠崎ゼミが開発し、ウェブで公開している「方言チャート47都道府県版」に取り組む(2時間)。			
		事後	方言圏論とはどのような考え方であるか文章で簡潔にまとめる(2時間)。			
8	日本料理(担当: 安野耕造) 6/5 日本料理、和菓子、もてなしとは何か考える。	事前	節句行事と料理との関係について、日本人が生まれてから死ぬまでに行う行事について調べる(2時間)。			
		事後	年間を通しての料理について自分が実践できるものを考える(2時間)。			
9	茶道の作法(担当: 戸倉哲仙) 6/12 御点前とは何か考え、茶道の作法を体験する。 茶道実習	事前	以下の三つの課題について、箇条書きで書いてください(2時間)。 1)「茶」や「茶道」という言葉を聞くと京都が連想され			

			るがなぜか。 2)今日の茶道の基礎を築いた人物は誰か。 3)またその人物は、当時の天下人(織田信長、豊臣秀吉)とどう関わったか。
		事後	事前課題を、講義中に配付する自己評価表に記入し、自己評価する(2時間)。
10	現代生活といけばな(担当: 栗原月華) 6/19 いけばなの成立や変遷について考え、実際に花を生ける。 <u>いけばな実習</u>	事前	いけばなが生まれた室町時代の文化について調べる。日本人の美意識について考える(2時間)。
		事後	「いけばな体験」から「花をいける」という生活文化について考える(2時間)。
11	染色の文化(担当: 齊藤知子) 6/26 草木染め、宮染め(注染)について考え、染色を体験する。 <u>染色実習</u>	事前	なぜ染色が行われるようになったか、自分なりに考察しておく(2時間)。
		事後	染色の文化について理解できたか、自分なりに整理しておく(2時間)。
12	日本酒と地域をめぐるストーリー(担当: 坂口豪) 7/3 地域に根付く酒蔵の視点から原料米、酒造用水さらには酒造家の思いがストーリーとなって日本酒が醸されることを知る。	事前	「日本酒」の原料が何なのかを調べ、どのように作られているのか調べておく(2時間)。
		事後	配布された資料をよく読み直し、講義のなかで取ったメモを整理する(2時間)。
13	邦楽 (担当: 前川智世) 7/10 箏の歴史に沿った講義と鑑賞～古典から現代邦楽～	事前	小・中・高の音楽の授業で習得した箏の知識を復習しておく(2時間)。
		事後	箏の歴史の流れと共にその時代にあった箏曲の理解を深める(2時間)。
14	邦楽 (担当: 福田智久山) 7/17 日本の伝統音楽について考え、講師の演奏を鑑賞し、楽器の演奏を体験する。 <u>鑑賞・演奏実習</u>	事前	箏、三絃、尺八を動画等で検索し、どんな音楽なのかを鑑賞しておく(2時間)。
		事後	日々の生活で何気なく流れてくる邦楽の音に耳を傾けてみる(2時間)。
15	日本文化論総論 (担当: 坂口豪) 7/24 日本文化の総合的な特徴を理解する。	事前	日本全国にある「稻荷神社」はどのようなことを祈願するための神社なのか調べる(2時間)。
		事後	全 15 回の講義を聞いて、日本文化に共通することは何か、自分なりに考えを出す(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

・実習…7～11 回目の講義内で、日本料理、茶道、いけばな、染色、邦楽に関する実習の時間を設けている。各分野でご活躍されている方を講師としてお招きし、受講生一人ひとりの実習中の動作や作品に対してご助言、ご指導を賜る。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(レポートの場合あり)(50%), 授業への取り組み及び体験実習への積極性・毎回の小レポート(50%)

観点	S	A	B	C
日本文化の特徴に関する理解	完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている	やや理解できている
日本文化の活用方策に関する提案	十分具体的・現実的に提案できている	具体的・現実的に提案できている	やや具体的・現実的に提案できている	若干具体的・現実的に提案できている

教科書
特になし

参考書等

『風土一人間学的考察』, 和辻哲郎著, 岩波文庫, 1979年, 1,111円

『日本を学ぶ東日本編』, 上野和彦他著, 古今書院, 2017年, 3,080円

『日本を学ぶ西日本編』, 上野和彦他著, 古今書院, 2017年, 3,080円

『観光学と景観』, 溝尾良隆著, 古今書院, 2011年, 3,520円

『日本宗教史』, 末木文美士著, 岩波新書, 2006 年, 924 円
『概説日本思想史』, 佐藤弘夫著, ミネルヴァ書房, 2005 年, 3,520 円
『日本史小百科・神道』, 伊藤聡著, 東京堂出版, 2002 年, 2,750 円
『日本文化の歴史』, 尾藤正英著, 岩波新書, 2000 年, 924 円
『関東Ⅱ 地図で読む百年』, 寺阪昭信他著, 古今書院, 2003 年, 3,080 円
『和食の地理学』, 金田章裕著, 平凡社新書, 2020 年, 946 円
『全国アホ・バカ分布考』, 松本修, 新潮文庫, 1997 年, 924 円
『世界遺産の日本史』佐藤信編, ちくま新書, 2022 年, 1,210 円
『「美食地質学」入門～和食と日本列島の素敵な関係』巽好幸著, 光文社新書, 2022 年, 946 円
以上のほか, 理解を深めるための講師オリジナルのプリントを配布します。

履修上の注意・学修支援

- ・体験の回で一人ひとりに十分な指導ができるようにするため, 受講生が多数の場合(おおむね 30 人以上)は, 1回目の講義で抽選を行います。そのため, 受講希望者は1回目の講義に必ず出席すること。なお, 抽選の際に, 最終学年である4年生は履修できるよう可能な限り配慮します。
- ・講師の都合等により, 日程が変更となる可能性がありますので注意してください。
- ・体験をする回には, 教室変更の可能性がありますので教員の指示に従ってください。
- ・なお, 体験の会には別途材料費等の費用はかかりません。
- ・実習体験科目なので原則, 欠席はできません。通常の講義科目より体験とその振り返りを評価のポイントとするため 3 回以上欠席した場合は単位認定が難しい場合があります。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23Q304	観光地活性化論	3年	秋	講義	2	坂口豪
授業概要 近年、さまざまな形態のツーリズムが生まれている。その中でもニューツーリズムは従来の物見遊山の観光からの脱却として注目を集めており、また発展傾向にある。日本は自然環境の地域差や季節差が大きく、明瞭にあらわれる。この特性を活かすことで、各地では風土に合わせた特産品が生産される。そうした地域資源を活かしたツーリズムは観光まちづくりとして成立しやすく、地方創生や地域活性化にも寄与すると期待されている。本講義では、日本各地のニューツーリズムの特徴と実際の事例について学ぶとともに、受講生がディスカッション、プレゼンテーションを通して、観光・地域振興のアイデアを生み出す力を養う。						
到達目標(学習の成果) ・ニューツーリズムに関する知識を習得し、概念や実際の事例について理解することができる。(DP2) ・ニューツーリズムの手法による観光・地域振興を目的とした方策を開発し、適切に表現することができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「観光地とはなにか？」 日本の観光地にはどういった場所があるのか	事前	日本の観光地について調べてくる(2時間)			
		事後	観光地の課題についてまとめておく(2時間)			
2	「観光地の歴史」 日本の観光地はどのようにして発展してきたのか	事前	日本の観光地の歴史について調べてくる(2時間)			
		事後	観光地がどのように発展したかまとめておく(2時間)			
3	「マストツーリズムとニューツーリズム」 マストツーリズムからニューツーリズムへの時代の流れを理解する	事前	ニューツーリズムとは何か調べてくる(2時間)			
		事後	マストツーリズムとニューツーリズムの違いを説明できるようにする(2時間)			
4	「ニューツーリズムの事例①」 観光農園の特徴と地域への波及効果を理解する	事前	身近な観光農園について調べてくる(2時間)			
		事後	観光農園による地域活性化の方法を考えておく(2時間)			
5	「ニューツーリズムの事例②」 市民農園の特徴と地域への波及効果を理解する	事前	市民農園とは何か調べてくる(2時間)			
		事後	市民農園による地域活性化の方法を考えておく(2時間)			
6	「ニューツーリズムの事例③」 オープンガーデンの特徴と地域への波及効果を理解する	事前	オープンガーデンとは何か調べてくる(2時間)			
		事後	オープンガーデンによる地域活性化の方法を考えておく(2時間)			
7	「宇都宮市におけるニューツーリズムの事例調査」 宇都宮市におけるニューツーリズムの事例を調査する	事前	これまでの講義を参考に宇都宮市のニューツーリズムの事例を探してくる(2時間)			
		事後	調べた事例を発表できるようにまとめておく(2時間)			
8	「宇都宮市におけるニューツーリズムの事例の発表」 グループごとに調べてまとめた内容を発表する	事前	調べた事例を発表できるようにまとめておく(2時間)			
		事後	他のグループの人の発表を聞いて自分の事例を比較して考察をする(2時間)			
9	「大谷石による観光まちづくりの事例」 大谷地区における大谷石を活用した観光まちづくりを学ぶ	事前	大谷地区の観光資源を調べてくる(2時間)			
		事後	大谷石や大谷地区での観光振興に向けて新たなアイデアを考えておく(2時間)			
10	「群馬県嬭恋村における観光まちづくり①」 農業と観光の村である嬭恋村の観光まちづくりを学ぶ (オンラインでゲスト講師と対話しながらの授業も想定)	事前	群馬県嬭恋村がどんな観光地であるか調べてくる(2時間)			
		事後	嬭恋村の観光まちづくりの事例からさらに新たなアイデアを考えてくる(2時間)			
11	「群馬県嬭恋村における観光まちづくり②」 浅間山北麓ジオパークや志賀高原エコパークなど自然環境を活かした観光地の活性化を学ぶ	事前	浅間山北麓ジオパークや志賀高原エコパークがどんな観光地であるか調べてくる(2時間)			
		事後	自然を活かした新たな観光振興のアイデアを考えてくる(2時間)			
12	「栃木県の観光まちづくりの事例調査」 栃木県における観光まちづくりの事例を調査する	事前	これまでの講義を参考に栃木県の観光まちづくりやニューツーリズムの事例を探してくる(2時間)			
		事後	調べた事例を発表できるようにまとめておく(2時間)			

13	「栃木県における観光まちづくりの事例発表」 グループごとに調べてまとめた内容を発表する	事前	調べた事例を発表できるようにまとめておく(2時間)
		事後	他のグループの人の発表を聞いて自分の事例を比較して考察をする(2時間)
14	「イベントによる観光地の活性化」 イベント開催による地方都市の活性化と課題を考える	事前	観光やまちづくりイベントで身近な事例を調べてくる(2時間)
		事後	イベントによる活性化の課題を自分なりにまとめておく(2時間)
15	「今後のニューツーリズム」 ニューツーリズムの手法や考え方を活かした観光・地域振興策について検討する。	事前	期末レポートのテーマ案を考えておく(2時間)
		事後	これまでの講義で習得した考え方や知識をふりかえり、期末レポートに取り組む(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワークおよびグループディスカッションにより、ツーリズムによる地域活性化策を考えます。また、その結果を授業内に受講生全員でプレゼンテーションします。

成績評価の方法・基準(%表記)

レポート 60%, 発表(課題準備や提出物も含む)30%, 授業態度 10%

小課題は、講義中に説明します。授業内で受講者の考えを問う場合もありますし、小レポートとして提出してもらった場合もあります。

観点	S	A	B	C
ニューツーリズムの概念・知識に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	一定程度理解できている	やや理解できている
ニューツーリズムによる観光・地域振興策の提案	十分具体的・現実的に提案できている	具体的・現実的に提案できている	一定程度具体的・現実的に提案できている	やや具体的・現実的に提案できている

教科書

特になし

参考書等

菊地俊夫編(2018):『ツーリズムの地理学—観光から考える地域の魅力』二宮書店.(3,520円)

履修上の注意・学修支援

やむを得ない事情を除き、遅刻も評価に含めます。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

浅間山ジオパーク推進協議会専門員として地域資源の活用によるジオツアー、エコツアーの企画・運営

[実務経験と授業科目との関連性]

ジオパーク専門員の立場から地球科学的な資源を活用し着地型観光のツアーづくりを行い、その集客や運営を行っていた。地域観光の運営と地域資源を観光の現場で活用していた観点から本科目と関連がある。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23P301 19P301	宇宙と私たちの生活	3年	秋	講義	2	永井 明
授業概要 技術の発達やライフスタイルの多様化などによって街の夜空が明るくなり、星を眺めることができる機会は減っているように思えるが、私たちは宇宙環境に存在していることには不変である。宇宙を学び、太陽系や地球の理解を深め、私たちの生活と宇宙との関係性を改めて認識することにより、将来の情報通信やデータ活用、そして都市や生活の計画へ役立てる可能性や契機を提供すること、それらに必要となる基本的な知識を身に着けることを主目的とする。						
到達目標(学習の成果) ① 宇宙の規模や太陽系の構成について理解を深める (DP2) ② 太陽と地球環境との関係性について理解を深める (DP2) ③ 宇宙探査、観測技術、天体観望について学ぶ (DP2) ④ 宇宙、宇宙関連技術と私たちの生活の将来への可能性について考察する (DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	宇宙への招待 宇宙の規模、古代から現代に至る宇宙観の変遷について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。最近眺めた印象に残る天体について記録しておく。(2時間)			
		事後	各回のアップロード資料及び授業内容を復習する。質問がある場合にはその疑問点を整理しておく。(2時間)			
2	天体観測技術 ガリレオからハッブル宇宙望遠鏡までの観測技術の進化を学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			
3	星座と神話 星座の由来やそれにまつわる神話や文化を探访する。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			
4	天体観望 栃木で観望できる天体や観望の方法、天体の動きや観望機会の選択等について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			
5	太陽系(1) 太陽、及び内惑星について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			
6	太陽系(2) 外惑星、流星、彗星や火球について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			
7	太陽系(3) 流星、彗星や火球について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			
8	月 アポロ計画の歴史や経緯を学び、月探査の意義を考える。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			
9	太陽と地球 (1) 太陽活動が地球環境に及ぼす影響について学び、生活への影響を考察する。太陽地球間圏構造や電磁的擾乱について学ぶ。生活への具体的影響を調べる。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)			
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)			

10	太陽と地球 (2) 太陽活動が地球環境に及ぼす影響について学び、生活への影響を考察する。太陽から得るエネルギーの収支や太陽定数について学ぶ。生活への具体的影響を調べる。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)
11	恒星と銀河 恒星と星のライフサイクル、天の川銀河と系外銀河について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)
12	天体 その他の天体(変光星、星雲、星団など)について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)
13	深宇宙 深宇宙探査計画について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)
14	宇宙と通信 宇宙通信技術、その動向や私たちの生活への展開について学ぶ。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)
15	宇宙と私たち 宇宙との関係性が将来の生活にどのような創造や可能性をもたらすか議論する。	事前	各回のアップロード資料を読んでおく。前回の要点を復習する。(2時間)
		事後	講義内で終えられなかった課題がある場合には完成させる。授業の要点を復習する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

PC 教室におけるデータ取得, データ処理, 情報収集を行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

授業内の提出課題及び確認テストの状況 (20%), レポート課題 (20%), 期末試験 (60%)

観点	S	A	B	C
宇宙の規模と太陽系の構成について理解をしているか	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている
太陽と地球との関係性について理解できているか	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている
宇宙探査, 観測技術, 天体観望について理解しているか	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている
宇宙, 宇宙関連技術と私たちの生活の将来への可能性についての考察に要する知識を身に着けたか	90%以上身についている	80~90%身についている	70~80%身についている	60~70%身についている

教科書

指定なし, クラスルームにて提示する。

参考書等

【天文現象の予報と解説に関する参考文献】

- ・ 誠文堂新光社 天文年鑑編集委員会 『天文年鑑 2025 年版』 ISBN 978-4-416-72366-1
- ・ 誠文堂新光社 『藤井 旭の天文年鑑 2025 年版』 ISBN 978-4-416-72365-4

なお, 参考サイトを参照する場合には, 各回の授業にて URL を指示する

履修上の注意・学修支援

1. 「情報リテラシ(情報リテラシⅠ)・データサイエンス入門(情報リテラシⅡ)」で学習する範囲について十分な知識を持っていることが受講の前提となります。
2. 遅刻をすると、その回に参加できない場合がありますので、十分注意してください。
3. 原則として 2/3 以上出席しない場合は、試験を受験できなくなります。
4. 授業中に、教員の許可なく電子デバイスを使用してはなりません。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

海上及び陸上無線通信士, 無線技術士, その他国家資格を所持

[実務経験と授業科目との関連性]

社会において役立つ実践的な授業内容を含むよう, 資格に求められる工学, 通信術, 国内法令, 国際法令に関する事項を要所に含める。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D201 19D201	ゼミナール I	2年	通年	演習	4	田部井信芳
授業概要 経済及び経営の基礎を学び、経済のしくみや企業の行動について理解を深める。実際に生じている経済社会問題について検討を行い、その解決策を考える。さらに、研究テーマの設定や文章表現等について学び、論文及びレポート作成のための基礎づくりを行う。						
到達目標(学習の成果) ・様々な情報を収集し、経済社会に生じる問題を見出すことができる(DP2)。 ・経済社会に生じる問題について、比較検討を行うことができる(DP3)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	経済及び経営の基礎を学び、経済のしくみを理解する。	事前	経済及び経営に関する知識を学ぶ。(2時間)			
		事後	経済のしくみについて理解する。(2時間)			
2	経済及び経営の基礎を学び、経済のしくみを理解する。	事前	経済及び経営に関する知識を学ぶ。(2時間)			
		事後	経済のしくみについて理解する。(2時間)			
3	経済及び経営の基礎を学び、経済のしくみを理解する。	事前	経済及び経営に関する知識を学ぶ。(2時間)			
		事後	経済のしくみについて理解する。(2時間)			
4	経済及び経営の基礎を学び、経済のしくみを理解する。	事前	経済及び経営に関する知識を学ぶ。(2時間)			
		事後	経済のしくみについて理解する。(2時間)			
5	経済及び経営の基礎を学び、経済のしくみを理解する。	事前	経済及び経営に関する知識を学ぶ。(2時間)			
		事後	経済のしくみについて理解する。(2時間)			
6	統計の調査方法と使い方について学ぶ。	事前	統計の種類を確認する。(2時間)			
		事後	統計の使い方について理解する。(2時間)			
7	統計の調査方法と使い方について学ぶ。	事前	統計の種類を確認する。(2時間)			
		事後	統計の使い方について理解する。(2時間)			
8	統計の調査方法と使い方について学ぶ。	事前	統計の種類を確認する。(2時間)			
		事後	統計の使い方について理解する。(2時間)			
9	レポートの書き方について	事前	多くの文章を読み、理解する。(2時間)			
		事後	レポートの書き方の要点を確認する。(2時間)			
10	レポートの書き方について	事前	多くの文章を読み、理解する。(2時間)			
		事後	レポートの書き方の要点を確認する。(2時間)			
11	各自テーマを設定し、発表を行う。	事前	自分の興味あるテーマを考える。(2時間)			
		事後	自分の設定したテーマについて、発表を行う。(2時間)			
12	各自テーマを設定し、発表を行う。	事前	自分の興味あるテーマを考える。(2時間)			
		事後	自分の設定したテーマについて、発表を行う。(2時間)			
13	各自テーマを設定し、発表を行う。	事前	自分の興味あるテーマを考える。(2時間)			
		事後	自分の設定したテーマについて、発表を行う。(2時間)			
14	各自テーマを設定し、発表を行う。	事前	自分の興味あるテーマを考える。(2時間)			
		事後	自分の設定したテーマについて、発表を行う。(2時間)			
15	各自テーマを設定し、発表を行う。	事前	自分の興味あるテーマを考える。(2時間)			
		事後	自分の設定したテーマについて、発表を行う。(2時間)			
16	共通テーマを設定し、グループで研究を行う。	事前	共通テーマについて、各自考える。(2時間)			
		事後	共通テーマについて、グループで討論を行う。(2時間)			
17	共通テーマを設定し、グループで研究を行う。	事前	共通テーマについて、各自考える。(2時間)			
		事後	共通テーマについて、グループで討論を行う。(2時間)			
18	共通テーマについて研究を行う。	事前	共通テーマについて、全体で考える。(2時間)			
		事後	共通テーマについて、全体で研究を行う。(2時間)			

19	共通テーマについて研究を行う。	事前	共通テーマについて、全体で考える。(2時間)
		事後	共通テーマについて、全体で研究を行う。(2時間)
20	共通テーマについて研究を行う。	事前	共通テーマについて、全体で考える。(2時間)
		事後	共通テーマについて、全体で研究を行う。(2時間)
21	共通テーマについて研究を行う。	事前	共通テーマについて、全体で考える。(2時間)
		事後	共通テーマについて、全体で研究を行う。(2時間)
22	共通テーマについて研究を行う。	事前	共通テーマについて、全体で考える。(2時間)
		事後	共通テーマについて、全体で研究を行う。(2時間)
23	研究成果を作成し、発表の準備を行う。	事前	研究成果をまとめる。(2時間)
		事後	研究成果の作成を行う。(2時間)
24	研究成果を作成し、発表の準備を行う。	事前	研究成果をまとめる。(2時間)
		事後	研究成果の作成を行う。(2時間)
25	研究成果を作成し、発表の準備を行う。	事前	研究成果をまとめる。(2時間)
		事後	研究成果の作成を行う。(2時間)
26	研究成果の発表を行う。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果の発表を行う。(2時間)
27	研究成果の発表を行う。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果の発表を行う。(2時間)
28	研究成果の発表を行う。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果の発表を行う。(2時間)
29	研究成果の発表を行う。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果の発表を行う。(2時間)
30	研究成果の発表を行う。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果の発表を行う。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型授業

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(100%)

観点	S	A	B	C
経済社会に生じる問題を見出す能力	完全に身につけている	かなり身につけている	十分身につけている	一定程度身につけている
経済社会に生じる問題について比較検討を行う能力	完全に身につけている	かなり身につけている	十分身につけている	一定程度身につけている

教科書

特になし

参考書等

『「経済」の基本と常識』吉野薫 フォレスト出版 2021年

履修上の注意・学修支援

学生全員が協力して、ゼミ活動を行うこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D201 19D201	ゼミナール I	2年	通年	演習	4	大石和博
授業概要 ◆経済学を通じて現実の世界をより深く理解する◆ 当たり前と思うような身の回りの些細な出来事に経済学を用い、実生活のさまざまな局面で経済学がどのように役立つかを検討する。さらに、地域や国が直面している経済問題に対して対応策を討論することにより、経済学の思考方法を身につける。						
到達目標(学習の成果) ①経済学の考え方や経済用語を理解し、わかりやすく説明することができる。(DP2) ②経済学の考え方をを用いて現実の経済現象を分析することができる。(DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ゼミナール I の概要と計画:教員と学生の自己紹介	事前	ゼミ選択の理由を整理しておく(3時間)			
		事後	経済ニュースの WEB サイトを確認しておく(1時間)			
2	輪読や報告の準備:輪読の進め方、レジュメの作成方法	事前	経済ニュースを読み整理しておく(3時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理する(1時間)			
3	経済学の考え方(1):経済学の原理(トレード・オフ、機会費用、サunkコスト、インセンティブなど)を学ぶ	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理する(1時間)			
4	経済学の考え方(2)	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理する(1時間)			
5	経済学の考え方(3)	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理する(1時間)			
6	経済統計(1):GDP、消費者物価指数、失業率などの経済統計の基礎を身につける	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理する(1時間)			
7	経済統計(2)	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理する(1時間)			
8	経済統計(3)	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理する(1時間)			
9	経済統計(4)	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理する(1時間)			
10	問題発見(1):各自の研究テーマを考える	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(1時間)			
11	問題発見(2)	事前	報告の準備をしておく(3時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理する(1時間)			
12	プレゼンテーション技法(1):効果的なプレゼン資料の作成などについて検討する	事前	報告の準備をしておく(2時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理する(2時間)			
13	プレゼンテーション技法(2)	事前	報告の準備をしておく(2時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理する(2時間)			
14	前期報告会(1):各自のテーマで報告する	事前	報告の準備をしておく(2時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理する(2時間)			
15	前期報告会(2):前回の討論を踏まえ、修正の上、報告資料を提出する	事前	報告の準備をしておく(2時間)			
		事後	報告資料を修正し提出する(2時間)			
16	すみれ祭準備(1):テーマを設定する	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)			
		事後	第16回配布資料を読み整理する(2時間)			
17	すみれ祭準備(2):データの収集等を行う	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)			
		事後	第17回配布資料を読み整理する(2時間)			
18	すみれ祭準備(3)	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)			
		事後	第18回配布資料を読み整理する(2時間)			

19	すみれ祭準備(4)	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第19回配布資料を読み整理する(2時間)
20	すみれ祭準備(5):展示用ポスターの印刷等を行う	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	印刷物を展示しておく(2時間)
21	問題発見(3):各自の目標を設定し、研究テーマを考える	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第21回配布資料を読み整理する(2時間)
22	問題発見(4)	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第22回配布資料を読み整理する(2時間)
23	レポート作成準備(1):データの収集と分析を行う	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第23回配布資料を読み整理する(2時間)
24	レポート作成準備(2)	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第24回配布資料を読み整理する(2時間)
25	レポート作成準備(3):レポートの構成について検討する	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第25回配布資料を読み整理する(2時間)
26	レポート作成準備(4)	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第26回配布資料を読み整理する(2時間)
27	プレゼンテーション技法(3):効果的なプレゼン資料の作成などについて検討する	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第27回配布資料を読み整理する(2時間)
28	プレゼンテーション技法(4)	事前	報告用資料を準備しておく(2時間)
		事後	第28回配布資料を読み整理する(2時間)
29	後期報告会(1):各自のテーマで報告する	事前	報告の準備をしておく(2時間)
		事後	第29回配布資料を読み整理する(2時間)
30	後期報告会(2):前回の討論を踏まえ、修正の上、レポートを提出する	事前	報告の準備をしておく(2時間)
		事後	報告資料を修正し提出する(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、課題の完成度(50%程度)、ディスカッション等ゼミ活動への寄与(50%程度)により総合的に判断する。

観点	S	A	B	C
経済学の考え方や経済用語を理解し、わかりやすく説明することができる。(DP2)	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済学の考え方をを用いて現実の経済現象を分析することができる。(DP4)	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中にレポート課題等の解説・講評を行う。

教科書

特になし

参考書等

- ① 小浜裕久・木村福成『経済論文の作法 第3版 勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社、2011年、税込 1,980円。
- ② 小熊 英二『基礎からわかる 論文の書き方 (講談社現代新書)』講談社、2022年、1,320円。

履修上の注意・学修支援

- ・ 毎回出席すること
- ・ 互いに協力し、積極的に参加すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D201 19D201	ゼミナール I	2年	通年	演習	4	高丸圭一

授業概要

これまでの経験や今後の目標（希望する就職先など）を踏まえ、都市生活に関連した様々な事項の中からゼミ生ひとりひとりが自分の関心に応じたテーマを選び、調査、分析、検討を進める。2学年のゼミでは、まず自分自身についての分析を行う。「自分はこれまで何をしてきたのか」「自分が何に興味があるのか」「将来何がしたいのか」「自分を社会の中でどのように役立たせることができるのか」「将来の目標を実現するためには今何をすべきか」などを考える。これを踏まえて、自分が興味・関心を持った事項（研究テーマ）について、学術的な観点から論理的に検討を行い、それを自分の言葉で説明できるようになることを目指す。

到達目標(学習の成果)

- ①「自分」について客観的視点を持つことができるようになる。(DP4)
- ②興味・関心を持った事項について情報を収集し、分析的思考で読み解くことができるようになる。(DP2, DP3)
- ③分析の過程で、関係各所に問い合わせをしたり、インタビューを行うことができるようになる。(DP4)
- ④読み解いた結果を分かりやすく説明できるようになる。(DP3, DP4)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	「自分」について考える(1):自己分析	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
2	「自分」について考える(2):自己分析にかんするディスカッション	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
3	「自分」について考える(3):他者の視点からの自分	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
4	「自分」について考える(4):他者の視点からの自分にかんするディスカッション	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
5	「自分」について考える(5):自己分析と他者からの視点を踏まえた自分の強みについて考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
6	まちづくり提案を知る(1):過去のまちづくり提案の原稿を分担して読み、要点をまとめる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
7	まちづくり提案を知る(2):過去のまちづくり提案の要点を発表し、情報を共有する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
8	まちづくり提案を知る(3):過去のまちづくり提案についてのディスカッション	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

9	自分なりの意見を加える(1):過去のまちづくり提案に対して、自分の考え(新しいアイデア)を付け加える。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
10	自分なりの意見を加える(2):過去のまちづくり提案に対するアイデアについてディスカッションする	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
11	自分なりの意見を加える(3):ディスカッションの結果をまとめる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
12	新しい提案を考える(1):現状分析	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
13	新しい提案を考える(2):ブレインストーミング	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
14	新しい提案を考える(3):KJ法	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
15	新しい提案を考える(4):骨子を決め、夏休み中の調査計画を立てる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
16	調査結果の分析(1):生データの取り扱い	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
17	調査結果の分析(2):単純集計を観察する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
18	調査結果の分析(3):統計的手法を学ぶ	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
19	考察(1):自分なりの視点で観察する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
20	考察(2):それぞれの観察結果をディスカッションする	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
21	考察(3):外的要因との関連を考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

22	結論(1):考察から結論づけられることについてディスカッションする	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
23	結論(2):本ゼミからの提案をまとめる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
24	執筆(1):文章を書いてみる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
25	執筆(2):構成について考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
26	執筆(3):主張を効果的に表現する方法を考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
27	プレゼンテーション(1):スライドを作ってみる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
28	プレゼンテーション(2):主張を適切に伝えるスライドについて考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
29	プレゼンテーション(3):スライドと発表原稿を完成させる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
30	プレゼンテーション(4):作り上げた内容を発表し、客観的に評価する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、来年のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ・毎回ディスカッションを行う
- ・まちづくりに関する課題解決学習を行う
- ・必要に応じてフィールドワークを行う場合もある

成績評価の方法・基準(%表記)

課題の完成度(50%), ディスカッション等ゼミ活動への寄与(50%)

観点	S	A	B	C
① 「自分」について客観的視点を持つことができるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
② 興味・関心を持った事項について情報を収集し、分析的思考で読み解くことができるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
③ 分析の過程で、関係各所に問い合わせをしたり、インタビューを行うことができるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
④ 読み解いた結果を分かりやすく説明できるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

教科書

なし

参考書等

- 日本経済新聞出版 『まるわかり! 行政のデジタル化』 日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532183233)
- 吉田泰己 『行政をハックしよう』 ぎょうせい (ISBN:978-4324110263)
- 林宜嗣他 『地域データ分析入門』 日本評論社 (ISBN:978-4535559479)
- 宇都宮浄人他 『まちづくりの統計学』 学芸出版社 (ISBN:978-4761528065)
- 中野邦彦他 『地域研究ハンドブック』 勁草書房 (ISBN-13:978-4326603374)

履修上の注意・学修支援

時間外のゼミ活動を積極的に行ってもらいます。自分なりに考えた上で、分からないことや困ったことがあれば、遠慮なく質問に来てください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D201 19D201	ゼミナール I	2年	通年	演習	4	北浦さおり
授業概要 消費者行動に関する研究課題を見つけ、調査し、調査で得られたデータを分析し、レポートにまとめ、報告するという一連の流れについて、グループワークを通して学ぶ。具体的には、①文献レビューと課題設定、②調査の基礎の学習と調査の実践、③データの分析、④研究論文の作成、⑤他大学との合同ゼミでのプレゼンテーション準備と発表を1年間で学ぶ。						
到達目標(学習の成果) ・グループワークやグループディスカッションを通じてコミュニケーションスキルが獲得できる(DP1) ・消費者行動論の基礎と研究を進めるための方法が身につく(DP2) ・他大学との交流や調査を、さまざまな課題に対処しながら遂行することができる(DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	1年間のゼミ活動計画と研究グループ編成、役割の決定	事前	春休みの活動内容の報告準備をしておく(2時間)			
		事後	グループで活動内容を打ち合わせる(2時間)			
2	1年間の個人の活動計画と研究計画	事前	個人の活動計画を考えておく(2時間)			
		事後	計画シートを完成させる(2時間)			
3	個人の活動計画の発表	事前	発表準備をしておく(2時間)			
		事後	コメントを受けた計画修正を行う(2時間)			
4	グループ研究課題の決定	事前	グループ研究課題を考えておく(2時間)			
		事後	グループで具体的な内容を話し合う(2時間)			
5	文献レビューの方法を学ぶ	事前	文献を調べておく(2時間)			
		事後	グループで文献リストを作成する(2時間)			
6	文献レビューの実施	事前	文献レビューを進めておく(2時間)			
		事後	文献レビューを完成させる(2時間)			
7	課題の設定	事前	研究課題を考えておく(2時間)			
		事後	グループで研究課題を決定する(2時間)			
8	仮説の検証について学ぶ	事前	仮説を立ててみる(2時間)			
		事後	グループで仮説を決定する(2時間)			
9	調査方法を学ぶ	事前	調査方法について調べておく(2時間)			
		事後	グループで調査方法を決定する(2時間)			
10	観察法の実施(フィールドワーク)	事前	調査の準備をしておく(2時間)			
		事後	レポートを作成する(2時間)			
11	面接法の実施	事前	調査の準備をしておく(2時間)			
		事後	レポートを作成する(2時間)			
12	質問紙法について学ぶ	事前	グループで質問紙法について調べておく(2時間)			
		事後	グループで復習する(2時間)			
13	調査票の作成	事前	グループで質問項目を考えておく(2時間)			
		事後	調査票を完成させる(2時間)			
14	他大学との合同ゼミの実施	事前	報告準備を行う(2時間)			
		事後	報告に対するコメントを作成する(2時間)			
15	個人の活動計画とグループ研究の進捗状況の発表	事前	発表準備を行う(2時間)			
		事後	個人とグループの活動計画の修正を行う(2時間)			
16	調査データの集計について学ぶ	事前	グループでデータを準備しておく(2時間)			
		事後	グループでデータを集計する(2時間)			
17	調査データ(名義尺度)の分析について学ぶ	事前	グループで調べておく(2時間)			
		事後	グループで練習問題をやっておく(2時間)			
18	調査データ(間隔・比例尺度)の分析について学ぶ	事前	グループで調べておく(2時間)			
		事後	グループで練習問題をやっておく(2時間)			

19	調査データの分析1	事前	グループで分析方法を考える(2時間)
		事後	分析を進める(2時間)
20	調査データの分析2	事前	分析を進めておく(2時間)
		事後	分析を完了する(2時間)
21	中間報告に向けたプレゼンテーションの作成	事前	グループでプレゼン内容を決めておく(2時間)
		事後	プレゼン資料を完成させる(2時間)
22	他大学との合同ゼミの実施	事前	プレゼン準備をしておく(2時間)
		事後	報告に対するコメントを作成する(2時間)
23	研究論文の作成について学ぶ	事前	論文作成資料を読んでおく(2時間)
		事後	グループでゼミ論文の内容を話し合う(2時間)
24	ゼミ論文の作成	事前	グループで分担を決めておく(2時間)
		事後	ゼミ論文を作成する(2時間)
25	ゼミ論文作成と発表準備	事前	ゼミ論文作成を進めておく(2時間)
		事後	グループで発表準備を進める(2時間)
26	グループ研究の発表とディスカッション1	事前	発表に向けた準備を完成させておく(2時間)
		事後	発表に対するコメントを作成する(2時間)
27	グループ研究の発表とディスカッション2	事前	発表に向けた準備をする(2時間)
		事後	発表に対するコメントを作成する(2時間)
28	グループ研究の発表とディスカッション3	事前	発表に向けた準備をする(2時間)
		事後	発表に対するコメントを作成する(2時間)
29	ゼミ論文完成に向けた修正作業	事前	ゼミ論文を作成する(2時間)
		事後	ゼミ論文を完成させる(2時間)
30	ゼミ論文提出作業と会計報告、次年度の活動計画	事前	次年度の活動計画案を考えておく(2時間)
		事後	ゼミ論文提出作業を完了させる(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

活動への貢献度50%、ゼミ論文50%

観点	S	A	B	C
グループでの研究活動への積極的な貢献	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
消費行動研究課題の発見	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
消費行動研究の課題の探求	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

教科書

特になし

参考書等

『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』川崎剛 勁草書房 2010年

履修上の注意・学修支援

- ・「統計学入門」を履修していることが望ましい。
- ・グループワークのため、遅刻・欠席がないようにすること。
- ・発言、質問などの積極的な行動を歓迎します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D201 19D201	ゼミナール I	2年	通年	演習	4	小浜駿
授業概要 【春学期】 自分の好きなことについて考えながら、研究テーマを設定する。また、研究テーマを数値として測定可能な形式へと変換する技術を身につける。 【秋学期】 客観的に測定可能な数値を分析・考察し、研究テーマの魅力と意義を他者に伝える技術を身につける。また、公刊論文を読み、自分の好きなことが学術的のどのような視点で研究されているか、理解する。 総合的には、「やりたいことをやる」ということを上手にできるようになるためのワークを実施し、技術を身につける授業である。						
到達目標(学習の成果) ・指導教員およびゼミメンバーとディスカッションを行い、自分のやりたいことを伝えられるようになる(DP1) ・研究内容をふまえながら、プレゼンテーションができるようになる(DP1) ・個人的な興味が客観的な主張や社会貢献へとつながっていることが理解できる(DP4) ※補足的目標						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	自己紹介の後、通年のスケジュールや主な作業課題について説明を受ける	事前	シラバスを読んでおく(1時間)			
		事後	1年間検討したいテーマについて、大雑把に考えておく(3時間)			
2	ブレインストーミングを活用しながら、可能な限り多く、好きなことを挙げる	事前	好きなことについて考える。ゲームでも好きな食べ物でも何でも構わない(2時間)			
		事後	好きなことについてぼんやり考える。「ぼんやり」が大切(2時間)			
3	批判的検証を加えながら、好きなことについて言語化する	事前	好きなことについて考える。1年間検討したいテーマに近いほど望ましい(2時間)			
		事後	好きなことについてぼんやり考える。頻度が高いほど望ましい(2時間)			
4	研究の意義について説明を受けたのち、自分の好きなことが日常生活やマーケティングに役立つことを理解する	事前	好きなことについて考える。自分の幼い頃や将来など、時間的距離が遠い事象に関わることが望ましい(2時間)			
		事後	好きなことについてぼんやり考える。意識的には考えないくらいが丁度いい(2時間)			
5	好きなこととこれから検討したいことを中心としてプレゼンテーションを行う。	事前	プレゼンテーションを準備する(2時間)			
		事後	テーマを決定する(2時間)			
6	Microsoft Excel を用いながら、調査項目を中心として調査票を設計する。	事前	項目の素案を作成する(2時間)			
		事後	授業内容を基に項目の修正を行う(2時間)			
7	教示文や選択肢の内容に留意しながら、調査票を設計する	事前	授業内容を基に項目の修正を行う(2時間)			
		事後	内容上、項目を完成させる(2時間)			
8	実際に回答してみながら、調査票作成におけるデザインの重要性について理解する	事前	内容上、項目を完成させる(2時間)			
		事後	見た目も含めて、調査票を完成させる(2時間)			
9	完成された調査票をもとに、調査依頼とデータの回収を行う	事前	友人などに調査依頼を行う(2時間)			
		事後	20票のデータを回収する(2時間)			
10	無効票の判定基準について説明を受けた後、データ入力を行う	事前	これまでに配布した資料を読み返しておく(2時間)			
		事後	終わらなかった入力を終える(2時間)			
11	データの読みあわせを中心としたデータクリーニングを行う	事前	これまでに配布した資料を読み返しておく(2時間)			
		事後	クリーニング後のデータの送付。分析プログラムをダウンロードして眺めておく(2時間)			
12	単純集計表の作成	事前	興味があれば、事前にデータ処理を始めて構わない(2時間)			
		事後	出力結果の読み取りを行う(2時間)			
13	単純集計表の内容を解釈していく	事前	出力結果を加工し、図表の体裁にしておく(2時間)			
		事後	これまでの研究活動を振り返る。(2時間)			

14	まちを歩き、自分の研究と日常生活との接点を探る	事前	必要なし。余計な予備知識はないほうが望ましい(2時間)
		事後	自分が何を感じたのか、内省する(2時間)
15	前期のまとめとして、プレゼンテーションを行う	事前	プレゼン資料を作成する(2時間)
		事後	実施したプレゼンへのコメントについて反省する(2時間)
16	テストデータを用いてクロス集計表の作成方法を学ぶ	事前	分析プログラムの実行方法を復習しておく(2時間)
		事後	授業でできなかった部分の分析を実施する(2時間)
17	自らの測定したデータでクロス集計表を作成し、層別のデータ分析を行う	事前	授業でできなかった部分の分析を実施する(2時間)
		事後	出力結果を加工し、図表の体裁にしておく(2時間)
18	クロス集計表の解釈を行う。	事前	出力結果を加工し、図表の体裁にしておく(2時間)
		事後	自分の検討したい現象がデータに示されたか、概念的に検討しておく(2時間)
19	自らの測定したデータで相関係数を算出し、2変数の関連について分析する	事前	自分の検討したい現象がデータに示されたか、概念的に検討しておく(2時間)
		事後	出力結果を加工し、図表の体裁にしておく(2時間)
20	自分の研究に関するこれまでの活動をまとめる	事前	出力結果を加工し、図表の体裁にしておく(2時間)
		事後	自分の検討したい現象がデータに示されたか、概念的に検討しておく(2時間)
21	すみれ祭の展示に向けて、ポスター作成に着手する	事前	これまでの検討内容のうち、特に重要な部分について整理しておく(2時間)
		事後	ポスターを作成する(2時間)
22	フォントや配色にも気を配りながら、ポスターを完成させる	事前	ポスターを作成する(2時間)
		事後	ポスターを完成させる(2時間)
23	データ分析に必要な統計学的知識の基礎を身に着ける	事前	これまでに配布した資料を読み返しておく(2時間)
		事後	既存データの再分析をすると望ましい(2時間)
24	すみれ祭の展示を終え、改めて調査計画や課題を見つめなおす	事前	これまでの研究内容を振り返り、やりたいことについて考える(2時間)
		事後	卒論のテーマについて考える(2時間)
25	次年度に向けた課題を整理し、調査方針を設定する	事前	卒論のテーマについて考える(2時間)
		事後	卒論のテーマを暫定的に固める(2時間)
26	統計的検定について、実際のデータを用いて練習する	事前	統計学に関する配布資料について復習しておく(2時間)
		事後	授業中にできなかった分析を実施する(2時間)
27	より厳密な概念整理を行い、次年度に向けた準備を行う	事前	卒論テーマの外縁領域について考察しておく(2時間)
		事後	卒論テーマの外縁領域について考察しておく(2時間)
28	要因図を用い、概念間の関係を整理する	事前	卒論テーマの概念的な配置を大まかに想像しておく(2時間)
		事後	要因図を作成する(2時間)
29	これまでにやってきたことをまとめ、発表する。その後、発表内容についてディスカッションを行う	事前	プレゼン資料を作成する(2時間)
		事後	授業中のコメントを基に、研究内容について修正を行う(2時間)
30	まちを歩き、自分の研究と日常生活との接点を探る	事前	必要なし。余計な予備知識はないほうが望ましい。
		事後	自分が何を感じたのか、内省する。(4時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ゼミは研究の場であり、常にアクティブラーニングである。各自で目的意識を持ち、主体的に取り組むことを求める。また、授業外の学習が非常に多くなる。授業という枠組みや教員からの指示がない状態で何かを考えるということ自体が、もうひとつ高度なアクティブラーニングの実践となる。

成績評価の方法・基準(%表記)

授業中の活動 30%, 週ごとの成果物 70%の配分で総合的に評価する。

観点	S	A	B	C
授業中の活動	努力と工夫が十分に発揮され, 調査内容に反映されている	調査のために必要な努力と工夫が十分にみてとれる	調査のために必要な努力と工夫がある程度みてとれる	なんらかの努力が伺える
成果物	やりたいことを言語化し, 魅力的で論理的な研究資料を作れる	やりたいことを言語化し, わかりやすい研究資料を作れる	やりたいことを言語化し, 研究資料の体裁にできている	やりたいことを言語化できている

教科書

教員作成資料を都度配布する。同内容のものを google classroom にアップロード予定である。

参考書等

原・海野 (2004) 『社会調査演習 第2版』 東京大学出版会 2750 円

履修上の注意・学修支援

必須ではないが, 「統計学入門」を履修済みであるか, 併行して履修することで, ゼミ作業が楽になることがあると予想される。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D201 19D201	ゼミナール I	2年	通年	演習	4	坂口豪
授業概要 本ゼミでは、観光や観光まちづくりをテーマに、1年間かけて調査を実施し、調査や発表のスキルを習得するとともに、まちづくりコンテストなどの学外の発表会に出場します。ゼミ全体で一丸となって調査、討論、まちあるき、資料作成などを実施し、演習形式で進めます。また、学術的な見方・考え方、またアンケート調査やプレゼンテーションなどの調査手法も随時学びます。研究を深めるために、栃木県内外の観光地や自治体を訪問し、参考となるような取り組みを視察することも方法のひとつです。下記の授業計画にある「クラスルーム」とは Google Classroom のことです。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・討論やプレゼンテーションなどのコミュニケーションの方法を実践できる。(DP1) ・観光や観光まちづくりに関する課題を理解し、その解決策について考えることができる。(DP3) ・観光や観光まちづくりに関する事業者などへの調査を実践できる。(DP4) 研究成果の発表方法: 大学祭や宇都宮市主催の「大学生によるまちづくり提案」などで発表する。ゼミナール I では必ずしもコンテスト等での学外での発表を必須とするものではない。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ゼミの概要と方針・自己紹介 …本ゼミの概要と1年間の方針について説明し、自己紹介を行う。	事前	シラバスを読み、1年間のゼミの進め方を知る(2時間)。			
		事後	本ゼミ専用の連絡アプリとクラスルームに参加する(2時間)。			
2	ゼミ活動の探究テーマの検討① …各受講生が自身の興味・関心やゼミで取り組みたいことを述べる。	事前	どのようなことをゼミでやってみたいか、何に関心があるか考えておく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			
3	ゼミ活動の探究テーマの検討② …観光まちづくりや地域調査に関するテーマを検討する。	事前	前回の議論をもとに、取り組みたいテーマを1つ選んでおく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			
4	関連文献の輪読① …調査テーマに即した先行文献の探し方から入手方法や引用の作法などを学ぶ。	事前	探究テーマに関連する書籍にはどんな本があるか調べておく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			
5	関連文献の輪読② …調査テーマに即した先行文献を実際に読み込み、理解した内容をゼミ生に共有する	事前	選んだ文献を読み込み、ゼミ生に共有するためのレジюмеを作成しておく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			
6	関連文献の輪読③ …調査テーマに即した先行文献を実際に読み込み、理解した内容をゼミ生に共有し、自分の探究テーマを位置づける。	事前	選んだ文献を読み込み、ゼミ生に共有するためのレジюмеを作成しておく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			
7	まちあるきの準備① …調査テーマに即したまちあるきを行うにあたって適切な対象地を選定する。	事前	どのような地域のまちあるきをしたいか考えておく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			
8	まちあるきの準備② …調査テーマに即したまちあるきを行うにあたって日程、ルート、費用などを調べまとめる。	事前	まちあるきの対象地にどのようなものがあるか簡単に調べておく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			
9	まちあるきの実施 …宇都宮市内の観光関連施設・地域を訪問し、実態・課題を知るとともに、ゼミ生どうしの交流を深める。	事前	まちあるきで見るべきポイントを確認しておく(2時間)。			
		事後	聞いた話や撮影した写真を各自整理しておく(2時間)。			
10	まちあるきのまとめ …まちあるきから得られた知見を議論し整理する。	事前	写真をアプリなどで共有しておく(2時間)。			
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。			

11	まちづくり提案の研究① …宇都宮市主催の大学生によるまちづくり提案の過去の動画を視聴し、内容・発表方法について議論する。	事前	まちづくり提案とは何か、宇都宮市役所のウェブサイトの該当ページを閲覧し、把握しておく(2時間)。
		事後	各自が動画から得た感想や発表手法の良い点についてまとめ、クラスルームで共有する(2時間)。
12	まちづくり提案の研究② …宇都宮市から提示されたまちづくり提案のテーマやその背景を知り、わかった点と疑問点を議論してまとめる。	事前	市から配布されるまちづくり提案のテーマやその背景を記した書類に目を通しておく(2時間)。
		事後	テーマやその背景に対して自身が理解した点をクラスルームで共有する(2時間)。
13	調査テーマの設定 …まちづくり提案に向けた観光や観光まちづくりに関する調査テーマを設定する。	事前	これまでの検討から、調査テーマの改善案を考えておく(2時間)。
		事後	まちづくり提案の申込書を市に提出し、クラスルームで共有する(2時間)。
14	宇都宮市の施策研究 …出前講座を宇都宮市に依頼し、宇都宮市の課題や主な施策について知り、9回目で挙げた疑問点を尋ねる。	事前	宇都宮市に出前講座を依頼する(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
15	春学期のふりかえり …これまでの活動をふりかえるとともに、今後すべき事項について議論する。	事前	これまでの活動の成果・課題を各自考えておく(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
16	実践活動の準備 …調査テーマに即した実践活動を行うにあたって日程、費用などを調べまとめる。	事前	実践活動ですべきことや役割を考えておく(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
17	実践活動の実施 …宇都宮市内でまちづくり提案に向けた実践活動を行う。	事前	実践活動にあたって必要な準備を各自行う(2時間)。
		事後	聞いた話や撮影した写真を各自整理しておく(2時間)。
18	実践活動のまとめ …実践活動から得られた知見を議論し整理する。	事前	写真をアプリなどで共有しておく(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
19	提案内容の検討① …実践活動で得られた成果と解決策を議論する。	事前	提案内容として考えられることを検討しておく(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
20	提案内容の検討② …実践活動で明らかになった課題の解決策を具体的・現実的に改良する。	事前	前回検討した解決策の改良案を各自で考える(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
21	提案内容のまとめ …これまでの活動の趣旨、実践内容、課題、提案などを整理しまとめる。	事前	これまでに蓄積した議事録を見返す(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で整理した結果をまとめる(2時間)。
22	調査全体のまとめ① …これまでの調査内容をまとめ、提案を導出する。	事前	どのような提案にしたらよいか各自案を考えておく(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
23	調査全体のまとめ② …これまでの調査内容をまとめ、全体の流れを決定する。	事前	調査全体のストーリーを考えておく(2時間)。
		事後	クラスルームに共同で議事録を作成する(2時間)。
24	発表資料作成① …発表資料(スライド、ポスター、セリフ)を作成する。	事前	自分が担当したい資料を考えておく(2時間)。
		事後	ゼミでの確認をふまえ、各自作成する(2時間)。
25	発表資料作成② …発表資料(スライド、ポスター、セリフ)を作成する。	事前	ゼミ内で確認すべきことがないか考えておく(2時間)。
		事後	ゼミでの確認をふまえ、各自作成する(2時間)。
26	発表資料作成③ …発表資料(スライド、ポスター、セリフ)を完成させる。	事前	ゼミ内で確認すべきことがないか考えておく(2時間)。
		事後	完成したデータをバックアップする(2時間)。
27	発表リハーサル …作成した発表資料をもとに、発表練習を実施する。	事前	発表資料を仕上げる(2時間)。
		事後	本番で注意すべきことを各自確認する(2時間)。
28	発表会(まちづくり提案)	事前	各自の担当を再度確認する(2時間)。

	…これまでの調査研究の成果を学外でプレゼンテーションし、聴講者と議論する。	事後	どのような議論がなされたか次回のゼミのためにメモしておく(2時間)。
29	発表会の反省 …1年間の調査研究をふりかえるとともに、発表会について受講生で反省をする。	事前	1年間で自らが学べた点、反省すべき点を考えておく(2時間)。
		事後	クラスルームで議論の結果を共有する(2時間)。
30	御礼状の作成 …調査にご協力いただいた方に対して御礼状を作成し、発送する。	事前	御礼状を差し出すべき方の住所や氏名をリストアップしておく(2時間)。
		事後	御礼状の書き方や注意点を、他のゼミ生に説明してみることなどで習得する(2時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

本ゼミは、原則としてゼミ生全員で1つの調査テーマに1年間かけて取り組むことにしている。ただし受講者数に応じて2つ以上のグループを作り、グループごとに異なるテーマに取り組むことも考慮したい。実際的には宇都宮市や栃木県内の観光やまちづくりの課題を題材とした課題解決型学習を行い、年度後半の学外でのまちづくり関係のコンテストでプレゼンテーションをすることを旨とする。ただ必ずしもコンテストをゴールとせずゼミナールⅡや卒業研究へのステップアップとして取り組むことも考えたい。調査研究の際には、ゼミ生と教員でグループワーク、グループディスカッションを毎回実施し、議論を進め、進捗状況や今後の方針を共有する。また、地域の実態について探る際には、学外に赴き、地域を観察し、住民の方との交流やインタビューなどを行うフィールドワークも随時実施する。

成績評価の方法・基準(%表記)

ゼミ発表等での準備作業・参加 40% 調査研究への取組状況・積極性 40% 授業への取り組み 20%

観点	S	A	B	C
観光の調査や発表におけるコミュニケーションの実践	調査・発表手法を十分に習得し工夫するとともに、他者と意欲的にコミュニケーションをとり、ネットワークを構築しようとしている	調査・発表手法を習得し工夫しようとしているとともに、他者と積極的にコミュニケーションをとっている	調査・発表手法を実践し工夫するとともに、他者とコミュニケーションをとることができる	調査・発表手法を実践するとともに、他者とコミュニケーションをとることができる
観光に関する課題把握とその解決策の提示	自主的にさらなる課題把握に努め、画期的・独創的に提示できる	十分に把握し、独創的に提示できる	一定程度把握し、具体的・現実的に提示できる	一定程度把握し、提示できる
観光に関する調査研究の実行	自ら関係者と適切に連携をとりながら自立的・意欲的に実行できる	教員の助けを得ながらも、自立的に実行する場面が十分みられる	教員の指示にしたがい、積極的に実行できる	教員の指示にしたがって実行できる

教科書

特になし

参考書等

岡本耕平監修(2022):『論文から学ぶ地域調査』ナカニシヤ出版。(2,640円)

梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編著(2007):『地域調査ことはじめあるく・みる・かく』ナカニシヤ出版。(3,080円)

野間晴雄・香川貴志・土平 博・山田周二・河角龍典・小原丈明編著(2017):『ジオパル NEO 地理学・地域調査便利帖』海青社。(2,750円)

山下清海(2003):『地域調査法』村山祐司編『地域研究』朝倉書店、53-79。

吉本哲郎(2008):『地元学をはじめよう』岩波書店。(924円)(※とくに35~69ページ)

授業の都度、必要となる資料を紹介し、また、必要に応じて必要な情報をまとめたプリントを配布します。

履修上の注意・学修支援

・やむを得ない場合を除き、欠席の場合は、事前に他の受講生や教員に連絡をすること。

・グループ活動が基本です。他人任せにせず積極的に活動に関わることを。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D201 19D201	ゼミナール I	2年	通年	演習	4	三浦魁斗
授業概要 本ゼミナールでは、都市空間・都市活動に対する学生の〈自発性〉をもとに、学術としての卒業研究と実践としてのまちづくり活動への取組を通じて、「どうすればまちの課題を解決できるか」「どうすればまちの魅力を創造できるか」といった視点からアイデアを具体化・展開させることをテーマとしています。 2 学年を対象としたゼミナール I では、「都市空間・都市活動への興味・関心の具体化」を通じて、社会とのつながりを強化し、専門知識やコミュニケーション能力を身に付けることを目指します。						
到達目標(学習の成果) ☆ ゼミでの研究・活動を通じて、社会とのつながりを強化する方法を習得できる(DP4)。 ☆ 自らの興味・関心に関連する専門知識を身に付けることができる(DP2)。 ☆ 大学祭などの場での発表を通じて、コミュニケーションの実践的方法を習得できるようになる(DP1)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本シラバスをもとにゼミのスケジュールを確認し、ゼミでの係を決めます。	事前	シラバスを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	ゼミで任された役割を理解しましょう。(2 時間)			
2	「自己紹介」の内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
3	「自己紹介」を通じて相互理解を深めます(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	自己紹介を振り返りましょう。(2 時間)			
4	「自己紹介」を通じて相互理解を深めます(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	自己紹介を振り返りましょう。(2 時間)			
5	「まち歩き」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
6	「まち歩き」のために集めた資料を共有します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2 時間)			
7	「まち歩き」の準備をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2 時間)			
8	「まち歩き」を実施します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	まち歩きを振り返りましょう。(2 時間)			
9	「まちづくり活動」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
10	「まちづくり活動」の企画をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	まちづくり活動の企画を振り返りましょう。(2 時間)			
11	「中間発表」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
12	「中間発表」におけるコミュニケーションの取り方を学び、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
13	「中間発表」の準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
14	「中間発表」を通じてコミュニケーションを取ります(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	中間発表を振り返りましょう。(2 時間)			
15	「中間発表」を通じてコミュニケーションを取ります(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	半年間のゼミ活動を振り返りましょう。(2 時間)			

16	夏休みを振り返ります。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでの役割を果たしましょう。(2時間)
17	「まち歩き」のために集めた資料を共有します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
18	「まち歩き」の準備をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
19	「まち歩き」を実施します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	まち歩きを振り返りましょう。(2時間)
20	「まち歩き」の結果について発表します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
21	「まちづくり活動」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
22	「まちづくり活動」の企画をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	まちづくり活動の企画を振り返りましょう。(2時間)
23	「研究報告書」の目的・内容・方法について話し合います。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
24	「研究報告書」の準備をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
25	「研究報告書」を提出します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	研究報告書を振り返りましょう。(2時間)
26	「最終発表」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
27	「最終発表」におけるコミュニケーションの取り方を学び、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
28	「最終発表」の準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
29	「最終発表」を通じてコミュニケーションを取ります(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	最終発表を振り返りましょう。(2時間)
30	「最終発表」を通じてコミュニケーションを取ります(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	一年間のゼミ活動を振り返りましょう。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・課題解決型学習・フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

ゼミへの取り組み(100%)

観点	S	A	B	C
社会とのつながりを強化できているか	完全に強化できている	ほぼ完全に強化できている	十分に強化できている	一定程度強化できている
自らの興味・関心に関する知識を身に付けているか	完全に身に付けている	ほぼ完全に身に付けている	十分に身に付けている	一定程度身に付けている
自らの興味・関心を人に伝える能力を備えているか	完全に備えている	ほぼ完全に備えている	十分に備えている	一定程度備えている

教科書

- ・ 特にありません。

参考書等

- ・ ジェームス W.ヤング(1988)、『アイデアのつくり方』、CCC メディアハウス、1,100 円
- ・ 本多勝一(2015)、『新版 日本語の作文技術』、朝日文庫、660 円

履修上の注意・学修支援

- ・ 特にありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	演習	4	田部井信芳
授業概要 共通のテーマを設定し、調査・分析を行い、問題の解決について考える。資料収集やデータの分析、プレゼンテーション等について学び、調査、研究及び研究発表に必要な能力を身につける。						
到達目標(学習の成果) ・研究課題について、資料収集及び分析を行うことができる。(DP2) ・研究成果の発表等により、社会との接点をつくることができる。(DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	テーマについて意見交換を行う。	事前	テーマについて課題の検討を行う。(2時間)			
		事後	課題の解決策について検討を行う。(2時間)			
2	テーマについて意見交換を行う。	事前	テーマについて課題の検討を行う。(2時間)			
		事後	課題の解決策について検討を行う。(2時間)			
3	テーマについて意見交換を行う。	事前	テーマについて課題の検討を行う。(2時間)			
		事後	課題の解決策について検討を行う。(2時間)			
4	テーマについて意見交換を行う。	事前	テーマについて課題の検討を行う。(2時間)			
		事後	課題の解決策について検討を行う。(2時間)			
5	テーマについて意見交換を行う。	事前	テーマについて課題の検討を行う。(2時間)			
		事後	課題の解決策について検討を行う。(2時間)			
6	テーマについて意見交換を行う。	事前	テーマについて課題の検討を行う。(2時間)			
		事後	課題の解決策について検討を行う。(2時間)			
7	テーマについて資料の収集を行う。	事前	テーマに関する資料の確認をする。(2時間)			
		事後	資料を収集し、内容を確認する。(2時間)			
8	テーマについて資料の収集を行う。	事前	テーマに関する資料の確認をする。(2時間)			
		事後	資料を収集し、内容を確認する。(2時間)			
9	テーマについて資料の収集を行う。	事前	テーマに関する資料の確認をする。(2時間)			
		事後	資料を収集し、内容を確認する。(2時間)			
10	テーマについて資料の収集を行う。	事前	テーマに関する資料の確認をする。(2時間)			
		事後	資料を収集し、内容を確認する。(2時間)			
11	テーマについて資料の収集を行う。	事前	テーマに関する資料の確認をする。(2時間)			
		事後	資料を収集し、内容を確認する。(2時間)			
12	テーマについて研究を行う。	事前	テーマについて現状分析を行う。(2時間)			
		事後	ゼミとしての結論をまとめ、提案を行う。(2時間)			
13	テーマについて研究を行う。	事前	テーマについて現状分析を行う。(2時間)			
		事後	ゼミとしての結論をまとめ、提案を行う。(2時間)			
14	テーマについて研究を行う。	事前	テーマについて現状分析を行う。(2時間)			
		事後	ゼミとしての結論をまとめ、提案を行う。(2時間)			
15	テーマについて研究を行う。	事前	テーマについて現状分析を行う。(2時間)			
		事後	ゼミとしての結論をまとめ、提案を行う。(2時間)			
16	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)			
		事後	研究成果を作成する。(2時間)			
17	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)			
		事後	研究成果を作成する。(2時間)			
18	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)			
		事後	研究成果を作成する。(2時間)			

19	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を作成する。(2時間)
20	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を作成する。(2時間)
21	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を作成する。(2時間)
22	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を作成する。(2時間)
23	テーマについて研究成果を作成する。	事前	研究成果作成の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を作成する。(2時間)
24	テーマについて研究成果を発表する。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を発表する。(2時間)
25	テーマについて研究成果を発表する。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を発表する。(2時間)
26	テーマについて研究成果を発表する。	事前	研究成果発表の準備を行う。(2時間)
		事後	研究成果を発表する。(2時間)
27	研究成果の改善に向けて	事前	研究成果発表を振り返る。(2時間)
		事後	研究成果の改善を試みる。(2時間)
28	研究成果の改善に向けて	事前	研究成果発表を振り返る。(2時間)
		事後	研究成果の改善を試みる。(2時間)
29	研究成果の改善に向けて	事前	研究成果発表を振り返る。(2時間)
		事後	研究成果の改善を試みる。(2時間)
30	研究成果の改善に向けて	事前	研究成果発表を振り返る。(2時間)
		事後	研究成果の改善を試みる。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型授業

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(100%)

観点	S	A	B	C
研究内容及びゼミ研究への貢献度	非常に高い水準である	かなり高い水準である	ある程度高い水準である	一定程度の水準である
研究成果の発表	非常に高い水準である	かなり高い水準である	ある程度高い水準である	一定程度の水準である

教科書

特になし

参考書等

『初歩からの計量経済学』第2版 白砂堤津耶 日本評論社 2018年

履修上の注意・学修支援

学生全員が協力して、ゼミ活動を行うこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	演習	4	陣内雄次
授業概要 本ゼミナールは、4年次「卒論研究」と2年次「ゼミナールⅠ」とのブリッジ（橋渡し）の位置づけにあります。そのため、2年次の学び、フィールドワーク、学生まちづくり提案での経験などを活かしつつ、卒業研究のテーマ探求、調査研究手法の選定、関連する文献や先行研究のレビューなどを行います。 また、本ゼミナールはまちづくりや住まいづくりの現場から学びや気づきを得ることに重点を置くことから、キーパーソンへの聞き取り調査、フィールド調査、体験活動などにも取り組みます。 加えて、宇都宮市が主催する「学生によるまちづくり提案」に参加し、該当年度のテーマに沿った調査研究を実施し、12月の発表にのぞみます。（★ただし、参加は必須ではありません。他にチャレンジすべきプロジェクトなどがあれば、そちらに取り組むことも可能です。）						
到達目標(学習の成果) ①まちづくり、住まいに関する知見を深めるとともに、問題意識を持って、まちづくり、住まいについて考えることができるようになることを目指します。(DP4) ②調査・研究計画を企画し、その結果を分析しレポートにとりまとめ、発表できるようになります。(DP1、DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本ゼミナールの内容の説明とメンバーの自己紹介	事前	シラバスを確認する、まちづくりや住まいに関して興味のあることをまとめておく。(1時間)			
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(3時間)			
2	【調査・研究について①】 調査・研究は何のためにあるのか、を考えます。	事前	調査・研究について考える。(1時間)			
		事後	研究論文を読んで、整理する。(3時間)			
3	【調査・研究について②】 調査・研究の手法の基礎について学び、考えます。	事前	調査・研究の手法について考える。(2時間)			
		事後	研究論文で用いられている手法を確認する。(2時間)			
4	【調査・研究について③】 研究論文から調査・研究について考えます。	事前	研究論文で用いられている手法を整理する。(2時間)			
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)			
5	宇都宮市学生まちづくり提案など、成果発表について検討します。	事前	学生まちづくり提案について情報を収集する。(2時間)			
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)			
6	【調査・研究のテーマについて①】 調査・研究のテーマについて検討します。	事前	調査・研究のテーマについて考える。(2時間)			
		事後	調査・研究のテーマを絞り込む。(2時間)			
7	【調査・研究のテーマについて②】 調査・研究のテーマに基づき、企画書を検討します。	事前	研究企画書について考える。(3時間)			
		事後	ゼミ内容を振り返る。(1時間)			
8	【調査・研究のテーマについて③】 調査・研究のスケジュールを検討し、企画書を完成します。	事前	調査・研究のスケジュールについて考える。(2時間)			
		事後	検討した研究企画書を振り返る。(2時間)			
9	【フィールドワーク①】 調査・研究企画書に応じて、フィールドワークを行います。	事前	フィールドワーク対象について情報を集める。(2時間)			
		事後	フィールドワークの結果を振り返る。(2時間)			
10	【フィールドワーク②】 調査・研究企画書に応じて、フィールドワークを行います。	事前	フィールドワーク対象について情報を集める。(2時間)			
		事後	フィールドワークの結果を振り返る。(2時間)			
11	【輪読①】 調査・研究テーマに関連する、文献を読みます。	事前	調査・研究テーマに関連する文献を収集する。(2時間)			
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理します。(2時間)			
12	【輪読②】 調査・研究テーマに関連する、文献を読みます。	事前	文献の内容を分析する。(2時間)			
		事後	中間発表への参考点を整理する。(2時間)			
13	【中間発表の準備①】 レポートのとりまとめと中間発表の準備を行います。	事前	レポートの内容を検討する。(2時間)			
		事後	レポートをブラッシュアップする。(2時間)			
14	【中間発表の準備②】	事前	レポートを完成する。(2時間)			

	レポートのとりまとめと中間発表の準備を行います。	事後	中間発表の準備を進める。(2時間)
15	中間発表を行います。	事前	中間発表の準備を進める。(3時間)
		事後	中間発表を振り返る。(1時間)
16	宇都宮市学生まちづくり提案など、成果発表へ向けて具体的に検討します。	事前	これまでのまちづくり提案の成果に関して情報収集する。(2時間)
		事後	これまでの提案書などをレビューする。(2時間)
17	【輪読③】 成果発表に関連する事例文献のレビューを行います。	事前	関連する全国の事例などをレビューする。(2時間)
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
18	【輪読④】 成果発表に関連した文献のレビューを行います。	事前	関連する文献を収集する。(2時間)
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
19	【統計データなどについて①】 成果発表に関連した統計データの収集と分析を行います。	事前	統計データに関する文献を収集する。(2時間)
		事後	統計データを分析してみる。(2時間)
20	【統計データなどについて②】 成果発表に関連した統計データの収集と分析を行います。	事前	統計データの分析結果を整理する。(2時間)
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
21	【フィールドワーク③】 成果発表に向けてフィールドワークを行います。	事前	フィールドワーク対象に関する情報を収集する。(2時間)
		事後	フィールドワークの結果を整理する。(2時間)
22	【フィールドワーク④】 成果発表に向けてフィールドワークを行います。	事前	フィールドワーク対象に関する情報を収集する。(2時間)
		事後	フィールドワークを振り返る。(2時間)
23	【成果発表の準備①】 調査結果の分析ととりまとめを行います。	事前	調査結果を振り返る。(2時間)
		事後	調査結果の分析を進める。(2時間)
24	【成果発表の準備②】 レポートをとりまとめます。	事前	レポート案を考える。(2時間)
		事後	レポート案を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
25	【成果発表の準備③】 パワーポイントの作成などを行います。	事前	パワーポイント作成の準備をする。(2時間)
		事後	パワーポイントを完成する。(2時間)
26	【成果発表の準備④】 発表のリハーサルを行います。	事前	発表リハーサルの準備をする。(2時間)
		事後	発表の準備をする。(2時間)
27	今後に向けて、成果発表を振り返ります。	事前	成果発表の結果について省察する。(2時間)
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
28	【調査・研究成果のとりまとめと発表①】 今年度を振り返り、レポートにとりまとめ発表します。	事前	今年度のゼミ活動を振り返る。(2時間)
		事後	レポートを完成する。(2時間)
29	【調査・研究成果のとりまとめと発表②】 今年度を振り返り、レポートにとりまとめ発表します。	事前	発表の準備をする。(2時間)
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
30	3年次のゼミ活動へ向けて検討します。	事前	一年間のゼミ活動を省察する。(2時間)
		事後	3年次のゼミ活動に向けて目標を立てる。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

・ゼミ活動への積極的な参加(50%) ・調査・研究への取組と発表(50%)

観点	S	A	B	C
まちづくり、住まいに関する理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
設定した調査・研究テーマに関する理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
分析結果の考察、とりまとめ、発表	十分にできる。	おおむね十分にできる。	おおむねできる。	ある程度できる。

教科書

必要に応じて指示します。

参考書等

鷲田小彌太『入門 論文の書き方』(1999年5月、PHP研究所、660円+税)

履修上の注意・学修支援

- ・欠席しないよう、各自、体調管理、スケジュール管理に留意してください。毎回の出席が基本です。
- ・遅刻厳禁です。
- ・お互いに尊重し、ゼミメンバーで助け合って、調査・研究活動に積極的に取り組んでください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	講義	4	和田佐英子
授業概要 本ゼミナールでは、「公」を担うということをテーマに、研究を進めている。ゼミⅡでは、ゼミⅠに引き続き、共通テーマで研究する予定である。ゼミ活動の過程で、研究の作法を学ぶとともに、実践的な活動を実施していく。今年度のテーマは、「地域の課題を解決する財源確保」である。本年度は、まず、最初に、「地方財政」に関する文献を輪読した上で、ゼミ活動を行う。地方税、特に、法定外税、ふるさと納税等に注目して研究する。(ただし、ゼミの共通テーマの設定の有無、内容等については、ゼミ生の意向を確認する。ゼミ生の意向によっては、研究テーマの変更や、各自の個別テーマ設定に変更することもある。)						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・研究の作法を学び、論文やレポート作成できるようになる。 ・地域の人や行政の人に、インタビュー調査ができるようになる。 ・自分たちの意見を公式の場で、きちんと発表できるようになる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「日本の地方財政」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p11～p28)を読んでくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
2	「政府間財政関係」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p29～p35)を読んでくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
3	「地方財政計画」	事前	事前に本該当箇所を(参考文献(1)p36～p46)読んで自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
4	「経費論その1 国と地方の役割分担」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p47～p52)を読んで、自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
5	「経費論その2 経費と財源の結びつき」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p53～p62)を読んで自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
6	「予算論 その1 財政民主主義と予算」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p65～p72)を読んで自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
7	「予算論 その2 地方自治体の予算制度」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p73～p84)を読んで自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
8	「地方自治体の収入構造」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p85～p92)を読んで自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
9	「地方税 その1 国税と地方税 租税原則 国税と地方税の税源配分」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p93～p101)を読んで自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
10	「地方税 その2 住民税・事業税・地方消費税・固定資産税」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p102～p114)を読んで自分の意見をまとめてくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
11	「課税自主権の行使」	事前	事前に該当箇所(参考文献(1)p115～p121)を読んでくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			
12	テーマ設定 グループワーク「地域の課題を解決するための法定外税」について考える。	事前	事前に classroom で指示した資料を読んでくること。(2時間)			
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)			

13	テーマ設定 グループワーク「地域の課題を解決するための法定外税」について考える。	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
14	テーマ設定 グループワーク「地域の課題を解決するための法定外税」について考える。	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
15	「法定外税に関する文献調査」その1	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
16	「法定外税に関する文献調査」その2	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
17	視察準備 インタビュー調査の内容の整理	事前	質問票を作ってくること。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
18	視察準備 インタビュー調査の内容の整理	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
19	法定外税導入自治体に視察	事前	当該自治体の事前調査を行っておくこと。質問内容を確認しておくこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見等を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
20	法定外税導入自治体にインタビュー調査	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。質問内容を確認しておくこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
21	視察内容の整理、インタビュー調査結果の整理	事前	事前に classroom で指示した資料をまとめること。(2時間)
		事後	調査結果を整理しておくこと。(2時間)
22	視察内容の整理、インタビュー調査結果の整理	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	調査結果を整理しておくこと。(2時間)
23	研究発表原稿の作成	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直し、原稿を作成すること。(2時間)
24	研究発表原稿の作成	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直し、原稿を作成すること。(2時間)
25	研究発表原稿の作成	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
26	研究発表事前練習	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直し、原稿を作成すること。(2時間)
27	研究発表	事前	発表練習を各自行うこと。(2時間)
		事後	各自で振り返りをする。(2時間)
28	研究の振り返り	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
29	卒業論文のテーマ設定	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	ゼミの仲間の意見を参考にしつつ、自分の意見をまとめ直すこと。(2時間)
30	卒業論文のテーマ設定	事前	事前に classroom で指示した資料を読むこと。(2時間)
		事後	自分の卒業論文のテーマを決めること。(2時間)
<p>授業形式(アクティブラーニングの内容)</p> <p>輪読する文献や資料等を、事前に各自十分理解した上で、ゼミに参加し、必ず発言をすること。</p>			

成績評価の方法・基準(%表記)

平常点(レポート等)100%(DP3 DP4)

観点	S	A	B	C
調査や研究の仕方を学ぶ (DP1)	しっかり理解した。	理解した。	かなり理解した。	ある程度理解した。
「公」を担うというこ を 理解する。(DP3)	しっかり理解した。	理解した。	かなり理解した。	ある程度理解した。
地方税について学び、地 域 の課題を解決する法定外 税 を提案する。(DP3)	しっかり理解し、実 践した。	理解し、実践した。	かなり理解し、実践 した。	ある程度理解し、実 践した。

教科書

毎回、Classroom で指示する。

参考書等

沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸著『地方財政を学ぶ』有斐閣 2017年5月

履修上の注意・学修支援

- ・事前に指定された参考文献を読み、積極的に議論に参加すること。事前の準備が特に重要。
- ・地方財政論 I II の講義は必ず受講すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	演習	3	大石和博
授業概要 ゼミナールⅡでは、経済学の学習を通じて、日本経済や地域経済の問題点と再生策等について検討し、各自の社会貢献、地域貢献について考えることを目的としている。テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられている経済問題を題材に討論を行うとともに、基礎的な文献から段階的に専門的な文献まで読み込んでいく。また、各自の問題意識に基づいて4年次の卒業研究に向けて研究テーマを設定するとともに、先行研究の収集等を行う。						
到達目標(学習の成果) ①経済学の考え方や経済用語、経済統計を理解し、経済の課題を見いだすことができる。(DP3) ②経済学の考え方をを用いて経済現象を分析することができる。(DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	春休みの課題(研究テーマ)を提出し、各自で年間計画を立てる	事前	春休みの課題(研究テーマ)に取り組むこと(3時間)			
		事後	年間計画を整理すること(1時間)			
2	前期報告(1):春休みの課題(先行研究の要約)を報告する	事前	報告の準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
3	前期報告(2)	事前	報告の準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
4	基本文献の輪読(1):担当者が事前にレジュメを用意し輪読を行う	事前	担当箇所の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
5	基本文献の輪読(2)	事前	担当箇所の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
6	基本文献の輪読(3)	事前	担当箇所の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
7	基本文献の輪読(4)	事前	担当箇所の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
8	基本文献の輪読(5)	事前	担当箇所の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
9	基本文献の輪読(6)	事前	担当箇所の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
10	基本文献の輪読(7)	事前	担当箇所の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
11	レポート作成準備(1):データの収集と分析を行う	事前	研究テーマについて文献を調べること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
12	レポート作成準備(2)	事前	研究テーマについて文献を調べること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
13	レポート作成準備(3)	事前	研究テーマについて文献を調べること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
14	前期報告会(1):各自のテーマで発表する	事前	各自の発表準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
15	前期報告会(2):前回の討論を踏まえ、修正の上、報告資料を提出する	事前	前回の報告資料を修正すること(3時間)			
		事後	報告資料を提出すること(1時間)			
16	後期報告会(1):夏休みの課題を報告する	事前	報告の準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
17	後期報告会(2)	事前	報告の準備をすること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			
18	すみれ祭準備(1):共通テーマ、個別テーマを設定する	事前	共通テーマ、個別テーマを考えること(3時間)			
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)			

19	すみれ祭準備(2)	事前	各自でデータを収集すること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
20	すみれ祭準備(3)	事前	各自でデータを収集すること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
21	すみれ祭準備(4)	事前	発表用原稿を作成すること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
22	すみれ祭準備(5):展示用ポスターの印刷等を行う	事前	展示用ポスターを準備すること(3時間)
		事後	各自で展示すること(1時間)
23	文献報告(1):卒業研究に向けた文献報告と討論	事前	先行研究を調べること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
24	文献報告(2)	事前	先行研究を調べること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
25	文献報告(3)	事前	先行研究を調べること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
26	文献報告(4)	事前	先行研究を調べること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
27	研究発表(1): 研究報告と討論	事前	発表の準備をすること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
28	研究発表(2)	事前	発表の準備をすること(3時間)
		事後	配布資料を読み整理すること(1時間)
29	研究発表(3): 前回までの討論を踏まえ、修正の上、レポートを提出する	事前	前回の報告資料を修正すること(3時間)
		事後	報告資料を提出すること(1時間)
30	研究発表(4): 卒業研究に向けた研究計画書案の作成・提出	事前	研究計画書の作成方法を調べること(3時間)
		事後	研究計画書を提出すること(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、課題の完成度(50%程度)、ディスカッション等ゼミ活動への寄与(50%程度)により総合的に判断する。

観点	S	A	B	C
経済学の考え方や経済用語、経済統計を理解し、経済の課題を見いだすことができる。	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
経済学の考え方をを用いて現実の経済現象を分析することができる	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

授業中にレポート課題等の解説・講評を行う。

教科書

なし。

参考書等

①小浜裕久・木村福成『経済論文の作法 第3版 勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社、2011年、税込1,980円。

②小熊 英二『基礎からわかる 論文の書き方 (講談社現代新書)』講談社、2022年、税込1,320円。

履修上の注意・学修支援

- ・ 毎回出席すること
- ・ 互いに協力し、積極的に参加すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	演習	4	高丸圭一

授業概要

2年次のゼミナールⅠにおける成果およびこれまでの経験や今後の目標（希望する就職先など）を踏まえ、都市生活に関連した様々な事項の中からゼミ生ひとりひとりが自分の関心に応じたテーマを選び、調査、分析、検討を進める。3年次のゼミでは、自分にできることを客観的に見つめなおし、これを強みとして、自分が属するさまざまな組織単位に対して貢献できるようになることを目的とする。さらに、4年次での卒業論文執筆に向けて、自分が興味・関心を持った事項（研究テーマ）について、学術的な観点から論理的に検討を行い、多角的に考察できるようになることを目指す。

到達目標(学習の成果)

- ①「自分」について客観的視点を持つことができるようになる。(DP4)
- ②興味・関心を持った事項についてより詳細に情報を収集し、さらに深い視点で分析的思考で読み解くことができるようになる。(DP2, DP3)
- ③分析の過程で、関係各所に問い合わせをしたり、インタビューをより行うことができるようになる。(DP4)
- ④読み解いた結果を分かりやすく説明できるようになる。(DP3, DP4)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	自分と他者の関係を考える(1):自己と他者の関係分析	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
2	自分と他者の関係を考える(2):自己と他者の関係にかんするディスカッション	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
3	自分と他者の関係を考える(3):社会の視点からの自己の位置づけ	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
4	自分と他者の関係を考える(4):社会の視点からの自己の位置づけにかんするディスカッション	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
5	自分と他者の関係を考える(5):自己分析と他者からの視点を踏まえた自分の強みについて考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
6	まちづくり提案を知る(1):過去のまちづくり提案の原稿を分担して読み、要点をまとめる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
7	まちづくり提案を知る(2):過去のまちづくり提案の要点を発表し、情報を共有する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
8	まちづくり提案を知る(3):過去のまちづくり提案についてのディスカッション	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

9	自分なりの意見を加える(1):過去のまちづくり提案に対して、自分の考え(新しいアイデア)を付け加える。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
10	自分なりの意見を加える(2):過去のまちづくり提案に対するアイデアについてディスカッションする	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
11	自分なりの意見を加える(3):ディスカッションの結果をまとめる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
12	新しい提案を考える(1):現状分析	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
13	新しい提案を考える(2):ブレインストーミング	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
14	新しい提案を考える(3):KJ法	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
15	新しい提案を考える(4):骨子を決め、夏休み中の調査計画を立てる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
16	調査結果の分析(1):生データの取り扱い	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
17	調査結果の分析(2):単純集計を観察する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
18	調査結果の分析(3):統計的手法を学ぶ	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
19	考察(1):自分なりの視点で観察する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
20	考察(2):それぞれの観察結果をディスカッションする	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
21	考察(3):外的要因との関連を考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

22	結論(1):考察から結論づけられることについてディスカッションする	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
23	結論(2):本ゼミからの提案をまとめる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
24	執筆(1):文章を書いてみる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
25	執筆(2):構成について考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
26	執筆(3):主張を効果的に表現する方法を考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
27	プレゼンテーション(1):スライドを作ってみる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
28	プレゼンテーション(2):主張を適切に伝えるスライドについて考える	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
29	プレゼンテーション(3):スライドと発表原稿を完成させる	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
30	プレゼンテーション(4):作り上げた内容を発表し、客観的に評価する	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、来年のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ・毎回ディスカッションを行う
- ・まちづくりに関する課題解決学習を行う
- ・必要に応じてフィールドワークを行う場合もある

成績評価の方法・基準(%表記)

課題の完成度(50%), ディスカッション等ゼミ活動への寄与(50%)

観点	S	A	B	C
① 「自分」についてより客観的視点を持つことができるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
② 興味・関心を持った事項についてより詳細に情報を収集し、さらに深い視点で分析的思考で読み解くことができるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
③ 分析の過程で、関係各所に問い合わせをしたり、インタビューをより行うことができるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
④ 読み解いた結果を分かりやすく説明できるか。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

教科書

なし

参考書等

- 日本経済新聞出版 『まるわかり! 行政のデジタル化』 日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532183233)
- 吉田泰己 『行政をハックしよう』 ぎょうせい (ISBN:978-4324110263)
- 林宜嗣他 『地域データ分析入門』 日本評論社 (ISBN:978-4535559479)
- 宇都宮浄人他 『まちづくりの統計学』 学芸出版社 (ISBN:978-4761528065)
- 中野邦彦他 『地域研究ハンドブック』 勁草書房 (ISBN-13:978-4326603374)

履修上の注意・学修支援

時間外のゼミ活動を積極的に行ってもらいます。自分なりに考えた上で、分からないことや困ったことがあれば、遠慮なく質問に来てください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	演習	4	北浦さおり
授業概要 4年次の卒業研究に向け、各自が関心のある研究テーマに絞り込んで、研究課題の導出、研究方法の選出、予備調査の実施、結果の報告と発表を1年間で学ぶ。特に、関連する先行研究のレビューについて学び、実践する。具体的には、①文献レビューと課題設定、②調査の実践、③データの分析、④研究論文の作成ができるようになる。						
到達目標(学習の成果) ・グループワークやグループディスカッションを通じてコミュニケーションスキルが獲得できる(DP1) ・これまでの研究成果と現状をふまえて、消費者行動分野における課題を自ら設定することができる(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	1年間のゼミ活動計画と研究グループ編成、役割の決定	事前	春休みの活動内容の報告準備をしておく(2時間)			
		事後	グループで活動内容を打ち合わせる(2時間)			
2	チームビルディング活動	事前	活動の準備をしておく(2時間)			
		事後	結果を受けて改良点を考える(2時間)			
3	1年間の個人の活動計画	事前	個人の活動計画を考えておく(2時間)			
		事後	計画シートを完成させる(2時間)			
4	活動計画の発表	事前	発表の準備をしておく(2時間)			
		事後	コメントを受けて計画を修正する(2時間)			
5	文献調査の基礎	事前	文献調査の方法を調べておく(2時間)			
		事後	文献調査の方法を復習しておく(2時間)			
6	文献リストの作成	事前	リストを作成してみる(2時間)			
		事後	ゼミ論のテーマの文献リストを完成させる(2時間)			
7	文献の収集	事前	文献リストの入手方法を考えておく(2時間)			
		事後	入手した文献を読んでみる(2時間)			
8	文献のレビュー①	事前	文献のレビューの仕方を復習しておく(2時間)			
		事後	文献を1つレビューしてみる(2時間)			
9	文献のレビュー②	事前	文献レビューを進めておく(2時間)			
		事後	文献レビューを終える(2時間)			
10	文献レビューの紹介①	事前	報告の準備をしておく(2時間)			
		事後	アドバイスをを受けて修正する(2時間)			
11	文献レビューの紹介②	事前	報告の準備をしておく(2時間)			
		事後	アドバイスをを受けて修正する(2時間)			
12	ゼミ論文の推敲①	事前	昨年度作成したゼミ論文を読み直しておく(2時間)			
		事後	文献レビューを進める(2時間)			
13	ゼミ論文の推敲②	事前	文献レビューをまとめてみる(2時間)			
		事後	ゼミ論文を修正する(2時間)			
14	修正したゼミ論文の発表①	事前	発表の準備をしておく(2時間)			
		事後	アドバイスをを受けて修正する(2時間)			
15	修正したゼミ論文の発表②	事前	発表の準備をしておく(2時間)			
		事後	アドバイスをを受けて修正する(2時間)			
16	消費者行動分野のテーマ紹介	事前	消費者行動分野の研究例を調べておく(2時間)			
		事後	研究テーマを考えてみる(2時間)			
17	テーマの選定	事前	研究テーマをいくつか考えておく(2時間)			
		事後	テーマを決定する(2時間)			
18	文献調査①	事前	自分のテーマの文献リストを作成しておく(2時間)			
		事後	文献を探す(2時間)			

19	文献調査②	事前	文献を入手しておく(2時間)
		事後	レビューを進める(2時間)
20	文献レビューの報告①	事前	報告の準備をしておく(2時間)
		事後	アドバイスを受けて修正する(2時間)
21	文献レビューの報告②	事前	報告の準備をしておく(2時間)
		事後	アドバイスを受けて修正する(2時間)
22	課題の設定	事前	研究課題を考えておく(2時間)
		事後	研究課題を決定する(2時間)
23	調査計画	事前	調査計画を立ててみる(2時間)
		事後	アドバイスを受けて修正する(2時間)
24	仮説の立案	事前	仮説を立ててみる(2時間)
		事後	アドバイスを受けて修正する(2時間)
25	予備調査の準備	事前	各自の調査に必要な準備を確認しておく(2時間)
		事後	調査準備を終了する(2時間)
26	予備調査の実施	事前	予備調査の準備をする(2時間)
		事後	調査結果の確認と追加調査の検討をする(2時間)
27	予備調査結果の分析と考察①	事前	データを準備しておく(2時間)
		事後	分析を進める(2時間)
28	予備調査結果の分析と考察②	事前	分析と考察を進める(2時間)
		事後	分析と考察をまとめる(2時間)
29	予備調査結果の発表①	事前	発表の準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受けて、計画を修正する(2時間)
30	予備調査結果の発表②	事前	発表の準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受けて、計画を修正する(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

活動への貢献度50%、ゼミ論文50%

観点	S	A	B	C
消費者行動研究の理解	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
消費者行動研究課題の発見	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
消費者行動研究課題の探求	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

教科書

特になし

参考書等

『文献調査法』毛利和弘 DB ジャパン 2021年

履修上の注意・学修支援

- ・「統計学入門」を履修していることが望ましい。
- ・グループワークのため、遅刻・欠席がないようにすること。
- ・発言、質問などの積極的な行動を歓迎します。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	演習	4	小浜駿
授業概要 前年度の内容をふまえて研究テーマを設定し、卒業論文の準備を行う。2年次ゼミとの主な違いは、文献を読むことである。他者の意見を取り入れつつ自分の主張を行う訓練をすることで、主観と客観について高度に分離することが可能となる。主観と客観の分離は、独自性と協調性の双方を支える素養となるので、意識して取り組んでほしい。						
到達目標(学習の成果) 数字の順に簡易な目標となる。 1)文献を読むことに対する抵抗感をなくす(DP2) 2)専門的な文献を読み、内容をおおよそ理解できるようになる(DP2) 3)文献を引用しながら文章を書けるようになる(DP1) 4)自分の意見と他人の意見を分離できるようになる(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	昨年度の振り返り	事前	ゼミナールⅠのデータと資料を見返し、研究内容を整理しておく(1時間)			
		事後	卒論の最終的な着地点について想像し、1年間の作業概要についてイメージする(3時間)			
2	文献を読む	事前	文献を読み、レジユメを作成する(1時間)			
		事後	読んだ文献が自分の研究テーマに与える影響と位置づけについて考察する(3時間)			
3	文献を読む	事前	文献を読み、レジユメを作成する(1時間)			
		事後	読んだ文献が自分の研究テーマに与える影響と位置づけについて考察する(3時間)			
4	文献を読む	事前	文献を読み、レジユメを作成する(1時間)			
		事後	読んだ文献が自分の研究テーマに与える影響と位置づけについて考察する(3時間)			
5	これまで読んだ文献と自分のテーマとの対応を意識しながら、暫定的な卒論テーマについてプレゼンテーションを行う	事前	プレゼンテーションを準備する(1時間)			
		事後	先行研究との整合性について考慮しながらテーマを決定する(3時間)			
6	Microsoft Excelを用いながら、調査項目を中心として調査票を設計する	事前	項目の素案を作成する(1時間)			
		事後	授業内容を基に項目の修正を行う(3時間)			
7	先行研究との整合性に留意しながら、調査票を設計する	事前	授業内容を基に項目の修正を行う(1時間)			
		事後	内容上、項目を完成させる(3時間)			
8	実際に回答してみながら、調査票作成におけるデザインの重要性について理解する	事前	内容上、項目を完成させる(1時間)			
		事後	見た目も含めて、調査票を完成させる(3時間)			
9	完成された調査票をもとに、調査依頼とデータの回収を行う	事前	友人などに調査依頼を行う(1時間)			
		事後	50票を目標にデータを回収する(3時間)			
10	無効票の判定基準について説明を受けた後、データ入力を行う	事前	これまでに配布した資料を読み返しておく(1時間)			
		事後	終わらなかった入力を終える(3時間)			
11	データの読みあわせを中心としたデータクリーニングを行う	事前	これまでに配布した資料を読み返しておく(1時間)			
		事後	クリーニング後のデータの送付。分析プログラムをダウンロードして眺めておく(3時間)			
12	単純集計表の作成	事前	興味があれば、事前にデータ処理を始めて構わない(1時間)			
		事後	出力結果の読み取りを行う(3時間)			
13	単純集計表の内容の解釈	事前	出力結果を加工し、図表の体裁にしておく(1時間)			
		事後	これまでの研究活動を振り返る(3時間)			

14	まちを歩き、自分の研究と日常生活との接点を探る	事前	必要なし。余計な予備知識はないほうが望ましい(1時間)
		事後	自分が何を感じたのか、内省する(3時間)
15	前期のまとめとして、プレゼンテーションを行う	事前	プレゼン資料を作成する(1時間)
		事後	実施したプレゼンへのコメントについて反省する(3時間)
16	クロス集計表の分析と解釈	事前	分析対象となる変数について見当をつけておく(1時間)
		事後	分析後に解釈を行い、結果の吟味を行う(3時間)
17	相関分析と解釈	事前	分析対象となる変数について見当をつけておく(1時間)
		事後	分析後に解釈を行い、結果の吟味を行う(3時間)
18	多変量解析の説明	事前	クロス表や相関分析では明らかになっていない現象について考察しておく(1時間)
		事後	配布した授業資料を読み返しておく(3時間)
19	多変量解析の実施	事前	分析対象となる変数について見当をつけておく(1時間)
		事後	分析後に解釈を行い、結果の吟味を行う(3時間)
20	自分の研究に関するこれまでの活動をまとめる	事前	これまでの分析結果を加工し、図表の体裁にしておく(1時間)
		事後	自分の検討したい現象がデータに示されたか、概念的に検討しておく(3時間)
21	すみれ祭の展示に向けて、ポスター作成に着手する	事前	これまでの検討内容のうち、特に重要な部分について整理しておく(1時間)
		事後	ポスターを作成する(3時間)
22	フォントや配色にも気を配りながら、ポスターを完成させる	事前	ポスターを作成する(1時間)
		事後	ポスターを完成させる(3時間)
23	論文執筆	事前	実証的検討の内容を総括し、執筆をはじめる(1時間)
		事後	随時新しい分析を行う(3時間)
24	論文執筆	事前	ゼミ配属当初のことを振り返り、やりたかったことについて思い出す(1時間)
		事後	「はじめに」などを中心に、書きやすい箇所から書き始める(3時間)
25	論文執筆	事前	これまで読んだ文献を整理する(1時間)
		事後	執筆に十分な文献がなければ、追加で文献を読む(3時間)
26	論文執筆	事前	方法や結果などを、科学論文の体裁に基づいて記述する(1時間)
		事後	図表を作り、それに対応した記述を行う(3時間)
27	研究2の準備	事前	研究1の内容を総括し、研究2で必要なことについて整理する(1時間)
		事後	研究1の内容を総括し、研究2で必要なことについて整理する(3時間)
28	研究2の準備	事前	研究1の内容を総括し、研究2で必要なことについて整理する(1時間)
		事後	研究1の内容を総括し、研究2で必要なことについて整理する(3時間)
29	これまでに行ってきたことをまとめ、発表する。その後、発表内容についてディスカッションを行う	事前	プレゼン資料を作成する(1時間)
		事後	授業中のコメントを基に、研究内容について修正を行う(3時間)
30	まちを歩き、自分の研究と日常生活との接点を探る	事前	必要なし。余計な予備知識はないほうが望ましい(1時間)
		事後	自分が何を感じたのか、内省する(3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ゼミは研究の場であり、常にアクティブラーニングである。各自で目的意識を持ち、主体的に取り組むことを求める。また、授業外の学習が非常に多くなる。授業という枠組みや教員からの指示がない状態で何かを考えるということ自体が、もうひとつ高度なアクティブラーニングの実践となる。

成績評価の方法・基準(%表記)

授業中の活動 70%, 最後のプレゼンテーションの評価を 30%の配分で総合的に評価する

観点	S	A	B	C
授業中の活動	努力と工夫が十分に発揮され、調査内容に反映されている	調査のために必要な努力と工夫が十分にみとれる	調査のために必要な努力と工夫がある程度みとれる	なんらかの努力が伺える
論文執筆	1つの実証的検討に関して執筆が完了し、研究2の準備が始まっている。	1つの実証的検討が完了し、執筆が進んでいる。	卒論を視野に入れた実証的検討に対してある程度進捗が得られている	卒論を視野に入れた実証的検討に取り組んでいる

教科書

教員作成資料を都度配布する。同内容のものを google classroom にアップロード予定である。

参考書等

本多勝一(2015)『日本語の作文技術』朝日文庫 660 円

履修上の注意・学修支援

頻繁に課題を出し、次回までに行ってくることを求める。2年次に行った作業に加え、文献のまとめをやってきてもらう。授業中の活動が自己学修のための準備となり、自己学修が次回のゼミ活動の準備となるため、欠席後は必ず連絡すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D301 19D301	ゼミナールⅡ	3年	通年	演習	4	三浦魁斗
授業概要 本ゼミナールでは、都市空間・都市活動に対する学生の〈自発性〉をもとに、学術としての卒業研究と実践としてのまちづくり活動への取組を通じて、「どうすればまちの課題を解決できるか」「どうすればまちの魅力を創造できるか」といった視点からアイデアを具体化・展開させることをテーマとしています。 3 学年を対象としたゼミナールⅡでは、自らの興味・関心に基づいた都市空間・都市活動の実態把握を通じて課題を見出すとともに、習得してきた社会とのつながりやコミュニケーション能力を発揮することを目指します。						
到達目標(学習の成果) ☆ ゼミでの研究・活動を通じて、社会とのつながりを強化する方法を習得できる(DP4)。 ☆ 自らの興味・関心に関連する現状を理解し課題を見出す力を養うことができる(DP2)。 ☆ 学内・学外などの場での発表を通じて、コミュニケーションの実践的方法を習得できるようになる(DP1)。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	本シラバスをもとにゼミのスケジュールを確認し、ゼミでの係を決めます。	事前	シラバスを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	ゼミで任された役割を理解しましょう。(2 時間)			
2	「自己紹介」の内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
3	「自己紹介」を通じて相互理解を深めます(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	自己紹介を振り返りましょう。(2 時間)			
4	「自己紹介」を通じて相互理解を深めます(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	自己紹介を振り返りましょう。(2 時間)			
5	「まち歩き」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
6	「まち歩き」のために集めた資料を共有します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2 時間)			
7	「まち歩き」の準備をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2 時間)			
8	「まち歩き」を実施します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	まち歩きを振り返りましょう。(2 時間)			
9	「まちづくり活動」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
10	「まちづくり活動」の企画をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	まちづくり活動の企画を振り返りましょう。(2 時間)			
11	「中間発表」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
12	「中間発表」におけるコミュニケーションの取り方を学び、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
13	「中間発表」の準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2 時間)			
		事後	課題に取り組みましょう。(2 時間)			
14	「中間発表」を通じてコミュニケーションを取ります(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	中間発表を振り返りましょう。(2 時間)			
15	「中間発表」を通じてコミュニケーションを取ります(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2 時間)			
		事後	半年間のゼミ活動を振り返りましょう。(2 時間)			

16	夏休みを振り返ります。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでの役割を果たしましょう。(2時間)
17	「まち歩き」のために集めた資料を共有します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
18	「まち歩き」の準備をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
19	「まち歩き」を実施します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	まち歩きを振り返りましょう。(2時間)
20	「まち歩き」の結果について発表します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
21	「まちづくり活動」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
22	「まちづくり活動」の企画をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	まちづくり活動の企画を振り返りましょう。(2時間)
23	「研究報告書」の目的・内容・方法について話し合います。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
24	「研究報告書」の準備をします。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	ゼミでのコメントを振り返りましょう。(2時間)
25	「研究報告書」を提出します。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	研究報告書を振り返りましょう。(2時間)
26	「最終発表」の目的・内容・方法について話し合い、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
27	「最終発表」におけるコミュニケーションの取り方を学び、準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
28	「最終発表」の準備をします。	事前	レジュメを確認しましょう。(2時間)
		事後	課題に取り組みましょう。(2時間)
29	「最終発表」を通じてコミュニケーションを取ります(前半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	最終発表を振り返りましょう。(2時間)
30	「最終発表」を通じてコミュニケーションを取ります(後半)。	事前	事前課題に取り組みましょう。(2時間)
		事後	一年間のゼミ活動を振り返りましょう。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーション・課題解決型学習・フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

ゼミへの取り組み(100%)

観点	S	A	B	C
社会とのつながりを強化できているか	完全に強化できている	ほぼ完全に強化できている	十分に強化できている	一定程度強化できている
自らの興味・関心に関する現状から課題を見出せるか	完全に見出すことができる	ほぼ完全に見出すことができる	十分に見出すことができる	一定程度見出すことができる
自らの興味・関心を人に伝える能力を備えているか	完全に備えている	ほぼ完全に備えている	十分に備えている	一定程度備えている

教科書

- ・ 特にありません。

参考書等

- ・ ジェームス W.ヤング(1988)、『アイデアのつくり方』、CCC メディアハウス、1,100 円
- ・ 本多勝一(2015)、『新版 日本語の作文技術』、朝日文庫、660 円

履修上の注意・学修支援

- ・ 特にありません。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	田部井信芳
授業概要 卒業論文および研究レポートの作成に向けて準備を行う。テーマの設定、調査・分析、論文・研究レポート作成、成果の発表を行う。作成過程において、各自ゼミで発表を行い、ゼミにおいて検討を行う。						
到達目標(学習の成果) ・学修成果として、卒業論文および研究レポートを作成することができる。(DP4) ・成果物を研究成果として発表することができる。(DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	論文・レポートの作成について説明する。	事前	レポートの書き方について復習しておく。(2時間)			
		事後	論文の書き方について確認する。(2時間)			
2	論文の書き方	事前	レポートの書き方について復習しておく。(2時間)			
		事後	論文の書き方について確認する。(2時間)			
3	論文の書き方	事前	レポートの書き方について復習しておく。(2時間)			
		事後	論文の書き方について確認する。(2時間)			
4	テーマ設定	事前	自分の興味あるテーマについて考える。(2時間)			
		事後	テーマについて論文として作成できるか検討する。(2時間)			
5	テーマ設定	事前	自分の興味あるテーマについて考える。(2時間)			
		事後	テーマについて論文として作成できるか検討する。(2時間)			
6	テーマ設定	事前	自分の興味あるテーマについて考える。(2時間)			
		事後	テーマについて論文として作成できるか検討する。(2時間)			
7	テーマ設定	事前	自分の興味あるテーマについて考える。(2時間)			
		事後	テーマについて論文として作成できるか検討する。(2時間)			
8	研究方針	事前	テーマについて論文の作成方法を考える。(2時間)			
		事後	研究方針に従って、研究を行う。(2時間)			
9	研究方針	事前	テーマについて論文の作成方法を考える。(2時間)			
		事後	研究方針に従って、研究を行う。(2時間)			
10	研究方針	事前	テーマについて論文の作成方法を考える。(2時間)			
		事後	研究方針に従って、研究を行う。(2時間)			
11	研究方針	事前	テーマについて論文の作成方法を考える。(2時間)			
		事後	研究方針に従って、研究を行う。(2時間)			
12	討論会	事前	論文の内容を整理する。(2時間)			
		事後	意見交換の内容を確認する。(2時間)			
13	討論会	事前	論文の内容を整理する。(2時間)			
		事後	意見交換の内容を確認する。(2時間)			
14	討論会	事前	論文の内容を整理する。(2時間)			
		事後	意見交換の内容を確認する。(2時間)			
15	討論会	事前	論文の内容を整理する。(2時間)			
		事後	意見交換の内容を確認する。(2時間)			
16	論文・レポートの作成について説明する。	事前	論文の書き方について確認しておく。(2時間)			
		事後	実際の論文で確認する。(2時間)			
17	研究中間報告	事前	研究報告の準備をする。(2時間)			
		事後	研究報告を行い、研究内容を検討する。(2時間)			
18	研究中間報告	事前	研究報告の準備をする。(2時間)			
		事後	研究報告を行い、研究内容を検討する。(2時間)			

19	研究中間報告	事前	研究報告の準備をする。(2時間)
		事後	研究報告を行い、研究内容を検討する。(2時間)
20	研究中間報告	事前	研究報告の準備をする。(2時間)
		事後	研究報告を行い、研究内容を検討する。(2時間)
21	討論会	事前	論文の内容を確認する。(2時間)
		事後	論文を完成させる。(2時間)
22	討論会	事前	論文の内容を確認する。(2時間)
		事後	論文を完成させる。(2時間)
23	討論会	事前	論文の内容を確認する。(2時間)
		事後	論文を完成させる。(2時間)
24	討論会	事前	論文の内容を確認する。(2時間)
		事後	論文を完成させる。(2時間)
25	研究成果発表	事前	研究発表の準備を行う。(2時間)
		事後	プレゼンテーションの確認を行う。(2時間)
26	研究成果発表	事前	研究発表の準備を行う。(2時間)
		事後	プレゼンテーションの確認を行う。(2時間)
27	研究成果発表	事前	研究発表の準備を行う。(2時間)
		事後	プレゼンテーションの確認を行う。(2時間)
28	研究成果発表	事前	研究発表の準備を行う。(2時間)
		事後	プレゼンテーションの確認を行う。(2時間)
29	卒業研究発表会準備	事前	パワーポイントの準備を行う。(2時間)
		事後	パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2時間)
30	卒業研究発表会準備	事前	パワーポイントの準備を行う。(2時間)
		事後	パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型授業

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み(50%)

卒業研究成果物(50%)

観点	S	A	B	C
研究内容及び研究成果	非常に高い水準である	かなり高い水準である	ある程度高い水準である	一定程度の水準である
研究成果の発表	非常に高い水準である	かなり高い水準である	ある程度高い水準である	一定程度の水準である

教科書

特になし

参考書等

『経済財政白書』内閣府

履修上の注意・学修支援

特になし

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	陣内雄次
授業概要 本ゼミナールでは、大学での学びの集大成としての卒業研究に各自で取り組みます。毎回のゼミで進捗状況を確認するとともに、教員とゼミ生が相談・確認しながら研究を深めるとともに、2026年1月の卒業研究発表会及び卒業研究論文の提出へ向けて計画的に取り組みます。						
到達目標(学習の成果) ・実地調査などを通じて、社会とのつながりをつくとともに、多面的に都市の実相についての知見を深めます。(DP3、P4) ・問題意識を持って、まちづくり、住まいについて考えることができるようになることを目指します。(DP3) ・調査・研究計画を企画し、その結果を分析しレポートにとりまとめ、発表できるようになります。(DP1、DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ガイダンス:今年度のスケジュール等について確認します。	事前	シラバスを確認するとともに、大学で取り組んだレポート課題について振り返る。(2時間)			
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する(2時間)。			
2	【研究計画(企画)について】 研究計画(企画)の基礎基本について学びます。	事前	調査・研究について考える。(1時間)			
		事後	研究論文を読み、研究計画の基礎基本を振り返る。(3時間)			
3	【調査・研究の基礎①】 調査・研究の手法の基礎について学び、考えます。	事前	調査・研究の手法について考える。(2時間)			
		事後	研究論文で用いられている手法を確認する。(2時間)			
4	【調査・研究の基礎②】 研究論文から調査・研究について考えます。	事前	研究論文で用いられている手法を整理する。(2時間)			
		事後	ゼミ内容を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)			
5	【調査・研究の発展①】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
6	【調査・研究の発展②】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
7	【調査・研究の発展③】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
8	【調査・研究の発展④】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
9	【調査・研究の発展⑤】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
10	【調査・研究の発展⑥】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
11	【調査・研究の発展⑦】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
12	【調査・研究の発展⑧】 研究計画書に基づき調査研究を進めます。	事前	調査研究を進め、進捗状況レポートをとりまとめる。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、研究を進める。(2時間)			
13	中間発表(第1回)を行います。	事前	中間発表の準備を進める。(2時間)			
		事後	中間発表を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)			
14	中間発表(第2回)を行います。	事前	中間発表の準備を進める。(2時間)			
		事後	中間発表を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)			
15	春学期を振り返るとともに、夏期休業中の調査・研究活動について検討します。	事前	夏期休業中の調査・研究活動について考える。(2時間)			
		事後	夏期休業中の調査・研究活動の準備をする。(2時間)			
16	夏期休業中の調査・研究活動の成果を発表します。	事前	夏期休業中の調査・研究活動の成果をまとめる。(2時間)			
		事後	指摘事項について対応する。(2時間)			
17	【調査・研究結果の分析ととりまとめ①】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)			
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)			

	います。		
18	【調査・研究結果の分析ととりまとめ②】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を進め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
19	【調査・研究結果の分析ととりまとめ③】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
20	【調査・研究結果の分析ととりまとめ④】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
21	【調査・研究結果の分析ととりまとめ⑤】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
22	【調査・研究結果の分析ととりまとめ⑥】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
23	【調査・研究結果の分析ととりまとめ⑦】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
24	【調査・研究結果の分析ととりまとめ⑧】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
25	【調査・研究結果の分析ととりまとめ⑨】 調査・研究結果の分析と論文としてのとりまとめを行います。	事前	分析を深め、論文のとりまとめを進める。(2時間)
		事後	本日の内容を振り返るとともに、分析を深める。(2時間)
26	研究論文案の提出と発表リハーサル(第1回)を行います。	事前	研究論文案をとりまとめ、発表準備を行う。(2時間)
		事後	本日の指摘を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
27	研究論文案の提出と発表リハーサル(第2回)を行います。	事前	研究論文案をとりまとめ、発表準備を行う。(2時間)
		事後	本日の指摘を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
28	研究論文案の提出と発表リハーサル(第3回)を行います。	事前	研究論文案をとりまとめ、発表準備を行う。(2時間)
		事後	本日の指摘を振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)
29	卒業研究発表会の準備をします。	事前	卒業研究発表会の準備を行う。(2時間)
		事後	最終リハーサルを行う。(2時間)
30	1年間の調査研究活動を振り返ります。	事前	1年間の振り返りをとりまとめる。(2時間)
		事後	本日のゼミを振り返り、自分の考えを整理する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

・ゼミ活動への積極的な参加(50%)

・調査・研究への取組と発表(50%)

観点	S	A	B	C
まちづくり、住まいに関する理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
設定した調査・研究テーマに関する理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
分析結果の考察、とりまとめ、発表	十分にできる。	おおむね十分にできる	おおむねできる。	ある程度できる。

教科書

必要に応じて指示します。

参考書等

中畹洋『初学者のための質的研究26の教え』(医学書院、2015年、1,800円+税)

履修上の注意・学修支援

- ・欠席しないよう、各自、体調管理、スケジュール管理に留意してください。毎回の出席が基本です。
- ・遅刻厳禁です。
- ・お互いに尊重し、ゼミメンバーで助け合って、調査・研究活動に積極的に取り組んでください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	和田佐英子
授業概要 本ゼミナールでは、「公」を担うということをテーマに、研究を進めてきた。卒業研究では、各自の個別の研究テーマに基づき、引き続き調査研究を行い、卒業研究論文を完成させることになる。毎回のゼミの時間には、一人一人研究報告を行い、他の学生等からも助言をもらいながら、着実に自分の研究を進めていく。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・研究の作法を学び、論文やレポート作成できるようになる。 ・インタビュー調査や文献調査・統計分析ができるようになる。 ・自分たちの意見を公式の場で、きちんと発表できるようになる。 ・卒業論文・卒業研究を作成する (DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	いままでの研究してきた内容の報告 その1	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
2	いままでの研究してきた内容の報告 その2	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
3	いままでの研究してきた内容の報告 その3	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
4	いままでの研究してきた内容の報告 その4	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
5	いままでの研究してきた内容の報告 その5	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
6	研究テーマ報告 その1	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
7	研究テーマ報告 その2	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
8	研究テーマ報告 その3	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
9	研究テーマ報告 その4	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
10	研究テーマ報告 その5	事前	各自、ゼミでの報告内容をまとめる。(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
11	第1回 研究報告 その1	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
12	第1回 研究報告 その2	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
13	第1回 研究報告 その3	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
14	第1回 研究報告 その4	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
15	第1回 研究報告 その5	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
16	第2回 研究報告 その1	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			
17	第2回 研究報告 その2	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)			
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)			

18	第2回 研究報告 その3	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
19	第2回 研究報告 その4	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
20	第2回 研究報告 その5	事前	各自、研究報告内容をまとめる(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
21	卒業論文 中間報告 その1	事前	各自の卒業論文を作成し、中間報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
22	卒業論文 中間報告 その2	事前	各自の卒業論文を作成し、中間報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
23	卒業論文 中間報告 その3	事前	各自の卒業論文を作成し、中間報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
24	卒業論文 中間報告 その4	事前	各自の卒業論文を作成し、中間報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
25	卒業論文 中間報告 その5	事前	各自の卒業論文を作成し、中間報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
26	卒業論文研究 最終報告 その1	事前	卒業論文の最終報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
27	卒業論文研究 最終報告 その2	事前	卒業論文の最終報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
28	卒業論文研究 最終報告 その3	事前	卒業論文の最終報告の準備を行う(2時間)
		事後	ゼミでの議論をもとに、自分の研究をブラッシュアップする。(2時間)
29	卒業論文研究発表 練習 その1	事前	卒業論文の発表準備を行う(2時間)
		事後	他のゼミ生の助言を受けて、再度ブラッシュアップする。(2時間)
30	卒業論文研究発表 練習 その2	事前	卒業論文の最終報告の練習を行う。(2時間)
		事後	再度、研究発表の練習を行う。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

毎回、各自の研究発表の準備をし、各自、他の受講者の十分理解した上で、ゼミに参加し、必ず発言をすること。ゼミ終了後は、他の受講者の助言をもとに、さらに自分の研究をブラッシュアップさせ、次の回の発表につなげていくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

平常点(レポート・論文等)100%(DP3 DP4)

観点	S	A	B	C
調査や研究の仕方を学ぶ (DP1)	しっかり学んだ。	学んだ。	かなり学んだ。	ある程度学んだ。
「公」を担うというこを 理解する。(DP3)	しっかり理解した。	理解した。	かなり理解した。	ある程度理解した。
各自の研究テーマを理解 し、問題解決のための具体 的提案をする。(DP3)	しっかり理解し、具 体的提案をした。	理解し、提案した。	かなり理解し、提案 した。	ある程度理解し、提 案をした。

教科書

毎回、Classroom 等で指示する。

参考書等

沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸著『地方財政を学ぶ』有斐閣 2017年5月

履修上の注意・学修支援

研究上の困難や不安を持った場合には、できるだけ早い段階で、指導を仰ぐこと。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	高丸圭一
授業概要 ゼミナールⅡまでで行ってきた調査・研究をさらに発展させ、卒業論文を完成させる。文献の精読、調査(または実験)の設計と実施、調査(実験)結果の集計・分析、考察と独自の見解の構築などの手順を追って進める。すべての手順は担当教員との綿密な相談の元に進める。						
到達目標(学習の成果) ①シテライフ学部における卒業論文として適切な研究テーマを設定することができる。(DP3, DP4) ②自分が設定した研究テーマに対する背景知識を理解できる。(DP3, DP4) ③独自の調査研究を行い、学術的な観点からの考察に基づく卒業論文を完成させることができる。(DP3, DP4) ④卒業研究発表会において、研究成果を報告することができる。(DP3, DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	卒業論文とは何か:卒業論文の役割や卒業論文を書くことの意味、講義科目のレポートとの違いについて理解する。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
2	文献の読み方:文献の読み方(普通の読書との違い)について理解する。また、内容を理解するための読み方、批判的な読み方、要約の作り方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
3	議論の仕方:議論の目的やルールを学ぶ。また、意見の根拠の示し方、意見への批判・反論の示し方、意見の吟味の仕方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
4	論文のきまり:論文の基本的な書き方について学ぶ。文体、句読点、記号の使い方、自分と他人の意見を区別、事実と意見の区別などについて学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
5	引用の示し方:文献の引用方法(直接引用、間接引用)について学ぶ。また、参考文献の列挙の仕方について学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
6	ワープロソフトの使いこなし方:論文作成に役立つワープロソフトの機能について学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
7	表計算ソフトの活用方法:論文作成に役立つ表計算ソフトの使い方(分析ツール、クロス集計など)について復習する。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
8	文献の集め方:書籍の入手方法、図書館の活用方法、新聞記事の利用、参考文献からの孫引きなどについて学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			
9	インターネットの活用:J-Stage や Google Scholar などインターネットを利用した文献の入手方法、および、インターネット上のHTML文書を引用する際の注意点を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)			
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)			

10	研究テーマの決め方:興味のある先行研究や社会的な課題を探し、自分の知りたいことを見つけた上で、研究テーマを決める。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
11	先行研究の読み方:先行研究を幅広く読むことで、テーマに関する基礎的な知識を手に入れ、当該研究分野の流れを理解する。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
12	研究テーマの深め方:先行研究の問題点(反証・例外・現状との相違)を発見し、その原因を考える。また、テーマを別の視点から見つめることで内在する問題点を探る。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
13	研究の倫理・マナー:研究の目的と予想される結果を吟味し、学問的な倫理、プライバシーへの配慮について考える。また、調査が他者に与える影響や依頼やお礼などのマナーを学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
14	研究計画書の作成:研究計画書とは何かを学ぶ。テーマ、課題、研究の方法、予想される結果、予定などの書き方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
15	研究計画書の評価:研究計画書を作成し、課題と方法の整合性、予想通りに研究が進まなかった場合の対応方法などを考える。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
16	調査の方法①:調査方法の一つである質問紙調査について学ぶ。調査方法のメリットとデメリット、質問項目の用件、質問紙の構成方法、配布対象、依頼方法、集計方法などを学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
17	調査の方法②:調査方法の一つであるインタビュー調査について学ぶ。アポイントメントの取り方、質問項目の事前準備、インタビューの方法、内容の整理方法などを学ぶ	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
18	調査の方法③:調査方法の一つであるフィールド調査について学ぶ。データの取り方、記録の作り方、観察の視点・ターゲット、分析の仕方などを学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
19	調査結果の集計方法:調査結果のうち数値化が可能なものは統計的に分析する。録音・録画した資料については、文字化して記録を残す。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
20	調査結果の読み取り方:調査の結果から何が言えるのかを考える。先行研究との比較の仕方、統計分析の結果の読み取り方、結果のカテゴリー化などの方法を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
21	卒論の執筆①:卒業論文の構成(序論、本論、結論)を理解する。自分の研究テーマに当てはめて、全体的な構成を考える。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
22	卒論の執筆②:卒業論文の序論・問題・目的の書き方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

23	卒論の執筆③:卒業論文の本論の展開部分の書き方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
24	卒論の執筆④:卒業論文の図表の作り方と本文中の図表への言及の仕方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
25	卒論の執筆⑤:卒業論文の調査結果についての記述の仕方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
26	卒論の執筆⑥:卒業論文の考察と結論の書き方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
27	卒論の執筆⑦:卒業論文の題目の付け方、要旨・謝辞・付録の書き方を学ぶ。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
28	卒業論文の完成・提出:卒業論文全体を完成させ、推敲、校正する。製本し、期限までに提出する。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
29	卒業論文発表の仕方:卒業論文の内容を説明するプレゼンテーション資料を作成し、卒業論文発表を行う。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、次回のゼミにどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)
30	卒業論文の評価・反省:卒業論文発表を踏まえ、論文の評価と反省を行う。	事前	ゼミで話す内容について、あらかじめ考えておく。必要に応じて、事前に調査を行う。(2時間)
		事後	ゼミで話した内容をまとめて、自分の将来にどうつなげていくか各自で考える。必要に応じてサブゼミを開くこと。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ・毎回ディスカッションを行う
- ・まちづくりに関する課題解決学習を行う
- ・必要に応じてフィールドワークを行う場合もある

成績評価の方法・基準(%表記)

卒業研究の完成度(100%)

観点	S	A	B	C
① シティライフ学部における卒業論文として適切な研究テーマを設定することができる。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
② 自分が設定した研究テーマに対する背景知識を理解できる。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
③ 独自の調査研究を行い、学術的な観点からの考察に基づく卒業論文を完成させることができる。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている
④ 卒業研究発表会において、研究成果を報告することができる。	90%以上身につけている	80~90%身につけている	70~80%身につけている	60~70%身につけている

教科書

なし

参考書等

- 白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房
- 日本経済新聞出版 『まるわかり! 行政のデジタル化』 日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532183233)
- 吉田泰己 『行政をハックしよう』 ぎょうせい (ISBN:978-4324110263)
- 林宜嗣他 『地域データ分析入門』 日本評論社 (ISBN:978-4535559479)
- 宇都宮浄人他 『まちづくりの統計学』 学芸出版社 (ISBN:978-4761528065)
- 中野邦彦他 『地域研究ハンドブック』 勁草書房 (ISBN-13:978-4326603374)

履修上の注意・学修支援

ゼミに出席しただけでは、卒業論文を完成させることはできません。空き時間を有効に活用して、研究を進めてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	薄井浩信
授業概要						
卒業論文作成の基本となる管理会計に対する問題意識をゼミの討議をとおして明確にします。また、卒業論文作成のための資料収集の方法を理解させる。先行研究を参考に、学生それぞれの研究テーマを考えます。さらに、論文の構成と作成手順が理解できるように、研究計画を作成し研究の進め方を学習します。						
到達目標(学習の成果)						
4年間の学習のまとめとして卒業論文を作成する知識を身につけることができる。(DP2) 研究の進め方を学び、自ら論文作成ができる能力を身につける。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	卒業論文の課題について(問題意識の喚起)	事前	先行研究の論文を検索しておく(2時間)			
		事後	先行研究の論文を読む(2時間)			
2	卒業論文の課題について討議(課題設定と留意点)	事前	インターネットで参考文献を検索する(2時間)			
		事後	参考文献を読む(2時間)			
3	卒業論文の課題について討議 ゼミ生全体での討議	事前	研究テーマについて考える(2時間)			
		事後	研究テーマについて3つ以上考える(2時間)			
4	卒業論文の課題について討議 ゼミ生全体での討議	事前	研究テーマ候補を考える(2時間)			
		事後	研究の論点を絞り込む(2時間)			
5	卒業論文のテーマ設定(1)	事前	研究テーマの説明について考える(2時間)			
		事後	テーマ設定に関する資料を検索する(2時間)			
6	卒業論文のテーマ設定(2)	事前	研究テーマの説明について考える(2時間)			
		事後	テーマ設定に関する資料を検索する(2時間)			
7	卒業論文のための資料収集 全体指導	事前	必要とされる資料を書き出しておく(2時間)			
		事後	独創性について考える(2時間)			
8	卒業論文のための資料収集 資料収集状況の確認と指導	事前	研究上必要となる資料をまとめる(2時間)			
		事後	研究テーマに類似する論文を検索する(2時間)			
9	卒業論文のための資料収集 論文テーマの設定の討議	事前	研究テーマの項立てを考える(2時間)			
		事後	独創性について考える(2時間)			
10	卒業論文のための資料収集 資料収集とテーマの関連性の確認	事前	調査する内容を書き出す(2時間)			
		事後	研究方法、手法の検討をする(2時間)			
11	卒業論文のための資料収集 資料収集とテーマの関連性の個人指導	事前	書けるところまで論文を執筆する(2時間)			
		事後	文献収集の計画と依頼をする(2時間)			
12	卒業論文のための資料収集 収集資料の確認と検討作業の全体指導	事前	論文の作成作業をする(2時間)			
		事後	全体指導を基に論文の作成作業をする(2時間)			
13	卒業論文中間報告の準備	事前	中間報告の準備をする(2時間)			
		事後	中間報告の改善箇所の点検をする(2時間)			
14	卒業論文中間報告	事前	中間報告のまとめをする(2時間)			
		事後	発表から中間報告の整理をする(2時間)			
15	夏期休暇中の作業計画について	事前	夏期休暇中の作業計画を作成する(2時間)			
		事後	夏季休業中の改善計画の検討をする(2時間)			
16	論文に対する問題点等の検討 検討状況の報告(1)	事前	論文の問題点の整理をする(2時間)			
		事後	解決策の検討をする(2時間)			
17	論文に対する問題点等の検討 検討状況の報告(2)	事前	検討状況の報告をする(2時間)			
		事後	論文の作成作業をする(2時間)			
18	論文に対する問題点等の検討 追加検討すべき内容の討議と指導	事前	追加検討すべき内容の確認をする(2時間)			
		事後	論文の作成作業をする(2時間)			

19	論文作成方法の検討 留意点についての確認と追指導	事前	留意点についての確認をする(2時間)
		事後	論文の作成作業をする(2時間)
20	論文作成方法の検討 論文の構成についての講義と指導	事前	論文の構成について再検討をする(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
21	論文作成方法の検討 参考文献の取扱い方法の講義と確認	事前	参考文献の取扱い方法を確認する(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
22	論文作成方法の検討 論文内容の概略についての報告書の提出	事前	論文の報告の準備をする(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
23	論文作成方法の検討 個別指導	事前	論文の報告の準備をする(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
24	卒業論文の中間報告 中間発表と意見交換	事前	論文の報告の準備をする(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
25	最終的な論文作成に向けた指導 論文の形式指導	事前	論文の報告の準備をする(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
26	最終的な論文作成に向けた指導 論証方法の指導	事前	論文の報告の準備をする(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
27	最終的な論文作成に向けた指導 個別指導	事前	論文の報告の準備をする(2時間)
		事後	論文の作成をする(2時間)
28	卒業論文の発表 ゼミ生の発表と討議(1)	事前	発表の準備をする(2時間)
		事後	論文の校正をする(2時間)
29	卒業論文の発表 ゼミ生の発表と討議(2)	事前	発表の準備をする(2時間)
		事後	論文の校正をする(2時間)
30	卒業論文の発表 ゼミ生の発表と討議(3)	事前	発表の準備をする(2時間)
		事後	論文の校正をする(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

課題解決型学習

成績評価の方法・基準(%表記)

卒業論文評価 60%、課題の提出および発表(プレゼンテーション) 20% ゼミへの取組み態度 20%

観点	S	A	B	C
研究の目的と方法について理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
研究論文、レポートの構成と表現方法について理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
プレゼンテーションの方法について理解している	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

教科書は使用しない。

参考書等

論文の作成方法等に関する文献等については、ゼミの講義の中で適宜指示する。

履修上の注意・学修支援

- ゼミは積極的に参加し、ゼミ生相互の交流を通じて問題意識の進化を図ること。
- 疑問点や分からないことがあったら、早めに相談すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	北浦さおり

授業概要

大学4年間の学習の成果を発揮して各自が満足できるような卒業研究を行い、論文の形にまとめ、発表を行えるようになることを目的としている。興味を持って1年間継続して取り組めるテーマを選び、関連する文献を調べて理解し、課題を設定することから始める。調査の方法として適切なものを選定して、調査計画を立て、調査を行うところまでを春学期の目標とする。秋学期最後の卒業研究発表会に向けて、分析と考察、論文としての構成やプレゼンテーションの準備までを計画的に行うことを学ぶ。また、論理的に思考できるようになるための準備として、まずは論理的に書けるようになることを学習する。

到達目標(学習の成果)

- ・これまで行ってきた研究と現状をふまえて適切な課題を自ら設定し、調査・分析を通して解決策を提案することができる(DP3)
- ・ゼミ生同士や教員とのディスカッションを通して、議論を建設的に発展させることができる(DP1)
- ・ゼミ生同士や教員とのディスカッションに積極的に参加し、互いに良い成果を出せるよう協働することができる(DP1)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	テーマの設定とテーマに関連した先行研究レビューの発表	事前	春休みにプレゼンテーション準備をする(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
2	テーマの確定と先行研究レビューの結果の報告およびディスカッション	事前	報告準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
3	課題の設定について学ぶ	事前	課題の設定に着目して先行研究を読む(2時間)
		事後	課題の設定について復習する(2時間)
4	各自の課題の設定	事前	自分のテーマで課題を考えてみる(2時間)
		事後	仮説を立てる(2時間)
5	先行研究レビューから課題の設定までの発表およびディスカッション	事前	発表準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
6	研究方法の選定	事前	研究方法について考えておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
7	予備調査の準備	事前	予備調査の計画を立てておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
8	予備調査の実施に向けた調整	事前	予備調査の準備をしておく(2時間)
		事後	予備調査を実施する(2時間)
9	予備調査結果の分析	事前	分析の準備をしておく(2時間)
		事後	分析作業を行う(2時間)
10	予備調査結果の発表	事前	発表の準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
11	本調査の計画	事前	本調査の計画を立ててみる(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
12	本調査の準備とディスカッション	事前	報告の準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
13	本調査の実施に向けた調整	事前	実施に向けて必要な準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
14	本調査実施準備	事前	実査前の最後の調整を行う(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
15	本調査実施について進捗状況の報告	事前	本調査を開始する(2時間)
		事後	夏休みに実査を完了させる(2時間)
16	本調査結果の分析準備	事前	夏休みに分析の方針を考えておく(2時間)
		事後	分析を行う(2時間)
17	本調査結果の分析	事前	分析を行う(2時間)
		事後	分析を行う(2時間)

18	本調査分析についてディスカッション	事前	分析を終わらせておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
19	本調査分析結果の報告	事前	報告の準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
20	追加調査や研究の進捗状況について報告およびディスカッション	事前	追加調査などの必要性を検討しておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
21	調査結果の書き方を学ぶ	事前	結果の書き方について調べておく(2時間)
		事後	結果を書いてみる(2時間)
22	調査結果をまとめる	事前	結果を書く(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
23	調査結果を考察する	事前	結果を書く(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
24	考察内容の報告とディスカッション	事前	報告準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
25	論文の構成を学ぶ	事前	構成に着目して先行研究を読む(2時間)
		事後	構成について復習する(2時間)
26	論文の章立ての報告とディスカッション	事前	報告準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
27	研究全体の論理構成の確認と結論	事前	論理構成を確認しておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
28	研究成果の報告とディスカッション	事前	報告準備をしておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
29	プレゼンテーション準備	事前	プレゼンテーションを準備する(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)
30	プレゼンテーション	事前	プレゼンテーションを完成させておく(2時間)
		事後	コメントを受け、修正・追加作業を行う(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

ディスカッションへの貢献度30%、卒業論文70%

観点	S	A	B	C
研究課題の設定と解決策の提案	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
議論の建設的な発展	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている
調査・分析を通じた研究課題の探求	完全にできている	ほぼ完全にできている	十分にできている	一定程度できている

教科書

特になし

参考書等

『文献調査法』毛利和弘 DB ジャパン 2021年

『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』川崎剛 勁草書房 2010年

履修上の注意・学修支援

スケジュールをしっかり立てて、進捗状況を管理するように努めること。

どうしても欠席や遅刻をする場合は、別の時間にアポイントを取ること。

授業時間外に自分で調査や研究を進めていくことが大切!!! わからないことはどんどん聞きにきてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	渡辺靖明

授業概要

都市生活と社会に関わる問題について、自分の関心からテーマを設定し、卒業研究等を完成させるための方法の基礎を学びます。

①テーマ設定、②テーマに応じた情報収集、③発表(報告)、④議論の方法、⑤文章の書き方などを全員で共有し話し合いながら進めます。

担当教員は法学(刑法)を専門に研究していますが、これに捉われることなく、関心を持ったテーマを選んでください。ただし、必要最小限の法律の知識の習得も目指します。

なお、参加者の関心に応じて様々な情報に接する機会を作りたいと思います。そのため、授業計画は受講者の関心等に応じて変更されることがあります。

到達目標(学習の成果)

- ・社会で生じる都市生活の問題について、自分の問題関心から課題を見つけて、卒業研究等のテーマを設定できる。(DP3)
- ・自分で設定した卒業研究等のテーマについて適切な情報を収集・整理できるようになる。(DP2)
- ・ゼミ生同士で議論し、自分の考え方を他の人に理解してもらえるようにわかりやすく発表し、また他の人の意見や感想にも耳をかたむけて、それを発表、レポート、卒業研究等に活かすことができる。(DP1)
- ・発表や議論、レポートなどでの反省を生かして、自分の考え方をきちんと筋道を立てて展開する卒業研究等を完成させることができる。

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	ゼミの趣旨や進め方を説明したうえで、参加者の自己紹介をしてもらう。各参加者がどのようなことに関心を持っているかを理解し、その内容を共有する。	事前	自分が関心を持っていることをだいたいよいのでいくつか整理しておく。(2時間)
		事後	自分が一番強く関心を持ったことを色々と調べてみる。(2時間)
2	教員の示す法の基礎について、現在持っている知識をもとに話し合いながら、理解を深める。	事前	事前に示された法の基礎について、関連する用語や項目を調べたり、わからないところ、難しく感じたところなどをまとめておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、法の用語や考え方などをまとめて理解を深めておく。(2時間)
3	各参加者が自己の卒業研究等のテーマ(以下単にテーマと称することがある。)について調べてきたことを踏まえて、疑問に思ったことやよくわからなかったことをどのように調べればよいかを参加者全員で話し合う。	事前	自分で調べた内容を整理しておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、そこでの内容についてさらに情報収集をする。(2時間)
4	参加者が収集した情報をもとに、全員で議論する。議論の仕方についても、参加者全員で共有する。	事前	自分で調べた内容を整理しておく。(2時間)
		事後	さらに情報の収集・整理をする。(2時間)
5	各参加者のテーマ設定について皆で話し合う。どのようなテーマであれば自分でそれぞれ進めていけそうかについても全員で共有する。	事前	現時点で自分が一番強く関心を持っていることを整理しておく。(2時間)
		事後	自分がどのようなテーマを設定するか、さらに詳しく細かく考えてみる。(2時間)
6	引き続き各参加者のテーマ設定について皆で議論する。特に自分のテーマと法律との関係について全員で考えてみる。	事前	他の参加者のテーマ設定についても、自分の考えを述べられるようにしておく。(2時間)
		事後	他の参加者の意見等を参考に、自分のテーマと法律との関係について、さらに情報収集を行う。(2時間)
7	テーマ設定をするための議論をする。この回で仮のテーマを設定する。	事前	自分のテーマについて、具体的な課題(何をどう書くべきか)を整理しておく。(2時間)
		事後	自分のテーマの具体的な課題について情報収集を行う。(2時間)
8	情報収集の方法を全員で共有する。書籍の探し方について	事前	自分のテーマに関する書籍にどのようなものがある

	て、図書館や書店をどのように利用したらよいかを理解する。		かを調べておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、自分のテーマに関する書籍を実際に探したり、入手したりして、調べておく。(2時間)
9	書籍以外の論文などの資料の調べ方について全員で共有する。ネットで公開されている論文などの資料の探し方を理解する。	事前	インターネットで自分のテーマに関する情報を調べておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、自分のテーマに関する論文・資料を実際に探したり、入手したりして、調べておく。(2時間)
10	自分の設定したテーマに関してどのような書籍・論文等の資料があったか、またどれが資料として使えそうかを発表し、その内容について全員で議論する。	事前	自分で集めた資料のうちいくつかを実際に読んでまとめておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、さらに必要な資料を集め、情報収集を行う。(2時間)
11	情報の分析方法を皆で共有する。簡単な資料を全員で読み、どのように文章を読んでいけばよいかを理解する。	事前	自分で集めた資料のうちいくつかを実際に読んでみる。(2時間)。
		事後	ゼミを振り返り、読んだ資料の内容をまとめておく。(2時間)
12	発表の方法を全員で共有する。前回読んだ資料の内容をレジュメとして提出し、どのような点に気をつけるべきかを全員で共有する。	事前	前回の授業の資料の要約レジュメを作成する。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、レジュメの作り方の理解を深めておく。(2時間)
13	これまでのゼミ活動を踏まえ、自分のテーマに関してそれぞれ調べた結果を発表し、全員でその内容を議論する。	事前	自分のテーマに関して調べた結果をまとめて、プレゼンテーションができるようにしておく。(2時間)
		事後	他の参加者からの意見を踏まえ、必要な修正等を加える。(2時間)
14	引き続き、自分のテーマに関して、それぞれで調べた結果を発表し、全員でその内容を議論する。最後に教員が現段階での評価を示す。	事前	自分のテーマに関して調べた結果をまとめて、発表ができるようにしておく。(2時間)
		事後	他の参加者・教員からの意見を踏まえ、必要な修正等を加える。(2時間)
15	自分のテーマに関しての中間レポート作成のために、文章の書き方を全員で共有する。	事前	自分のテーマに関して調べた結果をまとめて、発表ができるようにしておく。(2時間)
		事後	他の参加者や教員からの意見を踏まえて、レポートに修正を加える。(2時間)
16	教員の示す法の事例について、現在持っている知識をもとに話し合いながら、理解を深める。	事前	事前に示された法の事例について、関連する用語や項目を調べたり、わからないところ、難しく感じたところなどをまとめたりしておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、法の用語や考え方などをまとめて理解を深めておく。(2時間)
17	提出された自分のテーマに関する中間レポートを参加者全員で読み、参加者同士でコメントする。単なる批判ではなく、良かった点、改善すべき点などを出し合い、より良い内容の文章になるよう役立つことを目指す。	事前	中間レポートを作成する。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、自分のレポートの内容に修正を加える。(2時間)
18	引き続き、提出された中間レポートについて参加者同士でコメントする。最後に教員による評価を示す。	事前	中間レポートを作成する。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、自分のレポートの内容に修正を加える。(2時間)
19	中間レポートやその後のコメントを踏まえ、文章の書き方や内容に関する改善点を確認する。	事前	他の参加者のレポートの文章や構成の良い点や改善した方がよい点を整理しておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、自分のレポートの内容に修正を加える。(2時間)
20	教員の示す法の問題について、現在持っている知識をもとに議論して、理解を深める。	事前	事前に示された法の問題について、関連する用語や項目を調べたり、わからないところ、難しく感じたところなどをまとめたりしておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、法の用語や考え方などをまとめて理解を深めておく。(2時間)

21	教員が用意した文献をもとに、引用の大切さや方法などの文章の形式的な決まりを全員で共有する。	事前	配布された文献での引用の仕方などを確認しておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、自分のレポートについてどのような引用が必要かを確認しておく。(2時間)
22	これまでのゼミ活動を踏まえて、各参加者に卒業研究等に関する現時点での進み具合などを発表してもらい、全員で議論する。	事前	自分の卒業研究等の進み具合などについて考えをまとめて発表できるようにしておく。(2時間)
		事後	他の参加者の意見を踏まえて、修正を加える。(2時間)
23	引き続き、各参加者に卒業研究に関する現時点での進み具合などを発表してもらい、全員で議論する。	事前	自分の卒業研究等の進み具合などについて考えをまとめて発表できるようにしておく。(2時間)
		事後	他の参加者の意見を踏まえて、修正を加える。(2時間)
24	現時点での卒業研究等に関する経過報告書を作成してもらい、その内容について全員で議論する。	事前	自分の卒業研究等に関する内容や進み具合などを報告書にまとめておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、卒業研究等の内容に修正を加える。(2時間)
25	引き続き、現時点での経過報告書を作成してもらい、その内容について全員で議論する。最後に教員の現段階での評価を示す。	事前	自分の卒業研究等に関する内容や進み具合などを報告書にまとめておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、卒業研究等の内容に修正を加える。(2時間)
26	経過報告書の内容や議論を踏まえて、テーマについて改善すべき点について確認する。	事前	経過報告書の内容を整理し、他の参加者の報告書を参考にして自分の卒業研究等に良い点を取り入れるなどする。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、卒業研究等を改善する。(2時間)
27	卒業研究等の提出に向けて、不十分なところ、わからないところ、他の参加者の内容について疑問に思っているところや、改善すべきところを全員で議論する。	事前	これまでのゼミを振り返り、卒業研究等の内容を整理しておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、卒業研究等を改善する。(2時間)
28	引き続き、卒業研究等の提出に向けて、不十分なところ、わからないところ、他の参加者の内容について疑問に思っているところや、改善すべきところを全員で議論する。	事前	これまでのゼミを振り返り、卒業研究等の内容を整理しておく。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、卒業研究等を改善する。(2時間)
29	卒業研究等の進み具合や最終的な見通しなどを発表し、どうしても難しいところ、悩んでいるところなどを全員で議論する。	事前	これまでのゼミを振り返り、卒業研究等を作成する。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、卒業研究等を改善する。(2時間)
30	引き続き、卒業研究等の進み具合や最終的な見通しなどを発表し、どうしても難しいところ、悩んでいるところなどを全員で議論する。必要に応じて教員から最終的な助言を受ける。	事前	これまでのゼミを振り返り、卒業研究等を作成する。(2時間)
		事後	ゼミを振り返り、卒業研究等を改善する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ・卒業研究等のテーマの設定、提出に向けて全員で議論を行います。
- ・自分で設定したテーマの課題についての自分の考え方を発表してもらいます。

成績評価の方法・基準(%表記)

自分で設定した卒業研究等のテーマについての中間レポート20%、経過報告書20%、卒業研究等(最終報告書)40%、議論や発表での質疑応答への参加度(積極性)20%で総合して評価をします。

観点	S	A	B	C
自分の問題関心に応じて適切にテーマを設定できているか。	ゼミで教員が説明した内容を完全に理解して、自分の関心に沿って適切なテーマを設定できている。	ゼミで教員が説明した内容を十分に理解して、自分の関心に沿って適切なテーマを設定できている。	ゼミで教員が説明した内容を一定程度理解して、自分の関心に沿ってテーマを設定できている。	ゼミで教員が説明した内容を最低限踏まえて、ある程度適切なテーマを設定できている。
自分のテーマに沿った情報収集をして、発表やレポート	情報収集を充分に行って、発表やレポート	情報収集をほぼ充分に行って、発表やレポート	情報収集を一定程度行って、発表やレポート	情報収集を最低限度行って、発表やレポート

ト・報告書の作成を行えているか。	ト・報告書の作成も適切に行っている。	ポート・報告書の作成も適切に行っている。	ト・報告書の作成も適切に行っている。	ト・報告書の作成はある程度行えている。
ゼミで得た情報収集、発表、議論などの方法、文章の書き方の知識や、参加者同士の議論等を踏まえて、最終的に自分の主張したいことをわかりやすく筋道を立てて伝えられる研究等を完成させられたか。	必要な知識を十分に身に着け、これまでの議論等を理解し、研究等において、自分の主張したいことをわかりやすく筋道を立てて伝えられている。	必要な知識をほぼ十分に身に着け、これまでの議論等を理解し、研究等において、自分の主張したいことをわかりやすく伝えられている。	必要な知識を一定程度身に着け、これまでの議論等をある程度理解し、研究等において、自分の主張したいことをわかりやすく伝えられている。	必要な知識を最低限度身に着け、研究等において、自分の主張したいことを伝えることはできている。

教科書
特になし。

参考書等
蛭原健介ほか編『フレッシュヤーズ法学演習』(2版、中央経済社、2022年)

履修上の注意・学修支援

- ・参加者の人数、関心、卒業研究等の進み具合に応じて、授業計画は変更される可能性が大いにあります。
- ・自分のテーマだけでなく、他の参加者のテーマについても関心を持ってもらいたいと思います。
- ・テーマの設定や情報収集、発表、レポート・報告書の作成については、オフィスアワーなどを使って教員に遠慮なく相談してください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23D401 19D401	卒業研究	4年	通年	演習	4	内藤英二
授業概要						
<p>1. 「卒業研究」のための「論文」、「レポート」執筆に必要な研究テーマの設定、資料収集、研究方法、論文・レポートの執筆方法、卒業研究発表に伴うプレゼンテーションについて、個別に指導していきます。</p> <p>2. 卒業研究と並行して、就職活動に関連する一連の情報提供、業界研究、履歴書・エントリーシート作成のための必要資料の提供等を個別に指導します。</p>						
到達目標(学習の成果)						
経営学、マーケティング論の修学を通じて得た実践的な知識と情報を活用して、自身の存立基盤である地域社会、経済、産業の振興・活性化のために、学生という立場で実際に何ができるのかを考え、導き出されたアイデアを実現するために、実際に行動する姿勢を身に着けることを目指します。(DP4)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	ゼミの進め方についての説明:年間ゼミ活動計画の説明とゼミ履修学生のスケジュールの確認・調整	事前	シラバスを印刷、精読の上、持参(2時間)			
		事後	学生各人による年間ゼミ活動計画作成(2時間)			
2	年間ゼミ活動計画の検討①:年間ゼミ活動計画を発表し、ゼミ生相互での検討。	事前	年間ゼミ活動計画プレゼン資料準備(2時間)			
		事後	学生相互の検討意見を参考に活動計画を修正(2時間)			
3	年間ゼミ活動計画の検討②:修正案の発表、ゼミ生相互での検討。	事前	活動計画修正案プレゼン資料準備(2時間)			
		事後	卒業研究テーマ候補の選定(2時間)			
4	卒業研究テーマの選定①:複数の卒業研究テーマを持ち寄り、発表。	事前	卒業研究テーマ候補発表資料の作成(2時間)			
		事後	卒業研究テーマ候補の再検討(2時間)			
5	卒業研究テーマの絞り込み②:複数のテーマの中から1つのテーマを選択して発表。	事前	卒業研究テーマ決定資料作成(2時間)			
		事後	卒業研究目次構成案①の検討(2時間)			
6	卒業研究目次構成の検討①:目次構成案①の発表と検討	事前	卒業研究目次校正案①資料作成(2時間)			
		事後	目次構成案①の再構成(2時間)			
7	卒業研究目次構成の検討②:目次構成案②の発表と検討	事前	目次構成案②の作成(2時間)			
		事後	目次構成案②の再構成(2時間)			
8	卒業研究目次構成の検討③:目次構成確定版の発表と検討	事前	目次構成確定版の作成(2時間)			
		事後	目次構成確定版の再構成と保存(2時間)			
9	研究資料検索・収集①:目次構成に沿って文献資料・関連統計検索結果の発表と検討	事前	文献資料・統計データ等の検索結果リスト作成(2時間)			
		事後	各種資料の再構成(2時間)			
10	研究資料検索・収集②:参考文献リストの作成	事前	参考文献リストの作成(2時間)			
		事後	参考文献リストの再構成と保存(2時間)			
11	研究資料検索・収集③:統計資料の検索とリストの作成	事前	統計資料リストの作成(2時間)			
		事後	統計資料リストの再構成と保存(2時間)			
12	調査研究①調査研究計画の立案と発表	事前	調査研究計画の作成(2時間)			
		事後	調査研究計画の再検討(2時間)			
13	調査研究②調査研究計画の決定	事前	調査研究計画決定稿の作成(2時間)			
		事後	調査研究計画決定稿の補足(2時間)			
14	調査研究③調査実施準備	事前	調査研究方法、対象、期間等の決定(2時間)			
		事後	調査研究活動実施(2時間)			
15	調査研究④調査の実施、進捗状況の報告	事前	調査研究活動進捗状況報告資料作成(2時間)			
		事後	調査研究活動の修正と実行(2時間)			
16	調査研究⑤調査結果の発表と分析方法の検討	事前	調査研究科活動中間報告資料作成(2時間)			
		事後	調査結果分析方法の検討(2時間)			
17	調査研究⑥調査結果の分析と検討	事前	調査結果分析資料の作成(2時間)			
		事後	調査結果分析資料の確認・修正(2時間)			
18	調査研究⑦調査結果の分析と検討	事前	調査結果分析資料の再構成(2時間)			
		事後	調査結果分析資料の確定(2時間)			

19	卒業研究論文・レポート・卒業制作の説明・諸注意	事前	論文・レポート執筆上の諸注意(事前配布)精読(2時間)
		事後	執筆開始(2時間)
20	論文・レポート執筆①原稿素案の検討と修正	事前	原稿素案執筆(2時間)
		事後	原稿素案修正(2時間)
21	論文・レポート執筆②	事前	原稿素案執筆(2時間)
		事後	原稿素案修正(2時間)
22	論文・レポート執筆③	事前	原稿素案執筆(2時間)
		事後	原稿素案修正(2時間)
23	論文・レポート執筆④	事前	原稿素案執筆(2時間)
		事後	原稿素案修正(2時間)
24	論文・レポート執筆⑤	事前	原稿素案執筆(2時間)
		事後	原稿素案修正(すみれ祭での中間発表掲示)(2時間)
25	卒業研究発表資料作成①パワーポイント資料検討	事前	パワーポイント資料作成(2時間)
		事後	資料修正(2時間)
26	卒業研究発表資料作成②発表リハーサル	事前	パワーポイント資料作成(2時間)
		事後	資料修正(2時間)
27	卒業研究発表資料作成③	事前	修正資料の確認(2時間)
		事後	修正資料の補強(2時間)
28	卒業研究発表会参加	事前	卒業研究発表資料確定版の作成(2時間)
		事後	確定版の補強・修正(2時間)
29	完成原稿点検:卒業研究発表の結果を参考に完成原稿内容を点検・修正	事前	卒業論文・レポート最終原稿作成(2時間)
		事後	卒業論文・レポート完成原稿作成(2時間)
30	完成原稿最終点検	事前	卒業論文・レポート完成原稿最終修正(2時間)
		事後	卒業論文・レポート完成原稿提出(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- ① 事前課題の発表:ほぼ毎回、前回のゼミで提案した課題について、簡単なメモなどを作成し、発表してもらいます。
- ② 発表内容の相互検討と情報交換:事前課題の発表に対して、履修学生全員で相互に意見交換を行い、各自の発表内容の点検と改善の方法などを話し合います。
- ③ 事前課題の内容は、年間のゼミ活動計画、卒業研究テーマ、同目次構成案、研究・統計資料検索、参考文献リスト、調査研究計画、卒業論文・レポートの内容、卒業研究発表資料等に関連する内容となる予定です。
- ④ 第24回論文・レポートの執筆では、すみれ祭のゼミ研究発表のスペースに卒業研究の中間発表ポスターを作成・展示します。

成績評価の方法・基準(%表記)

1. 課題達成の状況 50%:ゼミ活動に際して作成、提出を求める各種課題及び卒業論文・共同執筆レポートの達成度。
2. プレゼンテーション 30%:作成資料の完成度、プレゼンテーション(卒業発表を含む)の内容。
3. 積極性 20%:ゼミ活動中の意見、アイデアの提示と問題解決に対する積極的な取り組みの姿勢。

教育目標の中の問題解決力とネットワーク力の育成に重点を置いて授業を進めていきます。

観点	S	A	B	C
調査・研究の目的と効果	身近な事例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来ている。	ある程度の理解ができてきている。	理解が不十分な点がある。
調査・研究の方法	状況や課題に関する情報を正確に理解している。	情報をある程度理解している。	情報を収集できている。	情報の収集と理解が不十分
論文・レポートの構成と表現方法	アイデアを立案し正確に情報発信ができている。	アイデアを立案しある程度情報発信ができている。	アイデアはあるが正確な情報発信ができていない。	課題解決のためのアイデアが不十分

教科書 特になし

参考書等 時間中に必要に応じて適宜、指示します。

履修上の注意・学修支援

質問や連絡がある場合は、教育厚生棟7階の研究室まで、メールの場合は、naito@kyowa-u.ac.jp まで問い合わせてください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R102 19R102	教職概論	1年	秋	講義	2	寺内孝夫

授業概要

教職概論は、教職課程で最初に学ぶ科目の一つで、教職とはどのような職業なのか、教職にはどのような資質・能力が求められているのかを様々な視点、側面から考えることを目的としている。教職の歴史、教員の地位・仕事の国際比較にはじまり、学校という組織の中で活動する教師の仕事を多角的に論じ、日本独特の教職文化、教師のキャリア・ステージと力量形成について教育現場の諸課題を踏まえて考察する。

到達目標(学習の成果)

- 1 教職課程の入門講座として、公教育の目的や教員の存在意義を理解するとともに、進路選択に向けた教職の職業的特徴と概要を理解し、これからの学習に意欲を持って取り組む姿勢を確立する。(DP1)
- 2 教職をとりまく現状や専門性について、子ども、保護者、社会との関係を踏まえて理解するとともに、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解している。(DP1)
- 3 教員の職務内容の全体像、教員研修の意義、生涯にわたって学び続けることの必要性について理解するとともに、教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解している。(DP1)
- 4 学校が内外の専門家、人材と連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応する必要性、重要性を理解している。(DP1)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	教職概論のねらい:教職課程の導入科目を学び始めるに当たって、課程の全体像を把握するとともに、学修に際しての留意点を理解し、積極的に講義に臨む態度を身に付ける。	事前	学習内容をシラバスに目を通して確認しておく(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
2	教職の意義:教職の果たす役割と意義について、子どもの人格形成及び国家・社会の有意な形成者育成という二面から考察する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
3	教師像の歴史の変遷:近代日本の教師像の類型を教職観の変遷から分析し、現代に引き継がれる理想の教師像について考察する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
4	学習者にとっての教師像:大人にとっての理想的教師像と子どもにとっての理想的教師像は、時代の要請をうけて変遷する部分と、いつの時代にも共通する部分があることについて経験的に学ぶ。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
5	教師の役割と職務:教師の職務の事例(中学校教師)を基に、学習指導、生徒指導、学級経営、学年経営、学校経営、部活動指導の現実と課題について考察し、各自の意見を表明する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
6	管理職・主任の役割と職務:学校管理に関する近年の動向、校長・教頭の果たす役割、主任の果たす役割等を分析し、学校組織の複層構造のメリットと課題について考察する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
7	学校運営組織の現実と課題:組織としての学校の意思決定はどのようになされているのか、校長のリーダーシップや職員会議の役割を基に考察する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
8	学校に配置されている様々な職種:学校に配置されている教職員は、それぞれの資格・任用条件等を踏まえて教育活動を展開していることを理解し、協働の重要性の認識を深める。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
9	教師の職場環境:多忙化や孤立化等が指摘されている教師の職場環境の現状と課題について、基本的な知見を得るとともに、改善への手がかりを模索する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
10	教職員の服務:教職員の服務の概要について、事例をもとに理解するとともに、「信頼される教師」となるための必要条件としての服務のあり方について考察する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献

			献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
11	部活動の意義と役割:我が国の中等教育において、「部活動」の教育的意義には大きいものがあることを考察するとともに、指導上の留意点について各自の意見を表明する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
12	保護者・地域社会との連携及びチーム学校への対応:学校教育において、教育効果を上げるためには、保護者や地域社会との連携が欠かせないことを理解するとともに、実践基礎力を身に付ける。	事前	読書レポートの作成(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
13	教師のキャリア形成とライフサイクル:教師のキャリア形成の概要とライフサイクルを様々な事例を基に考察し、各自が望ましい教師像を形成する上での基本的知見を得る。	事前	読書レポートの作成(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
14	教師の職能向上と研修:教師にとっての研修(研究と修養)は、職能向上に欠かせない要件である。現在の諸制度を理解するとともに、研修の意義について考察する。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
15	今、求められる教師像:中教審答申の内容等を基に今日、期待される教員の資質能力についての理解を通して、教職への総合的理解を深める。	事前	クロームブック送信の資料に目を通す(2時間)
		事後	これまでの授業を振り返り、試験に向けてのまとめや整理をする(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

○プレゼンテーション ～ 「読書レポート発表会=現代の教育問題について考える」(第12講、第13講の中で実施)
各自作成の教育に関する「読書レポート」をもとに、現代の教育問題の背景、現状、解決方策について考察する。

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)

レポート及び授業への取り組み態度 30%

観点	S	A	B	C
教職の職業的特徴と概要についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
教員に求められる役割や資質能力についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
教員の服務上・身分上の義務についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書 特になし。講義レジュメは、事前にクロームブックに送信する。

参考書等

中学校学習指導要領(平成29年告示 352円)、高等学校学習指導要領(平成30年告示 819円) 文部科学省
授業中にも資料を配付する。

履修上の注意・学修支援

- 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席すること。
- 2 遅刻・早退等不在時間計20分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。
- 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。
- 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。
- 5 日々の新聞に目を通すこと。
- 6 図書館を活用すること。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ① 県立高校の社会科(「地・歴」、「公民」)教員及び管理職(校長)としての勤務経験
- ② 県教育委員会事務局での教育行政経験(主に人権教育を担当)並びに県総合教育センターの教育研修専門員としての指導経験(新採教員研修から校長・教頭研修まで)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ① 教職の意義や教師の役割、職務内容等について、学校現場での実務経験を元に、現実に即した指導に活かしている。
- ② 教育現場の諸課題、実際の学校と教師の姿をリアルに捉えさせるうえで、行政経験、教員研修指導経験が活かされている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R104 19R104	教育課程論	1年	秋	講義	2	田上富男
授業概要 教育課程は、学校教育の目的や目標を達成するために、総合的に組織した学校の教育計画である。この授業では、学習指導要領を基準として各学校で編成する教育課程の意義や編成の原理、方法等について学ぶとともに、その歴史的変遷や教育課程を支える教育行政や教育環境等について学ぶ。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義や役割、編成の基本原理・方法を理解することができる。 ・学習指導要領の変遷や教科書、法制度について理解することができる。(DP1) ・カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や方法について理解することができる。 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法 (時間)				
1	教育課程とは何か、子供は学校で何を学ぶのか、学校教育と教育課程の国家基準である学習指導要領について学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P1～11 を読みまとめる。(1.5)			
		事後	教育課程、学習指導要領について整理する。(2.5)			
2	教育課程とカリキュラムの違いを理解し、多様なカリキュラムとその類型について学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P17～34 を読み理解する。(2)			
		事後	カリキュラムの類型について整理する。(2)			
3	学校教育の目的と目標、それを達成するための教育課程と教育目標、教育内容、教育方法等について学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P47～53 を読み理解する。(2)			
		事後	教育課程と教育目標、教育内容、教育方法について整理する。(2)			
4	教育課程行政と教育課程経営、教育課程編成に関わる法制度、学校の授業に関する法令等について学ぶ。	事前	学習指導要領 P2～14 を読みまとめる。(1.5)			
		事後	教育課程の関する法制について整理する。(2.5)			
5	教科書とは何か、教科書使用と補助教材、我が国の教科書制度及びその沿革について学ぶ。	事前	教科書制度について調べておく。(1.5)			
		事後	教科書制度とその沿革について整理する。(2.5)			
6	戦前の教育の特徴と戦後の学習指導要領(昭和22年試案～昭和33年改訂)における教育課程について学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P149～151 を読みまとめる。(2)			
		事後	昭和 22～33 年の指導要領の特徴を整理する。(2)			
7	学習指導要領改訂(教育内容の現代化、ゆとり教育、新しい学力観、ゆとり教育と生きる力)における教育課程を学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P151～159 を読みまとめる。(2)			
		事後	教育課程の変遷について整理する。(2)			
8	現行の学習指導要領改訂の背景と基本方針、求められる資質・能力を反映した現行の教育課程について学ぶ。	事前	指導要領第1章総則 P19～28 を読みまとめる。(1.5)			
		事後	現行の教育課程を整理する。課題レポートを作成する。(2.5)			
9	潜在的カリキュラム(隠れたカリキュラム)を理解すると共に、学校組織文化や学級風土の影響等について学ぶ。	事前	学校組織文化と学級風土を調べておく。(1.5)			
		事後	潜在的カリキュラムについて整理する。課題レポートを作成する。(2.5)			
10	教育課程編成の理論(関係法令、基本原理、内容、方法、手順)と実践上の課題について学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P47～69 を読み理解する。(2)			
		事後	教育課程編成について整理する。(2)			
11	授業 DVD を視聴し、単元計画と授業設計、指導案を検討することにより、教育課程に基づく授業実践について学ぶ。	事前	単元計画、学習指導案について調べておく。(1.5)			
		事後	教育課程の授業実践について整理する。(2.5)			
12	教育評価と学習評価、集団に準拠した評価と目標に準拠した評価、個人内評価等、教育課程における評価を学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P77～93 を読み理解する。(2)			
		事後	教育評価について整理する。(2)			
13	指導要録と通知表、指導要録改訂と学習評価の変遷、学校評価等、教育評価制度について学ぶ。	事前	指導要録と通知表、学習評価と学校評価について調べておく。(2)			
		事後	教育評価制度について整理する。(2)			
14	カリキュラム・マネジメントとは何か、教科等横断的な教育内容の扱い、カリキュラム評価について学ぶ。	事前	指導要領解説総則編 P40～46 を読みまとめる。(1.5)			
		事後	カリキュラム・マネジメントについて整理する。期末テストに向けレジュメと参考文献等で復習する。(2.5)			
15	教育課程の根幹を成す学力及び学力観の変遷について学び、次期学習指導要領と今後の教育について展望する。	事前	これまでの授業について感想をまとめる。(1)			
		事後	期末試験に向けレジュメと資料等で復習する。(3)			

授業形式(アクティブラーニングの内容)

特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% 中間課題レポート 30% 授業への取組 10%

観点	S	A	B	C
・教育課程の意義や役割、 編成の基本原理・方法の理 解	完全に理解できてい る。	ほぼ完全に理解でき ている。	十分に理解できてい る。	一定程度理解できて いる。
・学習指導要領の変遷や教 科書、法制度についての理 解	完全に理解できてい る。	ほぼ完全に理解でき ている。	十分に理解できてい る。	努一定程度理解でき ている。
カリキュラム・マネジメントの 基本的な考え方や方法の理 解	完全に理解できてい る。	ほぼ完全に理解でき ている。	十分に理解できてい る。	一定程度理解できて いる。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』平成29年7月

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』平成29年7月

参考書等

毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付

山田恵吾・藤田祐介・貝塚茂樹・関根明伸著『教育課程に学ぶ』ミネルヴァ書房

田村知子著『カリキュラム・マネジメントの理論と実践』2022年 日本標準

履修上の注意・学修支援

授業中の課題には積極的に取り組み、指名されたらしっかり発言するなど、前向きな態度で受講してください。
話したいこと、何かわからないことがあったら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1981年～2021年 小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

[実務経験と授業科目との関連性]

教育課程に関する歴史や学問的理論に加え、学校現場(教員・校長)や行政機関での経験をもとに、実際の教育課程編成上の課題等を含め、具体的な授業内容を提供することができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R203 19R203	社会科教育法 I	2年	春	講義	2	寺内孝夫
授業概要 社会科教育法 I では、中学校社会科を担当する教師に必要な授業構成に関する基礎的概念を理解することを目標とする。本科目では、社会科教育の基盤を押さえるため、教科の歴史の変遷、諸外国の社会科教育、代表的授業論を学修した後、「中学校学習指導要領社会科地理的分野・歴史的分野」の構成内容を概観する。本科目の履修成果は、社会科教育法 II における教育現場の諸課題を踏まえた実践的力の育成の基礎となる。						
到達目標(学習の成果) 1 「中学校学習指導要領社会科地理的分野・歴史的分野」の目標及び主な内容並びに全体の構成内容を理解している。(DP1) 2 社会科地理的分野・歴史的分野に関する個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。(DP1) 3 社会科地理的分野・歴史的分野の学習評価の考え方を理解している。(DP1) 4 社会科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができ、中学校社会科地理的分野・歴史的分野に係る授業構想について、その略案を作成できる。(DP2) 5 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「社会科教育法」の概要:「社会科教育法 I・II」の学修内容、到達目標、評価基準、教科書等について学び、学修方法を身に付ける。	事前	学習内容をシラバスに目を通して確認しておく(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			
2	戦前の地理・歴史教育の特質:学制期から終戦直後までの地理・歴史教育の展開を概観し、その特質を理解するとともに、社会科教育成立の背景についての基本的知見を得る。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			
3	社会科の成立と展開:新制中学校・高等学校における社会科教育のねらいを、民主主義社会の樹立の観点から概観し、その果たした役割について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			
4	諸外国の社会科の動向:外国の社会科教育の動向を概観し、我が国の社会科・公民科教育との比較を通して、教科の意義や役割について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			
5	社会科の指導計画:社会の指導計画はどのような構成で作成したらよいか。基本的な考え方について理解し、学習指導案作成の際に活用できる知見を得る。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			
6	理解としての社会科授業:知識や概念の習得の前提は「理解」であるが、社会科における理解型授業の在り方について具体例を基に考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			
7	社会科地理授業の構成(1)地域構成:世界と日本の「地域構成」を大観する授業を構成する際の基本的知見と教材構成について具体例を基に実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			
8	社会科地理授業の構成(2)世界地誌:世界の諸地域について、六州の地域的特色を理解させるためには、どのような地理的事象をとりあげ、どのような主題を設定したらよいか、レポートを基に検討する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)			

9	社会科地理授業の構成(3)日本地誌:日本の諸地域を七区分し、様々な考察の仕方でも地域的特色をとらえさせる指導をどのように行ったらよいか、について検討する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
10	社会科地理授業の構成(4)地域調査:地理的認識を深めさせるとともに、調査を行う際の視点や方法をどのように指導したらよいか、について検討する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
11	社会科歴史授業の構成(1)前近代史:各時代の特色を大観的に学ぶための教材構成を、事例を素材として実践的に学修するとともに、歴史的思考力に関する基本的な知見を得る。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
12	社会科歴史授業の構成(2)近代史:近代の特色を大観的に学ぶための教材構成について具体的事例を素材として実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
13	社会科歴史授業の構成(3)現代史:現代の特色を大観的に学ぶための教材構成について具体的事例を素材として実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
14	社会科歴史授業の構成(4)地域史:地域の歴史を調査する学習指導を通して伝統や文化、地域や国家に関する理解や関心を高めるにはどのような教材を開発したらよいか、「宇都宮」を例に検討する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
15	社会科教育法Ⅰの学修のまとめ:社会科教育法Ⅰの学修の総括を通して、社会科教師として必要な基本的資質を確認するとともに、職業人として社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を身につける。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	これまでの授業を振り返り、試験に向けてのまとめや整理をする(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

○プレゼンテーション ～ 「アジア州の地域的特色を理解するための主題学習について」(第8講 レポートをもとに)

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)

レポート及び授業態度 30%

観点	S	A	B	C
学習指導要領の構成内容についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
授業構想に関する基礎的概念の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

中学校学習指導要領(平成29年告示352円)、高等学校学習指導要領(平成30年告示819円) 文部科学省
 中学校学習指導要領解説 社会編(平成29年告示189円) 文部科学省
 高等学校学習指導要領解説 公民編(平成30年告示1000円) 文部科学省

参考書等

中学校教科書『新編 新しい社会 地理』2025年 東京書籍
 中学校教科書『新編 新しい社会 歴史』2025年 東京書籍
 授業中にも適宜資料を配付する。

履修上の注意・学修支援

- 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。
- 2 遅刻・早退等不在時間計 20 分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。
- 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。
- 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。
- 5 日々の新聞に目を通すこと。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ① 県立高校の社会科(「地・歴」、「公民」)教員としての勤務経験
- ② 県教育委員会事務局での教育行政経験(主に人権教育を担当)並びに県総合教育センターの教育研修専門員としての指導経験(新採教員研修から校長・教頭研修まで)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ① 教科教育法の授業の中で、特に教育内容・指導方法など学校現場での実務経験を十分授業に活かしている。
- ② 教育行政で担当した人権教育(「人権学習の進め方」など)のノウハウや教育研修専門員として携わった教員研修の指導内容は、学習指導案の作成、授業構成の仕方など実践的教育として活かしている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R204 19R204	社会科・公民科教育法Ⅰ	2年	秋	講義	2	寺内孝夫

授業概要

社会科・公民科教育法Ⅰでは、中学校社会科及び高等学校公民科を担当する教師に必要な授業構成に関する基礎的概念を理解することを目標とする。

本科目では、「中学校学習指導要領社会科公民的分野」及び「高等学校学習指導要領公民科」の構成内容を概観する。本科目の履修成果は、社会科・公民科教育法Ⅱにおける教育現場の諸課題を踏まえた実践的力量的育成の基礎となる。

到達目標(学習の成果)

- 1 「中学校学習指導要領社会科公民的分野」、「高等学校学習指導要領公民科」の目標及び主な内容並びに全体の構成内容を理解している。(DP1)
- 2 社会科公民的分野及び公民科に関する個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。(DP1)
- 3 社会科公民的分野及び公民科の学習評価の考え方を理解している。(DP1)
- 4 社会科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができ、中学校社会科公民的分野、高等学校公民科に係る授業構想について、その略案を作成できる。(DP2)
- 5 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。(DP2)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	戦前の公民科教育の特質:学制期から終戦直後までの公民科教育の展開を概観し、その特質を理解するとともに、社会科教育成立の背景についての基本的知見を得る。	事前	学習内容をシラバスに目を通して確認しておく(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
2	社会科・公民科の成立と展開:昭和30年代から現在に至る中学校・高等学校における社会科教育・公民科教育の変遷を学ぶ中で、教科・科目の果たすべき役割と課題について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
3	公民科教育の基盤:公民科教育は「授業」を通して実現されるが、授業実践に際して教師はどのような点に留意して教育内容を構成したらよいのだろうか。基本的な考え方について理解する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
4	社会参画としての社会科・公民科授業:社会参画型授業のあり方について、留意点と課題を軸に具体例を踏まえて考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
5	社会科公民授業の構成(1)現代社会:現代社会をとらえる見方や考え方の学習に際して、授業をどう構成したらよいか、事例を基に実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
6	社会科公民授業の構成(2)経済:豊かなくらしとは何かの学習に際して、経済の基本原則を身近な例に則してどのように授業を構成したらよいか、実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
7	社会科公民授業の構成(3)政治:民主主義とは何かの学習に際して、政治の基本原則を身近な例に則してどのように授業を構成したらよいか、実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
8	社会科公民授業の構成(4)国際社会:世界平和のために何が出来るかの学習に際して、国際社会の諸課題に関心を持ち積極的に関与しようとする態度を育成するための授業構成について、実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
9	「現代社会」の授業構成「共に生きる社会」:他者と共に生きる	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)

	倫理について自覚を深めさせる授業構成について、実践的に学習する。		時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
10	教育現場におけるICT教育の実際～【教職現場学習】へ 宇都宮市立旭中学校を訪問し、ICT教育等の取組現状と課題について体験的に学習する。	事前	「教職現場学習実施要項」を熟読して臨むこと(2時間)
		事後	学習記録の整理(2時間)
11	「政治経済」の授業構成(1)政治分野:民主政治の本質を理解させるとともに、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる授業構成について、実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
12	「政治経済」の授業構成(2)経済分野:現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、経済についての基本的な見方や考え方を身につけさせる授業構成について、実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
13	「倫理」の授業構成(1)自己の課題:青年期の意義と課題を理解させ、自己の生き方が現代の倫理的課題と結びついていることをとらえさせる授業構成について、実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
14	「倫理」の授業構成(2)人間としての在り方生き方:先哲の基本的な考え方を通して、人間の存在や価値について思索を深めさせる授業構成について、実践的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
15	社会科・公民科教育法Ⅰの学修のまとめ:社会科・公民科教育法Ⅰの学修の総括を通して、社会科教師として必要な基本的資質を確認するとともに、職業人として社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を身につける。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(記事の概要と意見)(2時間)
		事後	これまでの授業を振り返り、試験に向けてのまとめや整理をする(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- プレゼンテーション ～ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業展開について (第2講 レポートをもとに)
- 学外研修【教職現場学習】(第10講)
学修内容:社会科の授業参観・特別支援教育の観察・ICT教育の現状と課題(講話)
- 学習指導案(略案)の作成と発表 ～ 第11講～第14講

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)

レポート及び授業態度 30%

観点	S	A	B	C
学習指導要領の構成内容についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
授業構想に関する基礎的概概念の理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

中学校学習指導要領(平成29年告示 352円)、高等学校学習指導要領(平成30年告示 819円) 文部科学省
 中学校学習指導要領解説 社会編(平成29年告示 189円) 文部科学省
 高等学校学習指導要領解説 公民編(平成30年告示 1000円) 文部科学省

参考書等

中学校教科書『新編 新しい社会 公民』2025年 東京書籍
 高校教科書『公共』2024年 東京書籍
 授業中にも適宜資料を配付する。

履修上の注意・学修支援

- 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。
- 2 遅刻・早退等不在時間計 20 分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。
- 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。
- 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。
- 5 日々の新聞に目を通すこと。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ① 県立高校の社会科(「地・歴」、「公民」)教員としての勤務経験
- ② 県教育委員会事務局での教育行政経験(主に人権教育を担当)並びに県総合教育センターの教育研修専門員としての指導経験(新採教員研修から校長・教頭研修まで)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ① 教科教育法の授業の中で、特に教育内容・指導方法など学校現場での実務経験を十分授業に活かしている。
- ② 教育行政で担当した人権教育(「人権学習の進め方」など)のノウハウや教育研修専門員として携わった教員研修の指導内容は、学習指導案の作成、授業構成の仕方など実践的教育として活かしている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R301 19R301	社会科教育法Ⅱ	3年	春	講義	2	本年度不開講
授業概要 社会科教育法Ⅰの履修成果を踏まえて、中学校社会科地理的分野及び歴史的分野を担当する教師に必要な力量の育成を目標とする。そのため、両分野の内容構成と指導方法をはじめ授業構成論、学習指導論の講義・演習、事例を沿った学習指導案づくり、模擬授業の実施・分析、評価問題の作成等について、教育現場の様々な課題を見通しながら実践的力量の育成を目指した学修を進める。						
到達目標(学習の成果) 1 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。(DP1) 2 地理・歴史教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。(DP1) 3 地理・歴史教育を担当する教師に必要な授業展開に関する理論と方法の修得のもと、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。(DP2) 4 地理学習・歴史学習の成果を適切に評価する方法の基礎を修得するとともに、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。(DP2) 5 地理・歴史教育における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組む力量を身に付けている。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	地理的分野の内容と指導方法:地理カリキュラムの内容構成を概観するとともに、地理的な見方・考え方の育成を図る指導方法について考察する。	事前	学習内容をシラバスに目を通して確認しておく(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)			
2	地理的分野の授業構成と演習(情報機器及び教材の効果的な活用法):地理的分野の授業構成を検討するため、単元計画・授業計画を作成し、情報機器及び教材の効果的な活用法について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)			
3	地理的分野の学習指導と演習:地理的分野の学習活動として、「見学・調査」を実施する意義と課題について事例的に考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)			
4	地理的分野の学習指導案づくり:20分個別模擬授業を実施するための学習指導案を作成する。特に、授業導入部の役割、ねらい等について検討しその意義を認識する。	事前	学習指導案の作成(2時間)			
		事後	指導案の検討(2時間)			
5	模擬授業の実施(20分授業):導入部を軸とする20分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修する。	事前	学習指導案の作成(2時間)			
		事後	指導案の検討(2時間)			
6	模擬授業の授業分析と改善:20分個別模擬授業についてのワークショップ形式による授業分析を実施し、それぞれの指導上の課題を抽出し、改善案作成の一助とする。	事前	学習指導案の作成(2時間)			
		事後	指導案の検討(2時間)			
7	地理的分野の学習評価と評価方法:地理的分野の学習評価と評価方法について、評価基準にそった評価問題(模擬授業の内容を評価する)を作成する中で具体的に考察する。	事前	学習指導案の作成(2時間)			
		事後	指導案の検討(2時間)			
8	歴史的分野の内容と指導方法:歴史カリキュラムの内容構成を概観するとともに歴史的な見方・考え方の育成を図る指導方法について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)			
9	歴史的分野の授業構成と演習(情報機器及び教材の効果的な活用法):歴史的分野の授業構成を検討するため、単元計画・授業計画を作成し、情報機器及び教材の効果的な活用法について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)			
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)			
10	授業におけるICTの活用:ICTを活用した学習の取組事例から学ぶ。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)			
		事後	学習記録の整理(2時間)			

11	歴史的分野の学習指導案づくり:20分個別模擬授業を実施するための学習指導案を作成する。特に、授業展開部の役割、ねらい等について検討しその意義を認識する。	事前	学習指導案の作成 (2時間)
		事後	指導案の検討 (2時間)
12	模擬授業の実施 (30分授業):展開部を軸とする20分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修する。	事前	学習指導案の作成 (2時間)
		事後	指導案の検討(2時間)
13	模擬授業の授業分析と改善:20分個別模擬授業についてのワークショップ形式による授業分析を実施し、それぞれの指導上の課題を抽出し、改善案作成の一助とする。	事前	学習指導案の作成 (2時間)
		事後	指導案の検討 (2時間)
14	歴史的分野の学習評価と評価方法:歴史的分野の学習評価と評価方法について、評価基準にそった評価問題(模擬授業の内容を評価する)を作成する中で具体的に考察する。	事前	学習指導案の作成 (2時間)
		事後	指導案の検討 (2時間)
15	社会科教育法Ⅱの学修のまとめ:社会科教育法Ⅱの学修の総括を通して、社会科教師として必要な基本的資質を確認するとともに、職業人として積極的に社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を身につける。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見) (2時間)
		事後	これまでの授業を振り返り、試験に向けてのまとめや整理をする (2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- 模擬授業(実習) 第5講・第6講(地理的分野)
- " 第12講・第13講(歴史的分野)
- 観察実習～来年の教育実習の事前指導の一環として、4年生の教育実習校を訪問し、研究授業等を参観する。

成績評価の方法・基準(%表記)

- 定期試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)
- 模擬授業の発表内容及び授業への取り組み態度 30%

観点	S	A	B	C
学習指導案の構成を理解し、指導案を作成できる。	完全に理解し、作成できる。	ほぼ完全に理解し、作成できる。	十分に理解し、作成できる。	一定程度理解し、作成できる。
模擬授業の実施を通して、授業改善の視点を身に付けている。	完全に身に付けている。	ほぼ完全に身に付けている。	十分に身に付けている。	一定程度身に付けている。

教科書

- 中学校学習指導要領(平成29年告示352円)、高等学校学習指導要領(平成30年告示819円) 文部科学省
 中学校学習指導要領解説 社会編(平成29年告示189円) 文部科学省
 高等学校学習指導要領解説 公民編(平成30年告示1000円) 文部科学省

参考書等

- 中学校教科書『新編 新しい社会 地理』2025年 東京書籍
 中学校教科書『新編 新しい社会 歴史』2025年 東京書籍
 授業中にも適宜資料を配付する。

履修上の注意・学修支援

- 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。
- 2 遅刻・早退等不在時間計20分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。
- 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。
- 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。
- 5 日々の新聞に目を通すこと。

実務経験のある教員による授業科目

- ① 県立高校の社会科(「地・歴」、「公民」)教員としての勤務経験
- ② 県教育委員会事務局での教育行政経験(主に人権教育を担当)並びに県総合教育センターの教育研修専門員としての指導経験(新採教員研修から校長・教頭研修まで)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ① 教科教育法の授業の中で、具体的な指導方法や技術など授業実践力を育てる上で現場の経験を十分授業に活かしている。
- ② 教育行政で担当した人権教育(「人権学習の進め方」など)のノウハウや教育研修専門員として携わった教員研修の指導内容は、学習指導案の作成、授業構成の仕方、模擬授業分析など実践的教育として活かしている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R302 19R302	社会科・公民科教育法Ⅱ	3年	秋	講義	2	本年度不開講

授業概要

社会科・公民科教育法Ⅰの履修成果を踏まえて、中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科を担当する教師に必要な力量の育成を目標とする。そのため、それぞれの内容構成と指導方法をはじめ授業構成論、学習指導論の講義・演習、事例に沿った学習指導案づくり、模擬授業の実施・分析、評価問題の作成等について、教育現場の様々な課題を見通しながら実践的力量の育成を目指した学修を進める。

到達目標(学習の成果)

- 1 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。(DP1)
- 2 公民教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。(DP1)
- 3 中学校・高等学校において公民教育を担当する教師に必要な授業展開に関する理論と方法の修得のもと、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。(DP2)
- 4 公民学習の成果を適切に評価する方法の基礎を修得するとともに、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。(DP2)
- 5 公民教育における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組む力量を身に付けている。(DP3)

授業計画

回	学修内容	授業外における学修方法	
1	公民的分野の内容と指導方法:公民カリキュラムの内容構成を概観するとともに、政治的・経済的な見方・考え方の育成を図る指導方法について考察する。	事前	学習内容をシラバスに目を通して確認しておく(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
2	公民的分野の授業構成と演習(情報機器及び教材の効果的な活用法):公民的分野の授業構成を検討するため、単元計画・授業計画を作成し、情報機器及び教材の効果的な活用方法について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
3	公民的分野の学習指導と演習:公民的分野の学習活動として、「ディベート・討論」を実施する意義と課題について事例的に考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
4	公民的分野の学習指導案づくり:40分個別模擬授業を実施するための学習指導案を作成する。特に、終結部の役割、ねらい等について検討しその意義を認識する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
5	模擬授業の実施(40分授業):終結部も含めた40分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
6	模擬授業の実施(40分授業)模擬授業の授業分析と改善:終結部も含めた40分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
7	公民的分野の学習評価と評価方法:公民的分野の学習評価と評価方法について、評価基準にそった評価問題(40分模擬授業の内容を評価する)を作成する中で具体的に考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
8	公民科の授業方法と授業構成:公民科の授業構成を検討するため、単元計画・授業計画を作成し、教材の活用方法について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておく(2時間)
9	授業におけるICTの活用:動画コンテンツ等ICTの効果的な活用を通して、より充実した指導内容・方法について考察する。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	学習記録の整理(2時間)
10	公民科の学習指導案づくり:50分個別模擬授業を実施するための学習指導案を作成する。特に、授業計画を総合的に検討し、生徒にわかりやすい授業となるよう工夫する。	事前	学習指導案の作成(2時間)
		事後	指導案の検討(2時間)

11	模擬授業の実施(50分授業)と授業分析(1):総合的な50分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。	事前	学習指導案の作成(2時間)
		事後	指導案の検討(2時間)
12	模擬授業の実施(50分授業)と授業分析(2):総合的な50分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。	事前	学習指導案の作成(2時間)
		事後	指導案の検討(2時間)
13	模擬授業の実施(50分授業)と授業分析(3):総合的な50分個別模擬授業を実施しながら、板書・発問・資料活用・評価等について体験的に学修するとともに、授業分析を通して、各自の課題を明確化する。	事前	学習指導案の作成(2時間)
		事後	指導案の検討(2時間)
14	公民科の学習評価と評価方法:公民科の学習評価と評価方法について、評価基準にそった評価問題(50分模擬授業の内容を評価する)を作成する中で具体的に考察する。	事前	学習指導案の作成(2時間)
		事後	指導案の検討(2時間)(2時間)
15	社会科・公民科教育法Ⅱの学修のまとめ:社会科・公民科教育法Ⅱの学修の総括を通して、社会科教師として必要な基本的資質を確認するとともに、職業人として積極的に社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を身につける。	事前	「新聞を読んで」のカード作成(概要と意見)(2時間)
		事後	これまでの授業を振り返り、試験に向けてのまとめや整理をする(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- 公民学習における「現代的課題」を踏まえた模擬授業(実習) 第5講・第6講
- 模擬授業(実習) 第11講～第13講(公民科)

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)

模擬授業の発表内容及び授業への取り組み態度 30%

観点	S	A	B	C
学習指導案の構成を理解し、指導案を作成できる。	完全に理解し、作成できる。	ほぼ完全に理解し、作成できる。	十分に理解し、作成できる。	一定程度理解し、作成できる。
模擬授業の実施を通して、授業改善の視点を身につけている。	完全に身に付けている。	ほぼ完全に身に付けている。	十分に身に付けている。	一定程度身に付けている。

教科書

中学校学習指導要領(平成29年告示 352円)、高等学校学習指導要領(平成30年告示 819円) 文部科学省
 中学校学習指導要領解説 社会編(平成29年告示 189円) 文部科学省
 高等学校学習指導要領解説 公民編(平成30年告示 1000円) 文部科学省

参考書等

中学校教科書『新編 新しい社会 公民』2025年 東京書籍
 高校教科書『公共』2024年 東京書籍
 授業中にも適宜資料を配付する。

- 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。
- 2 遅刻・早退等不在時間計20分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。
- 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。
- 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。
- 5 日々の新聞に目を通すこと。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ① 県立高校の社会科(「地・歴」、「公民」)教員としての勤務経験
- ② 県教育委員会事務局での教育行政経験(主に人権教育を担当)並びに県総合教育センターの教育研修専門員としての指導経験(新採教員研修から校長・教頭研修まで)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ① 教科教育法の授業の中で、具体的な指導方法や技術など授業実践力を育てる上で現場の経験を十分授業に活かしている。
- ② 教育行政で担当した人権教育(「人権学習の進め方」など)のノウハウや教育研修専門員として携わった教員研修の指導内容は、学習指導案の作成、授業構成の仕方、模擬授業分析など実践的教育として活かしている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R205 19R205	道徳教育の指導法	2年	秋	講義	2	田上富男
授業概要 道徳教育の意義、基本理念及び内容等について学ぶ。また、主たる道徳教育の場である道徳科の目標、内容、指導計画等についての理解を深め、実践的な指導方法を学ぶ。さらに学校の教育活動全体を通じての道徳教育の在り方についても考察する。						
到達目標(学習の成果) ・学校教育における道徳教育の意義、内容やしぐみについて理解することができる。 ・道徳科の目標、内容、指導計画等について理解を深め、授業実践上の具体的な技法等を習得することができる。 ・学校の教育活動全体における道徳教育及び道徳科の指導の在り方について理解することができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法(時間)				
1	学校における日常の道徳教育の在り方、戦前の道徳教育、戦後の道徳教育と「道徳の時間」の変遷を学ぶ。	事前	道徳とは何かについて考えをまとめておく。(1)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(3)			
2	児童生徒の今日的な課題を理解すると共に、道徳教育の意義と目的、「特別の教科 道徳」創設の背景を学ぶ。	事前	指導要領解説1～7頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2.5)			
3	ピアジェの発達理論とコールバーグの道徳性発達理論を学び、児童生徒の道徳性の発達について理解する。	事前	子どもの成長・発達について調べておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2.5)			
4	学習指導要領における道徳教育の目標と基本的な考え方、特別の教科道徳の目標と内容、道徳的価値について学ぶ。	事前	指導要領解説8～18頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
5	道徳科と各教科の関連、考え議論する道徳、問題解決的学習と体験的学習等、特別の教科道徳の指導について学ぶ。	事前	指導要領解説90～101頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2.5)			
6	道徳科の指導内容「A 主として自分自身に関わること」の各項目の概要及び指導の要点について学ぶ。	事前	指導要領解説24～35頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	読み物資料について指導の要点をまとめる。(2.5)			
7	道徳科の指導内容「B 主として人との関わりに関すること」の各項目の概要及び指導の要点について学ぶ。	事前	指導要領解説44～69頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	読み物資料について指導の要点をまとめる。(2)			
8	道徳科の指導内容「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものと関わりに関すること」の各項目の概要及び指導の要点について学ぶ。	事前	指導要領解説36～43頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	読み物資料について指導の要点をまとめる。課題レポートを作成する。(2.5)			
9	道徳教育推進教師の位置付けと役割、道徳教育の全体計画及び道徳科の年間指導計画の作成について学ぶ。	事前	指導要領解説70～75頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。課題レポートを作成する。(2.5)			
10	道徳の授業における多様な指導法を学ぶと共に、授業ビデオを視聴し、道徳科の授業の実際について理解する。	事前	指導要領解説76～85頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	視聴した授業の要点や感想等をまとめる。(2.5)			
11	資料分析の仕方を学び、実際の学習指導案を検討すると共に、学習指導案の書き方について学ぶ。	事前	指導要領解説99～108頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2.5)			
12	板書の意義と目的、板書計画の重要性を理解し、模擬授業のための授業構想及び学習指導案の作成(下書き)を行う。	事前	自分が受けた道徳の授業の概要をまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
13	学習指導案の完成、模擬授業実施のための教材作成、体験的活動等の整理、模擬授業の実施	事前	学習指導案を作成(清書)しておく。(2.5)			
		事後	模擬授業についての要点等を整理する。(1.5)			
14	模擬授業を実施し、その後授業検討会を行う。(※13回と14回は受講者数によって模擬授業の時間が異なる)	事前	道徳科の授業の要点等をまとめておく。(1.5)			
		事後	模擬授業についての要点等を整理する。(2.5)			
15	学習の評価と道徳科の評価について学ぶと共に、道徳教育における課題とこれからの道徳教育について考える。	事前	指導要領解説109～118頁を読みまとめておく。(1)			
		事後	期末試験に向けてレジュメと資料等で復習する。(3)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 学習指導案作成における実習や模擬授業実施後のグループディスカッション						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% 課題レポートと学習指導案 30% 授業への取組 10%

観点	S	A	B	C
学校教育における道德教育の意義、内容、しくみについての理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
道德科の目標、内容、指導計画等についての深い理解と授業実践上の具体的な技法等の習得	完全に習得できている。	ほぼ完全に習得できている。	十分に習得できている。	一定程度習得できている。
学校の教育活動全体における道德教育及び道德科の指導の在り方についての理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』教育出版 156円+税

参考書等

文部科学省『私たちの道德 中学校』廣済堂あかつき

中学校道德科『新しい道德 1～3』東京書籍

中学校道德科『中学道德 あすを生きる1～3』日本文教

毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付

履修上の注意・学修支援

授業中の課題には積極的に取り組み、指名されたらしっかり発言するなど、前向きな態度で受講してください。

話したいこと、何かわからないことがあったら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1981年～2021年 小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

[実務経験と授業科目との関連性]

学校現場(教員・校長)や行政機関での経験をもとに、道德教育の道德教育の意義や内容等、実際の道德教育の在り方等に対し、学校で行われている事例を示すなど具体的な授業内容とする。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R206 19R206	総合的な学習の時間の指導法	2年	秋	講義	2	山口 宏
授業概要 総合的な学習の時間の意義等について学び、自ら課題を見付け、よりよく課題を解決するための資質・能力の育成を目指すための指導計画の作成、具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を具体的な実践事例をもとに考察し、「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善の方法を身に付ける。さらに、具体的な単元計画等を活用しながら、探究的な見方・考え方を働かせること、横断的・総合的な学習を行うこと、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくこと等についても考察を深めていく。						
到達目標(学習の成果) 1 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解することができる。 2 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。 3 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解することができる。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	総合的な学習の時間の目標(1) ・目標の構成と趣旨、改訂の経緯	事前	教科書第1章をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
2	総合的な学習の時間の目標(2) ・探究的な見方・考え方、育成を目指す資質・能力	事前	教科書第2章をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
3	各学校において定める目標及び内容 ・各学校において定める目標及び内容の取り扱い	事前	教科書第3章をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
4	指導計画の作成(1) ・指導計画の作成に当たっての配慮事項	事前	教科書第4章第1節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
5	指導計画の作成(2) ・内容の取扱いについての配慮事項	事前	教科書第4章第2節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
6	指導計画の作成(3) ・全体計画と年間指導計画、各学校において定める目標	事前	教科書第5章第1・2節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
7	指導計画の作成(4) ・各学校が定める内容、育成を目指す具体的な資質・能力	事前	教科書第5章第3節1～3を読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
8	指導計画の作成(5) ・考えるための技法の活用、活用の意義、活用の仕方	事前	教科書第5章第3節4、第4節を読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
9	指導計画の作成(6) ・年間指導計画・単元計画の作成と運用、各教科との関連	事前	教科書第6章をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
10	総合的な学習の時間の学習指導(1) ・学習指導の基本的な考え方、生徒の主体性の重視	事前	教科書第7章第1節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
11	総合的な学習の時間の学習指導(2) ・探究的な学習の過程における主体的・対話的で深い学びの視点	事前	教科書第7章第2節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
12	総合的な学習の時間の学習指導(3) ・探究的な学習の指導のポイント、探究的学習過程、他者との協働	事前	教科書第7章第3節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
13	総合的な学習の時間の評価 ・学習評価の充実、生徒の学習状況の評価、教育課程の評価	事前	教科書第8章をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
14	総合的な学習の時間を充実させる体制づくり(1) ・校内組織の整備、授業時数の確保と弾力的な授業時数の運用	事前	教科書第9章第1～3節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
15	総合的な学習の時間を充実させる体制づくり(2) ・校内の環境整備、外部との連携の構築	事前	教科書第9章第4・5節をしっかりと読み込んでおく。(1時間)			
		事後	配付資料をもとに用語や学修事項の復習をする。(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) ・必要に応じて、グループワークや課題解決型の話し合い活動を授業の中に取り入れます。						

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験(筆記試験)(60%) + 提出物(20%) + 授業への取り組み(20%)で評価する。

観点	S	A	B	C
総合的な学習の時間の意義や目標・内容の考え方を理解すること	完全に到達目標を達成している。	ほぼ完全に到達目標を達成している。	十分に到達目標を達成している。	一定程度到達目標を達成している。
指導計画の作成及び実現に必要な基礎的な能力を習得すること	完全に到達目標を達成している。	ほぼ完全に到達目標を達成している。	十分に到達目標を達成している。	一定程度到達目標を達成している。
指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解すること	完全に到達目標を達成している。	ほぼ完全に到達目標を達成している。	十分に到達目標を達成している。	一定程度到達目標を達成している。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 総合的な学習の時間編』(東山書房 ¥209 円+税)

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成 30 年度告示)解説 総合的な学習の時間編』(学校図書 ¥270 円+税)

参考書等

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間

(国立教育政策研究所 935 円+税)

履修上の注意・学修支援

- 1 積極的・主体的な態度で受講してください。
- 2 20分以上の遅刻は欠席とみなします。
- 3 定期試験受験資格として2/3以上の出席を要します。

[実務経験の概要]

- ・栃木県公立中学校教諭として 17 年間勤務
- ・栃木県教育委員会事務局での教育行政経験、および独立行政法人教員研修センター主任指導主事・主幹としての指導経験

[実務経験と授業科目との関連性]

- ・総合的な学習の時間の意義や教育課程における役割、および指導計画や指導と評価の考え方等について、実務経験に基づき講義の中で具体的な事例を示しながら解説を行います。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R207	教育とICT活用	2年	集中	講義	1	溜池善裕
授業概要 各種情報機器の概要と活用方法について、1)その概略を説明するとともに、2)子供たちを成長させる視点からそれらが教育的に活用されている事例等を検討し、3)それがよくあらわれている公立学校の指導計画ならびに指導案それに基づく授業記録やそれによって表れた児童・生徒の作文やノート等を詳細に分析・考察することを通して、学校における各種情報機器の活用の「適切さ」とは何かを考え、場面を考えた実施を想定し、簡単な模擬的指導を行う。						
到達目標(学習の成果) ①子供の成長という視点でICTの活用を考えた時、どのような活用方法があるかについて考えることができる。 ②ICT機器やアプリケーションの操作方法を習得し、教育現場での活用の意義や問題点について具体的に述べることができる。 ③ICT機器を効果的に活用した学習指導および校務を想定することができるようになる。 ④各教科の特性を生かした指導方法(デジタル教材の作成・活用を含む)を理解し、簡単な模擬的指導を行うことができる。 ⑤教育における情報モラルについて簡単に説明することができる。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	授業への導入と使用機器等の確認	事前	使用機器の操作方法を確認する(1時間)			
		事後	使用機器を使ってアプリケーションを操作する(1時間)			
2	ICT機器を使ってみよう:タブレットを使って学習を作ってみる	事前	タブレットやアプリケーションの操作方法を確認する(1時間)			
		事後	自分で操作してレポートを作成する(1時間)			
3	ICTの種類:レポートを紹介し合おう	事前	編集したレポートを確認する(1時間)			
		事後	レポートに何が不足していたのかを考え整理する(1時間)			
4	授業におけるICT機器の位置付け:観念的理解・具体的理解と子供の成長	事前	ICT機器にはどんなものがあるか確認する(1時間)			
		事後	子供の成長とICT機器の関係を考える(1時間)			
5	ICTの活用と情報モラル:情報モラル・情報セキュリティ	事前	情報モラルや情報セキュリティについて確認する(1時間)			
		事後	情報モラルの欠如の事例を調べる(1時間)			
6	プレゼンテーション:発表(共同学習)されたものからどうやって全体の学習に発展させていくか	事前	共同学習とはなにかについて調べる(1時間)			
		事後	問題解決学習と共同学習との関係について考える(1時間)			
7	遠隔授業の現状:Web会議やドキュメントを共有した学習指導の意義と問題点	事前	離島等の遠隔授業について確認する(1時間)			
		事後	遠隔授業の具体的な方法を考える(1時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし。						

成績評価の方法・基準(%表記)

小テスト(70%), 最終レポート(30%)

観点	S	A	B	C
授業における ICT 機器の 効果的活用に関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
情報モラルに関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
情報セキュリティに関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

必要に応じて, 資料を配布する。

参考書等

「文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)」(東山書房)397 円

履修上の注意・学修支援

積極的に参加してください。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R208 19R207	特別活動の指導法	2年	春	講義	2	田上富男
授業概要 学校教育における特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して資質・能力を育成する」ことを目標としており、授業では、特別活動の指導の視点となる「人間形成・社会参画・自己実現」についての理解を深めるとともに、特別活動の実践的な指導の基礎となる事項を学ぶ。						
到達目標(学習の成果) ・学習指導要領における特別活動の教育的意義及び特別活動の成立、歴史的変遷について理解することができる。 ・学級活動、クラブ活動(小学校)、児童会・生徒会活動、学校行事の目標及び内容について理解することができる。 ・話し合い活動における合意形成やそれに基づく意思決定の過程、自主的・実践的な活動、自発的・自治的な活動等の特別活動における基本的な指導の在り方を習得できる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法(時間)				
1	特別活動とは何か、教科学習との違いは何か等、学校における特別活動と学習指導要領上の位置付けについて学ぶ。	事前	運動会と文化祭の教育的意義をまとめておく。(1)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(3)			
2	戦前の特別活動、学習指導要領と特別活動の変遷、これまでの歴史に見る特別活動の課題について学ぶ。	事前	戦前の特別活動について調べておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2.5)			
3	学習指導要領における特別活動の目標、教育基本法と特別活動の関連等、特別活動の教育的意義について学ぶ。	事前	指導要領解説 11～20 頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
4	教育課程の編成と特別活動、特別活動の全体計画の作成、学級活動の年間指導計画の作成について学ぶ。	事前	指導要領解説 113～119 頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
5	特別活動における主体的、対話的で深い学び、生徒会活動及び学校行事の年間計画の作成について学ぶ。	事前	指導要領解説 80～85、104～108 頁をまとめる。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
6	学級活動の内容(1)の指導及び学習過程(合意形成のための話し合い活動と意思決定につながる指導)について学ぶ。	事前	指導要領解説 40～50 頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
7	学級活動の内容(2): 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全についての指導を学ぶ。	事前	指導要領解説 50～57 頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
8	キャリア教育について学び、学級活動の内容(3): 一人一人のキャリア形成と自己実現の指導について学ぶ。	事前	指導要領解説 57～62 頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	授業内容を整理し、課題レポートを作成する。(2.5)			
9	学級活動の年間指導計画と授業の在り方、学級活動の授業設計の仕方、学習指導案の書き方について学ぶ。	事前	指導要領解説 62～73 頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	学級活動内容(2)の学習指導案を作成する。(2.5)			
10	学級活動内容(1)の授業 DVD を視聴し、授業における教師の役割や生徒の話し合い活動等について授業研究を行う。	事前	学級活動の内容(1)を整理しておく。(1.5)			
		事後	視聴した授業のポイントを整理する。(2.5)			
11	学級活動内容(2)の授業 DVD を視聴し、授業における教師の指導の在り方、生徒の発言等について授業研究を行う。	事前	学級活動の内容(2)を整理しておく。(1.5)			
		事後	視聴した授業のポイントを整理する。(2.5)			
12	生徒会活動の指導の在り方及び学校行事の運営と指導の在り方、家庭、地域、関係機関との連携について学ぶ。	事前	指導要領解説 74～79 頁を読みまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2.5)			
13	クラブ活動の位置付けと指導、部活動の教育的意義、特別活動と部活動の関連、部活動の課題について学ぶ。	事前	指導要領解説 92～103 頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
14	特別活動と各教科、総合的な学習の時間との関連及び特別活動と学級経営、生徒指導との関連について学ぶ。	事前	指導要領解説 113～124 頁を読みまとめておく。(2)			
		事後	レジュメと資料で授業内容を整理する。(2)			
15	特別活動の評価と指導要録への記入の仕方について学び、特別活動における課題、特別活動の今後の展望を考える。	事前	指導要領解説 134～138 頁を読みまとめておく。(1)			
		事後	期末試験に向けてレジュメと資料等で復習する。(3)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 授業研究におけるグループ・ディスカッション						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60% 課題レポートと学習指導案 30% 授業への取組 10%

観点	S	A	B	C
学習指導要領における特別活動の教育的意義及び特別活動の成立、歴史的変遷についての理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分理解できている。	一定程度理解できている。
学級活動、クラブ活動(小学校)、児童会・生徒会活動、学校行事の目標及び内容についての理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分理解できている。	一定程度理解できている。
話し合い活動における合意形成やそれに基づく意思決定の過程、自主的・実践的な活動、自発的・自治的な活動等の特別活動における基本的な指導の在り方の習得	完全に習得できている。	ほぼ完全に習得できている。	十分習得できている。	一定程度習得できている。

教科書

文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編」東山書房 275円+税

参考書等

毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付

履修上の注意・学修支援

授業中の課題には積極的に取り組み、指名されたらしっかり発言するなど、前向きな態度で受講してください。
話したいこと、何かわからないことがあったら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1981年～2021年 小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

[実務経験と授業科目との関連性]

教員・校長としての学校現場や教育行政機関での経験から、特別活動の基本的な考え方や指導法等について、学校現場の実態を踏まえて、具体的な実例を示しながら講義を実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R209 19R208	教育方法学	2年	秋	講義	2	遠藤忠
授業概要 中学校や高等学校における教育の目的・目標・内容の適切な実現を目指した指導方法の基本的な在り方について講義する。						
到達目標(学習の成果) 1. 学習と教育の関係について理解する。 2. 教育目的・目標・教育内容と教育方法の関係について理解する。 3. 生徒指導、学業指導、進路指導、教育評価と教育方法の関係について理解する。 4. 教材概念を理解し、情報技術を含めて教材の作成、利活用の基本的方法を習得する。 5. 教科指導と学級担任の仕事に興味関心を持つ。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	教えるとは何か①。『学び』から教育を捉える。	事前	指定の参考文献を準備。(2時間)			
		事後	提出された課題に取り組む。(2時間)			
2	教えるとは何か②。教えるという行為の構造について。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
3	学習指導と生徒指導。世界と自分への問いと学びの指導。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
4	教育方法の根拠①、教育目的。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
5	教育方法の根拠②、主体・動機。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
6	教育方法の根拠③、教育内容・教材。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
G	教材とは何か①、学習成立の条件。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
8	教材とは何か②、よい教材、悪い教材。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
9	教科書とは何か①、その歴史。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
10	教科書とは何か②、その法制と本質。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理(ノート点検)。(2時間)			
11	学習と集団①、学級の成立。学力保証と学習意欲。	事前	小レポート作成。(2時間)			
		事後	総括レポート作成(2時間)			
12	学習と集団②、集団による学び。響きあう対話、気づきと思考。	事前	レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理。(2時間)			
13	学習と集団③、集団から学ぶこと。一人では分からないことできないこと。	事前	レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理。(2時間)			
14	教育評価の意味、仕組み、役割。	事前	レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理。(2時間)			
15	生きる力、学ぶ力を育てるために。	事前	レポート作成。(2時間)			
		事後	学習内容整理。最終レポート作成。(2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 教育内容の全体的、構造的、動的把握を目指し、多視点的な問を中心に深い思考を活性化し、授業中に適宜グループワーク、ディスカッションなどを行い、主体的で対話的な授業を目指す。						

成績評価の方法・基準(%表記)

最終レポート 60%、中間レポート 30%、授業態度 10%。

観点	S	A	B	C
教育目的と教育方法の関係についての理解。	優れた理解と洞察	優れた理解を獲得している。	良好な理解を獲得している。	一定程度理解している。
教育方法と教材、動機の関係についての理解。	優れた理解と洞察	優れた理解を獲得している。	良好な理解を獲得している。	一定程度理解している。
教育方法と教育評価の関係についての理解。	優れた理解と洞察	優れた理解を獲得している。	良好な理解を獲得している。	一定程度理解している。

教科書

文部科学省平成 29 年告示『中学校学習指導要領』 東山書房、244 円。

参考書等

文部科学省平成 29 年告示『中学校学習指導要領 解説総則編』、文部科学省ホームページ

履修上の注意・学修支援

授業中、多数の資料を配付するので、ノートともにファイルし、整理しておくこと。教科書とともにレポート作成の際の重要な資料となるはずである。

毎時の講義テーマを確認し、問題意識を持って受講すること。

質問等訊きたいことがあれば、ためらわず相談すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R210 19R209	生徒・進路指導論	2年	春	講義	2	田上富男
授業概要 学校教育において、生徒指導と進路指導はともに「生きる力」を育む上で重要な役割を担っている。本講義では、両者の意義、理論、方法等について、具体的事例を通して理解を深め、組織的に生徒指導、進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識や実践的方法を身に付ける。						
到達目標(学習の成果) ・生徒指導及び進路指導・キャリア教育についての基礎的な知識を理解することができる。 ・理論に基づいた生徒支援や校内体制の在り方について必要な知識・技術を習得することができる。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法(時間)				
1	生徒指導の意義や定義、生徒指導の3つの機能、生徒指導の目的・目標、考え方、生徒指導の課題等について学ぶ。	事前	自身の中学校・高等学校での生徒指導についてまとめておく。(1)			
		事後	レジュメと生徒指導提要 11～15 頁を整理する。(3)			
2	教科指導における生徒指導とは何か、道徳、特活における生徒指導とは何か等、教育課程における生徒指導を学ぶ。	事前	学校の教育課程についてまとめておく。(1)			
		事後	レジュメと生徒指導提要 39～66 頁を整理する。(3)			
3	思春期・青年期の特徴を踏まえた生徒指導を事例を通して学ぶと共に、生徒指導の構造について学ぶ。	事前	思春期・青年期の特徴について調べておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料を整理する。(2.5)			
4	生徒を理解することの重要性を知り、生徒理解の方法を実際に体験すると共に、事例研究の実際について学ぶ。	事前	生徒理解とはどういうことかをまとめておく。(1)			
		事後	レジュメと生徒指導提要 39～66 頁を整理する。(3)			
5	栃木県の求める生徒指導、チーム学校による生徒指導、生徒指導体制の在り方、生徒指導全体計画について学ぶ。	事前	栃木県の生徒指導について調べておく。(1.5)			
		事後	レジュメと生徒指導提要 68～79 頁を整理する。(2.5)			
6	学級経営と生徒指導、学級における教育相談と教育相談年間計画、個と集団の相補関係の指導について学ぶ。	事前	良い学級とはどんな学級か考えをまとめておく。(1)			
		事後	レジュメと生徒指導提要 80～89 頁を整理する。(3)			
7	不登校と問題行動の現状、不登校の理解と対応、校内支援体制について学び、不登校事例を通して理解を深める。	事前	不登校について考えをまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと生徒指導提要 120～139 頁を整理する。(2.5)			
8	いじめ問題の現状、いじめの定義の変遷、いじめ防止対策推進法の理解と重大事態への対応について学ぶ。	事前	いじめについて考えをまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと生徒指導提要 39～66 頁を整理する。課題レポートを作成する。(2.5)			
9	職業と進路、職業指導・進路指導の定義とその変遷、進路指導の役割、進路指導とキャリア教育の関係について学ぶ。	事前	進路指導について考えをまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料を整理する。課題レポートを作成する。(2.5)			
10	学校における進路指導の位置付け、過去の進路指導の問題点と現在行われている進路指導の在り方について学ぶ。	事前	偏差値、出口指導、業者テストについて調べておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料を整理する。(2.5)			
11	進路指導の年間指導計画と進路指導体制、特別活動における進路指導と学級活動での進路指導の授業について学ぶ。	事前	特別活動、学級活動についてまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料を整理する。(2.5)			
12	キャリア教育誕生の背景、キャリアとキャリア発達、キャリア教育と何か、キャリア教育の意義と目的・目標について学ぶ。	事前	キャリア教育について調べておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料を整理する。(2.5)			
13	キャリア教育で育てたい資質能力と教科等との関係、全体計画と年間指導計画の作成等、キャリア教育の実際を学ぶ。	事前	基礎的・汎用的能力について調べておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料を整理する。(2.5)			
14	将来の職業と生き方の指導、キャリア教育における職場体験の意義と位置付け、職場体験活動の実際について学ぶ。	事前	自分の職場体験活動についてまとめておく。(1.5)			
		事後	レジュメと資料を整理する。(2.5)			
15	キャリア・カウンセリングについて理解すると共に、キャリア・パスポートの理解と活用について事例を通して学ぶ。	事前	キャリア・パスポートについて調べておく。(1)			
		事後	期末試験に向けてレジュメと資料等で復習する(3)			
授業形式(アクティブラーニングの内容)						

事例や課題を通したグループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 60%、課題レポート 30% 授業への取組 10%

観点	S	A	B	C
生徒指導及び進路指導・キャリア教育についての基礎的な知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている。	十分に理解できている。	一定程度理解できている。
理論に基づいた生徒支援や校内体制の在り方についての必要な知識・技術の習得	完全に習得できている。	ほぼ完全に習得できている。	十分に習得できている。	一定程度習得できている。

教科書

文部科学省『生徒指導提要』令和4年12月 東洋館出版 900円+税

参考書等

毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付

児美孝一郎著『キャリア教育がわかる』誠信書房

履修上の注意・学修支援

授業中の課題には積極的に取り組み、指名されたらしっかり発言するなど、前向きな態度で受講してください。

話したいこと、何かわからないことがあったら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1981年～2021年 小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

[実務経験と授業科目との関連性]

学校現場(教員・校長)や行政機関での経験をもとに、生徒指導・進路指導の基本的な考え方や様々な生徒指導・進路指導上の課題等に対し、実例を示すなど具体的な授業内容とする。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R211 19R210	教育相談	2年	春	講義	2	梅澤圭子
授業概要 教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。また、生徒指導の一環として位置づけられるものであり、その中心的役割を担うものである。本講義では、事例研究等とおして、教育相談の基本的な位置づけ、内容、方法等について理解を深め、基礎的知識を身に付ける。						
到達目標(学習の成果) (全項目とも DP1) ① 教育相談に関する知識と基礎的な対処法を身に付けることができる。 ② 生徒理解の方法や組織的な対応の重要性について理解することができる。						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	教育相談の意義	事前	このシラバスを熟読しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
2	教育相談の実際	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
3	学校におけるカウンセリング	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
4	子どもの心の問題(背景と概要)	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
5	子どもの心の問題(代表的な疾患)	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
6	不登校の理解と対応	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
7	いじめの問題(定義と実態)	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
8	いじめの問題(対応)	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
9	非行・反社会的行動(概要と実態)	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
10	非行・反社会的行動(心理学的理解と対応)	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
11	発達障害の理解と対応	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
12	校内指導体制と他機関との連携	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
13	保護者に対する援助	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
14	児童生徒の多様性の理解と対応	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
15	発達支持的教育相談	事前	授業レジュメ等で確認事項を整理しておく。(1時間)			
		事後	授業を振り返って理解を深める。(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 70%、授業への取り組み 30%で評価する。

観点	S	A	B	C
教育相談に関する知識と基礎的な対処法	完全に身に付けている	ほぼ完全に身に付けている	十分に身に付けている	一定程度身に付けている
生徒理解の方法や組織的な対応の重要性	完全に理解している	ほぼ完全に理解している	十分に理解している	一定程度理解している

教科書

『生徒指導提要(改訂版)』文部科学省 2022年12月 ¥990円
授業レジュメ(プリント)を配付する。

参考書等

『教師教育講座 11 教育相談[改訂版]』(石田弓編著) 協同出版 2018年11月 ¥2420円

履修上の注意・学修支援

- 積極的・主体的な態度で受講すること。
- 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
- 20分以内の遅刻・早退は3回で欠席1回とみなす。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐・部長、教頭、校長を38年間にわたって務め、学級経営、生徒指導、教育相談、教職員対象研修の企画・運営、管理職としての学校経営・教職員指導等を経験した。

[実務経験と授業科目との関連性]

学校現場や行政組織での経験を、教育制度の基本的なしくみや様々な課題などについての授業内容の実施にあたって、具体的な事例を示すなどして生かしている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R401 19R401	事前・事後指導	4年	春	講義	1	寺内孝夫
授業概要 教育実習を実り多いものとするために、事前に職業人としてのルール・マナー・実習の目的・内容・方法について学ぶとともに、授業シミュレーションにより、実践的な基本的指導技法・技術の習得ができるようにする。 実習後には実習記録等にもとづく事例研究や実習についての総括的反省を行い、今後の学習課題を見いだす。						
到達目標(学習の成果) 1 教育実習について、自信と意欲を持って取り組める基礎的力量を身に付けている。(DP1) 2 教育実習後、自己評価に基づき、それぞれの課題を解決しようとする意欲と解決能力を身に付けている。(DP2)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	事前指導(1) 教育実習の意義と課題 教育実習の目的や意義を討議しながら、教育実習の心がまえを固めるとともに、教師としての職業ルールとマナーの基本を身につける。	事前	教育実習に向けた教材研究・ノートの作成 (2時間)			
		事後	教材研究及びノートの作成等準備学習を深める (2時間)			
2	事前指導(2) 生徒理解と特別活動・部活動 教育実習では、教科指導を基本とするが、特別活動や部活動の指導を通して一層の生徒理解が深まることについて考察し、積極的に生徒と関わる大切さを学ぶ。	事前	教育実習に向けた教材研究・ノートの作成 (2時間)			
		事後	教材研究及びノートの作成等準備学習を深める (2時間)			
3	事前指導(3) 授業観察の着眼点と方法 観察実習に際して、各自の課題を踏まえての観察の着眼点と方法を身に付ける。特に授業を行う際の基本的な指導技術について実践的に学ぶ。	事前	教育実習に向けた教材研究・ノートの作成 (2時間)			
		事後	教材研究及びノートの作成等準備学習を深める (2時間)			
4	事前指導(4) 教科指導実践の事前準備 授業づくりの原則と方法についての基本的事項を学びながら、授業実践を想定した学習指導案を作成する。	事前	担当予定授業の学習指導案の作成 (2時間)			
		事後	学習指導案の修正と確認 (2時間)			
5	事前指導(5) 授業実習と模擬授業 授業シミュレーションを通して、教師としての基本マナーと基本的指導技法・技術について基礎的事項を身に付ける。	事前	担当予定授業の学習指導案の作成 (2時間)			
		事後	学習指導案の修正と確認 (2時間)			
6	事前指導(6) 生徒理解と模擬授業 授業シミュレーションを通して、生徒とのコミュニケーションの取り方や集団指導と個別指導の方法についての基本的な事項を身に付ける。	事前	担当予定授業の学習指導案の作成 (2時間)			
		事後	学習指導案の修正と確認 (2時間)			
7	事後指導(1) 教育実習の成果発表 教育実習のそれぞれの成果発表を互いに分析する中で、各自の実践上の課題を整理するとともに、今後の学修のねらいを明確化する。	事前	「教育実習を終えて」等提出記録の整理 (2時間)			
		事後	研究レポートの作成準備 (2時間)			
8	事後指導(2) 教育実習の評価と研究レポート 教育実習の分析を踏まえて、それぞれの実習を評価し、研究レポートの骨子を作成する。秋学期の「教職実践演習」に繋がる研究レポートを作成する。	事前	「教育実習を終えて」等提出記録の整理 (1時間)			
		事後	研究レポートの作成 (3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) ○グループワーク ～ 学習指導案の作成・検討及び模擬授業 (第4講～第6講) ○プレゼンテーション及びグループ協議 ～ 「教育実習を終えて」 (第7講、第8講)						

成績評価の方法・基準(%表記)

レポート 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって作成すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)

模擬授業 10%(ABC3段階評価)

受講態度 20%(積極的受講-授業への集中、良好な参加態度-を基準とする。)

観点	S	A	B	C
教育実習について、基礎的 力量を身に付けている。	完全に身に付けてい る。	ほぼ完全に身に付け ている。	十分に身に付けてい る。	一定程度身に付けて いる。
教育実習後の学習課題に対 する意欲と解決能力を身に 付けている。	完全に身に付けてい る。	ほぼ完全に身に付け ている。	十分に身に付けてい る。	一定程度身に付けて いる。

教科書 特になし。毎回ワークシートや関係資料を配付する

参考書等 教材として、次の資料を各自準備すること。

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(平成 29 年告示 189 円)

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(平成 30 年告示 1000 円)

中学校教科書『新編 新しい社会 地理』2021 年 東京書籍

中学校教科書『新編 新しい社会 歴史』2021 年 東京書籍

中学校教科書『新編 新しい社会 公民』2021 年 東京書籍

履修上の注意・学修支援

- 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。
- 2 遅刻・早退等不在時間計20分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。
- 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。
- 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ① 県立高校の社会科(「地・歴」、「公民」)教員及び管理職(校長)としての勤務経験
- ② 県総合教育センターの教育研修専門員としての指導経験(新採教員研修から校長・教頭研修まで)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ① 教育実習の心得をはじめ、実習の実際、学習指導案の作成など基本的指導技法の習得の指導に活かしている。
- ② 教材研究の仕方、授業分析など実践的教育に活かしている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23R404 19R404	教職実践演習(中・高)	4年	秋	演習	2	寺内孝夫
授業概要 教職課程の学修の集大成科目である。科目の履修を通して、教職に就く上で、自己にとって何が課題であるかを的確に分析し、不足している知識、技能、態度等を補い、その定着をはかる。そのため、現在の教育現場に即応した諸課題について、グループ討論や演習により、体験的に教育実践力を身に付けることをねらいとする。						
到達目標(学習の成果) 1 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち、子どもとともに成長しようとする姿勢が身に付いている。(DP1) 2 職業人としての社会性や対人関係能力の基本を身に付け、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。(DP2) 3 子どもとの間に信頼関係を築くための生徒理解や学級経営等に関する基礎的力量を身に付けている。(DP1) 4 教科内容を理解し、学習指導に関する基礎的力量を身に付けている。(DP1)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	教職課程の学修の成果と課題:教職概論から教育実習に至る一連の教職課程での学修の振り返り、各自にとっての成果と課題を分析し、本科目履修のポイントを把握する。【体験発表とグループ討議】→3年生への「教育実習体験発表」①	事前	教育実習体験発表会(3年生向け)の準備(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
2	教職の意義と教員の役割:教員としての使命感や教育的愛情について、具体例を踏まえて体験的に学ぶ。【ロールプレイングとグループ討議】→3年生への「教育実習体験発表」②	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
3	学校組織と新任教師の職能形成:新任教師は、基本的な職業能力をどのように高めていったらよいのか、具体例を踏まえて体験的に学ぶ。【ロールプレイングとグループ討議】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
4	保護者との連携:保護者との連携が重視される中、保護者からの様々な要求・要望への基本的な対応方針・対応方法について体験的に学ぶ。【ロールプレイングと講義】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
5	関係機関・地域との連携:関係機関・地域との連携が重視される中、様々な要求・要望への基本的な対応方針・対応方法について体験的に学ぶ。【ロールプレイングと講義】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
6	学級経営案をつくる(1):学級担任が理想とする「学級づくり」を進めるためには、どのような点に配慮することが大切であるか、事例的に検討する。【講義とグループ討議】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
7	学級経営案をつくる(2):学級経営案の作成を通して、日本の学校教育の特色でもあり、課題でもある特別活動の教育的意義について考察する。【実習と発表】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
8	学校行事と危機管理:具体的な学校行事を例に、安全管理を進めるためには、どのような点に配慮することが大切であるか、事例的に検討する。【講義とグループ討議】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
9	生徒とともに学ぶ(1)生徒指導:いじめや不登校等に対する生徒指導の基礎基本を身に付ける。【事例研究・ロールプレイング】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
10	生徒とともに学ぶ(2)生徒指導:体罰に関する生徒指導の基礎基本を身に付ける。【事例研究・ロールプレイング】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
11	生徒とともに学ぶ(3)生徒指導:「子どものほめ方・叱り方」に関する生徒指導の基礎基本を身に付ける。【事例研究・ロールプレイング】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			
12	教育におけるICT活用について:ICT教育の先進事例から学ぶ。	事前	ネットでの情報収集に努める(2時間)			
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)			

13	授業をつくる(1)教材・教具～授業におけるICTの活用「グーグルアース」を活用した地理・歴史の授業づくりについて考察する。【実習と発表】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)
14	授業をつくる(2)評価問題:評価問題づくりを通して、学習指導の方法的原理の基礎を実践的に考察する。【実習と発表】	事前	演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に、自分の考えをまとめておく(2時間)
		事後	各自の課題を整理しておく(2時間)
15	教職に関する資質・能力:教職実践演習の総括として、各自の資質・能力を確認し、それぞれの課題を整理する。【グループ討議と総括発表】	事前	本時の総括としてのレポートの作成(3時間)
		事後	これまでの授業を振り返って、各自の課題を整理する(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

- プレゼンテーション ～ 3年生への「教育実習体験発表」(第1講、第2講の中で実施)
- フィールドワーク ～ 「キャンパス内の知らない一人ひとりと会話をする」～そのプロセスと結果をレポートする。
- ロールプレイング(役割演技)演習 第3講～第5講、第9～11講)
- グループ討議 第1～第3講、第6講、第8講、第15講)

成績評価の方法・基準(%表記)

レポート 50%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)

発表 30%(ABC3段階評価)

受講態度 20%(積極的受講-授業への集中、良好な参加態度-を基準とする。)

観点	S	A	B	C
教員としての使命感や責任感、教育的愛情を身に付けている。	完全に身に付けている。	ほぼ完全に身に付けている。	十分に身に付けている。	一定程度身に付けている。
職業人としての社会性や対人関係能力の基本を身に付けている。	完全に身に付けている。	ほぼ完全に身に付けている。	十分に身に付けている。	一定程度身に付けている。
教科内容を理解し、学習指導に関する基礎的力を身に付けている。	完全に身に付けている。	ほぼ完全に身に付けている。	十分に身に付けている。	一定程度身に付けている。

教科書 特になし。毎回ワークシートや関係資料を配付する。

参考書等 教材として、次の資料を各自準備すること。

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年告示 189円)
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(平成30年告示 1000円)
- 中学校教科書『新編 新しい社会 地理』2021年 東京書籍
- 中学校教科書『新編 新しい社会 歴史』2021年 東京書籍
- 中学校教科書『新編 新しい社会 公民』2021年 東京書籍

履修上の注意・学修支援

- 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。
- 2 遅刻・早退等不在時間計20分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。
- 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。
- 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

- ① 県立高校の社会科(「地・歴」、「公民」)教員及び管理職(校長)としての勤務経験
- ② 県総合教育センターの教育研修専門員としての指導経験(新採教員研修から校長・教頭研修まで)

[実務経験と授業科目との関連性]

- ① 教員として必要な知識技能の確認、教科の指導力、資質・能力の確認などに活かしている。
- ② いじめ問題や不登校などを取り上げる際、教員研修で指導したカウンセリングやロールプレイングの技法を活用している。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G302	都市経済学Ⅱ	3年	秋	講義	2	吉田肇
授業概要 本科目では、社会生活の場である都市に生起する具体的な課題についての基本的・実践的な知識を習得するとともに、日本に限定して、都市における環境と経済・社会との相互関連性について学習し、様々な都市問題が発生するメカニズムについて、内外の事例を参照しながら経済的なアプローチにより、様々な情報を収集・整理し、考察する能力を育成する。						
到達目標(学習の成果) ①都市に生起する諸課題への対応策を考えることができ、様々な分野で発生する都市問題に係る歴史的経緯と実践的知識を理解し説明できること。(DP2) ②様々な都市問題やまちづくり事例を参考として、都市の社会現象について経済学的なアプローチで思考できること。(DP3) ③経済環境と調和した地域社会づくりの方策や手法を理解したうえで、様々な情報の収集・整理を行い、新たな情報として創造する能力を備え、自分たちのなすべきことなど自分の思いを述べるができること。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	「都市問題と都市経済」 (「都市経済学Ⅱ」のアウトラインについてのガイダンスとともに、都市問題、まちづくりと都市経済の関係について学ぶ。)	事前	本シラバスを通読して、本科目のアウトラインを予習。(1時間)			
		事後	授業で配付した第1回の講義資料を復習。(3時間)			
2	「成長する都市と衰退する都市」 (人口や産業による盛衰のメカニズムと成長都市と衰退都市の事例、わが国の将来人口の地域分布などについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第1回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第2回の講義資料を復習。(3時間)			
3	「東京一極集中と地域間格差」 (地域間格差の動向と大都市圏への人口流入、特に東京への機能集中問題、地方分権の方向性について学ぶ。)	事前	授業で配付した第2回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第3回の講義資料を復習。(3時間)			
4	「国際化に伴う都市間競争」 (グローバル経済の進展に伴う国際都市・東京の特徴、金融センター化で顕著な都市間競争について学ぶ。)	事前	授業で配付した第3回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第4回の講義資料を復習。(3時間)			
5	「少子高齢化と都市問題」 (急速な少子高齢化によって引き起こされる、人口減少、都市のスポンジ化、社会資本ストックの老朽化など様々な都市問題について学ぶ。)	事前	授業で配付した第4回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第5回の講義資料を復習。(3時間)			
6	「都市の機能低下と都市再開発」 (都市機能が次第に低下していく過程とそれに伴って生じる様々な都市問題に適切に対応していく都市再開発の方向について学ぶ。)	事前	授業で配付した第5回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第6回の講義資料を復習。(3時間)			
7	「都市の交通問題」 (交通サービスの特性と公共交通機関を含めた都市生活にふさわしい交通対策、交通需要管理のあり方について学ぶ。)	事前	授業で配付した第6回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第7回の講義資料を復習。(3時間)			
8	「都市の住宅問題・土地問題」 (中間試験(範囲:講義第1～7回)を実施し、その解説を行う。また、住宅という財の特性と住宅供給や住宅着工統計の動向、わが国の居住水準と土地利用について学ぶ。)	事前	授業で配付した第1～7回の講義資料を通読、振り返り。(2時間)			
		事後	授業で配付した第8回の講義資料を復習。(2時間)			
9	「都市の環境・エネルギー問題」 (地域レベルから地球規模まで、都市が直面する環境・エネルギー問題の解決方向とともに、持続可能な都市づくりの動向について学ぶ。)	事前	授業で配付した第8回の講義資料を振り返り。(1時間)			
		事後	授業で配付した第9回の講義資料を復習。(3時間)			

10	「都市の安全・安心と健康問題」 (都市の安全・安心につながる防災の安心, 事故リスク, 防犯の安心, 環境の安心, QOL (生活の質) の安心, ユニバーサルデザインなどについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第9回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 10 回の講義資料を復習。(3 時間)
11	「シャッター通り商店街と買い物難民」 (シャッター通り商店街発生メカニズムと交通弱者や買い物難民を生み出す買い物環境について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 10 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 11 回の講義資料を復習。(3 時間)
12	「都市の市民活動・コミュニティ活動」 (地域とのつきあいが希薄化しているなか, 町内会・自治会, 市民のボランティア活動, NPOの取組など, 都市における新たな公共セクターとしての活動について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 11 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 12 回の講義資料を復習。(3 時間)
13	「都市公共サービスの問題」 (市民社会サービスの提供や地方財政の特性を踏まえて, 今後「選ばれる都市」の問題点と方向性について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 12 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 13 回の講義資料を復習。(3 時間)
14	「知識創造社会とコンパクトシティ」 (20 世紀の工業化社会に代わって, 今後進展すると考えられる知識創造社会の方向性や縮退のもとでのコンパクトシティのあり方について学ぶ。)	事前	授業で配付した第 13 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 14 回の講義資料を復習。(3 時間)
15	「地方都市の都市問題」 (地方都市を取り巻く社会環境経済の変化を踏まえ, 一連の都市問題と再生への方向性を取り上げ, それぞれの解決に向けた経済学的なアプローチについて学ぶ。)	事前	授業で配付した第 14 回の講義資料を振り返り。(1 時間)
		事後	授業で配付した第 1~15 回の講義資料を通読, 体系的に整理する。(3 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%), 中間試験・小テスト(10%)及び授業への取組(30%)に基づいて, 絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
様々な分野で発生する都市問題に係る背景と実践的知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市の社会現象について経済学的なアプローチでの思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
様々な情報の収集・整理を行い, 自分たちのなすべきことなど自分の思いの表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回, 講義内でプリント資料を配付する。

参考書等

- ・「図説 日本の都市問題」, 藤塚吉浩(編集), 高柳長直(編集), 2016年, 2,700円(税込), ISBN:978-4772241977
- ・「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること(講談社現代新書)」, 河合雅司(著), 講談社, 2017年, 821円(税込), ISBN:978-4062884310
- ・「2040年 自治体の未来はこう変わる」, 今井 照(著), 学陽書房, 2017年, 1,998円(税込), ISBN:978-4313150928

履修上の注意・学修支援

- ・都市経済学は、日常生活にきわめて関係の深い分野を対象にしている。都市問題に関する様々な疑問を、経済学の観点から考えてみようという内容であり、意欲を持って取り組んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、私語やスマホ操作が多い場合には意欲がないものと解釈される。
- ・経済・社会の話題が多いテレビ番組、『[WBS]ワールドビジネスサテライト:テレビ東京⑦』(放送時間:月曜～木曜 22:00～22:58 金曜 23:00～23:58),『クローズアップ現代:NHK総合①』(放送時間:月曜～水曜 19:30～19:57),『ガイアの夜明け:テレビ東京⑦』(放送時間:金曜 23:00～23:54),『所さん！事件ですよ:NHK総合①』(放送時間:土曜 18:05～18:34)などを視聴して最新情報をキャッチして、都市・地域の経済について関心を高めること。
- ・学修内容に関する質問や意見など、毎回配付する「聴講シート」に具体的に記入すること。シートへの記入内容を授業参加態度の判断材料の1つとするとともに、寄せられた質問や意見は、実際に講義の中でも取り上げ、受講者全体にフィードバックします。
- ・国内の都市問題を対象としているため、日本国土の社会経済や地域特性などについての基礎知識を有していることを前提とする。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H304	環境経済学Ⅱ	3年	秋	講義	2	大石和博
授業概要 環境経済学Ⅱでは環境経済学Ⅰでの学習を踏まえて、環境税や環境アセスメントなど環境経済学Ⅰより発展的な内容について講義を行います。環境と経済が身近に感じられるように、新聞紙面に出てくる温暖化問題や廃棄物問題などを取り上げながら、環境経済学の基本的な考え方を解説します。この授業で学ぶ環境経済モデルは、都市に生起する環境問題を考えるための有効な分析用具であり、卒業研究等で必要になります。						
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> 環境経済学の基本的な用語(環境税、環境アセスメントなど)を説明することができる。(DP3) 経済分析を理解できる。(DP3) 						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	講義概要、需要曲線、供給曲線、余剰	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第1回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
2	第3章 直接規制と市場メカニズム(最適な生産量)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第2回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
3	第3章 一律の直接規制と効率的な規制 第3章 環境税(ロードプライシング、カーボンプライシング)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第3回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
4	第3章 最適な環境税(炭素税、外部費用、社会全体の純便益)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第4回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
5	第3章 環境税による経済厚生改善(総余剰、死荷重)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第5回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
6	第3章 計算演習(限界外部費用、限界社会的費用、総余剰)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第6回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
7	第3章 計算演習(課税、比較静学、死荷重)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第7回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
8	第3章 環境税のメリット、税金の負担は生産者か消費者か(価格弾力性)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第8回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
9	第3章 環境税か補助金か	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第9回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
10	第3章 直接交渉による解決(コースの定理)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第10回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
11	第3章 コースの定理の問題点(取引費用)、排出量取引(排出許可証、排出枠、初期配分)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第11回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
12	第3章 排出量取引制度の長所、排出量取引の実施上の問題点	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第12回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
13	第4章 京都議定書、パリ協定(環境税、排出量取引)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第13回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
14	第5章 補論 環境アセスメントの背景(四大公害)、環境アセスメントの手続き・課題(方法書、準備書)	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第14回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
15	これまでの講義内容を振り返り、特に重要な点を説明する	事前	環境と経済のニュースを読んでおく(1時間)			
		事後	第15回配布資料を読み整理しておく(3時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、期末試験(100%)で評価します。

観点	S	A	B	C
環境経済学の基本的な用語を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
経済分析を理解している	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

授業中に復習問題等の解説・講評を行います。

教科書

特になし。各回講義資料を配付する。

参考書等

栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』第5版』有斐閣、2024年、税込2,640円。

履修上の注意・学修支援

- この科目を履修する前に、環境経済学 I を必ず履修して下さい。
- 遅刻・早退 3 回で欠席 1 回とみなします。
- 20 分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
- 無断退出は欠席扱いになる場合があります。